



Informatica® PowerExchange  
10.4.1

# メッセージリファレンス - Vol 2

本ソフトウェアおよびマニュアルは、使用および開示の制限を定めた個別の使用許諾契約のもとでのみ提供されています。本マニュアルのいかなる部分も、いかなる手段（電子的複製、写真複製、録音など）によっても、Informatica LLC の事前の承諾なしに複製または転載することは禁じられています。

米政府の権利プログラム、ソフトウェア、データベース、および関連文書や技術データは、米国政府の顧客に配信され、「商用コンピュータソフトウェア」または「商業技術データ」は、該当する連邦政府の取得規制と代理店固有の補足規定に基づきます。このように、使用、複製、開示、変更、および適応は、適用される政府の契約に規定されている制限およびライセンス条項に従うものとし、政府契約の条項によって適当な範囲において、FAR 52.227-19、商用コンピュータソフトウェアライセンスの追加権利を規定します。

Informatica, o logotipo Informatica, PowerCenter e PowerExchange são marcas comerciais ou marcas registradas da Informatica LLC nos Estados Unidos e em muitas jurisdições por todo o mundo. Uma lista atual das marcas comerciais da Informatica está disponível na Internet em <https://www.informatica.com/trademarks.html>. Os nomes de outras companhias e produtos podem ser nomes ou marcas comerciais de seus respectivos proprietários.

Partes deste software e/ou documentação estão sujeitas a copyright detido por terceiros. Os avisos de terceiros necessários são incluídos no produto.

本マニュアルの情報は、予告なしに変更されることがあります。このドキュメントで問題が見つかった場合は、[infa\\_documentation@informatica.com](mailto:infa_documentation@informatica.com) までご報告ください。

Informatica 製品は、それらが提供される契約の条件に従って保証されます。Informatica は、商品性、特定目的への適合性、非侵害性の保証等を含めて、明示的または黙示的ないかなる種類の保証をせず、本マニュアルの情報を「現状のまま」提供するものとします。

発行日: 2020-08-05

# 目次

<b>序文</b> .....	6
Informatica のリソース.....	6
Informatica Network.....	6
Informatica ナレッジベース.....	6
Informatica マニュアル.....	7
Informatica 製品可用性マトリックス.....	7
Informatica Velocity.....	7
Informatica Marketplace.....	7
Informatica グローバルカスタマサポート.....	7
 <b>第 1 章 : PWX-10000～PWX-10999</b> .....	8
PWX-10000～PWX-10999.....	8
 <b>第 2 章 : PWX-11000～PWX-15999</b> .....	105
PWX-11000～PWX-11999.....	105
PWX-12000～PWX-12999.....	115
PWX-13000～PWX-13999.....	118
PWX-14000～PWX-14999.....	121
PWX-15000～PWX-15999.....	143
 <b>第 3 章 : PWX-16000～PWX-23999</b> .....	159
PWX-16000～PWX-16999.....	159
PWX-19000～PWX-19999.....	180
PWX-20000～PWX-20999.....	189
PWX-21000～PWX-21999.....	235
PWX-23000～PWX-23999.....	258
 <b>第 4 章 : PWX-25000～PWX-35999</b> .....	278
PWX-25000～PWX-25999.....	278
PWX-26000～PWX-26999.....	294
PWX-27000 a PWX-27999.....	307
PWX-28000～PWX-28999.....	318
PWX-31001～PWX-31999.....	325
PWX-32000～PWX-32999.....	349
PWX-33000～PWX-33999.....	378
PWX-34000～PWX-34999.....	408
PWX-35000～PWX-35999.....	410
 <b>第 5 章 : PWX-36000～PWX-36999</b> .....	424
PWX-36000～PWX-36999.....	424

<b>第 6 章 : PWX-37100～PWX-37999.....</b>	<b>526</b>
PWX-37100～PWX-37999. ....	526
<b>第 7 章 : PWX-38500～PWX-38999.....</b>	<b>559</b>
PWX-38500～PWX-38750. ....	559
<b>第 8 章 : DTL_BMG003～DTL_RPS105I.....</b>	<b>571</b>
DTL_BMG003E～DTL_BMG101E：データコム低レベルメタデータ取得. ....	571
DTL_DPL002I～DTL_DPL300I:Datacom MUF リアルタイムログプロセッサ. ....	573
DTL_DPP001E～DTL_DPP993E: IDMS CDC EDP Log Feeder. ....	576
DTL_DPS900I～DTL_DPS907I: IDMS インターセプトスタブ. ....	585
DTL_DPW002I～DTL_DPW532I:Datacom MUF リアルタイムダイレクトログプロセッサ. ....	587
DTL_DPX000E～DTL_DPX999E:IDMS CV 終了およびリアルタイムジャーナルプロセッサ. ....	592
DTL_DPZ500I～DTL_DPZ514I:IDMS CDC EDP Log Feeder FAKEIT (EDM インタフェース) ....	595
DTL_PRP001E～DTL_PRP302E:Datacom CDC EDP Log Feeder. ....	597
DTL_RPC001E～DTL_RPC999E:Datacom および IDMS CDC データスペースコントローラ. ....	603
DTL_RPS001E～DTL_RPS105I:Datacom MUF アドレススペースサブタスク終了. ....	614
<b>第 9 章 : Mensagens de Erro de infacmd pwx.....</b>	<b>616</b>
Visão Geral das Mensagens de Erro de infacmd pwx. ....	616
MDAdapter のメッセージ. ....	616
MDO のメッセージ. ....	617
パーサーのメッセージ. ....	620
PWXCMD メッセージ. ....	621
PWXLog のメッセージ. ....	624
PWXNative のメッセージ. ....	624
<b>第 10 章 : PWXPC エラーメッセージ.....</b>	<b>626</b>
PWXPC エラーメッセージの概要. ....	626
PWXPC_10000～PWXPC_10099. ....	626
PWXPC_11000～PWXPC_11099. ....	637
PWXPC_12000～PWXPC_12099. ....	638
PWXPC_12100～PWXPC_12199. ....	648
<b>第 11 章 : PowerExchange Messages の異常終了コード、戻りコード、理由コード.....</b>	<b>664</b>
異常終了コード、戻りコード、理由コードの概要. ....	664
IBM 製品の戻りコードと理由コード. ....	664
PowerExchange 異常終了コード. ....	665
異常終了コード U0001 - PowerExchange エージェント. ....	665
異常終了コード U0356 - バッチ VSAM ECCR. ....	666
異常終了コード U3035 - PowerExchange ロgger. ....	666

異常終了コード U3680 - DB2 ECCR. . . . .	666
PowerExchange 戻りコード. . . . .	667
戻りコード 0～12 - 標準. . . . .	667
戻りコード 1～412 - 共通. . . . .	667
戻りコード 0～12 - PowerExchange エージェント. . . . .	668
戻りコード 221: PowerExchange ロgger. . . . .	668
戻りコード 0～8 - バッチ VSAM ECCR. . . . .	669
PowerExchange 理由コード. . . . .	669
理由コード xxxx0800～xxxx081F - 共通. . . . .	670
理由コード 001～255 - PowerExchange エージェント. . . . .	670
理由コード 00000601～00004499 - コマンド. . . . .	674
理由コード 00000813～00001515 - 符号化コマンド. . . . .	676
理由コード 00000C00～00000C0E - 共通サービス. . . . .	677
PowerExchange ロggerの理由コード. . . . .	677
理由コード 01440600～060906FF - PowerExchange ユーティリティ. . . . .	702
理由コード 01800101～01FFFFFF - 変更インタフェースコンポーネント. . . . .	704
関数コード 0～0A - 循環キュー. . . . .	710
理由コード 04050000～0812000C - 循環キュー. . . . .	711
理由コード 0A0A000E～0A0B00D8 - ログ書き込み API. . . . .	715
理由コード 0A0D0300～0A0E0320 - ログ読み取り API. . . . .	718
理由コード 10000001～1007FFFF - DB2 ECCR. . . . .	721
理由コード 00000004～00000054 - チェーナーモジュール (EDMQMGR0). . . . .	722

# 序文

『*Informatica® PowerExchange® Message Reference Volume 2*』を使用して、PowerExchange メッセージ PWX-10000 から PWX-37999、DTL\_BMG003 から DTL\_RPS105I、および PWXPC\_10000 から PWXPC\_12199 の範囲について、説明、システムアクション、ユーザーの対応などの情報を検索できます。このリファレンスでは、`infacmd pwx` コマンドおよび PowerExchange の異常終了コード、戻りコード、および理由コードによるメッセージについても説明しています。

PowerExchange DBMOVER 構成ファイルの MSGPREFIX 文でデフォルトのメッセージプレフィックス「PWX」をカスタマイズした場合、メッセージを検索するときは「PWX」の代わりにカスタムプレフィックスを使用してください。

PowerExchange メッセージのその他の情報については、『*PowerExchange Message Reference Volume 1*』および『*PowerExchange Message Reference Volume 3*』を参照してください。

## Informatica のリソース

Informatica は、Informatica Network やその他のオンラインポータルを通じてさまざまな製品リソースを提供しています。リソースを使用して Informatica 製品とソリューションを最大限に活用し、その他の Informatica ユーザーや各分野の専門家から知見を得ることができます。

### Informatica Network

Informatica Network は、Informatica ナレッジベースや Informatica グローバルカスタマサポートなど、多くのリソースへの入口です。Informatica Network を利用するには、<https://network.informatica.com> にアクセスしてください。

Informatica Network メンバーは、次のオプションを利用できます。

- ナレッジベースで製品リソースを検索できます。
- 製品の提供情報を表示できます。
- サポートケースを作成して確認できます。
- 最寄りの Informatica ユーザーグループネットワークを検索して、他のユーザーと共同作業を行えます。

### Informatica ナレッジベース

Informatica ナレッジベースを使用して、ハウツー記事、ベストプラクティス、よくある質問に対する回答など、製品リソースを見つけることができます。

ナレッジベースを検索するには、<https://search.informatica.com> にアクセスしてください。ナレッジベースに関する質問、コメント、ご意見の連絡先は、Informatica ナレッジベースチーム ([KB\\_Feedback@informatica.com](mailto:KB_Feedback@informatica.com)) です。

## Informatica マニュアル

Informatica マニュアルポータルでは、最新および最近の製品リリースに関するドキュメントの膨大なライブラリを参照できます。マニュアルポータルを利用するには、<https://docs.informatica.com> にアクセスしてください。

製品マニュアルに関する質問、コメント、ご意見については、Informatica マニュアルチーム ([infa\\_documentation@informatica.com](mailto:infa_documentation@informatica.com)) までご連絡ください。

## Informatica 製品可用性マトリックス

製品可用性マトリックス (PAM) には、製品リリースでサポートされるオペレーティングシステム、データベースなどのデータソースおよびターゲットが示されています。Informatica PAM は、<https://network.informatica.com/community/informatica-network/product-availability-matrices> で参照できます。

## Informatica Velocity

Informatica Velocity は、Informatica プロフェッショナルサービスが開発したヒントとベストプラクティスのコレクションで、多数のデータ管理プロジェクトから得た実体験に基づいています。Informatica Velocity には、世界中の組織と連携してデータ管理ソリューションを計画、開発、デプロイ、管理する Informatica コンサルタントによる集合知を表しています。

Informatica Velocity リソースには、<http://velocity.informatica.com> からアクセスしてください。Informatica Velocity についての質問、コメント、またはアイデアがある場合は、[ips@informatica.com](mailto:ips@informatica.com) から Informatica プロフェッショナルサービスにお問い合わせください。

## Informatica Marketplace

Informatica Marketplace は、お使いの Informatica 製品を拡張したり強化したりするソリューションを検索できるフォーラムです。Marketplace で、Informatica デベロッパーやパートナーからの多数のソリューションを活用すれば、生産性を向上したり、プロジェクトでの実装時間を短縮したりできます。Informatica Marketplace は、<https://marketplace.informatica.com> からアクセスしてください。

## Informatica グローバルカスタマサポート

電話または Informatica Network からグローバルサポートセンターに連絡できます。

各地域の Informatica グローバルカスタマサポートの電話番号は、Informatica Web サイト (<https://www.informatica.com/services-and-training/customer-success-services/contact-us.html>) を参照してください。

Informatica Network でオンラインサポートリソースを見つけるには、<https://network.informatica.com> にアクセスし、eSupport オプションを選択します。

# 第 1 章

## PWX-10000～PWX-10999

- [PWX-10000～PWX-10999, 8 ページ](#)

## PWX-10000～PWX-10999

PWX-10000	<b>DTERIOM 関数が実装されていません。</b>
説明:	リポジトリアクセスモジュールが、実装されていない要求を受け取りました。
システムのアクション:	要求したソフトウェアにエラーが返されます。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにメッセージを報告してください。
PWX-10001	<b>DTERIOM 呼び出し'<i>request_mnemonic</i>'のパラメータの数が正しくありません。受け取った数は <i>number_of_parms</i> ですが、予期した数は <i>number_of_parms</i> です。</b>
説明:	リポジトリアクセスモジュールが、予期しないパラメータ数の要求を受け取りました。
システムのアクション:	要求したソフトウェアにエラーが返されます。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにメッセージを報告してください。
PWX-10002	<b>DTERIOM サポートされていない符号化コマンド (<i>request_mnemonic</i>) です。</b>
説明:	リポジトリアクセスモジュールはサポートされていない符号コマンド要求を受け取りました。
システムのアクション:	要求したソフトウェアにエラーが返されます。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにメッセージを報告してください。



PWX-10003	<b>DTERIOM 無効な符号化コマンドがバッファを要求しました。</b>
説明:	リポジトリアクセスモジュールは、無効な形式のバッファの符号化コマンドを受け取りました。
システムのアクション:	要求したソフトウェアにエラーが返されます。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにメッセージを報告してください。
PWX-10004	<b>DTERIOM 無効な変換バッファです。</b>
説明:	リポジトリアクセスモジュールが無効な形式の変換バッファを受け取りました。
システムのアクション:	要求したソフトウェアにエラーが返されます。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにメッセージを報告してください。
PWX-10005	<b>DTERIOM サポートされていないデータベースの種類 ('character_value' X' hex_value') です。</b>
説明:	リポジトリアクセスモジュールがサポートされていないデータベースの種類の要求を受け取りました。
システムのアクション:	要求したソフトウェアにエラーが返されます。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにメッセージを報告してください。
PWX-10006	<b>DTERIOM メモリ内リポジトリエラー。</b>
説明:	リポジトリアクセスモジュールはメモリを割り当てることができませんでした。
システムのアクション:	要求したソフトウェアにエラーが返されます。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにメッセージを報告してください。
PWX-10007	<b>DTERIOM 応答バッファが小さすぎます。</b>
説明:	リポジトリアクセスモジュールは、応答バッファが小さすぎるために応答を生成できませんでした。
システムのアクション:	要求したソフトウェアにエラーが返されます。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにメッセージを報告してください。
PWX-10008	<b>DTERIOM リポジトリオープンエラー (run-time_error_text)</b>
説明:	リポジトリをオープンしようとした際、リポジトリアクセスモジュールでエラーが発生しました。

システムのアクション リポジトリを開けません。  
ン：

ユーザの応答： *run-time\_error\_text*に従って、問題を修正してください。

PWX-10009 DTERIOM **リポジトリ情報エラー** (*run-time\_error\_text*)

説明： リポジトリファイルに関する情報を検索しようとして、リポジトリアクセスモジュールでエラーが発生しました。

システムのアクション リポジトリは処理されません。  
ン：

ユーザの応答： *run-time\_error\_text*に従って、問題を修正してください。

PWX-10010 DTERIOM **リポジトリデータエラー** (*error\_description*)

説明： リポジトリファイルからデータを検索しようとして、リポジトリアクセスモジュールでエラーが発生しました。

システムのアクション リポジトリは処理されません。  
ン：

ユーザの応答： エラーテキストに従って、問題を修正してください。

PWX-10011 DTERIOM **すでに終了しています**

説明： リポジトリアクセスモジュールは、終了後に呼び出されています。

システムのアクション システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。  
ン：

ユーザの応答： Informatica グローバルカスタマサポートにメッセージを報告してください。

PWX-10012 DTERIOM **サブタスクエラー**: *error\_text*

説明： リポジトリアクセスモジュールのヘルパーサブタスクでエラーが発生しました。このエラーは、メインモジュールから通知されます。

システムのアクション システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。  
ン：

ユーザの応答： エラーテキストに従って、問題を修正します。

PWX-10013 DTERIOM **不明なリポジトリサブタスクエラー**

説明： リポジトリアクセスモジュールのヘルパーサブタスクが異常終了しました。このエラーは、メインモジュールから通知されます。

システムのアクション システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。  
ン：

ユーザの応答： Informatica グローバルカスタマサポートにメッセージを報告してください。

PWX-10014 DTERIOM **リポジトリサブタスクの初期化エラー**

説明： リポジトリアクセスモジュールのヘルパーサブタスクで、初期化完了前にエラーが発生しました。このエラーは、メインモジュールから通知されます。

システムのアクション:	システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにメッセージを報告してください。
PWX-10015	<b>DTERIOM CRAM_Get_Registration_List に失敗しました</b>
説明:	キャプチャ登録情報を検索中に、リポジトリアクセスモジュールでエラーが発生しました。
システムのアクション:	リポジトリは処理されません。
ユーザの応答:	発行された別のエラーメッセージに従って、問題を修正してください。
PWX-10016	<b>DTERIOM CRLD_Start_Load_Session に失敗しました</b>
説明:	キャプチャ登録情報を検索中に、リポジトリアクセスモジュールでエラーが発生しました。
システムのアクション:	リポジトリは処理されません。
ユーザの応答:	発行された別のエラーメッセージに従って、問題を修正してください。
PWX-10017	<b>DTERIOM CRLD_LoadCR に失敗しました</b>
説明:	キャプチャ登録情報を検索中に、リポジトリアクセスモジュールでエラーが発生しました。
システムのアクション:	リポジトリは処理されません。
ユーザの応答:	発行された別のエラーメッセージに従って、問題を修正してください。
PWX-10018	<b>DTERIOM IMR_Add_...に失敗しました</b>
説明:	リポジトリアクセスモジュールで、キャプチャ登録情報を格納しようとして、エラーが発生しました。
システムのアクション:	リポジトリは処理されません。
ユーザの応答:	発行された別のエラーメッセージに従って、問題を修正してください。
PWX-10019	<b>DTERIOM RRM_GetRegDataCols (pCReg) オブジェクトカウントが競合しています</b>
説明:	キャプチャ登録情報を検索中に、リポジトリアクセスモジュールでエラーが発生しました。
システムのアクション:	リポジトリは処理されません。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにメッセージを報告してください。

PWX-10020	<b>DTERIOM 列定義が無効です (テーブル <i>instance_name.owner_name.table_name</i> 列 <i>column_name</i>)</b>
説明:	キャプチャ登録情報を検索中に、リポジトリアクセスモジュールでエラーが発生しました。指定されたテーブルのカラムには無効な属性があります。
システムのアクション:	リポジトリは処理されません。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにメッセージを報告してください。
PWX-10021	<b>DTERIOM 登録されていない列があります (テーブル <i>instance_name.owner_name.table_name</i>)</b>
説明:	キャプチャ登録情報を検索中に、リポジトリアクセスモジュールでエラーが発生しました。指定されたテーブルのカラムには無効な属性があります。
システムのアクション:	リポジトリは処理されません。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにメッセージを報告してください。
PWX-10022	<b>DTERIOM OPEN コマンドにデータセット名が必要です</b>
説明:	リポジトリアクセスモジュールがデータセット名なしで OPEN コマンドを受け取りました。
システムのアクション:	システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにメッセージを報告してください。
PWX-10023	<b>DTERIOM リポジトリサブタスク要求エラー</b>
説明:	リポジトリアクセスモジュールのヘルパーサブタスクでエラーが発生しました。
システムのアクション:	システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにメッセージを報告してください。
PWX-10024	<b>DTERIOM リポジトリはすでに開いています</b>
説明:	リポジトリアクセスモジュールが OPEN コマンドを受け取りましたが、リポジトリはすでに開いています。
システムのアクション:	システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにメッセージを報告してください。

PWX-10025	<b>DTERIOM リポジトリの割り当てに失敗しました (エラー X'error_code'、情報 X'info_code')</b>
説明:	リポジトリデータセットの動的割り当ての際に、リポジトリアクセスモジュールでエラーが発生しました。
システムのアクション:	リポジトリは処理されません。
ユーザの応答:	エラーコードと情報コードに従って、問題を修正します。エラーコードおよび情報コードの詳細については、IBM のドキュメント『 <i>MVS プログラミング：アセンブラサービス解説書</i> 』を参照してください。
PWX-10026	<b>DTERIOM リポジトリの割り当て解除に失敗しました (エラー X'error_code'、info X'info_code')</b>
説明:	リポジトリデータセットの動的割り当ての際に、リポジトリアクセスモジュールでエラーが発生しました。
ユーザの応答:	エラーコードと情報コードに従って、問題を修正します。エラーコードおよび情報コードの詳細については、IBM のドキュメント『 <i>MVS プログラミング：アセンブラサービス解説書</i> 』を参照してください。
PWX-10027	<b>DTERIOM データセットが PowerExchange リポジトリではありません</b>
説明:	リポジトリアクセスモジュールは、指定されたデータセットが PowerExchange リポジトリではないと判断しました。
システムのアクション:	データセットは使用されません。
ユーザの応答:	正しいデータセット名を指定してください。
PWX-10028	<b>DTERIOM 重複する登録タグです (キャプチャの種類 'type' 名前 'name')</b>
説明:	リポジトリアクセスモジュールは、同じ登録タグを持つ 2 つの異なるキャプチャ登録を検出しました。
システムのアクション:	リポジトリは処理されません。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにメッセージを報告してください。
PWX-10029	<b>DTERIOM 同じオブジェクトに異なる登録タグがあります</b>
説明:	リポジトリアクセスモジュールは同じキャプチャ登録オブジェクトで、異なる登録タグを持つものを検出しました。
システムのアクション:	リポジトリは処理されません。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにメッセージを報告してください。

PWX-10030	<b>DTERIOM キャプチャ登録がロードされていません</b>
説明:	リポジトリアクセスモジュールは、リポジトリにキャプチャ登録を検出できませんでした。
ユーザの応答:	正しい場合は、無視してください。そうでない場合は、Informatica グローバルカスタマサポートにメッセージを報告してください。
PWX-10031	<b>DTERIOM 構成オープンエラー (<i>run-time_error_text</i>)</b>
説明:	リポジトリアクセス構成ファイルを開こうとして、リポジトリアクセスモジュールでエラーが発生しました。
システムのアクション:	リポジトリ構成ファイルは処理されません。
ユーザの応答:	<i>run-time_error_text</i> に従って、問題を修正してください。
PWX-10032	<b>DTERIOM 構成読み取りエラー (<i>return_code</i>)</b>
説明:	リポジトリアクセス構成ファイルを読み込もうとして、リポジトリアクセスモジュールでエラーが発生しました。
システムのアクション:	リポジトリ構成ファイルは処理されません。
ユーザの応答:	<i>run-time_error_text</i> に従って、問題を修正してください。
PWX-10033	<b>DTERIOM 構成行 <i>line_number</i>が <i>nnn</i> 文字よりも多くなっています (<i>line_text</i>)</b>
説明:	リポジトリアクセスモジュールは、リポジトリアクセス構成ファイルのある行が最大値より長いことを検出しました。
システムのアクション:	リポジトリ構成ファイルは処理されません。
ユーザの応答:	問題を解決してください。
PWX-10034	<b>DTERIOM 構成行 <i>line_number</i>にキーワード/値区切り記号がありません (<i>line_text</i>)</b>
説明:	リポジトリアクセスモジュールは、リポジトリアクセス構成ファイルのある行にキーワード/値区切り記号が含まれていないことを検出しました。
システムのアクション:	リポジトリ構成ファイルは処理されません。
ユーザの応答:	問題を解決してください。
PWX-10035	<b>DTERIOM 構成行 <i>line_number</i>キーワード <i>keyword</i>が不明です。</b>
説明:	リポジトリアクセスモジュールは、リポジトリアクセス構成ファイルのある行で、不明なキーワードが含まれていることを検出しました。
システムのアクション:	リポジトリ構成ファイルは処理されません。
ユーザの応答:	問題を解決してください。

PWX-10036	<b>DTERIOM 構成行 <i>line_number</i> keyword <i>keyword</i> が 2 回指定されています</b>
説明:	リポジトリアクセスモジュールは、リポジトリアクセス構成ファイルのある行でキーワードが 2 回指定されているを検出しました。
システムのアクション:	リポジトリ構成ファイルは処理されません。
ユーザの応答:	問題を解決してください。
PWX-10037	<b>DTERIOM 構成行 <i>line_number</i> キーワード <i>keyword</i> 値が不明です</b>
説明:	リポジトリアクセスモジュールは、リポジトリアクセス構成ファイルのある行に値のないキーワードが含まれていることを検出しました。
システムのアクション:	リポジトリ構成ファイルは処理されません。
ユーザの応答:	問題を解決してください。
PWX-10038	<b>DTERIOM 構成行 <i>line_number</i> キーワード <i>keyword</i> は、<i>nnn</i>～<i>nnn</i> の範囲の値でなければなりません。</b>
説明:	リポジトリアクセスモジュールは、リポジトリアクセス構成ファイルのある行で、範囲外の数値を持つキーワードが含まれていることを検出しました。
システムのアクション:	リポジトリ構成ファイルは処理されません。
ユーザの応答:	問題を解決してください。
PWX-10039	<b>DTERIOM 構成行 <i>line_number</i> キーワード "<i>keyword</i>" が "<i>number_of</i>" 文字を超えています。</b>
説明:	リポジトリアクセスモジュールは、リポジトリアクセス構成ファイルのある行で、長すぎる文字列の値を持つキーワードが含まれていることを検出しました。
システムのアクション:	リポジトリ構成ファイルは処理されません。
ユーザの応答:	問題を解決してください。
PWX-10040	<b>DTERIOM 構成キーワード '<i>keyword</i>' がありません</b>
説明:	リポジトリアクセスモジュールは、リポジトリアクセス構成ファイルを読み込んだ後、必要なキーワードが指定されていないことを検出しました。
システムのアクション:	リポジトリ構成ファイルは処理されません。
ユーザの応答:	問題を解決してください。

PWX-10041	<b>DTERION 構成キーワード '<i>keyword</i>' にはキーワード '<i>keyword</i>' が必要です</b>
説明:	リポジトリアクセスモジュールは、リポジトリアクセス構成ファイルを読み込んだ後、別のキーワードに必要な、キーワードが指定されていないことを検出しました。
システムのアクション:	リポジトリ構成ファイルは処理されません。
ユーザの応答:	問題を解決してください。
PWX-10042	<b>DTERION キャッシュ <i>data_set_name</i> 情報エラー (<i>run-time_error_text</i>)</b>
説明:	リポジトリキャッシュデータセットに関する情報を取得しようとして、リポジトリアクセスモジュールでエラーが発生しました。
システムのアクション:	キャッシュデータセットは処理されません。
ユーザの応答:	<i>run-time_error_text</i> に従って、問題を修正してください。
PWX-10043	<b>DTERION キャッシュ <i>data_set_name</i> に無効な形式があります。</b>
説明:	リポジトリアクセスモジュールはキャッシュデータセットが無効なフォーマットで指定されたことを検出しました。
システムのアクション:	キャッシュデータセットは処理されません。
ユーザの応答:	問題を解決してください。
PWX-10044	<b>DTERION キャッシュ <i>data_set_name</i> シリアル化エラー</b>
説明:	指定されたキャッシュデータセットのシリアライズを試みているときに、リポジトリアクセスモジュールでエラーが発生しました。
システムのアクション:	キャッシュデータセットは処理されません。
ユーザの応答:	同じキャッシュデータセットを使用する複数の PowerExchange エージェントがある場合に、この問題が発生する可能性があります。そうでない場合は、Informatica グローバルカスタマサポートにメッセージを報告してください。
PWX-10045	<b>DTERION キャッシュ <i>data_set_name</i> オープンエラー (<i>run-time_error_text</i>)</b>
説明:	リポジトリキャッシュデータセットをオープンしようとした際、リポジトリアクセスモジュールでエラーが発生しました。
システムのアクション:	キャッシュデータセットは処理されません。
ユーザの応答:	<i>run-time_error_text</i> に従って、問題を修正してください。



PWX-10046      DTERIOM **キャッシュ *data\_set\_name* 書き込みエラー** (*run-time\_error\_text*)

説明：                  リポジトリキャッシュデータセットに書き込みをしようとした際、リポジトリアクセスモジュールでエラーが発生しました。

システムのアクション：      キャッシュデータセットは処理されません。

ユーザの応答：              *run-time\_error\_text*に従って、問題を修正してください。

PWX-10047      DTERIOM **キャッシュ識別子エラー**

説明：                  キャッシュデータセットからキャプチャ登録をロードしようとして、リポジトリアクセスモジュールでエラーが発生しました。

システムのアクション：      キャッシュデータセットは処理されません。

ユーザの応答：              Informatica グローバルカスタマサポートにメッセージを報告してください。

PWX-10048      DTERIOM **キャッシュエンコードエラー**

説明：                  キャッシュデータセットにキャプチャ登録を書き込もうとして、リポジトリアクセスモジュールでエラーが発生しました。

システムのアクション：      キャッシュデータセットは処理されません。

ユーザの応答：              Informatica グローバルカスタマサポートにメッセージを報告してください。

PWX-10049      DTERIOM **CRAM\_Get\_CCT\_Update\_TS に失敗しました** (*return\_code*)

説明：                  現在のリポジトリの更新タイムスタンプを取得しようとしてリポジトリアクセスモジュールでエラーが発生しました。このエラーは通常、リポジトリサーバーの問題を示しています。

システムのアクション：      登録を取得できません。

ユーザの応答：              この参照で、対応するメッセージに対して、戻りコードを照合します。エラーが解決しない場合は、Informatica グローバルカスタマサポートに連絡してください。

PWX-10050      **最後のエラー: *error\_text***

説明：                  REPSTATUS PowerExchange エージェントコマンドに対応して表示されます。キャプチャ登録にアクセスを試みた際の最後のエラーです。

ユーザの応答：              元のエラーメッセージの「対策」を参照してください。

PWX-10051      **リフレッシュはアクティブです**

説明：                  REPSTATUS PowerExchange エージェントコマンドに対応して表示されます。キャプチャ登録のリフレッシュが進行中であることを示します。

ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-10052	<b>前回のリフレッシュの試行 <i>time</i></b>
説明：	REPSTATUS PowerExchange エージェントコマンドに対応して表示されます。最後のキャプチャ登録のリフレッシュが行われた時間を示します。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-10053	<b>現在の変更識別子 "<i>changer_identifier</i>"</b>
説明：	REPSTATUS PowerExchange エージェントコマンドに対応して表示されます。現在のキャプチャ登録の変更識別子を示します。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-10054	<b>無効なリポジトリ <i>data_set_name</i></b>
説明：	REPSTATUS PowerExchange エージェントコマンドに対応して表示されます。現在のリポジトリデータセット名が無効値であることを示します。
ユーザの応答：	問題を解決してください。
PWX-10055	<b>構成の種類リポジトリ <i>data_set_name</i></b>
説明：	REPSTATUS PowerExchange エージェントコマンドに対応して表示されます。現在のリポジトリデータセットが構成ファイルであることを示します。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-10056	<b>CCT リポジトリ <i>data_set_name</i></b>
説明：	REPSTATUS PowerExchange エージェントコマンドに対応して表示されます。現在のリポジトリデータセットが PowerExchange CCT データセットであることを示します。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-10057	<b>場所 <i>location</i></b>
説明：	REPSTATUS PowerExchange エージェントコマンドに対応して表示されます。キャプチャ登録を指定の場所から取得中であることを示します。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-10058	<b>キャッシュ (<i>cache_data_set_number</i>) <i>data_set_name</i></b>
説明：	REPSTATUS PowerExchange エージェントコマンドに対応して表示されます。リポジトリキャッシュデータセットの名前と番号を示します。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-10059	<b>ヘルパーサブタスクは非アクティブ、リポジトリ閉</b>
説明：	REPSTATUS PowerExchange エージェントコマンドに対応して表示されます。リポジトリが閉じていることを示します。

ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-10060	<b>ヘルパーサブタスクは非アクティブ、循環中</b>
説明：	REPSTATUS PowerExchange エージェントコマンドに対応して表示されます。ヘルパーサブタスクがリスタート処理中であることを示します。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-10061	<b>ヘルパーサブタスクが異常終了しました。コード=<i>abend_code</i>、理由=<i>reason_code</i></b>
説明：	REPSTATUS PowerExchange エージェントコマンドへの応答として、またはヘルパーサブタスクの異常終了が検出された際に、表示されます。
システムのアクション：	ヘルパーサブタスクはリスタートしません。
ユーザの応答：	問題の原因を特定してください。ヘルパーサブタスクをリスタートするには、PowerExchange エージェントへの REPOPEN コマンドに続いて REPCLOSE を発行してください。問題が解決しない場合は、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-10062	<b>メモリ使用量:</b> REGS <i>abend_code registration_memory</i> <i>abend_codeK</i> 、VIRT <i>private_areaK</i> 、SYS <i>system_areaK</i> 、EXT <i>extended_private_areaK</i> 、SYS <i>extended_system_areaK</i>
説明：	IBM メッセージ IEF374I と同様に現在のメモリの使用状況を表示します。「登録メモリ」は、キャプチャ登録のキャッシュ用の現在のキロバイトを示します。  メッセージテキスト内で: <ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>private_area</i> (プライベート領域) は、PowerExchange エージェントがプライベート領域のユーザー領域から使用するストレージの最大キロバイト値 (最大量) です。</li> <li>• <i>system_area</i> (システム領域) は、PowerExchange エージェントが LSQA、SWA、上位プライベート領域などから使用するストレージの最大キロバイト値 (最大量) です。</li> <li>• <i>extended_private_area</i> は、PowerExchange エージェントが拡張プライベート領域のユーザー領域から使用するストレージの最大キロバイト値 (最大量) です。この値には、現在のメモリ使用量が含まれます。</li> <li>• <i>extended_system_area</i> (拡張システム領域) は、PowerExchange エージェントが拡張 LSQA、拡張 SWA および拡張上位プライベート領域などから使用するストレージの最大キロバイト値 (最大量) です。</li> </ul>
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-10063	<b>メモリ使用量: 行 <i>below_percentage%</i>より下、行 <i>above_percentage%</i>より上</b>
説明：	利用可能なストレージの行より下と上のパーセンテージとして現在のメモリの使用状況を示します。

ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-10200	CAPI: <b>内部エラー</b> : Null トークンポインタが <i>API_routine</i> に渡されました。
説明：	PowerExchange コンシューマ API に対して、正しく処理できない呼び出しが実行されました。
システムのアクション：	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答：	Informatica グローバルカスタマサポートに報告し、エラーの発生時に実行していた関数をお知らせください。
PWX-10201	CAPI: <b>コンシューマ API にソース情報が渡されていません。</b>
説明：	変更抽出のソースリストが無効です。
システムのアクション：	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答：	ソースリスト情報を修正し、要求を再試行してください。
PWX-10202	CAPI: <b>内部エラー</b> : CAPI_Connect に Null ソース対象リストポインタが渡されました。
説明：	PowerExchange コンシューマ API に対して、正しく処理できない呼び出しが実行されました。
システムのアクション：	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答：	Informatica グローバルカスタマサポートに報告し、エラーの発生時に実行していた関数をお知らせください。
PWX-10203	CAPI: <b>内部エラー</b> : CAPI_Connect 呼び出し元が <i>&lt;P&gt;</i> ソースを指定し、 <i>&lt;P&gt;</i> ソースを提供しました。
説明：	PowerExchange コンシューマ API に対して、正しく処理できない呼び出しが実行されました。
システムのアクション：	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答：	Informatica グローバルカスタマサポートに報告し、エラーの発生時に実行していた関数をお知らせください。
PWX-10204	CAPI: <b>内部エラー</b> : CAPI_Connect 呼び出し元が接続プロファイルを提供しませんでした。
説明：	PowerExchange コンシューマ API に対して、正しく処理できない呼び出しが実行されました。
システムのアクション：	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答：	Informatica グローバルカスタマサポートに報告し、エラーの発生時に実行していた関数をお知らせください。

PWX-10205	CAPI:接続プロファイル<"CONN_NAME">が見つかりませんでした。
説明:	PowerExchange コンシューマ API に対して、正しく処理できない呼び出しが実行されました。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	DBMOVER.cfg が破損している可能性があります。 CAPI_CONN_NAME に指定された値が正しいことを確認してください。エラーが解決しない場合は、Informatica グローバルカスタマサポートに連絡してください。
PWX-10206	CAPI: <i>bjject_name</i> のメモリを割り当てられませんでした。
説明:	メモリが不足したりリソースが、タスク処理に存在します。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	タスクで利用可能なメモリのリソースを拡張してください。エラーが解決されない場合は、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-10207	CAPI:接続プロファイル<connection>の接続情報が見つかりません。
説明:	CAPI_CONN_NAME 文は、DBMOVER ファイルに含まれない CAPI_CONNECTION 文を指定します。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	DBMOVER ファイル内の値を修正してください。
PWX-10208	CAPI:接続 dll<DLLNAME>をロードできません。
説明:	指定された DLL 名が検出されませんでした。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	DBMOVER.cfg の CAPI_CONNECTION 文が正しいことを確認してください。エラーが解決しない場合は、Informatica グローバルカスタマサポートに連絡してください。
PWX-10211	CAPI: 部エラー: トークンが <i>API_routine</i> に渡されませんでした。
説明:	PowerExchange コンシューマ API に対して、正しく処理できない呼び出しが実行されました。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートに報告し、エラーの発生時に実行していた関数をお知らせください。

PWX-10212	CAPI:API トークンに無効なアイキャッチャ<xxx>があります。
説明:	PowerExchange コンシューマ API に対して、正しく処理できない呼び出しが実行されました。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートに報告し、エラーの発生時に実行していた関数をお知らせください。
PWX-10213	CAPI:API トークンバージョン<nn.nn.nn.nr>が必要な最小バージョン<nn.nn.nn.nr>を下回っています。
説明:	PowerExchange コンシューマ API に対して、正しく処理できない呼び出しが実行されました。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートに報告し、エラーの発生時に実行していた関数をお知らせください。
PWX-10214	CAPI:API で以前に発生したエラーにより、<call_type>呼び出しを処理できません。
説明:	PowerExchange コンシューマ API に対して、正しく処理できない呼び出しが実行されました。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートに報告し、エラーの発生時に実行していた関数をお知らせください。
PWX-10215	CAPI:内部エラー:<call_type>呼び出しが正常に完了しないと、<call_type>呼び出しを試行できません。
説明:	PowerExchange コンシューマ API に対して、正しく処理できない呼び出しが実行されました。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートに報告し、エラーの発生時に実行していた関数をお知らせください。
PWX-10216	CAPI:内部エラー:<call_type>呼び出しはすでに正常に完了しています。
説明:	PowerExchange コンシューマ API に対して、正しく処理できない呼び出しが実行されました。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートに報告し、エラーの発生時に実行していた関数をお知らせください。

PWX-10217	<b>CAPL:内部エラー:&lt;function_name&gt;に列挙子が渡されていません。</b>
説明:	PowerExchange コンシューマ API に対して、正しく処理できない呼び出しが実行されました。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートに報告し、エラーの発生時に実行していた関数をお知らせください。
PWX-10218	<b>CAPL:内部エラー:戻りデータポインタが&lt;API_routine&gt;に渡されませんでした。</b>
説明:	PowerExchange コンシューマ API に対して、正しく処理できない呼び出しが実行されました。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートに報告し、エラーの発生時に実行していた関数をお知らせください。
PWX-10219	<b>CAPL: 内部エラー: 切断を試行する前に、開いているコンシューマ API 接続を閉じる必要があります。</b>
説明:	PowerExchange コンシューマ API に対して、正しく処理できない呼び出しが実行されました。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートに報告し、エラーの発生時に実行していた関数をお知らせください。
PWX-10220	<b>CAPL:内部エラー:&lt;call_type&gt;呼び出しは、&lt;call_type&gt;呼び出しを発行した後に発行することはできません。</b>
説明:	PowerExchange コンシューマ API に対して、正しく処理できない呼び出しが実行されました。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートに報告し、エラーの発生時に実行していた関数をお知らせください。
PWX-10221	<b>CAPL:内部エラー:ソースリスタート情報が&lt;API_routine&gt;に渡されませんでした。</b>
説明:	PowerExchange コンシューマ API に対して、正しく処理できない呼び出しが実行されました。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートに報告し、エラーの発生時に実行していた関数をお知らせください。

PWX-10222	<b>CAPI:内部エラー:無効なソースリストオブジェクト情報が&lt;API_routine&gt;に渡されました。</b>
説明:	PowerExchange コンシューマ API に対して、正しく処理できない呼び出しが実行されました。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートに報告し、エラーの発生時に実行していた関数をお知らせください。
PWX-10223	<b>CAPI: 内部エラー: ource-tag が対象リストで見つかりませんでした。</b>
説明:	PowerExchange コンシューマ API に対して、正しく処理できない呼び出しが実行されました。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートに報告し、エラーの発生時に実行していた関数をお知らせください。
PWX-10224	<b>CAPI:この接続の種類に関数&lt;function_name&gt;が実装されていません。</b>
説明:	PowerExchange コンシューマ API に対して、正しく処理できない呼び出しが実行されました。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは続行されます。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-10225	<b>CAPI:接続プロファイル&lt;CAPI_CONN_NAME&gt;に DLL が指定されていません。</b>
説明:	PowerExchange コンシューマ API に対して、正しく処理できない呼び出しが実行されました。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートに報告し、エラーの発生時に実行していた関数をお知らせください。
PWX-10226	<b>CAPI:内部エラー:&lt;call_type&gt;呼び出しは、&lt;API_call&gt;呼び出しの前に実行する必要があります。</b>
説明:	PowerExchange コンシューマ API に対して、正しく処理できない呼び出しが実行されました。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートに報告し、エラーの発生時に実行していた関数をお知らせください。



PWX-10227	<b>CAPI:内部エラー:必須のルーチン&lt;routine_name&gt;が CAPIINT に実装されていません。</b>
説明:	PowerExchange コンシューマ API に対して、正しく処理できない呼び出しが実行されました。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートに報告し、エラーの発生時に実行していた関数をお知らせください。
PWX-10228	<b>CAPI:警告:終了ハンドル <i>handle_name</i> が&lt;function&gt;に失敗しました。</b>
説明:	PowerExchange コンシューマ API に対して、正しく処理できない呼び出しが実行されました。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは続行されます。
ユーザの応答:	タスクが正常に終了しない可能性があります。 Informatica グローバルカスタマサポートに報告し、エラーの発生時に実行していた関数をお知らせください。
PWX-10229	<b>CAPI: 内部エラー: SequenceInfo を長さゼロにすることはできません。</b>
説明:	PowerExchange コンシューマ API に対して、正しく処理できない呼び出しが実行されました。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートに報告し、エラーの発生時に実行していた関数をお知らせください。
PWX-10230	<b>CAPI: 警告: 低 SequenceInfo および低 Restartinfo が異なるリスタートトークンで見つかりました。</b>
説明:	PowerExchange コンシューマ API に対して、正しく処理できない呼び出しが実行されました。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは続行されます。
ユーザの応答:	リスタートオブジェクトの値が矛盾している可能性があります。リスタート値が正しいことを確認します。
PWX-10231	<b>CAPI: 内部エラー: RestartInfo を長さゼロにすることはできません。</b>
説明:	PowerExchange コンシューマ API に対して、正しく処理できない呼び出しが実行されました。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートに報告し、エラーの発生時に実行していた関数をお知らせください。

PWX-10232	<b>CAPI: 内部エラー: 無効なリスタートシーケンスが読み取りから返されました。長さが矛盾しているか、上昇しません。</b>
説明:	PowerExchange コンシューマ API に対して、正しく処理できない呼び出しが実行されました。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートに報告し、エラーの発生時に実行していた関数をお知らせください。
PWX-10233	<b>CAPI: 部エラー: 一チン <i>routine_name</i> にデータが渡されていません。</b>
説明:	PowerExchange コンシューマ API に対して、正しく処理できない呼び出しが実行されました。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートに報告し、エラーの発生時に実行していた関数をお知らせください。
PWX-10234	<b>CAPI:内部エラー:無効なデータ型&lt;<i>data_type</i>&gt;がルーチン <i>routine_name</i> に渡されました。</b>
説明:	PowerExchange コンシューマ API に対して、正しく処理できない呼び出しが実行されました。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートに報告し、エラーの発生時に実行していた関数をお知らせください。
PWX-10235	<b>CAPI:内部エラー:無効な拡張データ型&lt;<i>data_type</i>&gt;がルーチン <i>routine_name</i> に渡されました。</b>
説明:	PowerExchange コンシューマ API に対して、正しく処理できない呼び出しが実行されました。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートに報告し、エラーの発生時に実行していた関数をお知らせください。
PWX-10236	<b>CAPI:内部エラー:拡張データ型&lt;<i>data_type</i>&gt;が、このコンシューマに無効なルーチン <i>routine_name</i> に渡されました。</b>
説明:	PowerExchange コンシューマ API に対して、正しく処理できない呼び出しが実行されました。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートに報告し、エラーの発生時に実行していた関数をお知らせください。

PWX-10237	<b>CAPI:内部エラー:データ型&lt;data_type&gt;の予期しないデータがルーチン routine_name に渡されました。</b>
説明:	PowerExchange コンシューマ API に対して、正しく処理できない呼び出しが実行されました。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートに報告し、エラーの発生時に実行していた関数をお知らせください。
PWX-10238	<b>CAPI:内部エラー:データ型&lt;data_type&gt;の必須データがルーチン routine_name に渡されました。</b>
説明:	PowerExchange コンシューマ API に対して、正しく処理できない呼び出しが実行されました。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートに報告し、エラーの発生時に実行していた関数をお知らせください。
PWX-10239	<b>CAPI:内部エラー:無効なレコード型&lt;record_type&gt;がルーチン routine_name に渡されました。</b>
説明:	PowerExchange コンシューマ API に対して、正しく処理できない呼び出しが実行されました。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートに報告し、エラーの発生時に実行していた関数をお知らせください。
PWX-10240	<b>CAPI:エラー:属性情報が LRP インタフェースに提供されませんでした。</b>
説明:	PowerExchange コンシューマ API に対して、正しく処理できない呼び出しが実行されました。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートに報告し、エラーの発生時に実行していた関数をお知らせください。
PWX-10241	<b>CAPI:警告:認識されない属性&lt;name.value&gt;が LRP インタフェースに渡されました。</b>
説明:	PowerExchange コンシューマ API に対して、正しく処理できない呼び出しが実行されました。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは続行されます。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。

PWX-10242	<b>CAPI: エラー: 属性リスト内の入力キュー識別子が LRP インタフェースに渡されていません。</b>
説明:	PowerExchange コンシューマ API に対して、正しく処理できない呼び出しが実行されました。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートに報告し、エラーの発生時に実行していた関数をお知らせください。
PWX-10243	<b>CAPI: エラー: 共通サービス接続に失敗しました。戻りコード: <i>rc</i> 戻りコード: <i>reason_code</i>。</b>
説明:	PowerExchange コンシューマ API に対して、正しく処理できない呼び出しが実行されました。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	戻りコードと理由コードについては、このマニュアルの「理由コードと戻りコード」のセクションを参照してください。
PWX-10244	<b>CAPI: エラー: プラットフォームトークンがありません。</b>
説明:	PowerExchange コンシューマ API に対して、正しく処理できない呼び出しが実行されました。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートに報告し、エラーの発生時に実行していた関数をお知らせください。
PWX-10245	<b>CAPI: エラー: 接続されていません。</b>
説明:	PowerExchange コンシューマ API に対して、正しく処理できない呼び出しが実行されました。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートに報告し、エラーの発生時に実行していた関数をお知らせください。
PWX-10246	<b>CAPI: エラー: キューを開くことができませんでした。戻りコード: <i>rc</i> 戻りコード: <i>reason_code</i>。</b>
説明:	PowerExchange コンシューマ API に対して、正しく処理できない呼び出しが実行されました。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	戻りコードと理由コードについては、このマニュアルの「理由コードと戻りコード」のセクションを参照してください。

PWX-10247	<b>CAPI: エラー: コマンドキューを開くことができませんでした。戻りコード: <i>rc</i> 戻りコード: <i>reason_code</i>。</b>
説明:	PowerExchange コンシューマ API に対して、正しく処理できない呼び出しが実行されました。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	戻りコードと理由コードについては、このマニュアルの「理由コードと戻りコード」のセクションを参照してください。
PWX-10248	<b>CAPI: エラー: キューを閉じることができませんでした。戻りコード: <i>rc</i> 戻りコード: <i>reason_code</i>。</b>
説明:	PowerExchange コンシューマ API に対して、正しく処理できない呼び出しが実行されました。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	戻りコードと理由コードについては、このマニュアルの「理由コードと戻りコード」のセクションを参照してください。
PWX-10249	<b>CAPI: エラー: コマンドキューを閉じることができませんでした。戻りコード: <i>rc</i> 戻りコード: <i>reason_code</i>。</b>
説明:	PowerExchange コンシューマ API に対して、正しく処理できない呼び出しが実行されました。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	戻りコードと理由コードについては、このマニュアルの「理由コードと戻りコード」のセクションを参照してください。
PWX-10250	<b>CAPI: エラー: CS 情報呼び出しに失敗しました。戻りコード: <i>rc</i> 戻りコード: <i>reason_code</i>。</b>
説明:	PowerExchange コンシューマ API に対して、正しく処理できない呼び出しが実行されました。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	戻りコードと理由コードを確認します。
PWX-10251	<b>CAPI: エラー: 入力キューが PAC で見つかりませんでした。</b>
説明:	PowerExchange コンシューマ API に対して、正しく処理できない呼び出しが実行されました。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	PARM で指定された PAC タスクがこのプロセスに適切であることを確認します。エラーが解決しない場合は、Informatica グローバルカスタマサポートに連絡してください。

PWX-10252	<b>CAPI: エラー: 共通サービスの切断に失敗しました。戻りコード: <i>rc</i> 戻りコード: <i>reason_code</i>。</b>
説明:	PowerExchange コンシューマ API に対して、正しく処理できない呼び出しが実行されました。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	戻りコードと理由コードについては、このマニュアルの「理由コードと戻りコード」のセクションを参照してください。
PWX-10254	<b>CAPI: エラー: 読み取りキュートークンがありません。または無効です。</b>
説明:	PowerExchange コンシューマ API に対して、正しく処理できない呼び出しが実行されました。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートに報告し、エラーの発生時に実行していた関数をお知らせください。
PWX-10255	<b>CAPI: エラー: ソースリストがありません。または無効です。</b>
説明:	PowerExchange コンシューマ API に対して、正しく処理できない呼び出しが実行されました。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートに報告し、エラーの発生時に実行していた関数をお知らせください。
PWX-10256	<b>CAPI: エラー: リスタートトークンがありません。または無効です。</b>
説明:	PowerExchange コンシューマ API に対して、正しく処理できない呼び出しが実行されました。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートに報告し、エラーの発生時に実行していた関数をお知らせください。
PWX-10257	<b>CAPI: エラー: 標準ではないレコード形式を受け取りました。</b>
説明:	PowerExchange コンシューマ API に対して、正しく処理できない呼び出しが実行されました。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートに報告し、エラーの発生時に実行していた関数をお知らせください。

PWX-10258	<b>CAPI: エラー: リスタート要求が送信されませんでした。</b>
説明:	PowerExchange コンシューマ API に対して、正しく処理できない呼び出しが実行されました。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートに報告し、エラーの発生時に実行していた関数をお知らせください。
PWX-10259	<b>CAPI: 警告: EOF に到達する前にキューが閉じました。</b>
説明:	EDM パラメータで指定された時間内に、EOF を LRP から受信しませんでした。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは続行されます。
ユーザの応答:	PACTIMR パラメータで指定する値を増やします。エラーが解決されない場合は、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-10260	<b>CAPI: エラー: 対象リスト符号化コマンドの配置に失敗しました。戻りコード: <i>rc</i> 戻りコード: <i>reason_code</i>。</b>
説明:	PowerExchange コンシューマ API に対して、正しく処理できない呼び出しが実行されました。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	戻りコードと理由コードについては、『PowerExchange Change Capture Messages Reference』（PowerExchange 変更キャプチャメッセージリファレンス）を参照してください。
PWX-10261	<b>CAPI: エラー: 要求トランザクション符号化コマンドの配置に失敗しました。戻りコード: <i>rc</i> 戻りコード: <i>reason_code</i>。</b>
説明:	PowerExchange コンシューマ API に対して、正しく処理できない呼び出しが実行されました。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	戻りコードと理由コードについては、『PowerExchange Change Capture Messages Reference』（PowerExchange 変更キャプチャメッセージリファレンス）を参照してください。
PWX-10262	<b>CAPI: エラー: タイマの設定に失敗しました。戻りコード: <i>rc</i> 戻りコード: <i>reason_code</i>。</b>
説明:	PowerExchange コンシューマ API に対して、正しく処理できない呼び出しが実行されました。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートに報告し、エラーの発生時に実行していた関数をお知らせください。

PWX-10263	CAPI: <b>エラー: タイマのキャンセルに失敗しました。戻りコード: <i>rc</i></b> 戻りコード: <i>reason_code</i> .
説明:	PowerExchange コンシューマ API に対して、正しく処理できない呼び出しが実行されました。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートに報告し、エラーの発生時に実行していた関数をお知らせください。
PWX-10264	CAPI: <b>エラー: 待機呼び出しに失敗しました。戻りコード: <i>rc</i></b> 戻りコード: <i>reason_code</i> .
説明:	PowerExchange コンシューマ API に対して、正しく処理できない呼び出しが実行されました。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートに報告し、エラーの発生時に実行していた関数をお知らせください。
PWX-10265	CAPI: <b>エラー: LRP 接続からの読み取りに失敗しました。戻りコード: <i>rc</i></b> 戻りコード: <i>reason_code</i> .
説明:	PowerExchange コンシューマ API に対して、正しく処理できない呼び出しが実行されました。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	戻りコードと理由コードについては、『PowerExchange Change Capture Messages Reference』（PowerExchange 変更キャプチャメッセージリファレンス）を参照してください。
PWX-10266	CAPI: <b>エラー: リスタートオブジェクトの設定に失敗しました。</b>
説明:	PowerExchange コンシューマ API に対して、正しく処理できない呼び出しが実行されました。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートに報告し、エラーの発生時に実行していた関数をお知らせください。
PWX-10267	CAPI: <b>エラー: 格納クロック値の取得に失敗しました。戻りコード: <i>rc</i></b> .
説明:	PowerExchange コンシューマ API に対して、正しく処理できない呼び出しが実行されました。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートに報告し、エラーの発生時に実行していた関数をお知らせください。



PWX-10274	<b>CAPI: エラー: データトークンの後に設定中にエラーが発生しました。</b>
説明:	PowerExchange コンシューマ API に対して、正しく処理できない呼び出しが実行されました。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートに報告し、エラーの発生時に実行していた関数をお知らせください。
PWX-10275	<b>CAPI: エラー: コマンドキュートークンがありません。または無効です。</b>
説明:	PowerExchange コンシューマ API に対して、正しく処理できない呼び出しが実行されました。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートに報告し、エラーの発生時に実行していた関数をお知らせください。
PWX-10276	<b>CAPI: エラー: レコードデータが関数 INSERT と矛盾しています。</b>
説明:	PowerExchange コンシューマ API に対して、正しく処理できない呼び出しが実行されました。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートに報告し、エラーの発生時に実行していた関数をお知らせください。
PWX-10277	<b>CAPI: エラー: レコードデータが関数 UDPATE と矛盾しています。</b>
説明:	PowerExchange コンシューマ API に対して、正しく処理できない呼び出しが実行されました。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートに報告し、エラーの発生時に実行していた関数をお知らせください。
PWX-10278	<b>CAPI: エラー: レコードデータが関数 DELETE と矛盾しています。</b>
説明:	PowerExchange コンシューマ API に対して、正しく処理できない呼び出しが実行されました。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートに報告し、エラーの発生時に実行していた関数をお知らせください。

PWX-10279	<b>CAPI: エラー: イベントマーカの呼び出しに失敗しました。</b> <b>戻りコード:</b> <i>rc</i> <b>戻りコード:</b> <i>reason_code</i>
説明:	PowerExchange コンシューマ API に対して、正しく処理できない呼び出しが実行されました。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	戻りコードと理由コードについては、このマニュアルの「理由コードと戻りコード」のセクションを参照してください。詳細については、EDMSG を確認してください。
PWX-10280	<b>CAPI: エラー: PAC でログキューが見つかりませんでした。</b>
説明:	PowerExchange コンシューマ API に対して、正しく処理できない呼び出しが実行されました。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	パラメータで指定された PAC タスクがこのプロセスに適切であることを確認します。エラーが解決しない場合は、Informatica グローバルカスタマサポートに連絡してください。
PWX-10281	<b>CAPI: エラー: PAC にログキューが定義されていません。</b>
説明:	PowerExchange コンシューマ API に対して、正しく処理できない呼び出しが実行されました。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	パラメータで指定された PAC タスクがこのプロセスに適切であることを確認します。エラーが解決しない場合は、Informatica グローバルカスタマサポートに連絡してください。
PWX-10282	<b>CAPI: エラー: CS EDMSDIR の取得呼び出しに失敗しました。</b> <b>戻りコード:</b> <i>return_code</i> <b>戻りコード:</b> <i>reason_code</i>
説明:	PowerExchange コンシューマ API に対して、正しく処理できない呼び出しが実行されました。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	戻りコードと理由コードについては、このマニュアルの「理由コードと戻りコード」のセクションを参照してください。詳細については、EDMSG を確認してください。
PWX-10283	<b>CAPI: エラー: PAC に入力キューが定義されていません。</b>
説明:	PowerExchange コンシューマ API に対して、正しく処理できない呼び出しが実行されました。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	パラメータで指定された PAC タスクがこのプロセスに適切であることを確認します。エラーが解決しない場合は、Informatica グローバルカスタマサポートに連絡してください。

PWX-10284	<b>CAPI: エラー: 属性リスト内の入力キュー識別子が LRP インタフェースに渡されていません。</b>
説明:	PowerExchange コンシューマ API に対して、正しく処理できない呼び出しが実行されました。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートに報告し、エラーの発生時に実行していた関数をお知らせください。
PWX-10285	<b>CAPI: エラー: シャットダウン要求符号化コマンドの配置に失敗しました。戻りコード: <i>rc</i> 戻りコード: <i>reason_code</i>。</b>
説明:	PowerExchange コンシューマ API に対して、正しく処理できない呼び出しが実行されました。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	戻りコードと理由コードについては、このマニュアルの「理由コードと戻りコード」のセクションを参照してください。詳細については、EDMMSG を確認してください。
PWX-10286	<b>CAPI: エラー: PowerExchange ロgger 切断要求に失敗しました。戻りコード: <i>return_code</i> 戻りコード: <i>reason_code</i>。</b>
説明:	PowerExchange コンシューマ API に対して、正しく処理できない呼び出しが実行されました。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	戻りコードおよび理由コード、さらに追加情報について EDMMSG メッセージを見直してください。
PWX-10287	<b>CAPI: エラー: PACINFO 呼び出しに失敗しました。戻りコード: <i>return_code</i> 戻りコード: <i>reason_code</i>。</b>
説明:	PowerExchange コンシューマ API に対して、正しく処理できない呼び出しが実行されました。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	戻りコードと理由コードについては、このマニュアルの「理由コードと戻りコード」のセクションを参照してください。詳細については、EDMMSG を確認してください。
PWX-10288	<b>CAPI: エラー: コマンド接続が GenRestart で有効ではありません。</b>
説明:	PowerExchange コンシューマ API に対して、正しく処理できない呼び出しが実行されました。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。

ユーザの応答：	パラメータで指定された PAC タスクがこのプロセスに適切であることを確認します。エラーが解決しない場合は、Informatica グローバルカスタマサポートに連絡してください。
PWX-10289	<b>CAPI: エラー: 不明なコマンドレコードフォーマットを読み取りました。</b>
説明：	PowerExchange コンシューマ API に対して、正しく処理できない呼び出しが実行されました。
システムのアクション：	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答：	Informatica グローバルカスタマサポートに報告し、エラーの発生時に実行していた関数をお知らせください。
PWX-10291	<b>CAPI: エラー: ログ属性が提供されませんでした。</b>
説明：	PowerExchange コンシューマ API に対して、正しく処理できない呼び出しが実行されました。
システムのアクション：	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答：	Informatica グローバルカスタマサポートに報告し、エラーの発生時に実行していた関数をお知らせください。
PWX-10292	<b>CAPI: エラー: ログ読み取り API &lt;call_type&gt; 呼び出しに失敗しました。 戻りコード: <i>return_code</i> 戻りコード: <i>reason_code</i>。</b>
説明：	PowerExchange コンシューマ API に対して、正しく処理できない呼び出しが実行されました。
システムのアクション：	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答：	詳細については、EDMMSG ログを見直してください。 PowerExchange ロggerおよび PowerExchange エージェントの状態を確認してください。問題が解決しない場合は、Informatica グローバルカスタマサポートに連絡します。
PWX-10293	<b>CAPI: エラー: ログ書き込み API &lt;call_type&gt; の呼び出しに失敗しました。 戻りコード: <i>return_code</i> 戻りコード: <i>reason_code</i>。</b>
説明：	PowerExchange コンシューマ API に対して、正しく処理できない呼び出しが実行されました。
システムのアクション：	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答：	詳細については、EDMMSG ログを確認してください。 PowerExchange ロggerおよび PowerExchange エージェントの状態を確認してください。問題が解決しない場合は、Informatica グローバルカスタマサポートに連絡します。

PWX-10294	CAPI: <b>エラー:</b> <data_type> <b>拡張データ要求のデータが無効です。</b>
説明:	PowerExchange コンシューマ API に対して、正しく処理できない呼び出しが実行されました。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートに報告し、エラーの発生時に実行していた関数をお知らせください。
PWX-10295	CAPI: <b>警告:要求の種類</b> <data_type> <b>:&lt;description&gt;の拡張データは使用できません。</b>
説明:	PowerExchange コンシューマ API に対して、正しく処理できない呼び出しが実行されました。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは続行されます。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにメッセージを報告してください。
PWX-10296	CAPI: <b>エラー:</b> VARSTRING<operation_type> <b>操作がオブジェクト&lt;object&gt;で失敗しました。</b>
説明:	PowerExchange コンシューマ API に対して、正しく処理できない呼び出しが実行されました。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	リソース制限を超えていないことを確認します。問題が解決しない場合は、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-10297	CAPI: <b>エラー: リスタート値の長さが正しくありません。</b>
説明:	PowerExchange コンシューマ API に対して、正しく処理できない呼び出しが実行されました。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートに報告し、エラーの発生時に実行していた関数をお知らせください。
PWX-10298	CAPI: <b>エラー: キューへの追加に失敗しました。</b>
説明:	PowerExchange コンシューマ API に対して、正しく処理できない呼び出しが実行されました。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートに報告し、エラーの発生時に実行していた関数をお知らせください。

PWX-10299	<b>CAPI: エラーキューからの削除に失敗しました。</b>
説明:	PowerExchange コンシューマ API に対して、正しく処理できない呼び出しが実行されました。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートに報告し、エラーの発生時に実行していた関数をお知らせください。
PWX-10345	<b>CAPI: エラー: カスケードキーの IMS セグメント RBA が見つかりませんでした。</b>
説明:	PowerExchange コンシューマ API に対して、正しく処理できない呼び出しが実行されました。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートに報告し、エラーの発生時に実行していた関数をお知らせください。
PWX-10346	<b>CAPI:エラー:DLL コンパイル/リンクバージョンが不一致。 DLL:&lt;nm&gt;: DLL バージョン nn.nn.nn.nn。リンクバージョン nn.nn.nn.nn。</b>
説明:	PowerExchange コンシューマ API に対して、正しく処理できない呼び出しが実行されました。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートに報告し、エラーの発生時に実行していた関数をお知らせください。
PWX-10348	<b>CAPI:エラー:CAPI バージョンが一致しません。DLL&lt;nm&gt;、バージョン&lt;nn.nn.nn.nr&gt;。必要なバージョン&lt;nn.nn.nn.nr&gt;。</b>
説明:	PowerExchange コンシューマ API に対して、正しく処理できない呼び出しが実行されました。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	不正な製品パッチを適用した可能性があります。問題が解決されない場合は、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-10349	<b>CAPI:エラー:&lt;data_type&gt;は、有効な拡張データ型ではありません。</b>
説明:	PowerExchange コンシューマ API に対して、正しく処理できない呼び出しが実行されました。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートに報告し、エラーの発生時に実行していた関数をお知らせください。

PWX-10353	<b>CAPI: エラー: ソースリスタート情報がありません。</b>
説明:	PowerExchange コンシューマ API に対して、正しく処理できない呼び出しが実行されました。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	適用リスタートトークンの設定については、マニュアルを参照してください。プロセスが正常に行われていた場合は、Informatica グローバルカスタマサポートに問題を報告してください。
PWX-10359	<b>CAPI:エラー:シーケンス情報は&lt;P&gt;バイトでなければなりません。</b>
説明:	PowerExchange コンシューマ API に対して、正しく処理できない呼び出しが実行されました。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートに報告し、エラーの発生時に実行していた関数をお知らせください。
PWX-10360	<b>CAPI:エラー: 起動情報は&lt;P&gt;バイトでなければなりません。</b>
説明:	PowerExchange コンシューマ API に対して、正しく処理できない呼び出しが実行されました。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートに報告し、エラーの発生時に実行していた関数をお知らせください。
PWX-10361	<b>CAPI:エラー: リスタート情報内のログ名が、接続のログ名 &lt;log_name&gt;と一致しません。</b>
説明:	PowerExchange コンシューマ API に対して、正しく処理できない呼び出しが実行されました。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	CAPI_CONNECTION に指定された PowerExchange ロgger名を確認します。初回実行時ではない場合は、リスタートトークンの PowerExchange ロgger名と一致する必要があります。
PWX-10362	<b>CAPI: エラー: リスタートトークン内で Null 値は許可されていません。</b>
説明:	PowerExchange コンシューマ API に対して、正しく処理できない呼び出しが実行されました。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	適用リスタートトークンの設定については、マニュアルを参照してください。プロセスが正常に行われていた場合は、Informatica グローバルカスタマサポートに問題を報告してください。

PWX-10363	<b>CAPI: エラー: リスタートトークンの長さが一貫していません。</b>
説明:	PowerExchange コンシューマ API に対して、正しく処理できない呼び出しが実行されました。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	適用リスタートトークンの設定については、マニュアルを参照してください。プロセスが正常に行われていた場合は、Informatica グローバルカスタマサポートに問題を報告してください。
PWX-10366	<b>CAPI: エラー: 無効な呼び出し元の拡張情報が存在します。</b>
説明:	PowerExchange コンシューマ API に対して、正しく処理できない呼び出しが実行されました。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	DBMOVER.cfg の CAPI_CONNECTION パラメータが正しいことを確認します。エラーが解決しない場合は、Informatica グローバルカスタマサポートに連絡してください。
PWX-10367	<b>CAPI: エラー: ログ読み取り (RESTART) ポイントが、要求した送信ポイント (SEQUENCE) の先にあります。</b>
説明:	PowerExchange コンシューマ API に対して、正しく処理できない呼び出しが実行されました。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	適用リスタートトークンの設定については、マニュアルを参照してください。プロセスが正常に行われていた場合は、Informatica グローバルカスタマサポートに問題を報告してください。
PWX-10373	<b>CAPI: エラー: コンシューマは、要求した拡張データ処理を実行できません。</b>
説明:	PowerExchange コンシューマ API に対して、正しく処理できない呼び出しが実行されました。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	DBMOVER.cfg の CAPI_CONNECTION パラメータが正しいことを確認します。エラーが解決しない場合は、Informatica グローバルカスタマサポートに連絡してください。
PWX-10374	<b>CAPI: エラー: 複数のオブジェクトは、SourceEvent または RestartInfo&lt;function&gt;でのみ許可されています。</b>
説明:	PowerExchange コンシューマ API に対して、正しく処理できない呼び出しが実行されました。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。



ユーザの応答：	Informatica グローバルカスタマサポートに報告し、エラーの発生時に実行していた関数をお知らせください。
PWX-10376	<b>CAPI:エラー:リスタートトークンがソース&lt;source_tag&gt;にありません。</b>
説明：	PowerExchange コンシューマ API に対して、正しく処理できない呼び出しが実行されました。
システムのアクション：	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答：	適用リスタートトークンの設定については、マニュアルを参照してください。プロセスが正常に行われていた場合は、Informatica グローバルカスタマサポートに問題を報告してください。
PWX-10377	<b>CAPI:エラー:ヘルパールーチン&lt;helper_routine&gt;は、&lt;API_call&gt;中にのみ呼び出すことができます。</b>
説明：	PowerExchange コンシューマ API に対して、正しく処理できない呼び出しが実行されました。
システムのアクション：	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答：	Informatica グローバルカスタマサポートに報告し、エラーの発生時に実行していた関数をお知らせください。
PWX-10378	<b>CAPI: エラー: 拡張データ型 type は設定可能ではありません。(ルーチン&lt;helper_routine&gt;)。</b>
説明：	PowerExchange コンシューマ API に対して、正しく処理できない呼び出しが実行されました。
システムのアクション：	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答：	Informatica グローバルカスタマサポートに報告し、エラーの発生時に実行していた関数をお知らせください。
PWX-10379	<b>CAPI:エラー:ソース&lt;source_tag&gt;のリスタートトークンが無効です。</b>
説明：	PowerExchange コンシューマ API に対して、正しく処理できない呼び出しが実行されました。
システムのアクション：	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答：	適用リスタートトークンの設定については、マニュアルを参照してください。プロセスが正常に行われていた場合は、Informatica グローバルカスタマサポートに問題を報告してください。
PWX-10380	<b>CAPI:エラー:接続&lt;log_name&gt;からのログ名がEDMSDIR&lt;log_name&gt;からのログ名と一致する必要があります。</b>
説明：	PowerExchange コンシューマ API に対して、正しく処理できない呼び出しが実行されました。

システムのアクション エラーが発生したタスクは終了します。  
ン：

ユーザの応答： CAPI\_CONNECTION ログパラメータが EDMSDIT のログ名と一致していることを確認します。エラーが解決しない場合は、Informatica グローバルカスタマサポートに連絡してください。

PWX-10385 **エラー:CAPX<PWX\_config\_file\_statement\_type>以外の文が多すぎます。<number\_found>個見つかりましたが、許容されるのは<number\_allowed>個です。**

説明： メッセージに示されている種類の文が PowerExchange 構成ファイルにありましたが、その数が多すぎます。

システムのアクション エラーが発生したタスクは終了します。  
ン：

ユーザの応答： 余分な文を削除して、タスクをリスタートしてください。許容できる最大数は、エラーメッセージに示されています。

PWX-10386 **情報: ファイルの終わりの処理がイベントテーブル処理によって開始されました。**

説明： イベントテーブルに変更レコードが検出されました。このために、抽出処理を停止します。

システムのアクション タスクは正常に終了します。  
ン：

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PXW-10387 **IMS アンロードファイルの読み取りを要求するための IMS ID がありません**

説明： IMS アンロードファイルの読み取りを要求するデータマップに、IMS SSID が含まれていません。DBD のロード元のライブラリは、IMS SSID および DBMOVER IMSID パラメータの情報を組み合わせて指定されます。

システムのアクション エラーが発生したタスクは終了します。  
ン：

ユーザの応答： DL/1 バッチデータマップを使用している場合、IMS SSID をデータマップに追加します。IMS ODBA データマップを使用している場合は、IMS SSID がすでに存在しているはずです。また、DBMOVER コンフィギュレーションメンバ内の IMSID パラメータが、IMS サブシステムの DBD ライブラリを指定していることを確認します。

PXW-10388 ***parameter1* が指定されましたが、*parameter2* または DBMOVER*parameter3* が指定されていません。**

説明： 指定されたパラメータ *parameter1* を使用するには、他の 2 つの指定されたパラメータの少なくとも一方を定義する必要があります。

システムのアクション このエラーが発生したタスクは終了します。  
ン：

ユーザの応答： 指定されていないパラメータである *parameter2* または *parameter3* の少なくとも一方を定義します。

PWX-10390	CAPI_CONNECTION <b>タイプ</b> <i>connection_type</i> : <i>parameter_name</i> <b>パラメータには <i>parameter_name</i> パラメータが必要です。</b>
説明:	指定されたタイプの CAPI_CONNECTION 文に含まれるパラメータで、2 番目のパラメータを指定する必要があります。
システムのアクション:	処理は終了します。
ユーザの応答:	2 番目のパラメータを指定し、セッションをもう一度実行してください。
PWX-10391	CAPI_CONNECTION <b>タイプ</b> <i>type</i> : <b>必須パラメータ <i>parameter_name</i> がありません</b>
説明:	指定したタイプの CAPI_CONNECTION 文に必須パラメータがありません。このメッセージは、欠落しているパラメータを示します。
システムのアクション:	キャプチャプロセスが終了します。
ユーザの応答:	指定したパラメータを、パラメータが欠落している CAPI_CONNECTION 文に追加します。そのあと、セッションを再度実行してください。
PWX-10400	<b>項目&lt;<i>item_reference</i>&gt;でメモリ管理の問題が発生しました。戻りコード&lt;<i>return_code</i>&gt;。</b>
説明:	リソースが足りないため、要求されたメモリを割り当てられませんでした。
システムのアクション:	処理は終了します。
ユーザの応答:	処理に十分なリソースがあることを確認してください。
PWX-10401	<b>&lt;<i>operation</i>&gt; (キューマネージャ&lt;<i>queue_manager</i>&gt;への)、キュー&lt;<i>queue_name</i>&gt;、戻りコード&lt;<i>return_code</i>&gt;、理由&lt;<i>reason_code</i>&gt;</b>
説明:	キューに対する操作が失敗しました。
システムのアクション:	処理は終了します。
ユーザの応答:	エラーの詳細については、このメッセージの後に続くメッセージを見直してください。
PWX-10404	<b>続行できません。パラメータ&lt;<i>parameter_name</i>&gt;が指定されませんでした。</b>
説明:	ユーザーが、必須パラメータを指定していません。
システムのアクション:	処理は終了します。
ユーザの応答:	パラメータの正しい値を求め、指定してください。

PWX-10405	<b>提供されたメンバ DBCB に、接続 DBCB へのリンクがありません。</b>
説明：	無効な構成で API が呼び出されました。
システムのアクション：	処理は終了します。
ユーザの応答：	接続 DBCB を使用してください。
PWX-10406	<b>これらのメッセージについては、IBM MQ マニュアルを参照してください。</b>
説明：	その他のメッセージは、MQ コードと応答を返しました。
ユーザの応答：	MQ 参照の関連メッセージを読み取ります。
PWX-10407	<b>&lt;pool_ID_base&gt;のプール ID を作成できませんでした。戻りコード&lt;return_code&gt;。</b>
説明：	内部でメモリ構成エラーが発生しました。
システムのアクション：	処理は終了します。
ユーザの応答：	Informatica グローバルカスタマサポートに詳細を報告してください。
PWX-10408	<b>説明: <i>explanation_text</i></b>
説明：	MQ 理由コードの簡潔な説明。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-10409	<b>&lt;queue_manager&gt;に接続しようとしていますが、すでに&lt;queue_manager&gt;に接続されています。</b>
説明：	接続済みのキューマネージャがあるにもかかわらず、別のキューマネージャに接続しようとした。
システムのアクション：	処理は終了します。
ユーザの応答：	API を呼び出す場合は、ロジックを確認してください。そうでない場合は、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-10410	<b>&lt;operation&gt; (キュー&lt;queue_name&gt;への) に失敗しました。同期ポイント設定用に関われていません。</b>
説明：	キューに対して同期ポイント処理に関連する操作が要求されましたが、そのキューが同期ポイント処理用に関われていませんでした。
システムのアクション：	処理は終了します。
ユーザの応答：	API を呼び出す場合は、ロジックを確認してください。そうでない場合は、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-10411	<b>&lt;function&gt;への呼び出しで無効な DBCB を使用しました。 DBCB&lt;DBCB_address&gt;DBCB 番号 &lt;DBCB_number&gt;。</b>
説明:	無効な構成で API が呼び出されました。
システムのアクション:	処理は終了します。
ユーザの応答:	API を呼び出す場合は、ロジックを確認してください。そうでない場合は、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-10412	<b>フィールド&lt;field_name&gt;に重大な値エラーがあります。説明: &lt;problem_description&gt;。</b>
説明:	無効な構成で API が呼び出されました。
システムのアクション:	処理は終了します。
ユーザの応答:	API を呼び出す場合は、ロジックを確認してください。そうでない場合は、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-10413	<b>ユーザー&lt;user_ID&gt;は、メッセージキュー関数を使用するライセンスを持っていません。</b>
説明:	提示されたライセンスキーでは、MQ アクセスは許可されません。
システムのアクション:	処理は終了します。
ユーザの応答:	新しいライセンスキーについて Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-10415	<b>閲覧用に開いているキューで UPDATE を呼び出すことはできません。</b>
説明:	非破壊読み出し用に開いているキューで DB_UPDATE が呼び出されました。
システムのアクション:	システムは、このキューに対して読み取りまたは書き込みを行いません。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにエラーの内容を報告してください。
PWX-10416	<b>AMMQS:&lt;error_description&gt;</b>
説明:	モジュール DTLAMMQS が、説明テキストで示された致命的なエラーを検出しました。
システムのアクション:	システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-10500	<b>command_input</b>
説明:	現在のコマンド入力行です。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。

PWX-10501      **無効な 16 進数文字 (*character*) が<parameter>にあります。**

説明：                      指定したパラメータに、無効な 16 進数文字が含まれています。

システムのアクション：      処理は終了します。

ン：

ユーザの応答：              エラーを修正してください。 その後、要求をもう一度実行します。

PWX-10502      **奇数の 16 進数文字が<parameter>にあります。**

説明：                      指定したパラメータに、奇数の 16 進数文字が含まれています。

システムのアクション：      処理は終了します。

ン：

ユーザの応答：              エラーを修正してください。 その後、要求をもう一度実行します。

PWX-10503      **パラメータ<parameter1>と<parameter2>が競合しています。**

説明：                      指定したパラメータは一緒に指定できません。

システムのアクション：      処理は終了します。

ン：

ユーザの応答：              エラーを修正してください。 その後、要求をもう一度実行します。

PWX-10504      ***entry\_source\_or\_target*が無効です**

説明：                      指定されたパラメータに無効な値があります。

システムのアクション：      処理は終了します。

ン：

ユーザの応答：              エラーを修正してください。 その後、要求をもう一度実行します。

PWX-10505      **コマンドが指定されていません**

説明：                      コマンドが指定されていません。

システムのアクション：      処理は終了します。

ン：

ユーザの応答：              エラーを修正してください。 その後、要求をもう一度実行します。

PWX-10506      **MQ リスタートユーティリティの構文:**

説明：                      HELP 出力の最初の行です。

ユーザの応答：              対応する必要はありません。

PWX-10507      *help\_information*

説明：                      HELP 出力の行です。

ユーザの応答：              対応する必要はありません。

PWX-10508      **エントリ (*source\_name*、*target\_name*、*target\_type*) はすでにアプリケーション *application\_name* に存在しています。**

説明：                      エントリはすでにアプリケーションで定義されています。

システムのアクション 処理は終了します。  
ン：

ユーザの応答： エラーを修正してください。その後、要求をもう一度実行します。  
ソース名では大文字/小文字が区別されません。NRDB ターゲット名  
では大文字/小文字が区別されず、フォーマットは重要ではありません  
("a.b\_c"は"A.B.C"と等価)。

#### PWX-10509 **有効なアプリケーションがありません**

説明： コマンドを実行するにはアプリケーションが必要です。アプリケーション  
名は、APPL= キーワードまたは SETDEF コマンドで指定する  
ことができます。

システムのアクション 処理は終了します。  
ン：

ユーザの応答： エラーを修正してください。その後、要求をもう一度実行します。

#### PWX-10510 **有効なキュー名がありません**

説明： コマンドを実行するにはキュー名が必要です。キュー名は、SETDEF  
コマンドまたは DBMOVER コンフィギュレーションファイルで指定  
することができます。

システムのアクション 処理は終了します。  
ン：

ユーザの応答： エラーを修正してください。その後、要求をもう一度実行します。

#### PWX-10511 **MQR API 呼び出し *call\_name* で、エラー *return\_code* (*return\_mnemonic*) が返されました。**

説明： 指定された MQ リスタート API 呼び出しがエラーを返しました。追加  
のメッセージは、エラーが返された原因を特定するのに役立ちます。

システムのアクション 処理は終了します。  
ン：

ユーザの応答： エラーを修正してください。その後、要求をもう一度実行します。

#### PWX-10512 **アプリケーションがロードされていません**

説明： コマンドを実行するには、アプリケーションをロードする必要があります。

システムのアクション 処理は終了します。  
ン：

ユーザの応答： エラーを修正してください。その後、要求をもう一度実行します。

#### PWX-10513 **アプリケーション<*application\_name*>はすでに存在してい ます。**

説明： コマンドを実行するには、アプリケーションがリスタートキューにま  
だ入っていないことが必要です。

システムのアクション 処理は終了します。  
ン：

ユーザの応答： エラーを修正してください。その後、要求をもう一度実行します。

PWX-10514	<b>アプリケーション&lt;application_name&gt;が見つかりませんでした。</b>
説明:	アプリケーションがリスタートキューで見つかりませんでした。
システムのアクション:	処理は終了します。
ユーザの応答:	エラーを修正してください。その後、要求をもう一度実行します。
PWX-10515	<b>option_description オプションにより、エラーを無視しました。</b>
説明:	前のエラーが無視されました。
システムのアクション:	処理は継続します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-10516	<b>エラーを致命的なエラーとして扱いました</b>
説明:	前のエラーが、致命的なエラーとして扱われました。
システムのアクション:	処理は終了します。
ユーザの応答:	エラーを修正してください。その後、要求をもう一度実行します。
PWX-10517	<b>コマンド command_name が完了しました。</b>
説明:	コマンドの処理がエラーなしで完了しました。
システムのアクション:	処理は継続します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-10518	<b>保留中の変更内容は保存されませんでした</b>
説明:	前のコマンドはリスタートキューの状態を変更しましたが、変更内容が保存されませんでした。
システムのアクション:	処理は終了します。
ユーザの応答:	APPLSAVE コマンドを追加して修正し、再実行してください。
PWX-10519	<b>エントリ (source_name,target_name,target_type) はアプリケーション application_name に存在しません</b>
説明:	エントリがアプリケーションで定義されていません。
システムのアクション:	処理は終了します。
ユーザの応答:	エラーを修正してください。その後、要求をもう一度実行します。
PWX-10520	<b>アプリケーション&lt;application_name&gt;が実行中はコマンドを処理できません。</b>
説明:	アプリケーションの実行中、コマンドは許可されていません。



システムのアクション 処理は終了します。  
ン：

ユーザの応答： アプリケーションが実際に実行中でない場合には、APPLCLR コマンドを使用して実行中の表示を消去して、コマンドを再発行します。  
アプリケーションが実際に実行中の場合には、アプリケーションを停止して、コマンドを再発行します。それ以外の場合は、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-10521 *parameter\_name* パラメータには、*parameter\_name* パラメータが必要です。

説明： あるパラメータでは、2 番目のパラメータを指定する必要があります。

システムのアクション 処理は終了します。  
ン：

ユーザの応答： エラーを修正してください。その後、要求をもう一度実行します。

PWX-10522 **メモリ割り当てに失敗しました。**

説明： メモリ割り当てに失敗しました。

システムのアクション 処理は終了します。  
ン：

ユーザの応答： 実行し直します。問題が解決しない場合は、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-10523 CAPI 呼び出し *call\_name* で、エラー *return\_code* (*return\_mnemonic*) が返されました。

説明： 指定された CAPI 呼び出しがエラーを返しました。追加のメッセージは、エラーが返された原因を特定するのに役立ちます。

システムのアクション 処理は終了します。  
ン：

ユーザの応答： エラーを修正してください。その後、要求をもう一度実行します。

PWX-10524 CAPI 呼び出し *call\_name* で、*return\_code* (*return\_mnemonic*) が返されました。

説明： 指定された CAPI 呼び出しが、成功以外の戻りコードを返しました。追加のメッセージは、これが起こった原因を特定するのに役立ちます。

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-10530 **アプリケーション: *application\_name* (*update\_time*) が実行しています**

説明： PRINT コマンドからの出力です。

システムのアクション 処理は継続します。  
ン：

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-10531	RunId: <i>running_id</i>
説明:	PRINT コマンドからの出力です。
システムのアクション:	処理は継続します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-10535	<b>リスタート: リスタートトークンの最初の部分または全部</b>
説明:	PRINT コマンドからの出力です。
システムのアクション:	処理は継続します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-10536	<b>シーケンス: シーケンストークンの最初の部分または全部</b>
説明:	PRINT コマンドからの出力です。
システムのアクション:	処理は継続します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-10537	<b>リスタートまたはシーケンストークンの続き</b>
説明:	PRINT コマンドからの出力です。
システムのアクション:	処理は継続します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-10540	<b>エントリ: S=source T=target TT=target_type</b>
説明:	PRINT コマンドからの出力です。
システムのアクション:	処理は継続します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-10572	<b>MQR アプリケーション&lt;application_name&gt;はアクティブです。</b>
説明:	アプリケーションはすでにアクティブです。
システムのアクション:	処理は終了します。
ユーザの応答:	複数のプロセスが同じアプリケーション名とキューを使用しているかどうか判定します。使用していない場合には、ジョブが異常終了してこの状況になった可能性があります。その場合には、APPCLEAR コマンドを使用して実行 ID を消去します。それ以外の場合は、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-10573      **MQR 実行 ID が一致しません。予期した ID<run\_id>、実際の ID<run\_id>**

説明：              キューレコードの実行 ID が、予期した実行 ID と一致しません。最も可能性が高いエラーの原因としては、複数のプロセスが同じアプリケーション名を同時に使用していることが考えられます。

システムのアクション：      処理は終了します。

ユーザの応答：      複数のプロセスが同じアプリケーション名とキューを使用しているかどうか判定します。使用しておらず、最初の実行 ID が空の文字列の場合は、APPCLEAR コマンドを使用して実行 ID を消去します。それ以外の場合は、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-10574      **MQR 更新時刻が一致しません。予想した時刻 <run\_id>,actual<run\_id>**

説明：              キューレコードの更新時刻が、予期した更新時刻と一致しません。最も可能性が高いエラーの原因としては、複数のプロセスが同じアプリケーション名を同時に使用していることが考えられます。

システムのアクション：      処理は終了します。

ユーザの応答：      複数のプロセスが同じアプリケーション名とキューを使用しているかどうか判定します。使用していない場合は、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-10575      **MQR API レベルが一致しません。呼び出し元 = API\_level\_number、実装 = API\_level\_number**

説明：              MQ リスタート API の呼び出し元が、実装と同じ API レベルでコンパイルされていません。

システムのアクション：      処理は終了します。

ユーザの応答：      Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-10576      **MQR キューエラーが<call\_type>呼び出しで発生しました。戻りコード=return\_code1/return\_code2/return\_code3**

説明：              MQ リスタート API が、リスタートキューへのアクセス中にエラーを検出しました。

メッセージテキスト内で

- *call\_type* は、エラーが検出された呼び出しの種類です。
- *return\_code1*、*return\_code2*、および *return\_code3* は、エラー用の PowerExchange 戻りコードです。

システムのアクション：      処理は終了します。

ユーザの応答：      エラーを修正してください。その後、要求をもう一度実行します。

PWX-10577	<b>MQR レコードコンテンツエラー&lt;error_description&gt;</b>
説明:	キューリストートレコードのコンテンツを解析中にエラーが発生しました。
システムのアクション:	処理は終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-10578	<b>エントリソース=&lt;source_name&gt; ターゲット=&lt;target_name&gt; 型=&lt;target_type&gt;</b>
説明:	レコードコンテンツエラーに関するメッセージです。エラーに関連する E レコードを示します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-10579	<b>エントリリスタート識別子=&lt;restart_ID&gt;</b>
説明:	レコードコンテンツエラーに関するメッセージです。エラーに関連する R レコードを示します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-10595	<b>MQR 実行状態が元に戻りました。以前は&lt;old_run_ID&gt;</b>
説明:	アプリケーションが実行中のように見えますが、十分な時間が経過しているので、アプリケーションは終了したとみなされています。アプリケーションのこのインスタンスが処理を引き継いでいます。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-10598	<i>optional_description hex_digits</i>
説明:	トークンエラーに関するメッセージです。トークンの値を表示します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-10599	<b>アプリケーション&lt;application&gt;が存在しません。追加します。</b>
説明:	存在しないアプリケーションを変更しようとしています。
システムのアクション:	アプリケーションが追加されます。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。

PWX-10600	<b>フィールドアプリケーションのアクション</b>
説明:	不正なアプリケーションアクションが入力されました。有効な値は以下のとおりです。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ADD</li> <li>• MOD</li> <li>• END</li> <li>• PRINT</li> <li>• SEQUENCE</li> <li>• RESTART</li> <li>• UID</li> <li>• EPWD</li> </ul>
システムのアクション:	処理は終了します。
ユーザの応答:	ユーティリティ入力の有効な構文を使用してください。
PWX-10601	<b>フィールドアプリケーション</b>
説明:	このフィールドは"APPL"または"appl"でなければなりません。
システムのアクション:	処理は終了します。
ユーザの応答:	ユーティリティ入力の有効な構文を使用してください。
PWX-10602	<b>フィールドアプリケーション <i>rsttkn</i></b>
説明:	このフィールドは"RSTTKN"でなければなりません。
システムのアクション:	処理は終了します。
ユーザの応答:	ユーティリティ入力の有効な構文を使用してください。
PWX-10603	<b>フィールドアプリケーション登録</b>
説明:	このフィールドは登録名でなければなりません。
システムのアクション:	処理は終了します。
ユーザの応答:	ユーティリティ入力の有効な構文を使用してください。
PWX-10604	<b>フィールドアプリケーション名</b>
説明:	このフィールドはアプリケーション名でなければなりません。
システムのアクション:	処理は終了します。
ユーザの応答:	ユーティリティ入力の有効な構文を使用してください。
PWX-10605	<b>フィールドアプリケーション生成</b>
説明:	このフィールドは"GENERATE"でなければなりません。

システムのアクション 処理は終了します。

ン：

ユーザの応答： ユーティリティ入力の有効な構文を使用してください。

#### PWX-10607 **フィールドアプリケーション事前構成**

説明： このフィールドは"PRECONFIG"でなければなりません。

システムのアクション 処理は終了します。

ン：

ユーザの応答： ユーティリティ入力の有効な構文を使用してください。

#### PWX-10608 **解析エラー: <information>**

説明： ユーティリティの入力エラーです。

システムのアクション 処理は終了します。

ン：

ユーザの応答： ユーティリティ入力の有効な構文を使用してください。

#### PWX-10609 **フィールドアプリケーションインスタンス**

説明： このフィールドはインスタンス名でなければなりません。

システムのアクション 処理は終了します。

ン：

ユーザの応答： ユーティリティ入力の有効な構文を使用してください。

#### PWX-10610 **バッファオーバーフローエラー**

説明： 生成されたテキストが内部最大長を超えています。

システムのアクション 処理は終了します。

ン：

ユーザの応答： Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

#### PWX-10611 **登録<registration\_name>がアプリケーション<applname>で見つかりませんでした。**

説明： アプリケーションに存在しない登録を変更しようとしています。

システムのアクション 処理は終了します。

ン：

ユーザの応答： MOD の代わりに ADD を使用してください。

#### PWX-10612 **タグ<tag\_name>、登録<registration\_name>のいくつかの登録を変更できません**

説明： 他のアプリケーションで使用されているタグを持つ登録を変更しようとしています。

システムのアクション 登録は変更されません。

ン：

ユーザの応答： MODALLSAMETAG オプションを使用してください。

PWX-10613	<b>アプリケーション&lt;application&gt;が存在しません。 MOD&lt;registration&gt;を実行できません。ADD RSTTKN を使用</b>
説明:	存在しないアプリケーションの登録を変更しようとしています。
システムのアクション:	処理は終了します。
ユーザの応答:	ADD RSTTKN を使用
PWX-10614	<b>登録バージョンが異なっています。CDEP の登録&lt;version&gt; は、&lt;version&gt;（アプリケーション&lt;application&gt;内）に変更 されます。</b>
説明:	CDEP に格納されている登録のバージョンが異なります。バージョン が変更されます。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-10615	<b>パラメータサイズエラー。長さ=lengthが上限 nnn を超えて います</b>
説明:	パラメータが長すぎます。
システムのアクション:	処理は終了します。
ユーザの応答:	パラメータを確認します。
PWX-10616	<b>暗号化パスワード</b>
説明:	一部のユーティリティではパスワードが必要です。
システムのアクション:	処理は終了します。
ユーザの応答:	パスワードを指定してください。
PWX-10617	<b>パラメータファイルを開いているときにエラーが発生しまし た。戻りコード 1=&lt;return_code1&gt; 戻りコード 2=&lt;return_code2&gt; 戻りコード 3=&lt;return_code3&gt; ファイル名 =&lt;file_name&gt;</b>
説明:	指定されたファイルを開こうとする際にエラーが発生しました。  メッセージテキスト内で <ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>return_code1</i>、<i>return_code2</i>、および <i>return_code3</i> は、エラ ー用の PowerExchange 戻りコードです。</li> <li>• <i>file_name</i> は、開くことのできなかったファイルの名前です。</li> </ul>
システムのアクション:	処理は終了します。
ユーザの応答:	問題を診断するには、戻りコードを確認します。

PWX-10618	<b>パラメータファイルを読み込んでいるときにエラーが発生しました。戻りコード 1=&lt;return_code1&gt;戻りコード 2=&lt;return_code2&gt;戻りコード 3=&lt;return_code3&gt;ファイル名=&lt;file_name&gt;</b>
説明:	ファイル名を読み込み時にエラーが発生しました。 メッセージテキスト内で <ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>return_code1</i>、<i>return_code2</i>、および <i>return_code3</i> は、エラー用の PowerExchange 戻りコードです。</li> <li>• <i>file_name</i> は、開くことのできなかったファイルの名前です。</li> </ul>
システムのアクション:	処理は終了します。
ユーザの応答:	問題を診断するには、戻りコードを確認します。
PWX-10619	<b>登録=&lt;registration_name&gt; タグ=&lt;registration_tag&gt;が MODALLSAMETAG のために変更されました。</b>
説明:	MODALLSAMETAG により、複数の登録が変更されました。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-10620	<b>アンロードファイル名が必要です。</b>
説明:	アンロードファイルを読み取ろうとして、ファイル名が指定されませんでした。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	アンロードファイルを指定してください。
PWX-10621	<b>DTLUCBRG エラー: パラメータ <i>parameter</i>がありません。</b>
説明:	必須パラメータが入力ソースにありません。
システムのアクション:	DTLUCBRG 処理が終了します。
ユーザの応答:	不足していたパラメータ値を指定し、要求をもう一度実行します。
PWX-10622	<b>DTLTUTSK エラー: "パスワードと暗号化パスワードが競合しています。1 つだけ指定してください。"</b>
説明:	DTLTUTSK に 2 つの競合するパラメータが指定されています。
システムのアクション:	DTLTUTSK は終了します。
ユーザの応答:	競合するパラメータのどちらか 1 つだけ指定してください。
PWX-10623	<b>不正なアクション: "<i>action</i>". 有効な値は以下のとおりです。LISTTASK/STOPTASK/LISTLOCATIONS</b>
説明:	無効なアクションが要求されました。有効なアクションは、LISTTASK、STOPTASK、LISTLOCATIONS のみです。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	



ユーザの応答： LISTASK、STOPTASK、LISTLOCATIONS のいずれかを指定してください。

PWX-10624 DTLUTSK **ヘルプ**: *CMD=LISTTASK/STOPTASK LOC=location  
UID=uid PWD=pwd/EPWD=encryptpwd*)

説明： DTLUTSK から構文ヘルプが要求されました。

システムのアクション： DTLUTSK ユーティリティは構文ヘルプを表示します。

ユーザの応答： 表示されたヘルプに従って、DTLUTSK にパラメータを指定してください。

PWX-10625 DTLUCBRG: **テーブルマスク<qual1.qual2>には、3つの修飾子  
がなければなりません。**

説明： 2つの修飾子だけを指定してテーブルを登録しようとした。

システムのアクション： DTLUCBRG 処理が終了します。

ユーザの応答： 3つの修飾子を使用してテーブルマスクを指定してください。

PWX-10626 DTLUCBRG: **テーブルマスク<mask>には、少なくとも<n>文字  
なければなりません。**

説明： 短いテーブルマスクを指定してテーブルを登録しようとした。

システムのアクション： DTLUCBRG 処理が終了します。

ユーザの応答： もっと長いテーブルマスクを指定してください。

PWX-10627 DTLUCBRG: **リスナを使用する必要があります。**

説明： 場所 LOCAL でテーブルを登録しようとした。PowerExchange Listener が必要です。

システムのアクション： DTLUCBRG 処理が終了します。

ユーザの応答： LOCAL 以外の場所を指定してください。

PWX-10628 DTLUCBRG: **ワードと暗号化パスワードが競合しています。  
1つだけ指定してください。**

説明： パスワードと暗号化パスワードの両方を指定してテーブルを登録しようとした。

システムのアクション： DTLUCBRG 処理が終了します。

ユーザの応答： 競合するパラメータのどちらか1つだけ指定してください。

PWX-10629 DTLUCBRG: **データベースの種類が許可されません  
=<database\_type>。**

説明： サポートされていないデータベースの種類のテーブルを登録しようとした。

システムのアクション DTLUCBRG 処理が終了します。  
 ユーザの応答： 有効なデータベースの種類を指定してください。

PWX-10630 DTLUCBRG:CONDTYPE<*condense\_option*>が不正です。有効な値は以下のとおりです。PART、FULL、または NONE です。

説明： CONDTYPE パラメータ値が有効ではなかったため、DTLUCBRG ユーティリティを使用してテーブルを登録する試みが失敗しました。

システムのアクション DTLUCBRG 処理が終了します。  
 ユーザの応答： CONDTYPE パラメータには、有効な圧縮オプションを以下から 1 つ 指定します。PART、FULL、または NONE。

PWX-10631 DTLUCBRG:インスタンス<*instance\_name*>が<1>文字を超えています。

説明： 長すぎるインスタンス名でテーブルを登録しようとした。

システムのアクション DTLUCBRG 処理が終了します。  
 ユーザの応答： もっと短いインスタンス名を使用してください。

PWX-10632 DTLUCBRG:ステータス<*status*>が無効です。有効な値は'A'または'I'です。

説明： 無効なステータスでテーブルを登録しようとした。

システムのアクション DTLUCBRG 処理が終了します。  
 ユーザの応答： A (ACTIVE) または I (INACTIVE) を使用してください。

PWX-10633 DTLUCBRG: ステータスが必要です。有効な値は'A'または'I'です。

説明： ステータスのないテーブルを登録しようとした。

システムのアクション DTLUCBRG 処理が終了します。  
 ユーザの応答： A (ACTIVE) または I (INACTIVE) を使用してください。

PWX-10634 DTLUCBRG: *table* の抽出マップの作成中にエラーが発生しました。

説明： 指定されたテーブルの抽出マップを作成するときに、DTLUCBRG ユーティリティでエラーが発生しました。

システムのアクション DTLUCBRG 処理が終了します。  
 ユーザの応答： エラーを診断するには、メッセージログで関連するメッセージを検索してください。サポートが必要な場合は、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-10635 DTLUCBRG:**マスク<qualifier1.qualifier2>で登録するテーブルがありません。**

説明： そのタスクで登録するテーブルがありません。

システムのアクション： DTLUCBRG 処理が終了します。

ユーザの応答： 別のマスクを使用します。

PWX-10636 DTLUCBRG:DBD DSN 名 (x文字) が y文字で長すぎます。

説明： 長すぎる DBD データセット名で IMS テーブルを登録しようとした。

システムのアクション： DTLUCBRG 処理が終了します。

ユーザの応答： DBD データセット名を修正してください。

PWX-10637 DTLUCBRG:**登録の種類<registration\_type>が無効です。有効な値は Synchronous/LogBased です。**

説明： 無効な登録の種類でテーブルを登録しようとした。

システムのアクション： DTLUCBRG 処理が終了します。

ユーザの応答： Synchronous または LogBased を使用してください。

PWX-10638 DTLUCBRG:**キャプチャ登録=<registration\_name>をメモリ内に作成できませんでした。**

説明： 登録の作成が試みられました。

システムのアクション： DTLUCBRG 処理が終了します。

ユーザの応答： 関連するエラーメッセージを確認し、実行が失敗した原因を特定します。自部門で問題を解決できなかった場合は、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。そのとき、ユーザー名と発行されたエラーコードをお知らせください。

PWX-10639 DTLUCBRG:**テーブル<qualifier1.qualifier2>がすでに reg=<registration\_name>に登録されています。**

説明： すでに登録されているテーブルを登録しようとした。

システムのアクション： DTLUCBRG 処理が終了します。

ユーザの応答： テーブルはすでに登録されています。

PWX-10640 DTLUCBRG:**列<column\_name>を登録=<registration\_name>でメモリ内に作成できませんでした。**

説明： 登録用のカラムを作成しようとした。

システムのアクション： DTLUCBRG 処理が終了します。

ン：

ユーザの応答： 関連するエラーメッセージを確認し、実行が失敗した原因を特定します。自部門で問題を解決できなかった場合は、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。そのとき、ユーザー名と発行されたエラーコードをお知らせください。

PWX-10641 DTLUCBRG:登録<registration\_name>のロードがエラーです。

説明： 登録をロードしようとした。

システムのアクション： DTLUCBRG 処理が終了します。

ユーザの応答： 関連するエラーメッセージを確認し、実行が失敗した原因を特定します。自部門で問題を解決できなかった場合は、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。そのとき、ユーザー名と発行されたエラーコードをお知らせください。

PWX-10642 DTLUCBRG:登録<registration\_prefix.registration\_sequence>がすでに存在します。

説明： すでに存在する登録の作成が試みられました。

システムのアクション： DTLUCBRG 処理が終了します。

ユーザの応答： 関連するエラーメッセージを確認し、実行が失敗した原因を特定します。自部門で問題を解決できなかった場合は、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。そのとき、ユーザー名と発行されたエラーコードをお知らせください。

PWX-10643 DTLUCBRG:パラメータ<parameter>形式エラー<error\_description>。

説明： 説明のように、指定されたパラメータに形式エラーがあります。

システムのアクション： DTLUCBRG 処理が終了します。

ユーザの応答： 関連するエラーメッセージを確認し、実行が失敗した原因を特定します。自部門で問題を解決できなかった場合は、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。そのとき、ユーザー名と発行されたエラーコードをお知らせください。

PWX-10644 DTLUCBRG: パラメータが一致しません。理由<description>。

説明： 説明のように、指定されたパラメータにフォーマットエラーがあります。

システムのアクション： DTLUCBRG 処理が終了します。

ユーザの応答： 関連するエラーメッセージを確認し、実行が失敗した原因を特定します。自部門で問題を解決できなかった場合は、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。そのとき、ユーザー名と発行されたエラーコードをお知らせください。

PWX-10645 DTLUCBRG：ファイル IO エラー。理由<説明>。

説明： 説明のように、ファイルで入出力エラーが発生しました。

システムのアクション DTLUCBRG 処理が終了します。  
ン：

ユーザの応答： 関連するエラーメッセージを確認し、実行が失敗した原因を特定します。自部門で問題を解決できなかった場合は、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。そのとき、ユーザー名と発行されたエラーコードをお知らせください。

PWX-10646 DTLUCBRG: **警告<説明>。  
警告: メッセージ。エラーの可能性のある異常な状況です。**

システムのアクション DTLUCBRG 処理は継続されます。  
ン：

ユーザの応答： ユーザー自身の予測に基づいてメッセージを解釈します。

PWX-10647 DTLUCBRG: **マスク<修飾子 1.修飾子 2>ですすでに登録されているテーブルはありません。**

説明： そのタスクで登録するテーブルがありません。

システムのアクション DTLUCBRG 処理が終了します。  
ン：

ユーザの応答： 別のマスクを使用します。

PWX-10648 DTLUCBRG: **場所<location>は、パラメータ<parameter\_name>でサポートされていません。**

説明： 入力した場所が DTLUCBRG でサポートされていません。

システムのアクション DTLUCBRG 処理が終了します。  
ン：

ユーザの応答： 別の場所を使用します。DTLUCBRG は、PowerExchange Listener の制御下で実行する必要があります。

PWX-10649 DTLUCBRG: **DB2 型は非 EBCDIC プラットフォームには使用できません。UDB 型を使用します。**

説明： DB2 型は、EBCDIC 以外のプラットフォームではサポートされていません。

システムのアクション DTLUCBRG 処理が終了します。  
ン：

ユーザの応答： UDB を使用します

PWX-10650 DTLUCBRG: **UDB 型は EBCDIC プラットフォームには使用できません。DB2 型を使用します。**

説明： UDB 型は、EBCDIC プラットフォームではサポートされていません。

システムのアクション DTLUCBRG 処理が終了します。  
ン：

ユーザの応答： DB2 を使用します

PWX-10651	DTLUCBRG:CRGPREFIX <prefix>の登録名に無効な文字が含まれています。
説明:	プレフィックスには、「a」～「z」および「0」～「9」の文字のみを使用できます。ただし、「0」～「9」を先頭の文字にすることはできません。
システムのアクション:	DTLUCBRG 処理が終了します。
ユーザの応答:	プレフィックスを修正し、要求をもう一度実行します。
PWX-10652	DTLURDMO:テーブル<schema.table_name>に無効な文字が含まれています。登録にはプレフィックスが必要です。
説明:	データベースで許可される場合でも、DTLURDMO ではテーブル名の最初の文字を数字にすることはできません。
システムのアクション:	DTLURDMO は、テーブルを無視して処理を続行します。
ユーザの応答:	テーブル名の最初の文字に英字を指定し、もう一度要求します。
PWX-10653	DTLUCBRG: MSSQL 登録はこのプラットフォームからは作成できません。
説明:	MSSQL 登録は、MSSQL パブリケーションから得られる情報に大きく依存しています。その情報は、PC インストールのみで得られます。
システムのアクション:	DTLUCBRG 処理が終了します。
ユーザの応答:	有効な PC から DTLUCBRG ユーティリティを実行します。
PWX-10654	DTLUCBRG:テーブル<schema.table_name>には完全要約が許可されていません。テーブルには一意のキーが指定されていません。
説明:	一意のキーが指定されていないテーブルを完全要約用に登録しようとしました。完全要約には、一意のキーの指定が前提条件となります。
システムのアクション:	DTLUCBRG では、変更データキャプチャ用にテーブルを登録せず、次に使用可能なテーブルの処理に進みます。
ユーザの応答:	テーブルに一意のキーを指定して要求を再び実行するか、または要約の種類を「部分」または「なし」に変更します。
PWX-10655	パラメータ NOTIFYCHANGES が正しくありません。値 notify_changes は Y または N でなければなりません。
説明:	NOTIFYCHANGES パラメータの有効な値は Y と N です。
システムのアクション:	DTLUCBRG 処理が終了します。
ユーザの応答:	NOTIFYCHANGES パラメータに値 Y または N を指定し、コマンドをもう一度実行します。

PWX-10656	<b>パラメータが一致しません。 <i>database_type</i> の場合、NOTIFYCHANGES に値 <i>notify_changes</i> は無効です。</b>
説明:	NOTIFYCHANGES パラメータがサポートされるのは DB2 と Oracle だけです。
システムのアクション:	DTLUCBRG 処理が終了します。
ユーザの応答:	コマンドファイルから NOTIFYCHANGES パラメータを削除し、コマンドを再実行します。
PWX-10657	<b>DTLUCBRG:テーブル <i>schema.table_name</i> には完全圧縮が許可されていません。テーブルのキー長の合計は <i>table_key_length</i> で、最大のキー長は <i>max_key_length</i> です。</b>
説明:	DTLUCBRG ユーティリティが z/OS で指定されたテーブルのキャプチャ登録を作成しようとしたときに、エラーが発生しました。CONDTYPE パラメータが FULL に設定されているときに、テーブル内のすべてのキーカラムの長さの合計がこれらのカラムの最大長を超えました。z/OS では、これらのカラムの最大長は 250 バイトです。
システムのアクション:	DTLUCBRG は、変更データキャプチャ用のテーブルを登録しません。DTLUCBRG は、使用できる次のテーブルについて処理を続けます。
ユーザの応答:	テーブルに小さな一意のキーを指定して要求を再び実行するか、または CONDTYPE 設定を [部分] または [なし] に変更してください。
PWX-10658	<b>DTLUCBRG:CRGNAME <i>registration_name</i> に登録名として無効な文字が含まれています。</b>
説明:	DTLUCBRG ユーティリティの CRGNAME パラメータには英数字のみを含めることができます。また、先頭に数字を使用することはできません。
システムのアクション:	DTLUCBRG 処理が異常終了します。
ユーザの応答:	CRGNAME 値を修正し、ユーティリティを再度実行してください。
PWX-10659	<b>テーブル "<i>table_name</i>" 内にカラムが見つかりませんでした。</b>
説明:	DTLUCBRG ユーティリティを使用してテーブルの登録が試みられましたが、テーブルのカラムが取得されませんでした。
システムのアクション:	TESTRUN=Y の場合、DTLUCBRG は指定されたテーブルを登録せず、使用できる次のテーブルについて処理を続けます。TESTRUN=Y ではない場合、処理が停止します。

ユーザの応答：	メタデータのクライアントコードページを使用した DTLUCBRG が実行されます。このユーティリティは、i5/OS では IBM037、z/OS では IBM1047 を使用し、Linux、UNIX、または Windows では UTF8 を使用します。データベースが使用するコードページに別の値が存在する文字を含んだテーブル名を処理する場合には、DTLUCBRG をローカルに実行できない可能性があります。
	必要な SQL コードページを使用する LOCATION パラメータを PowerExchange Listener に設定します。Linux、UNIX、または Windows マシンでは DTLUCBRG を実行できます。z/OS または i5/OS では、登録と抽出データマップを作成できます。
PWX-10660	<b>DB2 サブシステム"subsystem"で、テーブル名にコードページ"code_page_name" (code_page_number) が使用されま</b> <b>す。</b>
説明：	z/OS でローカルモード処理が実行され、DB2 が CP1047 以外のコードページを必要とすることが DB2CODEPAGE 文に指定されている場合、この名前付きコードページが DB2 テーブル名に使用されます。
システムのアクション：	処理は継続します。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-10661	<b>DTLUCBRG: CRGPREFIX &lt;prefix&gt;は登録プレフィックス長</b> <b>length&gt; limit には長すぎます。</b>
説明：	DTLUCBRG ユーティリティに指定された CRGPREFIX プレフィックス値が長すぎます。CRGPREFIX 値の最大長は 4 文字です。PowerExchange はこのプレフィックスに 4 桁を追加し、キャプチャ登録名を生成します。
システムのアクション：	テストを実行する TESTRUN=Y を指定していない限り、DTLUCBRG は異常終了します。登録は作成されません。
ユーザの応答：	長さが 4 桁以下になるように CRGPREFIX を編集します。その後で DTLUCBRG ユーティリティを再度実行します。
PWX-10662	<b>DTLUCBRG: CRGNAME &lt;name&gt;が登録名長 length&gt; limit には</b> <b>長すぎます。</b>
説明：	DTLUCBRG ユーティリティに指定された CRGNAME パラメータ値が長すぎます。CRGNAME 値の最大長は 13 文字です。PowerExchange ではこの値を登録名として使用します。
システムのアクション：	テストを実行する TESTRUN=Y を指定していない限り、DTLUCBRG は異常終了します。登録は作成されません。
ユーザの応答：	長さが 13 文字以下になるように CRGNAME パラメータ値を編集します。その後で DTLUCBRG ユーティリティを再度実行します。



PWX-10663	A tabela " <i>esquema</i> .A linha da <i>table_name</i> " de tamanho <i>bytes</i> excede o máximo da rede <i>maximum_bytes</i> . A maior coluna " <i>column_name</i> " tem <i>bytes</i> bytes.
説明:	Durante o registro da tabela especificada no Navegador do PowerExchange, o PowerExchange detectou que o tamanho total das linhas, que inclui os tamanhos de todas as colunas na tabela, excede o limite da rede. A mensagem informa o tamanho da maior coluna.
システムのアクション:	O Navegador do PowerExchange não registra a tabela para processamento de captura.
ユーザの応答:	No Navegador do PowerExchange, crie um registro de captura para um subconjunto das colunas, se aceitável. Se a tabela incluir colunas LOB, tente omitir uma ou mais colunas LOB grandes até que o tamanho total das linhas seja menor que o limite da rede.
PWX-10664	<b>テーブル"<i>schema.table_name</i>"は、型 <i>column_type</i> の無効なカラム <i>column_name</i> を含んでいるため、登録には不向きです。</b>
説明:	指定の MySQL テーブルに、このテーブルを登録に不適格なものにするカラムが含まれています。例えば、テーブルのカラムに空間データ型を含むものと、そのテーブルを変更キャプチャに登録することはできません。
システムのアクション:	キャプチャ登録がないと、PowerExchange ではテーブルの変更データをキャプチャできません。
ユーザの応答:	そのテーブルの変更データをキャプチャする必要がある場合は、対応する必要はありません。
PWX-10666	<b>テーブル"<i>schema.table_name</i>"にはプライマリキーがないため、登録には不向きです。</b>
説明:	指定されたテーブルには、プライマリキーがないため、キャプチャ登録を作成するには不適格です。
システムのアクション:	テーブルを変更データキャプチャに登録できません。キャプチャ登録がないと、PowerExchange ではテーブルの変更データをキャプチャできません。
ユーザの応答:	そのテーブルの変更データをキャプチャする必要がある場合は、対応する必要はありません。
PWX-10671	<b>処理された登録"<i>registration_name</i>"テーブル"<i>table_name</i>"</b>
説明:	このメッセージは、DTLUCBRG レポート内に表示されます。
システムのアクション:	処理は継続します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。

PWX-10672	<b>古い登録名"<i>name</i>"古い圧縮タイプ"<i>type</i>"。古いステータス"<i>status</i>"。古いバージョン"<i>version</i>"。</b>
説明:	このメッセージは、既存の登録が更新されていた場合に DTLUCBRG レポート内に示されます。
システムのアクション:	処理は継続します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-10673	<b>ステータスが"<i>status</i>"の既存の登録は変更されません。</b>
説明:	このメッセージは、TESTRUN=Y の場合に DTLUCBRG レポートに表示されます。DTLUCBRG の起動が、既存の登録を変更するために必要な REPLACE および REPLACEACTIVE のオプションを指定した状態で行われませんでした。
システムのアクション:	処理は継続します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-10674	<b>MSS の登録名"<i>registration_name</i>"、テーブル"<i>table_name</i>"、圧縮タイプ"<i>type</i>"が、ステータス"<i>status</i>"に更新されました。</b>
説明:	このメッセージは、DTLUCBRG レポート内に表示されます。
システムのアクション:	処理は継続します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-10675	<b>ステータス更新に指定された基準を満たす MSS 登録がありません。</b>
説明:	このメッセージは DTLUCBRG レポートで使用されます。
システムのアクション:	処理は継続します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-10676	<b>サーバー <i>server_name</i> のデータベース <i>database_name</i> の識別子としてすでに使用されているインスタンス <i>instance_identifier</i>。</b>
説明:	<p>Microsoft SQL Server ソースに対して入力されたユーザー定義のインスタンス識別子が一意ではありません。すでに指定された SQL Server データベースおよびサーバーに使用されています。</p> <p>次のいずれかの場所でインスタンス識別子を入力できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>PowerExchange Navigator の [登録グループの追加] ダイアログボックスの [インスタンス] フィールド。</li> <li>DTLUCBRG ユーティリティの INSTANCE パラメータ。</li> <li>DTLURDMO ユーティリティの REG_COPY 文の NEW_DBID パラメータ。</li> </ul>

システムのアクション 処理は終了します。  
ン：

ユーザの応答： 現在の SQL Server データベースとサーバーの組み合わせ用の一意の識別子を入力するか、インスタンス識別子を指定しないで PowerExchange が一意のインスタンス識別子を生成できるようにします。

PWX-10677 **サーバー *server\_name* のデータベース *database\_name* は、すでにインスタンス *existing\_instance\_identifier* によって識別されています。指定されたインスタンス *new\_instance\_identifier* は使用できません。**

説明： ユーザー定義のインスタンス識別子が、指定された Microsoft SQL Server データベース用に入力されましたが、そのデータベースとサーバーの組み合わせ用のインスタンス識別子はすでに存在しています。同じデータベースとサーバーの組み合わせに対して別のインスタンス識別子を入力できません。

次のいずれかの場所でインスタンス識別子を入力できます。

- PowerExchange Navigator の [登録グループの追加] ダイアログボックスの [インスタンス] フィールド。
- DTLUCBRG ユーティリティの INSTANCE パラメータ。
- DTLURDMO ユーティリティの REG\_COPY 文の NEW\_DBID パラメータ。

システムのアクション 処理は終了します。  
ン：

ユーザの応答： 新しい識別子を削除するか、既存のインスタンス識別子に合うように更新します。

PWX-10678 **テーブル *table\_name* が無効な文字シーケンス *character\_sequence* で始まっています。**

説明： 指定したテーブルのテーブル名は、DTLUCBRG ユーティリティの処理に対して無効な文字シーケンスで始まっています。DTLUCBRG ユーティリティを使用してテーブルのキャプチャ登録を作成することはできません。Oracle テーブルの場合、無効なシーケンスは AQ\$, QT\$, および SYS です。

システムのアクション DTLUCBRG 処理が終了します。  
ン：

ユーザの応答： 無効な文字シーケンスを削除するようにテーブル名を変更します。

PWX-10679 **DTLUCBRG: COLUMNS のキーワード値 *value* は有効ではありません。COLUMNS の有効な値は、FILE、ALL、または PKFK です。**

説明： CREATEBICI パラメータの COLUMNS キーワードに、無効な値があります。このメッセージでは有効な値を特定します。

システムのアクション DTLUCBRG ユーティリティの処理が終了します。  
ン：

ユーザの応答：	COLUMNS キーワードに、有効な値を入力します。それからユーティリティを再度実行します。
PWX-10680	DTLUCBRG: MAXCOLS キーワード値 <i>value</i> は数値ではないため有効ではありません。
説明：	CREATEBICI パラメータの MAXCOLS キーワード値は数値ではないため有効ではありません。有効な値は 10～32000 です。
システムのアクション：	DTLUCBRG ユーティリティの処理が終了します。
ユーザの応答：	MAXCOLS キーワードに、有効な値を指定します。それからユーティリティを再度実行します。
PWX-10681	DTLUCBRG: MAXCOLS キーワード値 <i>maxcols_value</i> は有効な数値の範囲外です。有効な範囲は <i>maxcols_minimum</i> から <i>maxcols_maximum</i> です。
説明：	CREATEBICI パラメータの MAXCOLS キーワード値は有効な数値の範囲内にないため有効ではありません。
システムのアクション：	DTLUCBRG ユーティリティの処理が終了します。
ユーザの応答：	MAXCOLS キーワードで、10 から 32000 の範囲の数値を指定します。それからユーティリティを再度実行します。I
PWX-10682	DTLUCBRG: EXTINFO キーワード値が無効です。有効な値は、BICI、BI、および CI です。
説明：	CREATEBICI パラメータの EXTINFO キーワード値が有効ではありません。有効な値は、BICI、BI、および CI です。
システムのアクション：	DTLUCBRG ユーティリティの処理が終了します。
ユーザの応答：	EXTINFO キーワードに、有効な値を入力します。それからユーティリティを再度実行します。
PWX-10683	DTLUCBRG: COLUMNS={PKFK ALL}も指定されている場合、CREATEBICI パラメータで INPUT_FN キーワードを指定することはできません。
説明：	CREATEBICI パラメータでは、指定の COLUMNS キーワード値で INPUT_FN キーワードを指定することはできません。INPUT_FN キーワードを使用できるのは、COLUMNS キーワードが FILE に設定されている場合のみです。
システムのアクション：	DTLUCBRG ユーティリティの処理が終了します。
ユーザの応答：	入力ファイルを CREATEBICI 処理に使用するなら、COLUMNS の値を FILE に変更します。あるいは、INPUT_FN キーワードを CREATEBICI パラメータから削除します。この修正操作のうちいずれかを完了したら、ユーティリティを再度実行します。

PWX-10684 DTLUCBRG: COLUMNS=FILE も指定されている場合、  
CREATEBICI パラメータで INPUT\_FN キーワードを指定する  
必要があります。

説明： COLUMNS=FILE を CREATEBICI パラメータで指定する場合、  
INPUT\_FN キーワードも指定する必要があります。INPUT\_FN キー  
ワードでは、CREATEBICI 処理の入力ファイルの名前と場所を指定し  
ます。

システムのアクション： DTLUCBRG ユーティリティの処理が終了します。

ユーザの応答： INPUT\_FN キーワードを CREATEBICI パラメータに追加するか、  
COLUMNS キーワードを PKFK または ALL に設定します。この修正  
操作のうちいずれかを完了したら、ユーティリティを再度実行しま  
す。

PWX-10685 DTLUCBRG: CREATEBICI パラメータのキーワード  
keyword\_name に、z/OS では有効でない値 keyword\_value  
が設定されています。有効な値: Y および N。

説明： CREATEBICI パラメータで指定されているキーワードに、DTLUCBRG  
ユーティリティが z/OS で実行されている場合には有効でない値があ  
ります。キーワード値は Y または N のいずれかである必要がありま  
す。Y を指定した場合、ファイル名は、事前に割り当てられているデ  
ータセットを参照する JCL エントリによって決定されます。

システムのアクション： DTLUCBRG ユーティリティの処理が終了します。

ユーザの応答： キーワード値を修正し、ユーティリティを再度実行します。

PWX-10686 *table\_entry* のハッシュテーブルエントリの作成中にエラー  
が発生しました。

説明： 内部処理エラーが発生しました。

システムのアクション： 処理は終了します。

ユーザの応答： Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。  
エラーを報告する際は、関連するユーザー名とエラーコードを記載し  
てください。

PWX-10687 *table\_entry* のハッシュテーブルエントリの挿入中にエラー  
が発生しました。戻りコード=return\_code。

説明： 内部処理エラーが発生しました。

システムのアクション： 処理は終了します。

ユーザの応答： Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。  
エラーを報告する際は、関連するユーザー名とエラーコードを記載し  
てください。

PWX-10688	<b>DTLUCBRG: CREATEBICI 処理で、INPUT_FN ファイルに重複した値 <i>input_value</i> が見つかりました。</b>
説明:	DTLUCBRG ユーティリティで、CREATEBICI 処理の INPUT_FN キーワードに指定されている入力ファイルに、重複したエントリが見つかりました。
システムのアクション:	DTLUCBRG ユーティリティの処理は続行します。ユーティリティでは重複したエントリを無視します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。警告が再度発生するのを回避するには、重複したエントリが INPUT_FN ファイルに指定されていないようにします。
PWX-10689	<b>クリーンアップ処理中、ハッシュテーブルエントリの取得を初期化するときにエラーが発生しました。</b>
説明:	内部処理エラーが発生しました。
システムのアクション:	処理は終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。エラーを報告する際は、関連するユーザー名とエラーコードを記載してください。
PWX-10690	<b>クリーンアップ中、ハッシュテーブルを破棄するときにエラーが発生しました。</b>
説明:	内部処理エラーが発生しました。
システムのアクション:	処理は終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。エラーを報告する際は、関連するユーザー名とエラーコードを記載してください。
PWX-10691	<b>クリーンアップ中、ハッシュテーブルからエントリを取得するときにエラーが発生しました。</b>
説明:	内部処理エラーが発生しました。
システムのアクション:	処理は終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。エラーを報告する際は、関連するユーザー名とエラーコードを記載してください。
PWX-10692	<b>クリーンアップ中、ハッシュテーブルからエントリを削除するときにエラーが発生しました。</b>
説明:	内部処理エラーが発生しました。
システムのアクション:	処理は終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。エラーを報告する際は、関連するユーザー名とエラーコードを記載してください。

PWX-10693	DTLUCBRG: INPUT_FN 入力ファイルのエントリ <i>entry</i> は CREATEBICI 処理中に使用されませんでした。
説明:	DTLUCBRG ユーティリティで、CREATEBICI パラメータの INPUT_FN キーワードに指定されている入力ファイルに、使用されていないエントリが見つかりました。そのエントリは無視されます。
システムのアクション:	DTLUCBRG ユーティリティの処理は続行します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。警告が再度発生するのを回避するには、入力ファイルに CREATEBICI 処理に必要なエントリのみが含まれるようにします。
PWX-10694	DTLUCBRG: 抽出マップのカラム <i>column_name</i> に BI カラムを生成できません。このカラムは、BI 処理に適していません。
説明:	DTLUCBRG ユーティリティは、指定のソースカラムに対する抽出マップに操作前の画像 (BI) カラムを生成できませんでした。
システムのアクション:	DTLUCBRG ユーティリティの処理は続行します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-10695	<i>qualified_tablename</i> は NRDB2 には無効です。マップ名 <i>mapname</i> がアンダースコアで区切られている場合、テーブル名 <i>tablename</i> にピリオドを含めることはできません。
説明:	DTLUCBRG ユーティリティコマンドでは、TABLE パラメータ値の形式が NRDB2 非リレーショナルソースタイプに対して無効です。アンダースコア ( _ ) が存在する場合、その後にピリオド ( . ) を続けることはできません。アンダースコアはマップ名とテーブル名を区切り、NRDB テーブル名にピリオドは使用できません。
システムのアクション:	DTLUCBRG ユーティリティの処理が終了します。
ユーザの応答:	ピリオドを削除して、TABLE パラメータを有効な 2 層の NRDB2 形式にしてください。以下に例を示します。  SCHEMA.MAPNAME_TABLENAME  マスクを作成するには、たとえばパラメータ値の任意の部分でアスタリスク ( * ) ワイルドカードを使用できます。  S*.M*_T*
PWX-10700	CAPI:エラー: <i>attribute_name</i> がありません
説明:	UOW cleanser の CAPI_CONNECTION 情報に、必要な属性が含まれていません。
システムのアクション:	接続は開きません。
ユーザの応答:	CAPI_CONNECTION 情報を修正します。

PWX-10701	CAPI: <b>警告:</b> <i>attribute_name</i> は無視されます
説明:	UOW cleanser の CAPI_CONNECTION 情報に、このプラットフォームで使用できない属性が含まれていました。属性は無視されました。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。属性は CAPI 情報から削除してもかまいません。
PWX-10702	CAPI: <b>INFO:</b> <b>下位</b> <i>function_name</i> <b>戻り値</b> <i>return_code</i>
説明:	UOW Cleanser は下位 CAPI 呼び出しから、表示の戻りコードを受信しました。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-10703	CAPI: <b>警告:</b> <b>下位</b> <i>function_name</i> <b>戻り値</b> <i>return_code</i> <b>理由</b> <i>reason_code</i>
説明:	UOW cleanser は下位 CAPI 呼び出しから、表示の戻りコードと理由コードを受信しました。
システムのアクション:	警告が呼び出し側のソフトウェアに返されます。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-10704	CAPI: <b>エラー:</b> <b>下位</b> <i>function_name</i> <b>戻り値</b> <i>return_code</i>
説明:	UOW Cleanser は下位 CAPI 呼び出しから、表示の戻りコードを受信しました。
システムのアクション:	システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-10705	CAPI: <b>エラー:</b> <b>内部エラー</b> <説明>
説明:	UOW cleanser が内部エラーを検出しました。
システムのアクション:	システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-10706	CAPI: <b>エラー:</b> <b>下位</b> CAPI が <b>不明なレコード型</b> ( <i>record_type</i> ) を返しました
説明:	UOW Cleanser が不明なレコード型を検出しました。
システムのアクション:	システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-10707	CAPI: <b>エラー:</b> <b>必要なデータ (説明) がありません</b>
説明:	UOW cleanser は下位 CAPI からレコードを受け取りましたが、一部の必要なデータがありませんでした。
システムのアクション:	システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。



ユーザの応答： Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-10709 CAPI:**エラー:"descriptive\_text"のデータが無効です**

説明： UOW Cleanser は下位 CAPI からレコードを受け取りましたが、無効なデータが入っていました。

システムのアクション： システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。

ユーザの応答： Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-10710 CAPI:**エラー:QSTD 呼び出し"function call"戻り return\_code ("return\_code\_mnemonic")**

説明： スピルデータセットへのアクセス中に、UOW Cleanser がエラーを検出しました。

システムのアクション： システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。

ユーザの応答： Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-10711 CAPI:**エラー:シーケンスが無効です(偶数のバイト数でなければなりません(長さ=length))**

説明： UOW Cleanser は、奇数バイトで構成されたリスタートシーケンス番号を受け取りました。

システムのアクション： システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。

ユーザの応答： 無効なリスタートシーケンス番号のソースを修正します。

PWX-10712 CAPI:**ソースリストインデックス number**

説明： UOW Cleanser が、インデックス番号に対応するソースでエラーを検出しました。

システムのアクション： システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。

ユーザの応答： Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-10713 CAPI:**エラー:発行(説明)**

説明： レコード値を発行しようとしたときに、UOW Cleanser がエラーを検出しました。

システムのアクション： システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。

ユーザの応答： Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-10714 CAPI:**エラー:コールバック function\_name の呼び出し(戻りコード=return\_code)**

説明： 指定されたコールバック関数の呼び出し中に、UOW Cleanser がエラーを検出しました。

システムのアクション： システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。

ユーザの応答：	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-10715	<b>CAPI：ERROR：下位 CAPI が、不適切な拡張データを返しました</b>
説明：	UOW Cleanser が、下位 CAPI から不適切な拡張データを受け取りました。
システムのアクション：	システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。
ユーザの応答：	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-10716	<b>CAPI:エラー:操作バックアウトエラー (“<i>descriptive_text</i>”)</b>
説明：	バックアウト操作の処理中に、UOW Cleanser がエラーを検出しました。
システムのアクション：	システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。
ユーザの応答：	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-10717	<b>CAPI：ERROR：下位 CAPI IMS 拡張情報が競合しています</b>
説明：	UOW Cleanser が、下位 CAPI によって提供された拡張情報オブションでエラーを検出しました。
システムのアクション：	システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。
ユーザの応答：	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-10718	<b>CAPI：ERROR：IMS 高速パスカスケード削除が UOW の終わりで実行中です</b>
説明：	IMS 高速パスカスケード削除の処理中に、UOW Cleanser がエラーを検出しました。
システムのアクション：	システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。
ユーザの応答：	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-10719	<b>CAPI:エラー:IMS 高速パスカスケード削除が無効なレベル (<i>number</i>) です</b>
説明：	IMS 高速パスカスケード削除の処理中に、UOW Cleanser がエラーを検出しました。
システムのアクション：	システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。
ユーザの応答：	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-10720	<b>CAPI:エラー:IMS 高速パスカスケード削除のベースキーエラー (<i>number</i>)</b>
説明：	IMS 高速パスカスケード削除の処理中に、UOW Cleanser がエラーを検出しました。

システムのアクション: システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。  
 ユーザの応答: Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-10721      **CAPI:エラー:IMS 高速パスカスケード削除のレベルの順序が違っています (number)**

説明:            IMS 高速パスカスケード削除の処理中に、UOW Cleanser がエラーを検出しました。

システムのアクション: システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。  
 ユーザの応答: Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-10722      **CAPI: ERROR: シーケンスが無効です (終了作業単位レコードがレコードの前にあります)**

説明:            UOW Cleanser が、無効なリスタートシーケンス番号を受け取りました。

システムのアクション: システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。  
 ユーザの応答:      無効なリスタートシーケンス番号のソースを修正します。

PWX-10723      **CAPI: エラー: シーケンスが無効です (終了 Unit of Work レコードがエラーになっています)**

説明:            UOW Cleanser が、無効なリスタートシーケンス番号を受け取りました。

システムのアクション: システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。  
 ユーザの応答:      無効なリスタートシーケンス番号のソースを修正します。

PWX-10724      **CAPI: ERROR: シーケンスが無効です (レコードがエラーになっています)**

説明:            UOW Cleanser が、無効なリスタートシーケンス番号を受け取りました。

システムのアクション: システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。  
 ユーザの応答:      無効なリスタートシーケンス番号のソースを修正します。

PWX-10725      **CAPI: ERROR: リスタートが無効です (下位 CAPI がエラーを返しました)**

説明:            UOW Cleanser が、無効なリスタートシーケンス番号を受け取りました。

システムのアクション: システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。  
 ユーザの応答:      無効なリスタートシーケンス番号のソースを修正します。

PWX-10726	<b>CAPI：終了作業単位レコードのシーケンス番号</b>
説明：	リスタートトークンを出力するよう指示された場合、UOW Cleanser はこのメッセージを発行します。次のメッセージが終了作業単位のシーケンス番号に該当することを意味します。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-10727	<b>CAPI：レコードのシーケンス番号</b>
説明：	リスタートトークンを出力するよう指示された場合、UOW Cleanser はこのメッセージを発行します。次のメッセージがレコードのシーケンス番号に該当することを意味します。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-10728	<b>CAPI：ERROR：既存の UOW の開始 UOW を検出しました</b>
説明：	UOW Cleanser が、すでにアクティブになっていると考えられていた作業単位の開始作業単位レコードを検出しました。
システムのアクション：	システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。
ユーザの応答：	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-10729	<b>CAPI：ERROR：既存の UOW シーケンス/リスタート情報</b>
説明：	このメッセージは、メッセージ PWX-10728 と一緒に発行されて、次のメッセージが既存の作業単位に関連していることを示します。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-10730	<b>CAPI:説明:"hex"データ"character_data"</b>
説明：	UOW Cleanser はこのメッセージを使用して、バイナリデータを表示します。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-10731	<b>CAPI:エラー: 必須の拡張データ（説明）エラー</b>
説明：	UOW Cleanser の下位 CAPI が必須の拡張属性をサポートしていません。
システムのアクション：	システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。
ユーザの応答：	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-10732	<b>CAPI：UOW Cleanser でシーケンスをフォーマットできません（バイト数がゼロであるか、奇数です）</b>
説明：	UOW Cleanser は、無効なリスタートシーケンス値をフォーマットするように指示されました。
システムのアクション：	システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。
ユーザの応答：	無効なリスタートシーケンス番号のソースを修正します。

PWX-10733	CAPI: <b>互換性のない拡張データサポート:説明</b>
説明:	UOW Cleanser の下位 CAPI が、必須の拡張属性セットの一部をサポートしていません。
システムのアクション:	システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-10734	CAPI:INFO: <b>変更のバックアウトから &lt;number_of_mismatches&gt;個の対称性の不一致がトランザクション&lt;hexadecimal_transaction_identifier&gt;に生じました。</b>
説明:	変更が予期しない順序でバックアウトされたことを UOW Cleanser が検出しました。PowerExchange では、変更は対称的に（実行された順序と逆の順序に）バックアウトされます。メッセージは、指定したコミット済みトランザクションの対称性の不一致の数を示します。
システムのアクション:	CDC の処理は続行されます。
ユーザの応答:	ソーストランザクションを調べて、データの整合性が対称性の不一致の影響を受けるかどうかを判断します。影響がない場合は、アクションは必要ありません。
PWX-10740	CAPI:INFO: <b>間隔におけるリターンカウント: データなし number、コミット number、挿入 number、更新 number、 削除 number。</b>
説明:	このメッセージは、UOWC CAPI_CONNECTION 文内の MONITORINT パラメータに基づいて発行されます。このメッセージには、最後の監視間隔中に抽出に対してコンシューマ API（consumer API: CAPI）が返したデータ結果なし、コミット、挿入、更新、および削除の数が示されます。
システムのアクション:	CDC 処理を続行します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-10741	CAPI:INFO: <b>間隔における下位読み取りカウント:データなし number、コミット number、挿入 number、更新 number、 削除 number、バックアウト number。</b>
説明:	このメッセージは、UOWC CAPI_CONNECTION 文内の MONITORINT パラメータに基づいて発行されます。このメッセージには、最後の監視間隔における抽出で下位コンシューマ API（CAPI）読み取り操作によって返された、日付なしの結果、コミット、挿入、更新、削除、およびバックアウトの数が示されます。下位読み取りでは、UOWC CAPI_CONNECTION に関連付けられたソース固有の CAPI_CONNECTION 文を使用してソースに接続します。
システムのアクション:	CDC 処理を続行します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。

PWX-10742 CAPI:情報:間隔におけるリソースの最大:メモリキャッシュ  
*kilobytes*KB、スピルファイル数 *number\_of\_spill\_files*、同時  
UOW 数 *number\_of\_UOWs*。

説明: このメッセージは、UOWC CAPI\_CONNECTION 文内の  
MONITORINT パラメータに基づいて発行されます。最後の監視間隔  
で使用されたデータの最大メモリキャッシュ、スピルファイルの数、  
および同時 UOW の数がレポートされます。

システムのアクション: CDC 処理を続行します。  
ン:

ユーザの応答: 対応する必要はありません。

PWX-10743 CAPI:INFO:注意を要するトランザクションはありません。

説明: 前回の監視間隔の最後に、アクティブ状態の長期処理中トランザク  
ションまたは大規模トランザクションはありませんでした。長期処理  
中トランザクションとは、2つ以上の監視間隔にわたってアクティブ  
状態が続くトランザクションのことで、UOWC CAPI\_CONNECTION  
文の MONITORINT パラメータで定義されます。大規模トランザク  
ションとは、UOWC CAPI\_CONNECTION 文の LARGEOPS パラメータ  
で指定される基準を満たしているトランザクションのことです。こ  
のメッセージの後には、現在のシーケンス番号を示すメッセージ  
PWX-10749 が続きます。

システムのアクション: CDC 処理を続行します。  
ン:

ユーザの応答: 対応する必要はありません。

PWX-10744 CAPI:INFO:*begin\_transaction\_timestamp* で  
*number\_of\_operations* 個の操作を持つトランザクションが  
開始されました。

説明: 監視間隔中に、長期処理中トランザクションまたは大規模トランザク  
ションとしての条件を満たしているトランザクションが  
PowerExchange によって検出されました。このメッセージでは、こ  
のトランザクションについて、操作の数と開始タイムスタンプ  
(YYYY/MM/DD hh:mm:ss という形式) が示されます。  
PowerExchange は、UOWC CAPI\_CONNECTION 文内の  
MONITORINT パラメータに基づいてこのメッセージを発行します。  
このメッセージの後には、トランザクション ID を示すメッセージ  
PWX-10747 が続きます。

システムのアクション: CDC 処理を続行します。  
ン:

ユーザの応答: 対応する必要はありません。

PWX-10745 CAPI:INFO:この抽出が開始されて以来、データはまったく返されていません。

説明： コンシューマ API (CAPI) は、現在の抽出が開始されて以来、データを返していません。これは、処理対象のソースにトランザクションがまだ変更を書き込んでいないためです。このメッセージは、UOWC CAPI\_CONNECTION 文内の MONITORINT パラメータに基づいて発行されます。このメッセージは、メッセージ PWX-10746 の代わりとして発行されます。

システムのアクション： CDC 処理を続行します。

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-10746 CAPI:INFO:返された最後のデータ:タイムスタンプ *timestamp*、シーケンス *hexadecimal\_sequence\_number*。

説明： このメッセージは、UOWC CAPI\_CONNECTION 文内の MONITORINT パラメータに基づいて発行されます。このメッセージには、コンシューマ API (CAPI) が現行の抽出のために返した最後のデータのタイムスタンプと 16 進シーケンス番号が示されます。  
*timestamp* 値は、YYYY-MM-DD-hh.mm.ss という形式になります。トランザクションにタイムスタンプが含まれない場合、*timestamp* 値は"UNKNOWN"です。

システムのアクション： CDC 処理を続行します。

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-10747 CAPI:INFO:+ トランザクション ID *hexadecimal\_transaction\_id*、最初のシーケンス *hexadecimal\_leaf\_sequence\_number*、ユーザー ID *user\_id*。

説明： このメッセージには、割り当てられたスピルファイルに関連付けられたトランザクションに関する情報が示されます。このメッセージでは、

- *hexadecimal\_transaction\_id* は、16 進表現のトランザクション識別子です。
- *hexadecimal\_leaf\_sequence\_number* は、トランザクションに関連付けられた最初のシーケンス番号です。
- *user\_id* は、トランザクションに関連付けられたユーザー ID か、または値"N/A" (ユーザー ID が使用できない場合) です。

システムのアクション： CDC 処理を続行します。

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-10748	CAPI:INFO:+ <b>トランザクション ID <i>hexadecimal_transaction_id</i>、IMS 高速パスのカスケード削除処理。</b>
説明:	このメッセージには、セグメントに対して IMS 高速パスのカスケード削除操作を行うあいだ UOW Cleanser が割り当てたスビルファイルに関連付けられたトランザクションについての情報が表示されます。このメッセージ内の <i>hexadecimal_transaction_id</i> 値は、トランザクション識別子の 16 進表現です。
システムのアクション:	CDC 処理を続行します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-10749	CAPI:INFO:+ <b>現行の下位シーケンス番号 <i>hexadecimal_sequence_leaf_number</i>。</b>
説明:	このメッセージは、抽出の下位読み取り処理の変更ストリームにおける現在のポイントを示します。下位読み取りでは、UOWC CAPI_CONNECTION に関連付けられたソース固有の CAPI_CONNECTION 文を使用してソースに接続します。このメッセージでは、 <i>hexadecimal_leaf_sequence_number</i> は、変更ストリーム内の現在のポイントを表す 16 進のシーケンス番号です。このシーケンス番号が使用できない場合、値 [確立されていません] が表示されます。
システムのアクション:	CDC 処理を続行します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-10753	CAPI:INFO:UOW Cleanser <b>が大規模トランザクションのコミットを検出しました。</b>
説明:	大規模トランザクションがコミットされたことが UOW Cleanser によって検出されました。大規模トランザクションとは、UOWC CAPI_CONNECTION 文の LARGEOPS パラメータで指定される基準を満たしているトランザクションのことです。
システムのアクション:	CDC 処理を続行します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-10754	CAPI:INFO:UOW Cleanser <b>が大規模トランザクションの中断を検出しました。</b>
説明:	大規模トランザクションが異常終了したことが UOW Cleanser によって検出されました。大規模トランザクションとは、UOWC CAPI_CONNECTION 文の LARGEOPS パラメータで指定される基準を満たしているトランザクションのことです。
システムのアクション:	CDC 処理を続行します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。



PWX-10755	CAPI:INFO: <b>最大ステージングリソース: 操作 <i>number_of_operations</i>、サイズ <i>kilobytes</i>KB。</b>
説明:	このメッセージには、大規模トランザクションのステージングに使用された操作のピーク数とキロバイト数が示されます。関連メッセージ PWX-10753 または PWX-10754 で報告されているように、このトランザクションは異常コミットまたは異常終了されました。
システムのアクション:	CDC 処理を続行します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-10756	CAPI:INFO: <b>スピルファイル <i>allocation_number</i> が割り当てられました。ファイル名 <i>file_name</i>。</b>
説明:	UOW Cleanser が、指定されたファイル名を持つスピルファイルを割り当て、コミットされていないトランザクションをステージングしました。割り当て数は、抽出時にスピルファイルがいくつ割り当てられたかを示します。
システムのアクション:	CDC 処理を続行します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。スピルファイルの割り当てを防止し、ディスク容量を節約するには、UOWC CAPI_CONNECTION 文の MEMCACHE パラメータでキャッシュサイズを増やします。
PWX-10757	CAPI:INFO: <b>スピルファイル <i>allocation_number</i> の割り当てが解除されました。ファイル名 <i>file_name</i>。</b>
説明:	UOW Cleanser が、指定されたファイル名を持つスピルファイルの割り当てを解除しました。割り当て数は、抽出時にスピルファイルがいくつ割り当てられたかを示します。
システムのアクション:	CDC 処理を続行します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-10758	CAPI:INFO: <b>スピルファイル <i>allocation_number</i> が割り当てられました。ファイル名は <i>file name</i> です。</b>
説明:	UOW Cleanser によって、保持されているスピルファイルの 1 つが新しいトランザクションに割り当てられました。デフォルトでは、UOW Cleanser は 3 つのスピルファイルを保持します。UOW Cleanser は、ファイルの過度な割り当て解除アクティビティと割り当てアクティビティを防ぐ対策として、必要に応じてそれらのスピルファイルを新しいトランザクションに割り当て直します。
システムのアクション:	CDC 処理を続行します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。

PWX-10759	CAPI:INFO:スピルファイル <i>allocation_number</i> が保持されました。ファイル名 <i>file_name</i> 。
説明:	UOW Cleanser が、指定されたファイル名を持つスピルファイルを保持しました。デフォルトでは、動的なファイルの過度な割り当ておよび割り当て解除アクティビティを防ぐために、UOW Cleanser は3つのスピルファイルを保持します。保持されるスピルファイルの数は、UOWC CAPI_CONNECTION 文で SPILLKEEP パラメータを指定することで設定できます。
システムのアクション:	CDC 処理を続行します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-10780	CAPI:INFO:抽出のリターンカウント:データなし <i>number</i> 、コミット <i>number</i> 、挿入 <i>number</i> 、更新 <i>number</i> 、削除 <i>number</i> 。
説明:	このメッセージは、抽出が正常に終了する場合に発行されます。このメッセージには、抽出に対してコンシューマ API (CAPI) が返したデータ結果なし、コミット、挿入、更新、および削除の数が示されます。
システムのアクション:	CDC 処理を続行します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-10781	CAPI:INFO:抽出の下位読み取りカウント:データなし <i>number</i> 、コミット <i>number</i> 、挿入 <i>number</i> 、更新 <i>number</i> 、削除 <i>number</i> 、バックアウト <i>number</i> 。
説明:	このメッセージは、抽出が正常に終了する場合に発行されます。このメッセージには、抽出に対してコンシューマ API (CAPI) によるソースの下位読み取りから返されたデータ結果なし、コミット、挿入、更新、および削除の数が示されます。下位読み取りでは、UOWC CAPI_CONNECTION に関連付けられたソース固有の CAPI_CONNECTION 文を使用してソースに接続します。
システムのアクション:	CDC 処理を続行します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-10782	CAPI: 情報: 抽出リソースの最大: メモリキャッシュ <i>kilobytes</i> KB、スピルファイル数 <i>number_of_spill_files</i> 、同時 UOW 数 <i>number_of_UOWs</i> 。
説明:	抽出が正常に終了すると、このメッセージでは、抽出中に使用されたデータの最大メモリキャッシュ、スピルファイルの数、および同時 UOW の数がレポートされます。
システムのアクション:	CDC 処理を続行します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。

PWX-10783	CAPI:INFO:監視メッセージの先頭 ( <i>timestamp</i> )。
説明:	このメッセージは、監視間隔中に発行される最初のメッセージです。 このメッセージは、UOW Cleanser のトランザクション監視メッセージ式の先頭を示します。ユーザーにより、UOWC CAPI_CONNECTION 文の MONITORINT パラメータに監視間隔が設定されました。
システムのアクション:	CDC 処理を続行します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-10784	CAPI:INFO:監視メッセージの最後 ( <i>timestamp</i> )。
説明:	このメッセージは、監視間隔中に発行される最後のメッセージです。 このメッセージは、UOW Cleanser のトランザクション監視メッセージ式の最後を示します。ユーザーにより、UOWC CAPI_CONNECTION 文の MONITORINT パラメータに監視間隔が設定されました。
システムのアクション:	CDC 処理を続行します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-10790	QSTD:MVS スピルファイルの割り当てに失敗しました。エラーコード=0x"error_code_in_hex"、情報コード=0x"info_code_in_hex"
説明:	スピルデータセットを割り当てようとしたときに、ディスクへのスピルモジュールがエラーを検出しました。エラーと情報コードについては、IBM の『MVS プログラミング:アセンブラー・サービス解説書』を参照してください。
システムのアクション:	システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。
ユーザの応答:	エラーコードおよび情報コードに従って問題を修正します。
PWX-10791	QSTD:スピルファイルの書き込みエラー ("runtime_error_code") run-time_error_text
説明:	スピルデータセットに書き込もうとしたときに、ディスクへのスピルモジュールがエラーを検出しました。
システムのアクション:	システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。
ユーザの応答:	ランタイムエラー情報に基づいて問題を修正します。
PWX-10792	QSTD:i5/OS スピルファイルの割り当てに失敗しました。関数=function_name、戻りコード=function_return_code、テキスト=run-time_error_text
説明:	AS400 でスピルデータセットを割り当てようとしたときに、ディスクへのスピルモジュールがエラーを受け取りました。
システムのアクション:	システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。

ユーザの応答：	ランタイムエラー情報に基づいて問題を修正します。
PWX-10793	<b>QSTD:スピルファイルの割り当てに失敗しました。関数= <i>function_name</i>、戻りコード= <i>function_return_code</i>、テキスト= <i>run-time_error_text</i></b>
説明：	UNIX プラットフォームでスピルデータセットを割り当てようとしたときに、ディスクへのスピルモジュールがエラーを検出しました。
システムのアクション：	システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。
ユーザの応答：	ランタイムエラー情報に基づいて問題を修正します。
PWX-10794	<b>QSTD:スピルファイル <i>function_name</i> エラー (<i>function_return_code</i>) <i>run-time_error_text</i></b>
説明：	スピルデータセット上で操作しようとしたときに、ディスクへのスピルモジュールがエラーを受信しました。
システムのアクション：	システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。
ユーザの応答：	ランタイムエラー情報に基づいて問題を修正します。
PWX-10800	<b>Oracle キャプチャ: <i>memory</i> を割り当てられません。</b>
説明：	Oracle キャプチャが、メッセージで指定されたデータを格納するメモリを割り当てられませんでした。
システムのアクション：	Oracle キャプチャの処理が終了します。
ユーザの応答：	メモリ不足によって発生した問題を修正します。
PWX-10801	<b>Oracle キャプチャ:内部エラー:Null トークンアドレスが &lt;<i>function_name</i>&gt;に渡されました。</b>
説明：	PowerExchange キャプチャモジュールの共有ストレージが失われました。
システムのアクション：	Oracle キャプチャの処理が終了します。
ユーザの応答：	これは内部エラーです。Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-10803	<b>Oracle キャプチャ:内部エラー:&lt;<i>function_name</i>&gt;はプラットフォームトークンを見つけられませんでした。</b>
説明：	PowerExchange Oracle キャプチャモジュールの共有ストレージが失われました。
システムのアクション：	Oracle キャプチャの処理が終了します。
ユーザの応答：	これは内部エラーです。Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-10804	Oracle キャプチャ:内部エラー:<function_name>がプラットフォームトークンで無効なアイキャッチャ<data_value>を見つけました。
説明:	PowerExchange Oracle キャプチャモジュールの共有ストレージが失われたか、破損しました。
システムのアクション:	Oracle キャプチャの処理が終了します。
ユーザの応答:	これは内部エラーです。Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-10805	Oracle キャプチャ:<function_name>でプラットフォームトークンのバージョンが不一致。 受け取った値:<version.release.modification_level.patch_level>。 予期した値:<version.release.modification_level.patch_level>。
説明:	PowerExchange Oracle キャプチャでバージョンレベルの不一致が見つかりました。
システムのアクション:	Oracle キャプチャの処理が終了します。
ユーザの応答:	エラーの原因として最も可能性が高いのは、環境変数の設定が正しくないことが考えられます。パスおよび共有ライブラリパス変数が同じ PowerExchange バイナリを指すように設定されていることを確認します。このメッセージの 2 番目の原因としては、PowerExchange ソフトウェアのインストールが不完全または失敗であることが考えられます。
PWX-10806	Oracle キャプチャ:oci 共有ライブラリ <Oracle_OCI_library_name>に関数がありません: <Oracle_OCI_function_name>。
説明:	Oracle OCI 共有ライブラリが見つからないか、OCI の必須の関数が OCI 共有ライブラリで見つかりませんでした。
システムのアクション:	Oracle キャプチャの処理が終了します。
ユーザの応答:	最も可能性が高いエラーの原因としては、Oracle 環境変数の設定が正しくないことが考えられます。パス、共有ライブラリパス、および ORACLE_HOME 変数が正しく設定されていることを確認します。AIX 環境では、PowerExchange ソフトウェアのインストールが不完全または失敗であるためにこのメッセージが生成される可能性があります。
PWX-10807	Oracle キャプチャ:警告:認識されない属性: 値 <keyword.value>が Oracle キャプチャインタフェースに渡されました。
説明:	不明のキーワードが、DBMOVER コンフィギュレーションファイルの CAPI_CONNECTION (TYPE=ORCL)文で見つかりました。
システムのアクション:	Oracle キャプチャはキーワードを無視して、処理を続行します。

ユーザの応答：	警告が表示されないようにするには、DBMOVER コンフィギュレーションファイルを編集して、問題のあるキーワードを削除します。
PWX-10808	Oracle <b>キャプチャ</b> :以下の項目の割り当て中に <i>error_occurred</i> が発生しました。戻りコード <i>&lt;OCI_return_code&gt;</i> 。Oracle <b>メッセージが続いて表示されま</b> <b>す。</b>
説明：	必須の Oracle データ構造を割り当てようとしたときに、Oracle エラーが発生しました。
システムのアクション：	Oracle キャプチャの処理が終了します。
ユーザの応答：	Oracle エラーの説明と一緒に表示されるメッセージに示されます。Oracle エラーの説明で示された問題を修正して、Oracle キャプチャをリスタートします。
PWX-10809	Oracle <b>エラーコード</b> <i>&lt;OCI_error_code&gt;</i> : <b>続いてエラーメッセージが表示されます。</b>
説明：	OracleOCI エラーが発生しました。
システムのアクション：	Oracle キャプチャの処理が異常終了します。
ユーザの応答：	このメッセージは、Oracle 呼び出しが失敗した場合に PowerExchange によって発行される一連のメッセージの 1 つです。失敗の原因を確認するには、メッセージログでこのメッセージの前後にあるメッセージを調べます。続いて問題を修正し、Oracle キャプチャ処理を再開します。
PWX-10810	Oracle <b>キャプチャ</b> ：OCI <b>呼び出しに成功しました。</b>
説明：	Oracle OCI 呼び出しが成功しました。
システムのアクション：	Oracle キャプチャは処理を続行します。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。このメッセージが生成されるのは、特定の PowerExchange トレースをオンにして既存の問題をデバッグしやすくするよう Informatica グローバルカスタマサポートが要求した場合だけです。
PWX-10811	Oracle <b>キャプチャ</b> ： <b>情報メッセージを伴って OCI 呼び出しが成功しました。</b>
説明：	Oracle OCI 呼び出しが成功しました。
システムのアクション：	Oracle キャプチャは処理を続行します。
ユーザの応答：	後続く Oracle 情報メッセージを調べます。
PWX-10812	Oracle <b>キャプチャ</b> :OCI <b>エラーを確認できません。Null エラーハンドルが渡されました。</b>
説明：	内部エラーが発生しました。Null エラーハンドルが Oracle キャプチャエラーハンドラに渡されたため、PowerExchange は OCI エラーを特定できません。

システムのアクション: Oracle キャプチャの処理が異常終了します。  
ン:

ユーザの応答: Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-10813 **Oracle キャプチャ: OCI エラーを確認できません。再帰的なエラー状態を検出しました。**

説明: 前のエラーの Oracle エラーメッセージにアクセスする OCI 呼び出しが失敗しました。この状況は、SHUTDOWN IMMEDIATE または SHUTDOWN ABORT コマンドが Oracle インスタンスに送信された場合に発生する可能性があります。

システムのアクション: Oracle 変更キャプチャ処理が異常終了します。  
ン:

ユーザの応答: Oracle インスタンスが使用可能かを確認します。Oracle インスタンスの問題を診断するには、Oracle メッセージログを確認します。

PWX-10814 **Oracle キャプチャ: OCI 呼び出しが必要なデータを見つけれません。**

説明: 無効な Oracle OCI 呼び出しを試みました。

システムのアクション: Oracle キャプチャの処理が終了します。  
ン:

ユーザの応答: これは内部エラーです。Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-10815 **Oracle キャプチャ: OCI 呼び出しに渡されたハンドルの種類が正しくありません。**

説明: Oracle との通信に必要なストレージが失われたか、破損しました。

システムのアクション: Oracle キャプチャの処理が終了します。  
ン:

ユーザの応答: これは内部エラーです。Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-10816 **Oracle キャプチャ: OCI 呼び出しはブロック不可ですが、ブロック呼び出しとして扱われました。**

説明: PowerExchange Oracle キャプチャが Oracle OCI 呼び出しを正しく処理しませんでした。

システムのアクション: Oracle キャプチャの処理が終了します。  
ン:

ユーザの応答: これは内部エラーです。Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-10817 **Oracle キャプチャ: 不明な OCI 失敗コード<return\_code>です。**

説明: 不明な戻りコードが、Oracle から PowerExchange Oracle キャプチャに渡されました。

システムのアクション: Oracle キャプチャの処理が終了します。  
ン:

ユーザの応答： これは内部エラーです。Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-10818 Oracle **キャプチャ: error\_occurred** サーバー **<Oracle\_instance\_name>** (**<dtlcfg\_file>** ORACLE\_SID| default\_location} から) に接続中に発生しました。 **戻りコード= <return\_code>**。 Oracle **メッセージが続いて表示され**ます。

説明： Oracle キャプチャは、指定された Oracle インスタンスに接続できませんでした。

システムのアクション： Oracle キャプチャの処理が終了します。

ユーザの応答： このエラーメッセージの "from" 句は、接続先となるインスタンス名を Oracle キャプチャが取得した場所を指定します。 次のメッセージを確認してエラーの原因を特定し、問題を修正して、Oracle キャプチャをリスタートします。

PWX-10819 Oracle **キャプチャ: error\_occurred** が、 **<Oracle\_connection\_attribute>** の **<Oracle\_connection\_value>** 属性を設定中に発生しました。 **戻りコード= <return\_code>**。 Oracle **メッセージが続いて表示**されます。

説明： 指定された接続属性の指定値を設定しているときに、PowerExchange Oracle キャプチャがエラーを検出しました。

システムのアクション： Oracle キャプチャの処理が終了します。

ユーザの応答： 後のメッセージを確認してエラーの原因を特定し、問題を修正して、Oracle キャプチャをリスタートします。

PWX-10820 Oracle **キャプチャ: error\_occurred** が、 **ユーザー ID <Oracle\_user\_ID>** を使用してサーバー **<Oracle\_instance>** とのセッションを開始中に発生しました。 **戻りコード= <return\_code>**。 Oracle **メッセージが続いて表示**されます。

説明： Oracle キャプチャは、指定された Oracle ユーザー ID を使用して、指定の Oracle インスタンスに接続できませんでした。

システムのアクション： Oracle キャプチャの処理が終了します。

ユーザの応答： 次のエラーメッセージを確認して、指定された Oracle インスタンスに Oracle キャンペーンが接続できなかった原因を特定します。問題を修正して、Oracle キャプチャをリスタートします。

PWX-10821 Oracle **キャプチャ: error\_occurred** が、Oracle **サーバーのバージョンの確認中に発生**しました。 **戻りコード= <return\_code>**。 Oracle **メッセージが続いて表示**されます。

説明： Oracle キャプチャは、接続先のサーバーで実行されている Oracle のバージョンを特定できませんでした。

システムのアクション： Oracle キャプチャの処理が終了します。



ユーザの応答：	次のエラーメッセージを確認して、Oracle が Oracle バージョン情報にアクセスできなかった原因を特定します。問題を修正して、Oracle キャプチャをリスタートします。
PWX-10822	<b>Oracle キャプチャ：Oracle セッションセットアップが正常に完了しました。</b>
説明：	Oracle キャプチャの初期化が正常に完了しました。
システムのアクション：	Oracle キャプチャは処理を続行します。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-10823	<b>Oracle キャプチャ: <i>error_occurred</i> が、以下の文を準備中に発生しました。戻りコード&lt;return_code&gt;。 Oracle メッセージが続いて表示されます。</b>
説明：	Oracle キャプチャは、後の文に対して SQLPREPARE を発行できませんでした。
システムのアクション：	Oracle キャプチャの処理が終了します。
ユーザの応答：	次のエラーメッセージを確認して、Oracle キャプチャが文を準備できなかった原因を特定します。問題を修正して、Oracle キャプチャをリスタートします。
PWX-10824	<b>Oracle キャプチャ:以下の文の実行中に <i>error_occurred</i>、戻りコード&lt;return_code&gt;が発生しました。 Oracle メッセージが続いて表示されます。</b>
説明：	Oracle キャプチャは、後の文に対して SQL EXECUTE IMMEDIATE を発行できませんでした。
システムのアクション：	Oracle キャプチャの処理が終了します。
ユーザの応答：	次のエラーメッセージを確認して、Oracle キャプチャが文を実行できなかった原因を特定します。問題を修正して、Oracle キャプチャをリスタートします。
PWX-10825	<b>Oracle キャプチャ: <i>reason</i> のために読み取りが停止しました。</b>
説明：	変更データのキャプチャ中に、メッセージに示された理由のために、Oracle ログでの PowerExchange LogMiner CDC for Oracle の読み取り操作が停止しました。通常、この理由は「Oracle からのデータイベントの最後」です。
システムのアクション：	理由に基づき、PowerExchange キャプチャ処理が終了するか、または読み取り機能をもう一度呼び出して継続します。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。

PWX-10826	Oracle キャプチャ: <i>error_occurred</i> が、以下の文の <i>&lt;attribute_name&gt;</i> 属性にアクセス中に発生しました。戻りコード <i>&lt;return_code&gt;</i> Oracle メッセージが続いて表示されます。
説明:	Oracle キャンペーンは、次の SQL 文で指定されたテーブルの指定された属性を取得できませんでした。
システムのアクション:	Oracle キャプチャの処理が終了します。
ユーザの応答:	次のエラーメッセージを確認して、Oracle キャプチャが、テーブルの指定された情報を取得できなかった原因を特定します。問題を修正して、Oracle キャプチャをリスタートします。
PWX-10828	CATEND パラメータ <i>&lt;value&gt;</i> は、24 時間 (HH:MM) 形式で指定する必要があります。
説明:	dbmover.cfg の CAPI_CONNECTION (TYPE=ORCL) 文内の CATEND キーワードに、無効な値が含まれています。
システムのアクション:	Oracle キャプチャは終了します。
ユーザの応答:	DBMOVER コンフィギュレーションファイルの値を修正して、Oracle キャプチャをリスタートします。
PWX-10829	CATBEGIN パラメータ <i>&lt;value&gt;</i> は、24 時間 (HH:MM) 形式で指定する必要があります。
説明:	dbmover.cfg の CAPI_CONNECTION (TYPE=ORCL) 文内の CATBEGIN キーワードに、無効な値が含まれています。
システムのアクション:	Oracle キャプチャは終了します。
ユーザの応答:	DBMOVER コンフィギュレーションファイルの値を修正して、Oracle キャプチャをリスタートします。
PWX-10830	Oracle キャプチャ: 以下の文の SELECT 変数を定義中に <i>error_occurred</i> が発生しました。戻りコード <i>&lt;return_code&gt;</i> 。Oracle メッセージが続いて表示されます。
説明:	後の SQL 文の SQL ホスト変数を定義しようとしたときに、Oracle がエラーを返しました。
システムのアクション:	Oracle キャプチャの処理が終了します。
ユーザの応答:	次のエラーメッセージを確認して、定義を行うのを Oracle が許可しなかった原因を特定します。問題を修正して、Oracle キャプチャをリスタートします。
PWX-10831	Oracle キャプチャ: <i>error_occurred</i> が、OCI セッションを終了中に発生しました。戻りコード = <i>&lt;return_code&gt;</i> 。Oracle メッセージが続いて表示されます。
説明:	Oracle キャプチャが Oracle インスタンスとのセッションを終了しようとしたときに、Oracle がエラーを返しました。

システムのアクション Oracle キャプチャの処理が終了します。  
ン：

ユーザの応答： 次のエラーメッセージを確認して、セッションを終了するのを  
Oracle が許可しなかった原因を特定します。問題を修正して、  
Oracle キャプチャをリスタートします。

PWX-10832 Oracle **キャプチャ: *error\_occurred* が、サーバーから切断中に発生しました。 戻りコード= *<return\_code>*。 Oracle メッセージが続いて表示されます。**

説明： Oracle キャプチャが Oracle インスタンスとのセッションを終了しようとしたときに、Oracle がエラーを返しました。

システムのアクション Oracle キャプチャの処理が終了します。  
ン：

ユーザの応答： 次のエラーメッセージを確認して、セッションを終了するのを  
Oracle が許可しなかった原因を特定します。問題を修正して、  
Oracle キャプチャをリスタートします。

PWX-10833 Oracle **キャプチャ: *error\_occurred* が、OCI 環境を解放中に発生しました。 戻りコード= *<return\_code>*。 Oracle メッセージが続いて表示されます。**

説明： Oracle キャプチャが、Oracle インスタンスとの通信に使用していたストレージを解放しようとしたときに、Oracle がエラーを返しました。

システムのアクション Oracle キャプチャの処理が終了します。  
ン：

ユーザの応答： 次のエラーメッセージを確認して、ストレージを解放するのを  
Oracle が許可しなかった原因を特定します。問題を修正して、  
Oracle キャプチャをリスタートします。

PWX-10834 Oracle **キャプチャ: Oracle V\$DATABASE に問い合わせ中に *error\_occurred* が発生しました。 戻りコード= *<return\_code>*。 Oracle メッセージが続いて表示されます。**

説明： Oracle キャプチャが V\$DATABASE Oracle ダイナミックビューにアクセスしようとしたときに、Oracle がエラーを返しました。

システムのアクション Oracle キャプチャの処理が終了します。  
ン：

ユーザの応答： 次のエラーメッセージを確認して、V\$DATABASE ダイナミックビューへのアクセスを Oracle が許可しなかった原因を特定します。問題を修正して、Oracle キャプチャをリスタートします。

PWX-10835 Oracle **キャプチャ： 最少補足ログがアクティブになっていません。 Oracle キャプチャを続行できません。**

説明： 『Oracle 9i データベース管理者ガイド』の第9章で説明されている最少補足ログが、アクティブになっていません。

システムのアクション Oracle キャプチャの処理が終了します。  
ン：

ユーザの応答： ユーザーは Oracle にログオンして、次のコマンドを実行する必要があります。ALTER DATABASE ADD SUPPLEMENTAL LOG DATA。このメッセージが表示された場合には、Oracle ログのこのポイントの前にデータをキャプチャしようとする、データが無効だったり、見つからない可能性があります。

PWX-10836 Oracle **キャプチャ：Null リスタートトークンが Oracle キャプチャに渡されました。**

説明： Oracle ログの読み込み開始位置を決定できる情報が、Oracle キャプチャに渡されませんでした。

システムのアクション： Oracle キャプチャの処理が終了します。

ユーザの応答： 最も可能性が高いエラーの原因としては、操作エラーが考えられます。通常、新しい Oracle テーブルが PowerExchange に対して正しく定義されていない場合に発生します。PowerExchange に対してテーブルを定義するのに使用した手順を調べて、必要なアクションがすべて完了していることを確認します。問題を修正して、Oracle キャプチャをリスタートします。

PWX-10837 Oracle **キャプチャ:無効なリスタートトークンが Oracle キャプチャに渡されました: 説明。**

説明： Oracle キャプチャに渡されたリスタート情報が無効です。メッセージの残りの部分に、問題の詳細が示されています。

システムのアクション： Oracle キャプチャの処理が終了します。

ユーザの応答： 最も可能性が高いエラーの原因としては、操作エラーが考えられます。新しい Oracle テーブルが PowerExchange に対して正しく定義されていない場合、Oracle キャプチャが接続中のインスタンスとは異なる Oracle インスタンスからのリスタート情報をキャプチャ要求が使用している場合、または Oracle 以外のデータソースが Oracle キャプチャに渡された場合、このエラーが発生します。リスタート情報が間違った方法で手動で調整された場合にも発生することがあります。問題のソースを特定し、問題を修正して、Oracle キャプチャをリスタートします。

PWX-10838 Oracle **キャプチャ:無効なリスタートトークンであるリスタート SCN が Oracle キャプチャに渡されました: 説明。**

説明： Oracle キャプチャに渡されたリスタート情報が無効です。メッセージの残りの部分に、問題の詳細が示されています。

システムのアクション： Oracle キャプチャの処理が終了します。

ユーザの応答：	最も可能性が高いエラーの原因としては、操作エラーが考えられます。新しい Oracle テーブルが PowerExchange に対して正しく定義されていない場合、Oracle キャプチャが接続中のインスタンスとは異なる Oracle インスタンスからのリスタート情報をキャプチャ要求が使用している場合、または Oracle 以外のデータソースが Oracle キャプチャに渡された場合、このエラーが発生します。リスタート情報が間違った方法で手動で調整された場合にも発生することがあります。問題のソースを特定し、問題を修正して、Oracle キャプチャをリスタートします。
PWX-10839	<b>Oracle キャプチャ：リスタートトークンであるシーケンス SCN が、リスタート SCN 未満です。</b>
説明：	Oracle キャプチャに渡されたリスタート情報が無効です。メッセージの残りの部分に、問題の詳細が示されています。
システムのアクション：	Oracle キャプチャの処理が終了します。
ユーザの応答：	最も可能性が高いエラーの原因としては、操作エラーが考えられます。新しい Oracle テーブルが PowerExchange に対して正しく定義されていない場合、Oracle キャプチャが接続中のインスタンスとは異なる Oracle インスタンスからのリスタート情報をキャプチャ要求が使用している場合、または Oracle 以外のデータソースが Oracle キャプチャに渡された場合、このエラーが発生します。リスタート情報が間違った方法で手動で調整された場合にも発生することがあります。問題のソースを特定し、問題を修正して、Oracle キャプチャをリスタートします。
PWX-10840	<b>Oracle キャプチャ：LOB ストレージキュー環境を初期化できません。</b>
説明：	Oracle キャプチャは、LOB 部分全体が送信可能になるまで、LOB 部分の格納に使用する一時ストレージ方法を初期化できません。
システムのアクション：	Oracle キャプチャの処理が終了します。
ユーザの応答：	このメッセージは現在使用されていません。Oracle キャプチャは LOB データをサポートしていません。
PWX-10841	<b>Oracle キャプチャ:ソース&lt;registration_tag&gt;の登録情報が見つかりません。</b>
説明：	指定された登録タグで表されたデータソースの登録情報が、リポジトリで見つかりませんでした。
システムのアクション：	Oracle キャプチャの処理が終了します。
ユーザの応答：	dbmover.cfg パラメータを確認して、Oracle キャプチャが正しいリポジトリに接続していることを確認します。登録タグの定義を確認して、"アクティブ"とマークされていることを確認します。登録タグが Oracle テーブルを指していることを確認します。

PWX-10842	Oracle <b>キャプチャ:登録タグ&lt;registration_tag&gt;と&lt;registration_tag&gt;の両方がソーステーブル&lt;"owner"&gt;を指しています。"table_name"&gt;。</b>
説明:	指定されたテーブルの重複する登録が見つかりました。
システムのアクション:	Oracle キャプチャの処理が終了します。
ユーザの応答:	エラーが解決しない場合は、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-10843	Oracle <b>キャプチャ: ソーステーブル情報をハッシュテーブルに挿入できません。</b>
説明:	Oracle キャプチャが、キャプチャするテーブルに関する情報を保持するストレージを割り当てられません。
システムのアクション:	Oracle キャプチャの処理が終了します。
ユーザの応答:	前のエラーメッセージを確認し、それらのエラーメッセージの「対策」に示されている指示に従ってください。
PWX-10900	Oracle <b>キャプチャ:テーブル&lt;owner&gt;の登録。&lt;table_name&gt;には、重複する列名&lt;column_name&gt;が含まれています。</b>
説明:	指定されたテーブルの PowerExchange 登録で、指定された列の定義が重複しています。
システムのアクション:	Oracle キャプチャの処理が終了します。
ユーザの応答:	これは内部エラーです。Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-10901	Oracle <b>キャプチャ:error_occurredが、以下の文の変数をバインド中に発生しました。戻りコード&lt;return_code&gt;。Oracle メッセージが続いて表示されます。</b>
説明:	Oracle キャプチャが次の SQL 文のホスト変数を作成しようとしたときに、Oracle がエラーを返しました。
システムのアクション:	Oracle キャプチャの処理が終了します。
ユーザの応答:	次のエラーメッセージを確認します。問題の原因を特定し、問題を修正して、Oracle キャプチャをリスタートします。
PWX-10902	Oracle <b>キャプチャ:error_occurredが、アーカイブログでカタログを検索中に発生しました。戻りコード=&lt;return_code&gt;。Oracle メッセージが続いて表示されます。</b>
説明:	Oracle ログで Oracle カタログのコピーを検索中に、Oracle キャプチャがエラーを検出しました。
システムのアクション:	Oracle キャプチャの処理が終了します。

ユーザの応答： このメッセージの前後のエラーメッセージを確認します。これらのエラーメッセージの「対策」に示されている指示に従って問題を解決し、Oracle キャブチャをリスタートします。

PWX-10903 **Oracle キャブチャ:ハッシュテーブルのアクセス中にエラーが発生しました。**

説明： Oracle キャブチャは、キャブチャのテーブルに関する内部情報にアクセスできませんでした。

システムのアクション： Oracle キャブチャの処理が終了します。

ユーザの応答： このメッセージの前後のエラーメッセージを確認します。これらのエラーメッセージの「対策」に示されている指示に従って問題を解決し、Oracle キャブチャをリスタートします。

PWX-10904 **Oracle キャブチャ: リスタートポイントの生成中にトランザクションがアクティブになっています。 変更をスキップすることは可能です。**

説明： キャブチャ初期化プロセスは、Oracle キャブチャのリスタートポイントの生成中に Oracle トランザクションがアクティブになっていることを検出しました。

システムのアクション： ユーティリティは続行されます。

ユーザの応答： アクティブなトランザクションが、キャブチャ初期化プロセスへの入力の Oracle テーブルにアクセスしていないことを確認します。アクティブなトランザクションがこれらのテーブルにアクセスし、生成されたリスタートポイントが Oracle キャブチャの起動に使用される場合、アクティブなトランザクションによって行われた変更はキャブチャされません。

PWX-10905 **Oracle キャブチャ： NULL の読み込みセグメントサイズ要求です。**

説明： このメッセージは将来使用されます。

システムのアクション： Oracle キャブチャの処理が終了します。

ユーザの応答： このメッセージは現時点では使用されません。

PWX-10906 **Oracle キャブチャ： 読み込みセグメントサイズ要求で無効な入力を受け取りました。**

説明： このメッセージは将来使用されます。

システムのアクション： Oracle キャブチャの処理が終了します。

ユーザの応答： このメッセージは現時点では使用されません。

PWX-10907	Oracle キャブチャ:サポートされていない PowerExchange 列の種類<column_type>がテーブル<owner><table_name>、列<column_name>で見つかりました。
説明:	指定された列に、Oracle キャブチャでサポートされていないデータタイプが含まれています。
システムのアクション:	Oracle キャブチャの処理が終了します。
ユーザの応答:	指定されたテーブルの PowerExchange リポジトリ定義から列を削除して、Oracle キャブチャをリスタートします。
PWX-10908	Oracle キャブチャ:error_occurredが、補足ロググループを検索中に発生しました。 戻りコード= <return_code>。 Oracle メッセージが続いて表示されます。
説明:	キャブチャするテーブルの Oracle 補足ロググループを検索中にエラーが発生しました。
システムのアクション:	Oracle キャブチャの処理が終了します。
ユーザの応答:	このメッセージの前後のエラーメッセージを確認します。これらのエラーメッセージの「対策」に示されている指示に従って問題を解決し、Oracle キャブチャをリスタートします。
PWX-10909	Oracle キャブチャ:列<column_name> (テーブル<OWNER>.<table_name>) が ALWAYS オプションとともに補足ロググループに属していません。
説明:	指定された列が、必要な種類の補足ロググループに属していません。
システムのアクション:	Oracle キャブチャの処理が終了します。
ユーザの応答:	このメッセージは、通常、次のいずれかの理由で生成されます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>エラーが発生した PowerCenter®セッションで使用されていた PWXPC アプリケーション接続定義で <i>schema_name</i> オーバーライドが指定されました。このオーバーライドは、大文字と小文字が区別されますが、小文字で入力されました。</li> <li>エラーが発生した PowerCenter セッションに使用されている PWXPC アプリケーション接続定義に <i>schema_name</i> オーバーライドが指定されましたが、正しいスキーマをポイントするように PowerExchange キャブチャ登録処理によって作成された DDL を変更していないか、変更された DDL を実行していません。</li> <li>PowerExchange キャブチャ登録処理によって作成された DDL が実行されませんでした。</li> <li>テーブル定義は変更されましたが、PowerExchange キャブチャ登録が再作成されませんでした。</li> </ul>
PWX-10911	Oracle キャブチャ:Oracle LogMiner コンテンツテーブルを記述中に error_occurredが発生しました。 戻りコード= <return_code>。 Oracle メッセージが続いて表示されます。
説明:	V\$LOGMNR_CONTENTS テーブルからのデータを入れるホスト変数の定義中に、Oracle キャブチャがエラーを検出しました。



システムのアクション Oracle キャプチャの処理が終了します。  
ン：

ユーザの応答： このメッセージの前後のエラーメッセージを確認します。これらのエラーメッセージの「対策」に示されている指示に従って問題を解決し、Oracle キャプチャをリスタートします。

PWX-10912 Oracle **キャプチャ:LogMiner エラー:Error\_type (場所 {Before image|After image}、列<offset>)。SCN =<Oracle\_SCN>。SCN レコードシーケンス=<nth\_record\_with\_this\_Oracle\_SCN>。データが続いて表示されます。**

説明： Oracle キャプチャは、LogMiner から返された SQL 文を解析できませんでした。

システムのアクション Oracle キャプチャの処理が終了します。  
ン：

ユーザの応答： 最も可能性が高いエラーの原因としては、LogMiner SQL 出力を含む列をキャプチャしようとしたことが考えられます。この状況により再帰エラーが発生します。これは、現時点ではサポートされていません。そうでない場合は、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-10913 Oracle **キャプチャ：ログの保存先および（または）スレッドパラメータを指定せずに単一インスタンスモードが要求されました。**

説明： dbmover.cfg の CAPI\_CONNECTION TYPE=ORCL 文でユーザー指定の"SNGLINST=Y"が指定されていましたが、LOGDEST キーワードと LGTHREAD キーワードのいずれかまたは両方が指定されていませんでした。

システムのアクション Oracle キャプチャの処理が終了します。  
ン：

ユーザの応答： 単一インスタンスモードで実行する場合は、LOGDEST と LGTHREAD の両方のパラメータも指定する必要があります。これらのパラメータは、どのインスタンスのログをキャプチャプロセスで使用するかを Oracle キャプチャに通知するものです。

PWX-10914 Oracle **キャプチャ:アクティブなトランザクションリストから不明なトランザクション ID<Oracle\_transaction\_ID>を削除しようとしてしました。**

説明： これは内部エラーです。

システムのアクション Oracle キャプチャの処理が終了します。  
ン：

ユーザの応答： Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-10915 Oracle **キャプチャ：変更レコードをフォーマットしようとしたときに、アクティブなトランザクションが見つかりませんでした。**

説明： これは内部エラーです。

システムのアクション Oracle キャプチャの処理が終了します。  
ン：

ユーザの応答： Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-10916 Oracle **キャプチャ：LogMiner エラー：無効なレコードタイムスタンプ**。SCN=<Oracle\_SCN>。SCN レコードシーケンス=<nth\_record\_with\_this\_SCN>。データ=<timestamp\_string>。

説明： Oracle キャプチャが、LogMiner によって返された変更レコードのタイムスタンプをフォーマットできませんでした。

システムのアクション Oracle キャプチャの処理が終了します。  
ン：

ユーザの応答： Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-10917 Oracle **キャプチャ:列<column\_name> (テーブル<OWNER>.<table\_name>) が未登録です。登録は、すべての列のマッピングを要求するように定義されています。**

説明： Oracle キャプチャは、指定されたテーブルの PowerExchange 登録に含まれていない列を検出し、テーブルは「すべて選択し、変更を通知する」オプションをオンにして登録されていました。

システムのアクション Oracle キャプチャの処理が終了します。  
ン：

ユーザの応答： 指定された列を含むようにテーブルを再登録するか、「すべて選択し、変更を通知する」オプションをオフにしてテーブルを再登録します。

PWX-10918 Oracle **キャプチャ:列<column\_name> (テーブル<OWNER>.<table\_name>) が必要です。列のデータが存在しません**。SCN=<Oracle\_SCN>。SCN レコードシーケンス=<nth\_record\_with\_this\_SCN>。

説明： キャプチャされた SQL 処理中に、問題の列のデータが見つかりませんでした。

システムのアクション Oracle キャプチャの処理が終了します。  
ン：

ユーザの応答： Oracle キャプチャの補足ログ要件のため、関連するテーブルに対するキャプチャされた SQL の処理中は、すべての列のデータが常に存在する必要があります。このメッセージは、テーブルが変更または再定義され、Oracle カタログ内のテーブルの定義から問題の列が削除されたことを意味します。ユーザーは、PowerExchange に対してテーブルを再登録する必要があります。

PWX-10919 Oracle **キャプチャ:列<column\_name> (テーブル<OWNER>) のデータ取得中にキューエラー**。<table\_name>。SCN=<Oracle\_SCN>。SCN レコードシーケンス=<nth\_record\_with\_this\_SCN>。

説明： このメッセージは現在使用されていません。

システムのアクション Oracle キャプチャの処理が終了します。  
ン：

ユーザの応答： このメッセージは現在使用されていません。

PWX-10920 Oracle **キャプチャ：LOB ストレージキューを削除できません。**

説明： このメッセージは現在使用されていません。

システムのアクション： Oracle キャプチャの処理が終了します。

ユーザの応答： このメッセージは現在使用されていません。

PWX-10921 Oracle **キャプチャ:開始 UOW SCN<Oracle\_SCN>が、以前に処理した SCN<Oracle\_SCN>未満です。**

説明： このメッセージは現在使用されていません。

システムのアクション： Oracle キャプチャの処理が終了します。

ユーザの応答： このメッセージは現在使用されていません。

PWX-10922 Oracle **キャプチャ:{"Before image"}{"After image"}でデータエラーが発生しました。 続いてメッセージが表示されます。**

説明： 現在のログレコードの処理中にデータ変換エラーが発生しました。

システムのアクション： Oracle キャプチャの処理が終了します。

ユーザの応答： このメッセージの前後のエラーメッセージを確認して、エラーの詳細を取得します。詳細には、エラーの発生したテーブルと列、および変換エラーの原因となったデータが含まれます。このエラーは通常、問題のテーブルの Oracle 定義とテーブルの PowerExchange 登録定義が一致しない場合に発生します。テーブルの正しい定義を使用して、PowerExchange に対してテーブルを再登録します。

PWX-10923 Oracle **キャプチャ:テーブル/列がエラーになっています:<OWNER>.<table\_name>.<column\_name>。SCN = <Oracle\_SCN>。SCN レコードシーケンス= <nth\_record\_with\_this\_SCN>。**

説明： 指定された列に、テーブルの PowerExchange 登録定義と一致しないデータが含まれています。

システムのアクション： Oracle キャプチャの処理が終了します。

ユーザの応答： このメッセージは、メッセージ PWX-10922 と一緒に発行されます。メッセージ PWX-10922 の「対策」を参照します。

PWX-10924 Oracle **キャプチャ：エラーになっている LogMiner 文が続いて表示されます。**

説明： 以下の LogMiner 文には、文で指定されたテーブルの PowerExchange 登録定義と一致しないデータが含まれています。

システムのアクション： Oracle キャプチャの処理が終了します。

ユーザの応答： このメッセージは、メッセージ PWX-10922 と一緒に発行されます。  
メッセージ PWX-10922 の「対策」を参照します。

PWX-10931 **データを格納しているときにキューエラーが発生しました**

説明： このメッセージは現在使用されていません。

ユーザの応答： このメッセージは現在使用されていません。

PWX-10953 **Oracle キャプチャ: リスタートトークンのシーケンス情報がありません。**

説明： 前に指定されたキャプチャソースの Oracle キャプチャリスタートトークンにシーケンス情報が含まれていません。処理のリスタート中は、これで正常です。

システムのアクション： Oracle キャプチャは処理を続行します。

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-10954 **Oracle キャプチャ: リスタートトークンのシーケンス情報が続いて表示されます。**

説明： Oracle のリスタートに使用される情報が印刷されます。

システムのアクション： Oracle キャプチャは処理を続行します。

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-10955 **Oracle キャプチャ: リスタートトークン** Oracle  
DBNAME:<Oracle\_database\_name>

説明： このメッセージでは、Oracle キャプチャプロセスの接続先である Oracle データベースの名前がレポートされます。

システムのアクション： キャプチャ処理は続行されます。

ユーザの応答： リスタートエラーが発生しない場合、対応する必要はありません。リスタートエラーが発生する場合は、DBMOVE 構成ファイルにある CAPI\_CONNECTION(TYPE=ORCL)文の ORACOLL パラメータを使用して、PowerExchange リスナのあるシステムを探します。また、ORACLEID 文の 4 番目のパラメータを調べて、Oracle 接続文字列がリスタートトークンと同じ Oracle インスタンスを指しているようにします。

PWX-10956 **Oracle キャプチャ: リスタートトークンのリスタート情報 - 読み取り SCN 開始:<Oracle\_SCN>**

説明： これは、Oracle キャプチャが Oracle ログデータの読み込みを開始する Oracle SCN を指定します。

システムのアクション： Oracle キャプチャは処理を続行します。

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-10957	<b>Oracle キャプチャ:リスタートトークンのリスタート情報 - 戻りデータ SCN 開始: &lt;Oracle_SCN&gt;</b>
説明:	これは、Oracle キャプチャが、呼び出し元に Oracle ログデータを戻すのを開始する Oracle SCN を指定します。
システムのアクション:	Oracle キャプチャは処理を続行します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-10958	<b>Oracle キャプチャ:リスタートトークンのシーケンス情報 - SCN: &lt;Oracle_SCN&gt;</b>
説明:	これは、Oracle キャプチャの呼び出し元が処理した最後のレコードの内部変更シーケンス番号の Oracle SCN 部分を指定します。
システムのアクション:	Oracle キャプチャは処理を続行します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-10959	<b>Oracle キャプチャ:リスタートトークンのシーケンス情報 - SCN シーケンス: &lt;Oracle_SCN&gt;</b>
説明:	これは、Oracle キャプチャの呼び出し元が処理した最後のレコードの内部変更シーケンス番号の Oracle キャプチャ生成部分を指定します。
システムのアクション:	Oracle キャプチャは処理を続行します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-10961	<b>Oracle キャプチャ:コレクション ID&lt;collection_ID&gt;からの Oracle SID &lt;Oracle_SID&gt;が、接続されている SID &lt;Oracle_SID&gt;と一致しません。</b>
説明:	リポジトリとキャプチャの Oracle 接続文字列が、異なる Oracle インスタンスをポイントしています。
システムのアクション:	Oracle キャプチャの処理が終了します。
ユーザの応答:	ローカルの dbmover.cfg CAPI_CONNECTION (TYPE=ORCL)文でポイントされた dbmover.cfg ORACLEID 文のパラメータ 3 と 4 が、同じ Oracle インスタンスをポイントしていることを確認します。
PWX-10962	<b>Oracle キャプチャ:error_occurredが、Oracle V\$PARAMETER に問い合わせ中に発生しました。戻りコード= &lt;return_code&gt;。Oracle メッセージが続いて表示されます。</b>
説明:	Oracle キャプチャが V\$PARAMETER ダイナミックビューにアクセスできませんでした。
システムのアクション:	Oracle キャプチャの処理が終了します。
ユーザの応答:	このメッセージの前後のエラーメッセージを確認して、これらのメッセージの「対策」フィールドで指定されたエラーリカバリを実行し、Oracle キャプチャをリスタートします。

PWX-10963	Oracle キャプチャ: <i>error_occurred</i> が、以下の属性処理を実行中に発生しました。戻りコード <i>&lt;return_code&gt;</i> 。Oracle メッセージが続いて表示されます。
説明:	Oracle OCI セッションパラメータの設定中に、Oracle キャプチャがエラーを検出しました。
システムのアクション:	Oracle キャプチャの処理が終了します。
ユーザの応答:	このメッセージの前後のエラーメッセージを確認して、これらのメッセージの「対策」フィールドで指定されたエラーリカバリを実行し、Oracle キャプチャをリスタートします。
PWX-10964	ORCL 警告: テーブル <i>creator.table_name</i> の ROW MOVEMENT が有効になっています。ROWID は使用できません。
説明:	登録された Oracle テーブルで行の移動が有効になっています。PowerExchange Oracle CDC with LogMiner はテーブルの ROWID 値をキャプチャしません。これは、行の移動によって ROWID 値が変更される可能性があるためです。このメッセージは、dbmover コンフィギュレーションファイルの ORCL CAPI_CONNECTION 文の ROWID パラメータが [Y] または [ALLOW] に設定されている場合に発行されます。
システムのアクション:	ROWID パラメータが [Y] に設定されている場合は PowerExchange のキャプチャ処理が終了します。ROWID パラメータが [ALLOW] に設定されている場合は PowerExchange のキャプチャ処理は続行されます。
ユーザの応答:	ROWID パラメータが [Y] に設定されていても、行の移動が有効になっているテーブルを PowerExchange が検出した場合にキャプチャ処理を続行する場合は、ROWID パラメータを [ALLOOW] に設定します。テーブルの行移動が有効になっているかどうかを PowerExchange に確認せず、ROWID 値のキャプチャが不要な場合は、ROWID パラメータを [N] に設定します。
PWX-10965	Oracle 変更データキャプチャが異常終了しました。
説明:	Oracle 変更データキャプチャを異常終了させたエラーを PowerExchange が検出しました。
システムのアクション:	PowerExchange 呼び出しが失敗します。
ユーザの応答:	エラーの原因を特定するには、メッセージログのこのメッセージの前のメッセージを確認します。
PWX-10966	Oracle キャプチャ: 内部エラー: テーブル <i>&lt;OWNER&gt;</i> のソースリスタート情報が見つかりません。 <i>&lt;table_name&gt;</i> 、PowerExchange タグ <i>&lt;registration_tag_name&gt;</i> 。
説明:	Oracle キャプチャの呼び出し元が、指定されたテーブルの Oracle キャプチャにリスタート情報を送信できませんでした。
システムのアクション:	Oracle キャプチャの処理が終了します。

ユーザの応答：	これは内部エラーです。Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-10967	Oracle キャブチャ: <b>error_occurred</b> が、SCN 差分開始/終了を確認中に発生しました。戻りコード= <code>&lt;return_code&gt;</code> 。 Oracle メッセージが続いて表示されます。
説明：	Oracle キャブチャは、現在の SCN とリスタート SCN 間の差分を決定できませんでした。
システムのアクション：	Oracle キャブチャの処理が終了します。
ユーザの応答：	次のエラーメッセージを確認して、Oracle がこの情報にアクセスできなかった原因を特定します。Oracle キャブチャは、SYS1.DUAL からの SELECT によってこの処理を実行します。最も可能性が高いこの問題の原因は、このテーブルに対するアクセス可能性の障害と考えられます。問題を修正して、Oracle キャブチャをリスタートします。
PWX-10970	Oracle キャブチャ: SCN <code>&lt;Oracle_SCN&gt;</code> シーケンス <code>&lt;nth_instance_of_SCN&gt;</code> でフォーマットされていないログデータが見つかりました。
説明：	LogMiner は、報告された Oracle SCN にあるログデータをフォーマットしませんでした。
システムのアクション：	Oracle キャブチャは、dbmover.cfg パラメータの BYPASSUF 値に基づいて終了または続行されます。'Y' が指定されていると、続行します。そうでない場合は、Oracle キャブチャ処理が終了します。BYPASSUF パラメータの使用の詳細については、『リファレンスマニュアル』を参照してください。
ユーザの応答：	BYPASSUF=Y を指定せずに実行しても Oracle キャブチャの処理が終了する場合は、Informatica グローバルカスタマサポートに連絡します。
PWX-10971	Oracle キャブチャ: <b>警告: 認識されないオーバーライド: 値 <code>&lt;override_name&gt;</code>。 <code>&lt;override_value&gt;</code></b> Oracle キャブチャインタフェースに渡されました。
説明：	Oracle キャブチャが、呼び出し元から不明なオーバーライドパラメータを受け取りました。
システムのアクション：	Oracle キャブチャは処理を続行します。
ユーザの応答：	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-10972	Oracle キャブチャ: <b>スキーマオーバーライドを使用しているときは、複数のスキーマをキャブチャできません。</b>
説明：	ユーザーが DBMOVE 入力パラメータとして ORASchema オーバーライドを指定した場合、Oracle キャブチャは、複数のスキーマのテーブルをキャブチャする要求を受信しました。
システムのアクション：	Oracle キャブチャの処理が終了します。

ユーザの応答：      オーバーライドするスキーマに存在しないすべてのテーブルに対して、新しい DBMOVE タスクを作成し、現在の DBMOVE タスクからこれらのテーブルを削除します。

PWX-10973      Oracle **キャプチャ:テーブル** <schema\_name>. <table\_name>

説明：      Oracle キャプチャは、指定されたテーブルのキャプチャ登録を読み込んでいます。

システムのアクション：      Oracle キャプチャは処理を続行します。

ユーザの応答：      対応する必要はありません。

PWX-10974      Oracle **キャプチャ:テーブル** <schema\_name> <table\_name> **の登録を使用してオーバーライドテーブル** <schema\_name> **を処理します。** <table\_name>

説明：      Oracle キャプチャは、渡されたオーバーライド指示に従って、1 つ目のテーブルのキャプチャ登録を使用して 2 つ目のテーブルを処理します。

システムのアクション：      Oracle キャプチャは処理を続行します。

ユーザの応答：      対応する必要はありません。

PWX-10975      Oracle **キャプチャ:テーブル** <schema\_name> <table\_name> **の登録を使用してグローバルオーバーライドテーブル** <schema\_name> **を処理。** <table\_name>

説明：      Oracle キャプチャは、渡されたグローバルスキーマオーバーライド名に基づいて、1 つ目のテーブルのキャプチャ登録を使用して 2 つ目のテーブルを処理します。

システムのアクション：      Oracle キャプチャは処理を続行します。

ユーザの応答：      対応する必要はありません。

PWX-10976      Oracle **キャプチャ:重複するトランザクション** *transaction\_id* **が SCN** <SCN>、**SCN レコードシーケンス** <nth\_record\_with\_this\_SCN> **で見つかりました。**

説明：      Oracle キャプチャは、Oracle LogMiner がすでに変更データを報告しているアクティブトランザクション ID "begin transaction" レコードを見つけました。

システムのアクション：      Oracle キャプチャの処理が終了します。

ユーザの応答：      これは、Oracle LogMiner エラーの可能性ががあります。Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。



## 第 2 章

# PWX-11000～PWX-15999

この章では、以下の項目について説明します。

- [PWX-11000～PWX-11999, 105](#) ページ
- [PWX-12000～PWX-12999, 115](#) ページ
- [PWX-13000～PWX-13999, 118](#) ページ
- [PWX-14000～PWX-14999, 121](#) ページ
- [PWX-15000～PWX-15999, 143](#) ページ

## PWX-11000～PWX-11999

PWX-11000	<b>HASH:内部エラー:Null トークンポインタが <i>function_name</i> に渡されました。</b>
説明:	PowerExchange の内部ハッシュ関数に必要な共有データポインタがありません。
システムのアクション:	ハッシュ機能を使用している PowerExchange 関数によって異なります。
ユーザの応答:	これは内部エラーです。Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-11001	<b>HASH: <i>data_description</i> にストレージを割り当てられません。</b>
説明:	内部 PowerExchange ハッシュ関数が、必要なストレージを割り当てられません。
システムのアクション:	ハッシュ機能を使用している PowerExchange 関数によって異なります。
ユーザの応答:	プロセスに対するストレージの不足が存在する原因を特定します。問題を修正して、関数を再試行します。
PWX-11002	<b>HASH:無効なアイキャッチャが <i>function_name:&lt;eyecatcher_value&gt;</i> に渡されました。</b>
説明:	PowerExchange の内部ハッシュ関数に必要な共有ストレージが破損しました。

システムのアクション:	ハッシュ機能を使用している PowerExchange 関数によって異なります。
ユーザの応答:	これは内部エラーです。Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-11003	<b>HASH:無効なトークンアドレスが <i>function_name</i>.パス = &lt;hex_address&gt;; 予期した値 = &lt;hex_address&gt;に渡されました。</b>
説明:	PowerExchange の内部ハッシュ関数に必要な共有ストレージが破損しました。
システムのアクション:	ハッシュ機能を使用している PowerExchange 関数によって異なります。
ユーザの応答:	これは内部エラーです。Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-11004	<b>ハッシュ: 内部エラー: 空ではないハッシュテーブルは破壊できません。</b>
説明:	内部 PowerExchange 関数が、テーブルのコンテンツを処理せずにハッシュテーブルを破壊しようとしてしました。
システムのアクション:	ハッシュ機能を使用している PowerExchange 関数によって異なります。
ユーザの応答:	これは内部エラーです。Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-11005	<b>HASH:<i>function_name</i> にキー値が渡されていません。</b>
説明:	内部 PowerExchange 関数が、データのハッシュキーを提供しないで、ハッシュテーブルからデータを取得したり、ハッシュテーブルにデータを挿入しようとしてしました。
システムのアクション:	ハッシュ機能を使用している PowerExchange 関数によって異なります。
ユーザの応答:	これは内部エラーです。Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-11006	<b>HASH:内部エラー:Null オブジェクトポインタが <i>function_name</i> に渡されました。</b>
説明:	内部 PowerExchange 関数が、挿入するデータを提供しないで、ハッシュテーブルにデータを挿入しようとしてしました。
システムのアクション:	ハッシュ機能を使用している PowerExchange 関数によって異なります。
ユーザの応答:	これは内部エラーです。Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-11007	<b>HASH:内部エラー:Null 検索トークンポインタが <i>function_name</i> に渡されました。</b>
説明:	内部 PowerExchange 関数が、テーブル内での関数の現在の位置を特定するのに必要なデータを提供しないで、ハッシュテーブルのデータを逐次取得しようとした。
システムのアクション:	ハッシュ機能を使用している PowerExchange 関数によって異なります。
ユーザの応答:	これは内部エラーです。Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-11008	<b>HASH:内部エラー:トークンが <i>function_name</i> に渡されていません。</b>
説明:	PowerExchange の内部ハッシュ関数に必要な共有データポインタがありません。
システムのアクション:	ハッシュ機能を使用している PowerExchange 関数によって異なります。
ユーザの応答:	これは内部エラーです。Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-11009	<b>HASH:内部エラー:検索トークンが <i>function_name</i> に渡されていません。</b>
説明:	内部 PowerExchange 関数が、テーブル内での関数の現在の位置を特定するのに必要なデータを提供しないで、ハッシュテーブルのデータを逐次取得しようとした。
システムのアクション:	ハッシュ機能を使用している PowerExchange 関数によって異なります。
ユーザの応答:	これは内部エラーです。Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-11010	<b>HASH:無効な検索トークンアドレスが <i>function_name</i> に渡されました: バス =&lt;hex_address&gt;; 予期した値 = &lt;hex_address&gt;に渡されました。</b>
説明:	内部 PowerExchange 関数がハッシュテーブルからデータを逐次取得しようとしたが、ハッシュ関数に無効なトークンを渡しました。
システムのアクション:	ハッシュ機能を使用している PowerExchange 関数によって異なります。
ユーザの応答:	これは内部エラーです。Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-11011	<b>HASH:内部エラー:Null キーポインタが <i>function_name</i> に渡されました。</b>
説明:	内部 PowerExchange 関数が、データのハッシュキーを提供しないで、ハッシュテーブルからデータを取得したり、ハッシュテーブルにデータを挿入しようとした。
システムのアクション:	ハッシュ機能を使用している PowerExchange 関数によって異なります。

ユーザの応答： これは内部エラーです。Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-11012 **ハッシュ: 内部エラー: 検索モードになっていません。**

説明： 内部 PowerExchange 関数が、テーブル内の位置を初期化しないで、ハッシュからデータを逐次取得しようとした。

システムのアクション： ハッシュ機能を使用している PowerExchange 関数によって異なります。

ユーザの応答： これは内部エラーです。Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-11050 **Oracle キャプチャ: サーバーコードページ <code\_page\_of\_Oracle\_server> の LogMiner データを UTF8 に変換できません。**

説明： Oracle LogMiner では、クライアントから要求されたコードページの代わりに、サーバーのコードページの redo/undo データを返すことができます。このデータを有効なフォーマットに変換するために使用される Oracle コードページ変換関数が失敗しました。

システムのアクション： Oracle キャプチャの処理が終了します。

ユーザの応答： これは、Oracle エラーの可能性があり、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-11051 **Oracle キャプチャ: Oracle は、クライアントコードページを返そうとしてエラーコード *return\_code* を返しました。**

説明： クライアントのコードページを返すために使用した Oracle OCI 呼び出しが、メッセージに示されているエラーコードで失敗しました。

システムのアクション： Oracle キャプチャの処理が終了します。

ユーザの応答： これは、Oracle エラーの可能性があり、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。使用している Oracle クライアントソフトウェアが、少なくとも 9.2.0.3 レベルであることを確認します。

PWX-11054 **Oracle キャプチャ: *error\_occurred* が、データベースコードページの検索中に発生しました。戻りコード= <return\_code>。Oracle メッセージが続いて表示されます。**

説明： データをキャプチャする Oracle データベースについて、そのデータベースコードページを見つける処理でエラーが発生しました。

システムのアクション： Oracle キャプチャの処理が終了します。

ユーザの応答： このメッセージの前後のエラーメッセージを確認します。これらのエラーメッセージの「対策」に示されている指示に従って問題を解決し、Oracle キャプチャをリスタートします。問題として可能性があるのは、セッションを実行するために使用している Oracle ユーザーが、PUBLIC.V\$NLS\_PARAMETERS ダイナミックビューへの SELECT アクセス権を持っていないことです。

PWX-11057	<b>Oracle キャプチャ:UTF8 の LogMiner データをサーバーコードページ <i>code_page_of_Oracle_server</i>に変換できません。</b>
説明:	PWX バージョン 8.5 より前に作成された PowerExchange Oracle キャプチャ登録では、Oracle データベースサーバーのコードページで文字データを格納しますが、データの処理は UTF8 コードページで行われます。UTF8 からサーバーコードページへの変換が失敗しました。
システムのアクション:	Oracle キャプチャの処理が終了します。
ユーザの応答:	これは、Oracle エラーの可能性あります。Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-11058	<b>Oracle キャプチャ:属性&lt;<i>attribute</i>&gt;の値&lt;<i>value</i>&gt;を処理しています</b>
説明:	PowerExchange Oracle キャプチャが指定された属性と値を見つけました。
システムのアクション:	処理は継続します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-11059	<b>Oracle キャプチャ:OCI モジュール&lt;<i>module_name</i>&gt;を読み込んでいます</b>
説明:	PowerExchange Oracle キャプチャが OCI モジュールを読み込んでいます。
システムのアクション:	処理は継続します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-11060	<b>Oracle キャプチャ:OCI 環境を作成しています</b>
説明:	PowerExchange Oracle キャプチャが OCI 環境を作成しています。
システムのアクション:	処理は継続します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-11061	<b>Oracle キャプチャ:OCI エラーハンドルを作成しています</b>
説明:	PowerExchange Oracle キャプチャが OCI エラーハンドルを作成しています。
システムのアクション:	処理は継続します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-11062	<b>Oracle キャプチャ:OCI サーバーハンドルを作成しています</b>
説明:	PowerExchange Oracle キャプチャが OCI サーバーハンドルを作成しています。

システムのアクション: 処理は継続します。  
ン:

ユーザの応答: 対応する必要はありません。

PWX-11063      Oracle **キャプチャ:OCI サービスコンテキストハンドルを作成しています**

説明:            PowerExchange Oracle キャプチャが OCI サービスコンテキストハンドルを作成しています。

システムのアクション: 処理は継続します。  
ン:

ユーザの応答: 対応する必要はありません。

PWX-11064      Oracle **キャプチャ:server\_name サーバー (location から) に接続しています**

説明:            PowerExchange Oracle キャプチャは、指定された場所から指定の Oracle サーバーに接続しています。

システムのアクション: 処理は継続します。  
ン:

ユーザの応答: 対応する必要はありません。

PWX-11065      Oracle **キャプチャ:OCI サービスコンテキストサーバー属性を設定しています**

説明:            PowerExchange Oracle キャプチャが OCI サービスコンテキストサーバー属性を設定しています。

システムのアクション: 処理は継続します。  
ン:

ユーザの応答: 対応する必要はありません。

PWX-11066      Oracle **キャプチャ:OCI セッションハンドルを作成しています**

説明:            PowerExchange Oracle キャプチャが OCI セッションハンドルを作成しています。

システムのアクション: 処理は継続します。  
ン:

ユーザの応答: 対応する必要はありません。

PWX-11067      Oracle **キャプチャ:セッションユーザー ID 属性を<userid>/UTF8<code\_page>に設定しています**

説明:            PowerExchange Oracle キャプチャはユーザー ID 属性を指定された値に設定しています。

システムのアクション: 処理は継続します。  
ン:

ユーザの応答: 対応する必要はありません。

PWX-11068      Oracle **キャプチャ:セッションパスワード属性を<password>に設定しています**

説明：              PowerExchange Oracle キャプチャがパスワード属性を指定された値に設定しています。

システムのアクション：      処理は継続します。

ユーザの応答：      対応する必要はありません。

PWX-11069      Oracle **キャプチャ:OCI セッションを作成しています**

説明：              PowerExchange Oracle キャプチャが OCI セッションを作成しています。

システムのアクション：      処理は継続します。

ユーザの応答：      対応する必要はありません。

PWX-11070      Oracle **キャプチャ:OCI サービスコンテキストセッション属性を設定しています**

説明：              PowerExchange Oracle キャプチャが OCI サービスコンテキストセッション属性を設定しています。

システムのアクション：      処理は継続します。

ユーザの応答：      対応する必要はありません。

PWX-11071      Oracle **キャプチャ:Oracle セッションセットアップが正常に完了しました: Oracle\_version**

説明：              PowerExchange は、Oracle セッションを正常に設定しました。

システムのアクション：      処理は継続します。

ユーザの応答：      対応する必要はありません。

PWX-11072      Oracle **キャプチャ:ソースセットアップが完了しました**

説明：              PowerExchange Oracle キャプチャはソースを正常に設定しました。

システムのアクション：      処理は継続します。

ユーザの応答：      対応する必要はありません。

PWX-11073      Oracle **キャプチャ:次のカタログ書き込みが time で行われます**

説明：              次のカタログ書き込みが指定の時間に行われます。

システムのアクション：      処理は継続します。

ユーザの応答：      対応する必要はありません。

PWX-11074	Oracle <b>キャプチャ: ログの終わり SCN を取得しています</b>
説明:	PowerExchange Oracle キャプチャは SCN の取得のプロセスを開始しています。
システムのアクション:	処理は継続します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-11075	Oracle <b>キャプチャ: ログの終わり SCN &lt;SCN&gt;</b>
説明:	PowerExchange Oracle キャプチャが SCN を正常に取得しました。
システムのアクション:	処理は継続します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-11076	Oracle <b>キャプチャ: スレッド&lt;thread&gt;、ターゲット&lt;dest&gt;、SCN &lt;SCN&gt;のアーカイブログを検索しています</b>
説明:	PowerExchange Oracle キャプチャは、指定されたスレッド、接続先、SCN のアーカイブログを検索しています。
システムのアクション:	処理は継続します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-11077	Oracle <b>キャプチャ: アーカイブログ&lt;archive_log&gt;を使用しています</b>
説明:	PowerExchange Oracle キャプチャは指定されたアーカイブログを使用しています。
システムのアクション:	処理は継続します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-11078	Oracle <b>キャプチャ: LogMiner の開始時の SCN&lt;SCN&gt;を使用しています</b>
説明:	PowerExchange Oracle キャプチャが LogMiner の開始に指定された SCN を使用しています。
システムのアクション:	処理は継続します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-11079	Oracle <b>キャプチャ: スレッド&lt;thread_num&gt;ターゲット&lt;dest&gt;のログが見つかりません</b>
説明:	PowerExchange Oracle キャプチャは指定されたスレッドと接続先のログが見つかりません。
システムのアクション:	処理は継続します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。



PWX-11080      Oracle **キャプチャ: リスタートポイント<restart\_point>に達しました**

説明:            PowerExchange Oracle キャプチャはリスタートポイントに達しました。

システムのアクション: 処理は継続します。  
ン:

ユーザの応答:    対応する必要はありません。

PWX-11081      Oracle **キャプチャ: カタログを書き込んでいます**

説明:            PowerExchange Oracle キャプチャがカタログを書き込んでいます。

システムのアクション: 処理は継続します。  
ン:

ユーザの応答:    対応する必要はありません。

PWX-11082      SCN <scr>**を処理しています。現在の SCN は<current\_scr>です**

説明:            PowerExchange Oracle は指定された SCN を処理しています。メッセージテキストには現在の SCN が表示されます。

システムのアクション: 処理は継続します。  
ン:

ユーザの応答:    対応する必要はありません。

PWX-11083      *number\_calls* Oracle LogMiner **呼び出し。**

説明:            Oracle LogMiner は指定された回数の呼び出しを行いました。

システムのアクション: 処理は継続します。  
ン:

ユーザの応答:    対応する必要はありません。

PWX-11084      *number\_read\_calls* **は選択のためにポーリングします。**

説明:            Oracle LogMiner は、指定された回数の呼び出しを行った後で、選択のためにポーリングします。

システムのアクション: 処理は継続します。  
ン:

ユーザの応答:    対応する必要はありません。

PWX-11085      *number\_read\_waits* Oracle LogMiner **は選択のために待機します。**

説明:            このメッセージは、LogMiner によって返されるレコードを待機するために待機状態になった回数を示します。

システムのアクション: 処理は継続します。  
ン:

ユーザの応答:    対応する必要はありません。

PWX-11086	<b><i>reads_ratio</i> 呼び出しあたりの選択数。</b>
説明:	このメッセージは、呼び出し回数/読み込み回数率を示します。
システムのアクション:	処理は継続します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-11087	<b><i>waits_ratio</i> 呼び出しあたりの待機数。</b>
説明:	このメッセージは、待機回数/読み込み回数率を示します。
システムのアクション:	処理は継続します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-11088	<b>現在の OCI プリフェッチ値:<i>OCI_prefetch</i></b>
説明:	このメッセージは、Oracle キャプチャで使用されている、現在の OCI フェッチ配列サイズの値を示します。
システムのアクション:	処理は継続します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-11089	<b>現在時刻:<i>current_time</i></b>
説明:	このメッセージは、今現在と現在処理中のログレコードとの間の時間差を判断するために使われる、現在時刻を示します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-11090	<b>最後に処理されたログレコードのタイムスタンプ:<i>timestamp_of_last_log_record</i></b>
説明:	このメッセージは、今現在と現在処理中のログレコードとの間の時間差を判断するために使われる、最後に処理されたログレコードのタイムスタンプを示します。
システムのアクション:	処理は継続します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-11091	<b>時間差（秒単位）:<i>time_in_seconds</i></b>
説明:	このメッセージは、今現在と現在処理中のログレコードのタイムスタンプとの間の時間差（秒単位）を示します。
システムのアクション:	処理は継続します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。

PWX-11092	<b>OCI 提供の Oracle クライアントバージョンが 10.2 より前です</b>
説明:	Oracle バージョンが 10.2 よりも古い場合、PowerExchange が Oracle Call Interface (OCI) から Oracle クライアントバージョンを取得できません。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-11093	<b>OCI Oracle クライアント情報:バージョン:version.release、更新番号:update_number、パッチ番号:patch_number、ポート更新番号:port_update_number</b>
説明:	このメッセージには、Oracle Call Interface (OCI) が PowerExchange に返した Oracle クライアントのバージョンとメンテナンステレベルが表示されます。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。

## PWX-12000～PWX-12999

PWX-12500	<b>Xpath が見つかりませんでした</b>
説明:	要求した XML エレメント (XPath 構文の使い方を参照) が構成ドキュメントで見つかりませんでした。
システムのアクション:	呼び出し側のアプリケーションによって異なります。
ユーザの応答:	要求したエレメントが構成ファイルにあることを確認します。
PWX-12501	<b>XML 構成ファイルを開けません</b>
説明:	要求した XML 構成ドキュメントが存在しません。
システムのアクション:	エラーがレポートされました。プログラムは終了します。
ユーザの応答:	構成ファイルが存在し、パスが正しいことを確認します。
PWX-12502	<b>XML ドキュメントが大きすぎます</b>
説明:	要求した XML 構成ドキュメントが、最大サイズの 4KB をはるかに超えています。
システムのアクション:	PowerExchange はエラーを報告し、プログラムは終了します。
ユーザの応答:	構成ファイルのサイズを小さくします。
PWX-12503	<b>ターゲットの種類パラメータが無効です</b>
説明:	ターゲットの種類パラメータが無効です。128 文字以内の文字列を指定します。

システムのアクション: PowerExchange はエラーを報告し、プログラムは終了します。  
ン:

ユーザの応答: 有効なターゲットの種類の文字列を使用します。

**PWX-12504 無効な場所パラメータです**

説明: 場所パラメータが無効です。128 文字以内の文字列を指定します。

システムのアクション: PowerExchange はエラーを報告し、プログラムは終了します。  
ン:

ユーザの応答: 有効な場所文字列を使用します。

**PWX-12505 無効なターゲットです**

説明: ターゲットパラメータが無効です。128 文字以内の文字列を指定します。

システムのアクション: PowerExchange はエラーを報告し、プログラムは終了します。  
ン:

ユーザの応答: 有効なターゲット文字列を使用します。

**PWX-12506 無効なトレースファイル名です。**

説明: パラメータトレースファイルが無効です。128 文字以内の文字列が必要です。

システムのアクション: PowerExchange はエラーを報告し、プログラムは終了します。  
ン:

ユーザの応答: 有効なトレースファイル文字列を使用します。

**PWX-12507 無効なユーザー ID です**

説明: ユーザー ID パラメータが無効です。128 文字以内の文字列を指定します。

システムのアクション: PowerExchange はエラーを報告し、プログラムは終了します。  
ン:

ユーザの応答: 有効なユーザー ID 文字列を使用します。

**PWX-12508 無効なパスワード**

説明: パスワードパラメータが無効です。128 文字以内の文字列を指定します。

システムのアクション: PowerExchange はエラーを報告し、プログラムは終了します。  
ン:

ユーザの応答: 有効なパスワード文字列を使用します。

**PWX-12509 無効なコミットの種類です**

説明: コミットの種類パラメータが無効です。1 文字の文字列を指定します。

システムのアクション: PowerExchange はエラーを報告し、プログラムは終了します。  
ン:

ユーザの応答： 有効なコミットの種類の文字列を使用します。ランダムコミットインターバルの場合には R、それ以外の場合にはデフォルトの 1000 に設定されます。

**PWX-12510 無効な最大レコード数です（数値を指定します）**

説明： 最大レコード数パラメータが無効です。数値を指定します。

システムのアクション： PowerExchange はエラーを報告し、プログラムは終了します。

ユーザの応答： 有効な最大レコード数文字列を使用します。

**PWX-12511 無効なコミット間隔です（数値を指定します）**

説明： コミット間隔パラメータが無効です。数値でなければなりません。

システムのアクション： PowerExchange はエラーを報告し、プログラムは終了します。

ユーザの応答： 有効なコミット間隔文字列を使用します。

**PWX-12512 無効なスリープ間隔です（数値を指定します）**

説明： スリープ間隔パラメータが無効です。数値でなければなりません。単位は 1/1000 秒です。

システムのアクション： PowerExchange はエラーを報告し、プログラムは終了します。

ユーザの応答： 有効なスリープ間隔文字列を使用します。

**PWX-12513 無効なユーザー ID ランダム値です（Y または N を指定します）**

説明： ユーザー ID ランダムパラメータが無効です。Y または N を指定します。

システムのアクション： PowerExchange はエラーを報告し、プログラムは終了します。

ユーザの応答： パラメータに Y または N のいずれかを入力します。

**PWX-12514 無効なユーザー ID パターンです**

説明： ユーザー ID パターンパラメータが無効です。100 文字以内の文字列が必要です。

システムのアクション： PowerExchange はエラーを報告し、プログラムは終了します。

ユーザの応答： 有効なユーザー ID パターン文字列を使用します。

**PWX-12515 無効な開始キーです（数値を指定します）**

説明： 開始キーパラメータが無効です。数値を指定します。

システムのアクション： PowerExchange はエラーを報告し、プログラムは終了します。

ユーザの応答： 有効な開始キー文字列を使用します。

PWX-12516	<b>無効な終了キーです（数値を指定します）</b>
説明：	終了キーパラメータが無効です。数値を指定します。
システムのアクション：	PowerExchange はエラーを報告し、プログラムは終了します。
ユーザの応答：	有効な終了キー文字列を使用します。
PWX-12517	<b>XML 処理はサポートされていません</b>
説明：	PowerExchange では XML 処理がサポートされていません。
システムのアクション：	PowerExchange はエラーを報告し、プログラムは終了します。
ユーザの応答：	DESCRIBE ELEMENTS および DOCS は、サポートされていません
PWX-12709	<b>DATAMAP 内部エラー: <i>description</i></b>
説明：	データマップの構築中に、内部エラーが発生しました。
システムのアクション：	要求が失敗します。
ユーザの応答：	関連するすべてのメッセージとログを収集します。その後、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

## PWX-13000～PWX-13999

PWX-13001	<b>解説: メモリ割り当てエラー</b>
説明：	指定された文字列の解釈中に内部エラーが発生しました。
システムのアクション：	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答：	Informatica グローバルカスタマサポートに報告し、エラーの発生時に実行していた関数をお知らせください。
PWX-13002	<b>解説: 入力 - 文字列内に無効な文字があります</b>
説明：	PowerExchange Decrypt 関数に渡された文字列内で無効な文字列が見つかりました。
システムのアクション：	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答：	ユーザーによる入力の場合は、関数に渡される文字列を修正します。そうでない場合は、Informatica グローバルカスタマサポートに連絡します。そのとき、エラーの発生時に実行していた関数を知らせます。
PWX-13003	<b>解説: 入力 - 無効な長さです</b>
説明：	PowerExchange Decrypt 関数に渡された文字列の長が無効です。

システムのアクション エラーが発生したタスクは終了します。  
ン：

ユーザの応答： ユーザーによる入力の場合は、関数に渡される文字列を修正します。  
そうでない場合は、Informatica グローバルカスタマサポートに連絡  
します。そのとき、エラーの発生時に実行していた関数を知らせま  
す。

**PWX-13004 解説: 入力 - 文字列は内部バッファです**

説明： PowerExchange Decrypt 関数が呼び出されましたが、入力文字列の  
メモリアドレスが、関数で使用するメモリアドレスと一致していま  
す。

システムのアクション エラーが発生したタスクは終了します。  
ン：

ユーザの応答： Informatica グローバルカスタマサポートに報告し、エラーの発生時  
に実行していた関数をお知らせください。

**PWX-13005 解説: 入力 - 文字列が Null です**

説明： 解説する値を指定しないで、PowerExchange Decrypt 関数が呼び出  
されました。

システムのアクション エラーが発生したタスクは終了します。  
ン：

ユーザの応答： ユーザーによる入力の場合は、関数に渡される文字列を修正します。  
そうでない場合は、Informatica グローバルカスタマサポートに連絡  
します。そのとき、エラーの発生時に実行していた関数を知らせま  
す。

**PWX-13006 解説: 出力 - 文字列サイズエラー**

説明： PowerExchange Decrypt 関数が呼び出されましたが、渡された入力  
文字列の解説値を返すのに十分なメモリが割り当てられていません。

システムのアクション エラーが発生したタスクは終了します。  
ン：

ユーザの応答： ユーザーによる入力の場合は、関数に渡される文字列を修正します。  
そうでない場合は、Informatica グローバルカスタマサポートに連絡  
します。そのとき、エラーの発生時に実行していた関数を知らせま  
す。

**PWX-13007 解説: 入力 - 文字列が長すぎます**

説明： PowerExchange Decrypt 関数が呼び出されましたが、解説する文字  
列の長さが、関数で許可されている文字列の長さを超えています。

システムのアクション エラーが発生したタスクは終了します。  
ン：

ユーザの応答： ユーザーによる入力の場合は、関数に渡される文字列を修正します。  
そうでない場合は、Informatica グローバルカスタマサポートに連絡  
します。そのとき、エラーの発生時に実行していた関数を知らせま  
す。

PWX-13008	<b>解説: 出力 - 文字列が短すぎます</b>
説明:	PowerExchange Decrypt 関数が呼び出されましたが、渡された入力文字列の解説値を返すのに十分なメモリが割り当てられていません。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	ユーザーによる入力の場合は、関数に渡される文字列を修正します。そうでない場合は、Informatica グローバルカスタマサポートに連絡します。そのとき、エラーの発生時に実行していた関数を知らせます。
PWX-13009	<b>暗号化: メモリ割り当てエラー</b>
説明:	指定された文字列の暗号化中に内部エラーが発生しました。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートに報告し、エラーの発生時に実行していた関数をお知らせください。
PWX-13010	<b>暗号化: 入力 - 文字列内に無効な文字があります</b>
説明:	PowerExchange Encrypt 関数に渡された文字列内で無効な文字列が見つかりました。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	ユーザーによる入力の場合は、関数に渡される文字列を修正します。そうでない場合は、Informatica グローバルカスタマサポートに連絡します。そのとき、エラーの発生時に実行していた関数を知らせます。
PWX-13011	<b>暗号化: 入力 - 文字列は内部バッファです</b>
説明:	PowerExchange Encrypt 関数が呼び出されましたが、入力文字列のメモリアドレスが、関数で使用するメモリアドレスと一致していません。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートに報告し、エラーの発生時に実行していた関数をお知らせください。
PWX-13012	<b>暗号化: 入力 - 文字列が Null です</b>
説明:	暗号化する値を指定しないで、PowerExchange Encrypt 関数が呼び出されました。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	ユーザーによる入力の場合は、関数に渡される文字列を修正します。そうでない場合は、Informatica グローバルカスタマサポートに連絡します。そのとき、エラーの発生時に実行していた関数を知らせます。



PWX-13013	<b>暗号化: 出力 - 文字列サイズエラー</b>
説明:	PowerExchange Encrypt 関数が呼び出されましたが、渡された入力文字列の暗号化された値を返すのに十分なメモリが割り当てられていません。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	ユーザーによる入力の場合は、関数に渡される文字列を修正します。そうでない場合は、Informatica グローバルカスタマサポートに連絡します。そのとき、エラーの発生時に実行していた関数を知らせます。
PWX-13014	<b>暗号化: 入力 - 文字列が長すぎます</b>
説明:	PowerExchange Encrypt 関数が呼び出されましたが、暗号化する文字列の長さが、関数で許可されている文字列の長さを超えています。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	ユーザーによる入力の場合は、関数に渡される文字列を修正します。そうでない場合は、Informatica グローバルカスタマサポートに連絡します。そのとき、エラーの発生時に実行していた関数を知らせます。

## PWX-14000～PWX-14999

PWX-14010	<b>setReadOnly()は、トランザクション内で呼び出すことはできません</b>
説明:	エラーが検出されました。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	問題を修正して再試行します。
PWX-14012	<b>カスタムマッピングはサポートされていません</b>
説明:	サポートされていない機能を使用しようとしてしました。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	問題を修正して再試行します。
PWX-14013	<b>SQL 文でのストアドプロシージャ呼び出しはサポートされていません</b>
説明:	サポートされていない機能を使用しようとしてしました。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。

ユーザの応答： 問題を修正して再試行します。

PWX-14014 **SQL 文でのスカラ関数はサポートされていません**

説明： サポートされていない機能を使用しようとした。

システムのアクション： エラーが発生したタスクは終了します。

ユーザの応答： 問題を修正して再試行します。

PWX-14015 **SQL 文での外部ジョインはサポートされていません**

説明： サポートされていない機能を使用しようとした。

システムのアクション： エラーが発生したタスクは終了します。

ユーザの応答： 問題を修正して再試行します。

PWX-14017 **エスケープ文字がありません**

説明： 構文エラーが検出されました。

システムのアクション： エラーが発生したタスクは終了します。

ユーザの応答： 問題を修正して再試行します。

PWX-14019 **Escape 句キーワードがありません**

説明： 構文エラーが検出されました。

システムのアクション： エラーが発生したタスクは終了します。

ユーザの応答： 問題を修正して再試行します。

PWX-14020 **エスケープシーケンスが不完全です。'}'がありません**

説明： 構文エラーが検出されました。

システムのアクション： エラーが発生したタスクは終了します。

ユーザの応答： 問題を修正して再試行します。

PWX-14031 **複数の ResultSets はサポートされていません**

説明： サポートされていない機能を使用しようとした。

システムのアクション： エラーが発生したタスクは終了します。

ユーザの応答： 問題を修正して再試行します。

PWX-14032 **バッチ更新はサポートされていません**

説明： サポートされていない機能を使用しようとした。

システムのアクション： エラーが発生したタスクは終了します。

ユーザの応答： 問題を修正して再試行します。

PWX-14034      **この方式は PreparedStatement とともに使用することはできません**

説明：                      エラーが検出されました。  
システムのアクション：      エラーが発生したタスクは終了します。  
ユーザの応答：              問題を修正して再試行します。

PWX-14035      **無効な最大フィールドサイズを無視しました**

説明：                      無効なフィールドサイズが指定されました。  
システムのアクション：      無効なフィールドサイズは無視されます。  
ユーザの応答：              有効なフィールドサイズを指定します。

PWX-14060      **CallableStatement はこのドライバではサポートされていません**

説明：                      サポートされていない機能を使用しようとしてしました。  
システムのアクション：      エラーが発生したタスクは終了します。  
ユーザの応答：              問題を修正して再試行します。

PWX-14081      **スクロール可能 ResultSets はサポートされていません**

説明：                      サポートされていない機能を使用しようとしてしました。  
システムのアクション：      エラーが発生したタスクは終了します。  
ユーザの応答：              問題を修正して再試行します。

PWX-14086      **現在の行が削除されています**

説明：                      エラーが検出されました。  
システムのアクション：      エラーが発生したタスクは終了します。  
ユーザの応答：              問題を修正して再試行します。

PWX-14087      **カーソルは、挿入行になければなりません**

説明：                      エラーが検出されました。  
システムのアクション：      エラーが発生したタスクは終了します。  
ユーザの応答：              問題を修正して再試行します。

PWX-14088      **カーソルは、挿入行にあってははいけません**

説明：                      エラーが検出されました。  
システムのアクション：      エラーが発生したタスクは終了します。  
ユーザの応答：              問題を修正して再試行します。

PWX-14090      **ゼロは、有効な行番号ではありません**

説明：                      エラーが検出されました。

システムのアクション：      エラーが発生したタスクは終了します。

ユーザの応答：              有効な行番号を指定します。

PWX-14091      **現在の行がありません**

説明：                      エラーが検出されました。

システムのアクション：      エラーが発生したタスクは終了します。

ユーザの応答：              問題を修正して再試行します。

PWX-14093      **ResultSet を閉じています**

説明：                      エラーが検出されました。

システムのアクション：      エラーが発生したタスクは終了します。

ユーザの応答：              問題を修正して再試行します。

PWX-14094      **ResultSet はスクロール可能ではありません**

説明：                      エラーが検出されました。

システムのアクション：      エラーが発生したタスクは終了します。

ユーザの応答：              問題を修正して再試行します。

PWX-14095      **ResultSet を更新できません**

説明：                      エラーが検出されました。

システムのアクション：      エラーが発生したタスクは終了します。

ユーザの応答：              問題を修正して再試行します。

PWX-14097      **カスタムマッピングはサポートされていません**

説明：                      サポートされていない機能を使用しようとしました。

システムのアクション：      エラーが発生したタスクは終了します。

ユーザの応答：              問題を修正して再試行します。

PWX-14101      **位置指定更新はサポートされていません**

説明：                      サポートされていない機能を使用しようとしました。

システムのアクション：      エラーが発生したタスクは終了します。

ユーザの応答：              問題を修正して再試行します。

PWX-14102      **挿入行が空です**

説明：                      エラーが検出されました。

システムのアクション：      エラーが発生したタスクは終了します。

ユーザの応答：              問題を修正して再試行します。

PWX-14200      **接続の割り当てに失敗しました**

説明：                      内部エラーが検出されました。

システムのアクション：      エラーが発生したタスクは終了します。

ユーザの応答：              問題を修正して再試行します。

PWX-14201      **PowerExchange の初期化に失敗しました**

説明：                      内部エラーが検出されました。

システムのアクション：      エラーが発生したタスクは終了します。

ユーザの応答：              問題を修正して再試行します。

PWX-14202      **必須パラメータ *parameter*がありません**

説明：                      構文エラーが検出されました。

システムのアクション：      エラーが発生したタスクは終了します。

ユーザの応答：              問題を修正して再試行します。

PWX-14203      **サポートされていない DBTYPE 値<value>**

説明：                      構文エラーが検出されました。

システムのアクション：      エラーが発生したタスクは終了します。

ユーザの応答：              問題を修正して再試行します。

PWX-14204      **DB\_OPEN に失敗しました。戻りコード=*return\_code***

説明：                      エラーが検出されました。

システムのアクション：      エラーが発生したタスクは終了します。

ユーザの応答：              問題を修正して再試行します。

PWX-14205      **文の割り当てに失敗しました**

説明：                      内部エラーが検出されました。

システムのアクション：      エラーが発生したタスクは終了します。

ユーザの応答：              問題を修正して再試行します。

PWX-14206      **DB\_DESCRIBE が失敗しました、戻りコード=*return\_code***

説明：              エラーが検出されました。

システムのアクション：      エラーが発生したタスクは終了します。

ユーザの応答：      問題を修正して再試行します。

PWX-14207      **DB\_READ に失敗しました。戻りコード=*return\_code***

説明：              エラーが検出されました。

システムのアクション：      エラーが発生したタスクは終了します。

ユーザの応答：      問題を修正して再試行します。

PWX-14208      **更新に失敗しました、戻りコード=*return\_code***

説明：              エラーが検出されました。

システムのアクション：      エラーが発生したタスクは終了します。

ユーザの応答：      問題を修正して再試行します。

PWX-14209      **ストレージの割り当てに失敗しました**

説明：              エラーが検出されました。

システムのアクション：      エラーが発生したタスクは終了します。

ユーザの応答：      問題を修正して再試行します。

PWX-14210      **無効な DTLXTYPE escape 句<*clause*>です**

説明：              構文エラーが検出されました。

システムのアクション：      エラーが発生したタスクは終了します。

ユーザの応答：      問題を修正して再試行します。

PWX-14211      **無効な DTLIMTYPE escape 句<*clause*>です**

説明：              指定された句で構文エラーが検出されました。

システムのアクション：      エラーが発生したタスクは終了します。

ユーザの応答：      問題を修正して再試行します。

PWX-14212      **DBNAME2 は CAPX/CAPXRT で必須です**

説明：              エラーが検出されました。

システムのアクション：      エラーが発生したタスクは終了します。

ユーザの応答：      問題を修正して再試行します。

PWX-14213	<b>コミットに失敗しました、戻りコード=<i>return_code</i></b>
説明:	エラーが検出されました。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	問題を修正して再試行します。
PWX-14214	<b>ロールバックに失敗しました、戻りコード=<i>&lt;return_code&gt;</i></b>
説明:	内部エラーが検出されました。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	問題を修正して再試行します。
PWX-14215	<b>列番号 <i>nnn</i> が範囲外です</b>
説明:	エラーが検出されました。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	問題を修正して再試行します。
PWX-14216	<b>サポートされていない SQL 文の種類<i>&lt;type&gt;</i>です</b>
説明:	サポートされていない機能を使用しようとしました。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	問題を修正して再試行します。
PWX-14217	<b>UPDATE 文に SET <i>がありません</i></b>
説明:	構文エラーが検出されました。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	問題を修正して再試行します。
PWX-14218	<b>パラメータ番号 <i>nnn</i> が範囲外です</b>
説明:	エラーが検出されました。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	問題を修正して再試行します。
PWX-14219	<b>INSERT 文に VALUES <i>がありません</i></b>
説明:	構文エラーが検出されました。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	問題を修正して再試行します。

PWX-14220	<b>不明な列名&lt;name&gt;</b>
説明:	エラーが検出されました。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	問題を修正して再試行します。
PWX-14221	<b>文にプレースホルダを含めることはできません</b>
説明:	構文エラーが検出されました。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	問題を修正して再試行します。
PWX-14222	<b>問い合わせ&lt;query&gt;には無効な SQL 文です。</b>
説明:	構文エラーが検出されました。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	問題を修正して再試行します。
PWX-14223	<b>DB_INSERT に失敗しました、戻りコード=return_code</b>
説明:	エラーが検出されました。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	問題を修正して再試行します。
PWX-14224	<b>SQL 文&lt;statement&gt;では WHERE が必要です。</b>
説明:	構文エラーが検出されました。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	問題を修正して再試行します。
PWX-14225	<b>DB_CLOSE に失敗しました。戻りコード=return_code</b>
説明:	エラーが検出されました。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	問題を修正して再試行します。
PWX-14226	<b>DB_CLOSECURSOR に失敗しました。戻りコード=return_code</b>
説明:	エラーが検出されました。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	問題を修正して再試行します。



PWX-14300	<b>DTLUCDEP 引数形式エラー: <i>keyword</i> が検出されました</b>
説明:	DTLUCDEP に提供されたパラメータまたは引数が <i>cs=keyword</i> で始まっていません。
システムのアクション:	要求が失敗します。
ユーザの応答:	引数を修正して、サブミットし直します。
PWX-14302	<b>フィールドオーバーライドが必要です</b>
説明:	コマンド解析メッセージで使用されます。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-14303	<b><i>parameter</i> を取得した保護されているデータを変更するには、オーバーライド値は FORCE でなければなりません。</b>
説明:	履歴の完全な消去を確認するには、オーバーライド値を FORCE として使用します。したがってパラメータは、0 の履歴、および "modify appl testam3 0 force" などの FORCE のオーバーライドでのみ有効です。
システムのアクション:	要求が失敗します。
ユーザの応答:	パラメータファイルを修正して、サブミットし直します。
PWX-14304	<b>問題 <i>rc</i> が、<i>key</i> など、使用されているキーのリストの維持中に発生しました。</b>
説明:	値リストの保守処理で問題が発生しました。考えられる原因は - メモリの問題です。
システムのアクション:	要求が失敗します。
ユーザの応答:	修正して、サブミットし直します。
PWX-14510	<b>トレースタスクを終了します。TRACING 文が構成ファイルにありません。</b>
説明:	DBMOVER コンフィギュレーションファイルに TRACING 文が含まれていません。
システムのアクション:	PowerExchange は、デフォルトの PowerExchange ログファイルにすべてのメッセージを書き込みます。代替ログは使用しません。
ユーザの応答:	代替 PowerExchange ログを使用するには、DBMOVER コンフィギュレーションファイルで TRACING パラメータを指定します。
PWX-14511	<b>トレースタスクを終了します。内部エラー: トレース通信領域が使用できません。</b>
説明:	代替ロギングタスクは、内部の通信制御ブロックを検出できませんでした。
システムのアクション:	PowerExchange は、デフォルトの PowerExchange ログファイルにすべてのメッセージを書き込みます。代替ログは使用しません。

ユーザの応答： 代替ロギングを使用する場合は、追加メッセージについて PowerExchange ログファイルを表示します。この問題を解決するには、これらのメッセージのユーザー対策に従います。

PWX-14514 **トレースタスクを終了します。内部エラー：トレースタスクは、このプラットフォームではサポートされていません。**

説明： プラットフォームで代替ロギングがサポートされていません。

システムのアクション： PowerExchange は、デフォルトの PowerExchange ログファイルにすべてのメッセージを書き込みます。代替ログは使用しません。

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-14515 **共有メモリフラッシュエラー：system\_error\_message**

説明： 共有メモリにデータを書き込もうとしているときに、代替ロギングタスクでエラーが発生しました。

システムのアクション： PowerExchange は、デフォルトの PowerExchange ログファイルにすべてのメッセージを書き込みます。代替ログは使用しません。

ユーザの応答： その他のメッセージについては、以下の PowerExchange ログファイルを参照してください。

- このプロセスの代替ログファイル
  - PowerExchange ログファイル
- この問題を修正するには、これらのログに示されたメッセージの対策の指示に従います。
- PowerExchange が関連エラーメッセージを発行していない場合は、このメッセージで示されたエラーに関する情報について、オペレーティングシステムのマニュアルを参照し、指定された対処法を実行します。
- z/OS では、関連するシステムメッセージを検索するために、ジョブについて JES ログを見直すことが必要になる場合があります。

PWX-14516 **トレースファイル<file\_name>への書き込み中にエラーが発生しました。エラーコード=<system\_error\_number>:  
<system\_error\_message>**

説明： 指定のトレースファイルへの書き込みをしようとしたときに、代替ロギングタスクでエラーが発生しました。

システムのアクション： PowerExchange は、デフォルトの PowerExchange ログファイルにすべてのメッセージを書き込みます。代替ログは使用しません。

ユーザの応答： その他のメッセージについては、以下の PowerExchange ログファイルを参照してください。

- このプロセスの代替ログファイル
- PowerExchange ログファイル

この問題を修正するには、これらのログに示されたメッセージの対策の指示に従います。

PowerExchange が関連エラーメッセージを発行していない場合は、このメッセージで示されたエラーに関する情報について、オペレーティングシステムのマニュアルを参照し、指定された対処法を実行します。

z/OS では、関連するシステムメッセージを検索するために、ジョブについて JES ログを見直すことが必要になる場合があります。

PWX-14517 **構成ファイルのパラメータ LOGPATH および TRACING/PFX で、トレースファイル名が *nnn* バイト長くなりすぎます。**

説明： PowerExchange は、DBMOVER コンフィギュレーションファイル内で、TRACING 文の LOGPATH パラメータおよび PFX パラメータを使用することにより、代替ログファイル名を作成します。PowerExchange では、これらの値により、実行するオペレーティングシステムに対して長すぎるファイル名が得られることを検出しました。

システムのアクション： PowerExchange は、デフォルトの PowerExchange ログファイルにすべてのメッセージを書き込みます。代替ログは使用しません。

ユーザの応答： 作成されるファイル名がオペレーティングシステムの条件を満たすように、LOGPATH パラメータの値、および TRACING 文の PFX パラメータを変更します。

PWX-14518 **ログファイル用のメモリを割り当てられません。**

説明： PowerExchange は、代替ロギング用のログファイルを作成するための十分なメモリを取得できません。

システムのアクション： PowerExchange は、デフォルトの PowerExchange ログファイルにすべてのメッセージを書き込みます。代替ログは使用しません。

ユーザの応答： PowerExchange タスクで使用可能なメモリ量を増やします。

PWX-14519 **ログファイル<file\_name>のファイル情報を判断しているときにエラーが発生しました。エラー =<system\_error\_number>: <system\_error\_message>**

説明： 最後のログファイルの終わりを特定しようとしたときに、代替ロギングタスクでエラーが発生しました。

メッセージテキスト：

- *file\_name* は、エラーが発生したログファイルの名前です。
- *system\_error\_number* は、エラーメッセージの番号です。
- *system\_error\_message* は、エラーメッセージのテキストです。

システムのアクション： 代替ロギングでは APPEND 処理が無視され、データのロギングを開始するために次のログファイルを使用します。

ユーザの応答： その他のメッセージについては、以下の PowerExchange ログファイルを参照してください。

- このプロセスの代替ログファイル
- PowerExchange ログファイル

この問題を修正するには、これらのログに示されたメッセージの対策の指示に従います。

PowerExchange が関連エラーメッセージを発行していない場合は、このメッセージで示されたエラーに関する情報について、オペレーティングシステムのマニュアルを参照し、指定された対処法を実行します。

z/OS では、関連するシステムメッセージを検索するために、ジョブについて JES ログを見直しすることが必要になる場合があります。

PWX-14520 **以前のエラーにより、ログファイル *file\_name* に追加できません。**

説明： 指定のログファイルの終わりを特定しようとしたときに、代替ロギングタスクでエラーが発生しました。

システムのアクション： 代替ロギングでは APPEND 処理が無視され、データのロギングを開始するために次のログファイルを使用します。

ユーザの応答： その他のメッセージについては、以下の PowerExchange ログファイルを参照してください。

- このプロセスの代替ログファイル
- PowerExchange ログファイル

この問題を修正するには、これらのログに示されたメッセージの対策の指示に従います。

PowerExchange が関連エラーメッセージを発行していない場合は、このメッセージで示されたエラーに関する情報について、オペレーティングシステムのマニュアルを参照し、指定された対処法を実行します。

z/OS では、関連するシステムメッセージを検索するために、ジョブについて JES ログを見直しすることが必要になる場合があります。

PWX-14521 **ファイル *lreclnnn* は、要求した最大トレースレコードサイズ *nnn* と互換性がありません。**

説明： このプロセスの事前呼び出しにより使用された代替ログファイルの論理レコード長が、DBMOVER コンフィギュレーションファイル内の TRACING 文で指定された RECLLEN パラメータに対して互換性を持ちません。

システムのアクション： 代替ロギングでは APPEND 処理が無視され、データのロギングを開始するために次のログファイルを使用します。

ユーザの応答： この問題は、プロセスのログファイルによる代替ロギングタスクサイクルとして修正します。

PWX-14522	<p><b>トレースファイル <i>file_name</i> を開く際にエラーが発生しました。開くオプション: <i>option_string</i>。エラーコード =&lt;<i>system_error_numbersystem_error_message</i></b></p>
説明:	<p>指定の代替ログファイルを開こうとしたときに、代替ロギングタスクでエラーが発生しました。</p> <p>メッセージテキスト:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>file_name</i> は、エラーが報告されたログファイルの名前です。</li> <li>• <i>option_string</i> は、ファイルを開くためのオプションを指定します。</li> <li>• <i>system_error_number</i> は、エラーメッセージの番号です。</li> <li>• <i>system_error_message</i> は、エラーメッセージのテキストです。</li> </ul>
システムのアクション:	<p>PowerExchange は、デフォルトの PowerExchange ログファイルにすべてのメッセージを書き込みます。代替ログは使用しません。</p>
ユーザの応答:	<p>その他のメッセージについては、以下の PowerExchange ログファイルを参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• このプロセスの代替ログファイル</li> <li>• PowerExchange ログファイル</li> </ul> <p>この問題を修正するには、これらのログに示されたメッセージの対策の指示に従います。</p> <p>PowerExchange が関連エラーメッセージを発行していない場合は、このメッセージで示されたエラーに関する情報について、オペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。次に、指定された対処方法を実行します。</p> <p>z/OS では、関連するシステムメッセージを検索するために、ジョブについて JES ログを見直すことが必要になる場合があります。</p>
PWX-14524	<p><b>トレースエラー: トレースデータセット/GDG <i>file_name</i> は別のジョブで使用しています。</b></p>
説明:	<p>指定の代替ロギングログデータセットまたは GDG データセットは、別のジョブで使用されています。このエラーは、以下の理由で発生することがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• PowerExchange の複数のインスタンスがシステムにインストールされます。</li> <li>• 異なるシステム上の複数の PowerExchange インストールで共有 DASD を使用しています。</li> </ul>
システムのアクション:	<p>PowerExchange は、デフォルトの PowerExchange ログファイルにすべてのメッセージを書き込みます。代替ログは使用しません。</p>
ユーザの応答:	<p>PowerExchange インストール全体で独自のログファイル名を作成するために、LOGPATH パラメータの値、および TRACING 文の PFX パラメータを変更します。</p>

PWX-14525	<b>DDNAME<code>ddname</code>によって参照されている GDG は、トレースで使用されます。その他のすべての DTLLOG<code>nn</code> ファイルは無視されます。</b>
説明:	PowerExchange は、代替ロギング用データセットを作成するために指定の GDG を使用します。
システムのアクション:	JCL で他の DTLLOG <code>nn</code> DD 文が指定されている場合、PowerExchange はそれらのデータセットを無視します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-14526	<b>従来のトレースが有効になっています。</b>
説明:	DBMOVER コンフィギュレーションファイルには、TRACING 文が含まれません。したがって、代替ロギングは有効ではありません。
システムのアクション:	PowerExchange は、標準の PowerExchange ログファイルにメッセージを書き込みます。
ユーザの応答:	DBMOVER コンフィギュレーションファイル内の TRACING 文を指定します。
PWX-14527	<b>トレースサブタスクを開始中にエラーが発生しました: <code>system_error_message</code>。従来のトレースが有効になっています。</b>
説明:	PowerExchange は、代替ロギングタスクを開始できませんでした。
システムのアクション:	PowerExchange は、デフォルトの PowerExchange ログファイルにすべてのメッセージを書き込みます。代替ログは使用しません。
ユーザの応答:	その他のメッセージについては、以下の PowerExchange ログファイルを参照してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>このプロセスの代替ログファイル</li> <li>PowerExchange ログファイル</li> </ul> <p>この問題を修正するには、これらのログに示されたメッセージの対策の指示に従います。</p> <p>PowerExchange が関連エラーメッセージを発行していない場合は、このメッセージで示されたエラーに関する情報について、オペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。次に、指定された対処方法を実行します。</p> <p>z/OS では、関連するシステムメッセージを検索するために、ジョブについて JES ログを見直すことが必要になる場合があります。</p>
PWX-14530	<b>トレースサブタスクが予期せず終了しました。従来のトレースが有効になっています。</b>
説明:	PowerExchange プロセスでトレースサブタスクがアクティブではなくなったことが検出されました。
システムのアクション:	PowerExchange プロセスがレガシートレーシングに戻ります。
ユーザの応答:	エラーが解決しない場合は、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-14600	<b>内部エラー: シリアル化ハンドル作成関数に名前が渡されませんでした。</b>
説明:	PowerExchange 関数は、内部シリアル化制御関数に対する不適切な呼び出しで書式設定されました。
システムのアクション:	必要なシリアル化は行われません。後続の処理が失敗する場合があります。
ユーザの応答:	後続の処理が失敗する場合は、Informatica グローバルカスタマサポートにこのエラーメッセージとともにエラーを報告します。この問題を修正できるユーザーアクションはありません。
PWX-14601	<b>内部エラー: シリアル化ハンドル作成関数に無効な名前 <code>&lt;handle_name&gt;</code> が渡されました。</b>
説明:	PowerExchange 関数は、内部シリアル化制御関数に対する不適切な呼び出しで書式設定されました。
システムのアクション:	必要なシリアル化は行われません。後続の処理が失敗する場合があります。
ユーザの応答:	後続の処理が失敗する場合は、Informatica グローバルカスタマサポートにこのエラーメッセージとともにエラーを報告します。この問題を修正できるユーザーアクションはありません。
PWX-14603	<b>セマフォ作成エラー: <code>&lt;system_message&gt;</code></b>
説明:	システムは、シリアル化制御ブロックを作成できませんでした。
システムのアクション:	必要なシリアル化は行われません。後続の処理が失敗する場合があります。
ユーザの応答:	後続の処理が失敗する場合は、PowerExchange ログファイルに関連するメッセージを確認します。この問題を解決するには、これらのメッセージの対策の指示に従います。他のエラーメッセージがない場合は、このメッセージに含まれるエラー情報の説明について、オペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。次に、指定された対処法を実行します。
PWX-14604	<b>セマフォ制御エラー: <code>&lt;system_message&gt;</code></b>
説明:	システムはリソースシリアル化要求を完了できませんでした。必要なシリアル化は行われません。後続の処理が失敗する場合があります。
ユーザの応答:	後続の処理が失敗する場合は、PowerExchange ログファイルに関連するメッセージを確認します。この問題を解決するには、これらのメッセージの対策の指示に従います。他のエラーメッセージがない場合は、このメッセージに含まれるエラー情報の説明について、オペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。次に、指定された対処法を実行します。
PWX-14605	<b>内部エラー: シリアル化/ミューテックスのハンドルは、このプラットフォームではサポートされていません。</b>
説明:	PowerExchange 関数は、要求されたシリアル化の種類をサポートしないソフトウェアおよびハードウェアのプラットフォーム上で、シリアル化関数を誤って要求しました。

システムのアクション:	必要なシリアル化は行われません。後続の処理が失敗する場合があります。
ユーザの応答:	後続の処理が失敗する場合は、Informatica グローバルカスタマサポートにこのエラーメッセージとともにエラーを報告します。この問題を修正できるユーザーアクションはありません。
PWX-14606	<b>セマフォ&lt;semaphore_name&gt;にアクセスできません: &lt;system_message&gt;</b>
説明:	PowerExchange 関数が共有リソースシリアル化制御ブロックにアクセスできませんでした。
システムのアクション:	必要なシリアル化は行われません。後続の処理が失敗する場合があります。
ユーザの応答:	後続の処理が失敗する場合は、PowerExchange ログファイルで関連するメッセージを確認します。この問題を解決するには、これらのメッセージの対策の指示に従います。他のエラーメッセージがない場合は、このメッセージに含まれるエラー情報の説明について、オペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。次に、指定された対処法を実行します。
PWX-14607	<b>内部エラー:無効なシリアル化/ミューテックスハンドルが関数&lt;function_name&gt;に渡されました。</b>
説明:	PowerExchange 関数が、無効なシリアル化制御ブロックを PowerExchange シリアル化ハンドラに渡しました。必要なシリアル化は行われません。後続の処理が失敗する場合があります。
ユーザの応答:	後続の処理が失敗する場合は、Informatica グローバルカスタマサポートにこのエラーメッセージとともにエラーを報告します。この問題を修正できるユーザーアクションはありません。
PWX-14608	<b>セマフォ&lt;semaphore_name&gt;を取得できません: &lt;system_message&gt;</b>
説明:	PowerExchange 関数が要求されたシリアル化ロックを取得できませんでした。
システムのアクション:	必要なシリアル化は行われません。後続の処理が失敗する場合があります。
ユーザの応答:	後続の処理が失敗する場合は、PowerExchange ログファイルで関連するメッセージを確認します。この問題を解決するには、これらのメッセージの対策の指示に従います。他のエラーメッセージがない場合は、このメッセージに含まれるエラー情報の説明について、オペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。次に、指定された対処法を実行します。
PWX-14609	<b>不明な戻りコード&lt;nnn&gt; が、セマフォ&lt;semaphore_name&gt;を取得しようとしてしました。</b>
説明:	システムは、シリアル化要求に対して不明なエラーコードを返しました。
システムのアクション:	必要なシリアル化は行われません。後続の処理が失敗する場合があります。



ユーザの応答： 後続の処理が失敗する場合は、Informatica グローバルカスタマサポートにこのエラーメッセージとともにエラーを報告します。この問題を修正できるユーザーアクションはありません。

PWX-14610      **セマフォ<semaphore\_name>をリリースできません。:<system\_message>**

説明： PowerExchange 関数が要求されたシリアル化ロックをリリースできませんでした。

システムのアクション： 必要なシリアル化が失敗します。後続の処理が失敗する場合があります。

ユーザの応答： 後続の処理が失敗する場合は、PowerExchange ログファイルで関連するメッセージを確認します。この問題を解決するには、これらのメッセージの対策の指示に従います。他のエラーメッセージがない場合は、このメッセージに含まれるエラー情報の説明について、オペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。次に、指定された対処法を実行します。

**注:** 'タスクは、このセマフォを所有していません' というシステムメッセージが表示された場合、PowerExchange は所有しない IBM z/OS エンキューオブジェクトのリリースを試みました。PWX-14610 エラーメッセージの一部としてこのメッセージが表示された場合、Informatica グローバルカスタマサポートにエラーを報告します。

PWX-14612      **セマフォ<semaphore\_name>を破壊できません:<system\_message>**

説明： PowerExchange 関数が要求されたシリアル化ロックを割り当て解除できませんでした。

後続の処理が失敗する場合があります。

ユーザの応答： 後続の処理が失敗する場合は、PowerExchange ログファイルで関連するメッセージを確認します。この問題を解決するには、これらのメッセージの対策の指示に従います。他のエラーメッセージがない場合は、このメッセージに含まれるエラー情報の説明について、オペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。次に、指定された対処法を実行します。

PWX-14701      *Número máximo de páginas de código excedido para campos de limpeza de dados. Campo="field\_name".*

説明： O registro contém campos de caracteres que são selecionados para verificação de dados em mais do que o número máximo de páginas de código.

システムのアクション： O processamento foi encerrado de forma anormal.

ユーザの応答： Verifique se as páginas de código estão especificadas corretamente. Desabilite a verificação de dados para alguns dos campos para reduzir o número de páginas de código.

PWX-14702	<p>Erro ao converter o caractere de substituição de verificação de dados na página de código "<i>name</i>" (<i>número</i>) para o campo="<i>field_name</i>".</p> <p>説明： O caractere de substituição especificado na guia <b>Verificação de Dados</b> da caixa de diálogo <b>Propriedades do Mapa de Dados</b> não pôde ser convertido na página de código usada pelo campo especificado.</p> <p>システムのアクション： O processamento foi encerrado de forma anormal.</p> <p>ユーザの応答： Verifique se as páginas de código estão especificadas corretamente. Defina um caractere de substituição de byte único que possa ser convertido na página de código especificada ou desative a verificação de dados para o campo especificado.</p>
PWX-14703	<p>Falha em TRN_Get_CPInfo() no número da página de código <i>número</i>. Código de retorno <i>return_code_number</i>. "<i>Informações</i>" de contexto.</p> <p>説明： A função que retorna informações da página de código falhou.</p> <p>システムのアクション： O processamento foi encerrado de forma anormal.</p> <p>ユーザの応答： Verifique se as páginas de código estão especificadas corretamente. Colete o número de página de código e informações de contexto e, em seguida, entre em contato com o Suporte Global a Clientes da Informatica.</p>
PWX-14704	<p>Aviso. O mapa "<i>data_map_name</i>" tem EFields que usam a verificação de dados. Número = <i>número</i>.</p> <p>説明： A verificação de dados está ativada na tag <b>Verificação de Dados</b> da caixa de diálogo <b>Propriedades do Mapa de Dados</b>. Como resultado, a verificação de dados está sendo realizada para colunas definidas pelo usuário.</p> <p>システムのアクション： O processamento continua.</p> <p>ユーザの応答： Se a verificação de dados não for necessária para colunas definidas pelo usuário, na caixa <b>Verificar Tipos de Campo</b> da guia <b>Verificação de Dados</b> da caixa de diálogo <b>Propriedades do Mapa de Dados</b>, desmarque as caixas de seleção para todos os tipos de dados. Além disso, para cada campo definido pelo usuário, exiba a guia <b>Verificação de Campo</b> da caixa de diálogo <b>Propriedades do Campo</b> e selecione <b>Sim</b> ou <b>Não</b> em <b>Selecionar Campo para verificação?</b> em vez de <b>Usar Regras de Mapa de Dados</b>.</p>
PWX-14800	<p><b>オペレーティングシステム"<i>os_type</i>"は、アクセス方法"<i>access_method_type</i>"に対して有効ではありません。</b></p> <p>説明： オペレーティングシステムでサポートされていないアクセス方法を使用しようとした。</p>

システムのアクション: 処理は異常終了します。  
ン:

ユーザの応答: **【位置】** 値が、DBMOVER 構成ファイルにある NODE 文で指定されているとおりに正しい PowerExchange ノードを特定していることを確認します。

PWX-14801 **オペレーティングシステム "*os\_type*" は、DB2 for "*os*" では有効ではありません。**

説明: オペレーティングシステムでサポートされていない DB2 変更データを処理しようとしてしました。

システムのアクション: 処理は異常終了します。  
ン:

ユーザの応答: **【位置】** 値が、DBMOVER 構成ファイルにある NODE 文で指定されているとおりに正しい PowerExchange ノードを特定していることを確認します。また、次の DB2 タイプのうちの 1 つがキャプチャ登録で指定されていることを確認します。**DB2** (DB2 for z/OS の場合)、**AS4** (DB2 for i の場合)、または **DB2UDB** (Db2 LUW の場合)。

PWX-14802 **オペレーティングシステム "*os\_type*" は、NRDB マップの種類 "*map\_type*" では有効ではありません。**

説明: z/OS NRDB タイプのデータマップを z/OS 以外のオペレーティングシステムで処理しようとしてしました。

システムのアクション: 処理は異常終了します。  
ン:

ユーザの応答: **【位置】** 値が、DBMOVER 構成ファイルにある NODE 文で指定されているとおりに正しい PowerExchange ノードを特定していることを確認します。

PWX-14803 **ロケーション *node\_name* は IBM i マシンではありません。**

説明: PowerExchange は、IBM i サーバーではないマシンで IBM i ノードの場所を指定するクエリを実行しようとしてしました。たとえば、DTLURDMO ユーティリティが IBM i サーバーではないターゲットの場所で Db2 for i テーブルに対して REG\_COPY コマンドを発行すると、短いテーブル名を見つけようとしても必ず失敗します。メッセージは、DTLURDMO および DTLUCBRG ユーティリティによって発行できます。

システムのアクション: 処理は異常終了します。  
ン:

ユーザの応答: **Location** を含むクエリを修正して、DBMOVER 構成ファイルの NODE 文で識別された有効な IBM i サーバーを指すようにしてください。

PWX-14811 **DB2 データタイプ "*data\_type*" はカラム "*column\_name*" に対して現在サポートされていません。**

説明: PowerExchange の describe 操作で、指定のデータ型が DB2 カラムでサポートされていないことを示すエラーが返されました。

システムのアクション: 処理は異常終了します。  
ン:

ユーザの応答: PowerExchange では、このカラムを含むテーブルは処理できません。

PWX-14812 **カラム "*column\_name*" のデータ型 *data\_type* (*description*) は現在、アクセス方法 *number* (*name*) ではサポートされていません。**

説明: PowerExchange の describe 操作で、指定のカラムのデータ型がそのアクセス方法でサポートされていないことを示すエラーが返されました。

システムのアクション: 処理は異常終了します。  
ン:

ユーザの応答: PowerExchange では、このカラムを含むテーブルは処理できません。

PWX-14821 **スキーマがテーブル '*table\_name*' に指定されていません。ユーザー ID もテーブル名を修飾するのには使用できません。**

説明: 指定のテーブルは、そのテーブル名がスキーマ名によって修飾されていないため、処理できません。また、テーブル名修飾子として使用できるユーザー ID もありません。

システムのアクション: 処理は終了します。  
ン:

ユーザの応答: テーブル名をスキーマ名によって修飾するか、接続で指定されるユーザー ID にテーブル名修飾子として使用できるものがあるようにします。

PWX-14822 **スキーマがテーブル '*table\_name*' に指定されていません。SECURITY 設定が '*n*' のため、ユーザー ID はテーブル名を修飾できません。**

説明: テーブルは、そのテーブル名がスキーマ名によって修飾されていないため、処理できません。ユーザー ID はテーブル名を修飾するのには使用できません。PowerExchange リスナの SECURITY 文が DBMOVER 構成ファイルで 2 に設定されていないためです。

システムのアクション: 処理は終了します。  
ン:

ユーザの応答: テーブル名をスキーマ名によって修飾するか、SECURITY 文を 2 に設定して PowerExchange リスナを再起動します。

PWX-14831 **テーブル '*schema.table\_name*' のメタデータクエリでスキーマ名 '*schema\_name1*' と '*schema\_name2*' が返されました。**

説明: メタデータクエリで複数のスキーマの行が返されました。この状態は、テーブル名を修飾するスキーマ名が有効でないかワイルドカード文字を含む場合に発生する可能性があります。

システムのアクション: 処理は終了します。  
ン:

ユーザの応答： クエリ内のスキーマ名を修正します。ワイルドカード文字があれば削除します。それからクエリを再度実行します。

PWX-14832 **テーブル'*schema.table\_name*'のメタデータクエリでテーブル名'*table\_name\_1*'と'*table\_name\_2*'が返されました。**

説明： メタデータクエリで複数のテーブルの行が返されました。この状態は、テーブル名を修飾するスキーマ名またはユーザー ID が有効でないかワイルドカード文字を含む場合に発生する可能性があります。

システムのアクション： 処理は終了します。

ユーザの応答： テーブル名の修飾子であるスキーマ名またはユーザー ID を修正します。ワイルドカード文字があれば削除します。それからクエリを再度実行します。

PWX-14841 **テーブル *schema.table\_name* は、場所 *node\_name* データベース *database\_name* に見つかりませんでした。**

説明： 指定されたテーブルに対するクエリが失敗しました。その理由は、ノードの場所にある指定されたデータベースにテーブルが存在しないためです。例えば、スキーマに対して RENAME 属性を設定した状態で DTLURDMO REG\_COPY コマンドを実行しても、名前を変更したスキーマに Db2 for IBM i テーブルが存在しない場合、PowerExchange は PWX-14841 エラーを発行します。

システムのアクション： ユーティリティが VALIDATE モードで実行する場合、最大で 100 個のエラーが許容されます。そうではない場合、処理が停止します。

ユーザの応答： ノードの場所にあるデータベースに指定されたテーブルを作成してください。その後、ユーティリティを再度実行してください。

PWX-14851 **DTLDESCRIBE メタデータは、アクセス方式 *access\_method* では許可されていません。**

説明： DTLDESCRIBE 要求をサポートしていないアクセス方式から PowerExchange メタデータが要求されました。次のアクセス方式は DTLDESCRIBE 要求をサポートしています。

- CAPXRT
- DB2
- DB2UDB
- DB2400C
- IMSUNLD
- MSSQL
- MYSQL
- NRDB2
- ODBC
- ORACLE
- PGSQL

システムのアクション 要求は失敗します。  
ン：

ユーザの応答： PowerExchange Navigator から手動で要求を発行した場合は、DTLDESCRIBE 要求をサポートしているアクセス方式を使用していることを確認してください。要求が呼び出し元アプリケーションから行われた場合は、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-14852 DTLDESCRIBE **メタデータタイプ *metadata\_type* は、アクセス方式 *access\_method* では許可されていません。**

説明： PowerExchange メタデータの DTLDESCRIBE 要求で、アクセス方式でサポートされていないメタデータタイプが指定されました。DTLDESCRIBE 要求は、次のメタデータタイプとアクセス方式をサポートします。

メタデータタイプ	サポートされるアクセス方式
SCHEMAS、TABLES、COLUMNS、PKEYS、FKEYS	ほとんどのアクセス方式。
MAPS、FIELDS、LOADMAPS、RECORDS	CAPXRT および NRDB2
IMS DL/I または ODBA CKEYS	CAPXRT および NRDB2
Datacom DELEMS	CAPXRT および NRDB2
IDMS TPATHS	CAPXRT および NRDB2
PROCEDURES および PROCEDURECOLUMNS	DB2、DB2UDB、MSSQL、ODBC

システムのアクション 要求は失敗します。  
ン：

ユーザの応答： PowerExchange Navigator から手動で要求を発行した場合は、要求したメタデータタイプをサポートしているアクセス方式を使用していることを確認してください。メタデータタイプ NRDB2 および CAPXRT は PWXUMAP ユーティリティを使用してレポートすることもできます。要求が呼び出し元アプリケーションから行われた場合は、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

## PWX-15000～PWX-15999

PWX-15017	Adabas 呼び出し " <i>call_number</i> " が戻りコード 17 を返しました。ファイル番号が無効です。DBID <i>dbid</i> 。ファイル <i>file_number</i> 。サブコード 1 <i>subcode1</i> 。
説明：	OP 呼び出しは、nucleus とのセッションをオープンできませんでした。
システムのアクション：	オープンに失敗しました。
ユーザの応答：	Adabas nucleus がデータベース ID に対してアクティブであることを確認します。サブコードを Adabas のマニュアルと照らして確認します。
PWX-15148	Adabas 呼び出し " <i>call_number</i> " が戻りコード 148 を返しました。ADABAS nucleus にアクセスできません。DBID <i>dbid</i> 。サブコード 1 <i>subcode1</i> 。
説明：	OP 呼び出しは、nucleus とのセッションをオープンできませんでした。
システムのアクション：	オープンに失敗しました。
ユーザの応答：	Adabas nucleus がデータベース ID に対してアクティブであることを確認します。サブコードを Adabas のマニュアルと照らして確認します。
PWX-15198	Adabas 呼び出し " <i>call_number</i> " が戻りコード 198 を返しました。一意の記述子の挿入に失敗しました。サブコード 1 <i>subcode1</i> 。記述子 <i>descriptor</i> 。
説明：	一意の記述子の記述子値の複製が試みられました。subcode1 に値 1 がある場合は、記述子値はすでにインデックスに存在します。サブコード 1 に 1 以外の値がある場合は、記述子値は他のユーザーによって使用されている可能性があります。
システムのアクション：	挿入に失敗しました。
ユーザの応答：	複製されたキーを持つ既存データが正しいかどうかを確認します。
PWX-15500	SLDS データセット <i>data_set</i> が対象です
説明：	IMS ログベース ECCR は、指定された SLDS を読み取って変更レコードをキャプチャします。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-15501	ECCR は、開始時刻 <i>storeclock_time</i> 、 <i>date_time</i> から、 <i>flsn=first_lsn</i> から SLDS レコードを処理します。
説明：	IMS ログベース ECCR は、ストアクロック時刻および日付 (yyyy.ddd) 時刻 (hh:mm:ss.nnnnnn) として表示されている指定開始時刻から、指定された最初の LSN から SLDS 内の変更レコードの処理を開始します。

ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-15502	<b>終了時刻 <i>end_storeclock_time</i>、<i>date_time</i> まで、<i>llsn=last_lsn</i> まで処理します。</b>
説明：	IMS ログベース ECCR は、ストアクロック時刻および日付 (yyyy.ddd) 時刻 (hh:mm:ss.nnnnnn) として表示されている指定終了時刻まで、指定された最後の LSN まで SLDS 内の変更レコードを処理します。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-15503	<b><i>current_time</i> の ECCR はログ <i>log_dataset_name</i> を処理しています。LSN=(<i>first_lsn,last_lsn</i>)</b>
説明：	IMS ログベース ECCR は、ストアクロック時刻として表示されている現在の時刻の指定された SLDS ログを処理しています。このメッセージでは、ECCR が処理した最初と最後の LSN が報告されます。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-15504	<b><i>file_type file_name</i> が閉じられ、{いくつか 0 件}のレコードが処理されました。 <i>commits_and_aborts.LLSN=last LSN</i></b>
説明：	IMS ログベース ECCR は、指定された IMS ログファイルの処理の終了時にこの統計メッセージを生成します。このメッセージでは、最後の PWX-15504 メッセージが発行されてからのコミット数と強制終了数、およびこの間に処理された最後の LSN が報告されます。複数の IMS ログが同時に処理されている場合、この統計は、クローズしたログのみの合計ではなくすべてのログの合計です。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-15700	<b>SQL-SMO インタフェースが、次のテキストを伴ってエラー <i>error code</i> を返しました。 <i>error_text</i></b>
説明：	Microsoft SQL Server CDC ソースの登録中に PowerExchange が SQL Server Management Objects (SMO) インタフェースからエラーを受け取りました。PowerExchange は SQL-SMO を使用して SQL Server のパブリケーションを管理します。
システムのアクション：	登録が失敗します。
ユーザの応答：	Microsoft SQL Server のマニュアルでエラーコードを見つけ、適切な解答を見つけます。
PWX-15701	<b>テーブル '<i>OWNER.name</i>' は、有効なキャプチャ対象ではありません。</b>
説明：	選択したテーブルがシステムテーブルでないか、プライマリキーを持っていません。
システムのアクション：	テーブルはキャプチャ対象として拒否されました。
ユーザの応答：	有効なキャプチャ対象のテーブルを選択します。



PWX-15704	<b>サーバー <i>server_name</i> がパブリケーション向けに構成されていないか、ユーザーに十分な権限がありません。</b>
説明:	Microsoft SQL Server CDC ソースの登録中に、指定されたサーバーがレプリケーション用に構成されているかどうかを PowerExchange が特定できませんでした。このエラーは、サーバーがレプリケーション用に構成されていない、またはユーザーに十分な権限がないためにサーバーがレプリケーション用に構成されているかどうかを特定できない場合に発生することがあります。
システムのアクション:	登録が失敗します。
ユーザの応答:	Microsoft SQL Server のマニュアルで変更データのキャプチャについての前提条件を確認します。すべての前提条件が満たされていることを確認した後、ソースの登録を再度試します。
PWX-15706	<b>内部エラー: データベースが設定されていません。</b>
説明:	内部論理エラーが発生しました。
システムのアクション:	キャプチャ登録に失敗しました。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにエラーの詳細を報告します。
PWX-15707	<b>データベース <i>database_name</i>、テーブル <i>owner.name</i> の発行記事が破損しています。理由=<i>reason_code</i>。</b>
説明:	このデータベースに対する PowerExchange 変更キャプチャ発行の指定のテーブルの記事が、予期したプロファイルと一致しません。記事は、PowerExchange で作成された記事ではない可能性があります。または、GUI 以外で更新された可能性があります。
システムのアクション:	キャプチャ登録に失敗しました。
ユーザの応答:	SQL Server 管理コンソールから記事を削除します。
PWX-15708	<b>内部エラー: 保存する前に記事を検証する必要があります。</b>
説明:	内部論理エラーが発生しました。
システムのアクション:	キャプチャ登録に失敗しました。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにエラーの詳細を報告します。
PWX-15709	<b>データベース <i>database_name</i>、テーブル <i>OWNER.name</i> の発行記事の検証が失敗しました。Reason:<i>reason_text</i>。</b>
説明:	表示された理由により記事の検証が失敗し、作成されませんでした。
システムのアクション:	キャプチャ登録に失敗しました。
ユーザの応答:	登録を修正して、ステータス更新を再試行します。

PWX-15712	<b>データベース <i>database_name</i> はサーバー <i>server_name</i> には存在しません。</b>
説明:	Microsoft SQL Server の登録グループとして入力されたこのデータベース名は無効です。指定されたデータベースは、このサーバーには存在しません。
システムのアクション:	この登録グループは作成されていません。
ユーザの応答:	登録グループをもう 1 度定義してください。指定されたサーバー上に存在するデータベースに対応する、SQL Server の有効なデータベース名を使用してください。
PWX-15713	<b>サーバー <i>server_name</i> のデータベース <i>database_name</i> にパブリケーションを作成できませんでした。</b>
説明:	Microsoft SQL Server CDC ソースの登録中に、SQL Server データベースがパブリケーションの候補でない、または、ユーザーに十分な権限がなくパブリケーションを作成できないことを PowerExchange が検出しました。
システムのアクション:	登録が失敗します。
ユーザの応答:	このエラーを解決するには、データベース名を修正するか、適切な権限のあるユーザー ID を使用します。その後、CDC ソースの登録を再度試します。
PWX-15714	<b>ローカルネットワーク上で Microsoft SQL Server インスタンスを検出できませんでした</b>
説明:	PowerExchange がネットワーク上で Microsoft SQL Server インスタンスを検索しているときにエラーが発生しました。その結果、PowerExchange は SQL Server ソースインスタンスを検出できませんでした。
システムのアクション:	PowerExchange キャブチャ登録の作成に失敗します。
ユーザの応答:	ネットワークと SQL Server ソースインスタンスが使用可能であることを確認します。
PWX-15715	<b>Microsoft SQL Server のパブリケーションがパブリケーションデータベース <i>database_name</i> 内に見つかりませんでした。</b>
説明:	PowerExchange は、指定された Microsoft SQL Server パブリケーションデータベース内でパブリケーションを見つけることができませんでした。その結果、レプリケーションの記事を含むパブリケーションを PowerExchange キャブチャ登録の作成に使用できません。
システムのアクション:	PowerExchange キャブチャ登録の作成に失敗します。
ユーザの応答:	SQL Server サーバーおよびパブリケーションデータベースの構成を確認します。その後、キャブチャ登録の作成を再試行します。

PWX-15716	<b>データベース'<i>database_name</i>'に対する SQL Server パブリッシングを有効にできませんでした。</b>
説明:	Microsoft SQL Server ソーステーブルの最初のキャプチャ登録を作成しようとしたときに、PowerExchange がパブリケーションデータベースからのソースデータのトランザクションレプリケーション用に SQL Server パブリッシングを有効にできませんでした。
システムのアクション:	PowerExchange はキャプチャ登録を作成せず、トランザクションレプリケーションの発行は SQL Server パブリケーションデータベースに対して無効のままになります。
ユーザの応答:	SQL Server sp_replicationdboption プロシージャまたは SQL Server Management Studio を使用して、SQL Server パブリケーションデータベースのトランザクションレプリケーションのパブリッシングを手動で有効にしてください。その後、PowerExchange Navigator または DTLUCBRG ユーティリティを使用して、ソーステーブルの登録を再度試みてください。
PWX-15720	<b>内部エラー:<i>number</i>バイトのストレージを取得できません。</b>
説明:	MSSQL キャプチャ抽出が十分なストレージを割り当てられません。
システムのアクション:	MSSQL キャプチャ抽出が失敗します。
ユーザの応答:	リソース制限を調べてください。
PWX-15721	<b>CAPI 接続情報がありません。または無効です。</b>
説明:	この接続に対して構成ファイルで指定された情報がありません。または無効です。
システムのアクション:	MSSQL キャプチャ抽出が失敗します。
ユーザの応答:	構成ファイルで CAPI_CONNECTION を設定する方法については、MSSQL キャプチャのマニュアルを参照してください。
PWX-15726	<b>内部エラー: 記事データを取得しているときに、カラム <i>column_number</i> の不正なステータス <i>column_status</i> を受信しました。</b>
説明:	PowerExchange で Microsoft SQL Server 分散データベースからのソーステーブルの記事にある情報の読み取り中に内部エラーが発生しました。
システムのアクション:	キャプチャ処理が異常終了しました。
ユーザの応答:	エラーに関する情報を収集してから Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-15727	<b>サーバー <i>server_name</i>、データベース <i>database_name</i> に記事発行が含まれていません。</b>
説明:	接続パラメータに指定されたデータベースが分散データベースではありません。または、記事がデータベースに発行されていません。

システムのアクション: MSSQL キャプチャ抽出が失敗します。  
 ユーザの応答: 接続パラメータの DISTSRV および DISTDB に指定された値を確認します。

PWX-15728      **タグ *PowerExchange\_tag* で特定されたテーブルがサーバー *server\_name*、データベース *database\_name* に発行されていません。**

説明: 接続パラメータで指定されたデータベースは、要求されたテーブル発行用の分散データベースではありません。

システムのアクション: MSSQL キャプチャ抽出が失敗します。  
 ユーザの応答: 接続パラメータの DISTSRV および DISTDB に指定された値を確認します。

PWX-15729      **リポジトリノード *rep\_node* には、MSSQLServer のキャプチャ登録が含まれていません。**

説明: キャプチャノードに Microsoft SQL Server ソースのキャプチャ登録がありません。CCT ファイルのあるノードへの接続が確立できないか、ノードに SQL Server ソースのキャプチャ登録が含まれていないかのいずれかです。

システムのアクション: キャプチャプロセスが終了します。  
 ユーザの応答: キャプチャノードが正しいことを確認してください。

PWX-15730      **リポジトリノード *rep\_node* の作業セッションのロードに失敗しました。**

説明: キャプチャノードの登録情報によって作業セッションをロードしようとしたが失敗しました。

システムのアクション: キャプチャプロセスが終了します。  
 ユーザの応答: 登録情報を含む CCT ファイルのあるキャプチャノードが正しく指定されていること、および PowerExchange リスナがそのノードに存在することを確認します。

PWX-15731      **リポジトリノード *rep\_node* からのキャプチャ登録のロードに失敗しました。**

説明: 接続パラメータで指定されたリポジトリからのキャプチャ登録のロードに失敗しました。

システムのアクション: MSSQL キャプチャ抽出が失敗します。  
 ユーザの応答: リポジトリノードの PowerExchange Listener およびこのタスクの PowerExchange.LOG で、考えられる原因を確認します。問題が解決されない場合は、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-15732	<b>タグ <i>PowerExchange_tag</i> のアクティブなキャプチャ登録が複数存在します。</b>
説明:	このタグのアクティブなキャプチャ登録が複数見つかりました。これはリポジトリの問題を示しています。
システムのアクション:	MSSQL キャプチャ抽出が失敗します。
ユーザの応答:	GUI インタフェースを使用して、異常な登録を非アクティブ化します。Informatica グローバルカスタマサポートに問題を報告します。
PWX-15733	<b>発行済み記事とタグ <i>PowerExchange_tag</i> の PowerExchange 登録のテーブル名が一致しません。</b>
説明:	指定のタグ名がある Microsoft SQL Server 登録のテーブル名が、発行済み記事のテーブル名と一致しません。メッセージ PWX-15799 に詳細が示されています。
システムのアクション:	キャプチャプロセスが終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-15734	<b>登録タグ <i>PowerExchange_tag_name</i> のアクティブな PowerExchange 登録が見つかりません。</b>
説明:	PowerExchange で、Microsoft SQL Server テーブルには指定のタグ名でのアクティブな登録が見つかりませんでした。
システムのアクション:	キャプチャプロセスが終了します。
ユーザの応答:	登録がアクティブであることを確認してください。
PWX-15736	<b>データベース <i>database_name</i> の DBID を解決できません。</b>
説明:	テーブル master.dbo.sysdatabases へのアクセスに失敗しました。
システムのアクション:	MSSQL キャプチャ抽出が失敗します。
ユーザの応答:	これは認証の問題を示している可能性があります。関連する SQL-DMO メッセージを検索します。
PWX-15737	<b>現在のログの位置を判断できません。</b>
説明:	テーブル dbo.MSrepl_transactions へのアクセスに失敗しました。
システムのアクション:	MSSQL キャプチャ抽出が失敗します。
ユーザの応答:	これは認証の問題を示している可能性があります。関連する SQL-DMO メッセージを検索します。
PWX-15739	<b>リスタート情報が無効です: <i>reason_code</i>。</b>
説明:	インタフェースに提供されたリスタートトークンが無効です。このインタフェースのリスタートトークンは、このインタフェースによって作成され、正しい分散およびデータベース識別子を含んでいる必要があります。

システムのアクション: MSSQL キャプチャ抽出が失敗します。  
ン:

ユーザの応答: 正しいリスタート情報を決定できない場合は、ターゲットの再マテリアライズを行う必要があります。

PWX-15740      **シーケンス情報が無効です: *reason\_code*。**

説明: インタフェースに提供されたリスタートトークンが無効です。このインタフェースのリスタートトークンは、このインタフェースによって作成され、正しい分散サーバーおよびデータベース識別子を含んでいる必要があります。

システムのアクション: MSSQL キャプチャ抽出が失敗します。  
ン:

ユーザの応答: 正しいリスタートトークンを決定できない場合は、ターゲットの再実装を行う必要があります。

PWX-15741      **テーブル"owner"のスキーマの変更を検出しました。  
"table\_name"。**

説明: PowerExchange の変更キャプチャプロセスは、指定された Microsoft SQL Server のソーステーブルのスキーマ変更を検出しました。変更は、関連する PWX-15799 メッセージに記述されます。

システムのアクション: システムの応答は、接続パラメータのデータ警告フラグの値によって異なります。「スキーマ変更に対する警告」が有効になっていない場合、MSSQL キャプチャプロセスは失敗します。有効になっていると、警告が発令されて処理が継続されます。

ユーザの応答: キャプチャ登録とターゲットを更新してスキーマの変更を反映してからキャプチャ処理を再開します。

PWX-15742      **テーブル"OWNER"のキャプチャデータが無効です。"NAME"。認識されない更新の種類です。**

説明: キャプチャ抽出が、認識されない更新の種類を検出しました。

システムのアクション: MSSQL キャプチャ抽出が失敗します。  
ン:

ユーザの応答: mssql 発行定義が破損している可能性があります。テーブルを PowerExchange GUI によって再登録する必要があります。ターゲットの再実体化が必要になる場合があります。

PWX-15743      **テーブル"OWNER"のキャプチャデータが無効です。"NAME"、列 *column\_num*。想定される PowerExchange の型"PowerExchange\_TYPE"、実際の型"TYPE"。**

説明: キャプチャ抽出が、予期しないデータを検出しました。

システムのアクション: MSSQL キャプチャ抽出が失敗します。  
ン:

ユーザの応答: mssql 発行定義が破損している可能性があります。テーブルを PowerExchange GUI によって再登録する必要があります。ターゲットの再実体化が必要になる場合があります。

PWX-15745      **テーブル *owner.table\_name*、カラム *column\_number* の数値変換が戻りコード *return\_code* で失敗しました。**

説明：            Microsoft SQL Server の CDC 処理中、指定のテーブルカラムの文字データから数値データ型への変換に失敗しました。当該文字データはこのメッセージの後に表示されます。

システムのアクション：    キャプチャプロセスが終了します。

ユーザの応答：        当該カラムの文字データが正しいことを確認します。また、SQL Server のパブリケーション定義が破損していないか確認します。データが正しい場合は、Informatica グローバルカスタマサポートにエラーを報告します。データが正しくない場合は、テーブルを PowerExchange Navigator に再度登録する必要があります。ターゲットを再マテリアライズすることが必要な場合もあります。

PWX-15747      **内部エラー: 予期しないデータ型 *pw\_x\_datatype* (カラム *column\_name*、テーブル *owner.table\_name*) です。**

説明：            指定の Microsoft SQL Server テーブルのキャプチャ登録に、キャプチャプログラムが処理できないデータ型のカラムが含まれています。

システムのアクション：    キャプチャプロセスが終了します。

ユーザの応答：        Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-15748      **テーブル *owner.table\_name*、カラム *column\_name* のキャプチャデータが無効です。NULL 以外を予期していましたが、NULL が見つかりました。**

説明：            PowerExchange キャプチャプログラムが、Microsoft SQL Server テーブルに登録されていて NULL 不可と定義されているカラムで NULL データを検出しました。

システムのアクション：    キャプチャプロセスが終了します。

ユーザの応答：        SQL Server のパブリケーション定義が破損している可能性があります。テーブルを PowerExchange Navigator に再度登録します。ターゲットを再マテリアライズすることが必要な場合もあります。

PWX-15749      **内部エラー: テーブル *owner.table\_name*、データ位置 *position* のデータ処理で予期しないデータが検出されました。**

説明：            CDC 処理中、PowerExchange は Microsoft SQL Server テーブルの指定の位置で、予期しないか正しくないデータ文字列を検出しました。関連メッセージ PWX-15799 にそのデータ文字列を記載します。

システムのアクション：    キャプチャプロセスが終了します。

ユーザの応答：        Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-15750	<b>テーブル"OWNER"の"NAME"のキャプチャデータが無効です。見つかった列数"COLUMN_COUNT"が预期した数"COLUMN_COUNT"と一致しませんでした。</b>
説明:	キャプチャ抽出は、このテーブルの预期したカラム数を見つけられませんでした。
システムのアクション:	MSSQL キャプチャ抽出が失敗します。
ユーザの応答:	mssql 発行定義が破損している可能性があります。 テーブルを PowerExchange GUI によって再登録する必要があります。 ターゲットの再実体化が必要になる場合があります。
PWX-15752	<b>テーブル"OWNER"のキャプチャデータを切り捨てました。"NAME"、列 column_num。 预期した最大値"LENGTH"、見つかった"LENGTH"。</b>
説明:	指定した列のキャプチャデータが、PowerExchange の処理リミットを超えました。
システムのアクション:	システムアクションは、接続パラメータのデータ警告フラグの値によって異なります。「データ切り捨て時に警告」が有効でない場合は、MSSQL キャプチャ抽出は失敗します。それ以外の場合は、警告が発行され、データは切り捨てられ、処理が続行されます。
ユーザの応答:	このカラムのデータ長は、効率的に処理できる長さを超えています。カラムのキャプチャをオフにすることを検討します。
PWX-15753	<b>内部エラー:キャプチャデータイメージ長"LENGTH" (テーブル"OWNER")。"NAME"が、预期したサイズ"LIMIT"を超えています。</b>
説明:	現在のテーブルのキャプチャデータイメージ長が、预期したサイズを超えています。
システムのアクション:	MSSQL キャプチャ抽出が失敗します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにこの問題を報告します。
PWX-15754	<b>入力データの最大バッファ長"BUFFER_LENGTH"を超えました (テーブル"OWNER")。"NAME"。</b>
説明:	入力データの最大バッファ長を超えました。長いカラムを処理しようとしたことが原因と考えられます。
システムのアクション:	MSSQL キャプチャ抽出が失敗します。
ユーザの応答:	カラムのデータ長は、効率的に処理できる長さを超えています。カラムのキャプチャをオフにすることを検討します。または、MEMCACHE 接続パラメータを使用して、デフォルトの割り当てをオーバーライドします。
PWX-15755	<b>テーブル"OWNER"の更新のキャプチャデータが無効です。"NAME"。 前のイメージまたは後のイメージがありません。</b>
説明:	更新の前のイメージまたは後のイメージがありません。



システムのアクション MSSQL キャプチャ抽出が失敗します。  
ン：

ユーザの応答： mssql 発行定義が破損している可能性があります。 テーブルを PowerExchange GUI によって再登録する必要があります。 ターゲットの再実体化が必要になる場合があります。

PWX-15756 **要求したソースの変更データが失われました。**

説明： 要求したソースの最も古いシーケンスが、レプリケートされたデータテーブルで見つかりませんでした。

システムのアクション DBMOVER コンフィギュレーションファイルの CAPI\_CONNECTION パラメータの DWFLAGS 値によって異なります。 DWFLAGS とそのデフォルト値については、『PowerExchange リファレンスマニュアル』を参照してください。 特に、「変更データ喪失時に警告」位置フラグが Y に設定されていない場合は、MSSQL キャプチャ抽出は失敗します。 設定されている場合は、警告が発行され、処理は継続されます。

ユーザの応答： 分散 DB のトランザクション保有期間が足りない可能性があります。 MSSQL の CAPI\_CONNECTION については、『PowerExchange リファレンスマニュアル』を参照してください。

PWX-15757 **対象リストに複数のパブリケーションデータベースにあるソースが含まれており、MULTIPUB パラメータが設定されていません。**

説明： PowerExchange では、複数のパブリケーションデータベース内にある Microsoft SQL Server 記事の変更データを単一の CDC セッションでキャプチャする場合、MSQL CAPI\_CONNECTION 文に MULTIPUB=Y パラメータを含める必要があります。

システムのアクション キャプチャ処理が失敗します。  
ン：

ユーザの応答： DBMOVER コンフィギュレーションファイルで、MSQL CAPI\_CONNECTION 文に MULTIPUB=Y パラメータを指定します。 さらに、パフォーマンス問題を避けやすいように、分散データベースにインデックスも定義します。 複数のパブリケーションデータベースからのデータキャプチャについての詳細は、『Linux、UNIX、Windows 用 PowerExchange CDC ガイド』を参照してください。

PWX-15758 **テーブル owner の短い行が検出されました。 table\_name。**

説明： 指定された Microsoft SQL Server ソーステーブルの操作前の画像に、NULL 値の予期しない末尾カラムが含まれています。 通常、この状況は PowerExchange で ADD column\_name datatype NOT NULL DEFAULT 操作の後に最初の更新操作または削除操作が行われたときに発生します。 PowerExchange はカラムのデータ型に基づき適切なデフォルトの NULL 以外の値を割り当ててから、変更データキャプチャ処理を続行します。

システムのアクション PowerExchange キャプチャ処理は継続します。  
ン：

ユーザの応答： 使用している環境で PowerExchange が提供するデフォルト値を使用できない場合は、カラムが追加された後にソーステーブルを再構築し、新しいカラムに正しいデフォルト値を入力する必要があります。

PWX-15759	<b>コマンドテーブルから読み込み中にシーケンスエラーが発生しました。最後のシーケンス <i>hex_sequence_number</i>、このシーケンス <i>hex_sequence_number</i>。最後のコマンドの続行 {TRUE FALSE}。</b>
説明：	PowerExchange CDC 中は、Microsoft SQL Server によって変更データが想定されるシーケンスの PowerExchange に返されませんでした。このメッセージは診断情報を提供します。
システムのアクション：	キャプチャ処理が異常終了します。
ユーザの応答：	変更データキャプチャがアクティブである間は、インデックスのない再構築操作が SQL Server ソーステーブルで実行されていることを確認します。
PWX-15760	Reconectando-se ao SQL Server: tentativa <i>attempt_count</i> de <i>maximum_attempts</i> . Pausando <i>number_of_seconds</i> segundo(s).
説明：	O PowerExchange tentou reconectar-se ao banco de dados Microsoft SQL Server para processamento de CDC após a conexão ter sido descartada. Essa mensagem informa a contagem atual de tentativas feitas e o número máximo de tentativas permitidas. O número máximo de tentativas é definido no parâmetro RECONNTRIES da instrução MSQL CAPI_CONNECTION do arquivo dbmover.cfg. O PowerExchange pausa pelo número especificado de segundos antes de fazer outra tentativa de reconexão com base no valor do parâmetro RECONNWAIT na instrução MSQL CAPI_CONNECTION.
ユーザの応答：	Nenhuma resposta é necessária.
PWX-15761	Conexão com o SQL Server restaurada.
説明：	A conexão do PowerExchange CDC com o banco de dados Microsoft SQL Server foi restaurada depois de ter sido inesperadamente descartada.
ユーザの応答：	Nenhuma resposta é necessária.
PWX-15762	<b><i>distribution_database.dbo.MSrepl_commands_table</i> からキャプチャ行を削除できませんでした。</b>
説明：	指定された Microsoft SQL Server ソースディストリビューションデータベースの PowerExchange 変更キャプチャ処理中に、ローワーマーク操作の結果としてディストリビューションデータベースから処理済みのデータ行を削除する SQL 呼び出しが失敗しました。このエラーは、dbmover.cfg ファイルで MSQL CAPI_CONNECTION 文の ENABLELWM パラメータが Y に設定されている場合にのみ発生します。この設定では、PowerExchange ロガーがデータを保存した後、PowerExchange パブリケーション用に処理されたすべてのデータが Consumer API (CAPI) によって <i>dbo.MSrepl_commands</i> テーブルから削除されます。しかし、 <i>dbo.MSrepl_commands</i> テーブルの処理済みの一部またはすべての行を削除することができませんでした。

システムのアクション PowerExchange 変更キャプチャ処理は終了します。  
ン：

ユーザの応答：        dbo.MSrepl\_commands テーブルに対するアクセス権限と削除権限  
                         があることを確認してください。

PWX-15786        **登録。グループ：ロードエラー。フィールド =**  
                         MSS\_DistServer

説明：                PowerExchange は指定されたキャプチャ登録グループをロードでき  
                         ませんでした。フィールドの 'MSS\_DistServer' (sic) を読み取れませ  
                         ませんでした。その他の診断情報については関連メッセージを参照してく  
                         ださい。

システムのアクション 登録グループのロード処理が中止されました。  
ン：

ユーザの応答：        どのトレースが必要かについて、Informatica グローバルカスタマサ  
                         ポートにお問い合わせください。または、失敗した登録グループファ  
                         イルのコピーと、使用されたソフトウェアレベルでの情報を  
                         Informatica グローバルカスタマサポートに提供します。

PWX-15787        **登録。グループ：ロードエラー。フィールド =**  
                         MSS\_DistDatabase

説明：                PowerExchange は指定されたキャプチャ登録グループをロードでき  
                         ませんでした。フィールドの 'MSS\_DistServer' (sic) を読み取れませ  
                         ませんでした。その他の診断情報については関連メッセージを参照してく  
                         ださい。

システムのアクション 登録グループのロード処理が中止されました。  
ン：

ユーザの応答：        どのトレースが必要かについて、Informatica グローバルカスタマサ  
                         ポートにお問い合わせください。または、失敗した登録グループファ  
                         イルのコピーと、使用されたソフトウェアレベルでの情報を  
                         Informatica グローバルカスタマサポートに提供します。

PWX-15788        **登録。グループ：ロードエラー。フィールド =**  
                         MSS\_DatabaseServer

説明：                PowerExchange は指定されたキャプチャ登録グループをロードでき  
                         ませんでした。フィールドの 'MSS\_DistServer' (sic) を読み取れませ  
                         ませんでした。その他の診断情報については関連メッセージを参照してく  
                         ださい。

システムのアクション 登録グループのロード処理が中止されました。  
ン：

ユーザの応答：        どのトレースが必要かについて、Informatica グローバルカスタマサ  
                         ポートにお問い合わせください。または、失敗した登録グループファ  
                         イルのコピーと、使用されたソフトウェアレベルでの情報を  
                         Informatica グローバルカスタマサポートに提供します。

PWX-15789	<b>登録。グループ:ロードエラー。フィールド = MSS_Database</b>
説明:	PowerExchange は指定されたキャプチャ登録グループをロードできませんでした。フィールドの 'MSS_DistServer' (sic) を読み取れませんでした。その他の診断情報については関連メッセージを参照してください。
システムのアクション:	登録グループのロード処理が中止されました。
ユーザの応答:	どのトレースが必要かについて、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。または、失敗した登録グループファイルのコピーと、使用されたソフトウェアレベルでの情報を Informatica グローバルカスタマサポートに提供します。
PWX-15790	<b>ODBC ドライバがエラー[error_state] error_text (error_code) を返しました。</b>
説明:	ODBC ドライバがこの形でエラーを返しました。このメッセージでは、ODBC エラー状態、エラーテキスト、およびエラーコードがレポートされます。
システムのアクション:	PowerExchange の登録作成かキャプチャ処理が失敗しました。
ユーザの応答:	このメッセージ内のエラー情報を確認してください。サポートが必要な場合は、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-15791	<b>ODBC ドライバは SQL_Server_instance (ユーザー: user_name) への接続に失敗しました。</b>
説明:	Microsoft SQL Server 用の DataDirect ODBC ドライバは指定された SQL Server ソースインスタンスに接続できませんでした。
システムのアクション:	PowerExchange キャプチャ登録の作成または変更データキャプチャに失敗します。
ユーザの応答:	ユーザー資格情報が正しいことを確認します。
PWX-15799	<i>message_text</i>
説明:	このメッセージは、前のメッセージでレポートされた問題に関する追加情報を提供します。
ユーザの応答:	詳細については、関連するメッセージを参照してください。
PWX-15800	<b>RtvJrnEntry API からエラー"rc"が返されました。コード"error_code"情報=error_information。</b>
説明:	ジャーナルの読み込みエラーの診断を示すメッセージ。
システムのアクション:	エラーが無害でなければ処理は失敗します。
ユーザの応答:	処理が失敗した場合は、その原因がユーザーまたはシステムの介在によるものでなければ、Informatica グローバルカスタマサポートに連絡します。

PWX-15801	<b>シーケンス <i>sequence</i> で情報ジャーナルブロックが終了し、レシーバが変更されます。</b>
説明:	このイベントが発生したことを示すメッセージ。
システムのアクション:	処理は継続します。
ユーザの応答:	エラーが発生した場合は、他の情報について Informatica グローバルカスタマサポートに連絡します。
PWX-15802	<b>警告。100 を超えるレシーバ "<i>receiver_count</i>" が返されました。メモリ割り当て "<i>allocation_bytes</i>" をしようとします。</b>
説明:	ジャーナルの読み込みエラーの診断を示すメッセージ。
システムのアクション:	エラーが無害でなければ処理は失敗します。
ユーザの応答:	処理が失敗した場合は、その原因がユーザーまたはシステムの介在によるものでなければ、Informatica グローバルカスタマサポートに連絡します。
PWX-15803	<b>RtvJrnInfo API からエラー "<i>ErrorCode</i>" が返されました。情報 = &lt;<i>error_information</i>&gt;。</b>
説明:	ジャーナル情報の取得エラーの診断を示すメッセージ。
システムのアクション:	タスクが失敗します。
ユーザの応答:	原因がユーザーまたはシステムの介在によるものでなければ、Informatica グローバルカスタマサポートに連絡します。
PWX-15804	<b>RtvJrnRcvrInfo API からエラー "<i>ErrorCode</i>" が返されました。情報 = &lt;<i>error_information</i>&gt;。</b>
説明:	ジャーナルレシーバ情報の取得エラーの診断を示すメッセージ。
システムのアクション:	タスクが失敗します。
ユーザの応答:	原因がユーザーまたはシステムの介在によるものでなければ、Informatica グローバルカスタマサポートに連絡します。
PWX-15805	<b>ジャーナルレシーバ "<i>Journal_Receiver</i>" が *NONE 以外の MINENTDTA オプションで定義されています。</b>
説明:	*NONE 以外の MINENTDTA オプションで定義されたジャーナルレシーバのジャーナルエントリに対して、処理が試行されました。現在、これらのエントリを PowerExchange で処理することはできません。ジャーナルレシーバが MINENTDTA(*FILE) で定義されている場合、変更データは IBM ハッシュアルゴリズムを使用して格納されます。このデータは、IBM 以外のソフトウェアで抽出することはできません。ジャーナルレシーバが MINENTDTA(*FLDBDY) で定義されている場合、更新時に値が変更されたフィールドのみが返されます。他のすべてのフィールドには、フィールド型に基づいてデフォルト値が返されます。

システムのアクション: タスクが失敗します。

ユーザの応答: 生成される次のレシーバに対してこのオプションが正しく指定されるようにジャーナルを変更し、新しいジャーナルレシーバからタスクを再開します。

PWX-15806 **ジャーナルレシーバ *receiver\_library/receiver\_name* (ジャーナル *journal\_library/journal\_name* に関連付けられている) を処理できません。保存中にジャーナルレシーバストレージが解放されました。**

説明: ジャーナルレシーバの最後の保存時に、ジャーナルレシーバによって使用されているストレージを解放するためのオプションが指定されました。これにより、PowerExchange での処理対象のレシーバからエントリが削除されます。

システムのアクション: タスクが失敗します。

ユーザの応答: ジャーナルエントリの復元用のバックアップからジャーナルレシーバを復元するか、または新しいリスタートトークンを生成して、レシーバのストレージが解放された後でプロセスを再開します。

PWX-15807 **ジャーナルレシーバ *receiver\_library/receiver\_name* (ジャーナル *journal\_library/journal\_name* に関連付けられている) を処理できません。ジャーナルレシーバに部分ステータスがあります。**

説明: ジャーナルレシーバに必要なジャーナルエントリの一部が含まれていません。そのため、PowerExchange 変更データキャプチャソフトウェアで不完全なデータ変更が処理される可能性があります。

システムのアクション: タスクが失敗します。

ユーザの応答: 部分ステータスがなくなるようにジャーナルレシーバを復元します。それが不可能な場合は、処理を許可するために CAPI\_CONNECTION パラメータで ALWPARTIAL=Y オプションが指定されている可能性があります。問題のレシーバが処理されたら、この設定を N に変更するか、または削除することをお勧めします。

PWX-15808 **ジャーナル *journal\_library/journal\_name* を処理できません。ジャーナルにジャーナルされたファイルが *current\_file\_count* 個あり、これは PowerExchange の最大ファイル数 *maximum\_files\_allowed* を超えています。**

説明: PowerExchange Db2 for i CDC は指定された IBM i ジャーナルを処理できません。その理由は、現在そこにジャーナルされている物理ファイルが多すぎるためです。

システムのアクション: IBM i ジャーナルを読み取る PowerExchange CDC タスクが失敗しました。

ユーザの応答: 指定されたジャーナルにジャーナルされるファイルの数を、許容される最大ファイル数よりも減らしてください。その後に、タスクを再度開始してください。

## 第 3 章

# PWX-16000～PWX-23999

この章では、以下の項目について説明します。

- [PWX-16000～PWX-16999, 159](#) ページ
- [PWX-19000～PWX-19999, 180](#) ページ
- [PWX-20000～PWX-20999, 189](#) ページ
- [PWX-21000～PWX-21999, 235](#) ページ
- [PWX-23000～PWX-23999, 258](#) ページ

## PWX-16000～PWX-16999

PWX-16100      DTLURDMO 入力エラー (Stmt *stmt\_no*) : 無効なオプション *option* がアクセス方式 *access\_method* とともに使用されました

説明：                      指定のオプションが指定のアクセス方式に対して無効です。

システムのアクション：      処理は続行されますが、検証のみとして実行されます。

ユーザの応答：              無効なオプションを含まないコマンドを指定します。

PWX-16101      **パラメータ *parameter* が必要ですが、指定されていません。**

説明：                      要求されたプロセスでは、指定のパラメータが必要です。

システムのアクション：      処理は続行されますが、検証のみとして実行されます。

ユーザの応答：              必要なパラメータを付けてコマンドを指定します。

PWX-16102      **一度に使用できるのは、DM\_COPY、XM\_COPY、または REG\_COPY のいずれか 1 つだけです。**

説明：                      このメッセージは情報目的です。

システムのアクション：      処理は終了します。

ユーザの応答：              1 つのコマンドタイプだけを付けて入力を指定します。

PWX-16103      **一度に使用できるのは、PWD=または EPWD=のどちらか 1 つだけです**

説明：                      このメッセージは情報目的です。

システムのアクション：      処理は終了します。

ン：

ユーザの応答：              1 つのコマンドタイプだけを付けて入力を指定します。

PWX-16104      **テーブル *table\_name* がマップで見つかりません**

説明：                      指定のテーブルがデータマップで見つかりませんでした。

システムのアクション：      テーブル名を変更する要求は無視されます。

ン：

ユーザの応答：              正しい *table\_name* で入力を指定します。

PWX-16105      **データマップが書き込まれませんでした。戻りコード  
=return\_code**

説明：                      データマップは書き込まれませんでした。

システムのアクション：      処理は継続します。

ン：

ユーザの応答：              対応する必要はありません。

PWX-16106      **互換性のないアクセス方式、入力=*input\_access\_method*、マ  
ップ=*output\_access\_method***

説明：                      指定された入力アクセス方式がデータマップ内で指定されたアクセス方式と一致しません。

システムのアクション：      処理は継続します。

ン：

ユーザの応答：              エラーを修正し、要求をもう一度実行します。

PWX-16107      **データマップスキーマ.*map\_name* が見つかりません**

説明：                      要求されたデータマップが見つかりませんでした。

システムのアクション：      処理は継続します。

ン：

ユーザの応答：              対応する必要はありません。

PWX-16110      **DTLURDMR 入力エラー (Stmt *stmt\_no*) : MODIFY TABLE=は  
REG\_COPY でサポートされていません。代わりに MODIFY  
REGTABLE 文を使用します**

説明：                      このメッセージでは、一般的なレポート行が表示されます。

システムのアクション：      検証処理は継続されます。

ン：

ユーザの応答：              エラーを修正し、要求をもう一度実行します。



PWX-16111	<b>DTLURDMO 入力エラー: 入力エラーにより実行が終了しました</b>
説明:	関連メッセージを参照します。
システムのアクション:	処理は終了します。
ユーザの応答:	エラーを修正し、要求をもう一度実行します。
PWX-16112	<b>DTLURDMO input error (Stmt <i>stmt_no</i>):parameter がすでに指定されています</b>
説明:	パラメータが 2 回指定されました。
システムのアクション:	検証処理は継続されます。
ユーザの応答:	重複のソースを特定します。エラーを修正し、要求をもう一度実行します。
PWX-16113	<b>DTLURDMO 入力エラー: (Stmt <i>stmt_no</i>): 処理文は <i>statement</i> の前にコード化する必要があります</b>
説明:	SELECT、EXCLUDE、RENAME、または MODIFY 文が、以前の DM_COPY、XM_COPY、または REG_COPY 処理文を含めずに指定されました。
システムのアクション:	検証処理は継続されます。
ユーザの応答:	SELECT、EXCLUDE、RENAME、または MODIFY 文の前に、いずれかの処理文を指定します。
PWX-16114	<b>DTLURDMO input error (Stmt <i>stmt_no</i>):DBTYPE は DM_COPY では許可されていません。am=を使用してデータマップをフィルタリングします。</b>
説明:	このタイプは、この操作で有効なフィルタではありません。
システムのアクション:	検証処理は継続されます。
ユーザの応答:	エラーを修正し、要求をもう一度実行します。
PWX-16116	<b>DTLURDMO input error (Stmt <i>stmt_no</i>):statement の有効なパラメータが見つかりません。有効なキーワードは <i>parameter</i> です</b>
説明:	パラメータテキストがなく、有効なパラメータを付与。
システムのアクション:	検証処理は継続されます。
ユーザの応答:	エラーを修正し、要求をもう一度実行します。
PWX-16117	<b>DTLURDMO input error (Stmt <i>stmt_no</i>):無効な DBTYPE が指定されました。タイプ</b>
説明:	使用されているデータベースの種類が無効です。

システムのアクション: 検証処理は継続されます。  
ン:

ユーザの応答: エラーを修正し、要求をもう一度実行します。

PWX-16118 DTLURDMO input error (Stmt *stmt\_no*):*statement* では、*parameter* および *parameter* が必要です

説明: パラメータテキストがなく、有効なパラメータを付与。

システムのアクション: 検証処理は継続されます。  
ン:

ユーザの応答: エラーを修正し、要求をもう一度実行します。

PWX-16119 DTLURDMO input error (Stmt *stmt\_no*):*access\_method* が *statement* に対して有効ではありません

説明: 使用されているアクセス方式が無効です。

システムのアクション: 検証処理は継続されます。  
ン:

ユーザの応答: エラーを修正し、要求をもう一度実行します。

PWX-16120 DTLURDMO input error (Stmt *stmt\_no*):DBID=*value* は、サフィックス "*generated*" (*dbserver.dbname*) に一致する必要があります

説明: このパラメータは、使用されているアクセス方式で問題になる場合があります。このパラメータは、命名規則に従い、ターゲットに正しく一致する必要があります。

システムのアクション: 検証処理は継続されます。  
ン:

ユーザの応答: エラーを修正し、要求をもう一度実行します。

PWX-16121 DTLURDMO input error (Stmt *stmt\_no*):MSS では KEEPREGTAG=*value* は必要ありません

説明: このパラメータが、使用されているアクセス方式で問題になる場合があります。タグが再生成されるので、必要な場合にタグが維持されます。

システムのアクション: 検証処理は継続されます。  
ン:

ユーザの応答: エラーを修正し、要求をもう一度実行します。

PWX-16122 DTLURDMO input error (Stmt *stmt\_no*):DBID=*value* では、*instance* (*dbserver.dbname*) が (*edbserver.edbname*) に対して一致しません。

説明: このパラメータが、使用されているアクセス方式で問題になる場合があります。パラメータは、命名規則に従い、ターゲットに正しく対応する必要があります。パラメータの *dbname* および *dbserver* が、インスタンスの既存の *dbname* および *dbserver* と一致しません。.

システムのアクション: 検証処理は継続されます。  
ン:

ユーザの応答：	エラーを修正し、要求をもう一度実行します。
PWX-16123	DTLURDMO input error (Stmt <i>stmt_no</i> ): <b>マップ名変更属性とマップ変更属性は相互に排他的です</b>
説明：	<p>MODIFY 文に、名前変更パラメータ (SCHEMA=、MAP=) およびマップ属性パラメータの変更 (AM=<i>xxx</i>) が含まれます。これらのパラメータは相互に排他的です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• アクティブフィルタにより選択されたすべてのマップに対して名前変更を実行</li> <li>• マップ属性の変更は、指定のアクセス方式にのみ適用</li> </ul>
システムのアクション：	検証処理は継続されます。
ユーザの応答：	これらのパラメータについて、MODIFY 文を個別に指定します。
PWX-16124	DTLURDMO input error (Stmt <i>stmt_no</i> ): <b>マップのプロパティを変更する文のアクセス方式が指定されていません</b>
説明：	<p>MODIFY 文にマップ属性パラメータの変更 (AM=<i>xxx</i>) が含まれますが、文にアクセス方式のパラメータが含まれませんでした。コピーで変更可能なマップ属性はアクセス方式によって異なります。したがって、AM=は必須パラメータです。AM=パラメータを必要としないのは、マップコンポーネントの名前を変更する MODIFY 文のみです。</p>
システムのアクション：	検証処理は継続されます。
ユーザの応答：	エラーを修正し、要求をもう一度実行します。
PWX-16125	DTLURDMO input error (Stmt <i>stmt_no</i> ): <b>文 <i>statement</i> は、<i>statement</i> でのみ有効です</b>
説明：	<p>指定された文は、選択された操作と互換性がありません。たとえば、KEEPREGTAG は DM_COPY と互換性がありません。</p>
システムのアクション：	検証処理は継続されます。
ユーザの応答：	エラーを修正し、要求をもう一度実行します。
PWX-16126	DTLURDMO: <i>table</i> の抽出マップの作成中にエラーが発生しました。
説明：	<p>指定されたソーステーブルの抽出マップを作成しようとしたときに、DTLURDMO ユーティリティでエラーが発生しました。</p>
システムのアクション：	DTLURDMO 処理が終了します。
ユーザの応答：	<p>エラーを診断するには、メッセージログで関連するメッセージを検索してください。サポートが必要な場合は、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。</p>

PWX-16131	<b>クライアントコードページが <i>name</i> (<i>internal_code_page_number</i>) に変更されました</b>
説明:	DBMOVER コンフィギュレーションファイルに指定されたコードページは登録処理と互換性がありません。次に示すコードページの1つが必要です。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• IBM1047 (z/OS 上)</li> <li>• IBM037 (i5/OS 上)</li> <li>• UTF-16LE (Linux、UNIX、または Windows 上)</li> </ul> PowerExchange は、SQL を PowerExchange Listener に送信するときに、現在指定されているものをオーバーライドしてこの名前付きコードページを使用します。
システムのアクション:	処理は続行されますが、検証のみモードで実行されます。
ユーザの応答:	エラーを修正して、プログラムを再実行します。
PWX-16200	<b>PARM OLDNAME が NEWNAME に変更されました</b>
説明:	指定されたマップパラメータは正常に変更されました。
システムのアクション:	処理は継続します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-16202	<b>データマップ MAPNAME を処理しています</b>
説明:	このメッセージは情報目的です。
システムのアクション:	処理は継続します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-16203	<b>Windows_Message</b>
説明:	このメッセージは情報目的です。
システムのアクション:	処理はメッセージによって異なります。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-16305	<b>エラー:rsttkn <i>resource_name</i> のおわりがアプリケーション <i>application</i> の実行前にあります。</b>
説明:	アプリケーションに実行履歴がなく、保留中のトークンがない場合は、"END RSTTKN"で削除するリソースを持てません - エラー。
システムのアクション:	システムは要求を終了します。
ユーザの応答:	要求にエラーがないことを確認します。DTLUCDEP は印刷アプリケーションによって役に立つことがあります。DTLUAPPL は制限付きレポート"PRINT APPL ALL"を印刷できます。PowerExchange Navigator で [データキャプチャ]、[アプリケーショングループ] を表示することもできます。正しい要求をサブミットし直します。

PWX-16400	<b>不明なデータベースの種類</b> <i>database_type</i> 。
説明:	データベースの種類がサポートされていないため、ODL 要求を実行できません。
システムのアクション:	システムは要求を終了します。
ユーザの応答:	アクセス方式 ODL は、サポートされているデータベースの種類に対してのみ使用します。
PWX-16401	<b>データベースエラー:</b> <i>database_error</i> 。
説明:	データベースエラーが返されました。
システムのアクション:	システムは要求を終了します。
ユーザの応答:	エラーを修正してもう一度実行します。
PWX-16402	<b>不明な文の種類:</b> <i>statement_type</i> 。
説明:	不明な文の種類が送信されました。
システムのアクション:	システムは要求を終了します。
ユーザの応答:	エラーを修正してもう一度実行します。
PWX-16404	<b>不明なアクセス方式の種類:</b> <i>access_method_type</i> 。
説明:	不明なアクセス方式の種類がサブミットされました。
システムのアクション:	システムは要求を終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-16405	<b>列: <i>column_name</i> (テーブル: <i>table_name</i>) にサポートされていないデータ型: <i>column_type</i> が含まれています。</b>
説明:	テーブルにサポートされていないデータ型が含まれています。 PowerExchange では処理されません。
システムのアクション:	システムは要求を終了します。
ユーザの応答:	テーブルで、サポートされているデータタイプが使用されていることを確認します。
PWX-16406	<b>不明なメタデータ型:</b> <i>type</i> 。
説明:	不明なアクセス方式の種類がサブミットされました。
システムのアクション:	システムは要求を終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-16407	<b>グローバルロケールの設定が、コードページ名 '<i>name</i>' で失敗しました。</b>
説明:	PMI18N モジュールで、コードページ名が認識されません。

システムのアクション： システムは要求を終了します。

ユーザの応答： 不正な値が dbmover.cfg の ORACLECODEPAGE 文の 3 番目のパラメータに指定されました。

PWX-16408 Oracle **環境変数 NLS\_LANG が定義されていません。**

説明： 環境変数 NLS\_LANG が定義されていません。この変数の 3 番目のコンポーネントは、Oracle が呼び出し元アプリケーションとのデータ交換に使用する文字セットを定義します。

システムのアクション： 処理は継続されますが、システムで文字データに対して正しいコードページが使用できない場合があります。

ユーザの応答： Oracle の指示に従って、この環境変数を指定します。

PWX-16409 Oracle **環境変数 NLS\_LANG value にドットがありません。**

説明： NLS\_LANG 環境変数値にドットがありません。期待されるフォーマットは Language\_Territory.character set で、文字セットの開始位置を決定するために、システムでドットが使用されます。

システムのアクション： 処理は継続されますが、システムで文字データに対して正しいコードページが使用できない場合があります。

ユーザの応答： Oracle の指示に従って、この環境変数を指定します。

PWX-16410 Oracle **環境変数 NLS\_LANG value が認識されませんでした。**

説明： NLS\_LANG の Oracle 文字セットに一致する PMI18N ロケールコードページを自動的に特定することができませんでした。

システムのアクション： 処理は、この TNSNAME. の ORACLECODEPAGE で指定されているコードページを使用して継続されます。何も指定されていなかった場合は、システムのデフォルトが使用されますが、SQL を正しく処理できない場合があります。

ユーザの応答： 正しいコードページが使用されるように、構成ファイルで ORACLECODEPAGE 文を指定します。

PWX-16411 Oracle **環境変数 NLS\_LANG value は、コードページ PowerExchange\_code\_page (internal\_number) および PWC\_code\_page を生成しました。**

説明： システムが、NLS\_LANG の Oracle 文字セットから指定されたコードページを自動的に特定しました。

システムのアクション： 処理は、指定されたコードページを使用して継続されます。

ユーザの応答： このメッセージは、他のエラーメッセージとともに出力されます。エラーメッセージに対応します。

PWX-16412 ORACLECODEPAGE 文を使用して、コードページを特定しました。

説明： 構成ファイルの ORACLECODEPAGE 文を使用して、コードページが特定されました。

システムのアクション: 処理は、指定されたコードページを使用して継続されます。

ユーザの応答: このメッセージは、他のエラーメッセージとともに出力されます。  
エラーメッセージに対応します。

PWX-16413 **列 *column\_name* (テーブル *table\_name* 内) の記述に失敗しました。**

説明: 指定されたテーブルに列が存在しません。

システムのアクション: システムは要求を終了します。

ユーザの応答: テーブルのメタデータに一致するように、問い合わせを変更します。

PWX-16414 **環境変数 DB2CODEPAGE から作成されたエイリアス *PowerExchange\_code\_page\_alias* を使用して、PWX コードページ番号を特定できませんでした。**

説明: DB2CODEPAGE 環境変数の値が PowerExchange コードページの別名の作成に使用されましたが、その別名が見つかりません。

システムのアクション: システムは要求を終了します。

ユーザの応答: Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-16415 **切り捨て処理中に次のエラーが発生しました: *error\_message*。**

説明: 文字列値の切り捨て処理中にエラーが発生しました。

システムのアクション: システムは要求を終了します。

ユーザの応答: Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-16416 **パラメータ列の解析中にエラーが発生しました: *expected* が必要ですが、*found* が見つかりました。**

説明: SQL の解析中に、必要な列数と実際に見つかった数が異なることがわかりました。

システムのアクション: システムは要求を終了します。

ユーザの応答: Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-16417 **ODL 用 ICU データディレクトリが *current\_ICU\_data\_directory* に変更しました。変更前は *former\_ICU\_data\_directory* でした。**

説明: PMI18N 環境の初期化後、ICU データディレクトリが前の値から変更されました。前の値は、ICUDATADIR 構成パラメータで設定された可能性があります。

システムのアクション: 処理は継続されますが、指定したディレクトリにカスタム ICU コードページの CNV ファイルが見つからない場合、失敗する可能性があります。

ユーザの応答： ICUDATADIR を "change to" 値と同じ値に変更することをお勧めします。

PWX-16418      **ルーチン *routine\_name* の呼び出し中にエラーが発生しました。 戻りコード: *return\_code*。**

説明：                指定したルーチンからエラーが返されました。

システムのアクション： 処理は終了します。

ユーザの応答：      Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-16420      **TNSNAME "*tnsname\_host*" で ORACLECODEPAGE エラーです。 パラメータ 3 *pc\_codepage* は有効なコードページではありません。**

説明：                DBMOVER コンフィギュレーションファイル内で、ORACLECODEPAGE 文の第 3 の位置パラメータ (*pc\_codepage*) は、有効ではないコードページ名を指定します。

システムのアクション： バルクデータの移動処理を中止します。

ユーザの応答：      ORACLECODEPAGE 文から *pc\_codepage* パラメータを削除します。次に PowerCenter は、ロケールでデフォルトの PM ロケールコードページ名を使用します。

PWX-16421      **TNSNAME "*tnsname\_host*" で ORACLECODEPAGE エラーです。 パラメータ 3 *pc\_codepage* が PM ロケールコードページではありません。 予期される "*codepage\_name*"。**

説明：                DBMOVER コンフィギュレーションファイル内で、ORACLECODEPAGE 文の第 3 の位置パラメータ (*pc\_codepage*) は、PowerCenter で使用するための有効な PM ロケールコードページ名ではないコードページ名を指定しています。PowerCenter では、このメッセージの予期フィールドに表示された PM ロケールコードページ名が必要です。

システムのアクション： バルクデータの移動処理を中止します。

ユーザの応答：      ORACLECODEPAGE 文から *pc\_codepage* パラメータを削除します。次に PowerCenter は、ロケールでデフォルトの PM ロケールコードページ名を使用します。

PWX-16422      **TNSNAME "*tnsname\_host*" で ORACLECODEPAGE エラーです。 パラメータ 3 *pc\_codepage* が PM ロケールコードページではありません。 CPN "*codepage\_number*"。**

説明：                DBMOVER コンフィギュレーションファイル内で、ORACLECODEPAGE 文の第 3 の位置パラメータ (*pc\_codepage*) は、PowerExchange が認識するコードページを特定します。ただし、このコードページは有効な PM ロケールコードページ名のリストに含まれていません。

システムのアクション： バルクデータの移動処理を終了します。



ユーザの応答：	デフォルトの PM ロケールコードページを使用するために、ORACLECODEPAGE 文から第 3 の位置パラメータ ( <i>pc_codepage</i> ) を削除します。また、第 2 の位置パラメータ ( <i>px_codepage</i> ) にユーザー定義の ICU コードページを入力した場合は、第 3 の位置パラメータに有効な PM ロケールコードページの名前を入力します。有効な PM ロケールコードページのリストについては、ICUCHECK ユーティリティを使用してレポート 6、PM ロケールコードページを作成します。
PWX-16423	<b>TNSNAME "tnsname_host"で ORACLECODEPAGE エラーです。CPN codepage_numberの PM ロケールコードページが存在しません。名前"codepage_name"。</b>
説明：	DBMOVER コンフィギュレーションファイル内で、ORACLECODEPAGE 文の第 2 の位置パラメータ ( <i>px_codepage</i> ) は、ユーザー定義コードページを指定します。このメッセージでは、コードページの番号および名前を示します。このコードページは、対応する PM ロケールコードページ名を含みません。したがって PowerCenter では、Oracle バルクデータ移動操作で使用するコードページを見つけることができません。
システムのアクション：	バルクデータの移動処理を終了します。
ユーザの応答：	PowerCenter のコードページを定義するために、ORACLECODEPAGE 文で第 3 の位置パラメータ <i>pc_codepage</i> として有効な PM ロケールコードページ名を入力します。有効な PM ロケールコードページのリストについては、ICUCHECK ユーティリティを使用してレポート 6、PM ロケールコードページを作成します。
PWX-16431	<b>データタイプが datatype である、テーブル table_name 内のカラム column_name を処理できません。</b>
説明：	キャプチャ登録作成時に、指定された SQL Server カラムのメタデータを処理している間、PowerExchange でエラーが発生しました。
システムのアクション：	処理は終了します。
ユーザの応答：	詳細については、一緒に表示されるメッセージを参照してください。その後、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-16432	<b>SQLsql_statementのデータベースコードページの結果セットを取得できません。</b>
説明：	PowerExchange が、SQL Server 照合名からデータベースコードページを判断できません。
システムのアクション：	処理は継続します。PowerExchange は、カラムレベルの情報を使用してコードページの特定を試みます。
ユーザの応答：	詳細については、一緒に表示されるメッセージを参照してください。処理が停止する場合は、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-16450	<b>不明なメタデータ型: <i>type</i>。</b>
説明:	不明なメタデータ型がサブミットされました。
システムのアクション:	システムは要求を終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-16451	<b>内部エラー: バッファメモリの上限を超えました。</b>
説明:	バッファメモリのサイズが不十分なため、必要なメタデータを格納できません。
システムのアクション:	システムは要求を終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-16452	<b>不明な要求種類 <i>request_type</i>。</b>
説明:	不明な要求種類を処理できません。
システムのアクション:	システムは要求を終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-16453	<b>データベースアクセスモジュールからエラーコード <i>code</i> が返されました。</b>
説明:	アクセスモジュールからエラーが返されました。
システムのアクション:	システムは要求を終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-16454	<b>アクセス方式は、読み込み要求のみを処理します。</b>
説明:	このアクセス方式は、読み込み要求のみを処理します。
システムのアクション:	システムは要求を終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-16455	<b>アクセス方式が処理するのは、メタデータ要求のみです。</b>
説明:	このアクセス方式は、メタデータ要求のみを処理します。
システムのアクション:	システムは要求を終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-16456	<b>メタデータ要求が処理されていません: <i>request_type</i>。</b>
説明:	未処理のメタデータ要求です。
システムのアクション:	システムは要求を終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-16457	<b>Null ポインタの使用が無効です</b>
説明:	Null ポインタの使用が無効です。
システムのアクション:	文字列の設定に失敗しました。
ユーザの応答:	有効なポインタを渡します。
PWX-16458	<b>パートナーのアクセス方式がありません。指定します。</b>
説明:	パートナのアクセス方式が指定されていませんでした。
システムのアクション:	システムは要求を終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-16551	<b>カタログ名パラメータが LOGSID エントリ LOGSID_statement にありません</b>
説明:	カタログ名データセットが、DBMOVER コンフィギュレーションファイルの指定された LOGSID エントリに含まれていませんでした
システムのアクション:	処理は終了します。
ユーザの応答:	DBMOVER コンフィギュレーションファイルを編集して、エラーメッセージで指定されている LOGSID 文にカタログ名データセットを含めます。
PWX-16552	<b>インスタンス名パラメータが LOGSID エントリ LOGSID_statement にありません</b>
説明:	インスタンス名パラメータが、DBMOVER コンフィギュレーションファイルの指定された LOGSID エントリに含まれていませんでした。
システムのアクション:	処理は終了します。
ユーザの応答:	DBMOVER コンフィギュレーションファイルを編集して、エラーメッセージで指定されている LOGSID 文にインスタンス名パラメータを含めます。
PWX-16553	<b>IDMSX CAPI: シーケンス情報ブロックオフセット: <i>offset</i></b>
説明:	現在の IDMSX ログレコードについて、それが格納されているログファイルブロックのオフセットが発行されます。
システムのアクション:	タスクは続行されます。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。このメッセージは、前のエラーへの応答として発行される場合があるので、エラーの発生時に処理されていたログレコードを特定するのに役立ちます。
PWX-16554	<b>IDMSX CAPI: シーケンス情報ブロック番号: <i>log_file_block_number</i></b>
説明:	現在の IDMSX ログレコードがあるログファイルブロック番号が表示されています。

システムのアクション: タスクは続行されます。  
システム:

ユーザの応答: 対応する必要はありません。このメッセージは、前のエラーへの応答として発行される場合があるので、エラーの発生時に処理されていたログレコードを特定するのに役立ちます。

PWX-16555 IDMSX CAPI:シーケンス情報ファイル番号: *log\_file\_number*  
説明: 現在の IDMSX ログレコードがあるログファイル番号が表示されています。

システムのアクション: タスクは続行されます。  
システム:

ユーザの応答: 対応する必要はありません。このメッセージは、前のエラーへの応答として発行される場合があるので、エラーの発生時に処理されていたログレコードを特定するのに役立ちます。

PWX-16556 IDMSX CAPI:シーケンス情報バージョン番号: *version\_number*  
説明: 現在の IDMSX ログレコードのシーケンス情報バージョン番号が表示されています。

システムのアクション: タスクは続行されます。  
システム:

ユーザの応答: 対応する必要はありません。このメッセージは、前のエラーへの応答として発行される場合があるので、エラーの発生時に処理されていたログレコードを特定するのに役立ちます。

PWX-16557 IDMSX CAPI:IDMSX インスタンス名:  
*hexadecimal\_dump\_of\_instance\_name:instance\_name*  
説明: 現在の IDMSX ログレコードを生成したインスタンス名が表示されています。

システムのアクション: タスクは続行されます。  
システム:

ユーザの応答: 対応する必要はありません。このメッセージは、前のエラーへの応答として発行される場合があるので、エラーの発生時に処理されていたログレコードを特定するのに役立ちます。

PWX-16558 IDMSX CAPI:IDMSX リスタート情報に *early* 値が含まれていません

説明: このタスクのリスタート情報は、IDMSX ログ内にある最も古いポイントを指しています。

システムのアクション: タスクは続行されます。  
システム:

ユーザの応答: 対応する必要はありません。このメッセージは、前のエラーへの応答として発行される場合があるので、エラーの発生時に処理されていたログレコードを特定するのに役立ちます。

PWX-16570	IDMSX CAPI: <i>no_filter_tag</i> と他のタグを混在させることはできません。
説明:	フィルタ処理なしを示す特別な登録タグが、他の登録タグと組み合わせて使用されていることを、IDMSX CAPI モジュールが検出しました。
システムのアクション:	システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-16571	IDMSX CAPI: <i>registration_tag</i> という名前の登録タグが、タグ名の最大長 <i>maximum_tag_name_length_value</i> よりも長くなっています。
説明:	IDMSX CAPI モジュールが、無効な登録タグを検出しました。
システムのアクション:	システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-16572	IDMSX CAPI: <b>エラーコード</b> <i>return_code</i> 、 <b>モジュール</b> <i>module_name</i> の IDMSX ログリーダへの接続。
説明:	IDMSX CAPI モジュールが IDMSX ログリーダに接続できませんでした。
システムのアクション:	システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。
ユーザの応答:	出力ログを調べて、このメッセージの直前または直後にエラーがないか確認します。エラーの発生源を特定できる場合があります。
PWX-16573	IDMSX CAPI: <b>ログの終わりへのシークが NULL 値を返しました。</b>
説明:	IDMSX CAPI モジュールが、IDMSX ログの現在の末尾を見つけられませんでした。
システムのアクション:	システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-16574	IDMSX CAPI: <b>IDMSX ログ API 呼び出し</b> <i>call_type</i> 、 <b>戻りコード</b> <i>=return_code</i> 、 <b>理由</b> <i>=reason_code2/reason_code2/reason_code3</i>
説明:	IDMSX ログの読み取り中に、IDMSX CAPI モジュールでエラーが発生しました。  メッセージテキスト内で、 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>call_type</i> は、エラーが検出された呼び出しの種類です。</li> <li>• <i>return_code1</i>、<i>return_code2</i>、および <i>return_code3</i> は、エラー用の PowerExchange 戻りコードです。</li> </ul>
システムのアクション:	システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。

ユーザの応答： Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-16575 IDMSX CAPI:IDMSX ログ API が無効なレコードタイプ  
*hexadecimal\_record\_type\_value* を返しました。

説明： IDMSX CAPI モジュールが、IDMSX ログ読み取りルーチンから無効なレコード型を受け取りました。

システムのアクション： システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。

ユーザの応答： Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-16576 IDMSX CAPI:IDMSX ログ API が無効なアクションコード  
*hexadecimal\_action\_type\_value* をレコードタイプ  
*record\_typedescription* に対して返しました。

説明： IDMSX CAPI モジュールが、表示されたレコード型について、IDMSX ログ読み取りルーチンから無効なサブタイプを受け取りました。

システムのアクション： システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。

ユーザの応答： Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-16577 IDMSX CAPI:IDMSX ログ API が無効なタグ名インデックス  
*index\_value* を返しました

説明： IDMSX CAPI モジュールがタグ名インデックス値を受け取りましたが、値が範囲外でした。

システムのアクション： システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。

ユーザの応答： Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-16578 IDMSX CAPI:現在のログレコードシーケンス情報：  
*hex\_sequence\_info*

説明： このメッセージでは、現在の IDMSX ログレコードの 16 進数のシーケンス情報が報告されます。

ユーザの応答： 対処は必要ありません。このメッセージは、別のエラーへの応答として報告される場合があります。その場合は、このメッセージを、このメッセージの直前または直後のエラーメッセージとともに検討して、エラーの発生源を特定します。

PWX-16579 IDMSX CAPI:IDMSX キャプチャモジュール *module\_name* で  
エラーが報告されました: 戻りコード=*return\_code*

説明： 指定されているキャプチャモジュールでエラーが発生しました。

システムのアクション： システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。

ユーザの応答： 出力ログを調べて、このメッセージの直前または直後にエラーメッセージがないか確認します。エラーの発生源を特定できる場合があります。

PWX-16580	<b>IDMSX CAPI:リポジトリ関数 <i>function_name</i> でエラーが報告されました: 場所=<i>node_name</i></b>
説明:	示されているリポジトリモジュールで、エラーが検出されました。
システムのアクション:	システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。
ユーザの応答:	場所の名前が"local"の場合は、出力ログを調べて、このメッセージの直前または直後にエラーメッセージがないか確認します。エラーの発生源を特定できる場合があります。場所名が"local"以外の場合は、指定された場所で行われている PowerExchange Listener の出力ログを調べて、エラーメッセージを確認します。
PWX-16581	<b>IDMSX CAPI:リスタート情報の長さ <i>length_in_bytes</i> が予想された長さ <i>length_in_bytes</i> と一致しません</b>
説明:	無効なリスタート情報が検出されました。
システムのアクション:	システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-16582	<b>IDMSX CAPI:シーケンス情報の長さ <i>length_in_bytes</i> が予想された長さ <i>length_in_bytes</i> と一致しません</b>
説明:	無効なリスタート情報が検出されました。
システムのアクション:	システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-16583	<b>IDMSX CAPI:構成 LOGSID <i>configuration_parm_LOGSID_value</i> が LOGSID <i>override_LOGSID_value</i> にオーバーライドされています。</b>
説明:	構成パラメータの LOGSID 値が、指定された値でオーバーライドされています。
ユーザの応答:	対処は必要ありません。IDMSX インスタンス値は、LOGSID 構成パラメータに含まれています。この値は、正しい IDMSX ログに接続するために使用されます。また、キャプチャするソースを決定するときに IDMSX CAPI が検索する登録情報をフィルタ処理するためにも使用されます。「見つかりません」という登録エラーがある場合は、選択された LOGSID 構成パラメータに、正しいキャプチャカタログおよびインスタンス情報が含まれていることを確認します。
PWX-16584	<b>IDMSX CAPI:CAPI 呼び出し元ソースの番号 <i>number_of_sources_to_process</i> が設定数 <i>number_of_sources_with_restart_information</i> と異なりま</b> <b>す。</b>
説明:	リスタート情報が含まれていないソース登録があります。
システムのアクション:	システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-16585	IDMSX CAPI: <b>無効な登録タグが見つかりました。タグ長=length_of_tag_name、タグ名=tag_name</b>
説明:	無効なソース登録名が IDMSX CAPI に渡されました。
システムのアクション:	システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-16586	IDMSX CAPI: <b>登録タグ tag_name のリスタート情報が提供されていません。</b>
説明:	CAPI ルーチンの呼び出し元が、指定されたタグ名のリスタート情報の掲示に失敗しました。
システムのアクション:	システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-16587	IDMSX CAPI: <b>タグ tag_name の登録情報が見つかりません。</b>
説明:	指定されたタグ名の登録情報がありません。
システムのアクション:	システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。
ユーザの応答:	指定した登録タグ名が、変更をキャプチャする IDMSX インスタンスに属していることを確認します。
PWX-16588	IDMSX CAPI: <b>タグ tag_name の登録情報が処理されています。</b>
説明:	指定されたタグ名の登録情報を処理中です。
ユーザの応答:	対処は必要ありません。このメッセージは、登録のデータがキャプチャ中であることを確認するために出力されます。
PWX-16589	IDMSX CAPI: <b>ID LOGSID_name を持つ複数の LOGSID 文が見つかりました。</b>
説明:	DBMOVER コンフィギュレーションファイル内で、同じ ID 値を持つ複数の LOGSID 文が存在します。
システムのアクション:	システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。
ユーザの応答:	DBMOVER コンフィギュレーションファイルから重複する LOGSID 文を削除します。
PWX-16590	IDMSX CAPI: <b>ID LOGSID_name を持つ LOGSID 文が見つかりません。</b>
説明:	dbmover.cfg の CAPI_CONNECTION TYPE=LOGS 文で指定されたものと同じ ID、または PowerCenter IDMSX キャプチャセッションパラメータで指定されたものと同じ ID を持つ LOGSID 文がありません。
システムのアクション:	システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。



ユーザの応答： DBMOVER コンフィギュレーションファイルの CAPI\_CONNECTION 文またはいずれかの LOGSID 文での指定値が正しくないか、または PowerCenter IDMSX キャプチャセッションパラメータでの指定値が正しくありません。あるいは、CAPI\_CONNECTION 文または PowerCenter IDMSX Capture セッションパラメータで指定された LOGSID 文が DBMOVER コンフィギュレーションファイルに存在しません。問題を修正して、もう一度実行します。

PWX-16591 IDMSX CAPI:**リスタート情報インスタンス *instance\_name\_from\_restart\_token* が *expected\_instance\_instance\_name\_from\_config\_file* に一致しません**

説明： 無効なリスタート情報が検出されました。

システムのアクション： システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。

ユーザの応答： インスタンス名が DBMOVER コンフィギュレーションファイルの LOGSID 文で指定されています。この値を変更し、キャプチャジョブのアプリケーションをリセットしなかった場合、このエラーが発生します。

PWX-16593 IDMSX CAPI:**定義された出力列数 *output\_columns\_defined\_to\_be\_returned\_from\_IDMSX\_CAPI* が予期した数 *output\_columns\_defined\_to\_IDMSX\_CAPI* と一致しません。**

説明： IDMSX キャプチャ行イメージの内部の CAPI 定義が、IDMSX 定義と異なります。

システムのアクション： システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。

ユーザの応答： Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-16594 IDMSX CAPI:**定義された出力列 *IDMSX\_capture\_column\_name* が予期した列 *CAPI\_capture\_column\_name* と異なります。**

説明： IDMSX キャプチャ行イメージの内部の CAPI 定義が、IDMSX 定義と異なります。

システムのアクション： システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。

ユーザの応答： Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-16595 IDMSX CAPI:**予期した出力列数 *output\_columns\_defined\_to\_IDMSX\_CAPI* が、返された数 *columns\_returned\_from\_IDMSX* と異なります。**

説明： IDMSX キャプチャ行イメージの内部 CAPI 定義が、IDMSX から返されたキャプチャ行と異なります。

システムのアクション： システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。

ユーザの応答： Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-16596	<b>IDMSX CAPI:予期した列&lt;column_name&gt;、種類&lt;column_type&gt;、精度&lt;column_precision&gt;、スケール&lt;column_scale&gt;、Null 可能&lt;nullability_indicator&gt;</b>
説明:	IDMSX キャプチャ行イメージの内部 CAPI 定義が、IDMSX から返されたキャプチャ行と異なります。このメッセージは、2 つの部分に分かれています。後半部分であるメッセージ PWX-16597 がすぐに続きます。
システムのアクション:	システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-16597	<b>出力列&lt;column_name&gt;、種類&lt;column_type&gt;、精度&lt;column_precision&gt;、スケール&lt;column_scale&gt;、Null 可能&lt;nullability_indicator&gt;と異なります</b>
説明:	IDMSX キャプチャ行イメージの内部 CAPI 定義が、IDMSX から返されたキャプチャ行と異なります。このメッセージは、直前のメッセージ PWX-16596 の後半部分です。
システムのアクション:	システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-16699	<b>CAPI IDMSX 範囲の最後のメッセージ</b>
説明:	このメッセージは情報目的です。
システムのアクション:	処理は継続します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-16710	<b>SMF ストレージ要求が失敗しました</b>
説明:	SMF ストレージの要求が失敗しました
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-16711	<b>タイプ"接続先"への統計情報収集、間隔"minutes"分</b>
説明:	この PowerExchange Listener の統計情報コレクションは、SMF またはファイル (type) を経由してターゲット SMF レコード番号またはデータセットまでです。収集間隔は <i>minutes</i> 分ごとです。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-16712	<b>SMF サブタスクの作成に失敗しました。戻りコード <i>return_code</i></b>
説明:	SMF 収集タスクを開始できませんでした。戻りコードは、オペレーティングシステム環境によって異なります。
システムのアクション:	PowerExchange Listener が終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-16713	<b>SMF インターバルサブタスクが開始されました。収集間隔"<i>mins</i>"分</b>
説明:	SMF 収集タスクがアクティブになっており、統計が X 分ごとに収集されます。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-16714	<b>SMF インターバルサブタスクが終了しました。サイクルカウント=<i>count</i></b>
説明:	SMF 収集タスクが、区間データを指定回数だけ収集して、正しく終了しました
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-16715	<b>STATS を SMF に書き込むように要求されましたが、ロードライブラリが APF 許可されていません。</b>
説明:	STATS を SMF に書き込むには、PowerExchange ライブラリが APF 許可されている必要があります。
システムのアクション:	PowerExchange Listener が終了します。
ユーザの応答:	APF 許可リストに PowerExchange ロードライブラリを追加します。
PWX-16716	<b>ファイルマップメモリ統計ファイルのディレクトリは'<i>directory</i>'です。</b>
説明:	<p>この情報メッセージは、PowerExchange リスナが起動し、DBMOVER 構成ファイルの STATS=MONITOR 文によってリスナ統計の収集が有効になったとき、AIX PPC64、IBM i (i5/OS)、および Solaris SP64 システムに記録されます。このメッセージは、PowerExchange リスナおよび他のタスクプロセスによるメモリ共有に使用される、一時的なファイルにマッピングされたメモリ統計ファイルを含むディレクトリを報告します。特定のディレクトリを指すように DBMOVER 構成ファイルで FILEMAPPED_MEMORY_DIR 文を設定しなかった場合、このメッセージを使用して、これらのファイルが生成されるディレクトリの場所を確認してください。</p> <p><b>ヒント:</b> FILEMAPPED_MEMORY_DIR 文を定義して、一時的なファイルにマッピングされたメモリ統計ファイルを、この目的でのみ使用される特定のディレクトリに送ることをお勧めします。このディレクトリがローカルにマウントされたディスクにあることを確認し、ネットワークマウントにより複雑になることを避けてください。</p>
ユーザの応答:	対応する必要はありません。

PWX-16720	<b>ロックを <i>number_of_seconds</i> 秒待機してタイムアウトになりました。タスク <i>task</i>。ホルダキー <i>holder_key_number</i> (<i>description</i>)。呼び出し側キー <i>caller_key_number</i> (<i>description</i>)。</b>
説明：	PowerExchange は、統計の収集中にこの警告メッセージを z/OS に記録します。呼び出し側がタスクの統計メモリブロックをロックできずにタイムアウト時間が経過しました。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>holder_key_number</i> は、ロックの保持時間を超過したプロセスを示します。</li> <li>• <i>caller_key_number</i> は、タスクのメモリブロックをロックしようとしているプロセスを示します。</li> </ul>
システムのアクション：	処理は継続します。 呼び出し側が統計を報告している場合、問題タスクをスキップして次のタスクに進みます。 呼び出し側が PowerExchange リスナで、終了ステップを実行している場合、終了ステップを続行しロックなしでメモリを解放します。
ユーザの応答：	システムの別の箇所の障害を示すメッセージを探してください。代替ログが指定されたことを確かめてください。

## PWX-19000～PWX-19999

PWX-19700	<b>パラメータ <i>parameter</i> がありません。</b>
説明：	このパラメータは、DTLUCSR2 に必須です。
システムのアクション：	DTLUCSR2 ユーティリティ処理が終了します。
ユーザの応答：	足りないパラメータをコーディングします。
PWX-19701	<b>印刷 DBCB <i>call_type</i> 呼び出し中にエラーが発生しました。戻りコード=<i>return_code1</i>/<i>return_code2</i>/<i>return_code3</i></b>
説明：	DATABASE FILE の処理中に、DTLUCSR2 でエラーが発生しました。 メッセージテキスト内で、 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>call_type</i> は、エラーが発生した呼び出しの種類です。</li> <li>• <i>return_code1</i>、<i>return_code2</i>、および <i>return_code3</i> は、エラー用の PowerExchange 戻りコードです。</li> </ul>
システムのアクション：	処理は終了します。
ユーザの応答：	エラーを修正します。その後、要求をもう一度実行します。
PWX-19702	<b>DATABASE FILE の処理中にエラーが発生しました</b>
説明：	DATABASE FILE の処理中にエラーが発生しました。詳細メッセージがこの後に続きます。

システムのアクション: DTLUCSR2 ユーティリティ処理が終了します。

ン:

ユーザの応答: エラーを調査します。

PWX-19703 **DATABASE FILE で予期しないファイルの終わりに達しました**

説明: DATABASE FILE の読み取り中に、ファイルの終わり (EOF) に達しました。

システムのアクション: DTLUCSR2 ユーティリティ処理が終了します。

ン:

ユーザの応答: エラーを調査します。

PWX-19704 **DATABASE FILE で読み取りエラーが発生しました。戻りコード=return\_coderc\_description**

説明: DATABASE FILE の読み取り中に、DTLUCSR2 でエラーが検出されました。

システムのアクション: 処理は終了します。

ン:

ユーザの応答: エラーを修正します。その後、要求をもう一度実行します。

PWX-19706 **内部エラー、プログラム=program\_name、行=line\_number、説明テキスト=description**

説明: 内部エラーが発生しました。

システムのアクション: システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。

ン:

ユーザの応答: Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-19707 **DATABASE FILE を開くときにエラーが発生しました。戻りコード="return\_code" rc\_description**

説明: DATABASE FILE を開いているときに、DTLUCSR2 でエラーが検出されました。

システムのアクション: 処理は終了します。

ン:

ユーザの応答: エラーを修正します。その後、要求をもう一度実行します。

PWX-19708 **DATABASE FILE で fldata () が失敗しました。戻りコード="return\_code"**

説明: fldata()呼び出しで、DATABASE FILE のブロックサイズ情報を取得できませんでした。

システムのアクション: 処理は終了します。

ン:

ユーザの応答: エラーを修正します。その後、要求をもう一度実行します。

PWX-19709 **DATABASE FILE に対する DSN を取得できません**

説明: fldata()呼び出しで、DATABASE FILE のブロックサイズ情報を取得できませんでした。

システムのアクション: 処理は終了します。

ン:

ユーザの応答: エラーを修正します。その後、要求をもう一度実行します。

PWX-19710 **戻りファイル情報割り当てに失敗しました。エラーコード=0x"error\_code\_in\_hex"、情報コード=0x"info\_code\_in\_hex"**

説明: z/OS システムで動的割り当てを使用してファイル情報を取得しようとしたときに、DTLUCSR2 でエラーが発生しました。エラーと情報コードについては、IBM の *MVS Programming Authorized Assembler Services Guide* を参照してください。

システムのアクション: システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。

ン:

ユーザの応答: エラーコードおよび情報コードに従って問題を修正します。

PWX-19711 **DATABASE FILE fseek が失敗しました。戻りコード="fseek\_return\_code"; オフセット="fseek\_position"; メソッド=method**

説明: DATABASE FILE に対して fseek を使用しているときに、DTLUCSR2 でエラーが検出されました。

システムのアクション: システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。

ン:

ユーザの応答: エラーコードおよび情報コードに従って問題を修正します。

PWX-19750 **パラメータ parameterがありません。**

説明: このパラメータは、DTLULCAT に必須です。

システムのアクション: DTLULCAT ユーティリティの処理が終了します。

ン:

ユーザの応答: 足りないパラメータをコーディングします。

PWX-19751 **印刷 DBCB call\_type 呼び出し中にエラーが発生しました。戻りコード=return\_code1/return\_code2/return\_code3**

説明: DD LOGFILE の処理中に、DTLULCAT でエラーが発生しました。  
メッセージテキスト内で、

- call\_type は、エラーが検出された呼び出しの種類です。
- return\_code1、return\_code2、および return\_code3 は、エラー用の PowerExchange 戻りコードです。

システムのアクション: 処理は終了します。

ン:

ユーザの応答: エラーを修正します。その後、要求をもう一度実行します。

PWX-19752 **LOGFILE の処理中にエラーが発生しました**

説明: DD LOGFILE の処理中にエラーが発生しました。詳細メッセージがこの後に続きます。

システムのアクション: DTLULCAT ユーティリティの処理が終了します。

ン:

ユーザの応答: エラーを調査します。

PWX-19753 DD LOGFILE で予期しないファイルの終わりに達しました

説明: DD LOGFILE の読み取り中に、ファイルの終わり (EOF) に達しました。

システムのアクション: DTLULCAT ユーティリティの処理が終了します。

ン:

ユーザの応答: エラーを調査します。

PWX-19754 DD LOGFILE で読み取りエラーが発生しました。戻りコード  
=*"return\_code" rc\_description*

説明: DD LOGFILE の読み取り中に、DTLULCAT でエラーが検出されました。

システムのアクション: 処理は終了します。

ン:

ユーザの応答: エラーを修正します。その後、要求をもう一度実行します。

PWX-19755 最初の LOGFILE レコードが TIME ではありません。

説明: DD LOGFILE から最初に読み取るレコードは TIME レコードの必要がありますが、読み取ったレコードが TIME レコードではありません。

システムのアクション: 処理は終了します。

ン:

ユーザの応答: ログファイルを調査します。

PWX-19756 内部エラー、プログラム=*program\_name*、行=*line\_number*、  
説明テキスト=*description*

説明: 内部エラーが発生しました。

システムのアクション: システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。

ン:

ユーザの応答: Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-19757 DD LOGFILE でオープンエラーが発生しました。戻りコード  
=*"return\_code" rc\_description*

説明: DD LOGFILE を開いているときに、DTLULCAT でエラーが検出されました。

システムのアクション: 処理は終了します。

ン:

ユーザの応答: エラーを修正します。その後、要求をもう一度実行します。

PWX-19758 DD LOGFILE で *fldata()* が失敗しました。戻りコード  
=*"return\_code"*

説明: *fldata()* 呼び出しで、DD LOGFILE のブロックサイズ情報を取得できませんでした。

システムのアクション 処理は終了します。

ン：

ユーザの応答： エラーを修正します。その後、要求をもう一度実行します。

PWX-19759 DD LOGFILE **に対する DSN を取得できません**

説明： fldata()呼び出しで、DD LOGFILE のブロックサイズ情報を取得できませんでした。

システムのアクション 処理は終了します。

ン：

ユーザの応答： エラーを修正します。その後、要求をもう一度実行します。

PWX-19760 **戻りファイル情報割り当てに失敗しました。エラーコード=0x"error\_code\_in\_hex"、情報コード=0x"info\_code\_in\_hex"**

説明： z/OS システムで動的割り当てを使用してファイル情報を取得しようとしたときに、DTLULCAT でエラーが発生しました。エラーと情報コードについては、IBM の *MVS Programming Authorized Assembler Services Guide* を参照してください。

システムのアクション システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。

ン：

ユーザの応答： エラーコードおよび情報コードに従って問題を修正します。

PWX-19761 LOGFILE fseek **が失敗しました。rc="fseek\_return\_code"; offset="fseek\_position"; method=method**

説明： ファイル LOGFILE に対して fseek を使用しているときに、DTLULCAT でエラーが検出されました。

システムのアクション システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。

ン：

ユーザの応答： エラーコードおよび情報コードに従って問題を修正します。

PWX-19804 IDMS CATLG: STATUS は A、S、または T でなければなりません

説明： STATUS パラメータを修正して、サブミットし直します。

システムのアクション プログラムが終了し、戻りコード 8 を返します。

ン：

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-19805 IDMS CATLG: LOG\_DATA\_TYPE は IXL または IDL でなければなりません

説明： LOG\_DATA\_TYPE パラメータを修正して、サブミットし直します。

システムのアクション プログラムが終了し、戻りコード 8 を返します。

ン：

ユーザの応答： 対応する必要はありません。



PWX-19817	IDMS CATLG: <i>FIRST_RECORD_SEQUENCE_NUMBER</i> シーケンス番号の長さは 16 でなければなりません
説明:	<i>FIRST_RECORD_SEQUENCE_NUMBER</i> パラメータの長さが 16 文字であることを確認して、サブミットし直します。
システムのアクション:	プログラムが終了し、戻りコード 8 を返します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-19818	IDMS CATLG: <i>FIRST_RECORD_TIME_STAMP</i> タイムスタンプの長さは 16 で、前に追加したエントリより大きくなければなりません。
説明:	<i>FIRST_RECORD_TIME_STAMP</i> パラメータを修正して、サブミットし直します。
システムのアクション:	プログラムが終了し、戻りコード 8 を返します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-19850	IDMS CATLG FILE:VSAM エラー 戻りコード= <i>return_code</i>
説明:	VSAM/cISAM エラーが発生しました。
システムのアクション:	プログラムが終了し、戻りコード 8 を返します。
ユーザの応答:	IDMS カタログファイルを見直し、エラーを修正して、サブミットし直します。
PWX-19851	IDMS CATLG FILE:キー <i>key_and_data</i> を持つレコードが正常に追加されました。
説明:	このメッセージは情報目的です。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-19852	IDMS CATLG FILE:キー <i>key_and_data</i> を持つレコードの追加に失敗しました。
説明:	VSAM/cISAM エラーが発生しました。
システムのアクション:	プログラムが終了し、戻りコード 8 を返します。
ユーザの応答:	IDMS カタログファイルを見直し、エラーを修正して、サブミットし直します。
PWX-19853	IDMS CATLG FILE: 内部エラー - 関数が不明です。
説明:	内部関数エラー
システムのアクション:	プログラムが終了し、戻りコード 8 を返します。
ユーザの応答:	ソフトウェアベンダに知らせます。

PWX-19854	IDMS CATLG FILE: <b>キー <i>key_and_data</i> を持つエントリレコード - 削除エラー。</b>
説明:	VSAM/cISAM エラーが発生しました。
システムのアクション:	プログラムが終了し、戻りコード 8 を返します。
ユーザの応答:	IDMS カタログファイルを見直し、エラーを修正して、サブミットし直します。
PWX-19855	IDMS CATLG FILE: <b>キー <i>key_and_data</i> を持つインスタスレコード - 挿入エラー。</b>
説明:	VSAM/cISAM エラーが発生しました。
システムのアクション:	プログラムが終了し、戻りコード 8 を返します。
ユーザの応答:	IDMS カタログファイルを見直し、エラーを修正して、サブミットし直します。
PWX-19856	IDMS CATLG FILE: <b>キー <i>key_and_data</i> を持つレコード - インスタンスの削除エラー。</b>
説明:	VSAM/cISAM エラーが発生しました。
システムのアクション:	プログラムが終了し、戻りコード 8 を返します。
ユーザの応答:	IDMS カタログファイルを見直し、エラーを修正して、サブミットし直します。
PWX-19857	IDMS CATLG FILE: <b>キー <i>key_and_data</i> を含むエントリレコード - 更新エラー。</b>
説明:	VSAM/cISAM エラーが発生しました。
システムのアクション:	プログラムが終了し、戻りコード 8 を返します。
ユーザの応答:	IDMS カタログファイルを見直し、エラーを修正して、サブミットし直します。
PWX-19858	IDMS CATLG FILE: <b>キー <i>key_and_data</i> を持つインスタンス - レポートエラー。</b>
説明:	VSAM/cISAM エラーが発生しました。
システムのアクション:	プログラムが終了し、戻りコード 8 を返します。
ユーザの応答:	IDMS カタログファイルを見直し、エラーを修正して、サブミットし直します。
PWX-19859	IDMS CATLG FILE: <b>キー <i>key_and_data</i> を含むインスタンス - エクスポートエラー。</b>
説明:	VSAM/cISAM エラーが発生しました。
システムのアクション:	プログラムが終了し、戻りコード 8 を返します。
ユーザの応答:	IDMS カタログファイルを見直し、エラーを修正して、サブミットし直します。

ユーザの応答： IDMS カタログファイルを見直し、エラーを修正して、サブミットし直します。

PWX-19860 IDMS CATLG FILE:**エントリ番号 *new\_number*を追加しようとして、エントリの追加に失敗しました。現在の最高番号は *highest\_so\_far*です**

説明： VSAM/cISAM エラーが発生しました。

システムのアクション： プログラムが終了し、戻りコード 8 を返します。

ユーザの応答： IDMS カタログファイルのインスタンスとエントリを見直し、エラーを修正して、サブミットし直します。

PWX-19861 IDMS CATLG FILE:**最高のエントリ番号 *entry\_number*を読み取ろうとして、エントリの追加に失敗しました**

説明： VSAM/cISAM エラーが発生しました。

システムのアクション： プログラムが終了し、戻りコード 8 を返します。

ユーザの応答： IDMS カタログファイルを見直し、エラーを修正して、サブミットし直します。

PWX-19862 IDMS CATLG FILE:**エントリの追加に失敗しました - タイムスタンプがキー *key\_and\_data*の前のエントリより大きくありません**

説明： VSAM/cISAM エラーが発生しました。

システムのアクション： プログラムが終了し、戻りコード 8 を返します。

ユーザの応答： IDMS カタログファイルに最後に追加されたエントリを確認します (新しいエントリほど、タイムスタンプが大きくなっています)。エラーを修正して、サブミットし直します。

PWX-19863 IDMS CATLG FILE:**インスタンスが正常に削除されました、キー *key\_and\_data***

説明： このメッセージは情報目的です。

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-19864 IDMS CATLG FILE:**エントリが正常に削除されました。キー *key\_and\_data***

説明： このメッセージは情報目的です。

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-19865 IDMS CATLG FILE:**インスタンスが正常に挿入されました。キー *key\_and\_data***

説明： このメッセージは情報目的です。

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-19866	IDMS CATLG FILE: <b>インスタンスの追加エラー - キーは既に存在します</b> <i>key_and_data</i>
説明:	追加しようとするインスタンスは、すでに存在しています。
システムのアクション:	プログラムが終了し、戻りコード 8 を返します。
ユーザの応答:	IDMS カタログファイルを見直し、エラーを修正して、サブミットし直します。
PWX-19867	IDMS CATLG FILE: <b>インスタンスが見つかりません - キー</b> <i>key_and_data</i>
説明:	アクセス対象のインスタンスが存在しません。
システムのアクション:	プログラムが終了し、戻りコード 8 を返します。
ユーザの応答:	IDMS カタログファイルを見直し、エラーを修正して、サブミットし直します。
PWX-19868	IDMS CATLG FILE: <b>エントリが正常に更新されました。キー</b> <i>key_and_data</i>
説明:	このメッセージは情報目的です。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-19869	IDMS CATLG FILE: <b>エントリの追加エラー - 中央/ローカルの履歴タイムスタンプがキー</b> <i>key_and_data</i> <b>に一致しません。</b>
説明:	既存の中央モードジャーナルのタイムスタンプが、追加されるローカルジャーナルと競合しています。
システムのアクション:	プログラムが終了し、戻りコード 8 を返します。
ユーザの応答:	既存の中央モードジャーナルの最初のレコードのタイムスタンプが、追加されるローカルジャーナルの最後のレコードのタイムスタンプより新しくなっています。
PWX-19870	IDMS CATLG FILE: <b>入力ファイルの終わり</b>
説明:	このメッセージは情報目的です。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-19899	IDMS CATLG FILE: IDMS <b>カタログの最後のエラーメッセージ</b>
説明:	このメッセージは情報目的です。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-19956	IDMS ILSR2: SR3 <b>データベースキー、K=string、位置 position に文字以外の 16 進数</b>
説明:	SR3 データベースキー、K=value parameter を修正し、再度サブミットします（最大長 8）。
システムのアクション:	プログラムが終了し、戻りコード 8 を返します。
ユーザの応答:	

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-19957 IDMS ILSR2:SR3 SUM 合計、SR2TOTAL 値 *string*、位置 *position* に文字以外の 16 進数

説明： SR3 SUM 合計値、SR2TOTAL=value parameter を修正し、再度サブミットします（最大長 16）。

システムのアクション： プログラムが終了し、戻りコード 8 を返します。

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-19958 IDMS ILSR2:SR3 END 合計、SR2TOTAL 値 *string*、位置 *position* に文字以外の 16 進数

説明： SR3 END 合計値、SR2TOTAL= value parameter を修正し、再度サブミットします（最大長 16）。

システムのアクション： プログラムが終了し、戻りコード 8 を返します。

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-19959 IDMS ILSR2:SR2 データベースキー、K=*string*、位置 *position* に文字以外の 16 進数

説明： SR2 データベースキー、K= value parameter を修正し、再度サブミットします（最大長 8）。

システムのアクション： プログラムが終了し、戻りコード 8 を返します。

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

## PWX-20000～PWX-20999

PWX-20010 *supporting\_information*

説明： DB2（Linux、UNIX、Windows 用）の CAPI モジュールが、このメッセージに含まれる追加の補足情報を必要とするメッセージを発行しました。

システムのアクション： 発行された個々のメッセージによります。

ユーザの応答： 発行された個々のメッセージによります。

PWX-20011 **リスタート情報の長さ *length*が無効です。length でなければなりません。**

説明： DB2（Linux、UNIX、Windows 用）の CAPI モジュールが無効なリスタート情報を検出しました。

システムのアクション： システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。

ユーザの応答：	無効なリスタート情報のソースを修正します。
PWX-20012	<b>リスタート情報データベース <i>database</i> (0x<i>hex_database_value</i>) が無効です。データベース (0x<i>hex_database_value</i>) である必要があります。</b>
説明：	DB2 (Linux、UNIX、Windows 用) の CAPI モジュールが無効なリスタート情報を検出しました。
システムのアクション：	システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。
ユーザの応答：	無効なリスタート情報のソースを修正するか、正しいボリュームセット名を反映するように CAPI 構成情報を修正します。
PWX-20013	<b>リスタート情報 VTS <i>virtual_time_stamp</i> が無効です (理由=<i>reason_code</i>)</b>
説明：	DB2 (Linux、UNIX、Windows 用) の CAPI モジュールが無効なリスタート情報を検出しました。
システムのアクション：	システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。
ユーザの応答：	無効なリスタートシーケンス番号のソースを修正します。
PWX-20014	<b>シーケンス情報コミット VTS <i>hex_sequence_value</i> が無効です (理由=<i>reason_code</i>)</b>
説明：	DB2 (Linux、UNIX、Windows 用) の CAPI モジュールが無効なリスタート情報を検出しました。
システムのアクション：	システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。
ユーザの応答：	無効なリスタートシーケンス番号のソースを修正します。
PWX-20015	<b>シーケンス情報コミット精度 <i>hex_sequence_value</i> が無効です (理由=<i>reason_code</i>)</b>
説明：	DB2 (Linux、UNIX、Windows 用) の CAPI モジュールが無効なリスタート情報を検出しました。
システムのアクション：	システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。
ユーザの応答：	無効なリスタートシーケンス番号のソースを修正します。
PWX-20016	<b>シーケンス情報の長さ <i>length</i> が無効です。length でなければなりません。</b>
説明：	DB2 (Linux、UNIX、Windows 用) の CAPI モジュールが無効なリスタート情報を検出しました。
システムのアクション：	システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。
ユーザの応答：	無効なリスタートシーケンス番号のソースを修正します。

PWX-20017	<b>シーケンス情報</b> 0x <i>hex_sequence_value</i> が無効です (理由=< <i>reason_code</i> >)
説明:	DB2 for Linux、UNIX、および Windows CAPI モジュールが無効なシーケンス情報を検出しました。
システムのアクション:	システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。
ユーザの応答:	無効なリスタートシーケンス番号のソースを修正します。
PWX-20018	<b>データベースがありません</b>
説明:	DB2 (Linux、UNIX、Windows 用) の CAPI モジュールで、データベース名が検出されませんでした。
システムのアクション:	システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-20019	<b>シーケンス情報コミットパーティション</b> <i>hex_number</i> が無効です (理由= <i>reason_code</i> )
説明:	DB2 (Linux、UNIX、Windows 用) の CAPI モジュールが無効なリスタート情報を検出しました。
システムのアクション:	システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。
ユーザの応答:	無効なリスタートシーケンス番号のソースを修正します。
PWX-20020	<b>UDB コミット VTS:</b> <i>virtual_time_stamp</i>
説明:	DB2 (Linux、UNIX、Windows 用) の CAPI モジュールは、このメッセージを使用してシーケンス情報をフォーマットします。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-20021	<b>UDB コミットパーティション:</b> <i>commit_partition_number</i>
説明:	DB2 (Linux、UNIX、Windows 用) の CAPI モジュールは、このメッセージを使用してリスタート情報をフォーマットします。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-20022	<b>UDB レコードパーティション:</b> <i>record_partition_number</i>
説明:	DB2 (Linux、UNIX、Windows 用) の CAPI モジュールは、このメッセージを使用してリスタートシーケンス情報をフォーマットします。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-20023	<b>UDB レコード LLSN:</b> <i>record_logical_LSN</i>
説明:	DB2 (Linux、UNIX、Windows 用) の CAPI モジュールは、このメッセージを使用してリスタートシーケンス情報をフォーマットします。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。

PWX-20024	UDB <b>発行シーケンス</b> : <i>number</i>
説明:	DB2 (Linux、UNIX、Windows 用) の CAPI モジュールは、このメッセージを使用してリスタートシーケンス情報をフォーマットします。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-20025	UDB <b>データベース</b> : <i>database_name</i>
説明:	DB2 (Linux、UNIX、Windows 用) の CAPI モジュールは、このメッセージを使用してリスタート情報をフォーマットします。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-20026	UDB <b>リスタート VTS 時間</b> : <i>virtual_time_stamp</i>
説明:	DB2 (Linux、UNIX、Windows 用) の CAPI モジュールは、このメッセージを使用してリスタート情報をフォーマットします。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-20027	UDB <b>シーケンス</b> <NULL>
説明:	DB2 (Linux、UNIX、Windows 用) の CAPI モジュールは、このメッセージを使用してリスタート情報をフォーマットします。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-20028	<b>デフォルト</b>
説明:	DB2 (Linux、UNIX、Windows 用) の CAPI モジュールは、このメッセージを使用してリスタート情報をフォーマットします。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-20029	NULL
説明:	DB2 (Linux、UNIX、Windows 用) の CAPI モジュールは、このメッセージを使用してリスタート情報をフォーマットします。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-20030	<b>データベース</b> <i>database_name</i> <b>パーティション</b> <i>partition_number</i>
説明:	このメッセージは、データベースとパーティションを示しています。他のメッセージと併せて発行されます。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-20031	<i>no_filter_tag</i> <b>と他のタグを混在させることはできません。</b>
説明:	DB2 (Linux、UNIX、Windows 用) の CAPI モジュールは、他の登録タグと組み合わせたフィルタ処理なしを示す、特別な登録タグを検出しました。
システムのアクション:	システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。



PWX-20032	UDB <b>トランザクション</b> <i>transaction_id</i> 、 <b>最初のログレコード</b> <i>LLSN/logical_LSN</i>
説明:	DB2 (Linux、UNIX、Windows 用) の CAPI モジュールは、このメッセージを使用して、他のメッセージに関連する Unit of Work のトランザクション ID と論理 LSN をレポートします。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-20033	UPD <b>テーブル</b> : <i>&lt;schema_name&gt;。 &lt;table_name&gt;</i>
説明:	DB2 (Linux、UNIX、Windows 用) の CAPI モジュールは、このメッセージを使用して、他のメッセージに関連するリソースのテーブル名をレポートします。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-20034	<b>列</b> <i>column_name</i> に、 <b>サポートされていないデフォルト</b> <i>default_value_text</i> が含まれています。
説明:	DB2 (Linux、UNIX、Windows 用) の CAPI モジュールが列のデフォルト値をマップするために必要であり、値はサポートされません。
システムのアクション:	システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-20035	<b>データベース</b> <i>database_name</i> <b>トランザクションコミット</b> <i>VTScommit_VTS_value</i> <b>リスタート時間</b> <i>restart_VTS_time</i>
説明:	DB2 (Linux、UNIX、Windows 用) の CAPI モジュールは、このメッセージを使用して、他のメッセージに関連する Logical Unit of Work をレポートします。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-20036	<b>内部エラー、プログラム</b> <i>=program_name</i> 、 <b>行</b> <i>=line_number</i> 、 <b>説明テキスト</b> <i>=description</i>
説明:	内部エラーが発生しました。
システムのアクション:	システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-20037	<b>リポジトリ呼び出し</b> <i>function_name</i> が <b>リポジトリ</b> <i>return_code</i> で <b>失敗しました</b>
説明:	リポジトリとの対話中に、DB2 (Linux、UNIX、Windows 用) の CAPI モジュールでエラーが発生しました。
システムのアクション:	システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-20038	<b>タグ <i>registration_tag</i> データベース <i>database_name</i> は、構成されたデータベース <i>database_name</i> と一致しません。</b>
説明:	問題の登録タグが、CAPI_CONNECTION 情報で指定されたデータベースに存在しないと DB2 (Linux、UNIX、Windows 用) の CAPI モジュールが判断しました。
システムのアクション:	システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。
ユーザの応答:	正しいデータベース名を反映するように、無効なリスタート情報のソースを修正するか、CAPI 構成情報を修正します。
PWX-20039	<b>登録タグ <i>registration_tag</i> のアクティブなエントリがリポジトリの場所で見つかりませんでした。</b>
説明:	DB2 (Linux、UNIX、Windows 用) の CAPI モジュールが、指定された場所にあるリポジトリで指定された登録タグを見つけられませんでした。
システムのアクション:	システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。
ユーザの応答:	正しい場所を指定するか、ソースのリストから登録タグを削除して問題を修正します。
PWX-20040	<b><i>no_filter_tag</i> が RequestNoChangeData 拡張属性なしで指定されています</b>
説明:	DB2 (Linux、UNIX、Windows 用) の CAPI モジュールは、RequestNoChangeData 拡張属性なしで、フィルタ処理なしを示す特別な登録タグを検出しました。
システムのアクション:	システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-20041	<b>登録タグ <i>registration_tag</i> と <i>registration_tag</i> の両方ともテーブル <i>creator_name.table_name</i> を参照しています。</b>
説明:	複数の登録タグが同じテーブルを参照していることを、DB2 (Linux、UNIX、Windows 用) の CAPI モジュールが検出しました。
システムのアクション:	システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-20042	<b>テーブル登録 <i>creator_name.table_name</i>、列 <i>column_name</i> および <i>column_name</i> の両方が出力列数 <i>output_column_number</i> を持ちます。</b>
説明:	DB2 (Linux、UNIX、Windows 用) の CAPI モジュールが、同じ出力列数を持つ複数の列を含むテーブル登録を検出しました。
システムのアクション:	システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-20043	<b>テーブル登録 <i>creator_name.table_name</i> に、列名 <i>column_name</i> が複数含まれています。</b>
説明：	DB2（Linux、UNIX、Windows 用）の CAPI モジュールが、同じ名前の複数の列を含むテーブル登録を検出しました。
システムのアクション：	システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。
ユーザの応答：	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-20044	<b>テーブル登録 <i>creator_name.table_name</i>、列 <i>column_name</i> に、サポートされていない型&lt;<i>data_type</i>&gt;が含まれます。</b>
説明：	DB2（Linux、UNIX、Windows 用）の CAPI モジュールが、サポートされていないデータ型を持つ列を含むテーブル登録を検出しました。
システムのアクション：	システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。
ユーザの応答：	登録から列を削除するか、または Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-20045	<b>テーブル登録 <i>creator_name.table_name</i> は、スキーマ内のすべての列を表していません（ログを参照します）。</b>
説明：	DB2（Linux、UNIX、Windows 用）の CAPI モジュールが、「すべて選択し、変更を通知する」が設定されているテーブル登録のデータを検出しましたが、実際には、テーブルの一部の列が登録内にありませんでした。
システムのアクション：	システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。
ユーザの応答：	登録を修正するか、または Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-20046	<b>テーブル登録 <i>creator_name.table_name</i> で、スキーマに列が含まれません（ログを参照します）。</b>
説明：	DB2 for Linux、UNIX、および Windows CAPI モジュールで、指定された DB2 テーブル用のキャプチャ登録および抽出マップに基づいて抽出されるデータが検出されました。しかし、そのテーブル用のキャプチャ登録はそのテーブルにないカラムをいくつか定義しています。
システムのアクション：	PowerExchange は、呼び出し元のソフトウェアにエラーを返しません。
ユーザの応答：	キャプチャ登録を修正します。必要な場合、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-20047	<b>列 <i>column_name</i></b>
説明：	その他のエラーメッセージに関係のある列名。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。

PWX-20048	<b>トランザクション <i>hex_transaction_ID</i> (パーティション <i>partition_number</i>) が LLSN <i>hex_logical_LSN</i> で開始していません。</b>
説明:	このメッセージは、他のメッセージと併せて発行され、トランザクションが開始される LLSN をレポートします。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-20049	<b>タグ名 <i>tag_name</i></b>
説明:	その他のエラーメッセージに関係のあるタグ名。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-20050	<b>LLSN <i>hex_logical_LSN</i> のレコードが、トランザクション <i>hex_transaction_ID</i> がアクティブでないために無視されました。</b>
説明:	DB2 (Linux、UNIX、Windows 用) の CAPI モジュールが、アクティブなトランザクションに関連付けられていないレコードを検出しました。これは、リスタート時に発行されることがあり、考えられる診断としてのみ提示されます。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-20051	<b>LLSN <i>hex_logical_LSN</i> のレコードは、同じトランザクションのカタログ操作に関連するデータ操作です</b>
説明:	DB2 (Linux、UNIX、Windows 用) の CAPI モジュールが、同じトランザクションでキャプチャ対象のテーブルに対するデータ操作とカタログ操作を検出しました。これは、UDB キャプチャ処理でサポートされていません。
システムのアクション:	システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。
ユーザの応答:	リスタートポイントを調整して、このトランザクションをスキップします。それには、テーブルの再作成が必要な場合があります。
PWX-20052	<b>テーブル <i>&lt;schema_name&gt;.&lt;table_name&gt;</i></b>
説明:	その他のエラーメッセージに関係のあるテーブル名。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-20053	<b>LLSN <i>hex_logical_LSN</i> のレコードが <i>record_type</i> であり、これは状態 <i>state_name</i> で予期されていません。</b>
説明:	DB2 (Linux、UNIX、Windows 用) の CAPI モジュールがログで予期しないレコードを検出しました。
システムのアクション:	システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-20054	LLSN <i>hex_logical_LSN</i> のレコードが TID=0x <i>hex_ID</i> FID=0x <i>hex_ID</i> を参照しています。予期されているのは、TID=0x <i>hex_ID</i> FID=0x <i>hex_ID</i> です。
説明：	DB2 (Linux、UNIX、Windows 用) の CAPI モジュールがログで予期しないレコードを検出しました。
システムのアクション：	システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。
ユーザの応答：	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-20055	LLSN <i>hex_logical_LSN</i> のレコードに問題があります： <b>説明</b>
説明：	DB2 (Linux、UNIX、Windows 用) の CAPI モジュールがログのレコードにエラーを検出しました。
システムのアクション：	システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。
ユーザの応答：	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-20056	LLSN <i>hex_logical_LSN</i> のレコードは、クラッシュするトランザクションに対する通常のコミットです
説明：	DB2 (Linux、UNIX、Windows 用) の CAPI モジュールが、情報の矛盾しているレコードを検出しました。ほとんどの場合、これは正しく対処されています。これは、考えられる診断としてのみ発行されます。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-20057	<b>パーティション</b> <i>partition_number</i> 、 <b>トランザクション</b> <i>transaction_id</i>
説明：	このメッセージは、パーティションとトランザクション ID を示しています。他のメッセージと併せて発行されます。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-20058	UDB CAPI_CONNECTION <i>parameter_name</i> <b>パラメータには、<i>parameter_name</i> パラメータが必要です。</b>
説明：	UDB CAPI_CONNECTION 文では、あるパラメータに対して、もう 1 つパラメータを指定することが必要です。
システムのアクション：	処理は終了します。
ユーザの応答：	エラーを修正します。その後、要求をもう一度実行します。
PWX-20059	UDB DB <i>database_name</i> . CAPI_CONNECTION 文は <b>セキュリティ情報のソースです。ユーザー ID=user_ID</b>
説明：	CAPI_CONNECTION 文は、UDB データベース接続に使用するユーザー ID とパスワードのソースです。
システムのアクション：	処理は継続します。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。

PWX-20060	API 呼び出し <i>function_name</i> が <i>return_code</i> を返しました
説明:	DB2 (Linux、UNIX、Windows 用) の CAPI モジュールが、指定された呼び出しから予期しない戻りコードを検出しました。
システムのアクション:	システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-20061	API 呼び出し <i>function_name</i> (テーブル< <i>schema_name</i> >) が失敗しました。 < <i>table_name</i> >
説明:	DB2 (Linux、UNIX、Windows 用) の CAPI モジュールが指定のテーブルの処理時に指定された呼び出しから予期しない戻りコードを検出しました。
システムのアクション:	システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-20062	LLSN " <i>hex_logical_LSN</i> " " <i>CAPDL_record_type_name</i> " (" <i>CAPDL_record_type_value</i> ") TID= <i>0xhex_ID</i> FID= <i>0xhex_ID</i> の補償レコードが、キューオブション " <i>queued_operation_type_name</i> " (" <i>queued_operation_type_value</i> ") TID= <i>0xhex_ID</i> FID= <i>0xhex_ID</i> に一致しません。
説明:	トランザクションのバックアウトレコードの縮小時に、DB2 (Linux、UNIX、Windows 用) のコンシューマ API (consumer API : CAPI) モジュールがログレコードの許容されないシーケンスを検出しました。このメッセージは主に、Informatica グローバルカスタマサポートによる診断で使用されます。
システムのアクション:	呼び出しソフトウェアにエラーが返されます。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-20063	LLSN " <i>hex_logical_LSN</i> " の補償レコードは、" <i>CAPDL_record_type_name</i> " (" <i>CAPDL_record_type_value</i> ") である必要があります。
説明:	トランザクションのバックアウトレコードの縮小時に、DB2 (Linux、UNIX、Windows 用) のコンシューマ API (consumer API : CAPI) モジュールがログレコードの許容されないシーケンスを検出しました。
システムのアクション:	呼び出しソフトウェアにエラーが返されます。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-20066	<b>リスタート情報 VTS &lt;virtual_time_stamp&gt;がキャプチャカタログの一番下にある VTS &lt;virtual_time_stamp&gt;の前にあります。</b>
説明:	PowerExchange UDB CAPI モジュールで、DB2 for Linux、UNIX、Windows CDC ソースで使用されているキャプチャカタログの無効なリスタート情報が検出されました。
システムのアクション:	エラーが返されます。
ユーザの応答:	リスタートシーケンス番号が有効でない場合は、修正してください。
PWX-20067	<b>CAPD 情報: 抽出の終了時にスレッド <i>thread_name</i> に関連付けられた PWX-20068 メッセージ:</b>
説明:	このメッセージは、下記のメッセージ PWX-20068 がエラーおよびその他の情報をレポートしている DB2 for Linux, UNIX, and Windows のソース上のスレッドを示します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-20068	<b>CAPD 情報: <i>message_text</i></b>
説明:	このメッセージは、メッセージ PWX-20067 で示された DB2 for Linux, UNIX, and Windows のキャプチャスレッドについての情報をレポートします。複数のエラーで DB2 CDC セッションが異常終了した場合、PowerExchange はその中の 1 つのエラーのみを所定のエラーメッセージでレポートし、このメッセージ ID のメッセージで他のエラーについての情報をレポートします。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-20069	<b>CAPD 情報: シャットダウン要求が検出されました (<i>thread_name</i>)。</b>
説明:	DB2 for Linux, UNIX, and Windows ノードに対する PowerExchange の変更キャプチャ処理が、指定したスレッドの呼び出し元からシャットダウン要求を受信しました。
システムのアクション:	DB2 のキャプチャ処理でシャットダウン処理が開始します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-20070	<b>キャプチャカタログ (<i>capture_catalog_name</i>) の初期化に失敗しました。戻りコード=<i>return_code</i></b>
説明:	キャプチャカタログへのアクセス中に、DB2 (Linux、UNIX、Windows 用) の CAPI モジュールでエラーが発生しました。
システムのアクション:	システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。
ユーザの応答:	発行された別のメッセージを参照して、問題を解決します。
PWX-20071	<b>API 呼び出し <i>function_name</i> が <i>return_code</i> を返しました</b>
説明:	DB2 (Linux、UNIX、Windows 用) の CAPI モジュールが、指定された呼び出しから予期しない戻りコードを検出しました。

システムのアクション: システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。

ユーザの応答: Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-20072 **キャプチャカATALOG (*capture\_catalog\_name*) が破損しているか、初期化されていない可能性があります。**

説明: キャプチャカATALOGへのアクセス中に、DB2 (Linux、UNIX、Windows 用) の CAPI モジュールでエラーが発生しました。

システムのアクション: システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。

ユーザの応答: キャプチャカATALOGが初期化されていることを確認します。初期化済みの場合は、Informatica グローバルカスタマサポートに問い合わせます。

PWX-20073 **キャプチャカATALOG (*capture\_catalog\_name*)、行エラー VTSTIME=*virtual\_time\_stamp* VTSACC=*number***

説明: DB2 (Linux、UNIX、Windows 用) の CAPI モジュールは、メッセージの値に対応する行でエラーを検出しました。

システムのアクション: システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。

ユーザの応答: Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-20080 **列 *column\_name* 登録には NOT NULL が表示されていますが、実際の列は Null 可能です。**

説明: カラム登録が、実際のカラム定義に一致しません。

システムのアクション: 呼び出しソフトウェアにエラーが返されます。

ユーザの応答: 登録を修正するか、または Informatica グローバルカスタマサポートにエラーを報告します。

PWX-20081 **列 *column\_name* 登録には Null 可能が表示されていますが、実際の列は NOT NULL です。**

説明: カラム登録が、実際のカラム定義に一致しません。

システムのアクション: 呼び出しソフトウェアにエラーが返されます。

ユーザの応答: 登録を修正するか、または Informatica グローバルカスタマサポートにエラーを報告します。

PWX-20082 **列 *column\_name* 登録には、型 *type\_name* (*internal\_type\_name* が表示されていますが、実際の列は型 *catalog\_type\_name* です。**

説明: カラム登録が、実際のカラム定義に一致しません。

システムのアクション: 呼び出しソフトウェアにエラーが返されます。



ユーザの応答： 登録を修正するか、または Informatica グローバルカスタマサポートにエラーを報告します。

PWX-20083 **列 *column\_name* 登録は、実際の列と互換性のない長さを持っています。**

説明： カラム登録が、実際のカラム定義に一致しません。

システムのアクション： 呼び出しソフトウェアにエラーが返されます。

ユーザの応答： 登録を修正するか、または Informatica グローバルカスタマサポートにエラーを報告します。

PWX-20084 **列 *column\_name* 登録は、実際の列と互換性のないスケールを持っています。**

説明： カラム登録が、実際のカラム定義に一致しません。

システムのアクション： 呼び出しソフトウェアにエラーが返されます。

ユーザの応答： 登録を修正するか、または Informatica グローバルカスタマサポートにエラーを報告します。

PWX-20085 **テーブル登録 *creator\_name.table\_name* で、互換性のない列またはサポートされていない列が含まれています（ログを参照します）**

説明： DB2 for Linux, UNIX, and Windows の CAPI モジュールが、現在のスキーマと互換性がないかサポートされていないデータ型を含むカラムが 1 つ以上ある DB2 テーブルのキャプチャ登録を検出しました。

システムのアクション： システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。

ユーザの応答： これらのカラムを登録から削除します。サポートが必要な場合は、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-20086 **列 *column\_name* 登録にコードページが表示されていますが、実際の列にはコードページが含まれています。**

説明： カラム登録が、実際のカラム定義に一致しません。

システムのアクション： 呼び出しソフトウェアにエラーが返されます。

ユーザの応答： 登録を修正するか、または Informatica グローバルカスタマサポートにエラーを報告します。

PWX-20090	<b>テーブル登録&lt;"creator_name"."table_name"&gt;が定義されていません。登録タグ名&lt;"tag_name"&gt;。</b>
説明：	DB2（Linux、UNIX、Windows 用）の CDC で、PowerExchange UDB CAPI がキャプチャカタログテーブル内またはリスタートポイントで指定の DB2 テーブルを検出できませんでした。この問題は、以下の理由で発生することがあります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• テーブルは、もはや存在しません。</li> <li>• リスタートポイントが無効です。</li> <li>• キャプチャ登録が破損しているか、またはテーブルに対して正しくありません。</li> <li>• UDB CAPI_CONNECTION 文が誤ったキャプチャカタログテーブルを参照しています。</li> </ul>
システムのアクション：	システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。
ユーザの応答：	キャプチャ登録、リスタートポイント、およびキャプチャカタログが正しいことを確認します。問題を修正し、CDC セッションを再実行します。
PWX-20091	<b>テーブル登録 creator_name.table_name でデータキャプチャ変更がオンになっていません。</b>
説明：	DB2（Linux、UNIX、Windows 用）の CAPI モジュールが、リスタートポイントまたは現在のカタログで、データキャプチャ変更をオンに定義するテーブルを見つけることができませんでした。
システムのアクション：	システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。
ユーザの応答：	登録を修正するかテーブルを変更して、再実行します。
PWX-20092	<b>テーブル登録 creator_name.table_name には長いフィールドが含まれていますが、長いフィールドを含む、データキャプチャ変更がオンになっていません</b>
説明：	DB2（Linux、UNIX、Windows 用）の CAPI モジュールが、長いフィールドを含むテーブルを見つけましたが、リスタートポイントまたは現在のカタログで、データキャプチャ変更（長いフィールドを含む）をオンに定義するテーブルを見つけることができませんでした。
システムのアクション：	システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。
ユーザの応答：	登録を修正するかテーブルを変更して、再実行します。
PWX-20093	<b>ログに追加のテーブル登録キャプチャ問題があります</b>
説明：	DB2（Linux、UNIX、Windows 用）の CAPI モジュールが、要求された登録に問題があることを検出しました。この問題の詳細については、キャプチャシステムのログを参照してください。
システムのアクション：	システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。
ユーザの応答：	問題点を修正して、もう一度実行します。

PWX-20094	<b>テーブル登録 <i>creator_name.table_name</i> には長い列が含まれていますが、長いフィールドを含む、データキャプチャ変更がオンになっていません</b>
説明：	DB2（Linux、UNIX、Windows 用）の CAPI モジュールが、"LONG VARCHAR"型または"LONG VARGRAPHIC"型の列を持つテーブル登録のデータを検出しましたが、データキャプチャ変更（長いフィールドを含む）がアクティブではありませんでした。
システムのアクション：	システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。
ユーザの応答：	登録を修正するかテーブルを変更して、再実行します。
PWX-20100	<b>キャプチャカタログ <i>table_name</i> には <i>number</i> 個のパーティション、データベース <i>database_name</i> には <i>number</i> 個のパーティションがあります。</b>
説明：	UDB キャプチャモジュールが、キャプチャカタログとデータベースレポートでパーティションの数が異なっていることを検出しました。パーティションが追加または削除されたときには、DTLUCUDB SNAPUPDT ユーティリティの実行が必要な場合があります。
システムのアクション：	システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。
ユーザの応答：	問題点を修正して、もう一度実行します。
PWX-20101	<b>キャプチャカタログ <i>table_name</i> のパーティション情報がデータベース <i>database_name</i> と一致しません。</b>
説明：	UDB キャプチャモジュールが、キャプチャカタログとデータベースレポートでパーティション情報が異なっていることを検出しました。
システムのアクション：	システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。
ユーザの応答：	問題点を修正して、もう一度実行します。
PWX-20102	<b>キャプチャカタログ <i>table_name</i> はカタログパーティションとして <i>number</i> を報告し、データベース <i>database_name</i> は <i>number</i> を報告します。</b>
説明：	UDB キャプチャモジュールが、キャプチャカタログとデータベースレポートでカタログパーティションが異なっていることを検出しました。
システムのアクション：	システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。
ユーザの応答：	問題点を修正して、もう一度実行します。
PWX-20103	<b>データベース <i>database_name</i> は、カタログパーティションとしてパーティション <i>number</i> とパーティション <i>number</i> の両方を報告します。</b>
説明：	DB2（Linux、UNIX、Windows 用）の CAPI モジュールが、複数のカタログパーティションを報告するデータベースを検出しました。

システムのアクション： システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。

ユーザの応答： 問題点を修正して、もう一度実行します。

PWX-20104      **データベース *database\_name* はカタログパーティションを報告しませんでした。**

説明： DB2（Linux、UNIX、Windows 用）の CAPI モジュールが、データベースがカタログパーティションを報告しなかったときに問題を検出しました。

システムのアクション： システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。

ユーザの応答： 問題点を修正して、もう一度実行します。

PWX-20110      **シーケンス情報レコードパーティション *hex\_number* が無効です（理由=*reason\_code*）**

説明： DB2（Linux、UNIX、Windows 用）の CAPI モジュールが無効なリスタート情報を検出しました。

システムのアクション： システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。

ユーザの応答： 無効なリスタートシーケンス番号のソースを修正します。

PWX-20111      **シーケンス情報レコード LLSN *hex\_number* が無効です（理由=*reason\_code*）**

説明： DB2（Linux、UNIX、Windows 用）の CAPI モジュールが無効なリスタート情報を検出しました。

システムのアクション： システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。

ユーザの応答： 無効なリスタートシーケンス番号のソースを修正します。

PWX-20112      **シーケンス情報発行シーケンス *hex\_number* が無効です（理由=*reason\_code*）**

説明： DB2（Linux、UNIX、Windows 用）の CAPI モジュールが無効なリスタート情報を検出しました。

システムのアクション： システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。

ユーザの応答： 無効なリスタートシーケンス番号のソースを修正します。

PWX-20120      **下位トランザクション *transaction\_id*（パーティション *number*）は、存在しないパーティション *number* を参照しているので無視されました。**

説明： DB2（Linux、UNIX、Windows 用）の CAPI モジュールが、すでに存在しない対応するパーティションを示す下位の Unit of Work を検出しました。

システムのアクション： Unit of Work は破棄されます。

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-20121      **下位トランザクション *transaction\_id* (パーティション *number*) は、対応するパーティション *number* が VTS *virtual\_time\_stamp* に到達し、コミットが VTS *virtual\_time\_stamp* であるために無視されました。**

説明： DB2 (Linux、UNIX、Windows 用) の CAPI モジュールは、コミット仮想タイムスタンプが、対応するパーティションの現在の仮想タイムスタンプより小さな下位の unit of work を検出しました。

システムのアクション： Unit of Work は破棄されます。

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-20122      **対応するトランザクション *transaction\_id* (パーティション *number*) は、存在しないパーティション *number* 上の下位トランザクションを参照しています。**

説明： DB2 (Linux、UNIX、Windows 用) の CAPI モジュールは、存在しないパーティションの下位トランザクションを示す対応する Unit of Work を検出しました。

システムのアクション： 下位の Unit of Work は無視されます。

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-20123      **対応するトランザクション *transaction\_id* (パーティション *number*) は、見つからなかったパーティション *number* 上の下位トランザクションを参照しています。**

説明： DB2 (Linux、UNIX、Windows 用) の CAPI モジュールは、存在しないパーティションの下位トランザクションを示す対応する Unit of Work を検出しました。

システムのアクション： 下位の Unit of Work は無視されます。

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-20124      **VTS *end\_of\_log\_VTS\_value* で、*seek\_VTS\_value* のシーク VTS の前にログの終わりに達しました。**

説明： DB2 (Linux、UNIX、Windows 用) の CAPI モジュールが、シークポイントを検出せずにログの終わりに達しました。

システムのアクション： システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。

ユーザの応答： Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-20125      **トランザクション *transaction\_id* には VTS がありません**

説明： DB2 (Linux、UNIX、Windows 用) の CAPI モジュールが、VTS を含まない処理に対して必要な Unit of Work (UOW) を検出しました。

システムのアクション： 呼び出しソフトウェアにエラーが返されます。

ユーザの応答：	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-20126	<b>リスタートポイントのシーク中に STOPTASK を受信しました</b>
説明：	DB2（Linux、UNIX、Windows 用）の CAPI モジュールは、UDB ログ内でリスタートポイントをシークする STOPTASK を受信しました。
システムのアクション：	処理は終了します。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-20127	<b>パーティション partition_number LSN 位置決定エントリ（シーク VTS start_of_log_VTS_value に対する）が見つかりません。</b>
説明：	UDB CAPI は、各種ログファイル内で、ログデータの読み取りを開始するために位置決めを実行しようとした。指定されたパーティションでは、LSN 位置決定エントリが見つかりませんでした。
システムのアクション：	処理は終了します。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-20130	<b>ノード node_number、論理ログシーケンス番号 logical_log_sequence_number からテーブル ID が tablespace_id、フィールド ID が file_id の DDL 操作 catalog_description_of_operation を破棄しています。</b>
説明：	Linux、UNIX、Windows 向け DB2 の CAPI モジュールで、DB2 キャプチャカATALOGにないテーブルオブジェクトが検出されました。
システムのアクション：	ログレコードはスキップされます。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-20131	<b>カタログ操作 catalog_operation_description がありません</b>
説明：	DB2（Linux、UNIX、Windows 用）の CAPI モジュールがカタログ操作を予期していましたが、検出されませんでした。
システムのアクション：	呼び出しソフトウェアにエラーが返されます。
ユーザの応答：	Informatica グローバルカスタマサポートにエラーを報告します。
PWX-20132	<b>マッチングするデータパーティション操作が見つかりませんでした（catalog_operation_description）</b>
説明：	DB2（Linux、UNIX、Windows 用）の CAPI モジュールが、システムテーブル操作に対してマッチングするデータパーティション操作を検出しませんでした。
システムのアクション：	呼び出しソフトウェアにエラーが返されます。
ユーザの応答：	Informatica グローバルカスタマサポートにエラーを報告します。

PWX-20133	<b>カタログ操作 <i>catalog_operation_description</i> が予期されていません</b>
説明:	DB2 (Linux、UNIX、Windows 用) の CAPI モジュールが予期しないカタログ操作を検出しました。
システムのアクション:	呼び出しソフトウェアにエラーが返されます。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにエラーを報告します。
PWX-20135	<b>列 "<i>create_or_drop</i>" (列 <i>column_name</i>、テーブル <i>creator_name.table_name</i>) がスキップされました</b>
説明:	DB2 (Linux、UNIX、Windows 用) の CAPI モジュールがテーブル名の不明な列ログレコードの作成または削除を検出しました。このレコードはおそらく、ビューなどの非テーブルオブジェクトでした。
システムのアクション:	ログレコードはスキップされます。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-20140	<b>データベース <i>database_name</i> 前のトランザクションコミット VTS <i>commit_VTS_value</i> リスタート時間 <i>restart_VTS_time</i></b>
説明:	DB2 (Linux、UNIX、Windows 用) の CAPI モジュールは、このメッセージを使用して、他のメッセージに関連する前の Logical Unit of Work をレポートします。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-20145	<b>同一であると予期された連続カタログ列操作: 最初 <i>=column_operation</i>、現在 <i>=current_column_operation</i></b>
説明:	DB2 (Linux、UNIX、Windows 用) の CAPI モジュールが、一連の同一カタログ操作を予期しましたが、異なる操作を検出しました。
	メッセージテキスト:
	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>column_operation</i> は、第 1 のカタログ操作です。</li> <li>• <i>current_column_operation</i> は、最後のカタログ操作です。</li> </ul>
システムのアクション:	呼び出しソフトウェアにエラーが返されます。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-20146	<b>同じテーブルに対する予期された連続カタログ操作: 最初 <i>=creator.table</i>、現在 <i>=creator.table</i></b>
説明:	DB2 (Linux、UNIX、Windows 用) の CAPI モジュールが、同じテーブルに対する一連のカタログ操作を予期しましたが、検出されませんでした。
システムのアクション:	呼び出しソフトウェアにエラーが返されます。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-20160	<b>CCatalog 統計 <i>capture_catalog_state</i> が処理中です</b>
説明:	このメッセージにより、UDB キャプチャカタログエントリのレポートが開始されます。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-20163	<b><i>number_of_entries</i> CCatalog キャプチャカタログ <i>entry_type_entries</i></b>
説明:	このメッセージは、特定のエン트리型について、キャプチャカタログ内のエン트리数を表示します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-20170	<b>スピルファイル <i>partition_number-allocation_number</i> が割り当てられました。ファイル名 <i>file_name</i>。</b>
説明:	DB2 for Linux、UNIX、および Windows (UDB) コンシューマ API (CAPI) が、指定されたファイル名を持つスピルファイルを割り当て、コミットされていないトランザクションをステージングしました。 <i>割り当て数</i> は、抽出中に指定された DB2 パーティションにスピルファイルがいくつ割り当てられたかを示します。 <i>ファイル名</i> は、割り当てられたスピルファイルの名前です。メッセージ PWX-20174 には、スピルファイルに関連付けられたトランザクションに関する詳細情報が示されます。
システムのアクション:	CDC 処理を続行します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。スピルファイルの割り当てを回避してディスク容量を確保するには、UDB CAPI_CONNECTION 文の MEMCACHE パラメータをより大きな値または 0 に設定してメモリキャッシュサイズが使用可能なメモリで制限されるようにします。
PWX-20171	<b>スピルファイル <i>partition_number-allocation_number</i> の割り当てが解除されました。ファイル名 <i>file_name</i>。</b>
説明:	UDB コンシューマ API (CAPI) が、指定されたファイル名を持つスピルファイルの割り当てを解除しました。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-20174	<b>+パーティション <i>partition_number</i>、トランザクション ID <i>hexadecimal_transaction_id</i>、最初の LLSN <i>hexadecimal_logical_LSN</i>。</b>
説明:	このメッセージには、前のメッセージで報告されたトランザクションについての情報が示されます。 具体的には、トランザクションで処理された DB2 for Linux、UNIX、および Windows のパーティション、16 進形式で示したトランザクション ID、最初の論理ログシーケンス番号 (LLSN) などが表示されます。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。



PWX-20175	<b>+現在の LLSN</b> <i>hexadecimal_logical_LSN</i> 。
説明:	このメッセージには、DB2 for Linux、UNIX、および Windows ソースの変更ストリーム内の現在のポイントを特定する現在の論理ログシーケンス番号 (LLSN) が示されます。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-20176	<b>DB2 for LUW キャプチャが大規模トランザクションのコミットを検出しました。</b>
説明:	DB2 for Linux、UNIX、および Windows の大規模トランザクションがコミットされました。大規模トランザクションとは、UDB CAPI_CONNECTION 文の LARGEOPS パラメータで指定される基準を満たしているトランザクションのことです。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-20177	<b>+ 認証 ID</b> <i>authorization_id</i> 、 <b>アプリケーション名</b> <i>application_name</i> 、 <b>アプリケーション ID</b> <i>application_id</i>
説明:	このメッセージには、認証 ID、アプリケーション名、およびアプリケーション ID (ステータスまたはスビルファイル情報が報告される DB2 for Linux、UNIX、および Windows トランザクションに関連付けられたアプリケーション ID) が示されます。PowerExchange でこのメッセージを発行するためには、あらかじめ DB2 で DB2_LOGGING_DETAIL レジストリ変数を APPLINFO に設定する必要があります。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-20178	<b>+ 最大ステージングリソース: 操作</b> <i>number_of_operations</i> 、 <b>サイズ</b> <i>kilobytes</i> KB。
説明:	このメッセージには、コミットされたトランザクションのステージングに使用された操作のピーク数とキロバイト数が示されます。コミット操作は、関連するメッセージ PWX-20176 でレポートされました。
システムのアクション:	CDC 処理を続行します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-20180	<b>監視メッセージの先頭 (timestamp)。</b>
説明:	このメッセージは、監視間隔中に発行される最初のメッセージです。このメッセージは、DB2 for Linux、UNIX、および Windows ソースからの抽出のトランザクション監視メッセージ式の最初を示します。ユーザーにより、UDB CAPI_CONNECTION 文の MONITORINT パラメータに監視間隔が設定されました。
システムのアクション:	CDC 処理を続行します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。

PWX-20181	<b>間隔におけるリターンカウント:データなし</b> <i>number</i> 、 <b>コミット</b> <i>number</i> 、 <b>挿入</b> <i>number</i> 、 <b>更新</b> <i>number</i> 、 <b>削除</b> <i>number</i> 。
説明:	このメッセージは、UDB CAPI_CONNECTION 文内の MONITORINT パラメータに基づいて発行されます。このメッセージには、最後の監視間隔中に抽出に対してコンシューマ API (consumer API: CAPI) が返したデータ結果なし、コミット、挿入、更新、および削除の数が示されます。
システムのアクション:	CDC 処理を続行します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-20182	<b>間隔におけるログ読み取りカウント:データなし</b> <i>number</i> 、 <b>ログレコード:スキップ</b> <i>number</i> 、 <b>処理</b> <i>number</i> 、 <b>圧縮解除</b> <i>number</i> 。
説明:	このメッセージは、UDB CAPI_CONNECTION 文内の MONITORINT パラメータに基づいて発行されます。このメッセージには、最後の監視間隔における DB2 for Linux、UNIX、および Windows のログの読み取り統計値 (データ結果なし、スキップされたログ、処理されたログ、および圧縮解除されたログの数) が示されます。
システムのアクション:	CDC 処理を続行します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-20183	<b>間隔におけるリソースの最大:メモリキャッシュ</b> <i>kilobytes</i> KB、 <b>スピルファイル</b> <i>number_of_files</i> 。
説明:	このメッセージは、UDB CAPI_CONNECTION 文内の MONITORINT パラメータに基づいて発行されます。このメッセージには、最後の監視間隔で使用されたメモリキャッシュの最大量とスピルファイルの数が示されます。
システムのアクション:	CDC 処理を続行します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-20184	<b>この抽出が開始されて以来、データはまったく返されていません。</b>
説明:	コンシューマ API (CAPI) は、現在の抽出が開始されて以来、データを返していません。これは、処理対象のソースにトランザクションがまだ変更を書き込んでいないためです。このメッセージは、UDB CAPI_CONNECTION 文内の MONITORINT パラメータに基づいて発行されます。このメッセージは、メッセージ PWX-20185 の代わりとして発行されます。
システムのアクション:	CDC 処理を続行します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。

PWX-20185      **返された最後のデータ:コミット VTS *virtual\_timestamp*、シーケンス *hexadecimal\_sequence\_number***

説明：            このメッセージは、UDB CAPI\_CONNECTION 文内の MONITORINT パラメータに基づいて発行されます。このメッセージには、コンシューマ API (CAPI) が現在の抽出のために返した最後のデータのコミット仮想タイムスタンプと 16 進シーケンス番号が示されます。  
*virtual\_timestamp* 値は、YYYY-MM-DD-hh.mm.ss という形式になります。

システムのアクション： CDC 処理を続行します。

ユーザの応答：      対応する必要はありません。

PWX-20186      **注意を要するトランザクションはありません。**

説明：            前回の監視間隔の最後に、アクティブ状態の長期処理中トランザクションまたは大規模トランザクションはありませんでした。長期処理中トランザクションとは、2 つ以上の監視間隔にわたってアクティブ状態が続くトランザクションのことで、UDB CAPI\_CONNECTION 文の MONITORINT パラメータで定義されます。大規模トランザクションとは、UDB CAPI\_CONNECTION 文の LARGEOPS パラメータで指定される基準を満たしているトランザクションのことです。このメッセージの後には、現行仮想タイムスタンプ (VTS) を示すメッセージ PWX-20788 が続きます。

システムのアクション： CDC 処理を続行します。

ユーザの応答：      対応する必要はありません。

PWX-20187      ***number\_of\_operations* の操作によるトランザクションが、*begin\_virtual\_timestamp* に開始されました。**

説明：            監視間隔中に、長期処理中トランザクションまたは大規模トランザクションとしての条件を満たしているトランザクションが PowerExchange によって検出されました。このメッセージには、このトランザクションについて、操作の数と UOW の開始仮想タイムスタンプ (VTS) が示されます。タイムスタンプは、YYYY/MM/DD-hh:mm:ss の形式です。PowerExchange は、UDB CAPI\_CONNECTION 文の MONITORINT パラメータに基づいてこのメッセージを発行します。このメッセージの後には、トランザクション ID を示すメッセージ PWX-20174 が続きます。

システムのアクション： CDC 処理を続行します。

ユーザの応答：      対応する必要はありません。

PWX-20188      **現行 VTS *virtual\_timestamp***

説明：            このメッセージでは、DB2 for Linux、UNIX、および Windows のログレコード内の現行仮想タイムスタンプ (VTS) が報告されます。  
*virtual timestamp* の形式は YYYY-MM-DD-hh:mm:ss です。この値は、抽出処理の変更ストリームにおける現在のポイントを示します。

システムのアクション： CDC 処理を続行します。

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-20189 **監視メッセージの最後 (*timestamp*)。**

説明： このメッセージは、監視間隔中に発行される最後のメッセージです。このメッセージは、DB2 for Linux、UNIX、および Windows キャプチャのトランザクション監視メッセージ式の最後を示します。ユーザーにより、UDB CAPI\_CONNECTION 文の MONITORINT パラメータに監視間隔が設定されました。

システムのアクション： CDC 処理を続行します。

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-20190 **間隔におけるログ読み取りカウント:ログバイト数:*bytes* バイトをスキップ、*bytes* バイトを処理しました。**

説明： このメッセージは、UDB CAPI\_CONNECTION 文内の MONITORINT パラメータに基づいて発行されます。最後の監視間隔の間にキャプチャ処理でスキップおよび処理した Linux、UNIX、Windows 向け DB2 のログバイト数を報告します。

システムのアクション： CDC 処理を続行します。

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-20196 **抽出ログ読み取りカウント:ログバイト数:*bytes* バイトをスキップ、*bytes* バイトを処理しました。**

説明： このメッセージは、抽出が正常に終了する場合に発行されます。キャプチャ処理でスキップおよび処理した Linux、UNIX、Windows 向け DB2 のログバイト数を報告します。

システムのアクション： CDC 処理を続行します。

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-20197 **抽出のリターンカウント:データなし *number*、コミット *number*、挿入 *number*、更新 *number*、削除 *number*。**

説明： このメッセージは、UDB CAPI\_CONNECTION 文を使用している抽出が正常終了する場合に発行されます。このメッセージには、抽出に対してコンシューマ API (CAPI) が返したデータ結果なし、コミット、挿入、更新、および削除の数が表示されます。

システムのアクション： CDC 処理を続行します。

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-20198 **抽出ログの読み取りカウント:データなし *number*、ログレコード:スキップ *number*、処理 *number*、圧縮解除 *number*。**

説明： このメッセージは、抽出が正常に終了する場合に発行されます。このメッセージには、DB2 for Linux、UNIX、および Windows の抽出ログの読み取り統計値（データ結果なし、スキップされたログ、処理されたログ、および圧縮解除されたログの数）が表示されます。

システムのアクション CDC 処理を続行します。

ン：

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-20199      **抽出リソースの最大:メモリキャッシュ *kilobytes*KB、スピル  
ファイル *number\_of\_files*。**

説明：            このメッセージは抽出の最後に発行されます。 このメッセージには、  
抽出時に使用されたメモリキャッシュの最大量とスピルファイルの数が  
示されます。

システムのアクション CDC 処理を続行します。

ン：

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-20201      CAPDL：*resource* のストレージを割り当てられません。

説明：            UDB ログリーダが終了します。

システムのアクション システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。

ン：

ユーザの応答：    Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-20202      CAPDL **内部エラー、プログラム=*program\_name*、行  
=*line\_number*、説明テキスト=*description***

説明：            UDB ログリーダが、処理中に内部エラーを検出しました。

システムのアクション システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。

ン：

ユーザの応答：    Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-20203      DB2 API db2ReadLog **エラー**。DB=*database\_ID*  
PART=*partition\_number*SQL コード=*sql\_code*API 戻りコード=*return\_code*  
関数=*function* (*additional\_information*)

説明：            DB2 (Linux、UNIX、Windows 用) のログリーダは、DB2 ログから  
変更データを読み込むときに、DB2 API から SQL エラーを受信しました。

メッセージテキスト：

- *database\_ID* は、DB2 ログが読み込まれたデータベースを識別します。
- *partition\_number* は、DB2 ログが読み込まれた DB2 パーティションを識別します。
- *sql\_code* は、エラーに対して返された SQL コードです。
- *return\_code* は、エラーに対して返された DB2 API 戻りコードです。
- *function* は、DB2 API 関数コードまたは操作です。
- *additional\_information* は、PWX-20251 にも表示される場合がある関連情報です。

システムのアクション: DB2 変更データキャプチャ処理が停止します。

ユーザの応答: Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-20204 *SQL\_message*

説明: 前の PWX-20203 メッセージに関する UDB メッセージテキストです。

ユーザの応答: 対応する必要はありません。

PWX-20205 CAPDL: sql エラーコードの書式設定でエラー; 戻りコード = *SQL\_message* (*SQL\_message*)

説明: 先行する SQL エラーコードの形式処理をしようとしたときに、エラーを受け取りました。

ユーザの応答: 対応する必要はありません。

PWX-20207 CAPDL: GetRecord CAPDL\_LSN が昇順ではありません: 現在の LSN=*lsn*, 以前の LSN=*lsn*

説明: 先行する SQL エラーコードの形式処理をしようとしたときに、エラーを受け取りました。

ユーザの応答: 対応する必要はありません。

PWX-20209 CAPDL: UDB ログ読み取りエラー: 要求された LSN=*lsn*, 返された LSN=*lsn*, 最後に読み込まれた LSN=*lsn*

説明: UDB ログ読み取りルーチンが、予期されるログレコードを返しませんでした。

システムのアクション: システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。

ユーザの応答: 対応する必要はありません。

PWX-20210 CAPDL: UDB ログ読み取りエラー: LSN が昇順ではありません: 最後の適切な LSN=*lsn*, 次の LSN=*lsn*

説明: UDB ログ読み取りルーチンが、予期されるログレコードを返しませんでした。

システムのアクション: システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。

ユーザの応答: 対応する必要はありません。

PWX-20211 CAPDL: UDB DB データベース; PART *partition*, *lsn* のログレコードで、認識されないデータ *more\_info* が含まれている可能性があります。

説明: UDB ログ読み取りルーチンが読み取ったレコードが、このルーチンが期待する UDB ログレコードに準拠していませんでした。この状況が発生したときに停止するよう UDB ログリーダーが要求されている場合は、ログレコードがダンプされ、エラーが返されます。この状況で UDB ログリーダーの停止が求められていない場合は、ログレコードがダンプされ、処理が継続されます。ログリーダーには、ダンプするレコード数を制限するように指示できます。

システムのアクション エラーを返すように指示があれば、リーダーはエラーを返します。  
ン：

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-20212 *count*- 認識されない *suspect\_reason*

説明： このメッセージは、メッセージ PWX-20211 が発行された理由を示しています。このメッセージは、メッセージ PWX-20211 の後に複数回表示される場合があります。

システムのアクション 処理は継続します。  
ン：

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-20213 *diagnostic\_info*

説明： UDB ログレコードに関して、エラーまたは不審な点があります。この診断行は、複数ある行の中の 1 行である場合があります。

システムのアクション 呼び出しソフトウェアにエラーを返すことができます。  
ン：

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-20214 CAPDL：UDB DB データベース；PART *partition*；到達した認識できない許容データを含むレコードの *max count* (*max\_count\_value*)

説明： UDB ログリーダーは認識できないログレコードの報告数を制限するように指示されており、その制限に達しました。

システムのアクション 処理は継続します。  
ン：

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-20215 CAPDL：不正なヘッダレベル：予期した値 *expected\_level*、受け取った値 *received\_level*

説明： UDB ログリーダーとその呼び出し側に互換性がありません。

システムのアクション システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。  
ン：

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-20216 CAPDL：内部 UDB レコードの形式値が無効です；  
*RecType=0xrecord\_type*, *FMT=0xformat\_type*

説明： UDB ログレコードの一部をデコードしているときに、ログリーダーが不適切な値を検出しました。

システムのアクション システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。  
ン：

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-20217	CAPDL: UDB DB データベース; PART <i>partition</i> ; <i>lsn</i> のログレコードが無効です; 戻りコード= <i>return_code more_info</i>
説明:	UDB ログリーダーが、ログレコードのエラーを検出しました。rc 値はメッセージの番号で、エラーの詳細とともに表示されます。ログレコードのダンプはローカルに生成されます。
システムのアクション:	システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-20218	CAPDL: FMT1 行イメージが prepare データと一致しません: prepare 長 <i>0xprepare_length</i> ; 行長 <i>0xrow_length</i> ; テーブル <i>table</i>
説明:	UDB ログリーダーに対して、テーブルの行イメージのデコード要求がありました。行イメージは、提示された行記述情報と一致しませんでした。行イメージと行説明の情報はローカルにダンプされます。
システムのアクション:	システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-20219	CAPDL: FMT2 行イメージが prepare データと一致しません: prepare の列数 <i>Prepare_column_count</i> ; 行の列数 <i>log_record_column_count</i> ; テーブル <i>table_name</i>
説明:	UDB ログリーダーに対して、テーブルの行イメージのデコード要求がありました。行イメージは、提示された行記述情報と一致しませんでした。行イメージと行説明の情報はローカルにダンプされます。
システムのアクション:	システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-20220	CAPDL: FMT2 行イメージの内部長 <i>0xinternal_length</i> が外部長 <i>0xexternal_length</i> に一致しません; テーブル <i>table_name</i>
説明:	UDB ログリーダーに対して、テーブルの行イメージのデコード要求がありました。行イメージは、提示された行記述情報と一致しませんでした。行イメージと行説明の情報はローカルにダンプされます。
システムのアクション:	システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-20221	CAPDL: UDB DB データベース; PART <i>partition</i> ; ログレコード ( <i>lsn</i> ) の処理が不明です: 理由
説明:	処理に必須と考えられるレコードを UDB ログリーダーが読み取りましたが、その処理方法が不明です。
システムのアクション:	システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。



PWX-20223	<b>CAPDL：予期しない SYSTEM DEFAULT 属性（属性値 <i>0xattribute_value</i>）が列 <i>column_number</i> (<i>table_name</i>) で見つかりました。</b>
説明：	UDB ログリーダーに対して、テーブルの行イメージのデコード要求がありました。その行の中に、SYSTEM DEFAULT 属性を含む列がありました。その列型ではその属性が許容されていません。
システムのアクション：	システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-20224	<b>CAPDL：予期しない属性値 <i>0xattribute_value</i> が FMT <i>format_type</i> 行データ（列 <i>column_number</i> (<i>table_name</i>) に対する）が見つかりました。</b>
説明：	UDB ログリーダーに対して、テーブルの行イメージのデコード要求がありました。予期しない属性を含む列が行内にありました。
システムのアクション：	システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-20225	<b>CAPDL：行イメージダンプ: イメージは <i>image_information</i> です</b>
説明：	何らかの問題のために行イメージがダンプされています。
システムのアクション：	処理は継続します。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-20226	<b>CAPDL：行イメージの外側の列 <i>column_number</i> データ：オフセット <i>0xoffset</i>、長さ <i>0xlength</i>、イメージ長 <i>0ximage_length</i>, テーブル <i>table_name</i></b>
説明：	UDB ログリーダーに対して、テーブルの行イメージのデコード要求がありました。列のデータを特定しているときに、不整合が検出されました。
システムのアクション：	システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-20227	<b>CAPDL：CAPDL_PREPARE に提示される列がありません (0); テーブル <i>table_name</i></b>
説明：	UDB ログリーダーに、後の行イメージデコード用のテーブル情報が提示されましたが、列が提示されていませんでした。
システムのアクション：	システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。

PWX-20228	<b>CAPDL: テーブル: table 列: 列は null 可能ではなく、デフォルト値がありません</b>
説明:	CAPDL_Execute は、行イメージ内に物理的に存在しない列の列値を作成しようとしたが、その列は Null 可能でなくデフォルト値もありませんでした。
システムのアクション:	システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-20229	<b>CAPDL: データベースは、LOG RETAIN または USER EXITS ON にして構成する必要があります。</b>
説明:	UDB ログリーダーは、この要件を持つ UDB db2ReadLog API を使用します。
システムのアクション:	システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-20230	<b>CAPDL: API 使用エラー: error_description</b>
説明:	CAPDL API の使用で、使用エラーが発生しました。
システムのアクション:	システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-20231	<b>CAPDL: db2ReadLog によって矛盾するデータが返されました</b>
説明:	PowerExchange DB2 (Linux、UNIX、Windows 用) のログリーダーは、DB2 API db2ReadLog ルーチンから矛盾したデータを受信しました。
システムのアクション:	ログバッファを読み込むために使用された DB2 制御ブロックがダンブされます。DB2 変更データキャプチャ処理が終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-20232	<b>CAPDL: サポートされていない DB リリースレベル &lt;0xdb_release_level&gt; です。</b>
説明:	内部 DB リリースレベルが、UDB キャプチャで有効と認められません。この値は、DB2 のバージョンではありませんが、そのバージョンに関連付けられています。
システムのアクション:	システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-20233	CAPDL : UDB DB <i>database_name</i> , PART <i>partition_number</i> , LSN <i>log_sequence_number</i> , 戻りコード= <i>PWX_return_code</i> , ログレコードの処理中にエラーが発生しました
説明:	UDB ログリーダーが、ログレコードのエラーを検出しました。このメッセージは、エラーのあるレコードを示します。
システムのアクション:	システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-20234	DB2 API db2ReadLog によって、有効性チェックに失敗したバッファが返されました。レコード= <i>number_of_records</i> バイト= <i>bytes</i>
説明:	DB2 API db2ReadLog ルーチンにより返されたログレコードのバッファのデータを検証しているときに、PowerExchange DB2 (Linux、UNIX、Windows 用) のログリーダーがエラーを受信しました。ログリーダーがバッファ内で未使用のレコードまたはバイトを検出しました。このメッセージは、未使用のレコードおよび未使用のバイトの数を識別します。
システムのアクション:	ログバッファを読み込むために使用された DB2 制御ブロックが診断するためにダンプされます。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-20235	DB2 API db2ReadLog は、要求したログの場所からレコードを返しませんでした。要求= <i>requested_log_position</i> 、戻り値= <i>returned_log_position</i> 、DB= <i>database_name</i> 、パーティション= <i>partition</i> 。
説明:	DB2 for Linux, UNIX, and Windows の CDC の処理中に内部エラーが発生しました。DB2 db2ReadLog API は、指定されているデータベースとパーティションに対して要求されている DB2 ログの場所から変更レコードを返しませんでした。
システムのアクション:	PowerExchange は、呼び出し元のソフトウェアにエラーを返します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにエラーを報告してください。
PWX-20236	解凍ログリーダーによって返されたレコードで不整合が検出されました。DB= <i>database_name</i> 、パーティション= <i>partition</i>
説明:	DB2 for Linux, UNIX, and Windows の CDC の処理中に内部エラーが発生しました。指定されたデータベースとパーティションの PowerExchange に DB2 ログリーダーが返した圧縮解除された変更レコードに不整合が含まれます。
システムのアクション:	PowerExchange は、呼び出し元のソフトウェアにエラーを返します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにエラーを報告してください。

PWX-20250	DB2 API db2ReadLog <b>データ領域</b> <i>data_area_name</i> <b>ダンプ</b> ( <i>location</i> から)
説明:	DB2 ログを読み込むために使用された DB2 制御ブロックまたはバッファのダンプが、指定された場所から取得されました。
システムのアクション:	DB2 ログの読み込み処理は継続されます。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-20251	<i>control_block_field_name control_block_field_value control_block_field_value_description</i>
説明:	このメッセージでは、DB2 ログを読み込むために使用された DB2 制御ブロックのダンプに含まれる制御ブロックフィールドを示します。このメッセージは、フィールド名と値、およびフィールドまたは値のいずれかの記述（オプション）を含みます。
システムのアクション:	DB2 ログの読み込み処理は継続されます。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-20410	SNAPUPDT <b>アクション、パーティション</b> <i>partition_number</i>
説明:	DTLUCUDB ユーティリティの SNAPUPDT コマンドが、パーティションがデータベースから追加または削除されていることを検出しました。このメッセージは、追加または削除されたパーティションごとに表示されます。
システムのアクション:	処理は継続します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-20411	<b>キャプチャカタログパーティション情報がデータベースと一致します。キャプチャカタログに変更はありません。</b>
説明:	SNAPUPDT で、キャプチャカタログとデータベースの間に差異は認められませんでした。
システムのアクション:	処理は継続します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-20412	<b>キャプチャカタログまたはデータベースにデータベースカタログパーティション <i>partition_number</i> がありません。</b>
説明:	キャプチャカタログのパーティション情報とデータベースのパーティション情報を取得しているときに、UDB カタログを含んでいる必要のあるパーティションが見つかりませんでした。
システムのアクション:	プログラムは、エラーを終了して報告します。
ユーザの応答:	エラーが解決されない場合は、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-20413      **REPLACE=Y が指定されなくなってから、キャプチャカタログ更新はバイパスされました**

説明：              DTLUCUDB がキャプチャカタログを更新しませんでした。

システムのアクション：      処理は終了します。

ン：

ユーザの応答：      対応する必要はありません。

PWX-20414      **新しいパーティション： partition\_number  
VTS: *virtual\_time\_stamp* が、キャプチャカタログ低 VTS 未満  
です: *virtual\_time\_stamp***

説明：              新しいパーティションの位置決定エントリを追加するとき、新しいパーティションの VTS 値がキャプチャカタログの現在の低 VTS 値を下回っています。新しいパーティションの VTS 値は、キャプチャカタログ作成時の VTS を上回っている必要があります。

システムのアクション：      プログラムは、エラーを終了して報告します。

ン：

ユーザの応答：      エラーが解決されない場合は、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-20500      *command\_input*

説明：              現在のコマンド入力行です。

ユーザの応答：      対応する必要はありません。

PWX-20501      **無効な 16 進数文字 (*character*) が *parameter* にあります。**

説明：              指定したパラメータに、無効な 16 進数文字が含まれています。

システムのアクション：      処理は終了します。

ン：

ユーザの応答：      エラーを修正します。 その後、要求をもう一度実行します。

PWX-20502      **奇数の 16 進数文字が *parameter* にあります。**

説明：              指定したパラメータに、奇数の 16 進数文字が含まれています。

システムのアクション：      処理は終了します。

ン：

ユーザの応答：      エラーを修正します。 その後、要求をもう一度実行します。

PWX-20503      **コマンドが指定されていません**

説明：              コマンドが指定されていません。

システムのアクション：      処理は終了します。

ン：

ユーザの応答：      エラーを修正します。 その後、要求をもう一度実行します。

PWX-20504      **UDB キャプチャユーティリティの構文:**

説明：              HELP 出力の最初の行です。

ユーザの応答：      対応する必要はありません。

PWX-20505	<i>help_information</i>
説明:	HELP 出力の行です。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-20506	<b>コマンド <i>command_name</i> が完了しました。</b>
説明:	コマンドの処理がエラーなしで完了しました。
システムのアクション:	処理は継続します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-20507	<b>API 呼び出し <i>function_name</i> がエラー <i>error code</i> を返しました。</b>
説明:	UDB キャプチャが API 呼び出しを実行しているときに、予期しないエラーを検出しました。
システムのアクション:	プログラムは、エラーを終了して報告します。
ユーザの応答:	エラーが解決されない場合は、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-20508	<i>parameter_name</i> <b>パラメータを指定する必要があります。</b>
説明:	必要なパラメータが指定されていませんでした。
システムのアクション:	処理は終了します。
ユーザの応答:	エラーを修正します。その後、要求をもう一度実行します。
PWX-20509	<i>parameter_name</i> <b>パラメータには、<i>parameter_name</i> パラメータが必要です。</b>
説明:	あるパラメータでは、2 番目のパラメータを指定する必要があります。
システムのアクション:	処理は終了します。
ユーザの応答:	エラーを修正します。その後、要求をもう一度実行します。
PWX-20510	<i>VTS virtual_time_stamp/partition_number</i> LLSN <i>hex_logical_log_sequence</i> <b>で検出されたカタログアクティビティ (再実行します)</b>
説明:	スナップショットを実行しようとしているときに、メッセージに示されている LLSN でカタログアクティビティが検出されました。
システムのアクション:	処理は終了します。
ユーザの応答:	カタログ作業を防止して、再実行します。
PWX-20511	<b>データベース キーワード</b>
説明:	このメッセージは情報目的です。

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-20512      **ファイル'*file name*'を作成しました。**

説明：            コマンドに対する応答として、メッセージに示されているファイルが作成されました。

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-20513      ***parameter\_name* パラメータが *parameter\_name* パラメータと競合しています。**

説明：            パラメータが、別のパラメータの指定と競合しています。

システムのアクション： 処理は終了します。

ユーザの応答： エラーを修正します。 その後、要求をもう一度実行します。

PWX-20514      **Pseudolog 呼び出し *call\_name* に失敗しました**

説明：            メッセージが示されている関数の呼び出しで、エラーが検出されました。

システムのアクション： 処理は終了します。

ユーザの応答： エラーを修正します。 その後、要求をもう一度実行します。

PWX-20515      **キャプチャカタログに行が含まれていて、REPLACE=Y が指定されていません。**

説明：            SNAPSHOT コマンドの処理中に、キャプチャカタログテーブル内に既存行があることが検出されましたが、REPLACE=Y キーワードが指定されていませんでした。キャプチャカタログの内容を置換すると、ログデータにアクセスできなくなる場合があります。

システムのアクション： 処理は終了します。

ユーザの応答：    キャプチャカタログの内容を置換するつもりだった場合は、REPLACE=Y キーワードを指定して、もう一度実行します。そうでない場合は、エラーを修正して再実行します。

PWX-20516      **付記: キャプチャカタログの内容を置き換えると、ログデータにアクセスできなくなります。**

説明：            このメッセージは、メッセージ PWX-20515 の補足情報を表示します。

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-20517      **出力ファイル *file name* が存在して、REPLACE=Y が指定されていません。**

説明：            既存ファイルを置換するには、REPLACE=Y が必要です。

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-20518	<b>無効な 10 進数文字 (<i>character</i>) が <i>parameter</i> にあります。</b>
説明:	指定されたパラメータに、無効な 10 進数文字があります。
システムのアクション:	処理は終了します。
ユーザの応答:	エラーを修正します。その後、要求をもう一度実行します。
PWX-20519	<b>UDB ログファイルの終わりに達しました</b>
説明:	ファイルの終わり (EOF) が検出されました。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-20522	<b>UCUDB: <i>object_name</i> のメモリを割り当てられませんでした。</b>
説明:	メモリが不足したりリソースが、タスク処理に存在します。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	タスクで利用可能なメモリのリソースを拡張します。エラーが解決されない場合は、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-20523	<b>パーティション <i>partition_number</i> VTS <i>virtual_time_stamp_at_end_of_log</i> (<i>LSN_logical_sequence_number_at_end_of_log</i>) が、SNAPSHOT 末尾の VTS <i>ending_virtual_time_stamp</i> に進んでいません。</b>
説明:	キャプチャカタログをビルド後、SNAPSHOT 処理はすべてのログを共通終了ポイントに読み込みます。1 つのパーティションのログが共通終了ポイントに進みませんでした (異常な状態です)。
システムのアクション:	処理は継続します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-20524	<b>UDB ログファイルの読み取り中に <i>terminator</i> 値に達しました</b>
説明:	DTLUCUDB ログの処理が終了しました。終了ログシーケンス番号 (ELSN) または終了仮想タイムスタンプ (EVTS) のどちらかに達しました。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-20525	<b>UCUDB 内部エラー、プログラム=<i>program_name</i>、行=<i>line_number</i>、説明テキスト=<i>description</i></b>
説明:	DTLUCUDB UDB ユーティリティが、処理中に内部エラーを検出しました。
システムのアクション:	システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。



PWX-20527	<i>db_element.db_element_value</i>
説明:	UDB DB の様子が表示されています。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-20529	<i>virtual_time_stamp</i> 値"にエラー: 理由
説明:	インスタンスパーティション情報が一覧表示されます。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-20538	<b>ファイル <i>file name</i> でエラーが発生しました: 操作</b>
説明:	インスタンスパーティション情報が一覧表示されます。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-20539	<i>OS_description_of_file_error</i>
説明:	ファイルへの書き込みエラーの説明。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-20540	<b>BVTS 値として選択した LSN <i>UDB_log_sequence_number</i> を開始</b>
説明:	メッセージに示されている LSN が、UDB ログの読み取りを開始する値として使用されます。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-20541	<i>Type_of_UDB_log_sequence_information:UDB_log_sequence_information</i>
説明:	情報データベースのログシーケンス情報。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-20544	<b>パーティション <i>partition_number</i> LSN 位置決定エントリが VTSTIME <i>vts_time</i> のキャプチャカタログで見つかりません。戻りコード = <i>return_code</i></b>
説明:	入力 BVTS 値について、示されているパーティションのキャプチャカタログ内に開始 LSN が見つかりませんでした。要求された BVTS 値は、キャプチャカタログの範囲内にいることが必要です。可能性が高いのは、BVTS 値が、キャプチャカタログの作成時より前になっていることです。
システムのアクション:	コマンドは終了します。
ユーザの応答:	BVTS 値をキャプチャカタログの範囲内で指定します。
PWX-20545	<b>パーティション番号 <i>partition_number</i> は DB <i>database_name</i> の一部ではありません。</b>
説明:	メッセージに示されているパーティションは、データベースの一部ではありません。
システムのアクション:	コマンドは終了します。

ユーザの応答：	適切なパーティション番号を指定します。
PWX-20548	<b>LOGPRT 出力の生成中にエラーが発生しました</b>
説明：	LOGPRT 出力の生成中に、エラーが検出されました。
システムのアクション：	コマンドは終了します。
ユーザの応答：	これより前のエラーメッセージで、LOGPRT 出力に関係するものを探します。
PWX-20550	<b><i>log_start_point</i> が <i>log_start_point</i> 以下です。</b>
説明：	終了ポイント（ELSN または EVTS）が、指定された（BLSN）開始ポイントまたは（BVTs から）決定された開始ポイント以下です。
システムのアクション：	処理は終了します。
ユーザの応答：	エラーを修正します。その後、要求をもう一度実行します。
PWX-20551	<b>LOGPRT は、ログ読み取り開始ポイントを決定するのに <i>command_parameter</i> または <i>command_parameter</i> が必要です。</b>
説明：	LOGPRT は、開始ポイントがログ内にあることが必要です。
システムのアクション：	処理は終了します。
ユーザの応答：	エラーを修正します。その後、要求をもう一度実行します。
PWX-20552	<b>デフォルトの <i>parameter_name=parameter_value</i> の使用</b>
説明：	このユーティリティは、 <i>parameter_value</i> をパラメータ <i>parameter_name</i> の値として使用します。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-20555	<b><i>type</i> デフォルトリスタートポイント: <i>time_value</i></b>
説明：	このメッセージでは、DTLUCUDB ユーティリティコマンド UPDTDRP の処理より前の（古い）または後の（新しい）デフォルトリスタートポイントを示します。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-20558	<b>VTS はキャプチャカタログ <i>start</i> より先で、キャプチャカタログ <i>start</i> を置き換えます。</b>
説明：	入力の VTS 値が、キャプチャカタログの開始より前です。キャプチャカタログの開始の VTS は置き換えられます。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-20559	<b>パーティション <i>partition_number</i> LSN <i>log_sequence_number</i> optional <i>log_file</i></b>
説明：	入力 VTS に対してログ読み取りが開始される、パーティション内の LSN（ログシーケンス番号）。

ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-20560	<b>入力 VTSrelationship_and_type キャプチャカタログ capture_catalog_VTS_value</b>
説明：	入力の VTS 値が、キャプチャカタログの境界外にあります。値が、 低（開始）VTS 未満か、高 VTS を超えています。
システムのアクション：	処理は終了します。
ユーザの応答：	VTS を適切に選択して、コマンドをもう一度実行します。
PWX-20563	<b>capture_catalog_special_entry_name capture_catalog_special_entry_value</b>
説明：	キャプチャカタログの特別なエントリが表示されています。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-20569	<b>特別な VTSDT 値'EOC'または'NOW'のいずれかを指定する必要があります</b>
説明：	入力された VTSDT 値が無効です。このメッセージの前に、実際の値 のフォーマットを示すメッセージが表示されます。このメッセージに は、指定可能な特別な値が表示されます。
システムのアクション：	要求が失敗します。
ユーザの応答：	入力を修正して、もう一度実行します。
PWX-20600	<b>CAPDS:object_name のメモリを割り当てられませんでした。</b>
説明：	メモリが不足したりソースが、タスク処理に存在します。
システムのアクション：	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答：	タスクで利用可能なメモリのリソースを拡張します。エラーが解決さ れない場合は、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせ してください。
PWX-20601	<b>CAPDS:モジュール module_name、error_information をロー ドできません。</b>
説明：	UDB キャプチャモジュールが、UDB 共有ライブラリをロードできま せませんでした。
システムのアクション：	プログラムは、エラーを終了して報告します。
ユーザの応答：	パスの設定が正しいことを確認します。エラーが解決されない場合 は、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせくださ い。
PWX-20602	<b>CAPDS:関数 function_name (モジュール module_name 内) を解決できません。error_information。</b>
説明：	UDB キャプチャモジュールが、UDB 共有ライブラリをロードできま せませんでした。

システムのアクション プログラムは、エラーを終了して報告します。  
ン：

ユーザの応答： パスの設定が正しいことを確認します。エラーが解決されない場合は、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-20603 CAPDS:SQL API *function\_name*がエラー *error code* (*error\_code\_desc*) を返しました。 *error\_information*。

説明： UDB キャブチャが SQL API 呼び出しを実行しているときに、予期しないエラーを検出しました。

システムのアクション プログラムは、エラーを終了して報告します。  
ン：

ユーザの応答： エラーが解決されない場合は、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-20604 状態=*SQL\_state*、コード=*SQL\_code*、メッセージ=*SQL\_message*

説明： SQL エラーに関する情報。

システムのアクション 発行された個々のメッセージによります。  
ン：

ユーザの応答： 発行された個々のメッセージによります。

PWX-20605 CAPDS 内部エラー、プログラム=*program\_name*、行=*line\_number*、説明テキスト=*description*

説明： UDB SQL プロセッサが、処理中に内部エラーを検出しました。

システムのアクション システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。  
ン：

ユーザの応答： Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-20606 キャブチャカタログ検証エラー、*number\_of\_columns*個の列を予期、*number\_of\_columns*個を検出 (テーブル *table\_name*)

説明： キャブチャカタログテーブルのスキーマが正しいことを、UDB SQL プロセッサで確認できませんでした。

システムのアクション システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。  
ン：

ユーザの応答： 正しいスキーマを持つキャブチャカタログテーブルの名前を指定します。

PWX-20607 キャブチャカタログ検証エラー、列 *column\_name*のフォーマットが不明です (テーブル *table\_name*)

説明： キャブチャカタログテーブルのスキーマが正しいことを、UDB SQL プロセッサで確認できませんでした。

システムのアクション システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。  
ン：

ユーザの応答：	正しいスキーマを持つキャブチャカタログテーブルの名前を指定します。
PWX-20608	<b>キャブチャカタログ検証エラー、列 <i>column_name</i> の形式が間違っています (テーブル <i>table_name</i>)</b>
説明：	キャブチャカタログテーブルのスキーマが正しいことを、UDB SQL プロセッサで確認できませんでした。
システムのアクション：	システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。
ユーザの応答：	正しいスキーマを持つキャブチャカタログテーブルの名前を指定します。
PWX-20609	<b>キャブチャカタログ検証エラー、列 <i>column_name</i> が見つかりません (テーブル <i>table_name</i>)</b>
説明：	キャブチャカタログテーブルのスキーマが正しいことを、UDB SQL プロセッサで確認できませんでした。
システムのアクション：	システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。
ユーザの応答：	正しいスキーマを持つキャブチャカタログテーブルの名前を指定します。
PWX-20610	CAPDS:UDB API <i>function_name</i> <b>エラー API 戻りコード=error code</b>
説明：	UDB キャブチャが UDB API 呼び出しを実行しているときに、予期しないエラーを検出しました。
システムのアクション：	プログラムは、エラーを終了して報告します。
ユーザの応答：	エラーが解決されない場合は、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-20611	<b>状態=SQL_state、コード=SQL_code、メッセージ=SQL_message</b>
説明：	API エラーに基づく SQL 関連情報。
システムのアクション：	発行された個々のメッセージによります。
ユーザの応答：	発行された個々のメッセージによります。
PWX-20612	CAPDS:PARTITION 文 <i>partition_statement_number</i> . PARTITION_NUMBER が昇順ではありません。dbconfig ファイル = <i>dump_file</i>
説明：	DUMPDIAG データを使用した CAPDS の初期化処理で PARTITION 文が読み込まれましたが、増加する PARTITION_NUMBER がありませんでした。ソースでは、カタログパーティション情報とパーティション定義の基となっている場所が識別されます。
システムのアクション：	エラーが発生したタスクは終了します。

ユーザの応答： dbconfig.txt 入力を修正します。

PWX-20613 CAPDS:**カタログパーティション (*partition\_number*) は定義済みのパーティションではありません。ソース: *source***

説明： CAPDS の初期化時に、カタログパーティション番号に一致する定義済みのパーティションがありませんでした。ソースでは、カタログパーティション情報とパーティション定義の基となっている場所が識別されます。

システムのアクション： エラーが発生したタスクは終了します。

ユーザの応答： 入力を修正します。

PWX-20614 CAPDS:DB2 **環境変数が設定されていません: *environment\_variable\_setting***

説明： CAPDS の初期化中に、DB2 環境変数の設定が適切でないことが判明しました。この設定は必須です。

システムのアクション： エラーが発生したタスクは終了します。

ユーザの応答： 入力を修正します。

PWX-20615 CAPDS:Windows **では、CAPDS は環境変数を設定できませんでした: *environment\_variable\_setting***

説明： CAPDS の初期化中に、DB2 環境変数の設定が適切でないことが判明しました。Windows で、CAPDS が環境変数を設定しようとしたが、正しく実行できませんでした。

システムのアクション： エラーが発生したタスクは終了します。

ユーザの応答： 環境変数を外部で設定します。

PWX-20616 CAPDS:UDB **修正パックレベル *found\_fix\_pack\_level* は最小値の *minimum\_fixpac\_level* 未満です**

説明： CAPDS の初期化中に、UDB の Fix Pack レベルが十分でないことが判明しました。

システムのアクション： エラーが発生したタスクは終了します。

ユーザの応答： 正しい UDB 修正パックをインストールします。

PWX-20617 CAPDS:UDB Version *found\_version\_level*/not supported

説明： CAPDS の初期化中に、UDB バージョンが適切でないことが判明しました。

システムのアクション： エラーが発生したタスクは終了します。

ユーザの応答： サポートされている UDB バージョンを使用します。

PWX-20618	<b>CAPDS:認識されない SQL_DBMS_VER 形式: <i>SQL_DBMS_VER_value</i></b>
説明:	CAPDS の初期化中に、SQL_DBMS_VER を解析できませんでした。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートに連絡し、技術サポートを受けてください。
PWX-20619	<b>CAPDS:指定された DB <i>db_name</i> はリモートです。</b>
説明:	メッセージに示されているデータベースは、UDB データベースディレクトリでリモートのマークが付けられています。
システムのアクション:	タスクは続行されます。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-20620	<b>CAPDS:指定された DB <i>db_name</i> が UDB データベースディレクトリで見つかりません。</b>
説明:	CAPDS の初期化中にデータベースが指定されましたが、そのデータベースが UDB データベースディレクトリに見つかりませんでした。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートに連絡し、技術サポートを受けてください。
PWX-20621	<b>CAPDS:警告:UID <i>user_ID</i> は SYSADM または DBADM 権限を持っていません。</b>
説明:	CAPDS の初期化中に、メッセージに示されているユーザー ID に適切な権限がないことが判明しました。これ以上処理しても、高い確率でエラーが発生します。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	正しい権限を持つユーザー ID を使用します。
PWX-20622	<b>CAPDS: 警告: アーカイブロギングが DB2 データベース <i>database_name</i> で有効になっているか確認してください。</b>
説明:	CAPS 初期化中、指定した DB2 for Linux、UNIX、Windows データベースでアーカイブロギングが有効になっていないことが PowerExchange で検出されました。アーカイブログから変更データをキャプチャするには、PowerExchange はソーステーブルを含むデータベースでアーカイブロギングが有効になっている必要があります。
システムのアクション:	処理は継続します。

ユーザの応答： データベースでアーカイブロギングが構成されていることを確認します。アーカイブロギングが有効になっていない場合は、DB2 データベース構成パラメータ LOGARCHMETH1 と LOGARCHMETH2 のいずれか、またはその両方を OFF 以外の値に設定します。

PWX-20623 CAPDS:nature\_of\_data データのコードページ変換エラー。  
(tgtlen=expected\_max\_length\_of\_data、  
newlen=new\_length\_of\_data)

説明： データ変換中のエラー。

システムのアクション： エラーが発生したタスクは終了します。

ユーザの応答： Informatica グローバルカスタマサポートに連絡し、技術サポートを受けてください。

PWX-20624 CAPDS:code\_page\_name のコードページ情報が見つかりません。

説明： そのコードページのコードページ情報が PowerExchange 内に見つかりませんでした。

システムのアクション： エラーが発生したタスクは終了します。

ユーザの応答： Informatica グローバルカスタマサポートに連絡し、技術サポートを受けてください。

PWX-20625 CAPDS: source\_code\_page\_name  
(source\_PWX\_internal\_code\_page\_number) から  
target\_code\_page\_name  
(target\_PWX\_internal\_code\_page\_number) へのコードページ  
トランスレータが見つかりません。

説明： その 2 つのコードページに対応したコードページトランスレータが PowerExchange 内に見つかりませんでした。

システムのアクション： エラーが発生したタスクは終了します。

ユーザの応答： Informatica グローバルカスタマサポートに連絡し、技術サポートを受けてください。

PWX-20626 CAPDS:nature\_of\_data\_being\_converted データのコピー、ターゲット領域サイズが不足です: srclen=source\_data\_length  
tgtlen=target\_area\_length

説明： コードページ変換ルーチンでのデータコピー時にターゲット領域の大きさが不十分であることがわかりました。

システムのアクション： エラーが発生したタスクは終了します。

ユーザの応答： Informatica グローバルカスタマサポートに連絡し、技術サポートを受けてください。



PWX-20627 CAPDS:PWX コードページ *code\_page\_name* (DB2 コードページ=*code\_page\_number*) が、**予期しないプロパティを持ちます**。min\_char\_size=*minimum\_character\_size* max\_char\_size=*maximum\_character\_size* が ASCII でず: "Yes\_or\_No"

説明: コードページに予想外のプロパティがあります。

システムのアクション: 処理は継続します。

ユーザの応答: Informatica グローバルカスタマサポートに詳細を報告します。

PWX-20628 CAPDS:DB の *database\_name* **プラットフォームは *endianness* エンディアン、ローカルプラットフォームは *endianness* エンディアンです**。

説明: データベースプラットフォームのエンディアンとローカルプラットフォームのエンディアンが一致しません。この2つのプラットフォームはエンディアンが同じである必要があります。

システムのアクション: 処理は終了します。

ユーザの応答: エンディアンがデータベースプラットフォームと同じローカルプラットフォームで実行します。

PWX-20629 **エラー-1651 は、db サーバーが API 関数を実行できず、サーバーが DB2 LUW でない可能性を示しています**

説明: UDB キャブチャが UDB API 呼び出しを実行しているときに、予期しないエラーを検出しました。

システムのアクション: プログラムは、エラーを終了して報告します。

ユーザの応答: エラーが解決されない場合は、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-20699 PseudoLog **エラー: *error\_description***

説明: PseudoLog エラーに関する情報。

システムのアクション: 発行された個々のメッセージによります。

ユーザの応答: 発行された個々のメッセージによります。

PWX-20700 CAPDD:*object\_name* のメモリを割り当てられませんでした。

説明: メモリが不足したりリソースが、タスク処理に存在します。

システムのアクション: エラーが発生したタスクは終了します。

ユーザの応答: タスクで利用可能なメモリのリソースを拡張します。エラーが解決されない場合は、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-20701	API 呼び出し <i>function_name</i> が <i>return_code</i> を返しました
説明:	DB2 (Linux、UNIX、Windows 用) の CAPI モジュールが、指定された呼び出しから予期しない戻りコードを検出しました。
システムのアクション:	システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-20702	CAPDD 内部エラー、プログラム= <i>program_name</i> 、行= <i>line_number</i> 、desc= <i>description</i>
説明:	UDB キャプチャモジュールが、処理中に内部エラーを検出しました。
システムのアクション:	システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-20703	CAPDD OP エラー LLSN= <i>LLSN_hex_value</i> SEQ= <i>SEQ_value</i>
説明:	UDB キャプチャモジュールが、キャプチャカタログデータの処理中に内部エラーを検出しました。このメッセージには、行の LLSN と SEQ が報告されています。特定のエラーは別のメッセージに詳細が記載されています。
システムのアクション:	システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-20704	CAPDD OP パラメータ <i>parameter_name</i> と <i>parameter_name</i> が競合しています。
説明:	UDB キャプチャモジュールが、キャプチャカタログデータの処理中に内部エラーを検出しました。
システムのアクション:	システムは呼び出しソフトウェアにエラーを返します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-20800	CAPDM: <i>object_name</i> のメモリを割り当てられませんでした。
説明:	メモリが不足したリソースが、タスク処理に存在します。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	タスクで利用可能なメモリのリソースを拡張します。エラーが解決されない場合は、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-20900	AM UTL コマンド ( <i>command_text</i> ) が失敗し、戻りコード= <i>return_code</i> が返されました。
説明:	UTL アクセス方式によって処理されたコマンドが失敗しました。
システムのアクション:	処理は終了します。

ユーザの応答：	コマンドテキストに間違いがないか確認します。他のメッセージを参照します。
PWX-20901	AM UTL <b>コマンドの起動</b> : <i>command_text</i>
説明：	UTL アクセス方式によって処理されるコマンドが開始されました。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-20902	AM UTL <b>コマンドの完了</b> : <i>command_text</i>
説明：	UTL アクセス方式のコマンドが正しく完了しました。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-20904	<b>割り当て</b> :DDN: <i>DD_name</i> DSN: <i>file_name</i>
説明：	ファイル割り当てメッセージ。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。

## PWX-21000～PWX-21999

PWX-21000	<b>空の文字列にヘルプを入力することはできません</b>
説明：	ユーザーが、空の文字列に対してヘルプを要求しました。
システムのアクション：	タスクは終了します。
ユーザの応答：	入力を修正して、もう一度実行します。
PWX-21001	<b>関数が認識されません。ヘルプを入力できません。</b>
説明：	この関数は、認識されていません。
システムのアクション：	タスクは終了します。
ユーザの応答：	関数名を確認し、修正してもう一度実行します。
PWX-21002	<b>空の式</b>
説明：	ユーザーが式を入力していません。
システムのアクション：	タスクは終了します。
ユーザの応答：	必要な式を入力して、再試行します。
PWX-21003	<b>無効な負のフィールド型</b> <i>field_type</i>
説明：	要求されたフィールド型の場合、値は負にできません。
システムのアクション：	タスクは終了します。
ユーザの応答：	入力を修正して、もう一度実行します。

PWX-21004	<b>先頭のスペース文字は、式では許可されていません</b>
説明:	式をスペースで開始することはできません。
システムのアクション:	タスクは終了します。
ユーザの応答:	入力を修正して、もう一度実行します。
PWX-21005	<b>不明なフィールド型 <i>field_type</i></b>
説明:	メッセージに示されているフィールド型が無効です。
システムのアクション:	タスクは終了します。
ユーザの応答:	正しいフィールド型を入力して、もう一度実行します。
PWX-21006	<b>それ自体への割り当ては許可されていません</b>
説明:	関数パラメータとして使用される式の名前が、式自体と同じです。
システムのアクション:	タスクは終了します。
ユーザの応答:	関数パラメータを修正して、もう一度実行します。
PWX-21007	<b>フィールド割り当てと見なされます</b>
説明:	フィールド割り当てと見なされます。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-21008	<b>フィールド <i>field_name</i> が見つかりません</b>
説明:	メッセージに示されているフィールドが認識されません。
システムのアクション:	タスクは終了します。
ユーザの応答:	フィールド名をフィールドリストで確認し、修正してもう一度実行します。
PWX-21009	<b>フィールド割り当て OK</b>
説明:	フィールドの割り当ては OK です。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-21010	<b>この宣言フィールド型 <i>field_type</i> は結果フィールド型 <i>field_type</i> と異なります。</b>
説明:	関数の結果型が、式の宣言と矛盾しています。
システムのアクション:	タスクは終了します。
ユーザの応答:	宣言のフィールド型または関数の結果型のどちらかを修正して、もう一度実行します。

PWX-21011      **関数 *function\_name*: 事前に割り当てられたフィールド型引数が結果にありません。**

説明:              結果セットの引数への内部の一貫性チェックで問題が検出されました。

システムのアクション:      タスクは終了します。  
ン:

ユーザの応答:      Informatica グローバルカスタマサポートに報告し、エラーの発生時に実行していた関数をお知らせください。

PWX-21012      **関数 *function\_name*: 事前に割り当てられた pNullThisTime 引数が結果にありません。**

説明:              結果セットの引数への内部の一貫性チェックで問題が検出されました。

システムのアクション:      タスクは終了します。  
ン:

ユーザの応答:      Informatica グローバルカスタマサポートに報告し、エラーの発生時に実行していた関数をお知らせください。

PWX-21013      **関数 *function\_name*: 事前に割り当てられた pDataLength 引数が結果にありません。**

説明:              結果セットの引数への内部の一貫性チェックで問題が検出されました。

システムのアクション:      タスクは終了します。  
ン:

ユーザの応答:      Informatica グローバルカスタマサポートに報告し、エラーの発生時に実行していた関数をお知らせください。

PWX-21014      **関数 *function\_name*: 事前に割り当てられた ppData 引数が結果にありません。**

説明:              結果セットの引数への内部の一貫性チェックで問題が検出されました。

システムのアクション:      タスクは終了します。  
ン:

ユーザの応答:      Informatica グローバルカスタマサポートに報告し、エラーの発生時に実行していた関数をお知らせください。

PWX-21015      **関数 *function\_name*: 事前に割り当てられた BufferLength 引数が結果にありません。**

説明:              結果セットの引数への内部の一貫性チェックで問題が検出されました。

システムのアクション:      タスクは終了します。  
ン:

ユーザの応答:      Informatica グローバルカスタマサポートに報告し、エラーの発生時に実行していた関数をお知らせください。

PWX-21016	<b>関数 <i>function_name</i> 最小バッファ長 <i>Actual_Length</i> が結果にありません、事前に割り当てられた実際の引数 <i>Minimum_Length</i>。</b>
説明：	結果セットの引数への内部の一貫性チェックで問題が検出されました。
システムのアクション：	タスクは終了します。
ユーザの応答：	Informatica グローバルカスタマサポートに報告し、エラーの発生時に実行していた関数をお知らせください。
PWX-21017	<b>テキストリテラルは宣言のみに使用できます</b>
説明：	テキストリテラルが不適切に使用されています。
システムのアクション：	タスクは終了します。
ユーザの応答：	入力を修正して、もう一度実行します。
PWX-21018	<b>テキストリテラルはフィールド型 <i>field_type</i> では許可されていません。</b>
説明：	メッセージに示されているターゲットフィールド型では、テキストリテラルを使用できません。
システムのアクション：	タスクは終了します。
ユーザの応答：	入力を修正して、もう一度実行します。
PWX-21019	<b>テキストリテラルの長さ <i>length</i> がフィールドの長さ <i>length</i> を超えています。</b>
説明：	テキストリテラルの長さが、ターゲットのフィールドの長さを超えています。
システムのアクション：	タスクは終了します。
ユーザの応答：	入力を修正して、もう一度実行します。
PWX-21020	<b>テキストリテラル式 OK</b>
説明：	テキストリテラル式 OK
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-21021	<b>数値リテラルは宣言のみに使用できます</b>
説明：	数値リテラルが不適切に使用されています。
システムのアクション：	タスクは終了します。
ユーザの応答：	入力を修正して、もう一度実行します。
PWX-21022	<b>数値リテラル式 OK</b>
説明：	数値リテラル式 OK

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-21023 **左かっこが見つかりません**

説明： 左かっこと右かっこの数が一致しません。

システムのアクション： タスクは終了します。

ユーザの応答： 指定された関数とパラメータを詳細に検討し、入力を修正して再実行します。

PWX-21024 **関数名が最大サイズ *Size* を超えています**

説明： 関数名が長すぎます。

システムのアクション： タスクは終了します。

ユーザの応答： 入力を修正して、もう一度実行します。

PWX-21025 **関数が認識されません: *function***

説明： 関数名が認識されません。

システムのアクション： タスクは終了します。

ユーザの応答： 関数名の指定を修正して、もう一度実行します。

PWX-21026 **関数呼び出しの最後の文字が閉じかっこ *character* ではありません。**

説明： 関数呼び出しの最後の文字が閉じ括弧ではありません。

システムのアクション： タスクは終了します。

ユーザの応答： 入力を修正して、もう一度実行します。

PWX-21027 **関数は *Number* 個の引数を受け取りましたが、多くても *maximum* 個しか必要ありません。**

説明： 関数に渡された引数が少なすぎます。

システムのアクション： タスクは終了します。

ユーザの応答： 入力を修正して、もう一度実行します。

PWX-21028 **関数は *Number* 個の引数を受け取りましたが、少なくとも *Minimum* 個必要です。**

説明： 左かっこと右かっこの数が一致しません。

システムのアクション： タスクは終了します。

ユーザの応答： 指定された関数とパラメータを詳細に検討し、入力を修正して再実行します。

PWX-21029	<b>前の宣言フィールド型 <i>field_type</i> は結果フィールド型 <i>field_type</i> と異なります。</b>
説明:	関数の結果型が、前の式の宣言と矛盾しています。
システムのアクション:	タスクは終了します。
ユーザの応答:	宣言のフィールド型または関数の結果型のどちらかを修正して、もう一度実行します。
PWX-21030	<b>FunctionCall 式 OK</b>
説明:	関数呼び出し式 OK
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-21031	<b>無効な NULL 引数です</b>
説明:	NULL 以外の引数を指定する必要があります。
システムのアクション:	タスクは終了します。
ユーザの応答:	入力を修正して、もう一度実行します。
PWX-21032	<b>無効な NULL 最終引数です</b>
説明:	NULL 以外の最終引数を指定する必要があります。
システムのアクション:	タスクは終了します。
ユーザの応答:	入力を修正して、もう一度実行します。
PWX-21033	<b>引数の最後に予期しない文字 <i>character</i> があります</b>
説明:	メッセージに示されている文字が無効です。
システムのアクション:	タスクは終了します。
ユーザの応答:	入力を修正して、もう一度実行します。
PWX-21034	<b>引数 <i>argument</i> が見つかりません。</b>
説明:	指定されている引数の 1 つが見つかりません。
システムのアクション:	タスクは終了します。
ユーザの応答:	入力を修正して、もう一度実行します。
PWX-21035	<b>フィールド <i>field</i> は、宣言と同じ行の引数にはできません。</b>
説明:	メッセージに示されているフィールドが、それ自体の宣言と同じ行にあります。
システムのアクション:	タスクは終了します。
ユーザの応答:	宣言フィールドの名前を、同じ行で引数として使用しないでください。



PWX-21036	<b>メモリエラー</b>
説明:	メモリ不足。
システムのアクション:	タスクは終了します。
ユーザの応答:	内部エラーの可能性があります。Informatica グローバルカスタマサポートに連絡し、技術サポートを受けてください。
PWX-21037	<b>テキストリテラルの最後の文字が、閉じる引用符 <i>character</i> ではありません。</b>
説明:	テキストリテラルの末尾は、閉じる引用符にする必要があります。
システムのアクション:	タスクは終了します。
ユーザの応答:	入力を修正して、もう一度実行します。
PWX-21038	<b>無効な <i>Literal</i> テキストリテラルです。1 つの引用符</b>
説明:	テキストリテラルの指定が無効です。
システムのアクション:	タスクは終了します。
ユーザの応答:	テキストリテラルの指定を確認し、入力を修正して再実行します。
PWX-21039	<b>テキストリテラル式 OK</b>
説明:	テキストリテラル式 OK
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-21040	<b><i>Literal</i> 数値リテラルに 2 個以上の小数が含まれています</b>
説明:	数値リテラルに複数個の小数点 (.) があります。
システムのアクション:	タスクは終了します。
ユーザの応答:	入力を修正して、もう一度実行します。
PWX-21041	<b><i>Literal</i> 数値リテラルに数値データ <i>Digit</i> が含まれていません。</b>
説明:	指定されたリテラルには、数字以外の文字が含まれています。
システムのアクション:	タスクは終了します。
ユーザの応答:	入力を修正して、もう一度実行します。
PWX-21042	<b><i>Literal</i> 数値リテラルにマイナス記号が 1 つ、数字がゼロ個含まれています</b>
説明:	マイナス記号を使用する位置が間違っています。
システムのアクション:	タスクは終了します。
ユーザの応答:	入力を修正して、もう一度実行します。

PWX-21043	<b><i>Literal</i>数値リテラルはフィールド型 <i>field_type</i><i>field_type</i>では許可されていません。</b>
説明:	このフィールド型は、数値リテラルをサポートしていません。
システムのアクション:	タスクは終了します。
ユーザの応答:	入力を修正して、もう一度実行します。
PWX-21044	<b><i>Literal</i>数値リテラルには小数点が含まれていますが、記数法=0 です</b>
説明:	式の記数法はゼロです。したがって、数値リテラルに小数点は使用できません。
システムのアクション:	タスクは終了します。
ユーザの応答:	記数法を指定するか小数点を削除して、もう一度実行します。
PWX-21045	<b>変換#2 後、<i>Literal</i>数値リテラルには数値データが含まれていません</b>
説明:	変換後の数値リテラルに、数字以外の文字が少なくとも 1 つ含まれています。
システムのアクション:	タスクは終了します。
ユーザの応答:	数値リテラルの指定を確認し、入力を修正して再実行します。
PWX-21046	<b><i>Literal</i>数値 <i>field_name</i> リテラルには最小値 <i>Minimum</i> より小さい数字が含まれています。</b>
説明:	メッセージに示されているフィールドの値が、その型に対して小さすぎます。
システムのアクション:	タスクは終了します。
ユーザの応答:	入力を修正して、もう一度実行します。
PWX-21047	<b><i>Literal</i>数値 <i>field_name</i> リテラルには最大値 <i>maximum</i> より大きな数字が含まれています。</b>
説明:	メッセージに示されているフィールドの値が、その型に対して大きすぎます。
システムのアクション:	タスクは終了します。
ユーザの応答:	入力を修正して、もう一度実行します。
PWX-21048	<b>結果 <i>name</i> が (Find ルーチンで) 見つかりません。</b>
説明:	指定されたフィールド名が見つかりません。
システムのアクション:	タスクは終了します。
ユーザの応答:	入力を修正して、もう一度実行します。

PWX-21050	<b>IDMS オーナーセット名が見つかりません、式</b>
説明:	関数は、IDMS オーナーセット名を指定する必要があります。
システムのアクション:	タスクは終了します。
ユーザの応答:	IDMS オーナーセット名を指定して、もう一度実行します。
PWX-21051	<b>引数 <i>argument</i> に関するヘルプがありません。引数の最大数 <i>maximum</i> (<i>function</i> が使用)</b>
説明:	メッセージに示された引数については、ヘルプを利用できません。
システムのアクション:	タスクは終了します。
ユーザの応答:	入力を修正して、もう一度実行します。
PWX-21052	<b>引数 <i>argument</i> に関するヘルプがありません。ヘルプでまだ定義されていません</b>
説明:	メッセージに示された引数については、ヘルプを利用できません。
システムのアクション:	タスクは終了します。
ユーザの応答:	入力を修正して、もう一度実行します。
PWX-21053	<b>論理エラー <i>function</i>- エントリの関数番号が無効です。Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください</b>
説明:	内部エラーの可能性あります。
システムのアクション:	タスクは終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートに連絡し、技術サポートを受けてください。そのとき、エラーメッセージの詳細をお知らせください。
PWX-21054	<b>エントリの関数番号が無効です</b>
説明:	内部エラーの可能性あります。
システムのアクション:	タスクは終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートに連絡し、技術サポートを受けてください。
PWX-21055	<b>論理エラー <i>function</i>- 高速関数テーブルが無効です。Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください</b>
説明:	内部エラーの可能性あります。
システムのアクション:	タスクは終了します。
ユーザの応答:	

ユーザの応答： Informatica グローバルカスタマサポートに連絡し、技術サポートを受けてください。

PWX-21056      **高速関数テーブルが無効です**

説明：                      内部エラーの可能性があります。

システムのアクション： タスクは終了します。

ユーザの応答：              Informatica グローバルカスタマサポートに連絡し、技術サポートを受けてください。

PWX-21057      **式 *function* は、このアクセス方法では無効です。**

説明：                      メッセージに示されている関数は、このアクセス方式では有効ではありません。

システムのアクション： タスクは終了します。

ユーザの応答：              使用する関数を修正して、もう一度実行します。

PWX-21058      **指定のデータ型 *Result\_Field\_Type* が *function* に対して無効です**

説明：                      メッセージに示されているデータ型は、関数と互換性がありません。

システムのアクション： タスクは終了します。

ユーザの応答：              使用する関数またはデータ型のどちらかを修正して、もう一度実行します。

PWX-21059      ***function* に指定したバイナリの長さが無効です。長さを指定します**

説明：                      メッセージに示されている関数では、ここに示すように互換性のあるバイナリ長が必要です。

システムのアクション： タスクは終了します。

ユーザの応答：              使用する関数または長さのどちらかを修正して、もう一度実行します。

PWX-21060      **不正な値リスト内にある**

説明：                      関数が戻した値が、不正な値リストに記載されています。

システムのアクション： タスクは終了します。

ユーザの応答：              関数またはパラメータの指定を修正して、もう一度実行します。

PWX-21061      **正しい値リスト内にはない**

説明：                      関数が戻した値が、正しい値リストに記載されていません。

システムのアクション： タスクは終了します。

ユーザの応答：	関数またはパラメータの指定を修正して、もう一度実行します。
PWX-21062	<b>関数 <i>function</i>：事前に割り当てられなかったフィールド型引数が結果にありません。</b>
説明：	結果セットの引数への内部の一貫性チェックで問題が検出されました。
システムのアクション：	タスクは終了します。
ユーザの応答：	Informatica グローバルカスタマサポートに報告し、エラーの発生時に実行していた関数をお知らせください。
PWX-21063	<b>関数 <i>function</i> 事前に割り当てられたフィールド型引数が結果にありません。</b>
説明：	結果セットの引数への内部の一貫性チェックで問題が検出されました。
システムのアクション：	タスクは終了します。
ユーザの応答：	Informatica グローバルカスタマサポートに報告し、エラーの発生時に実行していた関数をお知らせください。
PWX-21064	<b>CRX マップをリフレッシュする必要があります。シーケンスバッファ (length) が必要です (length)</b>
説明：	内部バッファの長さに問題を検出しました。
システムのアクション：	タスクは終了します。
ユーザの応答：	Informatica グローバルカスタマサポートに報告し、エラーの発生時に実行していた関数をお知らせください。
PWX-21065	<b>リスタート長 (length) &gt; バッファ長 (length)</b>
説明：	データキャプチャのリスタートアドレスについて、内部で問題が発生しました。
システムのアクション：	タスクは終了します。
ユーザの応答：	Informatica グローバルカスタマサポートに詳細を報告します。
PWX-21066	<b>予期しないフィールド型</b>
説明：	内部エラーの可能性あります。
システムのアクション：	タスクは終了します。
ユーザの応答：	Informatica グローバルカスタマサポートに詳細を報告します。
PWX-21067	<b>GEN_GetFldTabFromId で未知のフィールド型</b>
説明：	内部エラーの可能性あります。
システムのアクション：	タスクは終了します。

ユーザの応答： Informatica グローバルカスタマサポートに詳細を報告します。

PWX-21068      **不明な比較の種類=type**

説明：            内部エラーの可能性あります。

システムのアクション： タスクは終了します。

ユーザの応答：      Informatica グローバルカスタマサポートに詳細を報告します。

PWX-21069      **関数 "Copydata"。外部トリム文字の初期化中にエラーが発生しました。バッファサイズ="size"。**

説明：            「トリム」関数を使用するときに外部トリム文字でのエラー。

システムのアクション： タスクは終了します。

ユーザの応答：      切り捨て文字の仕様を検証して修正し、再試行します。

PWX-21070      **関数 "Copydata"。外部埋め込み文字の初期化中にエラーが発生しました。バッファサイズ="size"。**

説明：            "Trim"関数使用時の埋め込み文字のエラー。

システムのアクション： タスクは終了します。

ユーザの応答：      埋め込み文字の仕様を検証して修正し、再試行します。

PWX-21071      **リンケージ linkage\_type が number個の引数を受信しました。 number個未満の引数が必要でした。**

説明：            CALLPROG ルーチンに渡される引数の数が不正です。CALLPROG には、外部サブルーチンに渡される 1 以上 20 以下の引数が必要です。

システムのアクション： タスクは終了します。

ユーザの応答：      メッセージ PWX-02603 を使用して、E フィールドの問題を特定します。PowerExchange Navigator を使用して E フィールドを修正し、データマップを保存してリモートノードに送信し、タスクを再実行します。

PWX-21072      **リンケージ linkage\_type が number個の引数を受信しました。少なくとも 1 個の引数が必要でした。**

説明：            CALLPROG ルーチンに渡される引数の数が不正です。CALLPROG には、外部サブルーチンに渡される 1 以上 20 以下の引数が必要です。

システムのアクション： タスクは終了します。

ユーザの応答：      メッセージ PWX-02603 を使用して、E フィールドの問題を特定します。PowerExchange Navigator を使用して E フィールドを修正し、データマップを保存してリモートノードに送信し、タスクを再実行します。

PWX-21073	<b>リンケージ <i>linkage_type</i> が <i>number</i> 個の引数を受信しました。 <i>number</i> 個未満の引数が必要でした。</b>
説明:	CALLPROG ルーチンに渡される引数の数が不正です。CALLPROG には、外部サブルーチンに渡される 1 以上 20 以下の引数が必要です。
システムのアクション:	タスクは終了します。
ユーザの応答:	メッセージ PWX-02603 を使用して、E フィールドの問題を特定します。PowerExchange Navigator を使用して E フィールドを修正し、データマップを保存してリモートノードに送信し、タスクを再実行します。
PWX-21074	<b>リンケージ <i>linkage_type</i> が <i>number</i> 個の引数を受信しました。少なくとも 1 個の引数が必要でした。</b>
説明:	CALLPROG ルーチンに渡される引数の数が不正です。CALLPROG には、外部サブルーチンに渡される 1 以上 20 以下の引数が必要です。
システムのアクション:	タスクは終了します。
ユーザの応答:	メッセージ PWX-02603 を使用して、E フィールドの問題を特定します。PowerExchange Navigator を使用して E フィールドを修正し、データマップを保存してリモートノードに送信し、タスクを再実行します。
PWX-21080	<b>指定できる値=L (左)、R (右)、B (両方)、スペース (両方)。</b>
説明:	メッセージでは、属性に使用できる値を示しています。問題の属性を表示する 21082 や問題の E フィールドを特定する PWX-02603 などのメッセージと一緒に表示されます。
システムのアクション:	タスクは終了します。
ユーザの応答:	メッセージ PWX-21082 を参照します。
PWX-21081	<b>関数 <i>function</i> 予期しない戻りコード=<i>return_code</i> が Conversion 関数から戻されました。</b>
説明:	関数の実行中に、サブルーチンから予期しない戻りコードを受け取りました。
システムのアクション:	タスクは終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートに報告し、エラーの発生時に実行していた関数をお知らせください。
PWX-21082	<b>関数 <i>function</i> に、<i>value</i> の方向引数 2 の値は使用できません。</b>
説明:	この関数は指定の属性値をサポートしていません。例えば、関数 CALLPROG は、20 を超えた引数をサポートしません。関数 CALLPROG は、特定のリンケージ型のみをサポートし、その型は実行中のオペレーティングシステムによって異なります。属性に使用可能な値を示す 21080 と問題の E フィールドを特定する PWX-02603 などのメッセージと一緒に表示されます。

システムのアクション: タスクは終了します。

ユーザの応答: メッセージ PWX-02603 を使用して、E フィールドの問題を特定します。PowerExchange Navigator を使用して E フィールドを修正し、データマップを保存してリモートノードに送信し、タスクを再実行します。

PWX-21083 **関数 *function*。変換前に、外部符号化 CHAR/VARCHAR フィールド変換エラーが発生しました。**

説明: コードページがプラットフォームの外部であるファイルでの数値フィールドと CHAR または VARCHAR フィールド間の変換にユーザー定義のフィールドが含まれており、コードページ変換処理中に問題が発生しました。

システムのアクション: タスクは終了します。

ユーザの応答: マップ属性で指定されたコードページにデータが実際に存在することを確認します。

PWX-21084 **関数 *function*。変換後に、外部符号化 CHAR/VARCHAR フィールド変換エラーが発生しました。**

説明: コードページがプラットフォームの外部であるファイルでの数値フィールドと CHAR または VARCHAR フィールド間の変換にユーザー定義のフィールドが含まれており、コードページ変換処理中に問題が発生しました。

システムのアクション: タスクは終了します。

ユーザの応答: マップ属性で指定されたコードページにデータが実際に存在することを確認します。

PWX-21085 **関数 *function* では、*value* の外部サブルーチンに渡された引数を使用できません。**

説明: この関数は指定の属性値をサポートしていません。例えば、関数 CALLPROG は、20 を超えた引数をサポートしません。関数 CALLPROG は、特定のリンケージ型のみをサポートし、その型は実行中のオペレーティングシステムによって異なります。属性に使用可能な値を示す PWX-21086 と問題の E フィールドを特定する PWX-02603 などのメッセージと一緒に表示されます。

システムのアクション: タスクは終了します。

ユーザの応答: メッセージ PWX-02603 を使用して、E フィールドの問題を特定します。PowerExchange Navigator を使用して E フィールドを修正し、データマップを保存してリモートノードに送信し、タスクを再実行します。



PWX-21086	<b>外部サブルーチンに渡される、使用できる引数の最大数</b> <i>=Number</i> 。
説明：	メッセージでは、属性の最大値を示しています。問題の属性を表示する 21085 や問題の E フィールドを特定する PWX-02603 などのメッセージと一緒に表示されます。
システムのアクション：	タスクは終了します。
ユーザの応答：	メッセージ PWX-21085 を参照します。
PWX-21087	<b>このプラットフォームで使用できるリンケージ型</b> <i>=platform</i> 。
説明：	メッセージでは、属性に使用できる値を示しています。問題の属性を表示する PWX-21088 や問題の E フィールドを特定する PWX-02603 などのメッセージと一緒に表示されます。
システムのアクション：	タスクは終了します。
ユーザの応答：	メッセージ PWX-21088 を参照します。
PWX-21088	<b>関数 <i>function</i> では <i>value</i> のリンケージ型は使用できません。</b>
説明：	この関数は指定の属性値をサポートしていません。例えば、関数 CALLPROG は、20 を超えた引数をサポートしません。関数 CALLPROG は、特定のリンケージ型のみをサポートし、その型は実行中のオペレーティングシステムによって異なります。属性に使用可能な値を示す PWX-21087 と問題の E フィールドを特定する PWX-02603 などのメッセージと一緒に表示されます。
システムのアクション：	タスクは終了します。
ユーザの応答：	メッセージ PWX-02603 を使用して、E フィールドの問題を特定します。PowerExchange Navigator を使用して E フィールドを修正し、データマップを保存してリモートノードに送信し、タスクを再実行します。
PWX-21089	<b>引数 <i>argument</i> がレコード <i>record_name</i> で見つかりません。</b>
説明：	引数名がレコード内に見つかりませんでした。
システムのアクション：	タスクは終了します。
ユーザの応答：	引数名を確認し、入力を修正して再実行します。
PWX-21090	<b>引数 <i>argument</i> がテーブル <i>table_name</i> で見つかりません。</b>
説明：	引数名がテーブル内に見つかりませんでした。
システムのアクション：	タスクは終了します。
ユーザの応答：	引数名を確認し、入力を修正して再実行します。

PWX-21091	<b>引数 <i>argument</i> がランタイムテーブルで見つかりません</b>
説明:	引数名がランタイムテーブル内に見つかりませんでした。
システムのアクション:	タスクは終了します。
ユーザの応答:	引数名を確認し、入力を修正して再実行します。
PWX-21092	<b>引数 <i>argument</i> がコンテキスト型 <i>context_type</i> で見つかりません。</b>
説明:	引数名が見つかりませんでした。
システムのアクション:	タスクは終了します。
ユーザの応答:	引数名を確認し、入力を修正して再実行します。
PWX-21093	<b>単一引用符は、単一引用符で囲まないと関数引数では使用できません。</b>
説明:	単一引用符を使用できるのは、最初と最後の文字も単一引用符のリテラルのみです。単一引用符がリテラルの中にある場合は、その前にもう 1 つ単一引用符を記述してエスケープする必要があります。たとえば、COPYDATA('Peter''s dog',F1)のように記述します。
システムのアクション:	タスクは終了します。
ユーザの応答:	引数を修正して、もう一度実行します。
PWX-21094	<b>数値リテラルで単一引用符が正しく使用されていません。</b>
説明:	テキストリテラルは、その先頭と末尾に単一引用符文字を記述して、単一引用符文字で囲む必要があります。リテラルの中に単一引用符が必要な場合は、その前にもう 1 つ単一引用符を記述してエスケープする必要があります。たとえば、COPYDATA('Peter''s dog',F1)のように記述します。システムでリテラルを終了する必要がある単一引用符文字が検出されましたが、その後に予期しない文字が含まれています。
システムのアクション:	タスクは終了します。
ユーザの応答:	引数を修正して、もう一度実行します。
PWX-21095	<b>関数 <i>function_name</i> の引数 <i>number</i> の値 <i>value</i> は、サポートされている値 <i>supported_values</i> に含まれていません。</b>
説明:	引数がサポートされている値のいずれにも一致しません。
システムのアクション:	タスクは終了します。
ユーザの応答:	引数を修正して、タスクをもう一度実行してください。
PWX-21096	<b>関数 <i>function_name</i> の引数 2 には値 REPLACE がありますが、引数 3 の置換値 Efield がありません。</b>
説明:	ユーザー定義フィールドの引数の置換値が指定されていません。

システムのアクション: タスクは終了します。

ン:

ユーザの応答: 引数 3 に置換値が含まれるユーザー定義フィールドを指定して、関数を修正してください。その後、タスクをもう一度実行してください。

PWX-21097 **関数 *function\_name* の置換値の型 *replacement\_type* がソースフィールドの型 *source\_type* と一致しません。**

説明: ユーザー定義フィールドの置換値に関連付けられているデータ型が、ソースフィールドのデータ型と一致しません。

システムのアクション: タスクは終了します。

ン:

ユーザの応答: 置換するユーザー定義フィールドに正しい型を指定して、関数を修正してください。その後、タスクを再試行してください。

PWX-21098 **テーブル *table\_name* のレコード *record\_count* で CHECKNUMDATA() 検証に失敗しました。データ *value*、16 進数 *hex\_bytes*。**

説明: CHECKNUMDATA() 関数がユーザー定義フィールドを処理しているときに、データの有効性チェックに失敗しました。

システムのアクション: 関数のエラーアクションが **[Terminate]** の場合、タスクは終了して呼び出し元プログラムにエラーメッセージが返されます。関数のエラーアクションが **[Skip]** の場合、エラーはスキップされて処理が続行します。

ユーザの応答: データを修正して、タスクをもう一度実行してください。

PWX-21099 **関数 *function\_name* で、型 *source\_type* のフィールド *field\_name* から型 *target\_type* にコピーできません。**

説明: ユーザー定義フィールドに関連付けられている式の関数で、データをサポートされていないデータ型にコピーしようとしてしました。指定されたソースデータ型とターゲットデータ型に互換性がないため、コピー操作が失敗しました。PowerExchange には、PWXCCL または FTP を使用したデータ書き込みと z/OS または IBM i システム上のローカルでのデータ書き込みで異なる結果が出ないよう、データ型マッピングに対して制約があります。あるデータ型から別のデータ型にデータをコピーする場合には次の制約が適用されます。

- 関数 CONCAT()、LTRIM()、RTRIM()、STRIP() は、数値データ型と文字データ型の間ではコピーできません。
- 関数 SPLIT() は、数値データ型と文字データ型の間ではコピーできますが、数値データ型とコードページを使用しないデータ型の間ではコピーできません。
- 関数 CHECKNUMDATA() は、数値以外のフィールドを NULL に設定できます。
- 関数 COPYDATA() は、数値データ型と他のデータ型の間でコピーできます。

システムのアクション: ユーザー定義フィールドの式の検証は失敗します。

ン:

ユーザの応答：	ユーザー定義フィールドの詳細については、『 <i>PowerExchange リファレンスマニュアル</i> 』および『 <i>PowerExchange Navigator ガイド</i> 』を参照してください。別の方法を使用して問題のあるデータを再定義してください。名前に <b>filler</b> というプレフィックスを付けた中間ユーザー定義フィールドを使用することを検討してください。これらの中間フィールドはテーブルカラムには含まれません。
PWX-21400	<b>CAPXRT を未完了のまま閉じました（抽出終了時間なし）</b>
説明：	CAPXRT 抽出は、正常終了まで到達しませんでした。関連メッセージを参照します。
ユーザの応答：	関連メッセージを参照します。
PWX-21401	<b>CAPXRT の実行が完了しませんでした。現在のバッファは <i>time</i> に最後にフラッシュされました。</b>
説明：	最後にデータがブッシュされたのは、表示されている時間です。
ユーザの応答：	関連メッセージを参照します。
PWX-21402	<b>Current buffer:フラッシュ以降の合計コミット数 = <i>number of commits</i></b>
説明：	このメッセージは、最後のフラッシュ以降のコミット回数を示します。
ユーザの応答：	関連メッセージを参照します。
PWX-21403	<b>Current buffer:前のバッファ: フラッシュ以降の合計読み取り数 = <i>number_of_reads</i></b>
説明：	このメッセージは、最後のフラッシュ以降の読み取り回数を示します。
ユーザの応答：	関連メッセージを参照します。
PWX-21404	<b>現在のバッファ:最後の戻りコード = <i>last_return_code</i>、前の戻りコード = <i>previous_return_code</i></b>
説明：	このメッセージは、最後の戻りコードと、その 1 つ前の戻りコードを示します。
ユーザの応答：	関連メッセージを参照します。
PWX-21405	<b>CAPXRT の実行が完了しませんでした。前のバッファは前回 <i>time</i> でフラッシュされました。</b>
説明：	前のバッファで最後にデータがブッシュされたのは、表示されている時間です。
ユーザの応答：	関連メッセージを参照します。
PWX-21406	<b>前のバッファ: フラッシュ以降の合計コミット数 = <i>number of commits</i></b>
説明：	前のバッファでの、最後のフラッシュ以降のコミット回数です。
ユーザの応答：	関連メッセージを参照します。

PWX-21407	<b>前のバッファ: 前のバッファ: フラッシュ以降の合計読み取り数 = <i>number_of_reads</i></b>
説明:	前のバッファの最後のフラッシュ以降の読み取り回数です。
ユーザの応答:	関連メッセージを参照します。
PWX-21408	<b>前のバッファ: Last RC = <i>last_return_code</i>, Previous RC = <i>previous_return_code</i></b>
説明:	前のバッファでの最後の戻りコードと、その 1 つ前の戻りコードです。
ユーザの応答:	関連メッセージを参照します。
PWX-21500	<b>オープン時に Datacom アクセスエラーが発生しました。戻りコード = "<i>return_code</i>". cd = "<i>CA_DATACOM/DB_Return_Codes</i>" 内部戻りコード = "<i>internal_return_code</i>".</b>
説明:	Datacom データベースを開く操作を行っていたときに、PowerExchange でエラーが発生しました。CA-Datcom/DB 戻りコードと内部戻りコードの値は、『 <i>CA-DATACOM/DB Message Guide</i> 』などの Datacom マニュアルに記載されています。
システムのアクション:	タスクは終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-21501	<b>初期ポイントで Datacom アクセスエラーが発生しました。戻りコード = "<i>return_code</i>". cd = "<i>CA_DATACOM/DB_Return_Codes</i>" irc = "<i>internal_return_code</i>".</b>
説明:	Datacom データベースで初期ポイントを実行していたときに、PowerExchange でエラーが発生しました。CA-Datcom/DB 戻りコードと内部戻りコードの値は、『 <i>CA-DATACOM/DB Message Guide</i> 』などの Datacom マニュアルに記載されています。
システムのアクション:	タスクは終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-21502	<b>ポイントで Datacom アクセスエラーが発生しました。戻りコード = "<i>return_code</i>". cd = "<i>CA_DATACOM/DB_Return_Codes</i>" irc = "<i>internal_return_code</i>".</b>
説明:	Datacom データベースでポイントを実行していたときに、PowerExchange でエラーが発生しました。CA-Datcom/DB 戻りコードと内部戻りコードの値は、『 <i>CA-DATACOM/DB Message Guide</i> 』などの Datacom マニュアルに記載されています。
システムのアクション:	タスクは終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-21503 **最適化された読み取り時に Datacom アクセスエラーが発生しました。戻りコード="return\_code"。 cd="CA\_DATACOM/DB\_Return\_Codes" irc="internal\_return\_code"。**

説明： Datacom データベースの最適化された読み取りを実行していたときに、PowerExchange でエラーが発生しました。 CA-Datacom/DB 戻りコードと内部戻りコードの値は、『CA-DATACOM/DB Message Guide』などの Datacom マニュアルに記載されています。

システムのアクション： タスクは終了します。

ユーザの応答： Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-21504 **シーケンシャル読み込み時に Datacom アクセスエラーが発生しました。戻りコード=return\_code。 cd=CA\_DATACOM/DB\_Return\_Codes 内部戻りコード=internal\_return\_code。**

説明： Datacom データベースのシーケンシャル読み込みを実行していたときに、PowerExchange でエラーが発生しました。 CA-Datacom/DB 戻りコードと内部戻りコードの値は、『CA-DATACOM/DB Message Guide』などの Datacom マニュアルに記載されています。

システムのアクション： タスクは終了します。

ユーザの応答： Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-21505 **書き込み時に Datacom アクセスエラーが発生しました。戻りコード="return\_code"。 cd="CA\_DATACOM/DB\_Return\_Codes" irc="internal\_return\_code"。**

説明： Datacom データベースで書き込みを実行していたときに、PowerExchange でエラーが発生しました。 CA-Datacom/DB 戻りコードと内部戻りコードの値は、『CA-DATACOM/DB Message Guide』などの Datacom マニュアルに記載されています。

システムのアクション： タスクは終了します。

ユーザの応答： Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-21506 **クローズ時に Datacom アクセスエラーが発生しました。戻りコード="return\_code"。 cd="CA-DATACOM/DB\_Return\_Codes" 内部戻りコード="internal\_return\_code"。**

説明： Datacom データベースで閉じる処理を実行していたときに、PowerExchange でエラーが発生しました。 CA-Datacom/DB 戻りコードと内部戻りコードの値は、『CA-DATACOM/DB Message Guide』などの Datacom マニュアルに記載されています。

システムのアクション： タスクは終了します。

ユーザの応答： Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-21600	<b>名前 <i>connname</i> の接続が構成で見つかりませんでした。</b>
説明:	メッセージに示されている名前の接続を構成の CAPI CONNECTIONS から取得しようとしたときに、エラーが発生しました。
システムのアクション:	関連付けられたメッセージでタスクが終了します。
ユーザの応答:	問題の名前がどこから得られたかを調査します。構成の内部参照から得られた場合や、要求に含まれていた場合があります。矛盾を探して修正し、再試行します。
PWX-21601	<b>指定した名前 <i>connname</i> の接続は、CAPINAME と予想される、最初の属性 <i>connattr</i> ではありませんでした。</b>
説明:	メッセージに示されている接続名に関連する内部接続を特定しようとしたときにエラーが発生しました。
システムのアクション:	タスクは終了します。
ユーザの応答:	構成を調査します。メッセージに示されている接続には、別の接続への CAPINAME 参照があることが必要です。正しいと思われる場合は、Informatica グローバルカスタマサポートに構成を報告します。
PWX-21602	<b><i>connname</i> の接続が構成で見つかりませんでした。理由。</b>
説明:	これは、クックアップが開始された理由を示します。
システムのアクション:	関連付けられたメッセージでタスクが終了します。
ユーザの応答:	このメッセージに基づいて、クックアップ値がどこから得られているかを突き止めてください。
PWX-21603	<b>型 <i>in_type&lt;capture_type&gt;</i> の接続が構成で見つかりませんでした。</b>
説明:	示されている型の接続を構成の CAPI CONNECTIONS から取得しようとしたときに、エラーが発生しました。
システムのアクション:	関連付けられたメッセージでタスクが終了します。
ユーザの応答:	問題のタイプがどこから得られたかを調査します。構成の内部参照から得られた場合や、要求に含まれていた場合があります。なお、"in type"が"capture type"に変換されるのは、診断に役立てるためです。矛盾を探して修正し、再試行します。
PWX-21604	<b>内部名 <i>CAPINAME</i> の接続が構成で見つかりませんでした。</b>
説明:	メッセージに示されている内部名の接続を構成の CAPI CONNECTIONS から取得しようとしたときに、エラーが発生しました。
システムのアクション:	関連付けられたメッセージでタスクが終了します。
ユーザの応答:	問題の名前がどこから得られたかを調査します。構成の内部参照から得られた可能性があります。矛盾を探して修正し、再試行します。

PWX-21605	<p><b>選択された接続 <i>Conn_name</i> が、&lt;Conn_Override&gt;、タグ &lt;registration_tag&gt;、種類&lt;Type_used&gt;、int&lt;Internal_Request&gt;、方法&lt;Method_used&gt;から見つかりました。</b></p>
説明：	<p>このメッセージは、監査証跡を提供します。</p> <p>選択されている接続が結果です。</p> <p>次の任意のパラメータを省略できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• covr は、要求の CONN_OVR パラメータです。</li> <li>• タグは、抽出される登録です。</li> <li>• type は、登録の種類です。</li> <li>• int は、内部接続が要求されていた場合に TRUE になります。</li> <li>• method used は、接続を与えたりソースの種類を示します。</li> </ul>
システムのアクション：	<p>処理は継続します。</p>
ユーザの応答：	<p>監査記録は何もする必要ありませんが、製品の動作の理解に役に立つことがあります。</p>
PWX-21606	<p><b>Oracle 接続のキャプチャの種類を特定できません。設定パラメータ ORACLE_CAPTURE_TYPE を設定する必要があります。</b></p>
説明：	<p>ORACLE_CAPTURE_TYPE 文が定義されていないため、指定されたタイプの Oracle 接続で使用する変更のキャプチャ方法を特定できません。PowerExchange ロgger をリモートで実行する場合やカラムレベルの処理を別のシステムにオフロードする場合は、ORACLE_CAPTURE_TYPE が必要です。それらの状況では、CAPI_CONNECTION が定義されている PowerExchange Listener ホストから離れた場所にあるシステムの dbmover コンフィギュレーションファイルに ORACLE_CAPTURE_TYPE を追加する必要があります。</p>
システムのアクション：	<p>PowerExchange CDC 処理は終了します。</p>
ユーザの応答：	<p>PowerExchange Listener ホストから離れた場所にあるシステムの dbmover コンフィギュレーションで、ORACLE_CAPTURE_TYPE 文を入力して次のいずれかの値を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• PowerExchange Express CDC for Oracle の場合は D。</li> <li>• PowerExchange Oracle CDC with LogMiner の場合は L。</li> </ul>
PWX-21711	<p><b>パラメータ <i>parameter_name</i> は PROG=<i>program_name</i> では無効です。</b></p>
説明：	<p>メッセージに示されているパラメータは、選択されたプログラムで有効ではありません。</p>
システムのアクション：	<p>処理は終了します。</p>
ユーザの応答：	<p>無効なパラメータを修正して、DTLREXE をもう一度実行します</p>



PWX-21720	<b>プール ID の作成でエラー</b> <i>pool_name</i> 、 <b>戻りコード</b> = <i>return_code</i>
説明:	一意なメモリプール名の作成に失敗しました。
システムのアクション:	処理は終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートに詳細を報告します。
PWX-21721	<b><i>area_name</i> に対するメモリの割り当て中にエラーが発生しました。戻りコード</b> = <i>return_code</i>
説明:	メッセージに示されている領域にメモリを割り当てようとしたが、失敗しました。
システムのアクション:	処理は終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートに詳細を報告します。
PWX-21722	<b>アクセス方式 DBAM_EXEC に対して DBCB が無効です</b>
説明:	接続を開く前に、アクセス方式 DBAM_EXEC に対して dbcb を開こうとしました。
システムのアクション:	処理は終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートに詳細を報告します。
PWX-21723	<b>アクセス方式 DBAM_EXEC に対して DBCB が無効です</b>
説明:	アクセス方式 DBAM_EXEC に対して、無効な dbcb で接続を開こうとしました。
システムのアクション:	処理は終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートに詳細を報告します。
PWX-21725	<b><i>value</i> が無効な値です。理由</b> <i>description</i>
説明:	DBAM_EXEC の結果を読み取ろうとしましたが、配列サイズが無効でした。
システムのアクション:	処理は終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートに詳細を報告します。
PWX-21800	<b>フォールトトレランスログファイル <i>file_name</i> のオープンエラー</b>
説明:	指定されたファイルを開くのに失敗しました。この処理の目的は、プロセスで許容された問題をレポートするためにエラーを記録することでした。
システムのアクション:	処理は終了します。
ユーザの応答:	関連するメッセージの内容を確認して、原因を突き止めてください。

PWX-21801      **フォールトトレランスログファイル *file\_name* の書き込みエラー**

説明：                      指定されたファイルに書き込む処理が失敗しました。この処理の目的は、プロセスで許容された問題をレポートするためにエラーを記録することでした。

システムのアクション：      処理は終了します。

ユーザの応答：              関連するメッセージの内容を確認して、原因を突き止めてください。

PWX-21802      **フォールトトレランスログファイルのプレフィックス  
<prefix>が無効です**

説明：                      指定の拒否ファイルプレフィックスにより、拒否ファイル名の作成で長さが無効になりました。

システムのアクション：      処理は終了します。

ユーザの応答：              拒否ファイルプレフィックスを修正します。

## PWX-23000～PWX-23999

PWX-23010      **CAPX キャプチャ: 予期しないトークンが接続プロセスで検出されました。**

説明：                      これは内部エラーです。

システムのアクション：      処理は終了します。

ユーザの応答：              Informatica グローバルカスタマサポートに詳細を報告します。

PWX-23011      **CAPX キャプチャ:<オブジェクト>用のメモリを割り当てられません。**

説明：                      PowerExchange が、指定されたオブジェクトに対してメモリを割り当てることができませんでした。

システムのアクション：      処理は終了します。

ユーザの応答：              プロセスで使用できるメモリ量を増やしてから、プロセスをリスタートします。要求されたメモリ量に関する詳細情報は、メッセージ PWX-00904 で得られます。

PWX-23012      **CAPX キャプチャ: 警告: 認識されない属性: *value* キーワード: *value* が CAPX キャプチャインタフェースに渡されました。**

説明：                      不明のキーワードが、DBMOVER コンフィギュレーションファイルの CAPI\_CONNECTION (TYPE=CAPX) 文で見つかりました。

システムのアクション：      CAPX キャプチャはキーワードを無視して、処理を続行します。

ユーザの応答： 警告が表示されないようにするには、DBMOVER コンフィギュレーションファイルを編集して、問題のあるキーワードを削除します。

PWX-23013 **CAPX キャプチャ:拡張接続値<value>は属性<attribute>では無効です。**

説明： CAPX タイプまたは CAPX タイプの CAPXRT キャプチャの接続オーバーライドに対して、不明な値が渡されました。

システムのアクション： 処理は終了します。

ユーザの応答： Informatica グローバルカスタマサポートに詳細を報告します。

PWX-23014 **CAPX キャプチャ:警告:認識されないオーバーライド: 値<Override\_name.Override\_value>が CAPX キャプチャインタフェースに渡されました。**

説明： CAPX キャプチャが、その呼び出し元から不明なオーバーライドパラメータを受け取りました。

システムのアクション： CAPX キャプチャは処理を続行します。

ユーザの応答： Informatica グローバルカスタマサポートに詳細を報告します。

PWX-23015 **CAPX キャプチャ: 圧縮インスタンスがありません。**

説明： CAPX キャプチャには、キャプチャ対象の要約ファイルセットを特定するためのコンデンサインスタンス値が必要です。そのインスタンス値が指定されていませんでした。

システムのアクション： 処理は終了します。

ユーザの応答： PowerCenter セッションの適切な場所でキャプチャするための圧縮インスタンス値を指定します。 このインスタンス値は、DBMOVER コンフィギュレーションファイルの CAPI\_CONNECTION TYPE=CAPX 文の DFLTINST キーワードで指定することもできます。

PWX-23016 **CAPX キャプチャ:圧縮イメージ型（BA、または AI）がありません。**

説明： CAPX キャプチャには、任意の出力イメージフォーマットが必要です。値が指定されていませんでした。

システムのアクション： 処理は終了します。

ユーザの応答： PowerCenter セッションの適切な場所で出力イメージ形式を指定します。

PWX-23017 **CAPX キャプチャ: 要約ファイルの種類（フルまたは部分）がありません。**

説明： CAPX キャプチャには、圧縮ファイルの種類が必要です。値が指定されていませんでした。

システムのアクション： 処理は終了します。

ユーザの応答： Informatica グローバルカスタマサポートに詳細を報告します。

PWX-23018 CAPX キャプチャ:**内部エラー:<function\_name>がプラットフォームトークンを見つけられませんでした。**

説明： PowerExchange CAPX キャプチャモジュールの共有ストレージが失われました。

システムのアクション： 処理は終了します。

ユーザの応答： Informatica グローバルカスタマサポートに詳細を報告します。

PWX-23019 CAPX キャプチャ:**内部エラー:function\_nameがプラットフォームトークンで無効なアイキャッチャ<data\_value\_byte\_1data\_value\_byte\_2data\_value\_byte\_3data\_value\_byte\_4>を見つけました。**

説明： PowerExchange CAPX キャプチャモジュールの共有ストレージが失われたか、破損しました。

システムのアクション： 処理は終了します。

ユーザの応答： Informatica グローバルカスタマサポートに詳細を報告します。

PWX-23020 CAPX キャプチャ:function\_nameでプラットフォームトークンのバージョンが不一致。**受け取った値:Version.release.modification\_level。 patch\_level。 予期した値:Version.release。 modification\_level. patch\_level。**

説明： PowerExchange CAPX キャプチャでバージョンレベルの不一致が見つかりました。

システムのアクション： 処理は終了します。

ユーザの応答： エラーの原因として最も可能性が高いのは、環境変数の設定が正しくないことが考えられます。 パスおよび共有ライブラリパス変数が同じ PowerExchange バイナリを指すように設定されていることを確認します。 このメッセージの 2 番目の原因としては、PowerExchange ソフトウェアのインストールが不完全または失敗であることが考えられます。

PWX-23021 CAPX キャプチャ: Windows **ネットワーク処理を初期化できません。 戻りコード =WSAStartup\_return\_code。**

説明： Windows ネットワークの初期化に失敗しました。

システムのアクション： 処理は終了します。

ユーザの応答： この原因は、ほとんどの場合、winsock dll がないこと、PATH 環境変数が間違っていること、またはシステムが不安定なことです。問題を修正して、もう一度実行します。

PWX-23022	<b>CAPX キャプチャ:デフォルトのリスタートポイントを生成する前にインスタンス <i>condense_instance_name</i> に対して圧縮を実行する必要があります。</b>
説明:	メッセージに示されている圧縮インスタンスに対して圧縮処理が開始されていない場合は、CAPX キャプチャは、処理を開始するデフォルトのリスタートポイントを生成できません。
システムのアクション:	処理は終了します。
ユーザの応答:	この原因は、ほとんどの場合、PowerExchange DTLUAPPL プログラムを実行して、初期のリスタートポイントを作成しようとしたことです。キャプチャしようとする圧縮インスタンスの要約ファイルが存在していなければ、CAPX CAPI はこのリスタートポイントを作成できません。インスタンスの圧縮処理を実行して、もう一度実行します。
PWX-23023	<b>CAPX キャプチャ:オープン/読み取り/クローズ (CDCT) /圧縮をファイル <i>file name</i> に対してを行うことができません。 <i>return_code1/return_code2/return_code3=&lt;PWX_return_code/platform_dependent_return_code/platform_dependent_reason_code&gt;。</i></b>
説明:	CAPX キャプチャが、メッセージに示されているファイルをオープンできません。
システムのアクション:	処理は終了します。
ユーザの応答:	先行するエラーメッセージやプラットフォーム依存の戻りコード/理由コードに基づいて、問題点を突き止めてください。問題を修正して、もう一度実行します。
PWX-23024	<b>CAPX キャプチャ:内部 CDCT 圧縮オプションが圧縮ファイル <i>condense_file_name</i> と矛盾しています。</b>
説明:	CAPX キャプチャが、メッセージに示されているファイルの CDCT エントリを見つけましたが、圧縮オプションが異なっていました。
システムのアクション:	処理は終了します。
ユーザの応答:	このメッセージの後に PWX-23025 エラーメッセージが 2 つ続き、エラーの詳細が表示されます。情報を収集して、Informatica グローバルカスタマサポートに連絡します。
PWX-23025	<b>CAPX キャプチャ:現在/新規の CDCT エントリ登録タグ: <i>registration_tag_name</i> 要約オプション: {F(ull) P(artial)}。</b>
説明:	このメッセージは、前のメッセージに記述されていた CDCT エントリに対して検出された圧縮オプションを示します。
ユーザの応答:	このメッセージの直前に発行されたメッセージがあれば、そのメッセージに記述されたアクションを実行します。

PWX-23026	<b>CAPX キャプチャ:内部 CDCT イメージの種類が要約ファイル <i>condense_file_name</i> と矛盾しています。</b>
説明:	CAPX キャプチャが、メッセージに示されているファイルの CDCT エントリを見つけましたが、イメージ型が異なっていました。
システムのアクション:	処理は終了します。
ユーザの応答:	このメッセージの後に PWX-23027 エラーメッセージが 2 つ続き、エラーの詳細が表示されます。情報を収集して、Informatica グローバルカスタマサポートに連絡します。
PWX-23027	<b>CAPX キャプチャ:current/new CDCT エントリ登録タグ: <i>&lt;registration_tag_name&gt;</i>イメージ型: <i>&lt;AI/BA/TU/unknown: internal_numeric_image_type_value&gt;</i></b>
説明:	このメッセージは、前のメッセージに記述されていた CDCT エントリに対して検出されたイメージ型を示します。
ユーザの応答:	このメッセージの直前に発行されたメッセージがあれば、そのメッセージに記述されたアクションを実行します。
PWX-23028	<b>CAPX キャプチャ:CAPX キャプチャ:要約ファイル <i>condense_file_name</i> の CDCT でシーケンス情報の矛盾が見つかりました。</b>
説明:	要約ファイルリストのシーケンス情報の形式と、CAPX キャプチャに渡された形式が一致しません。
システムのアクション:	処理は終了します。
ユーザの応答:	キャプチャセッションを開始するために使用したトークンファイルが正しいことを確認します。また、PowerExchange CDCT ファイルをオーバーレイしていないことも確認します。
PWX-23029	<b>CAPX キャプチャ:圧縮ファイル <i>file name</i> は必要なファイルプレフィックス<i>&lt;condense_file_prefix&gt;</i>と一致していません。</b>
説明:	圧縮ファイルのプレフィックスが、圧縮ファイルリスト内の他の圧縮ファイルのプレフィックスと一致していません。
システムのアクション:	処理は終了します。
ユーザの応答:	この状況が発生するのは、グループソースセッションからキャプチャしようとしたときに、キャプチャするソースが同じ圧縮インスタンスの一部でなかった場合や、柔軟性の高い圧縮で、ソースが同じ圧縮グループの一部でなかった場合です。
PWX-23030	<b>CAPX キャプチャ:要約ファイル <i>file name</i> の要約の種類<i>&lt;F/P&gt;</i>が要求された種類<i>&lt;F/P&gt;</i>と一致していません。</b>
説明:	要約ファイルの要約の種類（フルまたは部分）が、この抽出で要求されている要約の種類と一致していません。
システムのアクション:	処理は終了します。

ユーザの応答：	完全要約処理で要約されたソースをキャプチャしようとしてそのソースに対して部分要約ファイルが読み込まれるように要求したり、部分要約処理で要約されたソースをキャプチャしようとしてそのソースに対して完全要約ファイルが読み込まれるように要求すると、この状況が発生します。データの要求先が、正しいキャプチャインスタンスであることを確認します。
PWX-23031	<b>CAPX キャプチャ:要約ファイル <i>condense_file_name</i> のイメージ型&lt;AI/BA/TU/<i>unknown</i>&gt;:&lt;internal_numeric_image_type_value&gt;が要求された型&lt;AI/BA/TU/<i>unknown</i>&gt;:&lt;internal_numeric_image_type_value&gt;と一致していません。</b>
説明：	要約ファイル内のイメージ型と、この抽出で要求されたイメージ型が一致しません。
システムのアクション：	処理は終了します。
ユーザの応答：	このアクションが発生するのは、キャプチャ使用としたソースが操作後の画像のみで要約されているにもかかわらず、BA タイプまたは TU タイプの抽出を要求した場合です。データの要求先が、正しいキャプチャインスタンスであることを確認します。
PWX-23032	<b>CAPX キャプチャ:要約ファイル <i>condense_file_name</i> の終了シーケンスがファイル <i>condense_file_name</i> の開始シーケンスより大きくなっています。</b>
説明：	最初の要約ファイルの最新のシーケンス番号が、処理ファイルリストに記載されたその次のファイルの最も古いシーケンス番号より大きくなっています。
システムのアクション：	処理は終了します。
ユーザの応答：	この状況が発生するのは、柔軟性が高い別の要約グループ内の複数のソースから変更を抽出しようとした場合です。抽出で変更をキャプチャできるのは、1つの圧縮インスタンスからか、または柔軟性の高い圧縮の場合は同じ圧縮グループからのみです。ソースを圧縮グループ間で移動しようとしているときにこのメッセージを受け取った場合、原因として可能性が高いのは、必要な手順を実行しなかったことです。ソースを圧縮グループ間で正しく移動するための手順については、製品マニュアルを参照します。
PWX-23033	<b>CAPX キャプチャ:要約ファイル <i>condense_file_name</i> 名が予期しない形式です:&lt;detailed_description_of_error&gt;</b>
説明：	要約ファイル名が、予期された形式ではありません。
システムのアクション：	処理は終了します。
ユーザの応答：	ほとんどの場合、これは内部エラーです。Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-23034	<b>CAPX キャブチャ:PowerExchange タグ &lt;registration_tag_name&gt;のソース情報が CAPX キャブチャに 渡されませんでした。</b>
説明:	メッセージに示されているキャブチャ登録に関する情報を、CAPX キャブチャの呼び出し元が CAPX キャブチャに送信しませんでした。
システムのアクション:	処理は終了します。
ユーザの応答:	これは内部エラーです。Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-23035	<b>CAPX キャブチャ:&lt;registration_tag_name&gt;のソースリスタート 情報が見つかりません。</b>
説明:	CAPX キャブチャの呼び出し元が、指定されたキャブチャ登録のリスタート情報を CAPX キャブチャに送信できませんでした。
システムのアクション:	処理は終了します。
ユーザの応答:	これは内部エラーです。Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-23036	<b>CAPX キャブチャ:要約ファイル <i>condense_file_name</i> は、タグ &lt;registration_tag_name&gt;の新しい要約グループを開始しま す。</b>
説明:	セッションが別の要約グループからの変更を処理している間に、ソースが新しい要約グループに移動されたことを、CAPX キャブチャセッションが検出しました。
システムのアクション:	現在の要約グループのすべての要約ファイルが処理された後で、プロセスは正常終了します。
ユーザの応答:	これは正常な動作です。CAPX キャブチャは、複数の要約グループからの変更を 1 回の実行では処理できません。ソースを要約グループ間で移動する場合、製品マニュアルに記載された手順を参照します。既存の要約グループのファイル名プレフィックスだけを変更した場合は、単にセッションをリスタートします。
PWX-23037	<b>CAPX キャブチャ: ソースフィルタ処理が要求されたのに、ソ ースフィルタリストが渡されませんでした。</b>
説明:	すべてのソースに対するデータを返す要求とともに特定のソースが要求されたことを CAPX キャブチャセッションが検出しました。
システムのアクション:	処理は終了します。
ユーザの応答:	これは内部エラーです。Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-23038	<b>CAPX キャブチャ:タイムアウトエラーの選択 <i>return_code:&lt;error_explanation&gt;</i></b>
説明:	CAPX キャブチャセッションが期限付きの待機を実行して、失敗しました。



システムのアクション: これは単なる警告メッセージです。処理は継続します。

ユーザの応答: このメッセージと共に他のエラーが発生した場合は、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-23039 CAPX キャプチャ: 予期しないレコード型 `"internal_record_type_code"` が発行アルゴリズムに送信されました。

説明: CAPX キャプチャセッションが、開始 UOW、データ、UOW の終わりのどれでもないレコードを処理しようとしていました。

システムのアクション: 処理は失敗します。

ユーザの応答: これは内部エラーです。Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-23040 CAPX キャプチャ: リスタートトークンに無効なデフォルトシーケンス情報が含まれています。

説明: CAPX キャプチャが無効なリスタートトークンを発見しました。この後のメッセージに、見つかったトークンが示されます。

システムのアクション: 処理は失敗します。

ユーザの応答: 以下の内容を確認します。

1. PowerCenter セッションまたは PWX アプリケーションの実行と実行の間に、PWX アプリケーション名が変更されていないかどうか確認します。
2. これが新しい PowerCenter セッションまたは PWX アプリケーションの場合、既存の PWX アプリケーション名を使用していないことを確認します。
3. PWX DBMOVER コンフィギュレーションファイルの `CAPT_CONNECTION` キーワードが正しく設定されていることを確認します。
4. 正しい PowerCenter トークンファイルが使用されていることを確認します。
5. PWX アプリケーションの場合、`dbmover.cfg` の `CAPT_XTRA` および `CAPT_PATH` キーワードに対して正しいディレクトリが指定されていることを確認します。

PWX-23041 CAPX キャプチャ: リスタートトークンに含まれているシーケンス情報が短すぎます。

説明: CAPX キャプチャが無効なリスタートトークンを発見しました。この後のメッセージに、見つかったトークンが示されます。

システムのアクション: 処理は失敗します。

ユーザの応答: メッセージ PWX-23040 の「対策」を参照します。

PWX-23042	<b>CAPX キャプチャ: リスタートトークンに無効なシーケンス情報が含まれています。</b>
説明:	CAPX キャプチャが無効なリスタートトークンを発見しました。この後のメッセージに、見つかったトークンが示されます。
システムのアクション:	処理は失敗します。
ユーザの応答:	メッセージ PWX-23040 の「対策」を参照します。
PWX-23043	<b>CAPX キャプチャ: リスタートトークンに、無効なインスタンス名 "<i>instance_name_from_restart_token</i>" が含まれます。インスタンス "<i>instance_name_from_session_parms</i>" が必要です。</b>
説明:	CAPX キャプチャが無効なリスタートトークンを発見しました。この後のメッセージに、見つかったトークンが示されます。
システムのアクション:	処理は失敗します。
ユーザの応答:	メッセージ PWX-23040 の「対策」を参照します。
PWX-23044	<b>CAPX: リスタートトークン:</b>
説明:	CAPX キャプチャにリスタートトークンを表示する内部要求が出されました。この後のメッセージに、見つかったトークンが示されます。
システムのアクション:	システムアクションは、メッセージが発行された理由に応じて異なります。
ユーザの応答:	このメッセージは、情報メッセージとして、または前に発見されたエラーに関するデータを提供するために発行されます。セッションがエラーで終了した場合、出力で他のエラーメッセージを探し、見つかったメッセージに対応する対策を実行します。
PWX-23045	<b>CAPX キャプチャ: ソケット割り当てエラー&lt;<i>return_code</i>&gt;: &lt;<i>error_explanation</i>&gt;</b>
説明:	CAPX キャプチャセッションが通信ソケットを割り当てられませんでした。
システムのアクション:	処理は終了します。
ユーザの応答:	このメッセージで提供されるシステムエラーの説明を使って、エラーの原因を判定して修正し、プロセスを再試行します。
PWX-23046	<b>CAPX キャプチャ: 再作成されたファイル <i>condense_file_name</i> レコード&lt;<i>record_number</i>&gt;のシーケンス情報が、予期される大きさを超えています。</b>
説明:	CAPX キャプチャが非ウォーム圧縮リスタートを検出しました。CAPX キャプチャが処理した最後のレコードが、圧縮プロセスによって再キャプチャされませんでした。
システムのアクション:	CAPX キャプチャ処理は終了します。

ユーザの応答： これは、CAPX キャプチャセッションがまだアクティブであるときに圧縮がコールドスタートされた場合に起きることがあります。圧縮をコールドスタートした場合、通常はターゲットを作成し直す必要があります。ターゲットの安全を確保するため、この問題が発生した場合、CAPX キャプチャは終了します。必要に応じて、ターゲットを作成し直し、CAPX キャプチャセッションをリスタートします。作成し直す必要がない場合は、単に CAPX キャプチャセッションをリスタートします。

PWX-23047 CAPX キャプチャ: **ファイル *condense\_file\_name* で CDCT と不一致の可能性がります。**

説明： CAPX キャプチャは、CDCT でカタログ化された圧縮ファイルを開けませんでした。

システムのアクション： CAPX キャプチャ処理は終了します。

ユーザの応答： 最も可能性が高い原因は、CDCT と要約ファイルを含むディレクトリとの間の不一致です。これが起きるのは、圧縮プロセスの管理外で要約ファイルを手動で削除した場合です。エラーメッセージに指定されたファイルが実際に存在することを確認します。ファイルが存在する場合、ファイルを開く際のエラーを説明した前のメッセージを参照して、問題を修正します。ファイルが存在しない場合、圧縮プロセスをリスタートします。圧縮プロセスが完全にリスタートしても引き続き問題が発生する場合は、ファイル、CDCT、CCT の復元を行ってください。問題が解決しない場合は、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-23048 CAPX キャプチャ: **現在の正しい圧縮ファイルを特定できません。**

説明： CAPX キャプチャで現在の正しい圧縮ファイルを特定できませんでした。現在のセッションで処理されているソースに CDCT のエントリが含まれていないことが原因です。

システムのアクション： CAPX 抽出プロセスでは、変更の抽出を開始する前に圧縮ファイルスイッチを待ちます。

ユーザの応答： この現象が発生するのは、圧縮のコールドスタート中か、または CDCT 保守によって現在の PWX または PWC セッションで処理されているソースに関するすべての CDCT エントリが古くなった場合です。これは正常な状態です。CAPX 抽出プロセスでは、圧縮ファイルスイッチを待ってから、データの抽出を開始します。

PWX-23049 CAPX キャプチャ: **現在の正しい圧縮ファイルを特定できません。ソースがさまざまなグループに属しています: *file\_prefix\_for\_group1* - *file\_prefix\_for\_group2***

説明： CAPX キャプチャで現在の正しい圧縮ファイルを特定できませんでした。現在のセッションで処理されているソースに含まれる CDCT エントリが、別々の圧縮セッションまたは柔軟性の高い別々の圧縮グループを指していることが原因です。

システムのアクション： CAPX 抽出プロセスでは、これがエラーであるかどうかを特定する前に圧縮ファイルスイッチを待ちます。

ユーザの応答： この現象が発生するのは、圧縮グループ間をソースが移動する場合です。この場合、CAPX 抽出プロセスでは、次の圧縮ファイルスイッチで変更の抽出を開始します。ソースが移動されていない場合、次の圧縮ファイルスイッチで、ソースが柔軟性の高い同じ圧縮グループに含まれていないことを示すエラーメッセージが発行されます。このエラーが発生した場合は、適切な PowerExchange CDC ガイドに記載の指示に従って、エラーから復旧します。

PWX-23050 CAPX キャプチャ:ファイル<file\_name>の Fsync が失敗しました。戻りコード=  
<system\_return\_code>:<reason\_for\_failure>

説明： CAPX キャプチャで、指定のファイルに対してレコードを同期できませんでした。

システムのアクション： 抽出プロセスは失敗します。  
ン：

ユーザの応答： メッセージに示されている問題を解決して、抽出プロセスをリスタートします。この問題は通常、I/O エラーを示します。

PWX-23051 CAPX キャプチャ:ロッガーのコールドスタートが検出されました。抽出をシャットダウンしています。

説明： CAPX CDC セッションで、Linux、UNIX、Windows 向け PowerExchange ロggerがコールドスタートしたことが検出されました。コールドスタートの境界上では、データ整合性を維持できない可能性があります。

システムのアクション： CDC セッションは異常終了します。  
ン：

ユーザの応答： CDC セッションをコールドスタートします。

PWX-23052 CAPX キャプチャ:グループ変更が検出されました。対象リスト内の 1 つ以上のソースが無効になっています。

説明： Linux、UNIX、Windows 向け PowerExchange ロggerのソース対象リストが PowerExchange ロggerグループの定義ファイルの 1 つのグループ内にないことが CAPX CDC セッションで検出されました。

システムのアクション： CDC セッションは異常終了します。  
ン：

ユーザの応答： ソース対象リストを修正します。

PWX-23053 CAPX キャプチャ:ファイル<file\_name>でファイルの早期終了が検出されました。

説明： CAPX CDC セッションで、Linux、UNIX、Windows 向け PowerExchange ロggerのログファイルに指定された末尾が検出されましたが、トレーラレコードが見つかりません。

システムのアクション： CDC セッションは異常終了します。  
ン：

ユーザの応答： PowerExchange ロggerファイルが破損しています。PowerExchange ロggerをコールドスタートする必要があるかもしれません。

PWX-23054      CAPX キャプチャ: ロggerの画像タイプが、リーダーの画像タイプとの互換性を失いました。

説明:      PowerExchange ロgger (Linux、UNIX、Windows 用) の CAPT\_IMAGE パラメータで指定されたイメージタイプが、そのセッションの [イメージタイプ] 接続属性で指定されたイメージタイプと互換性のないことが、CDC セッションの間にログリーダーによって検出されました。このエラーは、リーダーのリスタートポイント以降のある時点で PowerExchange ロggerの構成が変更されている場合に発生します。

システムのアクション:      ログリーダーがファイルの終端 (EOF) メッセージを発行し、CDC セッションがシャットダウンします。

ユーザの応答:      [Image Type] 接続属性を PowerExchange ロggerの CAPT\_IMAGE 設定と互換性を持つように変更し、状況に応じて、その後 CDC セッションをウォームスタートします。

PWX-23055      CAPX キャプチャ: 暗号化されたファイル<file\_name>の復号化キーを生成できません。

説明:      PowerExchange ロgger (Linux、UNIX、Windows 用) のログファイルの暗号化が有効になっています。ただし、CDC セッションは指定された暗号化されたログファイルの復号化キーを生成できませんでした。このエラーは、PowerExchange ロggerをコールドスタートしたときに暗号化パスワードを指定し、その後不正な暗号化パスワードを使用して CDCT ファイルをリストアしようとすると発生します。RESTORE\_CDCT コマンドの暗号化パスワードは、ロggerコールドスタート用に入力したパスワードと一致する必要があります。

システムのアクション:      CDC セッションは異常終了します。

ユーザの応答:      正しい暗号化パスワードを使用して RESTORE\_CDCT コマンドを再度実行します。PowerExchange Navigator で CAPX データベースの行テストを実行し、暗号化パスワードが適切にリストアされていることを確認します。以前に CDCT ファイルをリストアしたことがない場合は、内部エラーが発生することがあります。その場合は、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-23056      CAPX キャプチャ: 時間ベースのリスタート用のリスタートトークンが無効です。

説明:      CDC セッションのリスタートトークンファイルで指定されている時間ベースのリスタートトークンが要求どおりの形式 YYYMMDDhhmmssuuuuuuu ではありません。ここでは、

- YYYY は年です。
- MM は月です。
- DD は月の日付です。
- hh は時です。
- mm は分です。
- ss は秒です。
- uuuuuu はマイクロ秒です。

システムのアクション: CDC セッションは無効なリスタートトークンを 16 進数値で出力してから終了します。

ユーザの応答: 時間ベースのリスタートトークンの形式を修正します。

PWX-23057 **CAPX キャプチャ: 時間ベースのリスタート条件は他のタイプのリスタート条件を使用して指定できません。**

説明: Linux、UNIX、および Windows のログファイルについて PowerExchange ロガーから変更データを抽出する CDC セッションには、時間ベースのリスタート条件と時間ベースでないリスタート条件のいずれも使用できません。

システムのアクション: CDC セッションは終了します。

ユーザの応答: リスタートトークンを修正します。

PWX-23100 **CAPX キャプチャ: リスタートトランジションモードで古い形式と新しい形式のリスタートトークンを混在することができません。**

説明: PowerExchange ロgger (Linux、UNIX、Windows 用) の使用に移行する場合、変更データ抽出のためのリスタートトークン形式が変更されます。PowerExchange では、異なる形式のリスタートトークンを混在させることができません。

システムのアクション: PowerExchange ロgger 抽出処理は終了します。

ユーザの応答: 抽出処理のリスタートトークンの形式が、すべてのデータソースで一貫性があることを確認します。

PWX-23101 **Regn タグ[*registration\_tag*]の CAPICAPX 形式に変換されたリスタート: 新しいリスタートトークン 1[*hexadecimal*] 新しいリスタートトークン 2[*hexadecimal*]**

説明: このメッセージは、指定のキャプチャ登録タグ名のリスタートトークンが、Linux、UNIX および Windows 用 PowerExchange ロggerが必要とする形式に変換されたことを示します。

システムのアクション: PowerExchange ロgger は、新しい形式のリスタートトークンの使用を開始します。

ユーザの応答: 対応する必要はありません。このメッセージは、監査目的のためです。

PWX-23150 **IMS ステータスコード "FW" が IMS によって返されました。 "FR" ステータスコードが切迫している可能性があります**

説明: 正規使用に割り当てられたすべてのバッファは使用されました。IMS はバッファスペースを使い果たした可能性があるとの警告を表示するために高速パス DEDB データベースへの書き込みを行う時にこのコードを返します。

システムのアクション: 処理は継続します。

ユーザの応答: 対応する必要はありません。

PWX-23500      **コードページ *code\_page\_number* (*code\_page\_name*) では、解析はサポートされていません。**

説明：            マルチバイトコードページのデータを解析しようとしたが、文字を 1 個ずつ調べるためのサポートが存在しません。このエラーは一般的に、エスケープおよびワイルドカード処理を伴う DTLDescribe 要求を実行した場合、またはメタデータにアクセスした場合に発生します。

システムのアクション：    処理は中断されます。

ユーザの応答：        構成ファイル中の SQL ページをチェックします。固定長コードページ、0E/0F シフトバイトが含まれた EBCDIC 混合長コードページ、スタータバイトと UTF-16LE によってプレフィックスされた ASCII 混合長コードページはすべて構文解析が可能です。ISCII、ISO-2022、圧縮、電子メールなどのコードページは解析できません。マルチバイト SQL コードページが必要な場合、ASCII プラットフォームでは UTF-16LE、EBCDIC プラットフォームでは適切な EBCDIC 混在幅コードページを使用する必要があります。

PWX-23501      **'*ICU\_error\_code*'ソース CP から中間 UNICODE に変換しています。**

説明：            ICU がソースコードページから中間 Unicode に文字を変換する際にエラー *ICU\_error\_code* を報告しました。これは 2 ステップのプロセス（ソースから中間 Unicode に変換し、中間 Unicode からターゲットコードページに変換）の最初の部分です。

一般的なエラーコードとしては、以下のものがあります。

- U\_FILE\_ACCESS\_ERROR. コードページコンバータがありません。
- U\_INVALID\_CHAR\_FOUND. 通常、文字がターゲットに存在しません。
- U\_TRUNCATED\_CHAR\_FOUND. マルチバイト文字が不完全です。
- U\_ILLEGAL\_CHAR\_FOUND. ソースデータが破損しています。
- U\_BUFFER\_OVERFLOW\_ERROR. ターゲットバッファのサイズが不十分です。

システムのアクション：    処理は中断されます。

ユーザの応答：        エラーの意味については ICU エラーコードの Web サイトを参照します。問題を解決するには、他のエラーメッセージを使って、正しいコードページが使われており、データが有効であることを確認します。

PWX-23502      **'*ICU\_error\_code*'を中間 UNICODE からターゲット CP に変換しています。**

説明：            ICU が Unicode からターゲットコードページに文字を変換する際にエラーを報告しました。これは 2 ステップのプロセス（ソースから中間 Unicode に変換し、中間 Unicode からターゲットコードページに変換）の 2 番目の部分です。

システムのアクション: 処理は中断されます。  
ン:

ユーザの応答: エラーの意味については ICU の Web サイトを参照します。他のエラーメッセージを使って、正しいコードページが使われており、データが有効であることを確認します。

PWX-23503 **'ICU\_error\_code'を UNICODE との間で変換しています。**  
説明: ICU が文字を双方向（ソースコードページから Unicode および Unicode からターゲットコードページ）に変換する際にエラーを報告しました。

システムのアクション: 処理は中断されます。  
ン:

ユーザの応答: エラーの意味については ICU の Web サイトを参照します。他のエラーメッセージを使って、正しいコードページが使われており、データが有効であることを確認します。

PWX-23504 ***number*～*number* バイトのデータ: data**  
説明: 変換エラーに関する追加情報です。このメッセージでは制御文字以外のシングルバイト文字が表示されます。

システムのアクション: システムは呼び出しプログラムに戻りコードとメッセージを送信します。  
ン:

ユーザの応答: エラーに関する情報を収集し、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-23505 ***number*～*number* バイトのデータ: data**  
説明: 変換エラーに関する追加情報です。このメッセージではマルチバイト文字または制御文字が 16 進数で表示されます。

システムのアクション: 処理は中断されます。  
ン:

ユーザの応答: エラーに関する情報を収集し、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-23506 **オフセット *offset* ソース文字で Unicode に変換できませんでした: data**

説明: Unicode に変換できないソース文字の 16 進値を指定します。

システムのアクション: 処理は中断されます。  
ン:

ユーザの応答: 関連するエラーメッセージを使って、データが無効なのか、あるいは間違ったソースコードページが使用されているのかを判定します。

PWX-23507 **オフセット *offset* Unicode 文字でターゲットコードページに変換できませんでした: data**

説明: ターゲットコードページに変換できない Unicode 16 ビット整数の 16 進値を指定します。

システムのアクション: 処理は中断されます。  
ン:



ユーザの応答： 関連するエラーメッセージを使って、データが無効なのか、あるいは間違ったソースまたはターゲットコードページが使用されているのかを判定します。

PWX-23508 **最初の問題 Unicode 文字: *name***

説明： 変換に失敗し、PWX-23507 メッセージで報告された最初の問題の Unicode 文字の名前を指定します。

システムのアクション： 処理は中断されます。

ユーザの応答： 関連するエラーメッセージを使って、データが無効なのか、あるいは間違ったソースまたはターゲットコードページが使用されているのかを判定します。

PWX-23509 **位置 *position* に無効な UTF8 先頭バイトがあります。値 *value***

説明： 構文解析時に、無効な UTF8 リードバイトが見つかりました。有効な リードバイトは、x'00'~x'7F'の範囲か、最初の 2 または 3 ビットがセットされています (X'Cx'、x'Dx')。.

システムのアクション： 処理は中断されます。

ユーザの応答： 関連するエラーメッセージを使って、データが無効なのか、あるいは間違ったソースまたはターゲットコードページが使用されているのかを判定します。

PWX-23510 **列 *column* のトランスレータの初期化中にエラーが発生しました**

説明： 指定された列のソースコードページとターゲットコードページの間の変換に使用される制御構造体の初期化の際にエラーが発生しました。

システムのアクション： 処理は中断されます。

ユーザの応答： 理由について関連付けられているメッセージを診断します。

PWX-23511 **コードページ *code\_page\_name* のコンバータのオープン時にエラー *error*が発生しました。**

説明： *code\_page\_name* の ICU コンバータのオープン時にエラーが発生しました。

システムのアクション： 処理は終了します。

ユーザの応答： ICU データライブラリに必要なコードページが含まれていない可能性があります。PowerExchange で提供される ICU データライブラリが DBMOVER 構成ファイルの ICUDATADIR パラメータで指定されているパスにあることを確認します。コードページの全リストを見るには、ICUCHECK を使用します。

PWX-23512      **ICU データディレクトリがすでに *existing\_name* に設定されており、*new\_name* に変更できません。**

説明：            ICU データディレクトリが既に特定のディレクトリに設定されています。このディレクトリは、要求されたディレクトリ（比較時に大文字と小文字が区別されるもの）とは異なります。同じ実行単位では、このディレクトリを別のディレクトリに変更することはできません。

システムのアクション：      処理は続きます。システムでは、構成ファイルの ICUDATADIR パラメータの値を無視し、これより前の呼び出し元（PowerExchange ではない）によって設定された最初のディレクトリでコードページ CNV ファイルを検索します。

ユーザの応答：      ICUDATADIR パラメータを既存の名前と同じ名前に設定し、このディレクトリにコードページ CNV ファイルをコピーします。

PWX-23513      **ルーチン *routine\_name* の呼び出し中にエラーが発生しました。戻りコード: *return\_code*。エラーの説明: *description*。**

説明：            指定したルーチンから ICU エラーが返されました。

システムのアクション：      処理は終了します。

ユーザの応答：      Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-23514      **カスタマイズされたコードページコンバータファイル *file\_name* が ICU データディレクトリ *directory\_name* に見つかりませんでした。**

説明：            カスタマイズされたコードページの ICU コンバータ（CNV ファイル）をオープンしようとしたましたがエラー U\_FILE\_ACCESS\_ERROR で失敗しました。このメッセージでは、要求されているコンバータのファイル名およびそのファイルで予測されたディレクトリの場所がレポートされます。

システムのアクション：      処理は終了します。

ユーザの応答：      処理を正常に実行するため、PowerExchange はコンバータファイルにアクセスする必要があります。次の方法でエラーを修正します。

- 必要な ICU CNV ファイルを見つけるか MAKECONV ユーティリティを使用して作成します。
- 予測された場所が、PowerExchange を呼び出すアプリケーションで定義されている場合は、その予測された場所に CNV ファイルをコピーします。
- PowerExchange リスナを ISP 制御下にあるドメインから実行する場合、ICU コンバータファイルがあると予測された場所は、DBMOVER 構成ファイルの ICUDATADIR パラメータで指定されている場所と異なる可能性があります。場所が異なる場合は、指定の場所を指すよう ICUDATADIR パラメータを更新します。すべてのランタイム操作で、すべての必要な CNV ファイルが、その場所に保持されているようにしてください。

PWX-23515      **コードページ番号 *code\_page\_number* が定義されていません。**

説明：              コードページ番号の定義が制御配列に存在しません。このエラーは、以下の理由で発生することがあります。

- カスタマイズされたコードページ 301 から 399 が使用されますが、この範囲が ICUCONVERTER ADD 文で定義されていません。
- 指定のコードページ番号は、ICUCONVERTER DELETE 文で削除されました。

システムのアクション：      処理は終了します。  
ン：

ユーザの応答：      必要な ICUCONVERTER ADD 文が DBMOVER 構成ファイルで定義されていることを確認します。NRDB データマップがある場合、そこには正しいコードページがマップレベルおよびフィールドレベルで存在するようにしてください。サポートが必要な場合は、エラーについての情報をできるだけ多く収集してから、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-23520      **DB2 名 "*name*" を UTF8 に変換している間にエラーが発生しました。**

説明：              名前検証で、指定された DB2 for z/OS または i5/OS のテーブル名またはカラム名を PowerExchange が UTF-16LE に変換していたときにエラーが発生しました。

システムのアクション：      処理は終了します。  
ン：

ユーザの応答：      Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-23521      **DB2 名 "*name*" の位置 *character\_number* に無効な文字 "*character*" があります。**

説明：              PowerExchange によって、DB2 for z/OS または DB2 for i5/OS のテーブル名またはカラム名にサポートされていない文字が検出されました。

システムのアクション：      処理は終了します。  
ン：

ユーザの応答：      テーブルを処理できません。再登録は試さないでください。DB2 for z/OS または DB2 for i5/OS CDC でサポートされるのは、コードページ IBM1047 内の文字だけです。

PWX-23523      **警告。廃止された EXT\_CP\_SUPPT=N が非標準的なコードページ変換の原因です。**

説明：              DBMOVER 構成ファイルで、EXT\_CP\_SUPPT 文が N に設定されています。これは、PowerExchange の 9.6.0 より前のリリースではデフォルト設定でした。この設定では、EBCDIC コードページと ASCII コードページとの間の変換時に制御文字は無視されます。この変換スタイルを使用する場合、z/OS で EBCDIC ファイルの読み取り、処理、書き込みが終了すると、ファイルには別の制御文字が設定されます。

システムのアクション：      処理は続行されますが、制御文字は変換されません。  
ン：

ユーザの応答：	DBMOVER 構成ファイルで、EXT_CP_SUPPT=Y を設定するか文を削除して、EXT_CP_SUPPT がデフォルトの Y をとるようにします。特定の EBCDIC 値について、以前のデフォルトのマッピング方法を保持する必要がある場合は（例えば、EBCDIC X'FF'を ASCII X'FF'にマップする必要がある場合）、カスタマイズされた ICU コードページを作成します。
PWX-23524	<b>リスナが、送信された文字を受け付けることができない制御コードページ" <i>name</i>" (<i>number</i>)を使用しています。</b>
説明：	PowerExchange リスナで受け付けるように設定されていない文字データのコードページ変換が実行されようとした。
システムのアクション：	処理は終了します。
ユーザの応答：	PowerExchange リスナの制御コードページを、送信される文字をサポートするコードページに設定し、リスナを再起動します。例えば、Linux、UNIX、または Windows で使用されるすべての文字を許可するには、制御コードページを UTF8 に設定します。
PWX-23525	<b>ノード" <i>node_name</i>"にあるリスナが、送信された文字を受け付けることができない SQL コードページ" <i>code_page_name</i>" (<i>code_page_number</i>)を使用しています。</b>
説明：	PowerExchange リスナで受け付けるように設定されていない SQL 文字データのコードページ変換が実行されようとした。
システムのアクション：	処理は終了します。
ユーザの応答：	PowerExchange リスナの SQL コードページを、送信される文字をサポートするコードページに設定し、リスナを再起動します。例えば、Linux、UNIX、または Windows で使用されるすべての文字を許可するには、SQL コードページを UTF8 に設定します。  z/OS または i5/OS のリスナに送信された SQL に、デフォルトの IBM037 範囲外の文字を持つリテラルが含まれる場合、SQL コードページを送信される文字をサポートするものに変更する必要がある場合があります。
PWX-23530	<b>「<i>file_name</i>」の ANSI から Unicode への変換時の MultiByteToWideChar()エラー。</b>
説明：	ファイル名のコードページ変換が失敗しました。
システムのアクション：	処理は終了します。
ユーザの応答：	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-23531	<b>MultiByteToWideChar()エラー <i>number</i>。「<i>message</i>」。</b>
説明：	名前のコードページ変換が失敗しました。
システムのアクション：	処理は終了します。
ユーザの応答：	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-23532	<b>ファイル名が ANSI から Unicode に変換されました。</b>
説明：	このメッセージは、_w fopen() API を使用するファイルを開くのに失敗したことを報告する別のメッセージとともに表示されます。
システムのアクション：	処理は終了します。
ユーザの応答：	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-23533	<b>名前「<i>name</i>」のコードページ名 <i>name(number)</i> から Unicode コードへの変換時のエラー。</b>
説明：	ファイル名のコードページ変換が失敗しました。
システムのアクション：	処理は終了します。
ユーザの応答：	DBMOVER コンフィギュレーションファイルに正しい制御コードページが指定されていることを確認します。
PWX-23534	<b>ファイル名がコードページ <i>name(number)</i> から Unicode に変換されました。</b>
説明：	このメッセージは、_w fopen() API を使用するファイルを開くのに失敗したことを報告する別のメッセージとともに表示されます。
システムのアクション：	処理は終了します。
ユーザの応答：	正しいコードページが DBMOVER コンフィギュレーションファイルに指定されていることを確認します。
PWX-23535	<b>エラー=EINVAL (<i>number</i>)。ファイル名に無効な文字が含まれています。</b>
説明：	このメッセージは、_w fopen() API を使用するファイルを開くのに失敗したことを報告する別のメッセージとともに表示されます。
システムのアクション：	処理は終了します。
ユーザの応答：	正しいコードページが DBMOVER コンフィギュレーションファイルに指定されていることを確認します。
PWX-23536	errno = EINVAL ( <i>número</i> ). O arquivo de rede não pode ser acessado usando o usuário local " <i>user_name</i> ".
説明：	Essa mensagem acompanha outra mensagem informando que a abertura de um arquivo usando a API da _w fopen() falhou. O Microsoft Windows não permite que um arquivo de rede que comece com "\\\" seja aberto com uma conta de usuário local.
システムのアクション：	O processamento é terminado.
ユーザの応答：	Se for necessário abrir um arquivo de rede, certifique-se de que o processo seja executado em uma conta de usuário de domínio e não em uma conta de usuário local.

## 第 4 章

# PWX-25000～PWX-35999

この章では、以下の項目について説明します。

- [PWX-25000～PWX-25999, 278](#) ページ
- [PWX-26000～PWX-26999, 294](#) ページ
- [PWX-27000 a PWX-27999, 307](#) ページ
- [PWX-28000～PWX-28999, 318](#) ページ
- [PWX-31001～PWX-31999, 325](#) ページ
- [PWX-32000～PWX-32999, 349](#) ページ
- [PWX-33000～PWX-33999, 378](#) ページ
- [PWX-34000～PWX-34999, 408](#) ページ
- [PWX-35000～PWX-35999, 410](#) ページ

## PWX-25000～PWX-25999

PWX-25000	<b>CMD "<i>command</i>"には引数"BACKUPFILE"を指定する必要があります。</b>
説明：	CREATE_CDCT_BACKUP、DERIVE_CDCT_BACKUP、または RESTORE_CDCT コマンドが、必要な BACKUPFILE パラメータなしで PWXUCDCT ユーティリティに対して発行されました。
システムのアクション：	PWXUCDCT ユーティリティは異常終了します。
ユーザの応答：	コマンドに BACKUPFILE パラメータを追加します。 CREATE_CDCT_BACKUP または DERIVE_CDCT_BACKUP コマンドでは、パラメータを使用して、作成するバックアップファイルの名前を指定します。RESTORE_CDCT コマンドでは、パラメータを使用して、CDCT ファイルの復元元である既存のバックアップファイルを指定します。
PWX-25001	<b>バックアップファイル "<i>file_name</i>"にはレコードがありません</b>
説明：	RESTORE_CDCT コマンドの BACKUPFILE パラメータは、レコードを含まないバックアップファイルを指定しています。したがって、CDCT はそのバックアップファイルから復元できません。

システムのアクション PWXUCDCT ユーティリティは異常終了します。  
ン：

ユーザの応答： BACKUPFILE パラメータには、CDCT ファイルの復元に使用するレコードを含むバックアップファイルの名前を指定します。

PWX-25002 **バックアップファイルヘッダレコードのレコードタイプが無効です。予期した値"H"、読み取った値"string"**

説明： CDCT ファイルの復元に使用しているバックアップファイルには、無効なヘッダレコードがあります。最初のパラメータはレコードタイプの"H."である必要があります。その代わりに、このパラメータには指定された文字列が含まれています。

システムのアクション PWXUCDCT ユーティリティは異常終了します。  
ン：

ユーザの応答： RESTORE\_CDCT コマンドの BACKUPFILE パラメータには、ヘッダレコードの最初のパラメータにレコードタイプ"H"を持つバックアップファイルの名前を入力します。

PWX-25003 **バックアップファイルインスタンス"instance"が pwxcl.cfg インスタンス"instance"と一致しません**

説明： バックアップファイルのヘッダレコードの 2 番目のパラメータにあるソースインスタンスが、PowerExchange ロガーの pwxcl.cfg ファイルの DBID パラメータにあるソースインスタンスと一致しません。PowerExchange ロガーが変更をキャプチャしているものとは異なるインスタンスを指定するバックアップファイルからは、CDCT レコードを復元できません。

システムのアクション PWXUCDCT ユーティリティは異常終了します。  
ン：

ユーザの応答： RESTORE\_CDCT コマンドの BACKUPFILE パラメータには、ヘッダレコードの 2 番目のパラメータにある pwxcl.cfg ファイルと同じソースインスタンスを指定するバックアップファイルの名前を入力します。

PWX-25004 **バックアップファイルの幅"width"が無効です**

説明： PWXUCDCT ユーティリティコマンドで指定したバックアップファイルには、無効なヘッダレコードがあります。ヘッダレコードの 3 番目のパラメータでは FIXED または VARIABLE を指定する必要があります。代わりに、パラメータには指定された幅値が含まれています。

システムのアクション PWXUCDCT ユーティリティは異常終了します。  
ン：

ユーザの応答： PWXUCDCT ユーティリティコマンドの BACKUPFILE パラメータには、ヘッダレコードの 3 番目のパラメータに有効な値 (FIXED または VARIABLE) を含むバックアップファイルの名前を入力します。

PWX-25005	<b>バックアップファイル作成コマンド"<i>command</i>"が無効です</b>
説明:	PWXUCDCT ユーティリティコマンドで指定したバックアップファイルには、無効なヘッダレコードがあります。ヘッダレコードの3番目のパラメータが有効な作成コマンドを指定していません。このパラメータは、CREATE_CDCT_BACKUP または DERIVE_CDCT_BACKUP のいずれかを指定する必要があります。
システムのアクション:	PWXUCDCT ユーティリティは異常終了します。
ユーザの応答:	PWXUCDCT ユーティリティの BACKUPFILE パラメータには、ヘッダレコードの3番目のパラメータに有効なコマンド (CREATE_CDCT_BACKUP または DERIVE_CDCT_BACKUP のいずれか)を含むバックアップファイルの名前を入力します。
PWX-25012	<b>バックアップファイルレコード"<i>number</i>"では、位置"<i>position</i>"名前"<i>name</i>"に数値でないデータ"<i>data</i>"があります。</b>
説明:	PWXUCDCT ユーティリティコマンドで入力したバックアップファイルには、無効なデータレコードがあります。指定されたレコード番号を持つデータレコードでは、指定された位置に数値でないデータがあります。
システムのアクション:	PWXUCDCT ユーティリティは異常終了します。
ユーザの応答:	PWXUCDCT ユーティリティの BACKUPFILE パラメータには、指定された位置に有効なデータを持つデータレコードを含むバックアップファイルの名前を入力します。
PWX-25014	<b>バックアップファイルレコード"<i>number</i>"では、位置"<i>position</i>"名前"<i>name</i>" データ"<i>data</i>"に無効なデータ長"<i>length</i>"があります</b>
説明:	PWXUCDCT ユーティリティコマンドで入力したバックアップファイルには、無効なデータレコードがあります。指定されたレコード番号を持つデータレコードでは、指定された位置に無効なデータ長があります。
システムのアクション:	PWXUCDCT ユーティリティは異常終了します。
ユーザの応答:	PWXUCDCT ユーティリティの BACKUPFILE パラメータには、指定された位置に有効なデータ長を持つデータレコードを含むバックアップファイルの名前を入力します。
PWX-25015	<b>バックアップファイルレコード"<i>number</i>"は、カンマ位置"<i>number</i>"が不足しています</b>
説明:	PWXUCDCT ユーティリティコマンドで入力したバックアップファイルには、無効なデータレコードがあります。指定されたレコード番号を持つデータレコードでは、カンマ位置数が不足しています。
システムのアクション:	PWXUCDCT ユーティリティは異常終了します。



ユーザの応答：	PWXUCDCT ユーティリティの BACKUPFILE パラメータには、十分なカンマ位置数を持つデータレコードを含むバックアップファイルの名前を入力します。
PWX-25016	<b>バックアップファイルレコード"<i>number</i>"には、登録"<i>registration</i>"のシーケンスエラーがあります。前の登録"<i>registration</i>"</b>
説明：	PWXUCDCT ユーティリティコマンドで入力したバックアップファイルには、無効なデータレコードがあります。指定されたレコード番号を持つデータレコードには、指定されたキャプチャ登録に関連するシーケンスエラーがあります。
システムのアクション：	PWXUCDCT ユーティリティは異常終了します。
ユーザの応答：	PWXUCDCT ユーティリティの BACKUPFILE パラメータには、シーケンスエラーのないデータレコードを含むバックアップファイルの名前を入力します。
PWX-25017	<b>バックアップファイルレコード"<i>number</i>"には、登録"<i>registration</i>"トークン"<i>token</i>"のシーケンスエラーがあります。前のトークン"<i>token</i>"</b>
説明：	PWXUCDCT ユーティリティコマンドで入力したバックアップファイルには、無効なデータレコードがあります。指定されたレコード番号を持つデータレコードには、指定されたキャプチャ登録に関連するシーケンスエラーがあります。
システムのアクション：	PWXUCDCT ユーティリティは異常終了します。
ユーザの応答：	PWXUCDCT ユーティリティの BACKUPFILE パラメータには、シーケンスエラーのないデータレコードを含むバックアップファイルの名前を入力します。
PWX-25021	<b>コマンド DELETE_EXPIRED_CDCT は許可されていません。ロッガーは期限切れの CDCT レコードを削除します</b>
説明：	DELETE_EXPIRED_CDCT コマンドが実行できません。PWXUCDCT ユーティリティが期限切れの CDCT レコードを削除するには、PowerExchange ロggerの pwxcl.cfg 構成ファイルで LOGGER_DELETES_EXPIRED_DCT_RECORDS=N を指定する必要があります。そうしないと、PowerExchange ロggerが期限切れの CDCT レコードを削除しようとします。
システムのアクション：	PWXUCDCT ユーティリティは異常終了します。
ユーザの応答：	pwxcl.cfg ファイルで LOGGER_DELETES_EXPIRED_CDCT_RECORDS=Y を指定し、PowerExchange ロggerを停止し、それから DELETE_EXPIRED_CDCT コマンドをもう一度実行します。

PWX-25101      **マスク *mask\_value* のロッガーファイルが *number* 個検出されました**

説明：                      このメッセージは、指定されたマスクに基づいて検出された PowerExchange ロgger ログファイルの数を示します。

システムのアクション：      アプリケーションは処理を続行します。

ユーザの応答：              対応する必要はありません。

PWX-25102      **フレキシブルグループマスクのロッガーファイルが *number* 個検出されました**

説明：                      このメッセージは、PowerExchange Logger グループ定義ファイルのマスクに基づいて検出された PowerExchange ロgger ログファイルの数を示します。

システムのアクション：      アプリケーションは処理を続行します。

ユーザの応答：              対応する必要はありません。

PWX-25111      **ファイル=*file name*。合計 *number*。コミット数 *number*。削除数 *number*。挿入数 *number*。更新数 *number***

説明：                      このメッセージは、レコードカウン트의合計と、指定されたファイルの SQL 操作タイプごとの個別レコードカウンートを示します。

システムのアクション：      アプリケーションは処理を続行します。

ユーザの応答：              対応する必要はありません。

PWX-25112      **Group *Group* ファイル=*file name*。合計 *number*。コミット数 *number*。削除数 *number*。挿入数 *number*。更新数 *number***

説明：                      このメッセージは、レコードカウンートの合計と、指定されたファイルの SQL 操作タイプごとの個別レコードカウンートを示します。

システムのアクション：      アプリケーションは処理を続行します。

ユーザの応答：              対応する必要はありません。

PWX-25113      **登録 CDCT レコード数 *number***

説明：                      このメッセージは、指定されたキャプチャ登録用に派生した CDCT バックアップファイルに書き込まれたレコードの合計数を示します。

システムのアクション：      アプリケーションは処理を続行します。

ユーザの応答：              対応する必要はありません。

PWX-25114      ***number* 個のレコードがバックアップファイル *file\_name* に書き込まれました**

説明：                      このメッセージは、指定されたバックアップファイルに書き込まれたレコードの合計数を示します。

システムのアクション アプリケーションは処理を続行します。  
ン：

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-25115 **エラー *number*がロッガーファイル *file\_name*を開くときに発生しました**

説明： PowerExchange が指定された PowerExchange ロggerログファイルを開いているときにエラーが発生しました。

システムのアクション アプリケーションは異常終了します。  
ン：

ユーザの応答： エラーの詳細については、一緒に表示されるメッセージを参照します。

PWX-25116 **ロッガーファイル *file\_name*を閉じるときにエラー *number*が発生しました**

説明： PowerExchange が指定された PowerExchange ロggerログファイルを閉じているときにエラーが発生しました。

システムのアクション アプリケーションは異常終了します。  
ン：

ユーザの応答： エラーの詳細については、一緒に表示されるメッセージを参照します。

PWX-25127 **レコード *file\_name*をバックアップファイル *file\_name*に書き込むときにエラー *number*が発生しました**

説明： PowerExchange が指定されたバックアップファイルにレコードを書き込んでいるときにエラーが発生しました。

システムのアクション アプリケーションは異常終了します。  
ン：

ユーザの応答： エラーの詳細については、一緒に表示されるメッセージを参照します。

PWX-25133 **バックアップファイル *file\_name*を開くときにエラー *number*が発生しました。**

説明： PowerExchange が CDCT バックアップファイルを開いているときにエラーが発生しました。

システムのアクション アプリケーションは異常終了します。  
ン：

ユーザの応答： エラーの詳細については、一緒に表示されるメッセージを参照します。

PWX-25134 **エラー *number*がレコード *number*をバックアップファイル *file\_name*から読み込むときに発生しました**

説明： PowerExchange が CDCT バックアップファイルから指定されたレコードを読み込んでいるときにエラーが発生しました。

システムのアクション アプリケーションは異常終了します。  
ン：

ユーザの応答：	エラーの詳細については、一緒に表示されるメッセージを参照します。
PWX-25150	REPORT FOR COMMAND <i>command</i>
説明：	このメッセージは、PWXUCDCT ユーティリティが REPORT コマンドに生成するレポートに見出しを提供します。
システムのアクション：	アプリケーションは続行されます。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-25161	<b>検出されたマスクのファイル合計数</b> <i>number</i>
説明：	このメッセージは、定義したマスクに一致するファイルの合計数をレポートします。
システムのアクション：	アプリケーションは続行されます。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-25162	<b>CDCT で参照されていないファイル（孤立）</b> <i>number</i>
説明：	このメッセージは、CDCT ファイルで参照されていない PowerExchange ロgger "孤立" ログファイルの合計数をレポートします。メッセージは PWXUCDCT ユーティリティの REPORT_ORPHAN_FILES コマンドへの応答として発行されます。
システムのアクション：	アプリケーションは続行されます。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-25163	<b>孤立ファイル <i>file_name</i> を削除しました</b>
説明：	このメッセージは、PWXUCDCT ユーティリティの DELETE_ORPHAN_FILES コマンドへの応答として削除された PowerExchange ロgger "孤立" ログファイルの名前をレポートします。
システムのアクション：	アプリケーションは続行されます。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-25183	<b>コールドスタートであるために、チェックポイントが実行されました</b>
説明：	PowerExchange ロgger（Linux、UNIX、Windows 用）がコールドスタートしたときに、チェックポイントが実行されました。
システムのアクション：	アプリケーションは続行されます。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。

PWX-25184      **ロールバック CDCT レコードのためにチェックポイントが実行されました**

説明：              PowerExchange ロgger（Linux、UNIX、Windows 用）が、CDCT レコードがロールバックされたためにチェックポイントを実行しました。

システムのアクション：      アプリケーションは続行されます。

ユーザの応答：      対応する必要はありません。

PWX-25185      **ファイルスイッチコマンドのためにチェックポイントが実行されました。**

説明：              PowerExchange ロgger（Linux、UNIX、Windows 用）が、FILESWITCH コマンドが発行されたためにチェックポイントを実行しました。

システムのアクション：      アプリケーションは続行されます。

ユーザの応答：      対応する必要はありません。

PWX-25186      **以前のロggerファイルがコミット未完了で終了した後、最初のコミットでチェックポイントが実行されました**

説明：              以前のログファイルがコミット未完了のデータで終了した後に発生した最初のコミットを受信したときに、PowerExchange ロgger（Linux、UNIX、Windows 用）がチェックポイントを実行しました。

システムのアクション：      アプリケーションは続行されます。

ユーザの応答：      対応する必要はありません。

PWX-25187      **レコード基準によるファイルスイッチのためにチェックポイントが実行されました**

説明：              PowerExchange ロgger（Linux、UNIX、Windows 用）が、ファイルスイッチ条件のレコード数を満たしたためにファイルスイッチが行われたときに、チェックポイントを実行しました。

システムのアクション：      アプリケーションは続行されます。

ユーザの応答：      対応する必要はありません。

PWX-25188      **時間基準によるファイルスイッチのためにチェックポイントが実行されました**

説明：              PowerExchange ロgger（Linux、UNIX、Windows 用）が、ファイルスイッチ条件（分）を満たしたためにファイルスイッチが行われたときに、チェックポイントを実行しました。

システムのアクション：      アプリケーションは続行されます。

ユーザの応答：      対応する必要はありません。

PWX-25189	<b>シャットダウンコマンドのためにチェックポイントが実行されました</b>
説明:	シャットダウンコマンドが発行されたため、PowerExchange ロgger (Linux、UNIX、Windows 用) がチェックポイントを実行しました。
システムのアクション:	アプリケーションは続行されます。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-25190	<b>コンシューマ API のファイルの終わりに達したためチェックポイントが実行されました</b>
説明:	PowerExchange ロgger (Linux、UNIX、Windows 用) は、CAPI がファイルの終わりまで読み取ったためチェックポイントを実行しました。
システムのアクション:	PowerExchange ロgger の処理は続行されます。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-25191	<b>バッチ実行タイムアウトのためにチェックポイントが実行されました</b>
説明:	PowerExchange ロgger (Linux、UNIX、Windows 用) が、バッチ実行がタイムアウトしたためにチェックポイントを実行しました。
システムのアクション:	PowerExchange ロgger の処理は続行されます。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-25192	<b>登録用の最初の CDCT レコードであるために、チェックポイントが実行されました</b>
説明:	PowerExchange ロgger (Linux、UNIX、Windows 用) が、登録済みテーブルに対する最初の CDCT レコードを受信したためにチェックポイント実行しました。
システムのアクション:	PowerExchange ロgger の処理は続行されます。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-25196	<b>UCDCT: <i>number_of_bytes</i> バイトのメモリを <i>program_object</i> に割り当てることができません。</b>
説明:	PowerExchange の PWXUCDCT ユーティリティが、内部のプログラムオブジェクトにメモリを割り当てることができませんでした。このメッセージは Informatica グローバルカスタマサポートを対象にしています。
システムのアクション:	ユーティリティが処理を終了します。
ユーザの応答:	ユーティリティの処理に使用できるメモリの容量を増やします。その後再びユーティリティの処理を開始します。

PWX-25200	<b>CDCT ファイル "<i>file_name</i>" を作成しました</b>
説明:	PowerExchange ロgger (Linux、UNIX、Windows 用) が、指定された CDCT ファイルを作成しました。
システムのアクション:	アプリケーションは続行されます。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-25202	<b>ファイル "<i>file_name</i>" の削除に失敗しました。エラー="<i>error</i>" EACCESS。</b>
説明:	PowerExchange ロgger (Linux、UNIX、Windows 用) は、EACCESS エラーのため、指定されたファイルを削除できませんでした。UNIX システムでは、EACCESS が権限エラーを示す場合があります。Windows システムでは、EACCESS が読み取り専用ファイルを示す場合があります。
システムのアクション:	アプリケーションは異常終了します。
ユーザの応答:	権限に問題がある場合は、修正します。次に、手動でファイルを削除します。
PWX-25203	<b>ファイル "<i>file_name</i>" の削除に失敗しました。エラー番号="<i>error</i>"</b>
説明:	PowerExchange ロgger (Linux、UNIX、Windows 用) は、エラーが発生したため、指定されたファイルを削除できませんでした。 <i>errno</i> 変数は、エラーの原因を示します。
システムのアクション:	アプリケーションは異常終了します。
ユーザの応答:	手動でファイルを削除します。
PWX-25204	<b>ファイル "<i>file_name</i>" を削除しました。</b>
説明:	PowerExchange ロgger (Linux、UNIX、Windows 用) が、期限切れのログファイルを正常に削除しました。
システムのアクション:	アプリケーションは続行されます。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-25361	<b>無効な長さ "<i>length</i>" ("<i>name</i>")。16 進数="<i>hexadecimal_value</i>"</b>
説明:	偶数桁の 16 進数を指定する必要があります。
システムのアクション:	アプリケーションは異常終了します。
ユーザの応答:	入力フィールドを修正します。

PWX-25362	" <i>name</i> "、位置" <i>position</i> "の 16 進数が無効です。16 進数 = " <i>hexadecimal_value</i> "
説明:	無効な 16 進数を検出しました。有効な 16 進数の範囲は、0～9 または A～F です。
システムのアクション:	アプリケーションは異常終了します。
ユーザの応答:	入力フィールドを修正します。
PWX-25363	<b>暗号化タイプを指定した場合は、暗号化パスワードを指定する必要があります。</b>
説明:	ENCRYPTOPT パラメータは、PowerExchange ロgger のログファイルを暗号化するために使用する暗号化アルゴリズムのタイプを指定するために、PowerExchange ロgger (Linux、UNIX、Windows 用) の構成ファイル <code>pwxccl.cfg</code> で指定されます。ただし、Logger のコールドスタートのための <code>pwxccl.cfg</code> 構成ファイルまたは <code>pwxccl</code> コマンドでは、暗号化パスワードは指定されません。暗号化パスワードは、ログファイルの暗号化を有効にするために必要です。
システムのアクション:	アプリケーションは異常終了します。
ユーザの応答:	PowerExchange ロgger のログファイルを暗号化するには、Logger のコールドスタートのための Logger 構成ファイルまたは <code>pwxccl</code> コマンドに暗号化パスワードを入力します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>構成ファイルには、ENCRYPTPWD パラメータまたは ENCRYPTPWD パラメータを追加します。</li> <li><code>pwxccl</code> コマンドには、<code>encryptpwd</code> パラメータを含めます。</li> </ul> <p><b>注:</b> 構成ファイルに ENCRYPTPWD を指定し、<code>pwxccl</code> コマンドにも <code>encryptpwd</code> を入力すると、エラーが発生します。</p> <p>ログファイルを暗号化する必要がない場合は、Logger の構成ファイルから ENCRYPTOPT パラメータを削除します。</p>
PWX-25400	<b>引数 "<i>argument</i>" により、ファイルが "<i>file_name</i>" にオーバーライドされました。</b>
説明:	デフォルトの PowerExchange DBMOVER コンフィギュレーションファイルが、引数で指定されたファイル名にオーバーライドされました。
システムのアクション:	アプリケーションは続行されます。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。



PWX-25401	<b>引数"argument"を使用したファイルのオーバーライドが失敗しました。 予期した値"file_name"。 実際の値"file_name"。</b>
説明：	デフォルトの PowerExchange DBMOVER ファイルのオーバーライドが成功しませんでした。 PowerExchange により使用されている実際のファイル名が、プログラムの引数で指定された名前と一致しません。 このエラーは、環境変数の設定に問題があることを示す場合があります。
システムのアクション：	アプリケーションは異常終了します。
ユーザの応答：	環境変数が正しく設定されていることを確認します。 サポートが必要な場合は、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-25402	<b>環境変数"name"が設定されていません。</b>
説明：	指定の環境変数が設定されていません。
ユーザの応答：	このメッセージは、エラーとともにログに記録される場合があります。 詳細については、一緒に表示されるメッセージを参照します。
PWX-25403	<b>環境変数"name"が"value"に設定されています</b>
説明：	指定の環境変数が指定された値に設定されています。
ユーザの応答：	このメッセージは、エラーとともにログに記録される場合があります。 詳細については、一緒に表示されるメッセージを参照します。
PWX-25404	<b>コンソールプログラムの処理。 command_string</b>
説明：	コンソールプログラムは、指定されたコマンド文字列を使用して実行します。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-25405	<b>引数"argument"がコマンド"command"が必要です</b>
説明：	メッセージに示されたコマンドに必要な引数が指定されませんでした。
システムのアクション：	処理は停止します。
ユーザの応答：	コマンドにこの必須引数を指定します。 コマンドをもう一度実行します。
PWX-25406	<b>引数"argument"は、コマンド"command"では許可されていません</b>
説明：	指定された引数は、指定されたコマンドでは許可されていません。
システムのアクション：	処理は停止します。
ユーザの応答：	コマンドからこの引数を削除し、コマンドをもう一度実行してください。

PWX-25600      **予期しない戻りコード** *return\_code* (ルーチン *name* から)。

説明：            指定されたルーチンが指定されたエラーコードを返しました。

システムのアクション：    プロセスは終了します。

ユーザの応答：        詳細については、一緒に表示されるエラーメッセージを参照します。

PWX-25601      **プログラム** *program*。 **行** *number*。 **無効なイベントテーブル。 アドレス** *address*

説明：            イベントテーブルが無効です。 イベントテーブルは、同時に実行されている他のタスクにより共有されており、失敗する可能性があります。

システムのアクション：    プロセスは終了します。

ユーザの応答：        詳細については、一緒に表示されるエラーメッセージを参照します。

PWX-25602      **プログラム** *program*。 **行** *number*。 **無効なタスク** *number*。 **最大タスク** *number*

説明：            タスク引数が無効です。

システムのアクション：    プロセスは終了します。

ユーザの応答：        DTLCPEV ライブラリが他のライブラリと同じレベルで構築されていることを確認します。

PWX-25603      **プログラム** *program*。 **行** *number*。 **無効なイベント** *number*。 **最大イベント** *number*

説明：            タスク引数が無効です。

システムのアクション：    プロセスは終了します。

ユーザの応答：        DTLCPEV ライブラリが他のライブラリと同じレベルで構築されていることを確認します。

PWX-25604      **DTLCPEV は** *number* **個のタスクを使用します。** *number* **個のイベント。** *Program* **は、** *number* **個のタスクを予期しています。** *number* **個のイベント。**

説明：            DTLCPEV ライブラリと他の指定されたプログラムの間で、イベントテーブルのサイズの不一致が存在します。

システムのアクション：    プロセスは終了します。

ユーザの応答：        DTLCPEV ライブラリが他のライブラリと同じレベルで構築されていることを確認します。

PWX-25800      **ロックファイル** *file\_name* **が見つかりませんでした。**

説明：            指定されたロックファイルが存在しません。

システムのアクション：    プロセスが続行し、必要なファイルの作成を試みます。

ユーザの応答： 詳細について、このメッセージに付随するエラーメッセージを見直します。

PWX-25801      **プロセス *process\_name* pid *process\_id* は、ロックファイル *file\_name* を作成しました**

説明：                このプロセスにより、指定されたロックファイルが作成されました。

システムのアクション： プロセスは継続されます。

ユーザの応答：      対応する必要はありません。

PWX-25802      **プロセス *process\_name* pid *process\_id* は、ファイル *file\_name* をロックしました**

説明：                このプロセスにより、指定されたロックファイルがロックされました。

システムのアクション： プロセスは継続されます。

ユーザの応答：      対応する必要はありません。

PWX-25803      **プロセス *process\_name* pid *process\_id* は、ファイル *file\_name* のロックを解除しました**

説明：                このプロセスにより、指定されたロックファイルのロックが解除されました。

システムのアクション： プロセスは継続されます。

ユーザの応答：      対応する必要はありません。

PWX-25804      **PowerExchange ロggerファイルをロックしようとしたときにエラーが発生しました**

説明：                このプロセスで PowerExchange ロggerファイルをロックするときにエラーが発生しました。

システムのアクション： プロセスは異常終了します。

ユーザの応答：      エラーの原因を特定するには、このメッセージに付随するエラーメッセージを見直します。次に、エラーを修正します。

PWX-25811      **ファイル *file\_name* は、プロセス *process\_name*、pid *process\_id* (ホスト *host\_name*、日付 *date*、時間 *time*) によりロックされています。**

説明：                ロックファイルは、指定された日時に別のプロセスによりロックされました。このメッセージは、ロックを保持するプロセスのプロセス名、プロセス ID (PID)、およびホスト名を示します。

システムのアクション： ファイルのロックを試みるプロセスはスリープし、最大待機間隔が経過するまでロックを再試行します。

ユーザの応答：      ロックを保持する別のプロセスの処理を特定します。

PWX-25812	<b>ファイル <i>file_name</i> が、<i>pidprocess_id</i>、開始オフセット長 <i>bytes</i> によりロックされます。</b>
説明：	ロックファイルは、別のプロセスによりロックされます。
システムのアクション：	ロックスリープの取得を試みており、最大待機間隔が経過するまでロックを再試行するプロセス。
ユーザの応答：	ロックを保持するプロセスの処理を特定します。
PWX-25813	<b>ファイル <i>file_name</i> をロックしたプロセスに関する情報は利用できません。</b>
説明：	別のプロセスが、指定されたロックファイルに対してロックを保持しています。PowerExchange は、そのプロセスを特定できません。
システムのアクション：	ロックスリープの取得を試みており、最大待機間隔が経過するまでロックを再試行するプロセス。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-25814	<b>ファイル <i>file_name</i> のロックを、<i>seconds</i> 秒が経過するまで試みます。</b>
説明：	このプロセスでは、指定されたロックファイルのロックを試みましたが、別のプロセスがファイルに対するロックを保持しています。このメッセージは、終了までにプロセスがファイルのロックの取得を試みる最大期間（秒）を示します。
システムのアクション：	ファイルのロックを試みるプロセスはスリープし、最大待機間隔が経過するまでロックを再試行します。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-25815	<b>ファイル <i>file_name</i> が別のプロセスによりロックされており、これ以上待機できません。</b>
説明：	このプロセスでは、指定されたロックファイルのロックを試みましたが、別のプロセスがファイルに対するロックを保持しています。プロセスがロックを再試行できる最大時間が経過しました。
システムのアクション：	ロックファイルのロックを試みたプロセスが異常終了します。
ユーザの応答：	ロックを保持するプロセスの状態を確認します。プロセスが完全にシャットダウンしていない場合があります。また、両プロセスの構成ファイルが同じディレクトリを指定していないことを確認します。
PWX-25821	<b>エラー <i>number (description)</i> がファイル <i>file_name</i> の作成 (API <i>API_name</i>、パラメータ <i>parameter_name</i>) で発生しました</b>
説明：	プロセスが指定された API ルーチンによりファイルを作成したときにエラーが発生しました。このメッセージは、エラー番号とその説明を示します。
システムのアクション：	プロセスは異常終了します。
ユーザの応答：	このメッセージに示されているエラーを修正します。

PWX-25822      **エラー *number (description)* がファイル *name*を開く (API *API\_name*、パラメータ *parameter\_name*) ときに発生しました**

説明：              プロセスが指定された API ルーチンによりファイルを開こうとしたときにエラーが発生しました。このメッセージは、エラー番号とその説明を示します。

システムのアクション：      プロセスは異常終了します。

ユーザの応答：          このメッセージに示されているエラーを修正します。

PWX-25823      **エラー *number (description)* がファイル *file\_name*のロック (API *API\_name*、パラメータ *parameter\_name*) で発生しました**

説明：              プロセスが指定された API ルーチンによりファイルをロックしようとしたときにエラーが発生しました。このメッセージは、エラー番号とその説明を示します。

システムのアクション：      プロセスは異常終了します。

ユーザの応答：          このメッセージに示されているエラーを修正します。

PWX-25824      **エラー *number (description)* がファイル *file\_name*の書き込み (API *API\_name*) で発生しました**

説明：              プロセスが指定された API ルーチンによりロックファイルに書き込みようとしたときにエラーが発生しました。このメッセージでは、エラーコードとその説明が示されます。

システムのアクション：      プロセスは異常終了します。

ユーザの応答：          このメッセージに示されているエラーを修正します。

PWX-25825      **エラー *number (description)* がファイル *file\_name*のロック解除 (API *API\_name*) で発生しました**

説明：              プロセスが指定された API ルーチンによりロックファイルのロックを解除しようとしたときにエラーが発生しました。このメッセージでは、エラーコードとその説明が示されます。

システムのアクション：      プロセスは異常終了します。

ユーザの応答：          このメッセージに示されているエラーを修正します。

PWX-25826      **エラー *number (description)* がファイル *file\_name*を閉じる (API *API\_name*) ときに発生しました**

説明：              プロセスが指定された API ルーチンによりロックファイルを閉じようとしたときにエラーが発生しました。このメッセージは、エラー番号とその説明を示します。

システムのアクション：      プロセスは異常終了します。

ユーザの応答：          このメッセージに示されているエラーを修正します。

PWX-25827	<b>エラー <i>number (description)</i> がファイル <i>file_name</i> の読み込み (API <i>API_name</i>) で発生しました</b>
説明:	プロセスが指定された API ルーチンによりロックファイルを読み込もうとしたときにエラーが発生しました。このメッセージは、エラー番号とその説明を示します。
システムのアクション:	ファイルに対するロックを保持するプロセスに関する情報が利用できないために、システムはプロセスを認識するためのメッセージ PWX-25811 をログに記録できません。代わりに、システムはメッセージ PWX-25812 または PWX-25813 をログに記録します。
ユーザの応答:	このメッセージに示されているエラーを修正します。
PWX-25828	<b>エラー <i>number (description)</i> がファイル <i>file_name</i> の処理 (API <i>API_name</i>) で発生しました</b>
説明:	プロセスが指定された API ルーチンによりロックファイルを処理しようとしたときにエラーが発生しました。このメッセージでは、エラーコードとその説明が示されます。
システムのアクション:	プロセスは異常終了します。
ユーザの応答:	このメッセージに示されているエラーを修正します。
PWX-25829	<b><i>actual_number</i> のみ (<i>expected_number</i> バイトのうち、ファイル <i>file_name</i> から処理、API <i>API_name</i>)</b>
説明:	プロセスが指定された API ルーチンによりロックファイルを処理しようとしたときにエラーが発生しました。このメッセージは、エラーの発生時に処理済みであったバイト数を示します。
システムのアクション:	プロセスは異常終了します。
ユーザの応答:	このメッセージに示されているエラーを修正します。

## PWX-26000～PWX-26999

PWX-26001	<b>コマンドハンドラがイベント <i>number "description"</i> を無視しました</b>
説明:	PowerExchange ロgger コマンドハンドラタスクが、予期しないプログラミングイベントを受信し、それを無視しました。
システムのアクション:	プロセスは継続されます。
ユーザの応答:	PowerExchange ロgger (Linux、UNIX、Windows 用システム) で別のタスクが失敗したかどうかを特定します。

PWX-26002	<b>コマンドハンドラは、コマンドを受け入れる前に writer が初期化するのを待機しています。</b>
説明：	PowerExchange ロggerが、stdin のユーザープロンプトで開始されており、Writer タスクが初期化するまで待機します。
システムのアクション：	コマンドハンドラスレッドは、Writer スレッドが初期化するまで待機しており、ユーザープロンプトを発行できる時点を過ぎています。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-26003	<b>コマンドハンドラが、コマンドを受け付けています。</b>
説明：	コマンドハンドラスレッドは、コマンドを受け付け、応答する準備ができています。
システムのアクション：	システムは続行されます。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-26004	<b>バックグラウンドで継続的に実行されている CCL ロggerを停止する唯一の手段は、kill コマンドです。</b>
説明：	PowerExchange ロgger（Linux、UNIX、Windows 用）は、バックグラウンドタスクとして連続モード（COLL_END_LOG=0）で実行しています。stdin によるコンソール入力を受け付けることができません。また、CONDENSENAME パラメータが pwxccl.cfg ファイルで指定されていないので、PowerExchange ロggerが pwxcmd プログラムによるコマンドを受け付けできません。PowerExchange ロggerを停止する唯一の方法は、kill コマンドを使用することです。
システムのアクション：	システムは継続的に実行しており、kill コマンドによってのみ停止できます。
ユーザの応答：	pwxcmd プログラムにより PowerExchange ロggerにコマンドを発行できるように、pwxccl.cfg ファイルに CONDENSENAME パラメータを入力します。
PWX-26010	<b>コマンド"command"の情報</b>
説明：	このメッセージは、PowerExchange ロggerの指定されたコマンドからの情報を提供する一連のメッセージに先行して表示します。
システムのアクション：	プロセスは継続されます。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-26011	<b>コマンドハンドラは、コマンド"command"を受け付けました。</b>
説明：	PowerExchange ロgger（Linux、UNIX、Windows 用）のコマンドハンドラタスクが、指定されたコマンドを受け付け、その処理を開始しようとしています。
システムのアクション：	プロセスは継続されます。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。

PWX-26012	<b>"<i>command</i>"は、有効なコマンドではありません</b>
説明：	PowerExchange ロgger (Linux、UNIX、Windows 用) のコマンドハンドラタスクが、無効なコマンドを受け付けました。
システムのアクション：	コマンドハンドラは、無効なコマンドを無視し、続行します。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-26013	<b>有効なコマンドは、<i>commands</i>です。</b>
説明：	このメッセージは、PowerExchange ロgger コマンドハンドラタスクが無効なコマンドを受け付けた後に表示します。有効なコマンドのリストを表示します。
システムのアクション：	コマンドハンドラは続行されます。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-26014	<b>引数"<i>argument</i>" (コマンド"<i>command</i>")が無効です</b>
説明：	PowerExchange ロgger (Linux、UNIX、Windows 用) のコマンドハンドラタスクが、指定されたコマンドに対して認識できない引数を受け付けました。
システムのアクション：	コマンドハンドラは、コマンドを無視し、続行します。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-26015	<b>コマンド"<i>command</i>"では、引数が必要です。</b>
説明：	PowerExchange ロgger (Linux、UNIX、Windows 用) のコマンドハンドラタスクが、引数のない指定されたコマンドを受け付けました。引数が必要です。
システムのアクション：	コマンドハンドラは、コマンドを無視し、続行します。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-26016	<b>コマンド"<i>command</i>"は、引数 <i>arguments</i> を取ります。</b>
説明：	PowerExchange ロgger (Linux、UNIX、Windows 用) のコマンドハンドラタスクは、指定されたコマンドに対して無効な引数を受け付けた後、コマンドに対して有効な引数のリストを表示します。
システムのアクション：	コマンドハンドラは続行されます。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-26021	<b>コントローラがイベント <i>event_list</i> を待機しています</b>
説明：	DISPLAY EVENTS コマンドの結果、このメッセージは PowerExchange ロgger コントローラタスクが待機しているイベントを表示します。
システムのアクション：	コマンドハンドラは続行されます。



ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-26022 **コマンドハンドラがイベント *event\_list* を待機しています。**

説明： DISPLAY EVENTS コマンドの結果、このメッセージは PowerExchange ロgger コマンドハンドラタスクが待機しているイベントを表示します。

システムのアクション： コマンドハンドラは続行されます。

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-26023 **Writer がイベント *event\_list* を待機しています。**

説明： DISPLAY EVENTS コマンドの結果、このメッセージは PowerExchange ロgger Writer タスクが待機しているイベントを表示します。

システムのアクション： コマンドハンドラは続行されます。

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-26024 **Writer はスリープしており、イベントまたはタイムアウトを待機しています。**

説明： PowerExchange ロgger (Linux、UNIX、Windows 用) の Writer タスクがスリープしており、イベントのタイムアウトが発生するまで待機しています。このメッセージは、DISPLAY EVENTS コマンドの結果として発行されます。

システムのアクション： コマンドハンドラは続行されます。

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-26025 **Writer は、ソースデータの処理、読み込みを行っています。**

説明： PowerExchange ロgger (Linux、UNIX、Windows 用) Writer タスクが、ソースデータを読み込んでいます。このメッセージは、DISPLAY EVENTS コマンドの結果として発行されます。

システムのアクション： コマンドハンドラは続行されます。

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-26031 **コントローラメモリ。アプリケーション *bytes*。合計 *bytes*。最大 *bytes***

説明： DISPLAY MEMORY コマンドの結果、このメッセージには PowerExchange ロgger コントローラタスクのメモリ使用量が表示されます。

システムのアクション： コマンドハンドラは続行されます。

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-26032	<b>コマンドハンドラメモリ。アプリケーション <i>bytes</i>。合計 <i>bytes</i>。最大 <i>bytes</i></b>
説明：	DISPLAY MEMORY コマンドの結果、このメッセージには PowerExchange ロgger コマンドハンドラタスクのメモリ使用量が表示されます。
システムのアクション：	コマンドハンドラは続行されます。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-26033	<b>Writer メモリ。アプリケーション <i>bytes</i>。合計 <i>bytes</i>。最大 <i>bytes</i></b>
説明：	DISPLAY MEMORY コマンドの結果、このメッセージには PowerExchange ロgger Writer タスクのメモリ使用量が表示されます。
システムのアクション：	コマンドハンドラは続行されます。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-26034	<b>合計メモリ。アプリケーション <i>bytes</i>。合計 <i>bytes</i>。最大 <i>bytes</i></b>
説明：	DISPLAY MEMORY コマンドの結果、このメッセージには PowerExchange ロgger コントローラ、コマンドハンドラ、および Writer のタスクのメモリ使用量が表示されます。
システムのアクション：	コマンドハンドラは続行されます。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-26051	<b>ソースデータの読み取りにかかった CPU uSecs <i>number</i></b>
説明：	PowerExchange ロgger (Linux、UNIX、Windows 用) がソースデータを読み取るために費やした CPU 時間。
システムのアクション：	コマンドハンドラは続行されます。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-26052	<b>ファイルへのデータの書き込みにかかった CPU uSecs <i>number</i></b>
説明：	PowerExchange ロgger (Linux、UNIX、Windows 用) が、指定された数のログファイルにデータを書き込むために費やした CPU 時間 (マイクロ秒)。
システムのアクション：	コマンドハンドラは続行されます。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。

PWX-26053	<b>ファイルスイッチ中の CPU uSecs <i>number</i></b>
説明:	ファイルを閉じる処理、完了したログファイルの CDCT レコードの書き込み、有効期限が切れたかまたは現在開いているファイルに対応する CDCT レコードの削除、およびチェックポイントファイルへの情報の書き込みにかかる時間を含めた、PowerExchange ロgger ログファイルのスイッチに費やされた合計 CPU 時間 (マイクロ秒)。
システムのアクション:	コマンドハンドラは続行されます。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-26054	<b>他の処理にかかった CPU uSecs <i>number</i></b>
説明:	PowerExchange ロgger (Linux、UNIX、Windows 用) が、ソースデータの読み取り、ログファイルへのデータの書き込み、およびログファイルのスイッチ以外のアクティビティに費やした CPU 時間 (マイクロ秒)。この CPU 時間値には、最初の保持期限配列への入力などの初期化処理に費やされた時間、およびコントローラとコマンドハンドラのタスクに費やされた時間が含まれます。
システムのアクション:	コマンドハンドラは続行されます。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-26055	<b>CPU uSecs 合計 <i>number</i></b>
説明:	PowerExchange ロgger (Linux、UNIX、Windows 用) のプロセスが費やした合計 CPU 時間。
システムのアクション:	コマンドハンドラは続行されます。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-26060	<b>CCL ロgger によって読み込まれたソースデータがまだありません</b>
説明:	PowerExchange ロgger (Linux、UNIX、Windows 用) が、まだソースデータレコードを読み取っていません。
システムのアクション:	コマンドハンドラは続行されます。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-26061	<b>レコードを削除します。サイクル <i>number</i>。ファイル <i>number</i>。合計 <i>number</i></b>
説明:	このメッセージは、PowerExchange ロgger (Linux、UNIX、Windows 用) の Writer タスクにより指定された処理サイクル中に処理された DELETE レコードの合計数をレポートします。
システムのアクション:	コマンドハンドラは続行されます。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。

PWX-26062	<b>挿入レコード。サイクル <i>number</i>。ファイル <i>number</i>。合計 <i>number</i></b>
説明：	このメッセージは、PowerExchange ロgger（Linux、UNIX、Windows 用）の Writer タスクにより指定された処理サイクル中に処理された INSERT レコードの合計数をレポートします。
システムのアクション：	コマンドハンドラは続行されます。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-26063	<b>更新レコード。サイクル <i>number</i>。ファイル <i>number</i>。合計 <i>number</i></b>
説明：	このメッセージは、PowerExchange ロgger（Linux、UNIX、Windows 用）の Writer タスクにより指定された処理サイクル中に処理された UPDATE レコードの合計数をレポートします。
システムのアクション：	コマンドハンドラは続行されます。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-26064	<b>コミットレコード。サイクル <i>number</i>。ファイル <i>number</i>。合計 <i>number</i></b>
説明：	このメッセージは、PowerExchange ロgger（Linux、UNIX、Windows 用）の Writer タスクにより指定された処理サイクル中に処理された COMMIT レコードの合計数をレポートします。
システムのアクション：	コマンドハンドラは続行されます。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-26065	<b>総レコード。サイクル <i>number</i>。ファイル <i>number</i>。合計 <i>number</i></b>
説明：	このメッセージは、PowerExchange ロgger（Linux、UNIX、Windows 用）の Writer タスクにより指定された処理サイクル中に処理されたレコードの合計数をレポートします。
システムのアクション：	コマンドハンドラは続行されます。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-26066	<b>レコードを削除します。ファイル <i>number</i>。合計 <i>number</i></b>
説明：	このメッセージは、PowerExchange ロgger（Linux、UNIX、Windows 用）の Writer タスクにより処理された DELETE レコードの数をレポートします。
システムのアクション：	コマンドハンドラは続行されます。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。

PWX-26067	<b>挿入レコード。ファイル <i>number</i>。合計 <i>number</i></b>
説明：	このメッセージは、PowerExchange ロgger（Linux、UNIX、Windows 用）の Writer タスクにより処理された INSERT レコードの数をレポートします。
システムのアクション：	コマンドハンドラは続行されます。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-26068	<b>更新レコード。ファイル <i>number</i>。合計 <i>number</i></b>
説明：	このメッセージは、PowerExchange ロgger（Linux、UNIX、Windows 用）の Writer タスクにより処理された UPDATE レコードの数をレポートします。
システムのアクション：	コマンドハンドラは続行されます。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-26069	<b>コミットレコード。ファイル <i>number</i>。合計 <i>number</i></b>
説明：	このメッセージは、PowerExchange ロgger（Linux、UNIX、Windows 用）の Writer タスクにより処理された COMMIT レコードの数をレポートします。
システムのアクション：	コマンドハンドラは続行されます。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-26070	<b>総レコード。ファイル <i>number</i>。合計 <i>number</i></b>
説明：	このメッセージは、PowerExchange ロgger（Linux、UNIX、Windows 用）の Writer タスクにより処理されたレコードの合計数をレポートします。
システムのアクション：	コマンドハンドラは続行されます。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-26071	<b>削除レコード数 <i>number</i></b>
説明：	このメッセージは、PowerExchange ロgger（Linux、UNIX、Windows 用）の Writer タスクにより処理された DELETE レコードの数をレポートします。
システムのアクション：	コマンドハンドラは続行されます。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-26072	<b>挿入レコード数 <i>number</i></b>
説明：	このメッセージは、PowerExchange ロgger（Linux、UNIX、Windows 用）の Writer タスクにより処理された INSERT レコードの数をレポートします。

システムのアクション コマンドハンドラは続行されます。  
ン：

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-26073 **更新レコード数** *number*

説明： このメッセージは、PowerExchange ロgger（Linux、UNIX、Windows 用）の Writer タスクにより処理された UPDATE レコードの数をレポートします。

システムのアクション コマンドハンドラは続行されます。  
ン：

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-26074 **コミットレコード数** *number*

説明： このメッセージは、PowerExchange ロgger（Linux、UNIX、Windows 用）の Writer タスクにより処理された COMMIT レコードの数をレポートします。

システムのアクション コマンドハンドラは続行されます。  
ン：

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-26075 **合計レコード数** *number*

説明： このメッセージは、PowerExchange ロgger（Linux、UNIX、Windows 用）の Writer タスクにより処理されたレコードの合計数をレポートします。

システムのアクション コマンドハンドラは続行されます。  
ン：

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-26081 **Writer はまだ起動していません**

説明： PowerExchange ロgger（Linux、UNIX、Windows 用）の Writer タスクが、まだ起動していません。

システムのアクション コマンドハンドラは続行されます。  
ン：

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-26082 **Writer が初期化しています。時間** *time*

説明： PowerExchange ロgger（Linux、UNIX、Windows 用）の Writer タスクが初期化しています。

システムのアクション コマンドハンドラは続行されます。  
ン：

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-26083 **Writer がコンシューマ API を初期化しています。時間** *time*

説明： PowerExchange ロgger Linux、UNIX、Windows 用）の Writer タスクがコンシューマ API（CAPI）を初期化しています。

システムのアクション コマンドハンドラは続行されます。  
ン：

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-26084 Writer **が CDCT 保持期限配列を初期化しています。レコード数 *number*。ファイル数 *number*。開始時刻 "*time*"。経過時間 (分) *minutes***

説明： PowerExchange ロgger (Linux、UNIX、Windows 用) Writer タスクが、CDCT 保持期限配列を初期化しています。この処理では、CDCT ファイル内のすべてのレコードを読み取る必要があります。

システムのアクション コマンドハンドラは続行されます。  
ン：

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-26085 Writer **が処理を開始しています。時間 "*time*"**

説明： PowerExchange ロgger (Linux、UNIX、Windows 用) の Writer タスクが、変更レコードの処理を開始しています。

システムのアクション コマンドハンドラは続行されます。  
ン：

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-26086 Writer **がスリープしています。時間 "*time*"**

説明： PowerExchange ロgger (Linux、UNIX、Windows 用) の Writer タスクが一時的に停止されます。

システムのアクション コマンドハンドラは続行されます。  
ン：

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-26087 Writer **がソースデータを読み取っているか、または待機しています。時間 "*time*"**

説明： PowerExchange ロgger (Linux、UNIX、Windows 用) の Writer タスクが、ソースデータを読み込んでいるか、またはそれを待機しています。

システムのアクション コマンドハンドラは続行されます。  
ン：

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-26088 Writer **が、ファイルにソースデータを書き込んでいます。時間 "*time*"**

説明： PowerExchange ロgger (Linux、UNIX、Windows 用) Writer タスクが、ソースデータをログファイルに書き込んでいます。

システムのアクション コマンドハンドラは続行されます。  
ン：

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-26089	Writer <b>がチェックポイントを開始しています。時間"<i>time</i>"</b>
説明:	PowerExchange ロgger (Linux、UNIX、Windows 用) の Writer タスクが、チェックポイントの取得を開始しています。
システムのアクション:	コマンドハンドラは続行されます。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-26090	Writer <b>が、ファイルスイッチ中に新しい CDCT レコードを書き込んでいます。時間"<i>time</i>"</b>
説明:	PowerExchange ロgger (Linux、UNIX、Windows 用) の Writer タスクが、ログファイルスイッチ中に CDCT ファイルにレコードを書き込んでいます。
システムのアクション:	コマンドハンドラは続行されます。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-26091	Writer <b>が <i>number</i> を削除しました (期限切れの CDCT レコード数 <i>number</i> から)。時間"<i>time</i>"</b>
説明:	このメッセージは、ファイルスイッチ中に期限切れの CDCT レコードを削除する場合に、PowerExchange ロgger (Linux、UNIX、Windows 用) の Writer タスクの進行状況を示します。このメッセージは、これまで削除された期限切れレコードの数、および期限切れレコードの合計数を示します。
システムのアクション:	コマンドハンドラは続行されます。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-26092	Writer <b>がチェックポイントファイルに書き込んでいます。時間"<i>time</i>"</b>
説明:	PowerExchange ロgger (Linux、UNIX、Windows 用) の Writer タスクがチェックポイントファイルに書き込んでいます。
システムのアクション:	コマンドハンドラは続行されます。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-26097	Writer <b>はシャットダウンしています。時間"<i>time</i>"</b>
説明:	PowerExchange ロgger (Linux、UNIX、Windows 用) の Writer タスクがシャットダウンしています。
システムのアクション:	PowerExchange ロgger プロセスはまもなく停止します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-26098	Writer <b>が終了しました。時間"<i>time</i>"</b>
説明:	PowerExchange ロgger (Linux、UNIX、Windows 用) の Writer タスクがシャットダウンしました。



ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-26099 **writer のステータス *number* を認識できません。 時間 "*time*"**

説明： PowerExchange ロgger（Linux、UNIX、Windows 用）のコマンドハンドラが、Writer タスクのステータス番号を認識できません。

システムのアクション： コマンドハンドラは続行されます。

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-26101 **現在のファイルが時間 "*time*" に開かれました。 レコード数 *number***

説明： このメッセージは、現在のログファイルが開いた時間と、そのレコード数 *j* をレポートします。

システムのアクション： コマンドハンドラは続行されます。

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-26102 **次のファイルフラッシュの時間 "*time*"**

説明： このメッセージは、PowerExchange ロgger（Linux、UNIX、Windows 用）が、ディスクのログファイルに変更データをフラッシュする時間をレポートします。

システムのアクション： コマンドハンドラは続行されます。

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-26103 **次のファイルスイッチの時間 "*time*"**

説明： このメッセージは、PowerExchange ロgger（Linux、UNIX、Windows 用）が、次のファイルスイッチを実行する時間をレポートします。

システムのアクション： コマンドハンドラは続行されます。

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-26111 **CDCT 保持配列には、*number* 個のレコードが含まれます。最初の期限 "*time*"**

説明： このメッセージは、PowerExchange ロgger（Linux、UNIX、Windows 用）の保持期限配列に関する情報が、レコード数および最初の期限時間を含めてレポートします。

システムのアクション： コマンドハンドラは続行されます。

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-26201 **タスク "*name*" に対するトレースをオフに設定する**

説明： トレースは、TRACEOFF コマンドの応答として指定のタスクに対してオフになります。

システムのアクション: コマンドハンドラは続行されます。

ユーザの応答: 対応する必要はありません。

PWX-26202      **タスク" *name*"に対して設定されたトレース**

説明:            トレースは、TRACEON コマンドの応答として指定されたタスクに対して有効になります。

システムのアクション: コマンドハンドラは続行されます。

ユーザの応答: 対応する必要はありません。

PWX-26203      **タスク" *name*"のトレース。フィルタ" *name*". レベルが *number* から *number* に変更されました**

説明:            指定されたタスクに対してトレースが有効になった後、トレースレベルが変更されました。

システムのアクション: コマンドハンドラは続行されます。

ユーザの応答: 対応する必要はありません。

PWX-26500      **トレースタスクは、その親タスクが予期せず終了したため、終了します。**

説明:            トレースタスクを生成した親タスクが予期せず終了しました。その結果、トレースタスクは終了します。

システムのアクション: トレースタスクは共有ストレージをクリーンアップしてから終了します。

ユーザの応答: 親タスクが終了した原因を特定します。親タスクは PowerExchange Listener タスクまたは PowerExchange ロガータスクなどのタスクである可能性があります。特定した後、問題を修正し、親タスクを再度起動します。

PWX-26501      **トレースタスクは、以前のエラーのため、終了します。**

説明:            エラーが発生したため、トレースタスクは終了します。

システムのアクション: トレースタスクは終了します。メッセージ 26500 がこのメッセージの直前にない場合は、トレースタスクを生成した親タスクは続行し、PowerExchange は代替ログファイルではなく detail.log ファイルにメッセージを書き込みます。

ユーザの応答: 代替ログファイルまたは detail.log ファイルのメッセージを確認し、エラーの原因を特定します。次に、エラーを修正します。トレースエラーを生成したタスクが再起動されると、代替ログが再開します。

PWX-26502      **トレースサブタスクが *date\_time* に終了しました**

説明:            トレースタスクは、その親タスクが終了したため、指定された日時に終了しました。

ユーザの応答: 対応する必要はありません。

PWX-26503	<b>代替ログファイルが <i>date_time</i> に開きました。</b>
説明:	トレースタスクが指定された日時に代替ログファイルを開きました。
システムのアクション:	処理は継続します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-26504	<b>代替ログファイルが <i>date_time</i> に閉じました。</b>
説明:	トレースタスクは、ファイルが満杯になったため、またはトレースタスクが終了したため、指定された日時に代替ログファイルを閉じました。
システムのアクション:	代替ログファイルが満杯の場合は、トレースタスクが別の代替ログファイルを開き、続行します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。

## PWX-27000 a PWX-27999

PWX-27000	<b>理由 <i>hexadecimal_reason_code</i>. 説明</b>
説明:	このメッセージには指定された理由コードについての詳細が示されます。
システムのアクション:	処理は異常終了します。
ユーザの応答:	詳細については、関連するメッセージを参照してください。
PWX-27001	<b>理由 <i>hexadecimal_reason_code</i>. ロggerが受け取ったパラメータが多すぎます</b>
説明:	PowerExchange ロggerが受け取ったパラメータが多すぎます。
システムのアクション:	処理は異常終了します。
ユーザの応答:	詳細については、関連するメッセージを参照してください。
PWX-27002	<b>理由 <i>hexadecimal_reason_code</i>. 登録の種類がエージェントと競合します</b>
説明:	登録の種類と PowerExchange エージェントの競合が発生しました。
システムのアクション:	処理は異常終了します。
ユーザの応答:	詳細については、関連するメッセージを参照してください。
PWX-27003	<b>理由 <i>hexadecimal_reason_code</i>. 関数が受け取った初期化パラメータが不明または無効です</b>
説明:	関数が受け取った初期化パラメータが不明または無効です。

システムのアクション: 処理は異常終了します。

ン:

ユーザの応答: 詳細については、関連するメッセージを参照してください。

PWX-27004 **理由** *hexadecimal\_reason\_code*: 関数のパラメータが不足しています

説明: 関数に十分なパラメータが指定されていません。

システムのアクション: 処理は異常終了します。

ン:

ユーザの応答: 詳細については、関連するメッセージを参照してください。

PWX-27007 **理由** *hexadecimal\_reason\_code*: UOW 名がロッガー接続名と異なります

説明: UOW 名が、PowerExchange ロッガー接続名と異なります。

システムのアクション: 処理は異常終了します。

ン:

ユーザの応答: 詳細については、関連するメッセージを参照してください。

PWX-27008 **理由** *hexadecimal\_reason\_code*: 最初のデータパラメータが無効です

説明: 最初のデータパラメータが無効です。

システムのアクション: 処理は異常終了します。

ン:

ユーザの応答: 詳細については、関連するメッセージを参照してください。

PWX-27009 **理由** *hexadecimal\_reason\_code*: 2 番目のデータパラメータが無効です

説明: 2 番目のデータパラメータが無効です。

システムのアクション: 処理は異常終了します。

ン:

ユーザの応答: 詳細については、関連するメッセージを参照してください。

PWX-27010 **理由** *hexadecimal\_reason\_code*: 初期化オプションの後の関数呼び出しが無効です

説明: 初期化オプションの後の関数呼び出しが有効ではありません。

システムのアクション: 処理は異常終了します。

ン:

ユーザの応答: 詳細については、関連するメッセージを参照してください。

PWX-27011 **理由** *hexadecimal\_reason\_code*: 無効な初期化パラメータです

説明: 初期化パラメータが有効ではありません。

システムのアクション: 処理は異常終了します。

ン:

ユーザの応答： 詳細については、関連するメッセージを参照してください。

PWX-27012 **理由** *hexadecimal\_reason\_code*: 登録処理中に内部エラーが発生しました

説明： 登録処理に関連する内部エラーが発生しました。

システムのアクション： 処理は異常終了します。

ユーザの応答： 詳細については、関連するメッセージを参照してください。

PWX-27013 **理由** *hexadecimal\_reason\_code*: 最初の 3 つのパラメータが不完全です

説明： 最初の 3 つのパラメータが不完全です。

システムのアクション： 処理は異常終了します。

ユーザの応答： 詳細については、関連するメッセージを参照してください。

PWX-27014 **理由** *hexadecimal\_reason\_code*: 渡されたパラメータが NULL です

説明： 渡されたパラメータが NULL です。

システムのアクション： 処理は異常終了します。

ユーザの応答： 詳細については、関連するメッセージを参照してください。

PWX-27015 **理由** *hexadecimal\_reason\_code*: 最初の 3 つのパラメータが不完全です

説明： 最初の 3 つのパラメータが不完全です。

システムのアクション： 処理は異常終了します。

ユーザの応答： 詳細については、関連するメッセージを参照してください。

PWX-27016 **理由** *hexadecimal\_reason\_code*: EDCMSTUB getmain()が失敗しました

説明： EDCMSTUB getmain()が失敗しました。

システムのアクション： 処理は異常終了します。

ユーザの応答： 詳細については、関連するメッセージを参照してください。

PWX-27017 **理由** *hexadecimal\_reason\_code*: EDMCI API のロードに失敗しました

説明： EDMCI API のロードに失敗しました。

システムのアクション： 処理は異常終了します。

ユーザの応答： 詳細については、関連するメッセージを参照してください。

PWX-27018      **理由** *hexadecimal\_reason\_code*: トークン関数の不一致です

説明:              トークン関数の不一致が発生しました。

システムのアクション: 処理は異常終了します。  
ン:

ユーザの応答:      詳細については、関連するメッセージを参照してください。

PWX-27019      **理由** *hexadecimal\_reason\_code*: 無効なトークンです

説明:              トークンが有効ではありません。

システムのアクション: 処理は異常終了します。  
ン:

ユーザの応答:      詳細については、関連するメッセージを参照してください。

PWX-27022      **理由** *hexadecimal\_reason\_code*: トークン `getmain()` が失敗しました

説明:              トークン `getmain()` が失敗しました。

システムのアクション: 処理は異常終了します。  
ン:

ユーザの応答:      詳細については、関連するメッセージを参照してください。

PWX-27023      **理由** *hexadecimal\_reason\_code*: ロggerの切断に失敗しました

説明:              PowerExchnage ロggerの切断操作に失敗しました。

システムのアクション: 処理は異常終了します。  
ン:

ユーザの応答:      詳細については、関連するメッセージを参照してください。

PWX-27024      **理由** *hexadecimal\_reason\_code*: 不確かな Unit of Work で終了しました

説明:              不確かな Unit of Work (UOW) で処理が終了しました。

システムのアクション: 処理は異常終了します。  
ン:

ユーザの応答:      詳細については、関連するメッセージを参照してください。

PWX-27025	<b>理由</b> <i>hexadecimal_reason_code</i> : <b>ロッガーはリスナ接続による登録を見つけることができませんでした</b>
説明:	PowerExchange ロッガー (z/OS 用) は、リソース対象リストに基づいて PowerExchange リスナからキャプチャ登録を見つけることができませんでした。
	理由コードが A0B0019 の場合、この問題は次の理由で発生している可能性があります。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>複数の PowerExchange リスナが同じ CCT ファイルにアクセスしていた。これらの PowerExchange リスナの 1 つが登録情報を更新中だったが、この Listener は PowerExchange エージェントが使用していた Listener ではなかった。</li> <li>PowerExchange エージェントのリフレッシュ間隔が長すぎる。登録の作成、更新、または削除の後、PowerExchange エージェントが、PowerExchange ロッガーの使用に向けて速やかに CCT ファイル内の登録情報をリフレッシュしない。</li> </ul>
システムのアクション:	処理は異常終了します。
ユーザの応答:	詳細については、関連するメッセージを参照してください。
PWX-27026	<b>理由</b> <i>hexadecimal_reason_code</i> : <b>ロッガーの接続に失敗しました</b>
説明:	PowerExchange ロッガーの接続に失敗しました。
システムのアクション:	処理は異常終了します。
ユーザの応答:	詳細については、関連するメッセージを参照してください。
PWX-27027	<b>理由</b> <i>hexadecimal_reason_code</i> : <b>ロッガーキューを開くことに失敗しました</b>
説明:	PowerExchange ロッガーキューを開く操作に失敗しました。
システムのアクション:	処理は異常終了します。
ユーザの応答:	詳細については、関連するメッセージを参照してください。
PWX-27028	<b>理由</b> <i>hexadecimal_reason_code</i> : <b>ロッガーインタフェースの書き込みに失敗しました</b>
説明:	PowerExchange ロッガーインタフェースの書き込み操作に失敗しました。
システムのアクション:	処理は異常終了します。
ユーザの応答:	詳細については、関連するメッセージを参照してください。
PWX-27029	<b>理由</b> <i>hexadecimal_reason_code</i> : <b>Unit of Work はすでに存在します</b>
説明:	Unit of Work (UOW) はすでに存在します。

システムのアクション 処理は異常終了します。

ン：

ユーザの応答： 詳細については、関連するメッセージを参照してください。

PWX-27031 **理由** *hexadecimal\_reason\_code*: Unit of Work の終了後に変更が送信されました

説明： Unit of Work (UOW) の終了後に変更が送信されました。

システムのアクション 処理は異常終了します。

ン：

ユーザの応答： 詳細については、関連するメッセージを参照してください。

PWX-27032 **理由** *hexadecimal\_reason\_code*: Unit of Work の処理中に内部エラーが発生しました

説明： PowerExchange が Unit of Work (UOW) を処理しているときに内部エラーが発生しました。

システムのアクション 処理は異常終了します。

ン：

ユーザの応答： 詳細については、関連するメッセージを参照してください。

PWX-27033 **理由** *hex code*: 共通サービスの初期化に失敗しました

説明： 共通サービスの初期化に失敗しました。

システムのアクション 処理は異常終了します。

ン：

ユーザの応答： 詳細については、関連するメッセージを参照してください。

PWX-27034 **理由** *hexadecimal\_reason\_code*: 共通サービスへの接続に失敗しました

説明： 共通サービスへの接続に失敗しました。

システムのアクション 処理は異常終了します。

ン：

ユーザの応答： 詳細については、関連するメッセージを参照してください。

PWX-27035 **理由** *hexadecimal\_reason\_code*: ロggerの再同期情報の取得時にエラーが発生しました

説明： PowerExchange が PowerExchange ロggerの再同期情報を取得していたときにエラーが発生しました。

システムのアクション 処理は異常終了します。

ン：

ユーザの応答： 詳細については、関連するメッセージを参照してください。

PWX-27036 **理由** *hex code*: 共通サービスの終了時にエラーが発生しました

説明： 共通サービスの終了時にエラーが発生しました。



システムのアクション: 処理は異常終了します。  
ン:

ユーザの応答: 詳細については、関連するメッセージを参照してください。

PWX-27037 **理由** *hexadecimal\_reason\_code*: 高シーケンストークンが昇格しません

説明: 高シーケンストークンが昇格する値ではありません。

システムのアクション: 処理は異常終了します。  
ン:

ユーザの応答: 詳細については、関連するメッセージを参照してください。

PWX-27038 **理由** *hexadecimal\_reason\_code*: 低シーケンストークンが昇格しないか、ゼロです。

説明: 低シーケンストークンが昇格する値ではないか、またはゼロです。

システムのアクション: 処理は異常終了します。  
ン:

ユーザの応答: 詳細については、関連するメッセージを参照してください。

PWX-27042 **理由** *hexadecimal\_reason\_code*: Unit of Work が見つかりません

説明: Unit of Work (UOW) が見つかりませんでした。

システムのアクション: 処理は異常終了します。  
ン:

ユーザの応答: 詳細については、関連するメッセージを参照してください。

PWX-27043 **理由** *hexadecimal\_reason\_code*: まず CHK1 を発行する必要があります

説明: まず CHK1 を発行する必要があります。

システムのアクション: 処理は異常終了します。  
ン:

ユーザの応答: 詳細については、関連するメッセージを参照してください。

PWX-27044 **理由** *hexadecimal\_reason\_code*: パケット内の拡張情報が多すぎます。

説明: パケットに含まれている拡張情報が多すぎます。

システムのアクション: 処理は異常終了します。  
ン:

ユーザの応答: 詳細については、関連するメッセージを参照してください。

PWX-27045 **理由** *hex code*: 変更内の拡張情報が多すぎます。

説明: 変更に含まれている拡張情報が多すぎます。

システムのアクション: 処理は異常終了します。  
ン:

ユーザの応答: 詳細については、関連するメッセージを参照してください。

PWX-27046	<b>理由</b> <i>hexadecimal_reason_code</i> : LCI が返される領域が無効です
説明:	LCI が返される領域が有効ではありません。
システムのアクション:	処理は異常終了します。
ユーザの応答:	詳細については、関連するメッセージを参照してください。
PWX-27047	<b>理由</b> <i>hexadecimal_reason_code</i> : メッセージの説明タグがありません
説明:	メッセージの説明タグがありません。
システムのアクション:	処理は異常終了します。
ユーザの応答:	詳細については、関連するメッセージを参照してください。
PWX-27048	Motivo <i>hexadecimal_reason_code</i> : tag de descrição inválida
説明:	Uma chamada EVNT incluiu uma tag de descrição inválida.
システムのアクション:	O processamento foi encerrado de forma anormal.
ユーザの応答:	Entre em contato com o Suporte Global a Clientes da Informatica.
PWX-27049	Motivo <i>hexadecimal_reason_code</i> : falha ao criar marca de eventos
説明:	Falha na operação de criação de marca de eventos.
システムのアクション:	O processamento foi encerrado de forma anormal.
ユーザの応答:	Entre em contato com o Suporte Global a Clientes da Informatica.
PWX-27051	Motivo <i>código hexadecimal</i> : o máximo de descrições foi excedido em uma chamada EVNT.
説明:	O número máximo de descrições foi excedido em uma chamada EVNT.
システムのアクション:	O processamento foi encerrado de forma anormal.
ユーザの応答:	Entre em contato com o Suporte Global a Clientes da Informatica.
PWX-27052	Motivo <i>hexadecimal_reason_code</i> : falha na inicialização do registro
説明:	Falha na inicialização de registro.
システムのアクション:	O processamento foi encerrado de forma anormal.
ユーザの応答:	

ユーザの応答：	Entre em contato com o Suporte Global a Clientes da Informatica.
PWX-27053	Motivo <i>hexadecimal_reason_code</i> : Serviços do Agente indisponíveis
説明：	Os serviços do Agente do PowerExchange não estão disponíveis.
システムのアクション：	O processamento foi encerrado de forma anormal.
ユーザの応答：	Para obter mais informações sobre o erro, consulte as mensagens relacionadas. Se precisar de assistência, entre em contato com o Suporte Global a Clientes da Informatica.
PWX-27128	<b>理由</b> <i>hexadecimal_reason_code</i> : 登録名が長すぎます
説明：	キャプチャ登録名が長すぎます。
システムのアクション：	処理は異常終了します。
ユーザの応答：	詳細については、関連するメッセージを参照してください。
PWX-27129	<b>理由</b> <i>hexadecimal_reason_code</i> : ECCR 名が長すぎます
説明：	ECCR 名が長すぎます。
システムのアクション：	処理は異常終了します。
ユーザの応答：	詳細については、関連するメッセージを参照してください。
PWX-27130	<b>理由</b> <i>hexadecimal_reason_code</i> : ラッパーの内部エラーです。
説明：	ラッパーの内部エラーが発生しました。
システムのアクション：	処理は異常終了します。
ユーザの応答：	詳細については、関連するメッセージを参照してください。
PWX-27131	<b>理由</b> <i>hexadecimal_reason_code</i> : ラッパーのトークン関数の不一致です
説明：	ラッパーのトークン関数の不一致が発生しました。
システムのアクション：	処理は異常終了します。
ユーザの応答：	詳細については、関連するメッセージを参照してください。
PWX-27132	<b>理由</b> <i>hexadecimal_reason_code</i> : ラッパーのメモリ割り当てに失敗しました
説明：	ラッパーのメモリ割り当てに失敗しました。
システムのアクション：	処理は異常終了します。
ユーザの応答：	詳細については、関連するメッセージを参照してください。

PWX-27133	<b>理由</b> <i>hexadecimal_reason_code</i> : ラッパー内に無効なトークンがあります。
説明:	ラッパー内のトークンが有効ではありませんでした。
システムのアクション:	処理は異常終了します。
ユーザの応答:	詳細については、関連するメッセージを参照してください。
PWX-27134	<b>理由</b> <i>hexadecimal_reason_code</i> : ラッパー内のユーザー ID が長すぎます。
説明:	ラッパー内のユーザー ID が長すぎます。
システムのアクション:	処理は異常終了します。
ユーザの応答:	詳細については、関連するメッセージを参照してください。
PWX-27135	<b>理由</b> <i>hexadecimal_reason_code</i> : ラッパー内のメッセージが長すぎます。
説明:	ラッパー内のメッセージが長すぎます。
システムのアクション:	処理は異常終了します。
ユーザの応答:	詳細については、関連するメッセージを参照してください。
PWX-27192	<b>理由</b> <i>hexadecimal_reason_code</i> : XData GNRS エラー
説明:	XData GNRS エラーが発生しました。
システムのアクション:	処理は異常終了します。
ユーザの応答:	詳細については、関連するメッセージを参照してください。
PWX-27193	<b>理由</b> <i>hexadecimal_reason_code</i> : XData RSTR エラー
説明:	XData RSTR エラーが発生しました。
システムのアクション:	処理は異常終了します。
ユーザの応答:	詳細については、関連するメッセージを参照してください。
PWX-27194	<b>理由</b> <i>hexadecimal_reason_code</i> : XData GHSQ エラー
説明:	XData GHSQ エラーが発生しました。
システムのアクション:	処理は異常終了します。
ユーザの応答:	詳細については、関連するメッセージを参照してください。
PWX-27195	<b>理由</b> <i>hexadecimal_reason_code</i> : XData GLCI エラー
説明:	XData GLCI エラーが発生しました。
システムのアクション:	処理は異常終了します。
ユーザの応答:	詳細については、関連するメッセージを参照してください。

ユーザの応答： 詳細については、関連するメッセージを参照してください。

PWX-27208 **理由** *hexadecimal\_reason\_code*: XData LR INIT **エラー**

説明： XData LR INIT エラーが発生しました。

システムのアクション： 処理は異常終了します。

ユーザの応答： 詳細については、関連するメッセージを参照してください。

PWX-27209 **理由** *hexadecimal\_reason\_code*: XData LR CONN **エラー**

説明： XData LR CONN エラーが発生しました。

システムのアクション： 処理は異常終了します。

ユーザの応答： 詳細については、関連するメッセージを参照してください。

PWX-27210 **理由** *hexadecimal\_reason\_code*: XData LR OPEN **エラー**

説明： XData LR OPEN エラーが発生しました。

システムのアクション： 処理は異常終了します。

ユーザの応答： 詳細については、関連するメッセージを参照してください。

PWX-27211 **理由** *hexadecimal\_reason\_code*: XData LR GETL **エラー**

説明： XData LR GETL エラーが発生しました。

システムのアクション： 処理は異常終了します。

ユーザの応答： 詳細については、関連するメッセージを参照してください。

PWX-27212 **理由** *hexadecimal\_reason\_code*: XData LR BUOW **エラー**

説明： XData LR BUOW エラーが発生しました。

システムのアクション： 処理は異常終了します。

ユーザの応答： 詳細については、関連するメッセージを参照してください。

PWX-27213 **理由** *hexadecimal\_reason\_code*: XData LR **のレコードがありません**

説明： XData LR のレコードがないというエラーが発生しました。

システムのアクション： 処理は異常終了します。

ユーザの応答： 詳細については、関連するメッセージを参照してください。

PWX-27214 **理由** *hexadecimal\_reason\_code*: XData LR BUOW **が見つかりません**

説明： XData LR BUOW が見つかりませんでした。

システムのアクション: 処理は異常終了します。

ン:

ユーザの応答: 詳細については、関連するメッセージを参照してください。

PWX-27215 **理由** *hexadecimal\_reason\_code*: XData\_LR のファイルの末尾が早すぎます。

説明: XData\_LR のファイルの末尾が早すぎるというエラーが発生しました。

システムのアクション: 処理は異常終了します。

ン:

ユーザの応答: 詳細については、関連するメッセージを参照してください。

PWX-27216 **理由** *hexadecimal\_reason\_code*: XData LR のサインオンがありません

説明: XData LR のサインオンがありません。

システムのアクション: 処理は異常終了します。

ン:

ユーザの応答: 詳細については、関連するメッセージを参照してください。

PWX-27401 **理由** *hexadecimal\_reason\_code*: Getmain()エラー

説明: Getmain()エラー

システムのアクション: 処理は異常終了します。

ン:

ユーザの応答: 詳細については、関連するメッセージを参照してください。

PWX-27402 **理由** *hexadecimal\_reason\_code*: Freemain()エラー

説明: Freemain()エラーが発生しました。

システムのアクション: 処理は異常終了します。

ン:

ユーザの応答: 詳細については、関連するメッセージを参照してください。

## PWX-28000～PWX-28999

PWX-28001 **SVC99 テキスト単位数** *number*は**最大数** *max\_number*を超えています。

説明: プログラムに使用できるテキスト単位の最大数を超えています。

システムのアクション: 処理は終了します。

ン:

ユーザの応答: Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。  
エラー時に実行されている関数を特定します。

PWX-28002	<b>SVC99 テキスト単位ストレージ <i>number</i> は最大数 <i>max_number</i> を超えています。</b>
説明:	プログラムに使用できるテキスト単位の最大量を超えています。
システムのアクション:	処理は終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。 エラー時に実行されている関数を示します。
PWX-28003	<b>ファイル名の長さ <i>length</i> は、最大長 <i>max_length</i> を超えています。ファイル=<i>file_name</i>。</b>
説明:	動的割り当てシステムにとって、ファイル名が長すぎます。
システムのアクション:	処理は終了します。
ユーザの応答:	ファイル名を短くします。
PWX-28004	<b>ファイル "<i>data_set_name</i>" に無効な文字 '<i>character</i>' (16 進 '<i>hex_value</i>') が含まれています。</b>
説明:	データセット名に無効な文字が含まれています。
システムのアクション:	処理は終了します。
ユーザの応答:	データセット名を修正します。
PWX-28005	<b>ファイル "<i>data_set_name</i>" に含まれる zOS の括弧の構文が無効です。</b>
説明:	データセット名に、左括弧文字は含まれていますが、右の閉じ括弧文字が含まれていないか、データセット名が、メンバ名または GDG 名の 8 バイト制限を超過しています。
システムのアクション:	処理は終了します。
ユーザの応答:	データセット名を修正します。
PWX-28006	<b>z/OS UNIX システムサービスファイルへの書き込みはサポートされていません。ファイル "<i>data_set_name</i>"。</b>
説明:	PowerExchange では、スラッシュ文字から始まる UNIX システムサービスファイルへの書き込みはサポートされていません。
システムのアクション:	処理は終了します。
ユーザの応答:	JCL を使用して、ネイティブの z/OS ファイルに書き込んでから、データを USS ファイルにコピーします。
PWX-28011	<b>メッセージを取得するためのモジュール IEFDB476 の取得に失敗しました。</b>
説明:	ロードモジュール IEFDB476 がライブラリリストに見つかりませんでした。

システムのアクション: 処理は終了します。  
ン:

ユーザの応答: IEFDB476 が STEPLIB ライブラリにあることを確認します。

PWX-28012      **モジュール IEFDB476 への呼び出しが戻りコード  
=return\_code で失敗しました。**

説明:            モジュール IEFDB476 を呼び出そうとしたときに問題が発生しました。

システムのアクション: 処理は終了します。  
ン:

ユーザの応答:      理由については、一緒に表示されるメッセージを参照してください。

PWX-28013      SVC99 **メッセージ** *number. message*

説明:            このメッセージは、失敗した動的割り当ての呼び出しに関する情報を示します。

システムのアクション: 処理は終了します。  
ン:

ユーザの応答:      メッセージをチェックし、動的割り当てが失敗した理由を確認します。

PWX-28014      DYNALLOC に失敗しました。戻りコード=return\_code。エラーコード=X' S99error'。情報コード=X' S99info'。SMS 理由コード=X' <S99ERSN (S99ERSN)。SMS 理由コード=X' S99ERSN (S99ERSN)。ファイル=file\_name。

説明:            オペレーティングシステムは、動的割り当て要求 (SVC 99) に失敗しました。このメッセージは診断情報を提供します。

システムのアクション: 処理は終了します。  
ン:

ユーザの応答:      問題を診断するには、ジョブログで他のシステムメッセージを探します。IKJxxyyzz メッセージの詳細については、IBM の『TSO/E メッセージ』パブリケーションを参照してください。SVC 99 のエラーコード/情報コードについては、『MVS Authorized Assembler Services Guide』を参照してください。問題が解消しない場合は、エラーメッセージとパラメータ入力を収集し、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-28015      SVC99() S99UNALLOC に失敗しました。戻りコード=return\_code。エラーコード=X' s99\_error\_code'。情報コード=X' s99\_information\_code'。DDNAME ddname。ファイル=file\_name。

説明:            オペレーティングシステムは、SVC 99 割り当て解除要求に失敗しました。

システムのアクション: 処理は継続します。  
ン:

ユーザの応答:      これは警告メッセージです。エラーによっては、ファイルはまだジョブに割り当てられている可能性があります。



PWX-28016	<b>SVC99() rc=return_code Error code=X' S99error' は、'explanation'を意味します。</b>
説明：	このメッセージは、メッセージ PWX-00220 で報告される動的割り当てエラーの説明および診断情報を提供します。
システムのアクション：	処理は終了します。
ユーザの応答：	失敗の原因を判定するには、動的割り当てエラーに関連するすべてのメッセージを確認してください。
PWX-28021	<b>ユーザー割り当てパラメータ: <i>parameter_list</i></b>
説明：	このメッセージには、呼び出し元アプリケーションが提供する割り当てパラメータに関する情報が含まれます。
システムのアクション：	処理は終了します。
ユーザの応答：	メッセージをチェックし、動的割り当てが失敗した理由を確認します。
PWX-28022	<b>構成ファイルの割り当てパラメータ: <i>parameter_list</i></b>
説明：	このメッセージは、PowerExchange DBMOVER 構成ファイルから取得された割り当てパラメータに関する情報を提供します。
システムのアクション：	処理は終了します。
ユーザの応答：	メッセージをチェックし、動的割り当てが失敗した理由を確認します。
PWX-28023	<b>デフォルト割り当てパラメータ: <i>parameter_list</i></b>
説明：	このメッセージは、呼び出し元アプリケーションまたは PowerExchange DBMOVER 構成ファイルによって提供されなかったデフォルト設定割り当てパラメータに関する情報を提供します。
システムのアクション：	処理は終了します。
ユーザの応答：	メッセージをチェックし、動的割り当てが失敗した理由を確認します。
PWX-28024	<b>移行したデータセット <i>dataset_name</i> の HSM によるリコールを待機しています。</b>
説明：	PowerExchange は、テープに移行されたデータセットの動的割り当て要求を DFSMSHsm (HSM) が処理するのを待機しています。
システムのアクション：	PowerExchange は、データセットがリコールされるのを待ってから処理を続行します。
ユーザの応答：	接続タイムアウトを回避するには、移行されたデータセットを含むテープを HSM がマウントしてリコール操作を実行するのに十分な時間が、ネットワークタイムアウトパラメータで確保されていることを確認します。

PWX-28025	<b>データセット <i>dataset_name</i> の HSM リコールが完了しました。</b>
説明：	DFSMSHsm (HSM) は、PowerExchange 処理用に設定されたアーカイブデータセットをリコールしました。
システムのアクション：	処理は継続します。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-28026	<b>データセット <i>dataset_name</i> の HSM リコールが失敗しました。戻りコード <i>hsm_return_code</i>。</b>
説明：	z/OS では、DFSMSHsm (HSM) が PowerExchange 処理用に移行されたデータセットをリコールしようとしたが、リコール操作は失敗しました。このメッセージは、失敗した操作の DFSMSHsm 戻りコードを報告します。
システムのアクション：	処理は継続します。
ユーザの応答：	DFSMSHsm の戻りコードについては、 <i>IBM z/OS MVS System Messages Vol.2</i> を参照してください。
PWX-28201	<b>テーブル "<i>schema.table_name</i>" がサブシステム "<i>subsystem</i>" 内に存在しません。</b>
説明：	テーブルの SYSIBM.SYSTABLES にエントリが見つかりませんでした。
システムのアクション：	処理は終了します。
ユーザの応答：	正しいスキーマ、テーブル名、およびサブシステムが指定されていることを確認します。
PWX-28202	<b>イメージコピーファイル "<i>file_name</i>" はロードでは無効です。テーブルスペース "<i>database_name.tablespace_name</i>"。ICTYPE "<i>value</i>"。</b>
説明：	イメージコピーファイルの属性はロードでは無効です。ICTYPE はイメージコピータイプを表し、SYSIBM.SYSCOPY テーブル内のカラムです。
システムのアクション：	処理は終了します。
ユーザの応答：	有効なフルイメージコピーファイルを指定します。ICTYPE の詳細については、IBM の マニュアルを参照してください。
PWX-28203	<b>処理は Linux、UNIX、または Windows リスナでは実行できません。</b>
説明：	処理は Linux、UNIX、または Windows の PowerExchange リスナでは実行できません。
システムのアクション：	処理は終了します。
ユーザの応答：	z/OS マシンの場所が指定されていることを確認します。

PWX-28204	<b>処理はこのオフロードの種類を持つ Linux、UNIX、または Windows では実行できません。</b>
説明：	処理はこのオフロード処理の種類を持つ Linux、UNIX、または Windows では実行できません。
システムのアクション：	処理は終了します。
ユーザの応答：	<b>【オフロード処理】</b> 接続属性に <b>【後でフィルタ】</b> を選択していることを確認します。
PWX-28205	<b>処理の場所が指定されていません。</b>
説明：	PowerExchange リスナの場所が指定されていません。
システムのアクション：	処理は終了します。
ユーザの応答：	<b>【場所】</b> 接続属性が設定されていることを確認します。
PWX-28206	<b>イメージコピーファイル "<i>file_name</i>" に圧縮されたテーブルスペースが含まれているため、zOS でのみ読み取ることができます。</b>
説明：	Linux、UNIX、または Windows で圧縮されたテーブルスペースのイメージコピーファイルの読み取りが試行されました。
システムのアクション：	処理は終了します。
ユーザの応答：	<b>【場所】</b> 接続属性に z/OS マシンの PowerExchange リスナを指定します。圧縮データでの OFFLOAD_FILE_LOCAL オーバーライドは使用しないでください。
PWX-28207	<b>生成された SQL "<i>sql_query</i>" の処理中にエラーが発生しました</b>
説明：	DB2 カタログテーブルのクエリ試行に失敗しました。
システムのアクション：	処理は終了します。
ユーザの応答：	このエラーについての情報は、一緒に表示される DB2 からのメッセージを参照してください。WHERE 条件に問題がある可能性があります。例えば、一重引用符などの予約文字が誤った場所にある可能性があります。
PWX-28211	<b>テーブルスペース "<i>schema.tablespace_name</i>" にファイル "<i>file_name</i>" が選択されました。ICBACKUP="<i>value</i>" (<i>description</i>)。STYPE "<i>value</i>" (<i>description</i>)。TTYPE "<i>value</i>" (<i>description</i>)。</b>
説明：	ファイルが指定されなかったため、報告された ICBACKUP、STYPE、および TTYPE 属性を持つ最新のイメージコピーファイルがシステムによって選択されました。これらの属性は SYSIBM.SYSCOPY テーブルのカラムです。
システムのアクション：	処理は継続します。

ユーザの応答： 選択されたファイルが要件を満たしている場合、対応する必要はありません。SYSIBM.SYSCOPYの詳細については、IBMのマニュアルを参照してください。

PWX-28221 **イメージコピーファイル"file\_name"がサブシステム"subsystem\_name"内に見つかりませんでした。**

説明： ファイルのSYSIBM.SYSTABLESにエントリが見つかりませんでした。

システムのアクション： 処理は継続し、テーブルOBIDと一致するイメージコピーファイル行が選択されます。この手順は、元のイメージファイルが別の名前にコピーされている場合にのみ有効です。

ユーザの応答： 可能であれば、ファイルが作成されたDB2サブシステムが接続先になっていることを確認します。

PWX-28222 **ファイル"file\_name"が異なるテーブルスペース"database\_name.tablespace\_name"のサブシステム"subsystem\_name"内に見つかりました。  
DSNUM=partition\_number。**

説明： ファイルのSYSIBM.SYSTABLESにエントリが見つかりませんでした。

システムのアクション： 処理は継続し、テーブルOBIDと一致するイメージコピーファイル行が選択されます。この手順は、元のイメージファイルが別の名前にコピーされ、正しいOBIDの行が選択されるように一貫性チェックが設定されている場合に有効である可能性があります。

ユーザの応答： 可能であれば、ファイルが作成されたDB2サブシステムが接続先になっていることを確認します。

PWX-28231 **イメージコピーファイル"file\_name"がシーケンシャルファイルとして開かれました。**

説明： PowerExchangeによってSYSIBM.SYSTABLES内にファイルのエントリを見つけられませんでした。z/OSでシーケンシャルファイルとして正常に開きました。メッセージPWX-28231がz/OSに記録され、メッセージPWX-28221と一緒に表示されます。メッセージPWX-28221は、オフロード処理が有効な場合にLinux、UNIX、またはWindowsに記録される可能性があります。

システムのアクション： 処理は継続します。

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-28232 **イメージコピーファイル"file\_name"がフラッシュコピーファイルとして開かれました。**

説明： PowerExchangeによってSYSIBM.SYSTABLES内にファイルのエントリを見つけられませんでした。z/OSでフラッシュコピーファイルとして正常に開きました。メッセージPWX-28232がz/OSに記録され、メッセージPWX-28221と一緒に表示されます。メッセージPWX-28221は、オフロード処理が有効な場合にLinux、UNIX、またはWindowsに記録される可能性があります。

システムのアクション: 処理は継続します。  
ン:

ユーザの応答: 対応する必要はありません。

PWX-28233 **イメージコピーファイル "*file\_name*" をシーケンシャルファイルまたはフラッシュコピーファイルとして開くことができませんでした。**

説明: PowerExchange によって SYSIBM.SYSTABLES 内にファイルのエントリを見つけられませんでした。PowerExchange は最初にファイルをシーケンシャルとして開くことを試みました。この試行は失敗し、次のエラーメッセージが出力されました。

errno=41 "EDC5041I An error was detected at the system level when opening a file."

次に、PowerExchange はファイルをフラッシュコピーファイルとして開くことを試みましたが、この試行も失敗しました。

メッセージ PWX-28233 が z/OS に記録され、メッセージ PWX-28221 と一緒に表示されます。メッセージ PWX-28221 は、オフロード処理が有効な場合に Linux、UNIX、または Windows に記録される可能性があります。

システムのアクション: 処理は強制終了しました。  
ン:

ユーザの応答: 有効なイメージコピーファイルを指定し、ファイルが作成された DB2 サブシステムを接続が指すようにします。

## PWX-31001～PWX-31999

PWX-31001 **SSL EPASS の復号化に失敗しました。**

説明: DBMOVER 構成ファイルの SSL 文の EPASS パラメータで指定されたパスフレーズを復号化する際に PowerExchange でエラーが発生しました。

システムのアクション: 処理は終了します。  
ン:

ユーザの応答: EPASS パラメータが有効な暗号化されたパスフレーズを示していることを確認します。

PWX-31002 **PASS および EPASS がいずれも SSL に指定されています。指定できるのは 1 つだけです。**

説明: PASS パラメータと EPASS パラメータは、ともに DBMOVER 構成ファイルの SSL 文で指定されます。これらのパラメータは、いずれか一方しか指定できません。

システムのアクション: 処理は終了します。  
ン:

ユーザの応答： PASS パラメータと EPASS パラメータの両方ではなく一方を指定するように DBMOVER 構成ファイルの SSL 文を編集します。

PWX-31021 **SSL の初期化中にエラーが発生しました**

説明： SSL の初期化中にエラーが発生しました。

システムのアクション： タスクは終了します。

ユーザの応答： 理由について関連付けられているメッセージを確認します。

PWX-31022 **コンテキストの初期化中にエラーが発生しました**

説明： SSL コンテキストの初期化中にエラーが発生しました。

システムのアクション： タスクは終了します。

ユーザの応答： 理由について関連付けられているメッセージを確認します。

PWX-31023 **セキュアソケットのオープンに失敗しました**

説明： セキュアソケットをオープンするときにエラーが発生しました。

システムのアクション： タスクは終了します。

ユーザの応答： 理由について関連付けられているメッセージを確認します。

PWX-31024 **ピア権限チェックに失敗しました**

説明： ピア証明書の権限を検証するときにエラーが発生しました。

システムのアクション： タスクは終了します。

ユーザの応答： 理由について関連付けられているメッセージを確認します。

PWX-31025 **SSL ERR\_print\_errors 情報。error\_information**

説明： SSL エラースタックから ERR\_print\_errors を使って得られたエラー情報。error\_information 変数内の SSL エラー情報は次の形式で表示されます。

```
[pid]:error:[error_code]:[library_name]:[function_name] :  
[reason_string]:[file_name]:[line]:[optional_text_message]
```

システムのアクション： 関連メッセージに報告されるエラーのために、タスクは終了します。

ユーザの応答： 問題を診断するには、関連するメッセージを参照してください。

PWX-31026 **SSL 追加情報。error\_information**

説明： さまざまなソースから得られたエラー情報。

システムのアクション： 関連メッセージに報告されるエラーのために、タスクは終了します。

ユーザの応答： 問題を診断するには、関連するメッセージを参照してください。

PWX-31027	<b>SSL_read の問題。戻りコード=return_code。エラー=errorerror_description。bytesが必要です。★bytes バイトを読み込みました。</b>
説明：	データを読み取る際に SSL_read API からエラーが返されました。
システムのアクション：	タスクは終了します。
ユーザの応答：	SSL ドキュメントで理由コードを調べます。
PWX-31028	<b>切断前のソケットのクリア中、SSL_read エラーは無視されません。</b>
説明：	ソケットを閉じる前に、すべてのパケットが読み取られ、リモートピアがすでに切断されている場合は、エラー条件が記録される場合があります。
システムのアクション：	処理は終了ステップまで継続します。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。これは内部情報メッセージで、表示されません。
PWX-31029	<b>SSL_write の問題。戻りコード=return_codereturn_code_description。bytes バイトを書き込みました。</b>
説明：	データを書き込む際に SSL_write API からエラーが返されました。
システムのアクション：	タスクは終了します。
ユーザの応答：	SSL ドキュメントで理由コードを調べます。
PWX-31030	<b>クライアントは seconds 秒後に SSL_connect でタイムアウトします。</b>
説明：	クライアントが指定された制限時間内に PowerExchange リスナに接続できませんでした。
システムのアクション：	タスクは終了します。
ユーザの応答：	PWX Override プロパティの TCPIP_CON_TIMEOUT パラメータが接続に指定されている場合は、値を大きくします。パラメータが指定されていない場合、180 より大きい値を指定します。値が指定されていない場合、180 秒がデフォルトの接続タイムアウト期間です。
PWX-31031	<b>リスナは seconds 秒後に SSL_accept でタイムアウトします。</b>
説明：	PowerExchange Listener は指定された制限時間内に PowerExchange Listener に接続できませんでした。
システムのアクション：	タスクは終了し、PowerExchange Listener は新しい作業のリスンを再開します。

ユーザの応答：	<p>PWX オーバーライド接続属性に指定された時間（秒数）を増やします。 [値] カラムで、接続のタイムアウト間隔、ネットワーク操作のタイムアウト間隔、またはこの両方の時間（秒数）を指定します。以下の構文を使用します。</p> <pre>TCPIP_OP_TIMEOUT=network_operation_timeout;TCPIP_CON_TIMEOUT=connection_timeout</pre>
PWX-31032	<b><i>seconds</i> 秒後に SSL_read でタイムアウトします。 bytes が必要です。 bytes バイトを受信しました。</b>
説明：	SSL ソケットで示された数のバイトを受信しようとしたますが、すべてのバイトが処理される前にタイムアウトしました。
システムのアクション：	タスクは終了します。
ユーザの応答：	<p>接続先のエラーを検索します。問題が存在しなかった場合は、PWX オーバーライド接続属性に指定された時間（秒数）を増やします。 [値] カラムで、接続のタイムアウト間隔、ネットワーク操作のタイムアウト間隔、またはこの両方の時間（秒数）を指定します。以下の構文を使用します。</p> <pre>TCPIP_OP_TIMEOUT=network_operation_timeout;TCPIP_CON_TIMEOUT=connection_timeout</pre>
PWX-31033	<b><i>seconds</i> 秒後に SSL_write でタイムアウトします。 bytes が必要です。 bytes バイトを書き込みました。</b>
説明：	SSL ソケットで示された数のバイトを書き込もうとしたますが、すべてのバイトが処理される前にタイムアウトしました。
システムのアクション：	タスクは終了します。
ユーザの応答：	<p>接続先のエラーを検索します。問題が存在しなかった場合は、PWX オーバーライド接続属性に指定された時間（秒数）を増やします。 [値] カラムで、接続のタイムアウト間隔、ネットワーク操作のタイムアウト間隔、またはこの両方の時間（秒数）を指定します。以下の構文を使用します。</p> <pre>TCPIP_OP_TIMEOUT=network_operation_timeout;TCPIP_CON_TIMEOUT=connection_timeout</pre>
PWX-31034	<b>API 関数 SSL_CTX_use_certificate_chain_file() は証明書チェーンファイル <i>file_name</i> を読み取れません。</b>
説明：	z/OS 上でクライアントアプリケーションが PowerExchange リスナへの SSL のセキュアな接続を確立しようとしている間に、OpenSSL API の SSL_CTX_use_certificate_chain_file() 関数では指定の証明書チェーンファイルを読み取れませんでした。
システムのアクション：	タスクは終了します。
ユーザの応答：	<p>証明書チェーンファイルが正しい形式であるようにします。 SSL_CTX_use_certificate_chain_file() 関数の詳細については、OpenSSL のドキュメントを参照してください。</p>



PWX-31035	<b>API 関数 <code>SSL_CTX_use_PrivateKey_file()</code> はキーファイル <code>file_name</code> を読み取ることができません。</b>
説明:	z/OS 上で PowerExchange リスナへの SSL のセキュアな接続を確立しようとしている間に、OpenSSL API の <code>SSL_CTX_use_PrivateKey_file()</code> 関数では指定のキーファイルを読み取れませんでした。
システムのアクション:	タスクは終了します。
ユーザの応答:	メッセージで指定されているキーファイルが正しい形式であるようにします。 <code>SSL_CTX_use_PrivateKey_file()</code> 関数の詳細については、OpenSSL のドキュメントを参照してください。
PWX-31036	<b>認証局の場所の検証中にエラーが発生しました。CA リスト = <code>CA_list</code>。CA パス = <code>CA_path</code>。</b>
説明:	API <code>SSL_CTX_load_verify_locations</code> からエラーが返されました。
システムのアクション:	タスクは終了します。
ユーザの応答:	SSL ドキュメントで理由コードを調べます。
PWX-31037	<b>SSL 接続エラー。戻りコード = <code>return_code</code>。エラー = <code>errorerror_description</code>。</b>
説明:	クライアント側で実行される API <code>SSL_connect</code> からエラーが返されました。
システムのアクション:	タスクは終了します。
ユーザの応答:	SSL ドキュメントで理由コードを調べます。
PWX-31038	<b>SSL 受諾エラー。戻りコード = <code>return_code</code>。エラー = <code>errorerror_description</code>。</b>
説明:	サーバー側で実行される API <code>SSL_accept</code> からエラーが返されました。
システムのアクション:	タスクは終了します。
ユーザの応答:	SSL ドキュメントで理由コードを調べます。
PWX-31039	<b>証明書は検証されません。戻りコード = <code>return_codename</code>。</b>
説明:	ソケットのオープン後に API <code>SSL_get_verify_result</code> からエラーが返されました。ピア証明書の検証に失敗しました。
システムのアクション:	タスクは終了します。
ユーザの応答:	SSL ドキュメントで理由コードを調べます。
PWX-31040	<b>ピアから証明書を取得できませんでした。</b>
説明:	SSL ラッパルーチンからエラーが返されました。

システムのアクション: タスクは終了します。

システム:

ユーザの応答: SSL ドキュメントで理由コードを調べます。

PWX-31041 **エラー番号** *errno***エラー番号** *errno***説明** *description*。

説明: SSL が使用される IO システムで報告されたエラーに関する情報を提供する *errno* 整数の値とその説明。説明は、Windows では *strerror()*、UNIX では *perror()* によって提供されます。

システムのアクション: 関連メッセージに報告されるエラーのために、タスクは終了します。

システム:

ユーザの応答: 関連付けられているメッセージを診断します。

PWX-31042 **file** **ファイル行** *line* **フラグ** *flags* **エラー** *error\_number***エラー** *error\_description*。 **データ** *data*。

説明: このメッセージは、Open SSL エラースタック報告メカニズムからのエラーを報告します。

システムのアクション: 関連メッセージに報告されるエラーのために、タスクは終了します。

システム:

ユーザの応答: 関連付けられているメッセージを診断します。

PWX-31043 **call\_type** の戻りコード *rc* は、**error\_description** を示します

説明: SSL API は通常、成功したときに 1 を返します。失敗した場合、戻りコード 0 が軽微なエラー、-1 が異なる重大なエラーを示す場合があります。

システムのアクション: 関連メッセージに報告されるエラーのために、タスクは終了します。

システム:

ユーザの応答: 問題を診断するには、関連するメッセージを参照してください。

PWX-31044 **証明書** *number*。 **マシン** *machine\_name*。 **タイプ** *certificate\_type*。 **開始日** *start\_date\_time*。 **終了日** *end\_date\_time*。 **サブジェクト** *subject*。 **発行者** *issuer*。

説明: このメッセージは、検証に失敗した SSL 証明書についての情報を提供します。マシンは、ローカルクライアント、リモートクライアント、リモート PowerExchange リスナのノード名、またはローカルリスナ名です。また、メッセージでは証明書タイプの次の値のうち 1 つを示します:

- 件名 ID。
- CA1: X509V3 CA。
- CA3: 自己署名 X509 V1。
- CA4: Key Usage & CertSign ビット。
- CA5: Netscape Type 拡張子。

システムのアクション: 関連メッセージでレポートされるエラーによりタスクは終了します。

システム:

ユーザの応答： 対応する必要はありません。エラーを診断するには、このメッセージと周辺のメッセージの情報を 사용합니다。

PWX-31045 **証明書 *number* の確認が行われません。戻りコード `=return_code "name"`。**

説明： ソケットを開いた後、OpenSSL API `SSL_get_verify_result` によってエラーが返されました。ピア証明書を確認できませんでした。

システムのアクション： タスクは終了します。

ユーザの応答： OpenSSL のマニュアルで戻りコードを確認します。

PWX-31046 **SSL\_connect に失敗しました。エラーについては、サーバーログをチェックしてください。**

説明： `SSL_connect()` を指定したサーバー接続が失敗し、エラー 5 (`SSL_ERROR_SYSCALL`) が生成されました。サーバーがこの接続を拒否した可能性があります。

システムのアクション： タスクは終了します。

ユーザの応答： サーバーログを調べて、エラーメッセージを確認します。サーバーが Linux、UNIX、または Windows 上で稼働している場合は、その PowerExchange ログファイルをチェックします。サーバーが z/OS 上で稼働している場合は、AT-TLS システムログをチェックします。クライアントサーティフィケーションに問題がある場合、サーバーマシンに情報が記録されます。

PWX-31047 **SSL\_accept に失敗しました。エラーについては、クライアントログをチェックしてください。**

説明： `SSL_accept()` を指定した接続要求の受け入れが失敗し、エラー 5 (`SSL_ERROR_SYSCALL`) が生成されました。クライアントがこの接続を拒否した可能性があります。

システムのアクション： タスクは終了します。

ユーザの応答： クライアントマシン上の PowerExchange ログファイルをチェックし、エラーメッセージを確認します。

PWX-31048 **接続後の最初の SSL\_read に失敗しました。エラーについては、サーバーログをチェックしてください。**

説明： 接続後行われたサーバーからの読み取りに失敗し、エラー 5 (`SSL_ERROR_SYSCALL`) が生成されました。サーバーがこの接続を拒否した可能性があります。

システムのアクション： タスクは終了します。

ユーザの応答： サーバーログを調べて、エラーメッセージを確認します。サーバーが Linux、UNIX、または Windows 上で稼働している場合は、その PowerExchange ログファイルをチェックします。サーバーが z/OS 上で稼働している場合は、AT-TLS システムログをチェックします。

PWX-31049      **接続後の最初の SSL\_write に失敗しました。エラーについては、サーバーログをチェックしてください。**

説明：              接続後行われたサーバーへの書き込みが失敗し、エラー 5 (SSL\_ERROR\_SYSCALL) が生成されました。サーバーがこの接続を拒否した可能性があります。

システムのアクション：      タスクは終了します。

ユーザの応答：      エラーについては、サーバーログをチェックしてください。サーバーが Linux、UNIX、または Windows 上で稼働している場合は、その PowerExchange ログファイルをチェックします。サーバーが z/OS 上で稼働している場合は、AT-TLS システムログをチェックします。

PWX-31050      **接続受諾後の最初の SSL\_read に失敗しました。エラーについては、クライアントログをチェックしてください。**

説明：              接続後行われたクライアントからの読み取りに失敗し、エラー 5 (SSL\_ERROR\_SYSCALL) が生成されました。クライアントがこの接続を拒否した可能性があります。

システムのアクション：      タスクは終了します。

ユーザの応答：      サーバーログを調べて、エラーメッセージを確認します。サーバーが Linux、UNIX、または Windows 上で稼働している場合は、その PowerExchange ログファイルをチェックします。サーバーが z/OS 上で稼働している場合は、AT-TLS システムログをチェックします。

PWX-31051      **接続受諾後の最初の SSL\_write に失敗しました。エラーについては、クライアントログをチェックしてください。**

説明：              接続後行われたクライアントへの書き込みが失敗し、エラー 5 (SSL\_ERROR\_SYSCALL) が生成されました。クライアントがこの接続を拒否した可能性があります。

システムのアクション：      タスクは終了します。

ユーザの応答：      クライアントマシン上の PowerExchange ログファイルをチェックし、エラーメッセージを確認します。

PWX-31052      **クライアントからの無効な SSL ハンドシェイクです。**

説明：              クライアントは、SSL プロトコルを使用せずに、SSL 対応の PowerExchange リスナに接続しようとしていました。

システムのアクション：      タスクが異常終了します。

ユーザの応答：      SSL パラメーターで正しく定義されたリスナノードがクライアントにあることを確認してください。

PWX-31053	<b>クライアントは、SSL_REQ_CLNT_CERT=Y 設定で必要なリスナ証明書を検証できません。SSL 文には、CALIST または CAPATH パラメータが含まれている必要があります。</b>
説明：	クライアントは SSL 対応の PowerExchange リスナに接続できませんでした。その理由は、DBMOVER 構成ファイルの SSL_REQ_CLNT_CERT=Y 設定ではリスナセキュリティ証明書の検証が必要ですが、必要な CALIST または CAPATH パラメータが DBMOVER ファイルの SSL 文で指定されていないためです。
システムのアクション：	クライアントタスクは終了します。
ユーザの応答：	SSL 証明書の検証を使用する必要がある場合は、DBMOVER 構成ファイルを編集して、SSL 文で CALIST または CAPATH キーワードを指定します。SSL 証明書の検証を使用する必要がある場合は、DBMOVER 構成ファイルを編集して SSL_REQ_CLNT_CERT=N を指定します。
PWX-31054	<b>リスナは、SSL_REQ_CLNT_CERT=Y 設定で必要なクライアント証明書を検証できません。SSL 文には、CALIST または CAPATH パラメータが含まれている必要があります。</b>
説明：	PowerExchange リスナはクライアント接続を受け入れませんでした。クライアント SSL 証明書の検証は、DBMOVER 構成ファイルの SSL_REQ_CLNT_CERT=Y 設定によって有効になりますが、必要な CALIST または CAPATH パラメータが DBMOVER ファイルの SSL 文で指定されていません。
システムのアクション：	タスクは終了します。
ユーザの応答：	SSL 証明書の検証を使用する必要がある場合は、DBMOVER 構成ファイルを編集して、SSL 文で CALIST または CAPATH キーワードを指定します。SSL 証明書の検証を使用する必要がある場合は、DBMOVER 構成ファイルを編集して SSL_REQ_CLNT_CERT=N を指定します。
PWX-31055	<b>パラメータ <i>parameter_name</i> によって定義されたファイル <i>file_name</i> は、ステータスが <i>code</i> (<i>description</i>) です。</b>
説明：	指定されたファイルは有効な OpenSSL PEM ファイルではありません。
システムのアクション：	タスクは終了します。
ユーザの応答：	無効なファイルがどのようなコンテキストで使用されたかを判断するには、付随するエラーメッセージを参照してください。例えば、問題のファイルは、OpenSSL API 関数 SSL_CTX_use_certificate_chain_file()、 SSL_CTX_use_PrivateKey_file()、 SSL_CTX_load_verify_locations()に拒否される場合も、PWXUSSL を使用して証明書をレポートしようとした際に拒否される場合もあります。ファイル形式を修正して、タスクを再度試行してください。

PWX-31056      API *api\_function\_name* で、エラー *error\_code* が発生しました。理由 *reason\_code*。ライブラリ *OpenSSL\_library*、*optional\_information*

説明：            指定した OpenSSL API 関数からエラーが返されました。このメッセージは、理由コードを含む診断情報を提供します。

システムのアクション：    タスクは終了します。

ユーザの応答：        エラーを診断するには、このメッセージと関連メッセージの情報を使用します。エラーが証明書ファイルまたはプライベートキーファイルに関連する場合は、そのファイルが利用可能かつ有効であるようにしてください。

PWX-31057      **パラメータ *parameter\_name* は API 関数 *api\_function* に必要ですが、指定されませんでした。**

説明：            指定した OpenSSL API 関数からエラーが返されました。この関数では、不足しているパラメータの指定を必要とします。

システムのアクション：    タスクは終了します。

ユーザの応答：        指定のパラメータを API 関数に追加し、タスクをもう一度実行してください。

PWX-31058      API 関数 *function\_name* が失敗しました。

説明：            指定した OpenSSL API 関数でエラーが発生し、失敗しました。クライアントの PowerExchange リスナとの間のセキュアな接続が確立できませんでした。

システムのアクション：    タスクは終了します。

ユーザの応答：        エラーコンテキストの詳細については、関連するメッセージを確認してください。

PWX-31059      **SSL\_connect() 関数の後に最初に送信された要求は失敗しました。リスナは送信モードなのでパケットを受信できません。**

説明：            ssl\_connect() 関数でセキュアな接続をオープンした後に、クライアントアプリケーションによって 1 番目のパケットを PowerExchange リスナに送信しようとしたが、リスナの接続が誤ったモードであったため失敗しました。このエラーは、PowerExchange リスナが AT-TLS ルールを満たす証明書を検証している場合、または SSL\_REQ\_SRVR\_CERT=Y 文が DBMOVER 構成ファイルに指定されていて次の条件が存在する場合に発生します：

- ssl\_connect() 関数が正常に実行された。
- リスナが ssl\_accept() 関数を正常に完了し、目的の証明書を受信してから、その証明書を拒否した。
- リスナが接続を受信モードから送信モードに切り替え、エラーパケットを送信した。

システムのアクション: タスクは終了します。  
ン:

ユーザの応答: リモート PowerExchange リスナシステムの PowerExchange メッセージログを確認し、エラーの原因を判断します。また、SSL KEY パラメータで指定されている証明書が有効であり期限切れでないことを確認します。

PWX-31060      **マシン *node\_name* に PowerExchange リスナがあり、ポート *port\_number* でセキュアな接続を受け付けていることを確認します。**

説明: この情報メッセージには、指定の z/OS システムおよびポートで PowerExchange リスナとのセキュアな接続を確立しようとしたが失敗したことをレポートするメッセージが付随します。

システムのアクション: タスクは終了します。  
ン:

ユーザの応答: 次の条件が存在することを確認します:

- SSL 接続で PowerExchange リスナの正しい場所を指定している。
- DBMOVER 構成ファイルにある NODE 文で TCP/IP の有効なマシン名を指定している。
- PowerExchange リスナが指定のマシンで実行されている。
- PowerExchange リスナが指定のポートを使用している。
- 指定のマシンが z/OS で実行されている場合、AT-TLS ルールは指定のポートのネットワークパケットをインターセプトする。

PWX-31061      **リスナが接続を受け付けなかったため、z/OS ノード *node\_name* のポート *port\_number* へのセキュアな接続に失敗しました。**

説明: z/OS 上でクライアントアプリケーションが SSL の PowerExchange リスナへのセキュアな接続を確立しようとしたが失敗しました。PowerExchange リスナが実行されているリモートピアではその接続を受け付けなかったためです。

システムのアクション: タスクは終了します。  
ン:

ユーザの応答: 次のアクションを実行して接続エラーをトラブルシューティングします。

- z/OS ノードで PowerExchange リスナが実行されていることを確認します。
- z/OS ノードで PowerExchange リスナと AT-TLS ルールが正しく設定されていることを確認します。
- TCP/IP ログと AT-TLS ログを確認し、AT-TLS が TCP/IP 要求をインターセプトしたか、TLS パッケージを削除したか、要求を

PowerExchange リスナに渡したか検証します。メッセージ  
PWX-31062 では、ログが存在するノードを示します。

- PowerExchange リスナのログを確認して、クライアントアプリケーションの IP アドレスから受信したパケットがあるか探します。

サポートが必要な場合は、Informatica グローバルカスタマサポート  
にお問い合わせください。

PWX-31062

**診断情報は、マシン'node\_name'の TCP/IP、AT-TLS および  
PowerExchange リスナのログで使用可能です。**

説明： z/OS 上でクライアントアプリケーションが PowerExchange リスナ  
へのセキュアな接続を確立しようとしたが失敗しました。リモ  
ートピアではその接続を受け付けなかったためです。この情報メッ  
セージは PWX-31061 に続くものであり、接続エラーを診断するのに使用  
できる TCP/IP、AT-TLS (Application Transparent Transport  
Layer Security) または PowerExchange のログの名前を記載してい  
ます。

システムのアクション： 関連するエラーによりタスクは終了します。  
ン：

ユーザの応答： z/OS 上での PowerExchange リスナへの接続失敗のトラブルシュー  
ティングには指定のログを使用してください。

PWX-31063

**31063: 戻りコードの詳細については、『IBM z/OS  
Cryptographic Services System SSL Programming』および  
『Communications Server: IP Diagnosis Guide』を参照してく  
ださい。**

説明： z/OS 上でクライアントアプリケーションが SSL の PowerExchange  
リスナへのセキュアな接続を確立しようとしたが失敗しました。  
リモートピアではその接続を受け付けなかったためです。この情報メ  
ッセージは PWX-31061 に続くものであり、エラーに関連している戻  
りコードを記載した IBM マニュアルの名前を記載しています。

システムのアクション： 関連するエラーによりタスクは終了します。  
ン：

ユーザの応答： z/OS 上での PowerExchange リスナへのセキュアな接続のトラブル  
シューティングには指定の IBM ドキュメントを使用してください。  
AT-TLS の戻りコードについては、『Communications Server: IP  
Diagnosis Guide』で「Diagnosing Application Transparent  
Transport Layer Security」の章を確認してください。例えば、戻  
りコード 416 は、PowerExchange リスナを実行するユーザー ID に  
IRR.DIGTCERT.LISTRING などのリソースを読み取る権限がない場合  
に発生する可能性がある権限エラーです。

PWX-31067

**証明書がノード node\_name に送信されなかったため、エラ  
ー error\_code が発生することがあります。NODE 文が正しい  
ことを確認してください。**

説明： この警告メッセージには、SSL\_connct()関数がエラーコード  
X'14094410'で失敗したことをレポートするエラーメッセージ  
PWX-31046 が付随します。



システムのアクション: タスクは終了します。

ユーザの応答: PowerExchange リスナが z/OS 上で実行されている場合は、AT\_TLS ルールで証明書が必要であるか確認します。リスナが Linux、Unix または Windows 上で実行されている場合は、DBMOVER 構成ファイルにある SSL\_REQ\_CLNT\_CERT 文を確認して、証明書が必要であるか判断します。リスナで証明書が必要な場合は、NODE 文の N サブパラメータを削除します。

PWX-31068 **リスナは、*number* の利用可能なクライアント暗号 '*list*' のいずれかに同意しませんでした。**

説明: この警告メッセージには、メッセージ PWX-31061 が付随します。OpenSSL SSL\_connect() 関数がエラー 'X'14094410' により失敗し、PowerExchange リスナで許容可能な暗号がクライアント暗号リストに見つからない場合に発生します。

システムのアクション: タスクは終了します。

ユーザの応答: SSL\_CIPHER\_LIST パラメータをクリアするか、PowerExchange リスナマシンで利用可能な暗号に変更します。リスナが z/OS にある場合、利用可能な暗号については AT\_TLS ルールを参照します。

PWX-31071 **GSK 変数 *variable* の設定中にエラーが発生しました。戻りコード=*return\_code*。理由=*reason\_code*。**

説明: GSK API の次の属性のいずれかを設定できなかったために、エラーが発生しました。

- gsk\_attribute\_set\_numeric\_value
- gsk\_attribute\_set\_buffer
- gsk\_attribute\_set\_enum

システムのアクション: タスクは終了します。

ユーザの応答: SSL ドキュメントで理由コードを調べます。

PWX-31072 **gsk\_secure\_socket\_close でエラーが発生しました。戻りコード=*return\_code*。理由=*reason\_code*。**

説明: GSK API gsk\_secure\_socket\_close からエラーが返されました。ソケットをクローズできませんでした。。

システムのアクション: タスクは終了します。

ユーザの応答: SSL ドキュメントで理由コードを調べます。

PWX-31073 **gsk\_secure\_socket\_misc でエラーが発生しました。戻りコード=*return\_code*。理由=*reason\_code*。**

説明: GSK API gsk\_secure\_socket\_misc からエラーが返されました。ソケットを操作できませんでした。

システムのアクション: タスクは終了します。

ユーザの応答：	SSL ドキュメントで理由コードを調べます。
PWX-31074	<b>gsk_environment_open でエラーが発生しました。戻りコード=return_code。理由=reason_code。</b>
説明：	GSK API gsk_environment_open からエラーが返されました。環境をオープンできませんでした。
システムのアクション：	タスクは終了します。
ユーザの応答：	SSL ドキュメントで理由コードを調べます。
PWX-31075	<b>環境属性の設定に失敗しました</b>
説明：	SSL ラッパルーチンからエラーが返されました。
システムのアクション：	PowerExchange がエラーを報告します。
ユーザの応答：	環境属性の設定に失敗しました。失敗しました。パラメータを確認して再試行します。
PWX-31076	<b>gsk_environment_init でエラーが発生しました。戻りコード=return_code。理由=reason_code。</b>
説明：	GSK API gsk_environment_init からエラーが返されました。環境の初期化に失敗しました。.
システムのアクション：	タスクは終了します。
ユーザの応答：	SSL ドキュメントで理由コードを調べます。
PWX-31077	<b>gsk_secure_socket_open でエラーが発生しました。戻りコード=return_code。理由=reason_code。</b>
説明：	GSK API gsk_secure_socket_open からエラーが返されました。セキュアソケットのオープンに失敗しました。.
システムのアクション：	タスクは終了します。
ユーザの応答：	SSL ドキュメントで理由コードを調べます。
PWX-31078	<b>fd 属性の設定エラーが発生しました。戻りコード=return_code。理由=reason_code。</b>
説明：	GSK API gsk_attribute_set_numeric_value からエラーが返されました。FD 属性の設定に失敗しました。.
システムのアクション：	タスクは終了します。
ユーザの応答：	SSL ドキュメントで理由コードを調べます。
PWX-31079	<b>セッションタイプの設定でエラーが発生しました。戻りコード=return_code。理由=reason_code。</b>
説明：	GSK API gsk_attribute_set_enum からエラーが返されました。セッションタイプ（クライアント/サーバー）の設定に失敗しました。.

システムのアクション: タスクは終了します。

システム:

ユーザの応答: SSL ドキュメントで理由コードを調べます。

PWX-31080 **gsk\_attribute\_set\_callback でエラーが発生しました。戻りコード=return\_code。理由=reason\_code。**

説明: GSK API gsk\_attribute\_set\_callback からエラーが返されました。ローカル IO コールバックルーチンの設定に失敗しました。.

システムのアクション: タスクは終了します。

システム:

ユーザの応答: SSL ドキュメントで理由コードを調べます。

PWX-31081 **gsk\_secure\_socket\_init でエラーが発生しました。戻りコード=return\_code。理由=reason\_code。**

説明: GSK API gsk\_secure\_socket\_init からエラーが返されました。セキュアソケットの初期化に失敗しました。.

システムのアクション: タスクは終了します。

システム:

ユーザの応答: SSL ドキュメントで理由コードを調べます。

PWX-31101 **変換エラー。ソースデータは有効なパック番号ではありません**

説明: 変換ルーチンからエラーが返されました。予期されるパックされた数値が有効ではありません。.

システムのアクション: PowerExchange がエラーを報告します。

システム:

ユーザの応答: 入力データが正しいことを確認します。

PWX-31102 **変換エラー。ターゲットアドレスがゼロです**

説明: 変換ルーチンからエラーが返されました。

システムのアクション: PowerExchange がエラーを報告します。

システム:

ユーザの応答: 入力データが正しいことを確認します。

PWX-31103 **変換エラー。ターゲット長が4または8ではありません**

説明: 変換ルーチンからエラーが返されました。

システムのアクション: PowerExchange がエラーを報告します。

システム:

ユーザの応答: 入力データが正しいことを確認します。

PWX-31104 **変換エラー。ソースアドレスがゼロです**

説明: 変換ルーチンからエラーが返されました。

システムのアクション: PowerExchange がエラーを報告します。

システム:

ユーザの応答: 入力データが正しいことを確認します。

PWX-31105	<b>変換エラー。数字のソース長が無効です（ゼロ未満または 32 以上）</b>
説明：	変換ルーチンからエラーが返されました。
システムのアクション：	PowerExchange がエラーを報告します。
ユーザの応答：	入力データが正しいことを確認します。
PWX-31106	<b>変換エラー。数字のソーススケールが無効です（ゼロ未満またはソース長を超える）</b>
説明：	変換ルーチンからエラーが返されました。
システムのアクション：	PowerExchange がエラーを報告します。
ユーザの応答：	入力データが正しいことを確認します。
PWX-31107	<b>変換エラー。検証要求が無効です（'Y' または 'N' にする必要があります）</b>
説明：	変換ルーチンからエラーが返されました。
システムのアクション：	PowerExchange がエラーを報告します。
ユーザの応答：	入力データが正しいことを確認します。
PWX-31108	<b>変換エラー。数字のターゲットスケールが無効です（ゼロ未満またはターゲット長を超える）</b>
説明：	変換ルーチンからエラーが返されました。
システムのアクション：	PowerExchange がエラーを報告します。
ユーザの応答：	入力データが正しいことを確認します。
PWX-31109	<b>変換エラー。符号なし結果要求は無効です（'Y' または 'N' にする必要があります）</b>
説明：	変換ルーチンからエラーが返されました。
システムのアクション：	PowerExchange がエラーを報告します。
ユーザの応答：	入力データが正しいことを確認します。
PWX-31110	<b>変換エラー。パック 10 進数への変換中に予期しないオーバーフローが発生しました</b>
説明：	変換ルーチンからエラーが返されました。
システムのアクション：	PowerExchange がエラーを報告します。
ユーザの応答：	入力データが正しいことを確認します。

PWX-31111      **変換エラー。パック 10 進数フィールド（符号なし）でゼロ以外のバイトが見つかりません**

説明：                      変換ルーチンからエラーが返されました。

システムのアクション：      PowerExchange がエラーを報告します。

ユーザの応答：              入力データが正しいことを確認します。

PWX-31112      **変換エラー。戻りコードまたは理由コードフィールドが指定されていません**

説明：                      変換ルーチンからエラーが返されました。

システムのアクション：      PowerExchange がエラーを報告します。

ユーザの応答：              入力データが正しいことを確認します。

PWX-31113      **変換エラー。ソースデータは有効なゾーン数値ではありません**

説明：                      変換ルーチンからエラーが返されました。

システムのアクション：      PowerExchange がエラーを報告します。

ユーザの応答：              入力データが正しいことを確認します。

PWX-31114      **変換エラー。スケーリングの前、ソース値が大きすぎます**

説明：                      変換ルーチンからエラーが返されました。

システムのアクション：      PowerExchange がエラーを報告します。

ユーザの応答：              入力データが正しいことを確認します。

PWX-31115      **変換エラー。スケーリング時に、ソース値が大きすぎます**

説明：                      変換ルーチンからエラーが返されました。

システムのアクション：      PowerExchange がエラーを報告します。

ユーザの応答：              入力データが正しいことを確認します。

PWX-31116      **変換エラー。ターゲットに入れるとき、ソース値が大きすぎます**

説明：                      変換ルーチンからエラーが返されました。

システムのアクション：      PowerExchange がエラーを報告します。

ユーザの応答：              入力データが正しいことを確認します。

PWX-31117      **変換エラー。MVS 変換ルーチンからの一般エラーです**

説明：                      変換ルーチンからエラーが返されました。

システムのアクション：      PowerExchange がエラーを報告します。

ユーザの応答：	入力データが正しいことを確認します。
PWX-31201	<b>スレッド処理がサポートされていません(理由:reason_code) - シングルスレッドモードに戻ります</b>
説明：	<p>PowerCenter セッションではマルチスレッド処理を使用できません。 指定された理由コードは、次の値のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 0. 不明。</li> <li>• 1. パラメータはサポートされていません。</li> <li>• 2. 順序指定なしの処理はサポートされていない。</li> <li>• 3. グループソースの処理のみがサポートされている。</li> <li>• 4. スレッド処理にはオフロード処理が必要である。</li> <li>• 5. 呼び出し元でリスタートトークンを管理する必要がある。</li> <li>• 6. ローカルモードの処理のみがサポートされています。</li> <li>• 7. アクセス方式がサポートされていない。</li> <li>• 8. DB 要求のタイプがサポートされていません。</li> <li>• 9. ファイル形式がサポートされていない。</li> <li>• 10. 初回バインドの遅延（最初の読み取りの後）はサポートされていない。</li> </ul>
システムのアクション：	セッションはシングルスレッドモードで実行します。
ユーザの応答：	この警告を表示させないようにするには、PWXPC アプリケーション接続のワーカースレッド属性の値を 0 に変更します。
PWX-31202	<b>スレッド処理:コンポーネントでエラー return_code1/ return_code2/return_code3が発生しました(箇所 process, スレッド threadID)</b>
説明：	<p>マルチスレッドモードで PowerCenter セッションを実行しているときに、PowerExchange コンポーネント <i>component</i> にエラーが発生しました。</p> <p>メッセージテキスト内で:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>component</i> は、エラーが発生したコンポーネントです。</li> <li>• <i>return_code1</i>、<i>return_code2</i>、および <i>return_code3</i> は、エラーに関する PowerExchange 戻りコードまたはメッセージ ID です。</li> <li>• <i>process</i> は、エラーが発生したときに実行していた PowerExchange プロセスです。</li> <li>• <i>threadID</i> はスレッド <i>thread_name</i> の ID です。</li> </ul>
システムのアクション：	PowerCenter セッションは失敗します。
ユーザの応答：	問題を診断するには、PowerCenter Integration Service マシンの PowerCenter セッションログおよび PowerExchange ログに記録された追加エラーメッセージを確認します。 サポートが必要な場合は、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-31203	<b><i>time</i> ミリ秒後にスレッドの待機でタイムアウトしました</b>
説明:	スレッドの待機中にマルチスレッド処理がタイムアウトしました。
システムのアクション:	PowerExchange がエラーを報告します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-31204	<b>スレッド <i>thread_ID</i> が予期せずに終了しました</b>
説明:	マルチスレッドモードで実行している要求の処理中に、スレッド <i>thread_ID</i> が予期せずに終了しました。
システムのアクション:	PowerExchange がエラーを報告します。
ユーザの応答:	問題を診断するには、PowerCenter Integration Service マシンの PowerCenter セッションログおよび PowerExchange ログで追加メッセージを確認します。
PWX-31205	<b>スレッドモードで要求を実行しています（ワーカースレッド:<i>worker_threads</i>、配列サイズ:<i>arraysize</i>、スタagger:<i>stagger</i>、タイムアウトまでの時間:<i>timeout</i>）</b>
説明:	要求がマルチスレッドモードで処理されています。  メッセージテキスト内で: <ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>worker_threads</i> は、PWXPC 接続のワーカースレッド属性値です。</li> <li>• <i>arraysize</i> は、PWXPC 配列サイズ接続属性値です。</li> <li>• <i>stagger</i> は、スタagger値です。</li> <li>• <i>timeout</i> は、スレッド処理のタイムアウト値です。</li> </ul>
システムのアクション:	マルチスレッド処理は継続されます。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-31208	<b>スレッドモード処理に対する動的メモリ割り当ての合計は約 <i>mb</i>MB です</b>
説明:	このメッセージには、マルチスレッドモード処理に対する動的メモリ使用量の合計（ <i>mb</i> MB）が表示されます。
システムのアクション:	マルチスレッド処理は継続されます。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。  メモリ使用率を修正するには、PowerCenter で、PWXPC ワーカースレッドおよび配列サイズ接続属性の値を変更します。
PWX-31209	<b>メモリ割り当てエラー（スレッド処理） - <i>bytes</i> バイト、ファイル <i>file</i>、行 <i>line</i></b>
説明:	マルチスレッド処理中に、メモリ割り当てエラーが発生しました。

システムのアクション:	PowerExchange がエラーを報告します。
ユーザの応答:	メモリ使用率を修正するには、PowerCenter で、PWXPC ワークスペースレッドおよび配列サイズ接続属性を変更します。
PWX-31210	<b>PowerExchange のホームディレクトリが LD_LIBRARY_PATH に見つかりません</b>
説明:	PowerExchange のホームディレクトリは、LD_LIBRARY_PATH パスにありませんでした。
システムのアクション:	マルチスレッド処理は継続されます。
ユーザの応答:	PowerExchange のホームディレクトリを LD_LIBRARY_PATH パスに追加します。次に、ノードをリスタートします。
PWX-31211	<b>新しいスレッドの作成に失敗しました。 戻りコード: <i>return_code</i>、追加情報: メッセージ</b>
説明:	PowerExchange は新しいスレッドを作成できませんでした。
システムのアクション:	ジョブの処理は継続されます。
ユーザの応答:	iSeries プラットフォームで、ジョブの説明が複数のスレッドを許可していることを確認します。 複数のスレッドを有効にするには、iSeries プラットフォームのジョブの説明で Allow Multithread (ALWMLTTHD) パラメータを編集し、ALWMLTTHD=YES と指定します。  さらに、QMLTTHDACN システム値が 1 または 2 に設定されているか、または iSeries Navigator で <b>Perform the function that is not threadsafe</b> 値に設定されていることを確認します。  <b>注:</b> i5/OS では、PowerExchange 9.0 以降の場合、PowerExchange Listener は対話モードで実行しません。
PWX-31212	<b>スレッドの作成に失敗しました。 JOBD ALWMLTTHD=*YES に設定したバッチモードで実行する必要があります。 戻りコード: <i>return_code</i> JOBD が許可するスレッド: <i>number_of_threads</i></b>
説明:	スレッドの作成に失敗しました。
システムのアクション:	システムがエラーを報告します。
ユーザの応答:	対話モードで実行している場合、ジョブとして要求をサブミットします。 ジョブの説明 ALWMLTTHD パラメータが*YES に設定されていることを確認します。
PWX-31254	<b>PowerExchange は、最後の <i>rows</i> 行のステータスをスレッド処理しています。 サイクル (配列) のサイズは <i>size</i> 行です。 配列外の <i>out</i> が発生しました。</b>
説明:	PowerExchange は、マルチスレッドセッションのパフォーマンスを報告します。



システムのアクション 処理は継続します。  
ン：

ユーザの応答：      アクションは必要ありません。

PWX-31255      **サイクル時間:pct% (avg:avgmin:min max:maxusecs)**

説明：              PowerExchange は、マルチスレッドセッションのパフォーマンスを報告します。

システムのアクション 処理は継続します。  
ン：

ユーザの応答：      アクションは必要ありません。

PWX-31256      **IO 時間:pct% (avg:avgmin:min max:maxusecs)**

説明：              PowerExchange は、マルチスレッドセッションのパフォーマンスを報告します。

システムのアクション 処理は継続します。  
ン：

ユーザの応答：      アクションは必要ありません。

PWX-31257      **パース時間:pct% (avg:avgmin:min max:maxusecs)**

説明：              PowerExchange は、マルチスレッドセッションのパフォーマンスを報告します。

システムのアクション 処理は継続します。  
ン：

ユーザの応答：      アクションは必要ありません。

PWX-31258      **外部時間:pct% (平均: avg 最小: min 最大: max マイクロ秒)**

説明：              PowerExchange は、マルチスレッドセッションのパフォーマンスを報告します。

システムのアクション 処理は継続します。  
ン：

ユーザの応答：      アクションは必要ありません。

PWX-31259      **遅延時間:pct% (avg:avgmin:min max:maxusecs)**

説明：              PowerExchange は、マルチスレッドセッションのパフォーマンスを報告します。

システムのアクション 処理は継続します。  
ン：

ユーザの応答：      アクションは必要ありません。

PWX-31260 *connection\_ID:count{send|receive}*:平均ネットワーク時間:*avg\_net\_time*、平均アプリケーション時間:*avg\_app\_time* (マイクロ秒)

説明: このメッセージは、非同期ネットワークレイヤのパフォーマンス統計を示します。BMOVER ファイルで SHOW\_THREAD\_PERF パラメータが Y に設定されている場合、接続が終了すると、このメッセージが表示されます。

PowerExchange は、送信操作に対してこのメッセージの 1 つのインスタンスを、受信操作に対して 1 つのインスタンスを表示します。

メッセージテキスト内で:

- *connection\_ID* は、PowerExchange クライアントの IP アドレスおよびポート番号です。
- *count* は、送信または受信転送の数です。
- *avg\_net\_time* は、ネットワークスレッドが TCP スタックを使用してデータを送受信するのにかった平均のマイクロ秒数です。
- *avg\_app\_time* は、アプリケーションスレッドがデータの送受信を待機した平均のマイクロ秒数です。

非同期ネットワーク処理によるパフォーマンス上のメリットを判断するには、平均ネットワーク時間と平均アプリケーション時間とを比較します。

システムのアクション: 処理は継続します。

ユーザの応答: 対応する必要はありません。

PWX-31261 **最後の *number\_of\_rows* 行に対する PowerExchange ジョイナスレッド I/O 時間:***percentage%* (平均:*average* 分:*minimum* 最大:*maximum* マイクロ秒)

説明: dbmover.cfg 構成ファイルで SHOW\_THREAD\_PERF 文を指定した場合、このメッセージは、ジョイナスレッドがパーティションセッションで I/O</ph>の実行に費やした時間を秒数で示します。メッセージは、指定された行数にわたる平均、最小、および最大の I/O</ph>時間を示します。ジョイナが I/O</ph>を実行していない場合、パーティションが処理を完了するまで待機します。

システムのアクション: バルクデータ処理は続行します。

ユーザの応答: 対応する必要はありません。

PWX-31262 **PowerExchange パーティション *partition\_number* スレッド I/O 遅延時間 (最後の *number\_of\_rows* 行に対する):***percentage%* (平均:*average* 分:*minimum* 最大:*maximum* マイクロ秒)

説明: dbmover.cfg 構成ファイルで SHOW\_THREAD\_PERF 文を指定した場合、このメッセージは、バルクデータ移動セッションの特定のパーティションの I/O</ph>遅延時間をマイクロ秒で示します。I/O</ph>遅延時間とは、パーティションがジョイナからのデータの受信を待機する時間です。メッセージは、指定された行数にわたる平均、最小、および最大の I/O</ph>遅延時間を示します。

システムのアクション バルクデータ処理は続行します。  
ン：

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-31263 **パーティション [partition\_number] :レコード  
[partition\_record\_number/joiner\_record\_number] での挿入  
操作に失敗しました (エラー return\_code1/return\_code2/  
return\_code3、ファイル [file\_name])**

説明： バルクデータ移動セッション中に、ライターパーティションでの挿入操作が、指定された戻りコードで失敗しました。メッセージには、挿入が失敗したレコードのパーティションレコード番号とジョイナレコード番号が表示されます。メッセージには、データを挿入しようとしたターゲットファイルの名前も表示されます。このメッセージは、DBMOVER コンフィギュレーションファイルの WRT\_ERROR\_HANDLING 文に、または PWX NRDB Batch アプリケーション接続の **PWX Override** 属性に Y と指定したために発行されます。

システムのアクション 挿入に失敗したデータは、ターゲットファイルに挿入されません。  
ン：

ユーザの応答： 戻りコードの説明については、[第 11 章, 「PowerExchange Messages の異常終了コード、戻りコード、理由コード」 \(ページ 664\)](#) を参照してください。追加情報については、PowerCenter セッションログで、レコード ID およびデータを含んだメッセージを確認します。詳細な診断情報については、PowerExchange メッセージログでこのメッセージの前にあるメッセージを確認します。

PWX-31502 **オフロード処理 - リモートシステムの Listener に接続できません**

説明： オフロード要求の処理中に、リモートシステムへの接続に失敗しました。この問題は通常、IP アドレスが正しくないなどのネットワーク関連の問題が原因です。

システムのアクション PowerExchange がエラーを報告します。  
ン：

ユーザの応答： 他のログエントリを調べます。

PWX-31504 **この種類の要求に対しては、オフロード処理またはスレッド処理、あるいはその両方を行えない可能性があります**

説明： この種類の要求では、オフロード処理またはスレッド処理を行えないことがあります。

システムのアクション 処理は終了します。  
ン：

ユーザの応答： 以前のエラーメッセージを確認します。必要に応じて、接続ダイアログボックスで、オフロード='N'、ワーカーズレッド=0 に設定し、要求を再実行します。

PWX-31505	<b>PowerExchange パフォーマンス設定:オフロードの種類: 'type'、ワーカースレッド: threads (接続 am、モード mode の場合)</b>
説明:	このメッセージは、この PowerExchange 接続が使用するパフォーマンス設定をまとめて示します。
システムのアクション:	処理は継続します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-31506	<b>オフロード処理は PowerCenter 接続ダイアログで指定する必要があります</b>
説明:	オフロード処理は PowerCenter 接続ダイアログボックスで指定する必要があります。
システムのアクション:	処理は継続します。
ユーザの応答:	以下の手順を実行します。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. PowerExchange Listener の構成ファイルから OFFLOAD 設定を削除します。</li> <li>2. PowerExchange データマップからオフロード設定を削除します。</li> <li>3. [PowerCenter リポジトリへの接続] ダイアログボックスでオフロード設定を指定します。</li> </ol>
PWX-31509	<b>オフロード処理用の CAPI 接続がありません</b>
説明:	オフロード処理用の CAPI 接続文がありません。
システムのアクション:	処理は終了します。
ユーザの応答:	欠落した CAPI 接続文を、クライアントで PowerExchange 構成ファイルに追加します。
PWX-31510	<b>キャッシュ済みマップのエラー後に直接データマップ取得を試みています。</b>
説明:	Linux、Unix、または Windows 上のキャッシュされたデータマップを取得できませんでした。その結果、PowerExchange はデータマップを直接取得しようとします。
システムのアクション:	PowerExchange は、データマップを直接取得して処理を続行しようとします。
ユーザの応答:	詳細については、失敗時にログに記録された detail.log ファイルで他のメッセージを検索してください。その後、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-31511	<b>オフロード処理／スレッド処理はこの種類の要求ではサポートされていません</b>
説明:	この種類の要求では、オフロード処理とスレッド処理はサポートされていません。

システムのアクション オフロード処理なしで処理が続行します。  
ン：

ユーザの応答： このメッセージを表示させないようにするには、[PowerCenter リポジトリへの接続] ダイアログボックスで offload='N' に設定します。

PWX-31513 **ソース *who* からの最適化属性の要求が失敗しました (戻りコード *return\_code*)**

説明： 最適化属性の要求が失敗しました。

システムのアクション オフロード処理またはスレッド処理のパフォーマンス設定を使用せずに、処理は続行します。

ユーザの応答： Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-31517 **抽出マップを取得するために、PowerExchange は PWX CDC アプリケーション接続からのマップ場所の値 ('*loc*') を使用してください。**

説明： PowerExchange は、PWX CDC アプリケーション接続のマップ場所属性で指定された場所で、PowerExchange Listener からこの接続の抽出マップを取得します。

システムのアクション 処理は継続します。  
ン：

ユーザの応答： 抽出マップの取得が失敗した場合、マップ場所属性が抽出マップの正しい場所を指定していることを確認します。抽出マップは、変更データがキャプチャされる PowerExchange Listener の場所にあります。PowerExchange ロgger (Linux、UNIX、Windows 用) で CDC オフロード処理を使用して、PowerExchange ロgger (Linux、UNIX、Windows 用) ログファイルに最初にキャプチャされたときのリモートシステムから変更データを再度キャプチャした場合にのみ、マップ場所属性の値を指定します。

## PWX-32000～PWX-32999

PWX-32001 **入力 SQL には WHERE 句がありますが、FROM 句がありません。**

説明： SQL は FROM 句を含みません。

システムのアクション SQL 処理が終了します。  
ン：

ユーザの応答： SQL 文を修正します。

PWX-32002 **MVS テーブルは i5/OS 上にありません。データベースの種類は DB2 でなく AS4 する必要があります**

説明： i5/OS システムから z/OS システムテーブルにアクセスしようとした。

システムのアクション: 処理は、テーブルが見つからないというエラーで終了しました。  
ン:

ユーザの応答: i5/OS システムでキャプチャ登録を追加している場合は、登録グループで種類が DB2 ではなく AS4 であることを確認します。

PWX-32003      **プール ID の作成でエラー** *pool\_name*、**戻りコード =**  
*return\_code*

説明: 一意なメモリプール名の作成に失敗しました。

システムのアクション: 処理は終了します。  
ン:

ユーザの応答: Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-32004      ***area\_name* に対するメモリの割り当て中にエラーが発生しました。戻りコード=***return\_code*

説明: メッセージに示されている領域にメモリを割り当てようとしたが、失敗しました。

システムのアクション: 処理は終了します。  
ン:

ユーザの応答: Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-32005      **アクセス方式 DBAM\_DBO に対して DBCB が無効です**

説明: 接続が開かれる前に、DBAM\_DBO アクセス方式に対して DBCB を開こうとしました。

システムのアクション: 処理は終了します。  
ン:

ユーザの応答: Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-32006      **アクセス方式 DBAM\_DBO に対して DBCB が無効です**

説明: DBAM\_EXEC アクセス方式に対して、無効な DBCB で接続を開こうとしました。

システムのアクション: 処理は終了します。  
ン:

ユーザの応答: Informatica グローバルカスタマサポートに詳細を報告します。

PWX-32007      **DB2 オフロード:バッファ長=***length***、バッファ内の行数（配列サイズ）=***rows*

説明: DB2 オフロード処理がアクティブな場合、メッセージには、データの要求された配列サイズの保持に必要な実際のバッファサイズが表示されます。

システムのアクション: 処理は継続します。  
ン:

ユーザの応答: 対応する必要はありません。

PWX-32008	<b>DB2 オフロード:APPBUFSIZE = <i>length</i>、バッファ内の最大行数 (配列サイズ) = <i>rows</i></b>
説明:	DB2 オフロード処理がアクティブであるときに、このメッセージには、アプリケーションバッファに格納できる最大行数が表示されます。
システムのアクション:	処理は継続します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-32009	<b>DB2 オフロード: DB2 オフロードを使用するには、DB2 バージョンが V8 の新しい関数モード以上である必要があります</b>
説明:	DB2 オフロードは、DB2 V8 の新しい関数モード以前のレベルで実行する DB2 サブシステムに必要でした。
システムのアクション:	処理は終了します。
ユーザの応答:	DB2 V8 の新しい関数モード以前の DB2 サブシステムでは、OFFLOAD=Y を使用できません。
PWX-32010	<b>DB2 オフロード:必要な長さ <i>length</i> が APPBUFSIZE <i>app</i> を超えています。APPBUFSIZE を増やすか、ARRAY_SIZE を減らします</b>
説明:	DB2 オフロード処理中に、設定されたアプリケーションバッファが小さすぎてデータを格納できません。
システムのアクション:	処理は終了します。
ユーザの応答:	以下のいずれかのアクションを実行します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• PowerExchange クライアント構成ファイルの APPBUFSIZE パラメータを設定することにより、アプリケーションバッファサイズを増やします。</li> <li>• PowerCenter 接続ダイアログで指定される ARRAY_SIZE を減らします。</li> </ul>
PWX-32011	<b>DB2:データ型&lt;DB2_datatype&gt; &lt;DB2_datatype_name&gt; (列 &lt;column_name&gt;) は、現在サポートされていません。</b>
説明:	DTLDESCRIBE クエリは、サポートされていない列の種類を指定しました。
システムのアクション:	処理は終了します。
ユーザの応答:	クエリからサポートされていない列を削除します。サポートされる DB2 データ型の詳細については、『PowerExchange リファレンスマニュアル』を参照してください。
PWX-32021	<b>dtl_packDb2Data 戻りコード=return_code。count 行がすでに処理されています。今回は count 行を処理しています。</b>
説明:	Assembler パックルーチンでエラーが報告されました。

システムのアクション: 処理は終了します。  
ン:

ユーザの応答: Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-32022      **ネットワークバッファにパックしています。DB2 はバッファアドレス *address* を読み取ります。サイズ *size***

説明: DB2 レコードのバッファによって、Assembler パックルーチンでエラーが発生しました。このメッセージには、エラーに関する情報が含まれます。

システムのアクション: 処理は終了します。  
ン:

ユーザの応答: メッセージ PWX-32021 を確認します。続いて、Informatica グローバルカスタマサポートに連絡し、このメッセージおよびメッセージ PWX-32021 の情報を提示します。

PWX-32023      **パック処理が用意されています。DB2 はバッファアドレス *address* を読み取ります。サイズ *size***

説明: DB2 レコードのバッファによって、Assembler パックルーチンでエラーが発生しました。このメッセージには、エラーに関する情報が含まれます。

システムのアクション: 処理は終了します。  
ン:

ユーザの応答: メッセージ PWX-32021 を確認します。続いて、Informatica グローバルカスタマサポートに連絡し、このメッセージおよびメッセージ PWX-32021 の情報を提示します。

PWX-32024      **Null 可能な列 *name* の問題。Null インジケータアドレス *address***

説明: 列によって、Assembler パックルーチンでエラーが発生しました。このメッセージには、エラーに関する情報が含まれます。

システムのアクション: 処理は終了します。  
ン:

ユーザの応答: メッセージ PWX-32021 を確認します。続いて、Informatica グローバルカスタマサポートに連絡し、このメッセージおよびメッセージ PWX-32021 の情報を提示します。

PWX-32025      **可変長カラム *name* の問題。最大長 *number*。実際の長さ *number*。アドレス *address***

説明: 列によって、Assembler パックルーチンでエラーが発生しました。このメッセージには、エラーに関する情報が含まれます。

システムのアクション: 処理は終了します。  
ン:

ユーザの応答: メッセージ PWX-32021 を確認します。続いて、Informatica グローバルカスタマサポートに連絡し、このメッセージおよびメッセージ PWX-32021 の情報を提示します。



- PWX-32031      **CCSID`ccsid`がサブシステム `subsystem` の DB2CODEPAGE パラメータにありません。**
- 説明：                  このサブシステムの DB2CODEPAGE 文内のどの CCSID パラメータにも指定されていない CCSID 値がカラムに入っています。
- システムのアクション：      処理は停止します。
- ユーザの応答：          DBMOVER コンフィギュレーションファイルで、このサブシステムの DB2CODEPAGE 文内の CCSID パラメータの 1 つにカラムの CCSID 値を追加します。
- EBCDIC\_CCSID パラメータに有効な CCSID 値が含まれている場合は、DB2CODEPAGE 文内の ASCII\_CCSID パラメータまたは UNICODE\_CCSID パラメータの 1 つにカラムの CCSID 値を追加します。この際、長さ属性（シングル、ダブル、または混合）を区別する必要があります。
- PWX-32032      **CCSID "`ccsid`" のエイリアス "`alias`" に、対応するコードページがありません。**
- 説明：                  CCSID 値を内部コードページ番号にマップするエイリアスを PowerExchange が検索したときに、CP エイリアスおよび指定された CCSID 値と一致するコードページが見つかりませんでした。
- システムのアクション：      処理は停止します。
- ユーザの応答：          エイリアスのリストを取得するには、ICUCHECK ユーティリティを実行します。ユーザーは、CP エイリアスを ICU コンバータの内部コードページ番号にマップできます。詳細については、『PowerExchange ユーティリティガイド』を参照してください。
- DBMOVER コンフィギュレーションファイルで、DB2CODEPAGE 文と、存在する ICUALIAS 文または ICUCONVERTER 文を確認します。DBMOVER 文を修正し、再実行します。問題が繰り返され、CCSID 値が有効な場合は、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
- PWX-32033      **CCSID "`EBCDIC_ccsid`" のエイリアス "`alias`" に対応するコードページがありません。CCSID "`ASCII_or_UNICODE_ccsid`" から再マップされました。**
- 説明：                  PowerExchange によって、ASCII CCSID 値または UNICODE CCSID 値が EBCDIC CCSID 値に再マップされました。EBCDIC CCSID 値を内部コードページ番号にマップするエイリアスを PowerExchange が検索したときに、CP エイリアスおよび指定された CCSID 値と一致するコードページが見つかりませんでした。
- システムのアクション：      処理は停止します。

ユーザの応答：	<p>エイリアスのリストを取得するには、ICUCHECK ユーティリティを実行します。ユーザーは、CP エイリアスを ICU コンバータの内部コードページ番号にマップできます。詳細については、『PowerExchange ユーティリティガイド』を参照してください。</p> <p>DBMOVER コンフィギュレーションファイルで、DB2CODEPAGE 文と、存在する ICUALIAS 文または ICUCONVERTER 文を確認します。DBMOVER 文を修正し、再実行します。問題が繰り返され、CCSID 値が有効な場合は、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。</p>
PWX-32034	<b>"column"と返されたデータベースカラム"column"タイプ" type"のコードページを確認することができません。</b>
説明：	メッセージに示されたカラムのコードページを PowerExchange が確認できませんでした。
システムのアクション：	処理は停止します。
ユーザの応答：	一緒に表示される PWX-32031、PWX-32032、および PWX-32033 エラーメッセージを参照してください。
PWX-32041	<b>行サイズ <i>row_size</i> が、i5/OS の最大メモリの <i>max_memory</i> バイトを超過しています。</b>
説明：	選択されたカラムの合計サイズが、i5/OS で割り当て可能な隣接メモリの最大量を超過しています。BLOB カラムまたは CLOB カラムが選択されている場合は、このエラーが発生する可能性があります。
システムのアクション：	処理は停止します。
ユーザの応答：	割り当て可能な隣接メモリの最大量を超過しないように、選択するデータを少なくします。
PWX-32042	<b>DB2 バッファサイズ <i>buffer_size</i> が、i5/OS の最大メモリの <i>max_memory</i> バイトを超過しています。行サイズ <i>row_size</i>、配列サイズ <i>array_size</i>。</b>
説明：	DB2 バッファサイズが、i5/OS で割り当て可能な隣接メモリの最大量を超過しています。DB2 バッファサイズは、選択されたカラムの合計サイズと配列サイズの積です。BLOB カラムまたは CLOB カラムが選択されており、配列サイズが大きすぎる場合に、このエラーが発生することがあります。
システムのアクション：	処理は停止します。
ユーザの応答：	<i>Array Size</i> 接続属性の値を小さくし、選択するデータを少なくして、割り当て可能な隣接メモリの最大量を超過しないようにします。

PWX-32043	DB2 <b>カラム</b> " <i>column_name</i> " のバッファサイズ <i>buffer_size</i> が、i5/OS の最大メモリの <i>maximum_memory</i> バイトを超過しています。カラムサイズ <i>column_size</i> 。配列サイズ <i>array_size</i> 。
説明：	DB2 バッファサイズが、i5/OS で割り当て可能な隣接メモリの最大量を超過しています。DB2 バッファサイズは、選択されたカラムの合計サイズと配列サイズの積です。BLOB カラムまたは CLOB カラムが選択されており、配列サイズが大きすぎる場合に、このエラーが発生することがあります。
システムのアクション：	処理は停止します。
ユーザの応答：	接続時の配列サイズを小さくし、選択するデータを少なくして、割り当て可能な隣接メモリの最大量を超過しないようにします。
PWX-32044	API QSQCHK5 の呼び出しが、エラー< <i>error_message</i> > : < <i>error_text</i> >で失敗しました。
説明：	SQL 文の内部処理が、構文チェックの呼び出しで失敗しました。
システムのアクション：	処理は停止します。
ユーザの応答：	Informatica グローバルカスタマサポートにエラーを報告してください。報告するエラーメッセージとテキストを指定してください。
PWX-32045	Falha na verificação de sintaxe SQL da instrução < <i>sql_statement</i> > no formato <i>sql_format</i> com o erro < <i>error_message</i> > : < <i>error_text</i> >.
説明：	O processamento interno da instrução SQL especificada falhou durante a verificação da sintaxe SQL.
システムのアクション：	O processamento é interrompido.
ユーザの応答：	Entre em contato com o Suporte Global a Clientes da Informatica. Informe a mensagem de erro e o texto que está incluído nessa mensagem.
PWX-32050	LOB <b>カラムの書き込みはサポートされていません。モード</b> <i>mode</i> 。カラム " <i>column_name</i> "。
説明：	PowerExchange は LOB データを書き込めません。
システムのアクション：	処理は停止します。
ユーザの応答：	LOB カラムを含むテーブルへの書き込みは行わないでください。
PWX-32051	<b>行サイズ</b> <i>row_size</i> がネットワークの最大サイズ <i>max_buffer_size</i> を超過しています。プレフィックスサイズ <i>prefix_size</i> 。カラムサイズ <i>columns_size</i> 。
説明：	一行あたりのカラムデータの最大サイズが、ネットワーク経由で送信できる最大サイズを超過している可能性があります。
システムのアクション：	処理は停止します。

ユーザの応答： 最大サイズを超過しないように、処理データを少なくします。

PWX-32052 **行サイズ *row\_size* がネットワークの最大サイズ *max\_buffer\_size* を超過しています。プレフィックスサイズ *prefix\_size*。パラメータサイズ *parameters\_size*。**

説明： 一行あたりのパラメータデータの最大サイズが、ネットワーク経由で送信できる最大サイズを超過している可能性があります。

システムのアクション： 処理は停止します。

ユーザの応答： 最大サイズを超過しないように、処理データを少なくします。

PWX-32053 **行サイズ *row\_size* がネットワークの最大サイズ *max\_buffer\_size* を超過しています。プレフィックスサイズ *prefix\_size*。カラムサイズ *columns\_size*。パラメータサイズ *parameters\_size*。**

説明： 一行あたりのカラムおよびパラメータデータの最大サイズが、ネットワーク経由で送信できる最大サイズを超過している可能性があります。

システムのアクション： 処理は停止します。

ユーザの応答： 最大サイズを超過しないように、処理データを少なくします。

PWX-32054 **必要なレコード長 *length* が RECFM=VB の最大値 *max\_length* を超えています。最大のカラム '*column\_name*'。**

説明： レコード長が、z/OS に RECFM=VB 形式で定義されているファイルに書き込み可能な最大レコード長を超えています。

システムのアクション： 処理は異常終了します。

ユーザの応答： PowerExchange ではこのテーブルの DB2 ロードファイルの書き込みはできません。

PWX-32055 **テーブル '*table\_name*' 内にカラムが見つかりませんでした。**

説明： 指定されたテーブルでカラムが見つかりませんでした。

システムのアクション： 処理は異常終了します。

ユーザの応答： テーブル名が有効であることを確認してください。

PWX-32056 **文テーブルのエントリ *count* に割り当てられた *type* 文。**

説明： このメッセージは、文テーブル使用の監査用に診断情報を提供します。

システムのアクション： 処理は継続します。

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-32057	<b>使用中の文:</b> Fetch: <i>count</i> , Insert: <i>count</i> , Update: <i>count</i> , Delete: <i>count</i> , ExecSQL: <i>count</i> .
説明:	このメッセージは、DB2 文テーブル使用の監査用に診断情報を提供します。
システムのアクション:	処理は継続します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-32058	<b>文テーブルのエントリ <i>count</i> から削除された <i>type</i> 文。</b>
説明:	このメッセージは、DB2 文テーブル使用の監査用に診断情報を提供します。
システムのアクション:	処理は継続します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-32101	<b>CDC OFFLOAD エラー - 接続のオープンが、戻りコード <i>&lt;return_code&gt;</i> で失敗しました。</b>
説明:	CAPI オフロードモジュールは、ネットワーク接続を開こうとして失敗しました。
システムのアクション:	処理は終了します。
ユーザの応答:	問題を診断するには、ローカルおよびリモートのターゲットログで診断情報を確認します。
PWX-32102	<b>CDC OFFLOAD エラー - 依存接続のオープンが、戻りコード <i>&lt;return_code&gt;</i> で失敗しました。</b>
説明:	CAPI オフロードモジュールは、依存ネットワーク接続を開こうとして失敗しました。
システムのアクション:	処理は終了します。
ユーザの応答:	問題を診断するには、ローカルおよびリモートのターゲットログで診断情報を確認します。
PWX-32103	<b>CDC OFFLOAD エラー - SQL <i>&lt;SQL_string&gt;</i> に関する記述に、戻りコード <i>&lt;return_code&gt;</i> で失敗しました。</b>
説明:	CAPI オフロードモジュールは、パラメータまたはデータ SQL について記述しようとして失敗しました。
システムのアクション:	処理は終了します。
ユーザの応答:	問題を診断するには、ローカルおよびリモートのターゲットログで診断情報を確認します。情報を収集して、Informatica グローバルカスタマサポートに連絡します。

PWX-32104	<b>CDC オフロードエラー - CAPI_CONNECTION&lt;connection_name&gt;がローカル構成ファイルに見つかりません。</b>
説明:	CAPI オフロードモジュールでは、プロセスの CAPI_CONNECTION 文をローカル PowerExchange 構成ファイルで定義する必要があります。
システムのアクション:	処理は終了します。
ユーザの応答:	適切な CAPI_CONNECTION 文をローカル PowerExchange 構成ファイルに追加します。
PWX-32105	<b>CDC オフロードエラー - CAPI_CONNECTION&lt;connection_name&gt;内の CAPINAME パラメータが自己参照しています。</b>
説明:	CAPI_CONNECTION 文内の CAPINAME パラメータは、別の CAPI_CONNECTION を参照する必要があります。
システムのアクション:	処理は終了します。
ユーザの応答:	CAPI_CONNECTION 文をローカル PowerExchange 構成ファイルで修正します。
PWX-32106	<b>CDC OFFLOAD エラー - ローカルコードページ &lt;local_control_code_page&gt;からリモートコードページ &lt;remote_control_code_page&gt;へのパラメータトランスレータを初期化できません。</b>
説明:	オフロードノードとの通信時にパラメータの変換に使用される制御構造体の初期化中に、CAPI オフロードモジュールにエラーが発生しました。
システムのアクション:	処理は中断されます。
ユーザの応答:	エラーの理由を決定するには、関連付けられているメッセージを確認します。
PWX-32107	<b>CDC OFFLOAD エラー - ローカルコードページ &lt;ocal_control_code_page&gt;からリモートコードページ &lt;remote_control_code_page&gt;にパラメータを変換できません。</b>
説明:	オフロードノードとの通信時にパラメータを変換しようとすると、CAPI オフロードモジュールにエラーが発生しました。
システムのアクション:	処理は中断されます。
ユーザの応答:	エラーの理由を決定するには、関連付けられているメッセージを確認します。

PWX-32108      CDC オフロードエラー - *<object>*をリモートノードに送信できません。シリアル化戻りコード*<return\_code>*。

説明：                  リモートノードに送信するために CAPI データをシリアル化しているときに、CAPI オフロードモジュールにエラーが発生しました。

システムのアクション：      処理は中断されます。

ユーザの応答：          Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-32109      CDC OFFLOAD エラー - 戻りコード *return\_code1/return\_code2/return\_code3*で DBAPI 読み取りに失敗しました。

説明：                  リモートノードに送信するためにデータをシリアル化しているときに、CAPI オフロードモジュールにエラーが発生しました。

システムのアクション：      処理は中断されます。

ユーザの応答：          Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-32110      CDC オフロードエラー - 不明なパラメータ *<parameter\_name>*が CAPI オフロードに渡されました。

説明：                  CAPI オフロードモジュールが不明なパラメータを受信しました。

システムのアクション：      処理は中断されます。

ユーザの応答：          Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-32111      CDC OFFLOAD エラー-必須パラメータ*<parameter\_name>*がありません。

説明：                  CAPI オフロードモジュールは必須パラメータを受信しませんでした。

システムのアクション：      処理は中断されます。

ユーザの応答：          Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-32112      CDC OFFLOAD エラー - リモートノードへの*<object>*の送信中に予期しないデータを検出しました。

説明：                  CAPI データをリモートノードに送信しているときに、CAPI オフロードモジュールで予期しないデータを検出しました。

システムのアクション：      処理は中断されます。

ユーザの応答：          Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-32113      CAPOFFLD 情報 - CAPI オフロードプロキシを初期化しています。VRM *<PWX\_version>*ビルド*<build>*日付*<build\_date>*。

説明：                  このメッセージは情報目的です。

システムのアクション：      処理は継続します。

ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-32114	<b>CAPOFFLD 情報 - CAPI オフロードスタブを初期化していません。VRM &lt;PWX_version&gt;ビルド&lt;build&gt;日付&lt;build_date&gt;。</b>
説明：	このメッセージは情報目的です。
システムのアクション：	処理は継続します。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-32115	<b>CDC OFFLOAD エラー - 関数&lt;function_name&gt;が無効な DBCB 番号&lt;dbcb_number&gt;で呼び出されました。</b>
説明：	内部エラーが発生しました。
システムのアクション：	処理は継続します。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-32116	<b>CDC オフロードエラー - モジュール&lt;module_name&gt;行&lt;line_number&gt;:利用できるメモリリソースが不足しています。&lt;byte&gt;バイトの割り当て要求に失敗しました。</b>
説明：	タスクは、メモリリソースが不十分なため完了できません。
システムのアクション：	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答：	タスクで利用可能なメモリのリソースを拡張します。エラーが解決しない場合は、Informatica グローバルカスタマサポートに連絡します。
PWX-32117	<b>CDC オフロードエラー - &lt;object&gt;の送信時に予期されたデータがオフロードノードから返されませんでした。</b>
説明：	予期された CAPI データがオフロードノードから返されませんでした。
システムのアクション：	処理は中断されます。
ユーザの応答：	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-32118	<b>CDC OFFLOAD エラー-予期されたデータがオフロードノードで受信されませんでした。</b>
説明：	予期された CAPI データがオフロードノードで受信されませんでした。
システムのアクション：	処理は中断されます。
ユーザの応答：	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-32119	<b>CDC オフロードエラー - 認識されない要求&lt;request&gt;がオフロードノードによって受信されました。</b>
説明：	オフロードノードが不明な種類の処理要求を受信しました。



システムのアクション: 処理は中断されます。

ン:

ユーザの応答: Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-32120 CDC オフロードエラー - 予期しないデータ型<data\_type>がオフロードノードでの要求<request>の処理中に受信されました。

説明: オフロードノードは、要求に対して予期しないデータを受信しました。

システムのアクション: 処理は中断されます。

ン:

ユーザの応答: Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-32121 CDC オフロードエラー - 必須データ型<data\_type>がオフロードノードの下位 CAPI から返されませんでした。CAPI 戻りコード=<return\_code>。

説明: オフロードノードでの CAPI 読み取りが、予期されたデータの取得に失敗しました。

システムのアクション: 処理は中断されます。

ン:

ユーザの応答: Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-32122 CDC OFFLOAD エラー - オフロードノードの下位 CAPI から予期しないレコード型<record\_type>が返されました。

説明: オフロードノードでの CAPI 読み取りから、予期しないレコード型が返されました。

システムのアクション: 処理は中断されます。

ン:

ユーザの応答: Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-32123 CDC オフロードエラー - オフロード接続の切断に失敗しました。DBAM 戻りコード=<return\_code>。

説明: CAPI オフロードモジュールは、ピアノードへの接続を切断しようとしたが、失敗しました。

システムのアクション: 処理は終了します。

ン:

ユーザの応答: 診断情報については、ローカルログまたはリモートピアのログを確認します。情報を収集して、Informatica グローバルカスタマサポートに連絡します。

PWX-32124 CAPOFFLD 警告 - オープンタスク DBCB が戻りコード<return\_code>で失敗しました。

説明: シャットダウン処理中、シャットダウンをリモートピアに通信しようとしたが失敗しました。

システムのアクション: タスクがシャットダウンします。

ン:

ユーザの応答：	問題を診断するには、ローカルおよびリモートのターゲットログで診断情報を確認します。
PWX-32125	<b>CAPOFFLD 警告 - 実行タスク DBCB が、戻りコード <code>&lt;return_code&gt;</code> で失敗しました。</b>
説明：	シャットダウン処理中、シャットダウンのリモートピアへの通信に失敗しました。
システムのアクション：	タスクがシャットダウンします。
ユーザの応答：	問題を診断するには、ローカルおよびリモートのターゲットログで診断情報を確認します。
PWX-32126	<b>CAPOFFLD 警告 - 割り当てられた時間（10 秒）以内に、データストリームの終わりがピアタスクから受信されませんでした。</b>
説明：	シャットダウン処理中に、リモートピアがファイルの終わりを返せませんでした。
システムのアクション：	タスクがシャットダウンします。
ユーザの応答：	問題を診断するには、ローカルおよびリモートのターゲットログで診断情報を確認します。
PWX-32127	<b>CDC OFFLOAD エラー - GenRestart 読み取り呼び出しから予期しない戻りコードが返されました。戻りコード <code>=&lt;return_code&gt;</code>。</b>
説明：	GenRestart 処理中に、ピアノードでの読み取りで予期しない状況が発生しました。
システムのアクション：	処理は終了します。
ユーザの応答：	診断情報は、ローカルまたはリモートピアのログに表示されます。情報を収集して、Informatica グローバルカスタマサポートに連絡します。
PWX-32128	<b>CDC オフロードエラー - <code>&lt;source&gt;</code> の CAPI 接続定義がローカル PowerExchange 構成ファイルに見つかりませんでした。</b>
説明：	CDC ソースのオフロード処理には、ローカルで CAPI 接続が定義されている必要があります。 処理は終了します。
システムのアクション：	CAPI_CONNECTION 文をローカル PowerExchange 構成ファイルに追加します。
PWX-32129	<b>CDC OFFLOAD エラー - 戻りコード <code>return_code1/return_code2/return_code3</code> で DBAPI プレゼンス呼び出しに失敗しました。</b>
説明：	オフロードピアに送信するためにデータをシリアル化しているときに、CAPI オフロードモジュールにエラーが発生しました。

システムのアクション 処理は中断されます。

ン：

ユーザの応答： Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-32130 CDC OFFLOAD エラー - タイムアウト呼び出しのセットが、戻りコード *return\_code* で失敗しました。

説明： オフロードピアに送信するためにデータをシリアル化しているときに、CAPI オフロードモジュールにエラーが発生しました。

システムのアクション 処理は中断されます。

ン：

ユーザの応答： Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-32131 CDC OFFLOAD エラー - 必須データ型 *<data\_type>* がオフロードピアから返されませんでした。

説明： シリアル化レコードには予期されたデータが含まれませんでした。

システムのアクション 処理は中断されます。

ン：

ユーザの応答： Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-32132 CDC オフロードエラー - バッファへのデータのシリアル化に失敗しました。 *<bytes\_requested>* が必要でした。 *<bytes\_available>* が使用可能です。

説明： レコードデータのシリアル化に必要な容量がアプリケーションのバッファサイズを超えています。

システムのアクション 処理は中断されます。

ン：

ユーザの応答： PowerExchange 構成ファイルで APPBUFSIZE パラメータを増やします。

PWX-32133 CDC オフロードエラー - ORAD 接続 *connection\_name* では、オフロードピアの dbmover コンフィギュレーションファイルで ORACLE\_CAPTURE\_TYPE=D を指定する必要があります。

説明： ORAD CAPI\_CONNECTION を使用する場合、カラムレベルの処理をリモートの PowerExchange Listener からオフロードしたり、PowerExchange ロgger（Linux、UNIX、Windows 用）を使用してリモートの PowerExchange Listener から変更データを記録したりする際は、PowerExchange Listener を実行するピアシステムの dbmover.cfg ファイルで ORACLE\_CAPTURE\_TYPE 文を D に設定する必要があります。

システムのアクション PowerExchange CDC 処理が異常終了します。

ン：

ユーザの応答： ピアシステムの dbmover コンフィギュレーションファイルで、ORACLE\_CAPTURE\_TYPE 文を入力して値を D に設定します。

PWX-32134	<b>CDC OFFLOAD の開始 - &lt;registration_count&gt;の最初の登録&lt;registration_name&gt;が&lt;restart_rba&gt;を再起動します。</b>
説明:	<p>カラムレベルの処理をオフロードする、あるいは z/OS または i5/OS システムをリモートの Linux、UNIX、Windows 向け PowerExchange ロggerのインスタンスに再記録する場合、このメッセージは対象の最初の登録を示し、抽出処理またはリモートの PowerExchange ロggerが変更レコードの処理を開始する RBA を再起動します。</p> <p>このメッセージには次の変数が含まれています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>registration_name</i> は最初の登録の登録タグ名です。</li> <li>• <i>registration_count</i> はソースにアクティブな登録の数です。</li> <li>• <i>restart_rba</i> は抽出セッションまたは Linux、UNIC、Windows インスタンス向け PowerExchange ロggerが読み取り変更を開始する RBA です。</li> </ul>
システムのアクション:	CDC 処理を続行します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。このメッセージを使用して、オフロードまたはリモートのログ記録を使用する CDC セッションを監視します。
PWX-32135	<b>CDC オフロード要求&lt;request_type&gt;は、データをアクティブに読み取っている間には処理できません。</b>
説明:	内部エラーが発生しました。インタフェースがデータをアクティブに読み取っている間に処理できない CAPI 要求が受信されました。
システムのアクション:	この CAPI 要求は無視されます。処理は継続します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。このメッセージは、Informatica 担当者がトラブルシューティング用に使用するものです。
PWX-32136	<b>CDC OFFLOAD エラー - セットバージョン呼び出しが、戻りコード <i>return_code</i> で失敗しました。</b>
説明:	PowerExchange で、Linux、UNIX、および Windows のリモート PowerExchange ロggerに送信する変更データをシリアル化した際に、CDC OFFLOAD エラーが発生しました。
システムのアクション:	CDC の処理は終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-32150	<b>CAPI エラー - 不明なパラメータ&lt;parameter_name&gt;が CAPI に渡されました。</b>
説明:	不明なパラメータが CAPI モジュールに渡されました。
システムのアクション:	処理は中断されます。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-32200	<b>API Open は、共有接続下でない文に対しては無効です。</b>
説明:	接続共有を使用して文を開こうとしましたが、接続が確立されていません。
システムのアクション:	処理は終了します。
ユーザの応答:	接続共有がアクティブな接続に文が関連付けられていることを確認してください。
PWX-32201	<b>API Open - 接続共有環境がアクティブではありません</b>
説明:	接続共有を使用して文を開こうとしましたが、接続共有環境がアクティブではありません。
システムのアクション:	処理は終了します。
ユーザの応答:	接続共有がアクティブな接続に文が関連付けられていることを確認してください。
PWX-32202	<b>接続共有ネットワークエラー: チャンネル <i>channel</i>、サブチャンネル <i>subchannel</i></b>
説明:	チャンネルまたはサブチャンネルが、接続上のアクティブな文に対応していません。
システムのアクション:	処理は終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-32203	<b>接続共有は <i>request</i> 要求をサポートしません</b>
説明:	共有接続は試行された要求をサポートしません。
システムのアクション:	処理は終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-32204	<b>ネットワークエラー: <i>rsc return_code_1/return_code_2/return_code_3</i> 次の <i>request</i> 要求先 <i>location</i></b>
説明:	要求の処理中に PowerExchange でネットワークエラーが検出されました。
システムのアクション:	処理は終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-32205	<b>ファイルに対するネットワーク受信エラー?- ユーザーデータが返されていません。 <i>rsc return_code_1/return_code_2/return_code_3</i></b>
説明:	要求に対する応答として、PowerExchange リスナからデータを受信していません。
システムのアクション:	処理は終了します。

ユーザの応答： Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-32206      **リモート request 要求の失敗。場所 location-rcs  
return\_code\_1/return\_code\_2/return\_code\_3**

説明：              要求に対する応答として、PowerExchange リスナからデータを受信していません。

システムのアクション： 処理は終了します。

ユーザの応答：      Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-32207      **無効なネットワーク構造タイプ type がアドレス address に  
見つかりました**

説明：              PowerExchange はネットワークバッファで識別できないメッセージタイプを検出しました。

システムのアクション： 処理は終了します。

ユーザの応答：      Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-32208      **ネットワークデータとアクティブなデータ要求を関連付けられ  
ません**

説明：              PowerExchange は有効なネットワークデータを受信しましたが、それはアクティブなデータ要求に対するものではありませんでした。

システムのアクション： 処理は終了します。

ユーザの応答：      Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-32501      **サービスはコマンドハンドラに 2 度登録しようとしてしました。**

説明：              PowerExchange Listener、PowerExchange Condense、または PowerExchange ロgger（Linux、UNIX、Windows 用）プロセスのコマンド処理サービスは、pwxcmd コマンドハンドラの 1 つのインスタンスだけから、入力コマンドを受信できます。

システムのアクション： pwxcmd コマンドハンドラは追加サブスクリプションを無視します。 処理は継続します。

ユーザの応答：      対応する必要はありません。

PWX-32503      **コマンドハンドラの初期化が完了しました。ポート  
port\_number でリスンしています。**

説明：              エラーが発生せずに、pwxcmd コマンドハンドラの初期化が完了しました。

システムのアクション： pwxcmd コマンドハンドラは、指定されたポート番号でコマンドをリスンします。 処理は継続します。

ユーザの応答：      対応する必要はありません。

PWX-32504	<b>コマンドハンドラで内部エラーが発生しました。</b>
説明：	コマンドの処理中に、pwxcmd コマンドハンドラに内部エラーが発生しました。
システムのアクション：	エラーによっては、処理が続行する場合があります。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-32505	<b>データモデルの検証に失敗しました。</b>
説明：	pwxcmd コマンドハンドラは、PowerExchange Listener、PowerExchange Condense、または PowerExchange ロガー（Linux、UNIX、Windows 用）プロセスのコマンド処理サービスから、無効な応答を受信しました。
システムのアクション：	pwxcmd コマンドハンドラは、無効な応答を破棄します。処理は続きます。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-32506	<b>コマンドハンドラの初期化に失敗しました。</b>
説明：	pwxcmd コマンドハンドラは初期化できませんでした。
システムのアクション：	pwxcmd コマンドは処理できません。
ユーザの応答：	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。エラー時に実行中の関数に関する情報を示します。
PWX-32507	<b>プログラムが無効なアクションを実行しようとしてしました。</b>
説明：	コマンドの処理中に、pwxcmd コマンドハンドラに内部エラーが発生しました。
システムのアクション：	エラーによっては、処理が続行する場合があります。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-32508	<b>シグナルを抑制できません: チェック POSIX (ON) が設定されています。</b>
説明：	システムはシグナルを抑制できませんでした。
システムのアクション：	処理は続きます。
ユーザの応答：	PowerExchange Listener が POSIX (ON) で実行していることを確認します。
PWX-32530	<b>メッセージは予期しない通信チャネルで受信されました。</b>
説明：	pwxcmd コマンドハンドラは、予期しないソースから要求を受信しました。
システムのアクション：	pwxcmd コマンドハンドラは要求を無視します。処理は続きます。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。

PWX-32531	<b>コマンドハンドラは PWXCMD 接続への参照の追加に失敗しました。</b>
説明:	メッセージの処理中、pwxcmd コマンドハンドラが接続を開いたままにするために参照を接続に追加しようとしたが、失敗しました。
システムのアクション:	pwxcmd コマンドハンドラは要求を無視します。処理は継続します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-32532	<b>受信した接続に無効なサービスの種類が含まれていました。サービス <i>service</i> への接続が拒否されました。</b>
説明:	PowerExchange Listener、PowerExchange Condense、または PowerExchange ロgger（Linux、UNIX、Windows 用）プロセスのコマンド処理サービスは、クライアントからチャンネルを開くように求める要求を受信しました。ただし、クライアントが指定したサービスの種類が正しくありませんでした。
システムのアクション:	PowerExchange コマンド処理サービスはチャンネル要求を拒否します。処理は継続します。
ユーザの応答:	DBMOVER コンフィギュレーションファイル内の CMDNODE 文を確認します。サービスの種類が、リモートマシンでリスンしている PowerExchange コマンド処理サービスのサービスの種類に一致していることを確認します。有効なサービスの種類は LISTENER および CONDENSE です。
PWX-32533	<b>サービスの名前または種類が、PWXCMD コマンドハンドラで使用できません。PWXCMD 入力が無効です。</b>
説明:	PowerExchange Listener、PowerExchange Condense、または PowerExchange ロgger（Linux、UNIX、Windows 用）プロセスは、pwxcmd コマンドハンドラを開始しようとしたが、サービス名またはサービスタイプを指定できませんでした。
システムのアクション:	pwxcmd コマンド入力が無効です。処理は継続します。
ユーザの応答:	PowerExchange プロセスが、pwxcmd コマンドを受信するように正しく設定されていることを確認します。
PWX-32534	<b>サービスノードが、PWXCMD コマンドハンドラで使用できません。PWXCMD 入力が無効です。</b>
説明:	PowerExchange Listener、PowerExchange Condense、または PowerExchange ロgger（Linux、UNIX、Windows 用）サービスは、pwxcmd コマンドハンドラを開始しようとしたが、DBMOVER コンフィギュレーションファイル内のサービス名に一致する SVCNODE エントリが見つかりませんでした。
システムのアクション:	pwxcmd コマンド入力が無効です。処理は継続します。
ユーザの応答:	PowerExchange プロセスが、pwxcmd コマンドを受信するように正しく設定されていることを確認します。



PWX-32535	<b>サービスノードポート <i>port_number</i> はすでに使用されています (<i>function</i>、<i>return_code</i>)。PWXCMD 入力が無効です。</b>
説明:	dbmover.cfg 構成ファイルの SVCNODE 文で指定されたポートがすでに使用されているため、pwxcmd コマンドのターゲットである PowerExchange プロセスに関連付けられたサービスは、コマンドハンドラを開始できません。このメッセージでは、診断のために、このエラーを報告した関数とその戻りコードを報告します。
システムのアクション:	pwxcmd プログラムへの入力は無効になります。処理は継続します。
ユーザの応答:	pwxcmd コマンド処理のために、サービスが正しく設定されていることを確認します。
PWX-32550	<b>データモデルからコマンドを抽出できません。</b>
説明:	PowerExchange Listener、PowerExchange Condense、または PowerExchange ロgger (Linux、UNIX、Windows 用) サービスは、受信したデータモデルから認識したコマンドを抽出できませんでした。
システムのアクション:	pwxcmd コマンドハンドラの処理が継続されます。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-32551	<b>コマンド <i>command</i> が認識されません。</b>
説明:	PowerExchange Listener、PowerExchange Condense、または PowerExchange ロgger (Linux、UNIX、Windows 用) プロセスのコマンド処理サービスは、指定されたコマンドを認識しませんでした。
システムのアクション:	pwxcmd コマンドハンドラの処理が継続されます。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-32552	<b>PWXCMD コマンドの処理に失敗しました。詳細については、ログを参照してください。</b>
説明:	コマンドの処理中、PowerExchange Listener、PowerExchange Condense、または PowerExchange ロgger (Linux、UNIX、Windows 用) プロセスのコマンド処理サービスに、エラーが発生しました。
システムのアクション:	pwxcmd コマンドハンドラの処理が継続されます。
ユーザの応答:	詳細については、PowerExchange Listener、PowerExchange Condense、または PowerExchange ロgger (Linux、UNIX、Windows 用) プロセスのログを参照してください。

PWX-32553	<b>ローカルコードページへの PWXCMD コマンドの変換に失敗しました。</b>
説明：	PowerExchange Listener、PowerExchange Condense、または PowerExchange ロgger（Linux、UNIX、Windows 用）プロセスの コマンド処理サービスに、pwxcmd コマンドの処理中、エラーが発生しました。
システムのアクション：	pwxcmd コマンドは無視されます。処理は継続します。
ユーザの応答：	詳細については、PowerExchange Listener、PowerExchange Condense、または PowerExchange ロgger（Linux、UNIX、Windows 用）プロセスのログを参照してください。
PWX-32554	<b>ローカルコードページからの PWXCMD レスポンスの変換に失敗しました。</b>
説明：	pwxcmd コマンドに対する応答の処理中、PowerExchange Listener、PowerExchange Condense、または PowerExchange ロgger（Linux、UNIX、Windows 用）プロセスの コマンド処理サービスに、エラーが発生しました。
システムのアクション：	PowerExchange プロセスのコマンド処理サービスは、コマンドの応答を破棄し、エラーを返します。
ユーザの応答：	詳細については、PowerExchange Listener、PowerExchange Condense、または PowerExchange ロgger（Linux、UNIX、Windows 用）プロセスのログを参照してください。
PWX-32555	<b>コマンド <i>command_name</i> では引数の「<i>argument</i>」が認識されません。</b>
説明：	PowerExchange リスナ、ロgger、または Condense Service では、指定されたコマンド引数が認識されません。
システムのアクション：	処理は継続します。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。コマンドを実行するには、『コマンドリファレンス』の正しいコマンド構文と一致していることを確認します。
PWX-32600	<b>コマンドハンドラ通信の初期化に失敗しました。</b>
説明：	内部エラーが発生しました。
システムのアクション：	pwxcmd コマンドの処理が終了します。
ユーザの応答：	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-32601	<b>コマンドハンドラは、<i>remote_service</i> への接続の作成に失敗しました。</b>
説明：	pwxcmd コマンドハンドラは、PowerExchange Listener、PowerExchange Condense、または PowerExchange ロgger（Linux、UNIX、Windows 用）プロセスの指定されたコマンド処理サービスと通信を確立できませんでした。

システムのアクション pwxcmd コマンドの処理が終了します。  
ン：

ユーザの応答： 以下の内容を確認します。

- コマンドを発行したマシン上の dbmover.cfg 内の CMDNODE 文は、指定された PowerExchange プロセスに対して正しいノード名およびポートを指定している。
- pwxcmd コマンドのターゲットである PowerExchange プロセスが稼働している。
- pwxcmd コマンドのターゲットである PowerExchange プロセスが初期化されたときに、コマンドハンドラサービスが開始した。  
エラーの原因を特定できない場合は、Informatica グローバルカスタマサポートに連絡します。

PWX-32602 **コマンドハンドラは、*remote\_service* へのチャネルの作成に失敗しました。**

説明： pwxcmd コマンドハンドラは、PowerExchange Listener、PowerExchange Condense、または PowerExchange ロgger（Linux、UNIX、Windows 用）プロセスの指定されたリモートコマンド処理サービスへチャネルを作成できませんでした。

システムのアクション pwxcmd コマンドは終了します。  
ン：

ユーザの応答： リモート PowerExchange プロセスのステータスを確認します。

PWX-32603 **コマンドハンドラは *remote\_service* へのメッセージの送信に失敗しました。**

説明： pwxcmd コマンドハンドラは、PowerExchange Listener、PowerExchange Condense、または PowerExchange ロgger（Linux、UNIX、Windows 用）プロセスの指定されたリモートコマンド処理サービスへメッセージを送信できませんでした。

システムのアクション pwxcmd コマンドハンドラの処理が終了します。  
ン：

ユーザの応答： リモート PowerExchange プロセスのステータスを確認します。

PWX-32604 **コマンドハンドラは *remote\_service* からの応答の受信に失敗しました。**

説明： pwxcmd コマンドハンドラは、PowerExchange Listener、PowerExchange Condense、または PowerExchange ロgger（Linux、UNIX、Windows 用）プロセスの指定されたリモートコマンド処理サービスから応答を受信できませんでした。

システムのアクション pwxcmd コマンドハンドラの処理が終了します。  
ン：

ユーザの応答： リモート PowerExchange プロセスのステータスを確認します。

PWX-32605	<b>構成ファイルにサービス <i>remote_service</i> のコマンドノードエントリがありません。</b>
説明:	pwxcmd コマンドハンドラは、PowerExchange Listener、PowerExchange Condense、または PowerExchange ロgger (Linux、UNIX、Windows 用) プロセスの指定されたリモートコマンド処理サービスの DBMOVER コンフィギュレーションファイルで CMNNODE エントリを見つけませんでした。
システムのアクション:	pwxcmd コマンドハンドラの処理が終了します。
ユーザの応答:	DBMOVER コンフィギュレーションファイル内の CMDNODE エントリを確認します。
PWX-32606	<b>コマンドハンドラチャネルの作成は <i>remote_service</i> によって拒否されました。</b>
説明:	PowerExchange Listener、PowerExchange Condense、または PowerExchange ロgger (Linux、UNIX、Windows 用) プロセスの指定されたリモートコマンド処理サービスは、通信の許可を拒否しました。
システムのアクション:	処理は終了します。
ユーザの応答:	ローカル DBMOVER コンフィギュレーションファイルで、CMDNODE エントリを調べ、リモート DBMOVER コンフィギュレーションファイルの SVCNODE エントリで指定されているように、サービスタイプがリモートマシンのポートを使用するサービスのサービスタイプと一致することを確認します。
PWX-32610	<b>コマンド構文に "pwxcmd -help" と入力します。</b>
説明:	pwxcmd コマンドが発行されましたが、必須パラメータがありませんでした。
システムのアクション:	pwxcmd コマンドの処理が終了します。
ユーザの応答:	必須パラメータを付けて再度コマンドを発行します。
PWX-32611	<b>使用可能なコマンドに "pwxcmd -help" と入力します。</b>
説明:	pwxcmd コマンドが発行されましたが、認識できないコマンドでした。
システムのアクション:	pwxcmd コマンドの処理が終了します。
ユーザの応答:	有効な pwxcmd コマンドを発行します。
PWX-32612	<b>サービス "<i>remote_service</i>" で実行されたコマンド "<i>command</i>" からの応答</b>
説明:	指定されたサービスに対する指定された pwxcmd コマンドからの応答を受信しました。
システムのアクション:	pwxcmd コマンドの処理が継続されます。

ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-32613	<b>戻りコード <i>return_code</i> を、コマンド "<i>command</i>" (サービス "<i>remote_service</i>" で実行) から受信しました。</b>
説明：	指定されたサービスに対する指定された <i>pwxcmd</i> コマンドから、指定された戻りコードを受信しました。
システムのアクション：	<i>pwxcmd</i> コマンドの処理が継続されます。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-32614	<b><i>pwxcmd</i> プログラムは推奨されていませんが、現在も機能します。PowerExchange アプリケーションサービスを管理するには、<i>infacmd pwx</i> を使用してください。</b>
説明：	PowerExchange アプリケーションサービスで管理される PowerExchange プロセスを制御するために、 <i>pwxcmd</i> プログラムからコマンドが発行されました。 <i>pwxcmd</i> プログラムは推奨されていませんが、現在もサポートされています。
システムのアクション：	PowerExchange は <i>pwxcmd</i> コマンドを処理します。
ユーザの応答：	PowerExchange アプリケーションサービスで管理される PowerExchange プロセスにコマンドを発行するには、 <i>pwxcmd</i> プログラムの代わりに <i>infacmd pwx</i> プログラムを使用してください。 <i>infacmd pwx</i> プログラムの詳細については、『 <i>Informatica コマンドリファレンス</i> 』を参照してください。 .
PWX-32700	<b>PowerExchange Listener の主なタスクが起動に失敗しました。</b>
説明：	z/OS で、PowerExchange Listener の DTLLST タスクが失敗しました。 エラーの最も一般的な原因は、DBMOVER コンフィギュレーションファイルでの構成エラーです。 他の考えられるエラーの原因には、メモリの不足、インストールでのライブラリの欠落、ライブラリファイルに対する権限の不足があります。
システムのアクション：	PowerExchange Listener が起動できません。
ユーザの応答：	DBMOVER コンフィギュレーションファイルで、PowerExchange Listener 構成を確認します。 問題を修正できない場合は、Informatica グローバルカスタマサポートまでお問い合わせください。
PWX-32701	<b>PowerExchange Listener のコマンドハンドラタスクが起動に失敗しました。</b>
説明：	PowerExchange Listener のコマンドハンドラタスクが失敗しました。 エラーの最も一般的な原因は、DBMOVER コンフィギュレーションファイルでの構成エラーです。 他の考えられるエラーの原因には、メモリの不足、インストールでのライブラリの欠落、ライブラリファイルに対する権限の不足があります。
システムのアクション：	PowerExchange Listener が起動できません。

ユーザの応答：	DBMOVER コンフィギュレーションファイルで、PowerExchange Listener 構成を確認します。問題を修正できない場合は、Informatica グローバルカスタマサポートまでお問い合わせください。
PWX-32702	<b>PowerExchange ロggerのメインタスクの起動に失敗しました。</b>
説明：	PowerExchange ロggerのメインタスクが起動しませんでした。
システムのアクション：	PowerExchange ロggerを起動できません。
ユーザの応答：	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-32750	<b>クライアントプロセスがサーバープロセスへのデータモデルの送信に失敗しました。</b>
説明：	内部エラーが発生しました。一部の PowerExchange プロセスは、データモデルを送受信することにより通信しますが、送信操作が失敗しました。
システムのアクション：	データのコンテンツに応じて、システムは処理を続けることができます。データが重要であった場合は、処理が終了します。
ユーザの応答：	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-32753	<b>データモデルの逆シリアル化に失敗しました。</b>
説明：	内部エラーが発生しました。一部の PowerExchange プロセスは、データモデルを送受信して通信し、受信側は、受信したバイトのストリームからデータモデルを構築する必要があります。逆シリアル化操作が失敗しました。
システムのアクション：	データのコンテンツに応じて、システムは処理を続けることができます。データが重要であった場合は、処理が終了します。
ユーザの応答：	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-32754	<b>データモデルの作成に失敗しました。</b>
説明：	内部エラーが発生しました。データモデルを作成しようとしたが、この操作は失敗しました。
システムのアクション：	データのコンテンツに応じて、システムは処理を続けることができます。データが重要であった場合は、処理が終了します。
ユーザの応答：	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-32755	<b>データモデルのパースに失敗しました。</b>
説明：	内部エラーが発生しました。データモデルをパースしようとしたが、この操作は失敗しました。このエラーは、PowerExchange ISP サーバーがクライアントからのリモートプロシージャ呼び出しコマンドを処理するとき、またはクライアントが PowerExchange ISP サーバーからの応答を処理するときに発生することがあります。
システムのアクション：	データのコンテンツに応じて、システムは処理を続けることができます。データが重要であった場合は、処理が終了します。
ユーザの応答：	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-32760	<b>データモデルの受信要求が失敗しました。</b>
説明：	内部エラーが発生しました。一部の PowerExchange プロセスは、データモデルを送受信することにより通信しますが、データモデルの受信を待機している受信側で失敗しました。このエラーは、呼び出し元プロセスが終了し通信メカニズムを閉じると発生します。このため、受信側が受信呼び出しで失敗します。
システムのアクション：	処理は継続します。プロセス間の通信に影響が生じる可能性があります。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-32761	<b>データモデルの受信要求がタイムアウトしました。</b>
説明：	内部エラーが発生しました。一部の PowerExchange プロセスは、データモデルを送受信することにより通信しますが、データモデルの受信を待機している受信側でタイムアウトしました。
システムのアクション：	処理は継続します。プロセス間の通信に影響が生じる可能性があります。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-32800	<b>PowerExchange ISP Service が内部エラーを検出しました。</b>
説明：	内部エラーが発生しました。
システムのアクション：	データのコンテンツに応じて、システムは処理を続けることができます。データが重要であった場合は、処理が終了します。
ユーザの応答：	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-32801	<b>PowerExchange ISP Server が内部エラーを検出しました。</b>
説明：	内部エラーが発生しました。PowerExchange ISP は、子プロセスからのリモートプロシージャ呼び出しをサポートしますが、呼び出しをリスンしているサーバーが失敗しました。
システムのアクション：	処理は継続します。プロセス間の通信に影響が生じる可能性があります。
ユーザの応答：	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-32830	<b>PowerExchange ISP Server へのリモートプロシージャ呼び出しがエラーを返しました</b>
説明：	内部エラーが発生しました。PowerExchange ISP は、子プロセスからのリモートプロシージャ呼び出しをサポートします。サーバーは、RPC 要求の処理中にエラーが発生し、子プロセスにエラーコードを返しました。
システムのアクション：	処理は継続します。プロセス間の通信に影響が生じる可能性があります。
ユーザの応答：	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-32831	<b>PowerExchange ISP Server がリモートプロシージャ呼び出しを受信しているときに、エラーが発生しました。</b>
説明：	内部エラーが発生しました。PowerExchange ISP は、子プロセスからのリモートプロシージャ呼び出しをサポートします。サーバーが RPC 要求を受信しているときにエラーが発生しました。このエラーは、クライアントプロセスが終了し、RPC メッセージトランスポートを閉じるときに発生する可能性があります。
システムのアクション：	この接続を監視しているサーバースレッドは終了します。これ以降、閉じた接続上のクライアントからメッセージは受信されません。そうでない場合は、処理が継続されます。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-32832	<b>PowerExchange ISP Client がリモートプロシージャ呼び出しへの応答を受信しているときに、エラーが発生しました。</b>
説明：	内部エラーが発生しました。PowerExchange ISP は、子プロセスからのリモートプロシージャ呼び出しをサポートします。クライアントは呼び出しを行いました、PowerExchange ISP Server から応答を受信できませんでした。
システムのアクション：	処理は終了します。
ユーザの応答：	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-32850	<b>PowerExchange Service への通信チャネルが予期せずに閉じました。</b>
説明：	内部エラーが発生しました。PowerExchange プロセスは、PowerExchange Service との通信エラーを検出しました。
システムのアクション：	<p>タイプ 1 サービスの場合、PowerExchange プロセスは終了します。PowerCenter 高可用性オプションがあり、バックアップノードを構成している場合は、サービスはバックアップノードにフェイルオーバーします。</p> <p>タイプ 2 サービスの場合、PowerExchange プロセスは処理を続行します。PowerCenter 高可用性オプションがあり、バックアップノードを構成している場合は、PowerExchange プロセスは、サービスがバックアップノードにフェイルオーバーしたときに、サービスに再接続します。</p>
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-32851	<b>PowerExchange Service からのハートビートがタイムアウトしました。終了しています。</b>
説明：	PowerExchange プロセスは、PowerExchange Service からのハートビートメッセージの待機中にタイムアウトしました。
システムのアクション：	PowerExchange プロセスは終了します。PowerCenter 高可用性オプションがあり、PowerExchange Service のバックアップノードを構成している場合は、サービスはバックアップノードにフェイルオーバーします。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。



PWX-32900	<b>PowerExchange ハートビートメッセージセンダの開始に失敗しました。</b>
説明：	同期状態を保持するため、PowerExchange サービスは実行中に定期的にハートビートメッセージを送信します。このハートビートメカニズムの開始に失敗しました。
システムのアクション：	PowerExchange サービスは終了します。Informatica ドメインコントローラは失敗したサービスの再起動を試みます。
ユーザの応答：	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-32901	<b>PowerExchange ハートビートメッセージが失敗しました。</b>
説明：	同期状態を保持するため、PowerExchange サービスは実行中に定期的にハートビートメッセージを送信します。このハートビートメカニズムによって問題が検出されました。
システムのアクション：	PowerExchange サービスは終了します。Informatica ドメインコントローラは失敗したサービスの再起動を試みます。
ユーザの応答：	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-32902	<b>PowerExchange ハートビートメッセージセンダの初期化に失敗しました。</b>
説明：	同期状態を保持するため、PowerExchange サービスは実行中に定期的にハートビートメッセージを送信します。このハートビートメカニズムの初期化に失敗しました。
システムのアクション：	PowerExchange サービスは終了します。Informatica ドメインコントローラは失敗したサービスの再起動を試みます。
ユーザの応答：	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-32903	<b>PowerExchange サービスがドメインに停止を通知できませんでした。</b>
説明：	PowerExchange Listener またはロッガーサービスは、その停止時に Informatica ドメインに通知します。この通知呼び出しが失敗しました。
システムのアクション：	PowerExchange サービスは閉じる処理を継続します。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-32904	<b>PowerExchange サービスが Informatica ドメインへの接続に失敗しました。</b>
説明：	PowerExchange Listener サービスまたは PowerExchange ロッガーサービスが有効に設定されていましたが、Informatica ドメインへの接続に失敗し、実行を継続できません。
システムのアクション：	PowerExchange サービスは終了します。Informatica ドメインコントローラは失敗したサービスの再起動を試みます。
ユーザの応答：	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

## PWX-33000～PWX-33999

PWX-33001      **コールドスタートしますか (Y/N) (DATACOM キャプチャ)。**

説明：            PowerExchange ロggerまたは PowerExchange エージェントから  
リスタート情報を利用できないので、Datacom ECCR はウォームス  
タートできません。PowerExchange から、コールドスタートを承認  
するか拒否するかを尋ねられます。

システムのアクシヨ   システムは応答を待ちます。  
ン：

ユーザの応答：      Yを入力してコールドスタートを承認します。Nを入力してコールド  
スタートを停止します。

PWX-33002      **コールドスタートがオペレータによって拒否されました  
(DATACOM キャプチャ)。**

説明：            メッセージ PWX-33001 に対して、N の応答が受信されました。

システムのアクシヨ   Datacom ECCR 処理が終了します。  
ン：

ユーザの応答：      対応する必要はありません。

PWX-33003      **コレクタを閉じています (DATACOM キャプチャ)**

説明：            Datacom テーブルベース ECCR が閉じています。

システムのアクシヨ   Datacom ECCR 処理が終了します。  
ン：

ユーザの応答：      対応する必要はありません。

PWX-33004      **初期化に失敗しました。終了を待機しています。(DATACOM  
キャプチャ)**

説明：            Datacom テーブルベース ECCR が閉じています。

システムのアクシヨ   Datacom テーブルベース ECCR 処理が終了します。  
ン：

ユーザの応答：      追加情報について、ECCR 出力を確認します。エラーを修正し、要求  
をもう一度実行します。

PWX-33005      **DATACOM Stream ルーチンの読み取りに失敗しました。追加  
情報: 戻りコード=return\_code (DATACOM キャプチャ)**

説明：            Datacom ストリームにアクセスしようとしているときに、エラーが  
発生しました。

システムのアクシヨ   Datacom テーブルベース ECCR 処理が終了します。  
ン：

ユーザの応答：      詳細については、ECCR 出力を確認します。エラーを修正し、要求を  
もう一度実行します。

PWX-33010      **DTLCCDCR は読み取りを行いシャットダウンしています.....**

説明：            Datacom テーブルベース ECCR がシャットダウンしています。

システムのアクション: Datacom ECCR 処理が終了します。

ユーザの応答: 対応する必要はありません。

PWX-33011 **UOW のマッチングエラー。追加情報:***function\_name* **マッチング UOW が見つかりません。戻りコード=***return\_code*  
(DATACOM キャプチャ)

説明: 更新に対して、対応する Unit of Work (UOW) が見つかりませんでした。

システムのアクション: Datacom ECCR 処理が終了します。

ユーザの応答: 詳細については、ECCR 出力を確認します。エラーを修正し、要求をもう一度実行します。

PWX-33032 **CCDCR: STREAMID または MUF のどちらかをキャプチャパラメータで指定する必要があります**

説明: Datacom ECCR 構成ファイルで STREAMID または MUF 識別子を指定する必要があります。

システムのアクション: ECCR 処理が終了します。

ユーザの応答: STREAMID または MUF パラメータをキャプチャパラメータに追加します。

PWX-33201 **CCLWTR: 致命的なエラー - 無効な NULL シーケンストークンが検出されました。呼び出し元=***caller\_id*.

説明: PowerExchange ロgger (Linux、UNIX、Windows 用) で NULL シーケンストークンが検出されました。これは無効であり、致命的なエラーになります。

システムのアクション: PowerExchange ロgger 処理が異常終了します。

ユーザの応答: Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-33202 **CCLWTR: 致命的なエラー - 無効な NULL リスタートトークンが検出されました。呼び出し元=***caller\_id*.

説明: PowerExchange ロgger (Linux、UNIX、Windows 用) で NULL リスタートトークンが検出されました。これは無効であり、致命的なエラーになります。

システムのアクション: PowerExchange ロgger 処理が異常終了します。

ユーザの応答: Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-33205 **CCLWTR:登録タグ=<tag\_name>の ERT レコードが見つかりません**

説明: PowerExchange ロgger (Linux、UNIX、Windows 用) は、指定された登録タグの ERT リストに ERT レコードを見つけませんでした。その結果、致命的なエラーが発生しました。

システムのアクション: PowerExchange ロgger処理が異常終了します。  
 ユーザの応答: Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-33208      **CCLWTR:致命的なエラー - 無効な制御ブロック  
<control\_block>が pgmline で検出されました**

説明: PowerExchange ロgger (Linux、UNIX、Windows 用) で、無効または破損した制御ブロックが検出されました。これは致命的なエラーになります。

システムのアクション: PowerExchange ロgger処理が異常終了します。  
 ユーザの応答: Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-33221      **SHUTDOWN 要求の後、CCLWTR を閉じています。**

説明: PowerExchange ロgger (Linux、UNIX、Windows 用) Writer タスクは、SHUTDOWN 要求が受信されたので終了しています。

システムのアクション: PowerExchange ロgger処理は終了します。  
 ユーザの応答: 対応する必要はありません。

PWX-33222      **バッチの実行が成功した後、CCLWTR を閉じています。**

説明: バッチ実行中に使用可能なソースデータの処理が成功したので、PowerExchange ロgger (Linux、UNIX、Windows 用) の Writer タスクを閉じています。

システムのアクション: PowerExchange ロgger処理は終了します。  
 ユーザの応答: 対応する必要はありません。

PWX-33224      **ソースデータの読み取り中にエラーが発生した後、CCLWTR が閉じます。**

説明: ソースデータの読み取り時にエラーが発生したので、PowerExchange ロgger (Linux、UNIX、Windows 用) Writer タスクが閉じます。

システムのアクション: PowerExchange ロgger処理が異常終了します。  
 ユーザの応答: 問題の詳細については、メッセージログで以前のメッセージを確認します。

PWX-33226      **CCLWTR:ファイル<file\_name>の Fsync が失敗しました。戻りコード= <return\_code>: <reason>**

説明: 指定されたファイルにレコードを同期する処理が失敗しました。この問題は通常、I/O エラーが原因で発生します。

システムのアクション: PowerExchange ロgger (Linux、UNIX、Windows 用) は異常終了します。

ユーザの応答：	メッセージに示された問題を修正し、PowerExchange ロgger (Linux、UNIX、Windows 用) を再度起動します。
PWX-33228	<b>応答"character"は認識されません。"Y"でも"N"でもありません。</b>
説明：	Y でも N でもない応答が受信されました。
システムのアクション：	PowerExchange ロgger (Linux、UNIX、Windows 用) から、Y または N の応答を要求するメッセージが繰り返されます。
ユーザの応答：	Y を入力すると、PowerExchange ロgger の処理を続行できます。 N を入力すると、PowerExchange ロgger が停止します。
PWX-33230	<b>CCLWTR:CAPI ローウォーターマークの設定中にエラー"number"が発生しました。</b>
説明：	CAPI ローウォーターマークの設定中に、PowerExchange ロgger (Linux、UNIX、Windows 用) にエラーが発生しました。
システムのアクション：	PowerExchange ロgger 処理が異常終了します。
ユーザの応答：	問題の詳細については、メッセージログで以前のメッセージを確認します。
PWX-33231	<b>ゼロシーケンストークンが指定されました。最も古いデータストリームファイル位置でのコールドスタート</b>
説明：	コールドスタート後、PowerExchange ロgger (Linux、UNIX、Windows 用) は、シーケンストークンがすべてゼロから構成されているために、変更ストリームの最も古い位置でデータの収集を開始します。
システムのアクション：	PowerExchange ロgger の処理は続行されます。
ユーザの応答：	PWXCCL コンフィギュレーション ファイルファイルで PROMPT パラメータを Y に設定した場合、または Y のデフォルト値を受け入れた場合は、メッセージ PWX-33236 の確認プロンプトで Y と入力して、コールド開始位置を確認する必要があります。
PWX-33232	<b>トークンが指定されていません。現在のデータストリームファイル位置でのコールドスタート</b>
説明：	コールドスタート後、PowerExchange ロgger (Linux、UNIX、Windows 用) は、現在のログの終わりからデータの収集を開始します。
システムのアクション：	PowerExchange ロgger の処理は続行されます。
ユーザの応答：	PWXCCL コンフィギュレーション ファイルファイルで PROMPT パラメータを Y に設定した場合、または Y のデフォルト値を受け入れた場合は、メッセージ PWX-33236 の確認プロンプトで Y と入力して、コールド開始位置を確認する必要があります。
PWX-33233	<b>シーケンストークン"hexadecimal_token"。</b>
説明：	このメッセージは、シーケンストークンの 16 進値を示します。

システムのアクション: PowerExchange ロgger (Linux、UNIX、Windows 用) の処理は続行します。

ユーザの応答: 対応する必要はありません。

PWX-33234      **リスタートトークン**"*hexadecimal\_token*".

説明: このメッセージは、リスタートトークンの 16 進値を報告します。

システムのアクション: PowerExchange ロgger (Linux、UNIX、Windows 用) の処理は続行します。

ユーザの応答: 対応する必要はありません。

PWX-33235      **トークンで指定されたデータストリームファイル位置でのコールドスタート**

説明: PowerExchange ロgger (Linux、UNIX、Windows 用) がコールドスタート後にデータの収集を開始する変更ストリームでの開始位置は、シーケンストークンおよびリスタートトークンで指定されます。これらのトークン値は、メッセージ PWX-33233 および PWX-33234 に記録されています。

システムのアクション: PowerExchange ロgger (Linux、UNIX、Windows 用) の処理は続行します。

ユーザの応答: PWXCCL コンフィギュレーション ファイルで PROMPT パラメータを Y に設定した場合、または Y のデフォルト値を受け入れた場合は、メッセージ PWX-33236 の確認プロンプトで Y と入力して、コールド開始位置を確認する必要があります。

PWX-33236      **コールド開始位置を確認するには Y を、CCL ロgger を終了するには N を入力します**

説明: このメッセージは、コールドスタート後に PowerExchange ロgger (Linux、UNIX、Windows 用) がデータの収集を開始する変更ストリーム位置を確認するように求めます。pwxcl.cfg ファイルで PROMPT パラメータが Y に設定されているので、このプロンプトが表示されます。

システムのアクション: STDIN 入力として Y か N を入力するまで、システムは待機します。

ユーザの応答: PowerExchange ロgger のコールドスタート処理を続行する場合は Y を入力します。PowerExchange ロgger を終了するには N を入力します。

PWX-33237      **コールドスタートが拒否されました**

説明: PowerExchange ロgger (Linux、UNIX、Windows 用) コールドスタートの変更ストリーム位置を確認するユーザープロンプトで、N の応答が入力されました。この応答は、コールド開始位置を却下します。

システムのアクション: PowerExchange ロgger はコールドスタートを行いません。

ユーザの応答: 対応する必要はありません。

PWX-33238	<b>コールドスタートが受け付けられました</b>
説明:	PowerExchange ロgger (Linux、UNIX、Windows 用) コールドスタートの変更ストリーム位置を確認するユーザープロンプトで、Y の応答が入力されました。この応答は、コールド開始位置を受け入れます。
システムのアクション:	PowerExchange ロgger のコールドスタート処理は続行されます。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-33239	<b>CCLWTR: 事前にリスタート情報が利用できず、COLDSTART=Y が指定されていません。</b>
説明:	CDCT ファイルにリスタート情報がないにもかかわらず、COLDSTART=Y パラメータを使用せずに PowerExchange ロgger (Linux、UNIX、Windows 用) を起動する試みが行われました。
システムのアクション:	PowerExchange ロgger の起動が失敗しました。
ユーザの応答:	PowerExchange ロgger を初めて起動している場合、あるいは PowerExchange ロgger を以前コールドスタートしようとしたが起動に失敗して PowerExchange がソースからまったくデータを読み取れなかったことがある場合は、COLDSTART=Y パラメータを使用して PowerExchange ロgger を再度起動してください。
PWX-33240	<b>CCLWTR: CAPI ローウォーターマークの準備中にエラー "<i>number</i>" が発生しました。</b>
説明:	CAPI ローウォーターマーク (LWM) の準備中に、PowerExchange ロgger (Linux、UNIX、Windows 用) にエラーが発生しました。
システムのアクション:	PowerExchange ロgger 処理が異常終了します。
ユーザの応答:	エラーの詳細については、前のメッセージを参照してください。
PWX-33242	<b>ウォーム開始位置を確認するには Y を、CCL ロgger を終了するには N を入力します</b>
説明:	このメッセージは、ウォームスタート後に PowerExchange ロgger (Linux、UNIX、Windows 用) がデータの収集を開始する変更ストリーム位置を確認するように求めます。pwxcl.cfg ファイルで PROMPT パラメータが Y に設定されているので、このプロンプトが表示されます。
システムのアクション:	STDIN 入力として Y か N を入力するまで、システムは待機します。
ユーザの応答:	PowerExchange ロgger のウォームスタート処理を続行する場合は Y を入力します。PowerExchange ロgger を終了するには N を入力します。

PWX-33243	<b>ウォームスタートが拒否されました</b>
説明:	PowerExchange ロgger (Linux、UNIX、Windows 用) ウォームスタートの変更ストリーム位置を確認するユーザープロンプトで、N の応答が入力されました。この応答は、ウォームスタート位置を却下します。
システムのアクション:	PowerExchange ロgger はウォームスタートを行いません。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-33244	<b>ウォームスタートが受け入れられました</b>
説明:	PowerExchange ロgger (Linux、UNIX、Windows 用) ウォームスタートの変更ストリーム位置を確認するユーザープロンプトで、Y の応答が入力されました。この応答は、ウォーム開始位置を受け入れます。
システムのアクション:	PowerExchange ロgger のウォームスタート処理は続行されます。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-36246	<b>CCLWTR: LWM 準備完了応答を受け取りました。ファイル切り替えの保留はありません。</b>
説明:	PowerExchange ロgger (Linux、UNIX、Windows 用) が、予期しないローウォーターマーク (LWM) の準備完了応答を受け取りました。
システムのアクション:	PowerExchange ロgger 処理が異常終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-33247	<b>CCLWTR: STOP_AT_SEQUENCE_TOKEN に到達した後、閉じています。</b>
説明:	PowerExchange ロgger (Linux、UNIX、および Windows 処理用) が、STOP_AT_SEQUENCE_TOKEN 内部パラメータで指定されているシーケンストークンに達しました。
システムのアクション:	PowerExchange ロgger の Writer タスクは停止します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-33248	<b>CCLWTR: STOP_AT_SEQUENCE_TOKEN を超えた後、閉じています。トークン=hexadecimal_token_value</b>
説明:	PowerExchange ロgger (Linux、UNIX、および Windows 処理用) が、STOP_AT_SEQUENCE_TOKEN 内部パラメータで指定されているシーケンストークンを超えました。
システムのアクション:	PowerExchange ロgger の Writer タスクは停止します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。



PWX-33250	<b>pwxccl はフォアグラウンドプロセスとして開始しました。</b> <b>プロセス ID="number"。cold start="{Y N}"</b>
説明：	PowerExchange ロgger (Linux、UNIX、Windows 用) はフォアグラウンドプロセスとして開始しました。このメッセージはプロセス ID (PID) を報告し、コールドスタートが実行されたかどうかを示します。
システムのアクション：	PowerExchange ロgger の処理は続行されます。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-33251	<b>pwxccl はバックグラウンド処理として開始しました。</b> <b>pid="process_ID"。cold start="{Y N}"</b>
説明：	PowerExchange ロgger (Linux、UNIX、Windows 用) はバックグラウンド処理として開始しました。このメッセージはプロセス ID (PID) を報告し、コールドスタートが実行されたかどうかを示します。
システムのアクション：	PowerExchange ロgger の処理は続行されます。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-33252	<b>pwxccl は ISP プロセスとして開始しました。</b> <b>pid="process_ID"。cold start="{Y N}"</b>
説明：	PowerExchange ロgger (Linux、UNIX、Windows 用) は PowerExchange ロgger サービスとして開始しました。このメッセージはプロセス ID (PID) を報告し、コールドスタートが実行されたかどうかを示します。
システムのアクション：	PowerExchange ロgger の処理は続行されます。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-33253	<b>コールドまたはウォームスタート位置を確認するユーザープロンプトを表示できません</b>
説明：	pwxccl.cfg 構成ファイルで PROMPT パラメータを Y に設定しているため、PowerExchange ロgger (Linux、UNIX、Windows 用) は、コールドスタートまたはウォームスタートを開始する変更ストリーム位置を確認するユーザープロンプトを表示しようとします。ただし、PowerExchange ロgger がバックグラウンド処理または PowerExchange ロgger サービスとして実行しているために、ユーザープロンプトを表示できません。
システムのアクション：	PowerExchange ロgger 処理は終了します。
ユーザの応答：	pwxccl.cfg ファイルで PROMPT パラメータを N に設定するか、PowerExchange ロgger をフォアグラウンドで実行します。

PWX-33254	<b>pwxccl が終了しました。 戻りコード <i>return_code</i></b>
説明:	このメッセージには、PowerExchange ロgger (Linux、UNIX、Windows 用) の終了後に、オペレーティングシステムに渡された最後の戻りコードが記録されます。
システムのアクション:	PowerExchange ロgger 処理は終了しました。
ユーザの応答:	戻りコードがゼロ以外の値の場合、エラーが発生します。エラーの原因を特定するには、一緒に表示されるメッセージを調べます。
PWX-33255	<b>CCLWTR リスタートトークンが実行時に終了しました: シーケンス <i>hexadecimal_sequence_token</i> リスタート <i>hexadecimal_restart_token</i>。</b>
説明:	このメッセージは、PowerExchange ロgger (Linux、UNIX、Windows 用) によって、終了前に CDCT ファイルに保存された最新のシーケンストークンおよびリスタートトークンの値をレポートします。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-33256	<b>CCLWTR ファイルの切り替えが完了しました。最新の再起動トークン: シーケンス <i>hexadecimal_sequence_token</i>、再起動 <i>hexadecimal_restart_token</i>。</b>
説明:	このメッセージは、PowerExchange ロgger (Linux、UNIX、Windows 用) が CDCT ファイルに格納した最新のシーケンストークンと再起動トークンをレポートします。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-33260	<b>場所 "<i>location</i>" から登録をロードしています</b>
説明:	PowerExchange ロgger (Linux、UNIX、Windows 用) は、リモートの場所にある CCT ファイルからキャプチャ登録をロードし始めています。
システムのアクション:	PowerExchange ロgger の処理は続行されます。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-33261	<b>ロードされた "<i>reg_name</i>"。テーブル "<i>schema.table</i>"。タグ "<i>tag_name</i>"。</b>
説明:	指定された登録タグ名を持つ、指定されたテーブルへのキャプチャ登録が正常にロードされました。
システムのアクション:	PowerExchange ロgger (Linux、UNIX、Windows 用) の処理は継続します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。

PWX-33262	<b>破棄</b> " <i>registration_name</i> ". 作成者" <i>creator</i> ". 圧縮オプション" <i>option</i> "
説明:	指定されたキャプチャ登録は、 <b>Condense</b> オプションが <b>Part</b> に設定されていなかったために破棄されました。PowerExchange ロgger (Linux、UNIX、Windows 用) を使用するには、 <b>Condense</b> オプションを <b>Part</b> に設定する必要があります。
システムのアクション:	PowerExchange ロgger の処理は続行されます。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-33263	<b><i>number</i> 個の登録がロードされました</b>
説明:	このメッセージには、ロードされたアクティブなキャプチャ登録の数が報告されます。
システムのアクション:	PowerExchange ロgger の処理は続行されます。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-33264	<b>ロードされた"<i>reg_name</i>". テーブル"<i>schema.table</i>". タグ"<i>tag_name</i>". アーティクル <i>article_id</i></b>
説明:	指定された登録タグ名とアーティクル ID に関連付けられている、指定されたテーブルへのキャプチャ登録が正常にロードされました。
システムのアクション:	PowerExchange ロgger (Linux、UNIX、Windows 用) の処理は継続します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-33265	<b>アクティブな登録 <i>registration_name</i> はどの定義済みグループの選択条件とも一致しません。</b>
説明:	指定されたキャプチャ登録が GROUPDEFS コンフィギュレーションファイルのどの選択マスクとも一致しませんでした。GROUPDEFS ファイルは、PowerExchange ロgger (Linux、UNIX、Windows 用) が変更データをキャプチャする、別々のログファイルのセットの登録のグループを定義します。
システムのアクション:	処理は継続します。PowerExchange ロgger が登録に関連付けられたソースオブジェクトの変更データをキャプチャしませんでした。
ユーザの応答:	必要に応じて GROUPDEFS コンフィギュレーションファイルの選択マスクを編集して PowerExchange ロgger 処理の登録を選択します。
PWX-33269	<b>CCL コンフィギュレーションパラメータの &lt;<i>parameter_name</i>&gt; は廃止予定です。</b>
説明:	指定された PowerExchange ロgger (Linux、UNIX、Windows 用) パラメータは廃止されました。CDC の処理の間、PowerExchange ロgger はこのパラメータを無視します。
システムのアクション:	PowerExchange ロgger の処理が続行されます。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。

PWX-33270	Writer は <i>number</i> 秒間スリープ状態になります。開始時刻 <i>time</i>
説明:	PowerExchange ロgger (Linux、UNIX、Windows 用) Writer タスクは、指定された時刻から指定された秒数の間スリープ状態になります。このスリープ間隔は、dbmover.cfg ファイル内の NO_DATA_WAIT パラメータ値と、pwxcl.cfg ファイルのパラメータに基づいてファイルスイッチまたはファイルフラッシュが行われるまでの秒数との小さい値になります。
システムのアクション:	PowerExchange ロgger 処理は、指定された秒数が経過するまで一時停止します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-33271	Writer はソースデータの読み取りを開始します。初期化以降の最初の処理サイクル
説明:	PowerExchange ロgger (Linux、UNIX、Windows 用) Writer タスクは、初期化以降初めてソースデータの処理を開始しています。
システムのアクション:	PowerExchange ロgger の処理は続行されます。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-33272	Writer はソースデータの読み取りを開始します。受信されたユーザーコマンドがありません
説明:	PowerExchange ロgger (Linux、UNIX、Windows 用) の Writer タスクが、ソースデータの処理を開始しています。
システムのアクション:	PowerExchange ロgger の処理は続行されます。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-33273	Writer はソースデータの読み取りを開始します。CONDENSE コマンドが受信されました
説明:	PowerExchange ロgger (Linux、UNIX、Windows 用) Writer タスクは、CONDENSE コマンドが受信された後でソースデータの処理を開始します。
システムのアクション:	PowerExchange ロgger の処理は続行されます。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-33274	CPU 合計 <i>number</i> 。CAPI 読み取り <i>number</i> 。書き込み <i>number</i> 。ファイルスイッチ <i>number</i> 。その他 <i>number</i>
説明:	このメッセージは、PowerExchange ロgger (Linux、UNIX、Windows 用) Writer タスクの CPU 使用率をマイクロ秒で示します。この詳細なメッセージが表示されるのは、PowerExchange ロgger 構成ファイル (pwxcl.cfg) に VERBOSE パラメータのデフォルト値 Y を使用した場合です。このメッセージの表示を非表示にするには、VERBOSE=N を指定します。

システムのアクション PowerExchange ロggerの処理は続行されます。  
ン：

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-33278 **合計レコード数 *number*。 挿入数 *number*。 更新数 *number*。 削除数 *number*。 UOW 数 *number*。 バイト数 *number***

説明： このメッセージは、ファイルスイッチおよびチェックポイントによって作成された PowerExchange ロgger（Linux、UNIX、Windows 用）ログファイルでの変更の種類別に、変更レコード数を示します。また、これらのファイル内の UOW とバイトの合計数も示します。この詳細なメッセージが表示されるのは、PowerExchange ロgger 構成ファイル（pwxcl.cfg）に VERBOSE パラメータのデフォルト値 Y を使用した場合です。

システムのアクション PowerExchange ロggerの処理は続行されます。  
ン：

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-33279 **CPU 合計 *number*。 このファイルの合計 *number*。 CAPI 読み取り *number*。 ファイルの書き込み *number*。 その他 *number***

説明： このメッセージは、PowerExchange ロgger（Linux、UNIX、Windows 用）Writer タスクの CPU 使用率をマイクロ秒で示します。この詳細なメッセージが表示されるのは、PowerExchange ロgger 構成ファイル（pwxcl.cfg）に VERBOSE パラメータのデフォルト値 Y を使用した場合です。このメッセージの表示を非表示にするには、VERBOSE=N を指定します。

システムのアクション PowerExchange ロggerの処理は続行されます。  
ン：

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-33281 **レコードによるファイルスイッチ。レコード数 *number*。経過秒数 *seconds***

説明： PowerExchange ロgger（Linux、UNIX、Windows 用）ファイルスイッチは、ファイルスイッチに必要な最小のレコード数を処理したためにトリガされました。

システムのアクション PowerExchange ロggerの処理は続行されます。  
ン：

ユーザの応答： 対応する必要はありません。この非冗長的なメッセージを表示しない場合は、PWXCL 構成ファイルで VERBOSE=N と指定します。

PWX-33282 **時間によるファイルスイッチ。レコード数 *number*。経過秒数 *seconds***

説明： PowerExchange ロgger（Linux、UNIX、Windows 用）ファイルスイッチは、ファイルスイッチに必要な最小の秒数を経過したためにトリガされました。

システムのアクション PowerExchange ロggerの処理は続行されます。  
ン：

ユーザの応答： 対応する必要はありません。この非冗長的なメッセージを表示しない場合は、PWXCL 構成ファイルで VERBOSE=N と指定します。

PWX-33283 **FILESWITCH コマンドのためのファイルスイッチ。レコード数 *number*。経過秒数 *seconds***

説明： FILESWITCH コマンドが発行されたために、PowerExchange ロgger（Linux、UNIX、Windows 用）ファイルスイッチがトリガされました。メッセージには、前回のファイルスイッチ以降のレコードプロセス数と経過時間が示されます。

システムのアクション PowerExchange ロggerの処理は続行されます。  
ン：

ユーザの応答： 対応する必要はありません。この非冗長的なメッセージを表示しない場合は、PWXCL 構成ファイルで VERBOSE=N と指定します。

PWX-33284 **システムがシャットダウンしているためにファイルスイッチします。レコード数 *number*。経過秒数 *seconds***

説明： PowerExchange ロgger（Linux、UNIX、Windows 用）ファイルスイッチは、PowerExchange ロggerがシャットダウンしているためにトリガされました。メッセージには、前回のファイルスイッチ以降のレコードプロセス数と経過時間が示されます。

システムのアクション PowerExchange ロggerのシャットダウン処理は続行されます。  
ン：

ユーザの応答： 対応する必要はありません。この非冗長的なメッセージを表示しない場合は、PWXCL 構成ファイルで VERBOSE=N と指定します。

PWX-33285 **ファイルスイッチ。レコード数 *number*。経過秒数 *seconds***

説明： PowerExchange ロgger（Linux、UNIX、Windows 用）ファイルスイッチがトリガされました。メッセージには、前回のファイルスイッチ以降に処理されたレコード数と経過時間（秒数）が報告されます。この簡潔なメッセージは、pwxcl.cfg 構成ファイルで VERBOSE=N と指定した場合に発行されます。

システムのアクション PowerExchange ロggerの処理は続行されます。  
ン：

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-33286 **ファイルスイッチは以前のファイルの UOW をコミットしています。レコード数 *number*。経過秒数 *seconds***

説明： PowerExchange ロgger（Linux、UNIX、Windows 用）ファイルスイッチがトリガされました。PowerExchange ロggerは、新しいログファイルセットにスイッチする前に、現在のログファイルの UOW をコミットしています。メッセージは、前回のファイルスイッチ以降に処理されたレコード数と経過時間（秒数）を示します。この簡潔なメッセージは、pwxcl.cfg 構成ファイルで VERBOSE=N と指定した場合に発行されます。

システムのアクション: PowerExchange ロggerの処理は続行されます。  
ン:

ユーザの応答: 対応する必要はありません。

PWX-33289 **圧縮: 圧縮が完了しました。レコードの総数=count、挿入の数=count、更新の数=count、削除の数=count、UOW の数=count**

説明: このメッセージは、PowerExchange ロgger（Linux、UNIX、Windows 用）の最新の実行サイクルまたはログ記録サイクルで処理された変更レコード数と UOW の数を表示します。このメッセージには次の計数が含まれています。

- ログ記録動作の開始以来処理されたレコードの総数。
- 処理された削除、挿入、更新のレコードの数。処理前の画像（タイプ T）レコードはこの計数に含まれていません。
- 処理された作業単位（UOW）の数。

システムのアクション: PowerExchange ロggerの処理は終了または続行します。どちらになるかは、次のように実行モードによって変わります。

- PowerExchange ロggerがバッチモードで実行中である場合は、シャットダウンします。
- PowerExchange ロggerが継続モードで実行されている場合、PowerExchange ロggerのタスクが NO\_DATA\_WAIT パラメータで指定された秒数だけスリープ状態になり、その後でもう一度ログ記録サイクルを開始します。

ユーザの応答: 対応する必要はありません。

PWX-33290 **トークンで指定されたデータストリームファイル位置での特殊スタート。**

説明: このメッセージは、PowerExchange ロgger（Linux、UNIX、Windows 用）が、メッセージ PWX-33233 および PWX-33234 のシーケンスおよびリスタートトークンで指定された変更ストリームの位置で特殊スタートを完了したことをレポートします。

システムのアクション: PowerExchange ロggerの処理は続行されます。  
ン:

ユーザの応答: PowerExchange ロggerの pwxcl.cfg ファイルで PROMPT=Y パラメータが指定されている場合、PowerExchange ロgger処理を続行するには、後続の PWX-33291 メッセージの確認プロンプトに対する応答として Y を入力する必要があります。

PWX-33291 **特殊スタートの位置を確認するには Y を、CCL ロggerを終了するには N を入力します**

説明: PowerExchange ロgger（Linux、UNIX、Windows 用）の構成ファイルに PROMPT=Y パラメータを指定し、PowerExchange ロggerを SPECIALSTART=Y パラメータで起動した場合は、この確認プロンプトで Y と応答して特殊スタートを承認するか、または N と応答して特殊スタートを拒否します。

システムのアクション システムは応答を待ちます。  
ン：

ユーザの応答：       メッセージ PWX-33233 および PWX-33234 で指定された変更ストリームの位置から PowerExchange ロgger による特殊スタートを許可するには Y を入力し、特殊スタートを却下して PowerExchange ロgger を停止するには N を入力します。

PWX-33292       **特殊スタートが却下されました。**

説明：               PowerExchange ロgger（Linux、UNIX、Windows 用）の特殊スタートを却下するために、メッセージ PWX-33291 の確認プロンプトに対する応答として、応答 N が入力されました。

システムのアクション PowerExchange ロgger を終了します。  
ン：

ユーザの応答：       対応する必要はありません。

PWX-33293       **特殊スタートが承認されました。**

説明：               PowerExchange ロgger（Linux、UNIX、Windows 用）の特殊スタートを確認するために、PWX-33291 のユーザープロンプトで応答 Y が入力されました。

システムのアクション PowerExchange ロgger が特殊スタートを開始して続行します。  
ン：

ユーザの応答：       対応する必要はありません。

PWX-33294       **CCLWTR: SPECIALSTART が要求され、トークンが入力されていません。**

説明：               PowerExchange ロgger（Linux、UNIX、Windows 用）がコマンドラインから SPECIALSTART=Y パラメータで起動されました。このパラメータには、pwxcl.cfg ファイルで有効な SEQUENCE\_TOKEN 値および RESTART\_TOKEN 値を指定する必要がありますが、pwxcl.cfg ファイルでこれらのトークン値が指定されていません。

システムのアクション PowerExchange ロgger を終了します。  
ン：

ユーザの応答：       pwxcl.cfg ファイルで有効な SEQUENCE\_TOKEN 値と RESTART\_TOKEN 値を入力してから、SPECIALSTART=Y パラメータを指定して PowerExchange ロgger を再起動してください。あるいは、SPECIALSTART=Y パラメータを指定しないか、または SPECIALSTART=N パラメータを指定して PowerExchange ロgger を再起動します。

PWX-33295       **CCLWTR: 入力されたシーケンス<length>またはリスタート<length>トークンの長さが、<length>と<length>に必要な長さとは一致しません。**

説明：               PowerExchange ロgger（Linux、UNIX、Windows 用）がコマンドラインから SPECIALSTART=Y パラメータで起動されました。しかし、特殊スタートに必要な、pwxcl.cfg ファイル内の SEQUENCE\_TOKEN および RESTART\_TOKEN パラメータの値が有効ではありません。パラメータ値の長さ（バイト単位）が、CDCT ファイルのリスタート情報に基づく必要な長さとは一致しません。



システムのアクション PowerExchange ロggerを終了します。  
ン：

ユーザの応答： pwxcl.cfg ファイルに有効な SEQUENCE\_TOKEN 値と  
RESTART\_TOKEN パラメータ値を入力してから、PowerExchange  
Loggerを再起動してください。あるいは、SPECIALSTART=Y パラ  
メータを指定しないか、または SPECIALSTART=N パラメータを指定  
して PowerExchange Loggerを再起動します。

PWX-33296 CCLWTR: SPECIALSTART に指定するシーケンストークンは、  
現在のシーケンストークンを下回ることはできません。

説明： PowerExchange Logger（Linux、UNIX、Windows 用）がコマン  
ドラインから SPECIALSTART=Y パラメータで起動されました。この  
パラメータには、CDCT ファイルのリスタート情報に基づく現在のシ  
ーケンストークン値以上の SEQUENCE\_TOKEN 値を pwxcl.cfg ファ  
イルで指定する必要がありますが、有効な SEQUENCE\_TOKEN 値が  
指定されていません。メッセージ PWX-33297 では現在のシーケンス  
トークン値がレポートされ、メッセージ PWX-33298 では pwxcl.cfg  
ファイルの SEQUENCE\_TOKEN 値がレポートされます。

システムのアクション PowerExchange Loggerを終了します。  
ン：

ユーザの応答： pwxcl.cfg ファイルに有効な SEQUENCE\_TOKEN 値を入力してか  
ら、PowerExchange Loggerを再起動してください。あるいは、  
SPECIALSTART=Y パラメータを指定しないか、または  
SPECIALSTART=N パラメータを指定して PowerExchange Logger  
を再起動します。

PWX-33297 現在のシーケンストークン<hexadecimal\_token\_value>

説明： このメッセージでは、CDCT ファイルのリスタート情報に基づく、  
PowerExchange Logger（Linux、UNIX、Windows 用）の現在の  
シーケンストークン値がレポートされます。このメッセージは、メッ  
セージ PWX-33296 でレポートされるエラーに関連付けられます。

ユーザの応答： 詳細については、メッセージ PWX-33296 を参照してください。

PWX-33298 入力されたシーケンストークン<hexadecimal\_token\_value>

説明： このメッセージでは、PowerExchange Logger（Linux、UNIX、  
Windows 用）の pwxcl.cfg ファイルで指定された  
SEQUENCE\_TOKEN 値をレポートします。このメッセージは、  
PWX-33296 でレポートされるエラーに関連付けられます。

ユーザの応答： 詳細については、メッセージ PWX-33296 を参照してください。

PWX-33299 CCLWTR: 事前にリスタート情報が利用できず、  
SPECIALSTART=Y が指定されます。

説明： PowerExchange Logger（Linux、UNIX、Windows 用）が  
SPECIALSTART=Y パラメータで起動されましたが、CDCT ファイル  
には、オーバーライドするリスタート情報が含まれていません。

システムのアクション PowerExchange Loggerを終了します。  
ン：

ユーザの応答：	pwxccl.cfg ファイルで指定する SEQUENCE_TOKEN 値と RESTART_TOKEN 値で既存のリスタート情報をオーバーライドする場合にのみ、SPECIALSTART=Y パラメータを使用します。
PWX-33300	<b>connection_ID:接続の喪失 Connectivity lost - ハートビート頻度が seconds1 秒であり、この seconds2 秒に受信したハートビートがありません。</b>
説明：	PowerExchange では、ハートビートメッセージを使用してアイドル期間中のネットワーク接続を確認します。PowerExchange は、指定されたタイムアウト時間内にハートビートメッセージを受信しなかったため、指定されたクライアント IP アドレスおよびポート番号の接続が失われたと判断しました。
システムのアクション：	セッション処理が終了します。
ユーザの応答：	リモートの PowerExchange クライアントシステムのログファイルでメッセージを確認し、接続エラーの原因を特定します。
PWX-33301	<b>connection_ID:アクティビティタイムアウトは、seconds 秒であり、その期間内に行われたアクティビティはありません。処理を終了しています</b>
説明：	接続レベルのアクティビティタイムアウト間隔が、指定されたクライアント IP アドレスおよびポート番号に達しました。
システムのアクション：	セッション処理が終了します。
ユーザの応答：	リモートの PowerExchange クライアントシステムのログファイルでメッセージを確認し、タイムアウトの原因を特定します。また、PWX Override 接続設定の TCPIP_ACT_TIMEOUT 値を増やすことも、TCPIP_ACT_TIMEOUT エントリを削除するか-1 に設定してアクティビティタイムアウトを無効にすることもできます。
PWX-33302	<b>connection_ID:接続の喪失 - ハートビート送信に失敗しました。戻りコード 1=return_code1、戻りコード 2=return_code2、戻りコード 3=return_code3</b>
説明：	PowerExchange では、ハートビートメッセージを使用してアイドル期間中のネットワーク接続を確認します。PowerExchange は、指定されたタイムアウト時間内にハートビートメッセージを受信しなかったため、指定されたクライアント IP アドレスおよびポート番号の接続が失われたと判断しました。
システムのアクション：	セッション処理が終了します。
ユーザの応答：	リモートの PowerExchange クライアントシステムのログファイルでメッセージを確認し、エラーの原因を特定します。
PWX-33303	<b>connection_ID:ネットワークスレッドで予期しないエラーが発生しました。戻りコード=return_code、エラーテキスト='text'</b>
説明：	PowerExchange が、指定されたクライアント IP アドレスおよびポート番号のネットワークスレッドでエラーを検出しました。

システムのアクション セッション処理が終了します。  
ン：

ユーザの応答： Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。  
このメッセージから戻りコードおよびエラーテキストを提示します。

PWX-33304 **接続:connection\_lid、タイプ:type、タスク ID:task\_id、操作  
タイムアウト:number\_of\_seconds秒、ハートビート間  
隔:number\_of\_seconds秒、セッション:session**

説明： このメッセージには、新しいネットワーク接続要求について、接続の  
ID とタイプ、タスク ID、操作タイムアウト間隔、ハートビート間隔、  
およびセッションが示されます。

システムのアクション 処理は継続します。  
ン：

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-33305 **connection\_ID:操作'operation'は非同期レイヤでサポートさ  
れていません。同期モードに戻ります。**

説明： 指定されたクライアント IP アドレスおよびポート番号に対して、予  
期しないネットワーク操作が非同期モードで試みられました。

システムのアクション 指定された操作の処理は同期モードで継続します。  
ン：

ユーザの応答： Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-33306 **connection\_ID:ネットワークモードで予期しない変更  
(threadによって検出)、新しいモード:mode**

説明： 指定されたクライアント IP アドレスおよびポート番号に対して、送  
信モードと受信モード間で予期しないスレッドの変更がありました。

システムのアクション 処理は継続します。  
ン：

ユーザの応答： このメッセージは通常、セッションの早期終了と関連付けられます。  
一緒に表示されるメッセージを確認して、早期終了の原因を特定しま  
す。

PWX-33307 **connection\_ID:ネットワークハートビート送信は、  
millisecondsミリ秒後にタイムアウトしました**

説明： PowerExchange は、指定されたクライアント IP アドレスおよびポ  
ート番号に対してネットワークハートビート送信操作がタイムアウト  
したときに、このメッセージを表示します。Informatica グローバル  
カスタマサポートからの指示に従ってこのメッセージを発行するよう  
にシステムを設定している場合にのみ、PowerExchange はこのメッ  
セージを表示します。

システムのアクション 処理は継続します。  
ン：

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-33308	<b><i>connection_ID:time</i> ネットワークハートビートが送信されました</b>
説明:	PowerExchange は、指定されたクライアント IP アドレスおよびポート番号に対してネットワークハートビートメッセージが送信されたときに、このメッセージを発行します。Informatica グローバルカスタマサポートからの指示に従ってこのメッセージを発行するようにシステムを設定している場合にのみ、PowerExchange はこのメッセージを表示します。
システムのアクション:	処理は継続します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-33309	<b><i>connection_ID</i>:ネットワークハートビートが <i>time</i> に受信されました</b>
説明:	PowerExchange は、指定されたクライアント IP アドレスおよびポート番号に対してネットワークハートビートメッセージが受信されたときに、このメッセージを表示します。Informatica グローバルカスタマサポートからの指示に従ってこのメッセージを発行するようにシステムを設定している場合にのみ、PowerExchange はこのメッセージを表示します。
システムのアクション:	処理は継続します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-33310	<b><i>connection_ID</i>:ネットワークハートビートはタイムに受信されませんでしたが、TCP バッファに保留中のデータがあります。</b>
説明:	PowerExchange は、ネットワークハートビートデータが受信されなくても、指定されたクライアント IP アドレスおよびポート番号に対して保留中のデータが TCP バッファに存在しているときに、このメッセージを表示します。Informatica グローバルカスタマサポートからの指示に従ってこのメッセージを発行するようにシステムを設定している場合にのみ、PowerExchange はこのメッセージを表示します。
システムのアクション:	処理は継続します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-33311	<b>ダイナミックネットワークポートへのバインドが、エラー番号 <i>error_number</i> で失敗しました</b>
説明:	PowerExchange は、動的に割り当てられたポートにバインドできませんでした。
システムのアクション:	処理は終了します。
ユーザの応答:	動的に割り当てられたポートにバインドするためのセキュリティ権限が PowerExchange Listener にあることを確認します。

PWX-33312	<b><i>connection_ID:seconds</i>秒後に、一部完了したネットワーク転送がタイムアウトしました (完了したバイト:<i>bytes</i> モード:<i>mode</i>)</b>
説明:	一部完了したネットワーク転送がタイムアウトしました。このメッセージは通常、PowerExchange のリモートインスタンスに問題が発生したことを示します。
システムのアクション:	処理は終了します。
ユーザの応答:	リモートプラットフォーム上の PowerExchange ログファイルを調べます。
PWX-33313	<b>ジョブの説明で複数のスレッドが許可されていないので、非同期ネットワークは無効になっています</b>
説明:	非同期ネットワーク通信には複数のスレッドが必要ですが、ジョブの説明では複数のスレッドを許可していないので、非同期ネットワーク通信は無効になっています。
システムのアクション:	処理は継続します。
ユーザの応答:	非同期通信を使用するには、iSeries システムのジョブの説明で Allow Multithread (ALWMLTTHD) パラメータを編集し、ALWMLTTHD=YES と指定します。それ以外の場合は、対応する必要はありません。
PWX-33314	<b>TIMEOUTS 構成パラメータは推奨されません。</b>
説明:	TIMEOUTS 構成パラメータは推奨されません。
システムのアクション:	処理は継続します。
ユーザの応答:	TIMEOUTS パラメータを PowerExchange 構成ファイルから削除することをお勧めします。接続タイムアウトまたはアクティビティタイムアウトの特殊な要件がある場合は、それぞれ TCPIP_CON_TIMEOUT および TCPIP_ACT_TIMEOUT 接続属性を指定できます。
PWX-33315	<b>ネットワークバッファの圧縮解除に失敗しました。zlib エラーコード:<i>error_number</i></b>
説明:	圧縮は、 <b>圧縮</b> 接続属性を使って PWXPC Batch または CDC 接続について有効化できます。この結果、PowerExchange は zlib 圧縮ライブラリを使用して、ネットワークバッファの圧縮と圧縮解除を行います。しかし、zlib が圧縮解除処理中にエラーを返しました。
システムのアクション:	セッションが終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-33316 *connection connection\_ID 送信開始 start\_ime、終了 end\_time、フラグ flags、バイト bytes、SS successful\_calls、BS failed\_calls、RC rc2 を送信します。rc3*

説明： PowerExchange は、次のいずれかの状況で先行するネットワーク送信操作についての診断情報を表示します。

- ネットワーク関連エラーが発生し、DBMOVER コンフィギュレーションファイルに TCPIP\_DIAGNOSTICS\_TRACE=E が指定されます。
- 接続が終了し、DBMOVER コンフィギュレーションファイルに TCPIP\_DIAGNOSTICS\_TRACE=A が指定されます。

DBMOVER コンフィギュレーションファイルの TCPIP\_DIAGNOSTICS\_TRACE\_SZ 文が、発行する PWX-33316 および PWX-33317 のメッセージの数を決定します。

PWX-33316 では次の情報が提供されます。

- 接続 ID
- トレースレコード番号
- 開始-ネットワーク操作が開始された日時
- 終了-ネットワーク操作が終了した日時
- フラグ:C (接続)、U (ユーザーデータ)、S (送信エラー)、D (切断)、T (ターン行)、I (情報メッセージ)、V (バージョン)、H (ハートビート)
- RC -操作からの戻りコード
- バイト-受け取ったバイトの数
- SS -送信に成功した呼び出しの数
- BS -送信に失敗した呼び出しの数

システムのアクション： 処理は終了します。

ユーザの応答： ネットワーク管理者に連絡してください。このメッセージの内容を伝えます。さらにサポートが必要な場合は、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-33317	<p><i>connection connection_ID受信開始 start_time終了 end_timeフラグ flagsバイト数 bytesWH waits_headerWB waits_bodyRC rc2 rc3</i></p>
説明:	<p>PowerExchange は、次のいずれかの状況で先行するネットワーク受信操作についての診断情報を表示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ネットワーク関連エラーが発生し、DBMOVER コンフィギュレーションファイルに TCPIP_DIAGNOSTICS_TRACE=E が指定されます。</li> <li>接続が終了し、DBMOVER コンフィギュレーションファイルに TCPIP_DIAGNOSTICS_TRACE=A が指定されます。</li> </ul> <p>DBMOVER コンフィギュレーションファイルの TCPIP_DIAGNOSTICS_TRACE_SZ 文が、発行する PWX-33316 および PWX-33317 のメッセージの数を決定します。</p> <p>PWX-33317 では次の情報が提供されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>接続 ID</li> <li>トレースレコード番号</li> <li>開始-ネットワーク操作が開始された日時</li> <li>終了-ネットワーク操作が終了した日時</li> <li>フラグ:C (接続)、U (ユーザーデータ)、S (送信エラー)、D (切断)、T (ターン行)、I (情報メッセージ)、V (バージョン)、H (ハートビート)</li> <li>RC -操作からの戻りコード。1244 はデータなしによるタイムアウトです。32 は情報メッセージです。</li> <li>バイト-受け取ったバイトの数</li> <li>WH - メッセージヘッダを受信中に実行された待機の回数</li> <li>WB - メッセージの本体を受信中に実行された待機の回数</li> </ul> <p>システムのアクション 処理は終了します。</p> <p>ユーザの応答:</p>
PWX-33318	<p><i>connection (ソケット number) エラー前のネットワークアクティビティ rc2 rc3 (テキスト) が続きます</i></p>
説明:	<p>PowerExchange は、次のいずれかの状況で先行するネットワーク送受信操作についての診断情報を表示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ネットワーク関連エラーが発生し、DBMOVER コンフィギュレーションファイルに TCPIP_DIAGNOSTICS_TRACE=E が指定されます。</li> <li>接続が終了し、DBMOVER コンフィギュレーションファイルに TCPIP_DIAGNOSTICS_TRACE=A が指定されます。</li> </ul> <p>システムのアクション 処理は終了します。</p> <p>ン:</p>

ユーザの応答：	詳細については、後続の PWX-33316 および PWX-33317 のメッセージを参照してください。
PWX-33321	<b>ネットワークヘッダが不完全です。想定されるタイプは SEC ですが <i>network_message_type</i> が長さ(<i>length</i>)に達しました</b>
説明：	PowerExchange データ転送用のネットワークヘッダのタイプまたは長さが有効ではありません。このメッセージでは、Informatica グローバルカスタマサポートによる診断で使用する、無効なヘッダタイプと長さをレポートします。この問題は、送受信する PowerExchange インスタンスのバージョンが異なる場合に発生することがあります。
システムのアクション：	処理は終了します。
ユーザの応答：	ネットワーク経由でやり取りする PowerExchange インスタンスが同じバージョンであることを確認してください。サポートが必要な場合は、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-33322	<b><i>connection</i> アプリケーションバッファのサイズが <i>old_size</i> から <i>new_size</i> に変更されました</b>
説明：	PowerExchange で、接続用のアプリケーションバッファのサイズが増加しました。動的アプリケーションバッファのサイズ決定が有効になっている場合、必要に応じて、PowerExchange によって個々の接続に対してアプリケーションバッファのサイズが動的に決定されます。動的アプリケーションバッファのサイズ決定はデフォルトで有効になっています。DBMOVER 構成ファイルで APPBUFSIZEDYN=Y を指定することにより、明示的に有効にできます。
システムのアクション：	処理は継続します。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-33323	<b>Dynamic Appbufsize 処理が失敗しました (<i>reason</i>)。</b>
説明：	動的なアプリケーションバッファサイズの処理時にエラーが発生しました。
システムのアクション：	処理は終了します。
ユーザの応答：	PowerExchange ログで、エラーの原因を示す前のメッセージを確認してください。
PWX-33324	<b>パートナーから <i>bytes_received</i> バイトを受信したネットワーク。APPBUF サイズは <i>appbuf_bytes</i> です。</b>
説明：	PowerExchange が現在のアプリケーションバッファサイズより大きい長さのネットワークメッセージを受け取りました。この状況は、内部エラーが発生したことを示す場合があります。
システムのアクション：	タスクは終了します。



ユーザの応答： PowerExchange ログで、エラーの原因を示す以前のメッセージを確認してください。エラーのためにメッセージが発行された場合、メッセージが表示されないようにするには、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-33325 **パートナーに *bytes\_received* バイトを送信しようとしているネットワーク。APPBUF サイズは *appbuf\_bytes* です。**

説明： PowerExchange が現在のアプリケーションサイズより大きい長さのネットワークメッセージを準備しました。この状況は、内部エラーが発生したことを示す場合があります。

システムのアクション： タスクは終了します。

ユーザの応答： PowerExchange ログで、エラーの原因を示す以前のメッセージを確認してください。エラーのためにメッセージが発行された場合、メッセージが表示されないようにするには、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-33400 **Oracle キャプチャ:Oracle\_errorが OCI\_function への Oracle OCI 関数呼び出し中に発生しました。戻りコード=<return\_code>。 Oracle メッセージが続いて表示されます。**

説明： Oracle は、指定された OCI 関数を PowerExchange 変更キャプチャが呼び出そうとしたときに、指定されたエラーを返しました。

システムのアクション： Oracle 変更キャプチャ処理は終了します。

ユーザの応答： このメッセージに続くエラーメッセージを確認して、エラーの原因を特定します。続いて、問題を修正し、Oracle キャプチャをリスタートします。

PWX-33401 **Oracle キャプチャ:Oracle\_errorが、以下の文の処理中に発生しました。戻りコード<return\_code>。 Oracle メッセージが続いて表示されます。**

説明： Oracle は、次のメッセージで、PowerExchange 変更キャプチャが SQL 文を処理しようとしたときに、指定されたエラーを返しました。

システムのアクション： Oracle 変更キャプチャ処理は終了します。

ユーザの応答： このメッセージに続くエラーメッセージを確認して、エラーの原因を特定します。続いて、問題を修正し、Oracle キャプチャをリスタートします。

PWX-33750 **無効なプーリング引数:メッセージ**

説明： 呼び出しに無効なプーリング引数が含まれています。

システムのアクション： 処理は停止します。

ユーザの応答： Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-33805	<p><b>接続プールサイズ: <i>size</i>、ヒット数: <i>hits</i>、部分ヒット数: <i>partial_hits</i>、ミス数: <i>misses</i>、期限切れ数: <i>expired_connections</i>、プールフルによる破棄数: <i>discards_due_to_full_pool</i> エラーによる破棄数: <i>discards_due_to_error</i></b></p> <p>説明： このメッセージには、PowerExchange 接続プールの使用状況に関する次の情報が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• サイズ。接続プールのサイズ。</li> <li>• ヒット数。PowerExchange が、再使用できるプール内の接続を検出した回数。</li> <li>• 部分ヒット数。PowerExchange が、変更して再使用できるプール内の接続を検出した回数。</li> <li>• ミス数。PowerExchange が、再使用できるプール内の接続を検出できなかった回数。</li> <li>• 期限切れ数。最大アイドル時間を過ぎたためにプールから破棄された接続数。</li> <li>• プールフルによる破棄数。プールが一杯になったためにプールから破棄された接続数。</li> <li>• エラーによる破棄数。エラー状態のためにプールから破棄された接続数。</li> </ul> <p>システムのアクション 処理は継続します。</p> <p>ユーザの応答： 対応する必要はありません。</p>
PWX-33806	<p><b>接続プール初期化エラー: <i>return_code</i> (メッセージ)</b></p> <p>説明： 接続プール初期化エラーが発生しました。</p> <p>システムのアクション 接続プールなしで処理が続行します。</p> <p>ユーザの応答： Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。</p>
PWX-33900	<p><b>Steplib は APF 許可されていません</b></p> <p>説明： z/OS STEPLIB は APF 許可されていません。</p> <p>STEPLIB が APF 許可されない限り、名前付きトークンにアクセスすることも、ECSA メモリを作成および削除することもできません。PowerExchange は、ECSA メモリを使用して、データマップが最後に更新された時刻を格納します。</p> <p>システムのアクション 処理は中断されます。</p> <p>ユーザの応答： 次にいずれかの手順を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• STEPLIB のすべてのライブラリを APF 許可します。</li> <li>• マップ数をゼロに設定することにより、データマップのキャッシングを無効にします。</li> <li>• 単一ジョブ設定を使用します。ここでは Netport ジョブが設定されていません。</li> </ul>

PWX-33901	<b>名前付きトークン <i>name</i> が見つかりません</b>
説明:	指定された zOSA 名前付きトークンが見つかりませんでした。
システムのアクション:	処理は中断されます。PowerExchange は、ECSA メモリにアクセスできません。このメモリは、データマップが最後に更新された時刻の格納に使用されます。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-33902	<b>名前付きトークン <i>name</i> の取得中にエラーが発生しました。戻りコード <i>rc</i>。理由コード <i>reason</i></b>
説明:	PowerExchange が指定された zOSA 名前付きトークンを取得しているときに、エラーが発生しました。
システムのアクション:	PowerExchange は、ECSA メモリにアクセスできません。このメモリは、データマップが最後に更新された時刻の格納に使用されます。処理は中断されます。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-33903	<b>名前付きトークン <i>name</i> はすでに存在します</b>
説明:	ECSA を作成しようとしたますが、指定された名前付きトークンがすでに存在しています。.
システムのアクション:	処理は中断されます。
ユーザの応答:	名前付きトークンが存在する場合、ECSA をキャッシュできません。 必要な場合は、ECSA と名前付きトークンを削除してから、ECSA を作成します。.
PWX-33904	<b>名前付きトークン <i>name</i> を作成しました。</b>
説明:	指定された z/OS 名前付きトークンが作成されました。
システムのアクション:	処理は継続します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-33905	<b>名前付きトークン <i>name</i> を削除しました。</b>
説明:	指定された z/OS 名前付きトークンが削除されました。
システムのアクション:	処理は継続します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-33906	<b>名前付きトークン <i>name</i> の作成中にエラーが発生しました。戻りコード <i>rc</i>。理由コード <i>reason</i></b>
説明:	名前付き z/OS トークンの作成中に、エラーが発生しました。
システムのアクション:	処理は中断されます。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-33907	<b>名前付きトークン <i>name</i> の削除中にエラーが発生しました。 戻りコード <i>rc</i>。 理由コード <i>reason</i></b>
説明:	指定された zOSA 名前付きトークンの削除中にエラーが発生しました。
システムのアクション:	処理は中断されます。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-33920	<b>ECSA メモリブロック <i>blocks</i>。 合計の長さ <i>length</i>。 最大ファイル数 <i>number</i>。 使用中のファイル数 <i>number</i>。</b>
説明:	この情報メッセージには、すべての ECSA メモリブロックの情報が表示されます。
システムのアクション:	処理は継続します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-33921	<b>アドレス <i>address</i> の ECSA メモリ。 長さ <i>length</i>。 最大ファイル数 <i>number</i>。 使用中のファイル数 <i>number</i>。</b>
説明:	この情報メッセージには、ECSA メモリブロックの情報が表示されます。
システムのアクション:	処理は継続します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-33922	<b>アドレス <i>address</i> の ECSA メモリ。 ユーザー "<i>name</i>" ジョブ "<i>name</i>" によって、 "<i>time_stamp</i>" に作成されました</b>
説明:	この情報メッセージには、ECSA メモリブロックに関する情報が表示されます。
システムのアクション:	処理は継続します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-33923	<b>ファイル "<i>name</i>"。 使用カウント <i>number</i>。 "<i>hex</i>" "<i>time_stamp</i>" に更新しました。</b>
説明:	この情報メッセージには、データマップファイルを最後に更新した時刻に関する情報が表示されます。
システムのアクション:	処理は継続します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-33930	<b>アドレス <i>address</i> の ECSA メモリを作成しました。 長さ <i>length</i>。 最大ファイル数 <i>number</i>。</b>
説明:	ECSA メモリが指定されたアドレスで作成されました。
システムのアクション:	処理は継続します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-33931 **アドレス *address* の ECSA メモリを削除しました。長さ *length*。**

説明： PowerExchange は、指定されたアドレスの ECSA メモリを削除しました。

システムのアクション： 処理は継続します。

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-33932 **アドレス *address* の無効な ECSA メモリ。長さ *length*。ファイル *files*。**

説明： 指定されたアドレスの ECSA メモリは有効ではありません。

システムのアクション： 処理は中断されます。

ユーザの応答： Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-33933 **アドレス *address* の ECSA メモリを、ファイル使用カウントが *number* であるために削除できません。**

説明： PowerExchange は、指定されたアドレスの ECSA メモリを削除できませんでした。

システムのアクション： 処理は中断されます。

ユーザの応答： プロセスが現在 ECSA メモリを使用していないか確認します。必要に応じて、FORCE=Y 引数を PWXUDMX に渡します。

PWX-33934 **長さ *number* が、ECSA メモリの最小値 *number* 未満です**

説明： PowerExchange は ECSA を作成しようとしたましたが、指定された長さが必要な最小の長さ未満でした。

システムのアクション： 処理は中断されます。

ユーザの応答： ECSA メモリ長を増やして指定します。

PWX-33935 **ファイル "*name*" が ECSA メモリ内で見つかりません**

説明： ファイルカウントを減らそうとしているときに、ECSA メモリ内で指定されたファイルが見つかりませんでした。

システムのアクション： 処理は継続します。

ユーザの応答： PWXUDMX に DECREMENT\_FILE\_COUNT を使用しようとした場合は、正しいファイルが指定されたかどうかを確認します。

PWX-33950 **キャッシュが初期化されました。最大サイズ *number* キロバイト**

説明： PowerExchange は、指定された最大キャッシュサイズでデータマップキャッシュを初期化しました。

システムのアクション: 処理は継続します。  
ン:

ユーザの応答: 対応する必要はありません。

PWX-33951      **データマップ "schema.map" への更新が "time\_stamp" に行われました**

説明: 指定されたデータマップが更新されたため、PowerExchange はデータマップファイルのタイムスタンプを更新しました。

システムのアクション: 処理は継続します。  
ン:

ユーザの応答: 対応する必要はありません。

PWX-33952      **データマップ "schema.map" がマップキャッシュから削除されました**

説明: 指定されたデータマップが更新されたため、PowerExchange はそのデータマップをデータマップキャッシュから削除しました。

システムのアクション: 処理は継続します。  
ン:

ユーザの応答: 対応する必要はありません。

PWX-33953      **キャッシュから *number* 個のマップをクリアします。キャッシュ時刻は "time\_stamp" でした。最新の更新時刻は "time\_stamp" です**

説明: データマップファイルに対する最新の更新のために、PowerExchange はデータマップキャッシュからすべてのデータマップを削除しました。このメッセージは削除操作に関する情報を表示します。

システムのアクション: 処理は継続します。  
ン:

ユーザの応答: 対応する必要はありません。

PWX-33960      **キャッシュから読み取られたマップ数 *number*。ファイルから読み取られたマップ数 *number*。**

説明: 処理の終了時に、PowerExchange は、指定された数のデータマップをデータマップキャッシュから読み込みました。

システムのアクション: 処理は継続します。  
ン:

ユーザの応答: 対応する必要はありません。

PWX-33961      **データマップキャッシュが *number* 回クリアされました。**

説明: 処理の終了時に、PowerExchange は、指定された回数、データマップキャッシュをクリアしました。

システムのアクション: 処理は継続します。  
ン:

ユーザの応答: 対応する必要はありません。

PWX-33962      **キャッシュから削除されたマップ数 *number*。キャッシュにない変更マップ数 *number*。**

説明：            処理が終了すると、この情報メッセージには、PowerExchange がデータマップキャッシュから削除したデータマップの数と、データマップキャッシュになかった変更マップの数が表示されます。

システムのアクション：    処理は継続します。

ユーザの応答：        対応する必要はありません。

PWX-33963      **キャッシュに *number* キロバイト使用しました。合計 *number*。**

説明：            PowerExchange データマップのキャッシュは、指定されたキャッシュサイズを使用し、データマップキャッシュ内の指定された数のデータマップをキャッシュしました。

システムのアクション：    処理は継続します。

ユーザの応答：        対応する必要はありません。

PWX-33964      **キャッシュが一杯になったときに破棄されたマップ数 *number*。**

説明：            データマップキャッシュが一杯になったので、PowerExchange は指定された数のマップを破棄しました。

システムのアクション：    処理は継続します。

ユーザの応答：        対応する必要はありません。

PWX-33970      **コマンド "*command*" は、DMXCACHE\_MULTIPLEJOBS=Y の場合にのみ許可されます**

説明：            ECSA を実行しようとしたが、DBMOVER コンフィギュレーションファイルに DMXCACHE\_MULTIPLEJOBS=Y 文が含まれていませんでした。

システムのアクション：    処理は中断されます。

ユーザの応答：        DMXCACHE\_MULTIPLEJOBS=Y 文を含めるように、DBMOVER コンフィギュレーションファイルを更新します。

PWX-33971      **ルーチン "*name*" が失敗しました。**

説明：            指定されたルーチンが失敗しました。

システムのアクション：    処理は中断されます。

ユーザの応答：        Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-33972      **ルーチン "*name*" が失敗しました。戻りコード=*number***

説明：            指定されたルーチンは指定された戻りコードで失敗しました。

システムのアクション 処理は中断されます。

ン：

ユーザの応答： Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-33980 **引数"argument"がコマンド"command"が必要です**

説明： 指定された引数はコマンドで必要ですが、入力されませんでした。

システムのアクション 処理は中断されます。

ン：

ユーザの応答： 必要な引数を指定します。

PWX-33981 **引数"argument"はコマンド"command"では許可されていません。**

説明： 指定された引数は、指定されたコマンドで有効ではありません。

システムのアクション 処理は中断されます。

ン：

ユーザの応答： 指定された引数を削除します。

## PWX-34000～PWX-34999

管理者ツールのログビューアでメッセージ PWX-34000 から PWX-34999 を表示できます。

PWX-34000 **PowerExchange タスクを停止できません。 iSync が確立されません。**

説明： 内部エラーが発生しました。

ユーザの応答： Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-34001 **モニタースレッド - 例外を検出しました。 メッセージ"message"。**

説明： 内部エラーが発生しました。

ユーザの応答： Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-34002 **Sync URI を設定する PowerExchange タスク呼び出しが失敗しました - 例外を検出しました。 メッセージ"message"。**

説明： 内部エラーが発生しました。

ユーザの応答： Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-34003 **PowerExchange Task iSync リスナに接続できませんでした (タイムアウト)。**

説明： 内部エラーが発生しました。

ユーザの応答： Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。



PWX-34004	PowerExchange Task iSync <b>リスナに接続できませんでした。</b>
説明:	内部エラーが発生しました。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-34005	PowerExchange Task iSync <b>リスナにメッセージを送信できませんでした。</b>
説明:	内部エラーが発生しました。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-34006	PowerExchange <b>タスクへのハートビート接続が失われました。 サービスは終了します。</b>
説明:	内部エラーが発生しました。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-34007	<b>構成オプション <i>option</i> または値 <i>value</i> が認識されません。</b>
説明:	内部エラーが発生しました。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-34008	<b>構成オプションが見つかりません。</b>
説明:	内部エラーが発生しました。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-34009	PowerExchange <b>プロセス <i>process</i> を起動できませんでした。</b>
説明:	構成エラーが発生しました。
ユーザの応答:	名前付き実行可能ファイルが現在のディレクトリまたはパス、あるいは PWX_HOME で使用できることを確認します。
PWX-34010	PowerExchange <b>サービスの初期化に失敗しました。</b>
説明:	内部エラーが発生しました。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-34011	PowerExchange <b>プロセス <i>process</i> を終了しています</b>
説明:	内部エラーが発生しました。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-34012	PowerExchange Task <b>コマンドハンドラにメッセージを送信できませんでした。</b>
説明:	内部エラーが発生しました。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-34013	<b>ユーザー <i>user</i> は特権 <i>privilege</i> を設定していません。</b>
説明:	ユーザークレデンシャルが、試行したアクションの実行に十分ではありません。

ユーザの応答：	ユーザーに割り当てられた特権を変更するか、別のユーザー名を使用します。
PWX-34504	PowerExchange <b>タスクに接続しようとしています。残り約 <i>seconds</i> 秒です...</b>
説明：	PowerExchange Service は、接続試行が中止されるまで、指定された秒数の間、PowerExchange タスクに接続しようとし続けます。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。

## PWX-35000～PWX-35999

PWX-35000	REPORT FOR COMMAND <i>command</i>
説明：	このメッセージには PWXUSSL レポートの見出しが表示されます。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-35001	SSL <b>暗号リストは <i>cipher_list</i> に設定されています</b>
説明：	このメッセージには使用可能な暗号リストが示されます。DBMOVER コンフィギュレーションファイルに SSL_CIPHER_LIST 文を含めると、SSL 接続を確立する際に PowerExchange によって SSL_CTX_set_cipher_list() OpenSSL コマンドが発行され、暗号リストが設定されます。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-35002	<i>number_of_ciphers</i> の <b>暗号が使用可能</b>
説明：	このメッセージには、SSL_get_cipher_list()によって返される暗号の数が示されます。DBMOVER コンフィギュレーションファイルに SSL_CIPHER_LIST 文を含めると、SSL 接続を確立する際に PowerExchange によって SSL_CTX_set_cipher_list() OpenSSL コマンドが発行され、暗号リストが設定されます。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-35005	<b>16 進 ID、強度およびバージョンに関する暗号レポート</b>
説明：	このメッセージには PWXUSSL レポートの見出しが表示されます。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-35006	<b>シーケンス <i>cipher_name</i> 16 進 ID = <i>hex_id</i> 強度 = <i>strength</i> バージョン = <i>version</i></b>
説明：	このメッセージには PWXUSSL レポートの見出しが表示されます。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。

PWX-35007	<b>キー交換、暗号化、署名およびメッセージ認証に関する暗号レポート</b>
説明:	このメッセージは PWXUSSL レポートの見出しです。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-35008	<b>シーケンス <i>cipher_name</i> キー交換= <i>key_exchange_type</i> 暗号化= <i>encryption_type</i> Au=<i>signature_type</i> MAC=<i>message_authentication_type</i></b>
説明:	このメッセージは PWXUSSL コマンドの見出しです。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-35011	<b>ファイルには、<i>number_of_certificates</i> 個の X509 証明書と <i>number_of_subject_names</i> 個のサブジェクト名が含まれます</b>
説明:	このメッセージには、証明書ファイルの内容に関する情報が示されます。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-35012	<b>証明書 <i>number</i>。 サブジェクト名 <i>name</i></b>
説明:	このメッセージには証明書に関する情報が示されます。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-35013	<b>使用可能な INFORM タイプを使ってファイル <i>filename</i> をロードできません</b>
説明:	OpenSSL INFORM タイプの PEM または DER を使用してこの証明書ファイルをロードすることができませんでした。
システムのアクション:	アプリケーションは終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-35021	<b>証明書 <i>number</i>。 シリアル <i>number</i>。 バージョン <i>number</i>。</b>
説明:	このメッセージには証明書に関する情報が示されます。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-35022	<b><i>date</i> (タイムゾーン <i>time_zone_code</i>) から有効です。 <i>date</i> (タイムゾーン <i>time_zone_code</i>) まで有効です。</b>
説明:	このメッセージには証明書に関する情報が示されます。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-35023	<b>サブジェクト名 <i>name</i></b>
説明:	このメッセージには証明書に関する情報が示されます。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。

PWX-35024	<b>発行者名</b> <i>name</i>
説明:	このメッセージには証明書に関する情報が示されます。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-35025	<b>署名アルゴリズム</b> <i>algorithm</i>
説明:	このメッセージには証明書に関する情報が示されます。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-35026	<b>パブリックキーアルゴリズム</b> <i>name</i> 。 <b>サイズ</b> <i>number</i> <b>ビット</b> 。
説明:	このメッセージには証明書に関する情報が示されます。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-35027	<b>サブジェクト名と発行者名が同じです。(自己認証)</b>
説明:	このメッセージには証明書に関する情報が示されます。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-35028	<b>証明書がまだ無効です</b>
説明:	このメッセージには証明書に関する情報が示されます。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-35029	<b>証明書の期限が切れています</b>
説明:	このメッセージには証明書に関する情報が示されます。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-35031	<b>***** API X509_print_ex_fp の結果セットの開始 *****</b>
説明:	このメッセージには証明書に関する情報が示されます。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-35032	<b>***** API X509_print_ex_fp の結果セットの終了 *****</b>
説明:	このメッセージには証明書に関する情報が示されます。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-35033	<b>プライベートキー情報</b> <i>data</i>
説明:	このメッセージには証明書に関する情報が示されます。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-35041	<b>API コール</b> <i>routine</i> <b>に失敗しました</b>
説明:	PWXUSL ユーティリティによって呼び出された名前付き API でエラーが発生しました
システムのアクション:	PWXUSL ユーティリティは終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-35042	<b>API コール routine が return_code を返しました</b>
説明:	PWXUSSL ユーティリティによって呼び出された名前付き API でエラーが発生しました
システムのアクション:	PWXUSSL ユーティリティは終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-35101	<b>復号化された文字列の整合性チェックが失敗しました</b>
説明:	暗号化された文字列を正しく復号化できませんでした。
システムのアクション:	アプリケーションは続行されます。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-35102	<b>復号化された文字列の整合性チェックが失敗しました</b>
説明:	暗号化された文字列を正しく復号化できませんでした。
システムのアクション:	アプリケーションは続行されます。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-35200	<b>File Name Save As パラメータの長さ length は無効です</b>
説明:	内部エラーが発生しました。
システムのアクション:	タスクは終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-35201	<b>カラム番号 number は無効です</b>
説明:	内部エラーが発生しました。
システムのアクション:	タスクは終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-35202	<b>File Name パラメータの長さ length は無効です</b>
説明:	内部エラーが発生しました。
システムのアクション:	タスクは終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-35203	<b>Location パラメータの長さ length は無効です</b>
説明:	内部エラーが発生しました。
システムのアクション:	タスクは終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-35204	User Name <b>パラメータの長さ <i>length</i>は無効です。</b>
説明:	内部エラーが発生しました。
システムのアクション:	タスクは終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-35205	Password <b>パラメータの長さ <i>length</i>は無効です</b>
説明:	内部エラーが発生しました。
システムのアクション:	タスクは終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-35206	<b>無効なファイルタイプ <i>file_type</i> パラメータ</b>
説明:	内部エラーが発生しました。
システムのアクション:	タスクは終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-35501	JSF <b>クライアントライブラリが正常に初期化されました。</b>
説明:	JSF クライアントライブラリが正常に初期化されました。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-35502	<b>JSF の例外が発生しました、モジュール"<i>module</i>"、行"<i>line_number</i>"、メッセージ"<i>message</i>"</b>
説明:	JSF クライアントライブラリでプログラムエラーが発生しました。
システムのアクション:	エラーの特性によっては、処理が続行する可能性があります。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-35700	<b>致命的なエラー。PM ゲートウェイライブラリ"<i>library</i>"をロードできません。</b>
説明:	プログラムが必要なライブラリのロードに失敗しました。
システムのアクション:	ジョブが終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。 エラーが発生した時点で実行されていた機能を説明してください。
PWX-35730	<b>ライブラリの不一致。Pwx の列挙型"<i>type</i>"が PM Classic の列挙型"<i>type</i>"と一致しません。</b>
説明:	内部エラーが発生しました。
システムのアクション:	ジョブが終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-35760      **致命的なエラー。ライブラリの不一致。Pwx の列挙型 "type" が PM Mercury の列挙型 "type" と一致しません。**

説明：                      内部エラーが発生しました。

システムのアクション：      ジョブが終了します。

ユーザの応答：              Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-35800      **無効なセグメント番号 *segment\_number*:セグメント番号は 1 から *max\_number* までです。**

説明：                      内部エラーが発生しました。

システムのアクション：      エラーが発生したタスクは異常終了します。

ユーザの応答：              Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-35801      **スレッド読み取りの初期化がタイムアウトになりました**

説明：                      内部エラーが発生しました。

システムのアクション：      エラーが発生したタスクは異常終了します。

ユーザの応答：              Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-35802      *threadCreateMsgChannel* failed、*rc = return\_code*

説明：                      内部エラーが発生しました。

システムのアクション：      エラーが発生したタスクは異常終了します。

ユーザの応答：              Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-35803      *threadWaitForMsg* が失敗しました。*rc = return\_code*

説明：                      内部エラーが発生しました。

システムのアクション：      エラーが発生したタスクは異常終了します。

ユーザの応答：              Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-35804      *threadSendMsg* が失敗しました。*rc = return\_code*

説明：                      内部エラーが発生しました。

システムのアクション：      エラーが発生したタスクは異常終了します。

ユーザの応答：              Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-35805      **キャッシュに書き込まれたレコード: *records***

説明：                      このメッセージは、キャッシュに書き込まれたレコードの数を報告します。

システムのアクション：      処理は継続します。

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-35806 **キャッシュから読み取ったレコード: *records***

説明： このメッセージは、キャッシュから読み取ったレコードの数を報告します。

システムのアクション： 処理は継続します。

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-35807 **キャッシュされたレコード= *cached*、書き込まれたレコード= *written*、スキップされたレコード= *skipped***

説明： PowerExchange では、出力データセットに書き込む際にキャッシュされたレコードの一部をスキップします。キャッシュされたレコードの論理上の親がフィルタで除外または削除されているため、出力データセットにはキャッシュされたレコードのすべてが含まれているわけではありません。

システムのアクション： 処理は継続します。

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-35808 **読み取りスレッドで書き込みスレッドの終了が検出されたため、リーダーを終了します**

説明： 内部エラーが発生しました。

システムのアクション： エラーが発生したタスクを終了します。

ユーザの応答： Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-35809 **書き込みスレッドで読み取りスレッドの終了が検出されたため、ライターを終了します**

説明： 内部エラーが発生しました。

システムのアクション： エラーが発生したタスクを終了します。

ユーザの応答： Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-35810 **現在の行のプライマリキー *current\_key\_value* が昇順になりません。前の列のキーの値 *prior\_key\_value***

説明： 内部エラーが発生しました。

システムのアクション： エラーが発生したタスクは終了します。

ユーザの応答： Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。



PWX-35811	<b>ファイル"filename"を閉じるときにエラーが発生しました。 rc1=return_code rc2=return_code rc3=return_code Permanent error=error_code</b>
説明:	指定されたファイルを閉じるときに PowerExchange でエラーが発生しました。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-35812	<b>ライブラリ"library_name"中のルーチン"routine_name"は使用できません。</b>
説明:	指定したライブラリに必要なルーチンが使用できません。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	一緒に表示されるライブラリのロード失敗についてのメッセージを確認します。また、ライブラリが存在していることとパス内にあることを確認します。DTLINFO ユーティリティを使用して PowerExchange のバージョン情報を取得し、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-35813	<b>プレゼンス呼び出しは記述に失敗した後破棄されました。</b>
説明:	プレゼンス呼び出しが前のエラーのために破棄されました。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは終了します。
ユーザの応答:	前のエラーについての一緒に表示されるメッセージを確認します。その後、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-35851	A rotina DTLQSTD "routine_name" retornou code (descrição).
説明:	A rotina de cache DTLQSTD indicada retornou um erro. Essa mensagem apresenta o código e a descrição do erro.
システムのアクション:	A tarefa que encontrou o erro é encerrada.
ユーザの応答:	Entre em contato com o Suporte Global a Clientes da Informatica.
PWX-35852	<b>警告: レコード"record_name"にファイルヘッダのタイプが検出されました。</b>
説明:	複数レコードのデータマップが、指定したレコードがファイルヘッダとしてマークされていることを示します。このレコードタイプは他のレコードタイプの前、複数レコードのファイルの先頭のみ現れます。PowerExchange がすべてのファイルヘッダレコードをキャッシュに書き込んだ後、キャッシュ解放のアルゴリズムを妨げています。PowerExchange がファイルのすべてのレコードをキャッシュに書き込むまでキャッシュは解放されません。

システムのアクション: PowerExchange は複数レコードの書き込み操作ですべてのレコードをファイルにキャッシュするため、キャッシュが大量のメモリを使用する可能性があります。この場合、ディスクへのデータオーバーフローが発生する可能性があります。

ユーザの応答: 出力ファイルがキャッシュメモリまたはディスクに収まるほど小さい場合には、このメッセージは無視してかまいません。出力ファイルが大きく、非常に大きな量のキャッシュを使用している場合には、ファイルヘッダレコードを前処理して別々のファイルに書き込むことを検討します。他のレコードタイプはすべてメインワークフローで処理します。その後、ファイルを統合します。

サポートが必要な場合は、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-35853 a rotina Append () retornou *código (descrição)*. *errno=código "descrição"*.

説明: A rotina DTLQSTD append() retornou um erro ao adicionar um novo registro ao cache de sequenciamento e enfileiramento. Essa situação poderá ocorrer se a variável de ambiente TMPDIR no Linux ou UNIX ou se a variável de ambiente TMP no Windows não apontar para um diretório que tenha espaço em disco suficiente. As mensagens acompanhantes de PWX-35860 a PWX-35864 fornecem informações adicionais.

システムのアクション: A tarefa que encontrou o erro é encerrada.

ユーザの応答: Entre em contato com o Suporte Global a Clientes da Informatica.

PWX-35854 A rotina DTLQSTD "*nome*" retornou *código (descrição)*. Nome da fila "*queue\_name*".

説明: Um erro foi retornado da rotina de cache DTLQSTD.

システムのアクション: A tarefa que encontrou o erro é encerrada.

ユーザの応答: Entre em contato com o Suporte Global a Clientes da Informatica.

PWX-35860 Os arquivos de despejo serão alocados no diretório "*directory*" para o arquivo de destino "*file\_name*". Variável de ambiente "*var\_name*". Tamanho da Alocação de Memória *alloc\_size*.

説明: Se a camada que gerencia o sequenciamento e o enfileiramento do cache exigir mais memória do que a quantidade especificada no parâmetro CSQ\_MEMSIZE do atributo de conexão **Substituição do PWX**, a camada de cache despejará registros em cache no diretório de arquivos temporários no disco. O diretório de arquivos temporários é definido pela variável de ambiente TMPDIR no Linux e UNIX e pela variável de ambiente TMP no Windows. Se a variável de ambiente TMPDIR ou TMP não estiver definida, o diretório atual será usado.

システムのアクション: O processamento continua.

ユーザの応答: Nenhuma resposta é necessária. Para reduzir o número de arquivos de despejo alocados, você poderá aumentar a memória do cache aumentando o valor do parâmetro CSQ\_MEMSIZE do atributo de conexão **Substituição do PWX**. Para direcionar a alocação a um disco maior, você pode alterar o valor da variável de ambiente TMP no Windows ou da variável de ambiente TMPDIR no Linux ou UNIX.

PWX-35861 O arquivo de despejo *allocation\_number* com o nome "*file\_name*" foi alocado.

説明: A camada que gerencia o sequenciamento e o enfileiramento do cache alocou o nome do arquivo de despejo especificado durante a preparação de registros ao gravar no arquivo de destino de vários registros. O número de alocação representa esse número de arquivos de despejo que foram alocados durante a sessão de gravação de vários registros.

システムのアクション: O processamento continua.

ユーザの応答: Nenhuma resposta é necessária. Para reduzir o número de arquivos de despejo alocados, você pode aumentar a memória do cache aumentando o valor do parâmetro CSQ\_MEMSIZE do atributo de conexão **Substituição do PWX**. Para direcionar a alocação a um disco maior, você pode alterar o valor da variável de ambiente TMP no Windows ou da variável de ambiente TMPDIR no Linux ou UNIX.

PWX-35862 O arquivo de despejo *allocation\_number* com o nome "*file\_name*" foi desalocado.

説明: A camada que gerencia o sequenciamento e o enfileiramento do cache desalocou o arquivo de despejo com o nome de arquivo especificado. O número de alocação representa esse número de arquivos de despejo que foram alocados durante a sessão de gravação de vários registros.

システムのアクション: O processamento continua.

ユーザの応答: Nenhuma resposta é necessária.

PWX-35863 O arquivo de despejo *número* com o nome "*file\_name*" foi atribuído.

説明: A camada que gerencia o sequenciamento e o enfileiramento do cache atribuiu um arquivo de despejo retido a uma nova transação. Por padrão, três arquivos de despejo são mantidos e reatribuídos a novas transações para evitar excesso de atividades de alocação e desalocação de arquivos.

システムのアクション: O processamento continua.

ユーザの応答：	Nenhuma resposta é necessária.
PWX-35864	O arquivo de despejo <i>número</i> com o nome " <i>file_name</i> " foi mantido.
説明：	O arquivo de despejo com o nome de arquivo especificado foi retido. Por padrão, três arquivos de despejo são mantidos e reatribuídos a novas transações para evitar excesso de atividades de alocação e desalocação de arquivos.
システムのアクション：	O processamento continua.
ユーザの応答：	Nenhuma resposta é necessária.
PWX-35870	O valor zero de chave primária não é permitido. Nome da fila " <i>queue_name</i> ". Número de registro <i>rec_number</i> .
説明：	<p>Em uma sessão do PowerCenter que realiza uma gravação de vários registros em um destino não relacional, foi feita uma tentativa de inserir um registro com um valor de chave primária igual a zero. Esse valor não é permitido.</p> <p>Normalmente, o PowerExchange gera chaves primárias automaticamente na definição de origem quando você seleciona <b>Usar Campos de Sequência</b> na caixa de diálogo <b>Importar do PowerExchange</b>. Se for feita uma tentativa de gerar chaves primárias em um fluxo de trabalho, em vez de selecionando <b>Usar Campos de Sequência</b>, e a tentativa não gerar valores corretos, essa mensagem de erro poderá aparecer como resultado.</p>
システムのアクション：	A tarefa que encontrou o erro é encerrada.
ユーザの応答：	Corrija o fluxo de trabalho para que ele gere valores corretos.
PWX-35871	Chave primária <i>key_value</i> não é maior que a última chave primária escrita <i>key_value</i> . Nome da fila " <i>queue_name</i> ". Número de registro <i>record_number</i> .
説明：	<p>Em uma sessão do PowerCenter que realiza uma gravação de vários registros em um destino não relacional, foi feita uma tentativa de inserir um registro com um valor de chave primária inválido. A camada que gerencia o cache de sequenciamento e enfileiramento requer que os registros inseridos em um arquivo de vários registros tenham valores numéricos crescentes exclusivos na coluna de chave primária.</p> <p>Normalmente, o PowerExchange gera chaves primárias automaticamente na definição de origem quando você seleciona <b>Usar Campos de Sequência</b> na caixa de diálogo <b>Importar do PowerExchange</b>. Se for feita uma tentativa de gerar chaves primárias em um fluxo de trabalho, em vez de selecionando <b>Usar Campos de Sequência</b>, e a tentativa não gerar valores corretos, essa mensagem de erro poderá aparecer como resultado.</p>
システムのアクション：	A tarefa que encontrou o erro é encerrada.

ユーザの応答：	Corrija o fluxo de trabalho para que ele gere valores corretos.
PWX-35872	<b>トレーラレコード <i>record</i> 上のプライマリキー <i>key_value</i> が、最後に書き込まれたプライマリキー <i>key_value</i> より大きくありません。</b>
説明：	トレーラレコードとしてマークされたレコードには、キャッシュからリリースされた最後のデータレコードより小さいプライマリキー値があります。このエラーは、ヘッダレコードまたはデータレコードがトレーラレコードとして誤ってマークされている場合に発生する可能性があります。トレーラレコードはメインキャッシュリリースアルゴリズムから除外され、入力が終了したときにのみ処理されます。
システムのアクション：	タスクは終了します。
ユーザの応答：	NRDB データマップを確認し、エラーの原因となったトレーラレコードをヘッダレコードまたはデータレコードとしてマークする必要があるかどうかを判断してください。
PWX-35880	O valor zero de chave estrangeira não é permitido. Nome da fila " <i>queue_name</i> ". Número de registro <i>record_number</i> .
説明：	<p>Em uma sessão do PowerCenter que realiza uma gravação de vários registros em um destino não relacional, foi feita uma tentativa de inserir um registro com um valor de chave externa igual a zero. Esse valor não é permitido no campo de chave externa de um registro filho.</p> <p>Normalmente, o PowerExchange gera chaves primárias automaticamente na definição de origem quando você seleciona <b>Usar Campos de Sequência</b> na caixa de diálogo <b>Importar do PowerExchange</b>. Se for feita uma tentativa de gerar chaves primárias em um fluxo de trabalho, em vez de selecionando <b>Usar Campos de Sequência</b>, e a tentativa não gerar valores corretos, essa mensagem de erro poderá aparecer como resultado.</p>
システムのアクション：	A tarefa que encontrou o erro é encerrada.
ユーザの応答：	Corrija o fluxo de trabalho para que ele gere valores corretos.

PWX-35881	A chave externa <i>foreign_key</i> é maior que a chave primária <i>primary_key</i> . Nome da fila " <i>queue_name</i> ". Registro <i>record_number</i> .
説明:	<p>Em uma sessão do PowerCenter que realiza uma gravação de vários registros em um destino não relacional, foi feita uma tentativa de inserir um registro com um valor de chave externa maior que o valor da chave primária. A camada que gerencia o cache de sequenciamento e enfileiramento requer que os registros inseridos em um arquivo de vários registros tenham valores de chave externa que apontem para registros que já foram processados.</p> <p>Normalmente, o PowerExchange gera chaves primárias automaticamente na definição de origem quando você seleciona <b>Usar Campos de Sequência</b> na caixa de diálogo <b>Importar do PowerExchange</b>. Se for feita uma tentativa de gerar chaves primárias em um fluxo de trabalho, em vez de selecionando <b>Usar Campos de Sequência</b>, e a tentativa não gerar valores corretos, essa mensagem de erro poderá aparecer como resultado.</p>
システムのアクション:	A tarefa que encontrou o erro é encerrada.
ユーザの応答:	Corrija o fluxo de trabalho para que ele gere valores corretos.
PWX-35882	A chave externa <i>foreign_key</i> é menor que a última chave externa lançada <i>foreign_key</i> . Nome da fila " <i>queue_name</i> ". Chave primária <i>primary_key</i> .
説明:	<p>Em uma sessão do PowerCenter que realiza uma gravação de vários registros em um destino não relacional, foi feita uma tentativa de inserir um registro com um valor de chave externa inválido. A camada que gerencia o cache de sequenciamento e enfileiramento requer que os registros inseridos em um arquivo de vários registros tenham valores numéricos que não diminuam na coluna de chave externa em um nome de fila específico.</p> <p>Normalmente, o PowerExchange gera chaves primárias automaticamente na definição de origem quando você seleciona <b>Usar Campos de Sequência</b> na caixa de diálogo <b>Importar do PowerExchange</b>. Se for feita uma tentativa de gerar chaves primárias em um fluxo de trabalho, em vez de selecionando <b>Usar Campos de Sequência</b>, e a tentativa não gerar valores corretos, essa mensagem de erro poderá aparecer como resultado.</p>
システムのアクション:	A tarefa que encontrou o erro é encerrada.
ユーザの応答:	Corrija o fluxo de trabalho para que ele gere valores corretos.
PWX-35900	<b>モジュール <i>module.line</i> における内部エラー <i>error_information</i>。</b>
説明:	PowerExchange の内部エラーが発生しました。
システムのアクション:	エラーが発生したタスクは異常終了します。
システム:	

ユーザの応答： Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。  
このメッセージ内のエラー情報を知らせてください。

PWX-35901      **オペレーションシステムのエラー: エラー番号=**  
*error\_number* **メッセージ=** *strerr\_error\_information*

説明：            オペレーティングシステムまたはカーネル関数呼び出しからエラーが  
返りました。 このメッセージの"message="テキストは、オペレーテ  
ィングシステムの'strerr'デーモンからの出力です。

システムのアクション： このエラーは呼び出しタスクに渡されます。

ユーザの応答：      エラーの原因を特定できない場合は、Informatica グローバルカスタ  
マサポートにお問い合わせください。

## 第 5 章

# PWX-36000～PWX-36999

- [PWX-36000～PWX-36999, 424](#) ページ

## PWX-36000～PWX-36999

ここでは、PowerExchange Express CDC for Oracle に関連するメッセージを示します。

PWX-36000      ORAD *rac\_member*:**モジュール** *module.line* **における内部エラー** *error\_information*。

説明：              PowerExchange Express CDC for Oracle の処理中に内部エラーが発生しました。Oracle RAC 環境で CDC を実行すると、関連する RAC メンバの名前がこのメッセージに表示されます。

システムのアクション： CDC の処理は終了します。

ユーザの応答：      Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。このメッセージに示されているエラー情報を担当者に知らせます。関連メッセージもチェックし、診断情報が他にないかどうか確認します。

PWX-36001      ORAD *message\_typerac\_member*: **メッセージ** *message\_number* **が** *redo\_log\_position* **で発行されました。**

説明：              このメッセージには、Oracle REDO ログの、当該メッセージで報告されている条件の発生した位置が表示されます。Oracle RAC 環境で CDC を実行すると、関連する RAC メンバの名前がこのメッセージに表示されます。

ユーザの応答：      当該メッセージがエラーに関する場合は、Informatica グローバルカスタマサポートに連絡してください。このメッセージに表示される診断情報をサポート担当者に伝えてください。

PWX-36003      ORAD *rac\_member*:**制御ブロックのダンプ**= *control\_block*, **エラー**= *error*, **場所**= *module.line*。

説明：              PowerExchange Express CDC for Oracle でエラーが発生し、この結果、指定された制御ブロックのコンテンツがログにダンプされました。Oracle RAC 環境で CDC を実行すると、関連する RAC メンバの名前がこのメッセージに表示されます。



システムのアクション CDC の処理は終了します。  
ン：

ユーザの応答： 関連メッセージ（PWX-36004 など）を確認します。その後、エラーの修正を試みます。

PWX-36004 ORAD *rac\_member.+ diagnostic\_information*

説明： このメッセージは PWX-36003 の続きです。このメッセージにはエラーに関する補足的な診断情報が示されます。Oracle RAC 環境で CDC を実行すると、関連する RAC メンバの名前がこのメッセージに表示されます。

ユーザの応答： この情報を利用し、PWX-36003 で報告されたエラーを修正します。

PWX-36006 ORAD **情報** *rac\_member.+ diagnostic\_string*

説明： このメッセージには、補足的な診断情報と、関連する他の情報メッセージが示されます。Oracle RAC 環境で CDC を実行すると、関連する RAC メンバの名前がこのメッセージに表示されます。

ユーザの応答： エラーが発生する場合、必要に応じてこの診断情報を Informatica グローバルカスタマサポートに知らせます。

PWX-36043 ORAD **情報** *rac\_member.ダイレクトパス操作はオブジェクト table\_object\_id (トランザクション transaction\_id 内) で処理されました。*

説明： PowerExchange Express CDC for Oracle により、指定のトランザクションから、指定したオブジェクト ID があるソーステーブルに対する Oracle ダイレクトパスの INSERT またはロード操作がキャプチャされました。Express CDC では、Express CDC 構成ファイルの OPTIONS 文の SUPPORT\_DIRECT\_PATH\_OPS パラメータが Y に設定されているため、ダイレクトパス操作をキャプチャできます。

システムのアクション CDC 処理を続行します。  
ン：

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-36044 ORAD **情報** *rac\_member.ダイレクトパス操作はオブジェクト table\_object\_id (トランザクション transaction\_id) でバイパスされました。*

説明： Express CDC 構成ファイルの OPTIONS 文の SUPPORT\_DIRECT\_PATH\_OPS パラメータが N に設定されているため、PowerExchange Express CDC for Oracle により、指定したオブジェクト ID があるソーステーブルに対する Oracle ダイレクトパスの INSERT またはロード操作のキャプチャがスキップされました。このデフォルトのパラメータ値により、Express CDC ではダイレクトパス操作がバイパスされます。

システムのアクション CDC 処理を続行します。  
ン：

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-36045	ORAD 警告 <i>rac_member.component</i> が予期しない問題が見つかりました: <i>issue</i> が <i>rba_scn</i> にあります。.
説明:	Oracle 向け PowerExchange Express CDC のコンポーネントが、指定された REDO ログの位置で予期しない問題を検出しましたが、処理は続行されました。Oracle RAC 環境で CDC を実行すると、関連する RAC メンバの名前もこのメッセージに表示されます。
システムのアクション:	CDC 処理を続行します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにこの警告を報告してください。
PWX-36046	ORAD <i>rac_member.ログパーサー</i> によって予期しないエラーが見つかりました。 <i>error_description</i> 。
説明:	Oracle REDO ログの解析中に、PowerExchange Express CDC ログパーサーがエラーを見つけました。Oracle RAC 環境で CDC を実行すると、関連する RAC メンバの名前がこのメッセージに表示されます。
システムのアクション:	CDC の処理は異常終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。このメッセージに示されているエラーの説明を担当者に知らせます。
PWX-36047	ORAD <i>rac_member.SCN シーケンス</i> が有効ではありません。instance# <i>instance</i> で、現在の SCN <i>hexadecimal_scn(numeric_scn)</i> が前の SCN <i>hexadecimal_scn(numeric_scn)</i> よりも小さくなっています。
説明:	Oracle REDO ログに、昇順ではない SCN 値を持つレコードが含まれます。Oracle RAC 環境で CDC を実行すると、関連する RAC メンバの名前がこのメッセージに表示されます。
システムのアクション:	CDC の処理は異常終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。このメッセージに示されている情報を担当者に知らせます。
PWX-36048	ORAD <i>rac_member.ログパーサー</i> が、REDO レコード内にサポートされていない VLD <i>validation_code</i> を見つけました。最少補足ログが有効に設定されていることを確認してください。
説明:	Oracle REDO ログの読み取り中に、PowerExchange Express CDC ログパーサーが、サポートされていない Oracle VLD 値を見つけました。このエラーは、REDO ログが書き込まれたときに Oracle データベースに対して最少補足ログが有効になっていなかったために発生します。メッセージ PWX-36001 には、ヘッダー内に不正な VLD 値が含まれる REDO レコードのログ RBA と SCN が示されます。Oracle RAC 環境で CDC を実行すると、関連する RAC メンバの名前がこのメッセージに表示されます。

システムのアクション: CDC の処理は終了します。PowerExchange は、メッセージ PWX-36001 を発行し、エラーのある REDO エントリのログ RBA と SCN を報告します。

ユーザの応答: Oracle データベースの最少補足ログが有効になった後で Oracle SQL コマンド ALTER SYSTEM SWITCH LOGFILE が発行されたことを確認します。

PWX-36049      ORAD *rac\_member*:**不明な REDO VLD コード '*code*' が見つかりました。**

説明:            内部エラーが発生しました。PowerExchange が、REDO ログレコード内に認識できない VLD コードを見つけました。メッセージ PWX-36001 には、不明な VLD コードが含まれるログレコードのログ RBA と SCN が示されます。Oracle RAC 環境で CDC を実行すると、関連する RAC メンバの名前がこのメッセージに表示されます。

システムのアクション: CDC の処理は異常終了します。

ユーザの応答:   Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。このメッセージに示されている情報を担当者に知らせます。

PWX-36050      ORAD **警告** *rac\_member*:PARSEERRORSTOP=N が指定されているため、メッセージ *message\_id* で報告されたエラーはスキップされました。

説明:            PowerExchange Express CDC コンフィギュレーションファイルで PARSEERRORSTOP パラメータが N に設定されているため、PowerExchange Express CDC REDO レコードパーサーは Oracle アーカイブログの解析中に重大ではないエラーをスキップしました。通常、PARSEERRORSTOP パラメータは Informatica グローバルカスタマサポートの指示によって N に設定されます。Oracle RAC 環境で CDC を実行すると、関連する RAC メンバの名前がこのメッセージに表示されます。

システムのアクション: PowerExchange はこのエラーに関連する REDO 操作を無視し、CDC 処理が継続します。

ユーザの応答:    このエラーについての情報は、言及されているエラーメッセージを参照してください。スキップしても問題がないエラーかを検証します。このタイプのエラーをスキップしたくない場合は、Informatica グローバルカスタマサポートに問い合わせて、PARSEERRORSTOP パラメータを Y に設定する方法を確認してください。この設定を行うと、重大ではないタイプのエラーが発生するたびに CDC 処理が停止します。

PWX-36051      ORAD *rac\_member*:**致命的なエラー *error\_code* のためにパーサーが停止しています。**

説明:            Oracle アーカイブログの解析中に、PowerExchange Express CDC REDO レコードパーサーが致命的なエラーを見つけました。Oracle RAC 環境で CDC を実行すると、関連する RAC メンバの名前がこのメッセージに表示されます。

システムのアクション: CDC の処理は異常終了します。

ユーザの応答：	詳細については、PowerExchange エラーコードを参照してください。サポートが必要な場合は、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-36052	<b>ORAD 情報 <i>rac_member</i>:メンバが最後の SCN <i>scn</i> で停止したことをパーサーが検知しました。</b>
説明：	PowerExchange Express CDC for Oracle パーサーが、指定された RAC メンバが実行を停止したという通知を受け取りました。このメッセージには、メンバが停止する前に記録された最後の SCN が示されます。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-36053	<b>ORAD 情報 <i>rac_member</i>:SCN <i>scn</i> でメンバが実行中であることをパーサーが検知しました。</b>
説明：	PowerExchange Express CDC for Oracle パーサーが、指定された RAC メンバが指定された SCN で実行を開始したという通知を受け取りました。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-36054	<b>ORAD 警告: STANDBY 接続が閉じられました。データベースインスタンスが物理スタンバイではありません。</b>
説明：	PowerExchange Express CDC for Oracle は、Express CDC 構成ファイル (pwxorad.cfg) の STANDBY 文の資格情報を使用して、Oracle データベースへの接続を確立しました。しかし、データベースロールが物理スタンバイではありません。
システムのアクション：	PowerExchange Express CDC はデータベース接続を閉じ、STANDBY の資格情報を使用せずにデータベースへの新しい接続を確立しました。
ユーザの応答：	STANDBY 文を PowerExchange Express CDC 構成ファイルから削除します。
PWX-36055	<b>ORAD エラー: 要求された開始時刻 <i>time</i> は、<i>low_time</i> と <i>current_time</i> の間にありません。</b>
説明：	Oracle 変更データキャプチャの要求された開始時刻が、このメッセージで指定された有効な時間範囲内にありません。このメッセージでは、時刻値は yyyy/mm/dd hh:mm:ss 形式の Oracle ログ時間です。
システムのアクション：	キャプチャプロセスは終了します。
ユーザの応答：	要求された開始時刻を編集して、有効な値の範囲内になるようにします。その後で、キャプチャ処理を開始します。
PWX-36056	<b>ORAD 情報: 時刻 <i>requested_time</i> から開始します。キャプチャプロセスで SCN <i>scn</i> からのログの読み取りが開始されます。</b>
説明：	要求された開始時刻に基づいて、変更データキャプチャプロセスは指定された SCN から Oracle REDO ログの読み取りを開始します。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。

PWX-36057	<b>ORAD 情報:時刻 <i>requested_time</i> から開始します。キャプチャプロセスが SCN <i>scn</i> から変更を返しています。</b>
説明:	要求された開始時刻に基づいて、変更データキャプチャプロセスは指定された SCN から Oracle 変更データの戻しを開始しました。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-36060	<b>OCI 情報:OCI 環境を作成しています。</b>
説明:	PowerExchange が、Oracle 変更データキャプチャ用の Oracle Call Interface (OCI) 環境を作成しています。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-36061	<b>OCI 情報:OCI エラーハンドルを作成しています。</b>
説明:	PowerExchange Oracle CDC が、Oracle Call Interface (OCI) エラーハンドルを作成しています。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-36062	<b>OCI 情報:OCI サーバーハンドルを作成しています。</b>
説明:	PowerExchange Oracle CDC が、Oracle Call Interface (OCI) サーバーハンドルを作成しています。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-36063	<b>OCI 情報:OCI サービスコンテキストハンドルを作成しています。</b>
説明:	PowerExchange Oracle CDC が、Oracle Call Interface (OCI) サービスコンテキストハンドルを作成しています。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-36064	<b>OCI 情報:<i>oracle_server_name</i> サーバーに接続しています。</b>
説明:	PowerExchange Oracle CDC が、指定された Oracle サーバーに接続しています。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-36065	<b>OCI 情報:OCI サービスコンテキストサーバー属性を設定しています。</b>
説明:	PowerExchange Oracle CDC が、Oracle Call Interface (OCI) サービスコンテキストサーバー属性を設定しています。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-36066	<b>OCI 情報:OCI セッションハンドルを作成しています。</b>
説明:	PowerExchange Oracle CDC が、Oracle Call Interface (OCI) セッションハンドルを作成しています。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。

PWX-36067	<b>OCI 情報:セッションユーザー ID 属性を&lt;user_id&gt;に設定しています。</b>
説明:	PowerExchange Oracle CDC が、Oracle Call Interface (OCI) セッションユーザー ID 属性を <i>user_id</i> に設定しています。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-36068	<b>OCI 情報:セッションパスワード属性を&lt;password&gt;に設定しています。</b>
説明:	PowerExchange Oracle CDC が、Oracle Call Interface (OCI) セッションパスワード属性を <i>password</i> に設定しています。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-36069	<b>OCI 情報:OCI セッションを作成しています。</b>
説明:	PowerExchange Oracle CDC が Oracle Call Interface (OCI) セッションを作成しています。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-36070	<b>OCI 情報:OCI サービスコンテキストセッション属性を設定しています。</b>
説明:	PowerExchange Oracle CDC が、Oracle Call Interface (OCI) サービスコンテキストセッション属性を設定しています。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-36071	<b>OCI 情報:Oracle セッションセットアップが正常に完了しました:Oracle_version。</b>
説明:	PowerExchange が、指定されたバージョンの Oracle インスタンス用の Oracle Call Interface (OCI) セッションを正常に設定しました。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-36072	<b>OCI 情報:属性&lt;attribute_name&gt;値&lt;value&gt;を処理しています。</b>
説明:	PowerExchange Oracle CDC が、指定された値を持つ Oracle Call Interface (OCI) 属性を処理しています。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-36073	<b>OCI 情報:OCI モジュール&lt;module_name&gt;をロードしています。</b>
説明:	PowerExchange Oracle CDC が、指定された Oracle Call Interface (OCI) モジュールをロードしています。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-36074	<b>OCI 情報:OCI クライアントバージョンは version です。</b>
説明:	このメッセージには、PowerExchange がロードした Oracle Call Interface (OCI) クライアントバージョンが報告されます。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。

PWX-36075	OCI エラー: <i>error_text</i> 。
説明:	PowerExchange で Oracle Call Interface (OCI) エラーが発生しました。このメッセージには、エラーに関する情報が示されます。
システムのアクション:	Oracle CDC の処理は異常終了します。
ユーザの応答:	エラーの詳細については、関連するメッセージを確認します。その後、エラーの修正を試みます。
PWX-36076	OCI エラー:SQL テキスト< <i>sql</i> >。
説明:	PowerExchange で、指定された SQL 文に関連する Oracle Call Interface (OCI) エラーが発生しました。
システムのアクション:	Oracle CDC の処理は異常終了します。
ユーザの応答:	エラーの詳細については、関連するメッセージを確認します。その後、エラーの修正を試みます。
PWX-36077	OCI エラー:パラメータ <i>bind_parameter</i> のバインドに失敗しました。
説明:	Oracle Call Interface (OCI) の PowerExchange バインド操作に失敗しました。この失敗は、指定されたバインドパラメータに関連しています。
システムのアクション:	Oracle CDC の処理は異常終了します。
ユーザの応答:	エラーの詳細については、関連するメッセージを確認します。その後、エラーの修正を試みます。
PWX-36078	OCI エラー:OCI 属性 <i>attribute_name</i> の取得に失敗しました。
説明:	指定された Oracle Call Interface (OCI) 属性の PowerExchange 取得操作に失敗しました。
システムのアクション:	Oracle CDC の処理は異常終了します。
ユーザの応答:	エラーの詳細については、関連するメッセージを確認します。その後、エラーの修正を試みます。
PWX-36079	OCI エラー:OCI 属性 <i>attribute_name</i> の設定に失敗しました。
説明:	指定された Oracle Call Interface (OCI) 属性の PowerExchange 設定操作に失敗しました。
システムのアクション:	Oracle CDC の処理は異常終了します。
ユーザの応答:	エラーの詳細については、関連するメッセージを確認します。その後、エラーの修正を試みます。

PWX-36080	ORAD 情報 <i>rac_member.Oracle_user_name</i> として Oracle <i>server_name</i> に接続しています。
説明：	PowerExchange が、CDC 処理を実行するために、指定された Oracle ユーザー名を使用して Oracle サーバーに接続しています。Oracle RAC 環境で CDC を実行すると、関連する RAC メンバの名前がこのメッセージに表示されます。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-36081	ORAD 情報 <i>rac_member.Oracle</i> 接続を閉じています。
説明：	PowerExchange が Oracle サーバーへの接続を閉じています。Oracle RAC 環境で CDC を実行すると、関連する RAC メンバの名前がこのメッセージに表示されます。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-36082	OCI 情報:SQL 文オブジェクトの SQL 文字列=[ <i>sql_string</i> ]。
説明：	PowerExchange が、Oracle Call Interface (OCI) SQL 文オブジェクトに、指定された SQL 文字列を設定しました。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-36083	OCI 情報:SQL 文オブジェクトのステータス <i>status_value</i> 。
説明：	このメッセージには、PowerExchange Oracle CDC に使用されている Oracle Call Interface (OCI) SQL 文オブジェクトのステータスが示されます。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-36084	ORAD 情報 <i>rac_member.Oracle</i> インスタンス <i>instance_name</i> に接続しました。
説明：	PowerExchange Express CDC for Oracle が、変更データキャプチャのために、指定された Oracle データベースに接続しました。Oracle RAC 環境で CDC を実行すると、関連する RAC メンバの名前がこのメッセージに表示されます。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-36085	ORAD <i>rac_member.Oracle</i> サーバー <i>server_name</i> への接続に失敗しました。
説明：	PowerExchange Express CDC for Oracle が Oracle サーバーに接続しようとしたが、失敗しました。Oracle RAC 環境では、このメッセージには関連する RAC メンバの名前が含まれます。
システムのアクション：	PowerExchange Express CDC 処理が終了します。
ユーザの応答：	メッセージログをチェックし、この失敗に関連する Oracle エラーメッセージを確認します。



PWX-36086      **ORAD 情報: 接続文字列 *connection\_string* を使用して Oracle に再接続しています。 *attempt\_number* を *maximum\_retry\_attempts* 試行しました。**

説明：            Oracle ソースへの接続が失われた後に、PowerExchange Express CDC for Oracle が Oracle ソースデータベースまたは ASM インスタンスへの再接続を指定の回数だけ試みます。このメッセージは、最大許容再試行数も示しています。これは、PowerExchange Express CDC 構成ファイルの中の OPTIONS 文の CONNRETRYMAX パラメータで設定されます。再試行の時間間隔は、OPTIONS 文の CONNRETRYWAIT パラメータで設定されます。

ユーザの応答：    対応する必要はありません。

PWX-36087      **ORAD 情報: 再接続に成功しました。**

説明：            Oracle ソースへの接続が失われた後に、PowerExchange Express CDC for Oracle が Oracle ソースデータベースまたは ASM インスタンスに正常に再接続しました。

ユーザの応答：    対応する必要はありません。

PWX-36088      **ORAD 情報 *rac\_member*: トランケートされた LWN がログファイル *file\_name*、シーケンス *log\_sequence\_number* に見つかりました。**

説明：            Oracle が LWN の REDO ブロックを書き込んでいるときに、Oracle 障害が発生しました。Oracle データベース再起動され、PowerExchange Express for Oracle が処理を再開した後、Express CDC は、指定されたアーカイブ済み Oracle REDO ログが不完全であることを検出しました。このログには、エラー発生時に処理されていた LWN のすべての REDO ブロックが含まれるわけではありません。この状況は、致命的な I/O 障害などの例外的な環境で発生します。

システムのアクション：    CDC 処理を続行します。

ユーザの応答：    対応する必要はありません。

PWX-36090      **ORAD 情報: *resetlogs\_ID* *resetlogs\_ID* *resetlogs SCN* *SCN* の新しいデータベースインカーネーションが処理中に見つかりました。**

説明：            PowerExchange Express CDC for Oracle ログリーダーで、アーカイブ REDO ログの読み取り中に新しいデータベースインカーネーションが見つかりました。

ユーザの応答：    PowerExchange Express CDC キャプチャ処理は継続します。

システムのアクション：    対応する必要はありません。

PWX-36091	ORAD: <b>最後に処理された SCN <i>SCN</i> が最初の SCN <i>SCN</i> より大きい値です (resetlogs ID <i>resetlogs_ID</i> のデータベースインカーネーション)。</b>
説明:	Oracle OPEN DATABASE RESETLOGS 操作で、指定された resetlogs ID のデータベースインカーネーションが作成され、オンライン REDO ログに新しい SCN が設定されました。ただし、新しい SCN は PowerExchange Express CDC for Oracle が最後に変更レコードを処理した SCN より小さい値です。PowerExchange Express CDC が以前に処理した変更データは無効になっています。
システムのアクション:	PowerExchange Express CDC 処理は異常終了します。
ユーザの応答:	無効な変更データが PowerExchange ロgger (Linux、UNIX、および Windows 用) ログファイルに書き込まれている場合、PowerExchange ロgger をコールドスタートまたは特殊スタートする必要があります。ターゲットテーブルの再マテリアライズも必要な可能性があります。
PWX-36092	ORAD: resetlogs ID <i>resetlogs_ID</i> のデータベースインカーネーションが処理中に孤立しました。
説明:	PowerExchange Express CDC for Oracle の処理中、RESETLOGS イベントで指定された resetlogs ID のデータベースインカーネーションが孤立しました。
システムのアクション:	PowerExchange Express CDC 処理は異常終了します。
ユーザの応答:	PowerExchange ロgger (Linux、UNIX、および Windows) をコールドスタートまたは特殊スタートする必要があります。ターゲットテーブルの再マテリアライズも必要な可能性があります。
PWX-36093	ORAD: <b>スタート SCN <i>SCN</i> のデータベース resetlogs ID <i>resetlogs_ID</i> がスタート resetlogs ID <i>start_resetlogs_ID</i> に一致しません。</b>
説明:	RESETLOGS イベント後、指定された PowerExchange リスタート SCN を含むデータベースインカーネーションの resetlogs ID がリスタートトークンの resetlogs ID と一致しません。この状況は、リスタート SCN より前の時点でデータベースがリカバリされた場合に発生する可能性があります。リカバリポイントより後にキャプチャされたすべてのデータが無効と見なされる場合があります。
システムのアクション:	PowerExchange Express CDC for Oracle 処理は異常終了します。
ユーザの応答:	PowerExchange ロgger (Linux、UNIX、および Windows) をコールドスタートまたは特殊スタートする必要があります。ターゲットテーブルの再マテリアライズも必要な可能性があります。

PWX-36094	ORAD: resetlogs ID <i>resetlogs_ID</i> のデータベースインカーネーション (スタート SCN <i>SCN</i> ) に最後にキャプチャされた SCN <i>SCN</i> が含まれていません。
説明:	PowerExchange リスタート SCN を含むデータベースインカーネーションにはキャプチャされた最後のコミットの SCN が含まれていません。この問題は、コミットが最後にキャプチャされる前の時点でデータベースがリカバリされた場合に発生する可能性があります。リカバリポイントより後にキャプチャされたすべてのデータが無効と見なされる場合があります。
システムのアクション:	PowerExchange Express CDC for Oracle 処理は異常終了します。
ユーザの応答:	PowerExchange ロgger (Linux、UNIX、または Windows) をコールドスタートまたは特殊スタートする必要があります。ターゲットテーブルの再マテリアライズも必要な可能性があります。
PWX-36095	ORAD: スタート SCN <i>SCN</i> がデータベースインカーネーションで見つかりません。
説明:	PowerExchange Express CDC for Oracle 処理のスタート SCN は、現在のデータベースインカーネーションまたは使用可能な以前のデータベースインカーネーションの SCN 範囲内ではありません。
システムのアクション:	PowerExchange Express CDC 処理は異常終了します。
ユーザの応答:	PowerExchange Express CDC の有効なリスタートポイントを指定します。その後、CDC セッションを再実行します。
PWX-36096	ORAD 情報: マルチテナント PDB 名 <i>pdb_name</i> 、CON_ID <i>container_id</i> 、CON_UID <i>unique_container_id</i> を処理していません。
説明:	PowerExchange Express CDC for Oracle が、Oracle マルチテナントコンテナデータベース (CDB) でプラグブルデータベース (PDB) を処理しています。このメッセージには、PDB 名、PDB のコンテナ ID (CON_ID) および一意のコンテナ ID (CON_UID) が記載されています。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-36097	ORAD: アーカイブログファイル <i>&lt;file_name&gt;</i> 、スレッド <i>thread_id</i> 、シーケンス <i>log_sequence_number</i> にアクセスできません。理由: <i>operating_system_reason</i> 。
説明:	PowerExchange Express CDC for Oracle の初期化中、変更データのキャプチャに指定アーカイブログにアクセスできないことが PowerExchange で確認されました。メッセージには、オペレーティングシステムから返された理由コードが含まれています。
システムのアクション:	PowerExchange Express CDC 処理は終了します。
ユーザの応答:	キャプチャプロセスに対する権限が適切であることを確認してください。必要に応じて、アーカイブログをリストアしてください。

PWX-36098	ORAD 情報 <i>rac_member</i> . リーダーは物理スタンバイデータベースでの実行を待機しています。現在のデータベース SCN は <i>db_scn</i> です。
説明:	Data Guard 物理スタンバイデータベースから変更データを読み取る PowerExchange Express CDC for Oracle リーダーは、プライマリデータベースからスタンバイデータベースへのアーカイブログの適用を待機しています。
システムのアクション:	ログがスタンバイデータベースに適用されるまで、キャプチャプロセスは一時停止されます。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-36099	ORAD 情報 <i>rac_member</i> . リーダーを使用可能にするためのログシーケンス <i>log_sequence_number</i> を待機しています。
説明:	オフラインモードで動作する PowerExchange Express CDC for Oracle リーダーは、次のログが使用可能になるのを待機しています。このメッセージは、リーダーが待機しているログのシーケンス番号を示します。
システムのアクション:	キャプチャプロセスは、ログが使用可能になるまで一時停止されます。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-36100	ORAD 警告:REDO ログファイル <i>file_name</i> が拒否されました:DBID <i>database_identifier</i> が、予期される値 <i>database_identifier</i> と一致しません。
説明:	オフラインモードで、PowerExchange Express CDC for Oracle ログリーダーによって、複数データベースの OracleREDO ログファイルが検出されました。
システムのアクション:	PowerExchange Express CDC 処理が続行され、リーダーによって検出された最初のデータベース ID の REDO ログが使用されます。
ユーザの応答:	ターゲットデータベースの REDO ログでのみ一致するように、ログディレクトリとファイル名マスクを変更します。
PWX-36101	ORAD:スレッドインデックス <i>index_value</i> が有効ではありません。
説明:	CDC スレッドインデックス値が有効でないため、PowerExchange 内部エラーが発生しました。
システムのアクション:	PowerExchange Express CDC for Oracle 処理が異常終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-36102	ORAD: resetlogs ID <i>resetlogs_ID</i> のスタート SCN <i>SCN</i> が、THREAD# <i>thread_number</i> の有効な SCN 範囲 ( <i>low_SCN</i> ~ <i>high_SCN</i> ) にありません。
説明:	リスタートトークン内で指定された resetlogs ID に関連付けられている PowerExchange スタート SCN は、スレッドで使用可能な REDO ログファイルの有効な位置を特定できません。リスタート SCN は有効な SCN 値の範囲内でなければなりません。

システムのアクション: PowerExchange Express CDC for Oracle キャプチャ処理は異常終了します。

ユーザの応答: PowerExchange のリスタート情報を修正します。リスタートポイントの設定方法については、『PowerExchange CDC ガイド (Linux、UNIX、Windows 用)』を参照してください。

**PWX-36103 ORAD:ログファイル選択の Oracle ログリーダーパラメータに一致する REDO ログが存在しません。**

説明: PowerExchange Express CDC for Oracle コンフィギュレーションファイルでユーザーが Express CDC ログリーダーに指定した REDO ログディレクトリおよびファイル名マスクに一致する REDO ログファイルは、PowerExchange で見つかりませんでした。

システムのアクション: PowerExchange Express CDC 処理は異常終了します。

ユーザの応答: PowerExchange Express CDC for Oracle コンフィギュレーションファイルで、ログリーダーパラメータを修正します。その後、CDC セッションを再実行します。

**PWX-36104 ORAD:REDO ログファイル *file\_name*:初期化処理の後で新しい THREAD# *thread\_number*が検出されました。**

説明: 指定された REDO ログファイルのオフライン処理中に、Oracle の初期化時に特定されなかった Oracle THREAD#値が PowerExchange Express CDC for Oracle ログリーダーによって検出されました。このスレッドは新しい RAC メンバまたはログファイル用である可能性があります。スレッドはすべて、Oracle の初期化時に特定する必要があります。

システムのアクション: PowerExchange Express CDC 処理は異常終了します。

ユーザの応答: RAC 環境で、PowerExchange Express CDC for Oracle コンフィギュレーションファイル内の MEMBERS パラメータを編集し、RAC メンバの番号を更新します。さもなければ、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。コンフィギュレーションファイルを更新した後、CDC セッションをもう一度開始します。

**PWX-36105 ORAD:初期化処理の後で新しい THREAD# *thread\_number*が検出されました。**

説明: REDO ログのオンライン処理中に、Oracle の初期化時に特定されなかった Oracle THREAD#値が PowerExchange Express CDC for Oracle ログリーダーによって検出されました。このスレッドは新しい RAC メンバまたはログファイル用である可能性があります。スレッドはすべて、Oracle の初期化時に特定する必要があります。

システムのアクション: PowerExchange Express CDC 処理は異常終了します。

ユーザの応答: RAC 環境で、PowerExchange Express CDC for Oracle コンフィギュレーションファイル内の MEMBERS パラメータを編集し、RAC メンバの番号を更新します。さもなければ、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。コンフィギュレーションファイルを更新した後、CDC セッションをもう一度開始します。

PWX-36106	<b>ORAD:ログリーダーは、THREAD# <i>thread_number</i> およびログシーケンス番号 <i>sequence_number</i> の REDO ログを見つけることができません。</b>
説明:	指定された Oracle スレッドの一連の REDO ログで、PowerExchange Express CDC for Oracle ログリーダーは、指定されたシーケンス番号を持つ REDO ログファイルを見つけることができません。
システムのアクション:	PowerExchange Express CDC 処理は異常終了します。
ユーザの応答:	指定されたシーケンス番号を持つ REDO ログファイルを復元します。このファイルを復元できない場合は、ターゲットをもう一度マテリアライズします。その後で、CDC セッションをコールドスタートします。
PWX-36107	<b>ORAD:ログリーダーによって THREAD# <i>thread_number</i> シーケンス <i>sequence_number</i> の代替ログが要求されましたが、使用できる代替ログが存在しませんでした。</b>
説明:	PowerExchange Express CDC for Oracle ログリーダーは、指定された Oracle スレッドの、指定されたシーケンス番号を持つ REDO ログファイルを読み取ることができませんでした。この結果、ログリーダーは代替 REDO ログを要求しました。しかし、指定されたシーケンス番号を持つ代替ログは見つかりませんでした。
システムのアクション:	PowerExchange Express CDC 処理は異常終了します。
ユーザの応答:	ログの読み取りエラーの原因を調べるには、このエラーに関連する他のメッセージを確認します。
PWX-36108	<b>ORAD:THREAD# <i>thread_number</i> の処理中にログギャップが検出されました。見つかった最後のログは <i>sequence_number</i>、見つかった次のシーケンスは <i>sequence_number</i>、SCN <i>scn</i>。</b>
説明:	PowerExchange Express CDC for Oracle ログリーダーによって、指定された Oracle スレッドの一連の REDO ログファイル内にギャップが検出されました。ログファイルのシーケンス番号は昇順に連続する必要があります。
システムのアクション:	PowerExchange Express CDC 処理は異常終了します。
ユーザの応答:	ログギャップを修正する必要がある REDO ログファイルを復元します。これらのログファイルを復元できない場合は、ターゲットを再マテリアライズします。その後で、CDC セッションをコールドスタートします。
PWX-36109	<b>ORAD:データベースのアーカイブロギングが無効になっています。変更キャプチャにはアーカイブロギングが必要です。</b>
説明:	Oracle データベースにアーカイブロギングが有効になっていません。PowerExchange Express CDC for Oracle を使用するには、アーカイブロギングを有効にする必要があります。

システムのアクション:	PowerExchange Express CDC 処理は異常終了します。
ユーザの応答:	Oracle データベースの ARCHIVELOG モードを有効にします。デフォルトの保存先を使用したくない場合は、アーカイブログの保存先も指定します。
PWX-36110	ORAD:プロシージャ <i>procedure_name</i> での SQL エラー。エラーコードは: <i>code</i> です。エラーテキストは: <i>text</i> です。
説明:	PowerExchange Express CDC for Oracle の処理中に、Oracle への PowerExchange SQL 呼び出しに失敗しました。
システムのアクション:	PowerExchange Express CDC 処理は異常終了します。
ユーザの応答:	エラーの原因を特定するには、このメッセージ内のエラーテキストを調べます。その後、エラーの修正を試みます。
PWX-36111	ORAD 警告 <i>rac_member</i> :シーケンス <i>log_sequence_number</i> の現行アクティブログの情報が見つかりません。ログ切り替えの遅延の可能性があります。
説明:	PowerExchange Express CDC for Oracle ログリーダーによって REDO ログ切り替えが検出されましたが、ログシーケンス内の次の REDO ログファイル（新規にアクティブになるログでなければならぬ）の情報は受け取られていません。このエラーの原因としては、ログ切り替えが完了しなかったことなどが考えられます。Oracle RAC 環境では、このメッセージには関連する RAC メンバの名前が含まれます。
システムのアクション:	アクティブな REDO ログ情報を取得するため、ログリーダーは Oracle のポーリングを継続します。
ユーザの応答:	Oracle 警告ログを見て、最後のログ切り替えが正常に行われなかったかどうかを確認します。
PWX-36112	ORAD 警告: スレッド番号 <i>thread_number</i> 、グループ番号 <i>log_group</i> のアクティブログが見つかりませんでした。
説明:	指定された Oracle 補足ロググループとスレッドのすべてのアクティブ REDO ログが PowerExchange Express CDC の Oracle 処理から除外されます。詳細は、表示されるメッセージ PWX-36502 から PWX-36504 を参照してください。
システムのアクション:	処理は、PowerExchange Express CDC がスレッドグループのオンライン REDO ログファイルへのアクセスを試みるまで継続します。
ユーザの応答:	PowerExchange Express CDC for Oracle 構成ファイルの READER 文に ACTIVELOGMASK パラメータを定義した場合は、マスクが正しいかを確認します。Automatic Storage Management (ASM) を使用する場合は、READER 文に ASM 接続パラメータを正しく定義したかを確認します。

PWX-36113	<b>ORAD 情報: <i>rac_member</i>:サーバーログファイル <i>server_file_name</i> は、<i>local_file_name</i> としてローカルに処理されます。</b>
説明:	PowerExchange は、PowerExchange Express CDC for Oracle コンフィギュレーションファイルの DIRSUB 文に指定されたファイル名の置換基準に基づき、Oracle サーバー上の REDO ログファイル名を、ローカル PowerExchange システム上の指定されたローカルファイル名に変換します。Oracle RAC 環境では、このメッセージには関連する RAC メンバの名前が含まれます。
システムのアクション:	PowerExchange Express CDC for Oracle は、ローカルファイル名を使用してログファイルをローカルに処理します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-36114	<b>ORAD:データベースバージョン <i>version</i> がアクティブ処理に必要な最低レベルに達していません。</b>
説明:	現在 PowerExchange Express CDC for Oracle に使用されている Oracle データベースのバージョンは、PowerExchange がサポートする最低限のバージョンよりも古いものです。
システムのアクション:	PowerExchange Express CDC 処理は異常終了します。
ユーザの応答:	可能であれば、Oracle インスタンスを PowerExchange がサポートするバージョンにアップグレードします。Oracle をアップグレードできない場合は、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-36115	<b>ORAD 情報:ディレクトリ <i>directory_name</i> が存在しないか、アクセスできない状態です。 システムエラー番号 =<i>error_number</i>、 エラーテキスト=<i>error_text</i>。</b>
説明:	PowerExchange Express CDC for Oracle ログリーダーがオフラインモードで実行されており、ログ検出のために指定された REDO ログディレクトリにアクセスできません。
システムのアクション:	PowerExchange Express CDC 処理が続行します。
ユーザの応答:	PowerExchange Express CDC for Oracle コンフィギュレーションファイルで、READER 文と DIRSUB 文の DIR パラメータが正しいかを確認します。
PWX-36116	<b>ORAD:v\$archived_log にログレコードが含まれないため、ログリーダーはアーカイブログのブロックサイズを確認できません。</b>
説明:	V\$ARCHIVED_LOG ビューにアーカイブログが見つからないため、PowerExchange Express CDC for Oracle ログリーダーはアーカイブログのブロックサイズを確認できません。 ログリーダーは、ACTIVE モードまたは ARCHIVEONLY モードでの実行時に、V\$ARCHIVED_LOG からこの情報を取得します。 ログリーダーの初期化は失敗します。
システムのアクション:	PowerExchange Express CDC 処理は異常終了します。



ユーザの応答： REDO ログのファイル切り替えを実行し、1 つ以上のログがアーカイブされるようにします。

PWX-36117 **ORAD 情報** *rac\_member*: リーダーはスタート SCN *scn* を持つアーカイブログシーケンス *log\_sequence\_number* を待機しています。

説明： PowerExchange Express CDC for Oracle ログリーダーは ARCHIVEONLY または ARCHIVECOPY モードで実行されており、指定されたシーケンス番号とスタート SCN を持つアクティブ REDO ログがアーカイブまたはコピーされるのを待機しています。Oracle RAC 環境では、このメッセージには関連する RAC メンバの名前が含まれます。

システムのアクション： PowerExchange Express CDC は、アーカイブログが使用できるようになるまでアイドル状態です。

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-36118 **ORAD 情報**: Oracle member# *thread\_number* が、SCN *current\_system\_scn* で停止しています。

説明： PowerExchange Express CDC ログマネージャによって、RAC メンバが実行を停止したことが検知されました。このメッセージには、メンバが停止した時点における現行 SCN が示されます。

システムのアクション： CDC 処理を続行します。

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-36119 **ORAD 情報**: Oracle member# *thread\_number* は、SCN *current\_system\_scn* で現在アクティブです。

説明： 非アクティブ RAC メンバがアクティブになります。このメッセージには、メンバステータスがアクティブに変化した時点における現行システム SCN が示されます。

システムのアクション： CDC 処理を続行します。

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-36120 **ORAD 警告**: Oracle データベース *database\_name* およびインスタンス *instance* に対するログマネージャ接続が切断されました。接続を再試行しています。

説明： 指定された Oracle データベースおよびインスタンスへの PowerExchange Express CDC ログマネージャ接続が異常終了しました。

システムのアクション： ログマネージャは、Oracle データベースにもう一度接続を試みます。

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-36121	ORAD:Oracle データベース <i>database_name</i> およびインスタンス <i>instance</i> に対するログマネージャ接続が切断されました。キャプチャを中断しています。
説明:	PowerExchange Express CDC ログマネージャが、指定された Oracle データベースおよびインスタンスへの接続を失いました。
システムのアクション:	CDC の処理は異常終了します。
ユーザの応答:	エラーを修正し、キャプチャ処理をもう一度開始します。
PWX-36122	ORAD 情報:Oracle データベース <i>database_name</i> およびインスタンス <i>instance</i> へのログマネージャ接続が正常に行われました。
説明:	PowerExchange Express CDC ログマネージャが、指定された Oracle データベースおよびインスタンスに正常に再接続しました。
システムのアクション:	CDC 処理を続行します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-36123	ORAD 警告 <i>rac_member</i> :アーカイブログシーケンス <i>sequence_number</i> の情報が見つかりません。ログアーカイブの遅延の可能性があります。
説明:	PowerExchange Express CDC ログリーダーによって、Oracle アクティブログからアーカイブログへのログ切り替えが検出されました。しかし、シーケンス内の次のログの情報がまだ使用できません。Oracle RAC 環境では、このメッセージには関連する RAC メンバの名前が含まれます。
システムのアクション:	ログ情報を取得するため、PowerExchange は Oracle のポーリングを継続します。
ユーザの応答:	Oracle 警告ログを調べ、何らかの問題によってログ切り替えが妨げられていないかを確認します。
PWX-36124	ORAD 警告 <i>rac_member</i> :代替ログシーケンス <i>sequence_number</i> の情報が見つかりません。ログの切り替えまたはアーカイブの遅延の可能性があります。
説明:	PowerExchange Express CDC リーダーによって、アーカイブログから代替ログへの Oracle ログ切り替えが要求されました。しかし、ログシーケンス情報がまだ使用できません。
システムのアクション:	ログ情報を取得するため、PowerExchange は Oracle のポーリングを継続します。
ユーザの応答:	Oracle 警告ログを調べ、何らかの問題によってログ切り替えが妨げられていないかを確認します。
PWX-36125	ORAD:指定されたパラメータに一致するアクティブログが見つかりません。
説明:	指定されたパラメータでは、どのスレッドのアクティブログも PowerExchange Express CDC for Oracle で見つかりませんでした。

システムのアクション: PowerExchange Express CDC キャプチャ処理が終了します。

ユーザの応答: アクティブログマスクが指定されている場合は、そのマスクが正しいかを確認します。 ログを ASM に書き込むように Oracle を設定した場合は、ASM 接続パラメータが指定されているかを確認します。

PWX-36126 ORAD:データベーススレッド数 *number\_of\_threads* が MEMBERS パラメータ *rac\_members* に一致しません。

説明: PowerExchange Express CDC for Oracle コンフィギュレーションファイルで、RAC 文の MEMBERS パラメータにデータベーススレッド数と一致しないメンバ数が指定されています。 メンバ数とスレッド数は一致しなければなりません。

システムのアクション: CDC の処理は異常終了します。

ユーザの応答: RAC MEMBERS パラメータを編集し、RAC 内のアクティブメンバと非アクティブメンバの正しい数を指定します。 その後、CDC セッションを再実行します。

PWX-36127 ORAD: データベースが RAC ではなく、複数の開いているスレッド<*number\_of\_threads*>が見つかりました。

説明: PowerExchange Express CDC for Oracle は、Oracle パラメータの設定が *cluster\_database=false* になっている Oracle データベースで、開いているスレッドを複数検出しました。これは、データベースが RAC データベースではないことを示します。ただし、PowerExchange Express CDC では、RAC データベースについてのみ、スレッドを複数開くことがサポートされています。

システムのアクション: PowerExchange Express CDC 処理は異常終了します。

ユーザの応答: 冗長スレッドを無効にします。

PWX-36130 ORAD *rac\_member*:ログファイルを開いています。 ファイル名が設定されていません。

説明: PowerExchange Express CDC for Oracle ログリーダーで、REDO ログファイルを開こうとしたときに内部エラーが発生しました。 ログリーダーはログファイル名を確認できません。 Oracle RAC 環境では、このメッセージには関連する RAC メンバの名前が含まれます。

システムのアクション: REDO ログ情報を取得するため、ログリーダーは Oracle のポーリングを継続します。

ユーザの応答: Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-36131 ORAD *rac\_member*:REDO ログファイル *file\_name*:ファイルヘッダー情報がありません。

説明: 指定された REDO ログファイルには、PowerExchange Express CDC for Oracle がファイルヘッダーの最初のブロックに必要な情報が含まれていません。 このファイルはログファイルではない可能性や、このファイルは壊れたログファイルである可能性が考えられます。 Oracle RAC 環境では、このメッセージには関連する RAC メンバの名前が含まれます。

システムのアクション:	Express CDC ログリーダーは、同じシーケンス番号を持つ代替ログファイルの使用を試みます。この代替ログファイルが存在しない場合、CDC 処理は終了します。
ユーザの応答:	ログファイルを復元するか、ターゲットを再マテリアライズします (ログファイルの復元が不可能な場合)。その後で、CDC セッションをコールドスタートします。
PWX-36132	<b>ORAD rac_member:REDO ログファイル file_name:ファイルタイプ 0xhexadecimal_type が、REDO ログのタイプではありません。</b>
説明:	指定された REDO ログファイルには、PowerExchange Express CDC for Oracle ログリーダーが必要とするファイル識別子が含まれていません。このファイルはログファイルではない可能性や、このファイルは壊れたログファイルである可能性が考えられます。Oracle RAC 環境では、このメッセージには関連する RAC メンバの名前が含まれます。
システムのアクション:	ログリーダーは、同じシーケンス番号を持つ代替ログファイルの使用を試みます。この代替ログファイルが存在しない場合、CDC 処理は終了します。
ユーザの応答:	ログファイルを復元するか、ターゲットを再マテリアライズします (ログファイルの復元が不可能な場合)。その後で、CDC セッションをコールドスタートします。
PWX-36133	<b>ORAD rac_member:REDO ログファイル file_name:ブロックサイズ block_size が有効な値ではありません。</b>
説明:	指定された REDO ログファイルのブロックサイズが有効ではありません。このファイルはログファイルではない可能性や、このファイルは壊れたログファイルである可能性が考えられます。Oracle RAC 環境では、このメッセージには関連する RAC メンバの名前が含まれます。
システムのアクション:	PowerExchange Express CDC for Oracle ログリーダーは、同じシーケンス番号を持つ代替ログファイルの使用を試みます。この代替ログファイルが存在しない場合、CDC 処理は終了します。
ユーザの応答:	ログファイルを復元するか、ターゲットを再マテリアライズします (ログファイルの復元が不可能な場合)。その後で、CDC セッションをコールドスタートします。
PWX-36134	<b>ORAD rac_member:読み取りの開始位置 start_position がファイルサイズ size を超えています。</b>
説明:	PowerExchange Express CDC for Oracle ログリーダーが、ログファイルの最後を過ぎた位置で REDO ログ読み取り操作を開始しようとしました。Oracle RAC 環境では、このメッセージには関連する RAC メンバの名前が含まれます。
システムのアクション:	PowerExchange Express CDC 処理は異常終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-36135	<b>ORAD <i>rac_member</i>.REDO ログファイル <i>file_name</i>:ファイルの開始位置 <i>position</i> がファイル長 <i>length</i> を超えています。</b>
説明:	指定された Oracle REDO ログファイルの開始位置が、実際のファイル長を超えています。 ファイルが壊れているか、ファイルシステムエラーが発生した可能性があります。
システムのアクション:	PowerExchange Express CDC for Oracle ログリーダーは、同じシーケンス番号を持つ代替ログファイルの使用を試みます。 この代替ログファイルが存在しない場合、CDC 処理は終了します。
ユーザの応答:	ログファイルを復元します。 ログファイルを復元できない場合は、ターゲットを再マテリアライズし、CDC セッションをコールドスタートします。
PWX-36136	<b>ORAD <i>rac_member</i>.REDO ログファイル <i>file_name</i>:ログヘッダー情報がありません。</b>
説明:	指定された REDO ログファイルには、PowerExchange Express CDC for Oracle ログリーダーがこのファイルヘッダーの 2 番目のブロックに必要とする情報が含まれていません。 このファイルはログファイルではない可能性や、このファイルは壊れたログファイルである可能性が考えられます。 Oracle RAC 環境では、このメッセージには関連する RAC メンバの名前が含まれます。
システムのアクション:	ログリーダーは、同じシーケンス番号を持つ代替ログファイルの使用を試みます。 この代替ログファイルが存在しない場合、CDC 処理は終了します。
ユーザの応答:	ログファイルを復元するか、ターゲットを再マテリアライズします (ログファイルの復元が不可能な場合)。 その後で、CDC セッションをコールドスタートします。
PWX-36137	<b>ORAD <i>rac_member</i>.REDO ログファイル <i>file_name</i>:ログヘッダーファイルタイプ <i>0xhexadecimal_type</i> が、REDO ログのタイプではありません。</b>
説明:	指定された REDO ログファイルには、PowerExchange Express CDC for Oracle ログリーダーがこのファイルヘッダーの 2 番目のブロックに必要とする情報が含まれていません。 このファイルはログファイルではない可能性や、このファイルは壊れたログファイルである可能性が考えられます。 Oracle RAC 環境では、このメッセージには関連する RAC メンバの名前が含まれます。
システムのアクション:	ログリーダーは、同じシーケンス番号を持つ代替ログファイルの使用を試みます。 この代替ログファイルが存在しない場合、CDC 処理は終了します。
ユーザの応答:	ログファイルを復元するか、ターゲットを再マテリアライズします (ログファイルの復元が不可能な場合)。 その後で、CDC セッションをコールドスタートします。

PWX-36138	ORAD <i>rac_member</i> .REDO ログファイル <i>file_name</i> .ログファイルシーケンス <i>sequence_number</i> が、予期される値 <i>sequence_number</i> と一致しません。
説明：	指定された REDO ログファイルで、ファイルヘッダーの 2 番目のブロックに、PowerExchange Express CDC for Oracle が予期するシーケンス番号に一致するシーケンス番号が含まれています。このファイルはログファイルではない可能性や、このファイルは壊れたログファイルである可能性が考えられます。Oracle RAC 環境では、このメッセージには関連する RAC メンバの名前が含まれます。
システムのアクション：	PowerExchange Express CDC ログリーダーは、同じシーケンス番号を持つ代替ログファイルの使用を試みます。この代替ログファイルが存在しない場合、CDC 処理は終了します。
ユーザの応答：	正しい REDO ログファイルを特定します。このファイルを特定できない場合は、ターゲットを再マテリアライズします。その後で、CDC セッションをコールドスタートします。
PWX-36139	ORAD <i>rac_member</i> .REDO ログファイル <i>file_name</i> .ログヘッダーが無効です: DBID <i>database_identifier</i> には <i>database_identifier</i> が必要です: THREAD# <i>thread_number</i> には <i>thread_number</i> が必要です: resetlogs ID <i>SCN/resetlogs_ID</i> には <i>SCN/resetlogs_ID</i> が必要です。
説明：	指定された Oracle REDO ログファイルで、2 番目のブロックに DBID、THREAD#、または RESETLOGS SCN（または ID）に予期されない値が含まれている無効なヘッダーがあります。Oracle RAC 環境では、このメッセージには関連する RAC メンバの名前が含まれます。
システムのアクション：	PowerExchange Express CDC for Oracle ログリーダーは、同じシーケンス番号を持つ代替ログファイルの使用を試みます。この代替ログファイルが存在しない場合、CDC 処理は終了します。
ユーザの応答：	正しい REDO ログファイルを特定します。このファイルを特定できない場合は、ターゲットを再マテリアライズします。その後で、CDC セッションをコールドスタートします。
PWX-36140	ORAD 警告 <i>rac_member</i> .REDO ログファイル <i>file_name</i> :// <i>O_operation</i> が、戻りコード= <i>return_code</i> .エラー番号= <i>error_number</i> .エラーテキスト= <i>error_text</i> で失敗しました。
説明：	指定された REDO ログファイルに対する I/O 操作が、指定された戻りコード、エラー番号、エラーテキストを表示して失敗しました。Oracle RAC 環境では、このメッセージには関連する RAC メンバの名前が含まれます。
システムのアクション：	PowerExchange Express CDC for Oracle ログリーダーは、同じシーケンス番号を持つ代替ログファイルの使用を試みます。この代替ログファイルが存在しない場合、CDC 処理は終了します。
ユーザの応答：	I/O 問題の解決を試みます。I/O 問題を解決できず、代替ログファイルも見つからない場合は、ターゲットを再マテリアライズします。その後で、CDC セッションをコールドスタートします。

PWX-36141	ORAD <i>rac_member</i> :ログファイル <i>file_name</i> 、ブロック <i>block_number</i> を処理しています。VLD 0x04 が必要でしたが、VLD 0xhexadecimal_vld が見つかりました。
説明:	指定された REDO ログファイルでブロックの処理中に、PowerExchange Express CDC for Oracle ログリーダーが LWN の開始時に予期しない VLD 値を見つけました。内部処理エラーが発生したか、またはログファイルが壊れている可能性があります。Oracle RAC 環境では、このメッセージには関連する RAC メンバの名前が含まれます。
システムのアクション:	ログリーダーは、同じシーケンス番号を持つ代替ログファイルの使用を試みます。この代替ログファイルが存在しない場合、CDC 処理は終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-36142	ORAD <i>rac_member</i> :ログファイル <i>file_name</i> 、ブロック <i>block_number</i> を処理しています。ブロックヘッダーが無効です。必要だったもの:シーケンス=log_sequence_number ブロック=block_number。見つかったもの:シーケンス=log_sequence_number ブロック=block_number。
説明:	指定された REDO ログファイルでブロックの処理中に、PowerExchange Express CDC for Oracle ログリーダーがブロックヘッダー内に予期しないブロック番号値とシーケンス番号値を見つけました。内部処理エラーが発生したか、またはログファイルが壊れている可能性があります。Oracle RAC 環境では、このメッセージには関連する RAC メンバの名前が含まれます。
システムのアクション:	ログリーダーは、同じシーケンス番号を持つ代替ログファイルの使用を試みます。この代替ログファイルが存在しない場合、CDC 処理は終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-36143	ORAD <i>rac_member</i> :ログファイル <i>file_name</i> 、ブロック <i>block_number</i> を処理しています。ブロック <i>block_number</i> から始まるログのスパンが不完全です。
説明:	指定された REDO ログファイルでブロックの処理中に、PowerExchange Express CDC for Oracle ログリーダーが不完全な LWN スパンを見つけ、ログファイルの処理を停止しました。内部処理エラーが発生したか、またはログファイルが壊れている可能性があります。Oracle RAC 環境では、このメッセージには関連する RAC メンバの名前が含まれます。
システムのアクション:	ログリーダーは、同じシーケンス番号を持つ代替ログファイルの使用を試みます。この代替ログファイルが存在しない場合、CDC 処理は終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-36144	ORAD 情報 <i>rac_member</i> :リーダーが <i>log_type</i> ログファイル <i>file_name</i> 、シーケンス <i>sequence_number</i> を処理しています。
説明:	PowerExchange Express CDC for Oracle ログリーダーが、指定された REDO ログファイルの処理を開始しました。メッセージテキスト内の <i>log_type</i> は、active、current、または archived です。Oracle RAC 環境では、このメッセージには関連する RAC メンバの名前が含まれます。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-36145	ORAD 情報 <i>rac_member</i> :+ Low SCN <i>scn</i> 。 Low SCN Time <i>time_stamp</i> 。
説明:	この継続メッセージには、PowerExchange Express CDC for Oracle のログリーダーが REDO ログファイルの処理を開始する際の、このファイルの Low SCN 値と Low Time 値が表示されます。このメッセージは、メッセージ PWX-36144 と一緒に表示されます。Oracle RAC 環境では、このメッセージには関連する RAC メンバの名前が含まれます。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-36146	ORAD 情報 <i>rac_member</i> :+ Next SCN <i>scn</i> 。 Next SCN Time <i>time_stamp</i> 。
説明:	この継続メッセージには、PowerExchange Express CDC for Oracle のログリーダーが REDO ログファイルの処理を開始する際の、このファイルの Next SCN 値と Next Time 値が報告されます。このメッセージは、メッセージ PWX-36144 と一緒に表示されます。Oracle RAC 環境では、このメッセージには関連する RAC メンバの名前が含まれます。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-36147	ORAD 情報 <i>rac_member</i> :最大の LWN 読み取り= <i>largest_lwn</i> ブロック:最大のパーティションカウント= <i>number</i> :部分的な LWN 読み取り= <i>number_of_reads</i> 。
説明:	このメッセージは、PowerExchange Express CDC for Oracle のログリーダーが終了する際に発行されます。Oracle RAC 環境では、このメッセージには関連する RAC メンバの名前が含まれます。
ユーザの応答:	部分的な LWN 読み取りカウントが 0 より大きい場合は、最大の LWN に対応できるようにログリーダーのバッファサイズを増やします。このアクションで CDC パフォーマンスが改善される可能性があります。
PWX-36148	ORAD <i>rac_member</i> :ログファイル <i>file_name</i> 、シーケンス <i>sequence_number</i> の処理中に読み取りエラーが発生しました。
説明:	PowerExchange Express CDC for Oracle のログリーダーで、メッセージに示された REDO ログファイルの処理中にエラーが発生しました。Oracle RAC 環境では、このメッセージには関連する RAC メンバの名前が含まれます。



システムのアクション: ログリーダーは、同じシーケンス番号を持つ代替ログファイルを探します。代替ログファイルが使用できる場合、処理は継続します。

ユーザの応答: エラーの詳細については、メッセージログで関連するメッセージを確認します。

PWX-36149 ORAD 情報 *rac\_member*:ログファイル *file\_name*、シーケンス *log\_sequence\_number* の処理中にログの上書きが検出されました。アーカイブログに切り替えています。

説明: Oracle がアクティブ REDO ログファイルの上書きを開始したことを、この PowerExchange Express CDC for Oracle のログリーダーが検出しました。この結果、ログリーダーは適切なアーカイブログに切り替えます。Oracle RAC 環境では、このメッセージには関連する RAC メンバの名前が含まれます。

ユーザの応答: 対応する必要はありません。

PWX-36150 ORAD 情報 *rac\_member*:ファイル *file\_name*、ブロック *lwnstart* を読み取ります。 *number\_of\_blocks* ブロックの現行 LWN を処理するため、バッファは *kilobytesK* から *kilobytesK* にサイズ変更されます。

説明: この PowerExchange Express CDC for Oracle のログリーダーで、現在の読み取りバッファサイズで処理するには長すぎる LWN スパンが検出されました。LWN スパンは、適切な SCN 境界で分割できません。Oracle RAC 環境では、このメッセージには関連する RAC メンバの名前が含まれます。

システムのアクション: PowerExchange によってバッファのサイズ変更が行われ、変更キャンセル処理が継続します。

ユーザの応答: 初期のバッファサイズを増やすことを検討します。この値は、PowerExchange Express CDC for Oracle コンフィギュレーションファイル内の READER 文の READBUFFSIZE パラメータで設定します。

PWX-36151 ORAD 情報 *rac\_member.state log\_type* ログシーケンス *log\_sequence\_number*、ブロック *log\_block*。 Low SCN *lowest\_scn\_from\_last\_read\_lwn*、Low SCN Time *low\_scn\_timestamp*。

説明: PowerExchange Express CDC for Oracle のログリーダーは、このメッセージを定期的に発行してログ読み取り進捗を示します。メッセージテキスト内で:

- *state* 値は "down" または "reading" です。
- *log type* は、"active"、"archive"、"current"、または "at the top of the current" です。"at the top of the current" は、特定時点における現行ログの最後を示します。
- *rac\_member* 値は、関連する RAC メンバの名前です。この情報は、メンバがアクティブな場合だけ表示されます。

このメッセージが発行される周期は、READER 文の STATUSREPORTINTERVAL パラメータを設定することで制御できます。最後に値が報告されて以来ログシーケンス値またはブロック値が進んでいなかった場合には、PowerExchange によってメッセージ PWX-36166 も発行されます。

ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-36152	<b>ORAD 警告 <i>rac_member.ファイル file_name</i> を処理していません。ファイルヘッダー情報がありません。</b>
説明：	PowerExchange Express CDC for Oracle のログリーダーがオフラインモードで実行されている間、一部のファイルヘッダ情報が存在しないため想定されるログ形式に従っていない、REDO ログファイルが検出されました。Oracle RAC 環境では、このメッセージには関連する RAC メンバの名前が含まれます。
システムのアクション：	ログリーダーはログファイルを無視し、ログ検出を継続します。
ユーザの応答：	PowerExchange Express CDC for Oracle コンフィギュレーションファイルで、READER 文の DIR および FILE パラメータが正しく指定されていることを確認します。
PWX-36153	<b>ORAD 警告 <i>rac_member.ファイル file_name</i> を処理していません。ファイルタイプ <i>0xhexadecimal_type</i> が、REDO ログのタイプではありません。</b>
説明：	PowerExchange Express CDC for Oracle のログリーダーがオフラインモードで実行されている間、想定されるログ形式に従っていない REDO ログファイルが検出されました。16 進ファイルタイプは REDO ログに対して有効ではありません。Oracle RAC 環境では、このメッセージには関連する RAC メンバの名前が含まれます。
システムのアクション：	ログリーダーはログファイルを無視し、ログ検出を継続します。
ユーザの応答：	PowerExchange Express CDC for Oracle コンフィギュレーションファイルで、READER 文の DIR および FILE パラメータが正しく指定されていることを確認します。
PWX-36154	<b>ORAD 警告 <i>rac_member.ファイル file_name</i> を処理していません。ブロックサイズ <i>block_size</i> が有効な値ではありません。</b>
説明：	PowerExchange Express CDC for Oracle のログリーダーがオフラインモードで実行されている間、ブロックサイズが有効でないため想定されるログ形式に従っていない、REDO ログファイルが検出されました。Oracle RAC 環境では、このメッセージには関連する RAC メンバの名前が含まれます。
システムのアクション：	ログリーダーはログファイルを無視し、ログ検出を継続します。
ユーザの応答：	PowerExchange Express CDC for Oracle コンフィギュレーションファイルで、READER 文の DIR および FILE パラメータが正しく指定されていることを確認します。

PWX-36155	<b>ORAD 警告 <i>rac_member.ファイル file_name</i> を処理していません。 ログヘッダー情報がありません。</b>
説明：	PowerExchange Express CDC for Oracle のログリーダーがオフラインモードで実行されている間、一部のログヘッダ情報が存在しないため想定されるログ形式に従っていない、REDO ログファイルが検出されました。 Oracle RAC 環境では、このメッセージには関連する RAC メンバの名前が含まれます。
システムのアクション：	ログリーダーはログファイルを無視し、ログ検出を継続します。
ユーザの応答：	PowerExchange Express CDC for Oracle コンフィギュレーションファイルで、READER 文の DIR および FILE パラメータが正しく指定されていることを確認します。
PWX-36156	<b>ORAD 警告 <i>rac_member.ファイル file_name</i> を処理していません。 ログヘッダーファイルタイプ <i>0xhexadecimal_type</i> が、REDO ログのタイプではありません。</b>
説明：	PowerExchange Express CDC for Oracle のログリーダーがオフラインモードで実行されている間、想定されるログ形式に従っていない REDO ログファイルが検出されました。 16 進ファイルタイプは REDO ログに対して有効ではありません。 Oracle RAC 環境では、このメッセージには関連する RAC メンバの名前が含まれます。
システムのアクション：	ログリーダーはログファイルを無視し、ログ検出を継続します。
ユーザの応答：	PowerExchange Express CDC for Oracle コンフィギュレーションファイルで、READER 文の DIR および FILE パラメータが正しく指定されていることを確認します。
PWX-36157	<b>ORAD 警告 <i>rac_member.ファイル file_name</i> を処理していません。 互換性レベル <i>version</i> はサポートされていません。</b>
説明：	PowerExchange Express CDC for Oracle のログリーダーがオフラインモードで実行されている間、想定されるログ形式に従っていない REDO ログファイルが検出されました。 Oracle 互換性レベル <i>version</i> は CDC ではサポートされていません。 Oracle RAC 環境では、このメッセージには関連する RAC メンバの名前が含まれます。
システムのアクション：	ログリーダーはログファイルを無視し、ログ検出を継続します。
ユーザの応答：	PowerExchange Express CDC for Oracle コンフィギュレーションファイルで、READER 文の DIR および FILE パラメータが正しく指定されていることを確認します。
PWX-36164	<b>ORAD <i>rac_member.内部エラー。 ブロック <i>block_number</i> から始まる、長さが <i>number_of_blocks</i> ブロックの LWN の処理中にエラーが発生しました。</i></b>
説明：	PowerExchange Express CDC for Oracle のログリーダーで、部分的な LWN の処理中にエラーが発生しました。
システムのアクション：	CDC セッションは異常終了します。

ユーザの応答： Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-36165 ORAD *rac\_member*.**ブロック *block\_number* から始まる、長さが *number\_of\_blocks* ブロックの LWN の処理中に、予期しない EOF が検出されました。**

説明： PowerExchange Express CDC for Oracle のログリーダーで、部分的な LWN の処理中にエラーが発生しました。

システムのアクション： CDC セッションは異常終了します。

ユーザの応答： Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-36166 ORAD **警告 *rac\_member*.リーダーがアイドル (*wait*) 状態で待機しています。**

説明： 最後のレポート間隔以来、ログシーケンス値とブロック値が進んでいません。PowerExchange Express for Oracle のログリーダーは待機状態にあります。  
Oracle RAC 環境では、このメッセージには関連する RAC メンバの名前が含まれます。  
  
このメッセージが発行される周期は、READER 文の STATUSREPORTINTERVAL パラメータを設定することで制御できます。ログリーダーの状態が読み取りまたは停止であれば、このメッセージではなくメッセージ PWX-36151 または PWX-36167 が発行される可能性があります。

システムのアクション： 処理は継続します。

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-36167 ORAD **情報 *rac\_member*.リーダーが待機状態にあります。RAC メンバが *SCN current\_scn* で停止しています。**

説明： PowerExchange Express CDC for Oracle のログリーダーが、メッセージに示された SCN で RAC メンバが停止していることを検出しました。  
  
このメッセージが発行される周期は、READER 文の STATUSREPORTINTERVAL パラメータを設定することで制御できます。最後に値が報告されて以来 SCN が進んでいなかった場合には、PowerExchange によってメッセージ PWX-36166 も発行されます。

システムのアクション： 処理は継続します。

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-36169 ORAD **情報 *rac\_member*.リーダーによってログシーケンス *log\_sequence\_number* の処理が行われました。Last SCN *scn*。Last SCN Time *scn\_time*。処理されたブロック *number\_of\_blocks*。**

説明： このメッセージは、PowerExchange Express CDC for Oracle のログリーダーがログシーケンス内の Oracle ログの処理を完了した時点で発行されます。このメッセージには、処理ステータスが示されます。

ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-36170	<b>ORAD 情報 <i>rac_member</i>: ログリーダーによって無効なバッファが検出されました。ODIRECT に切り替えています。</b>
説明：	PowerExchange Express CDC for Oracle のログリーダーは、現在のブロックを読み取ることができませんでした。原因として無効な NFS バッファなどが考えられます。
システムのアクション：	Linux または UNIX では、ログリーダーは <code>odirect</code> フラグを使用してログファイルをもう一度開き、読み取り処理を継続します。
ユーザの応答：	ログリーダーがネットワークデバイスを介してアクティブログにアクセスする場合は、 <code>odirect</code> の詳細パラメータ <b>UseOdirect</b> を <b>Y</b> に設定します。この設定を行うと、ログリーダーは常に <code>odirect</code> を使用します。
PWX-36171	<b>ORAD 情報 <i>rac_member</i>: ログファイル <i>file_name</i>、シーケンス <i>log_sequence_number</i> の処理中にファイルの終わりに到達しました。期待されたブロック=<i>number_of_blocks</i> に対し読み込まれたブロック=<i>number_of_blocks</i>。</b>
説明：	PowerExchange Express CDC for Oracle ログリーダーが Oracle が書き込んだデータブロック数と一致しない読み取りブロック数を検出しました。この状況は、ログリーダーの使用する NFS 読み取りバッファが古いために発生することがあります。
システムのアクション：	ログリーダーは代わりの Oracle ログを要求して処理します。
ユーザの応答：	NFS ファイル属性を無効にするか、NFS クライアントがサポートしている場合にはバッファを読み取ります。または、Express CDC for Oracle のコンフィギュレーションファイル <code>pxorad</code> に記述される <code>READER</code> 文中の <code>STATUSCHECKINTERVAL</code> パラメータの値を大きくします。インターバルを長くすることで、ログリーダー処理の読み取りバッファが新しいデータで更新される時間が長くなります。
PWX-36174	<b>ORAD 警告: <i>sequence_number1</i> と <i>sequence_number2</i> (THREAD# <i>thread_number</i>) の間でログギャップが検出されました。要求が再スケジュールされました。</b>
説明：	PowerExchange Express CDC for Oracle のキャプチャプロセスで、Oracle ログシーケンス番号間のギャップが検出されました。
システムのアクション：	キャプチャプロセスは続行され、 <code>LMGRARCHIVEWAIT</code> 期間が終了するまで新しいログが検索されます。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-36175	<b>ORAD 警告: <i>sequence_number1</i> と <i>sequence_number2</i> (THREAD# <i>thread_number</i>) の間でログギャップが検出されました。ログ <i>sequence_number</i> がスキップされました。</b>
説明：	PowerExchange Express CDC for Oracle のキャプチャプロセスで、Oracle ログシーケンス番号間のギャップが検出されました。ログギャップを無視するために <code>LG_IGNORE</code> パラメータが設定されているため、指定したログが PowerExchange によってスキップされました。

システムのアクション: キャプチャプロセスは続行されますが、スキップされたログからはデータはキャプチャされません。一部の変更データが失われる可能性があります。

ユーザの応答: PowerExchange がプロダクション環境でデータをキャプチャしている場合は、ログギャップを無視しないように LG\_IGNORE オプションを設定することをお勧めします。

PWX-36176 ORAD 警告: **ロールの変更が検出されました。**

説明: Data Guard 環境の PowerExchange Express CDC の処理中、ソースデータベースのロールが物理スタンバイデータベースからプライマリデータベース、またはプライマリデータベースから物理スタンバイデータベースに変更されました。

システムのアクション: 構成の変更が必要な場合、PowerExchange Express CDC 処理はロールの変更後にアクティブ REDO ログに切り替わります。

ユーザの応答: 対応する必要はありません。

PWX-36177 ORAD 情報: **以下の TDE ウォレットファイルが見つかりました。**

説明: PowerExchange Express CDC for Oracle は、TDE によって暗号化されたテーブルスペースを含む Oracle ソースの Oracle Transparent Data Encryption (TDE) にウォレットファイルを見つけました。その後の PWX-36178 メッセージにウォレットのファイル名が示されます。

ユーザの応答: 対応する必要はありません。

PWX-36178 ORAD 情報: **+ ステータス=*status*、ファイル=*file\_name*。**

説明: PowerExchange Express CDC for Oracle は、TDE マスターキーを含む指定された Oracle TDE ウォレットファイルを見つけました。ファイルは以下のいずれかのステータスです。

- **0**。ファイルは Oracle システムに公開されていません。
- **1**。ファイルは Oracle システムに公開されています。

PWX-36177 メッセージの後に CDC 操作の複数のウォレットファイルを識別する複数の PWX-36178 メッセージが続くことがあります。

ユーザの応答: 対応する必要はありません。

PWX-36179 ORAD エラー: **ウォレットステータスの取得中にエラーが発生しました (戻りコード=*return\_code*、戻りステータス=*sql\_error*、ウォレット数=*number\_of\_wallet\_files*)**

説明: PowerExchange Express CDC for Oracle が Oracle ソースの TDE ウォレットステータスを特定しようとしたときにエラーが発生しました。このメッセージには、エラーに関する情報が示されます。

- エラーの戻りコード
- SQL 処理からの戻りコード
- PowerExchange が見つけたウォレットファイルの数

システムのアクション CDC セッションは異常終了します。  
ン：

ユーザの応答： Oracle CDC ユーザーに v\$encryption\_wallet ビューを読み取る権限があることを確認します。

PWX-36180 ORAD 情報: TDE 暗号化テーブルスペースが見つかりました。  
テーブルスペース名=tablespace\_name。

説明： PowerExchange Express CDC for Oracle は、Oracle Transparent Data Encryption (TDE) が有効になっているテーブルスペースを見つけました。

システムのアクション CDC 処理を続行します。  
ン：

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-36181 ORAD 警告: 開いている Oracle ウォレットが見つかりましたが、TDEWalletDir パラメータはオーバーライドウォレットファイルを指定しています。

説明： PowerExchange Express CDC for Oracle は、開いている Oracle TDE ウォレットファイルを見つけましたが、TDEWalletDir パラメータはオーバーライドウォレットファイルを指定しています。

システムのアクション CDC セッションは、オーバーライドウォレットファイルを無視して CDC 処理を続行します。  
ン：

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-36182 ORAD 警告: 開いている Oracle ウォレットと暗号化されたテーブルスペースが見つかりましたが、TDE ウォレットのパスワードが指定されていません。

説明： Oracle REDO ログには、TDE ウォレットパスワードが使用できないために、PowerExchange Express CDC for Oracle の処理中に復号化できない TDE で暗号化されたレコードが含まれることがあります。

システムのアクション 暗号化された REDO レコードが検出された場合、CDC の処理は続行されますが、後で異常終了することがあります。  
ン：

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-36183 ORAD エラー: TDE ウォレットパスワードは指定されましたが、ウォレットが開いておらず、TDEWalletDir パラメータが指定されていません。

説明： Oracle REDO ログには、TDE ウォレットが Oracle システムで開いておらず、TDEWalletDir パラメータでオーバーライドウォレットファイルが指定されていないために、PowerExchange Express CDC for Oracle のセッション中に復号化できない TDE で暗号化されたレコードが含まれます。

システムのアクション CDC セッションは異常終了します。  
ン：

ユーザの応答： Oracle TDE ウォレットが Oracle システムで開いているか、または TDEWalletDir パラメータでオーバーライドウォレットが指定されていることを確認します。

PWX-36184	<b>ORAD エラー: オープン TDE ウォレットの初期化に失敗しました。</b>
説明:	PowerExchange Express CDC for Oracle が Oracle TDE ウォレット ファイルを開こうとしたか、または初期化しようとしたときに OpenSSL エラーが発生しました。PowerExchange には、TDE で暗号化されたレコードを処理するためにウォレットファイルが必要です。
システムのアクション:	CDC セッションは異常終了します。
ユーザの応答:	失敗の原因を特定するには、このメッセージに先行する OpenSSL エラーメッセージを確認します。
PWX-36185	<b>ORAD エラー: オープン TDE ウォレットが PKCS#12 ファイルからの authsafe の取得に失敗しました。</b>
説明:	PowerExchange Express CDC for Oracle が Oracle PKCS#12 形式のウォレットファイルを開こうとしたときに OpenSSL エラーが発生しました。Express CDC は、ファイルから authsafe を取得できませんでした。
システムのアクション:	CDC セッションは異常終了します。
ユーザの応答:	失敗の原因を特定するには、このメッセージに先行する OpenSSL エラーメッセージを確認します。
PWX-36186	<b>ORAD エラー: TDE ウォレットファイル <i>file_name</i> を開けませんでした。</b>
説明:	PowerExchange Express CDC for Oracle が指定された Oracle TDE ウォレットファイルを開こうとしたときにエラーが発生しました。
システムのアクション:	CDC セッションは異常終了します。
ユーザの応答:	失敗の原因を特定するには、このメッセージに先行するエラーメッセージを確認します。
PWX-36187	<b>ORAD エラー: ウォレットファイルを開くときにエラーが発生しました。戻りコード=<i>return_code</i>、理由=<i>reason_text</i>。</b>
説明:	PowerExchange Express CDC for Oracle が TDE ウォレットファイルを開こうとしたときにエラーが発生しました。このメッセージは、PowerExchange が返すエラーの戻りコードと理由をレポートします。
システムのアクション:	CDC セッションは異常終了します。
ユーザの応答:	戻りコードと理由の情報を使用して、エラーを診断します。次に、エラーを修正して CDC セッションを再起動します。



PWX-36188	<b>ORAD エラー: TDE ウォレットのパスワード検証に失敗しました。無効な TDE ウォレットパスワードを確認します。</b>
説明:	PowerExchange Express CDC は、パスワード検証エラーが原因で Oracle TDE ウォレットファイルを解析できませんでした。通常、このエラーは、pwxorad.cfg 構成ファイルに無効な TDE ウォレットパスワードが指定されると発生します。
システムのアクション:	CDC セッションは異常終了します。
ユーザの応答:	pwxorad.cfg ファイルの TDEWALLETPWD パラメータまたは TDEWALLETPWD パラメータに有効な Oracle TDE ウォレットパスワードが指定されていることを確認します。その後、CDC セッションを再実行します。
PWX-36189	<b>ORAD エラー: OpenSSL の呼び出しに失敗しました。失敗した関数: <i>function</i>。エラー情報=<i>reason</i>。</b>
説明:	PowerExchange Express CDC for Oracle が OpenSSL を呼び出して TDE ウォレットファイルを読み取る際にエラーが発生しました。このメッセージは、Informatica グローバルカスタマサポートで 사용되는失敗の理由を含む診断情報を提供します。
システムのアクション:	CDC セッションは異常終了します。
ユーザの応答:	エラーの原因を特定するために、PWX-36188 などの関連するメッセージを確認します。サポートが必要な場合は、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-36190	<b>ORAD 情報: TDE ウォレットマスターキーが正常に初期化されました。</b>
説明:	PowerExchange Express CDC for Oracle は、Oracle ウォレットから TDE マスターキーを正常に初期化しました。TDE マスターキーは、TDE で暗号化されたテーブルスペースからの変更データを処理するために必要です。
システムのアクション:	CDC セッションは継続されます。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-36191	<b>ORAD エラー: 現在の Oracle TDE マスターキー ID が見つかりません。</b>
説明:	PowerExchange Express CDC for Oracle の処理中に、REDO ログ内の Oracle TDE マスターキー ID が現在のマスターキーのメモリ内のリストに見つかりませんでした。
システムのアクション:	CDC セッションは異常終了します。
ユーザの応答:	新しいマスターキーが Oracle TDE ウォレットから読み込まれるように、CDC セッションを再起動します。

PWX-36192      ORAD エラー: CDC ログパーサーが TDE で暗号化された REDO レコードを検出しましたが、これを処理するには暗号化パスワードが必要です。

説明:            PowerExchange Express CDC for Oracle ログパーサーは、TDE で暗号化されたデータを含む Oracle REDO レコードを検出しました。  
pwxorad.cfg 構成ファイルに TDEWALLETPWD パラメータと TDEWALLETPWD パラメータが共に指定されていないので、ログパーサーは暗号化されたデータを処理できません。いずれかのパラメータを指定して、Oracle TDE ウォレットファイルにパスワードを提供する必要があります。

システムのアクション: CDC セッションは異常終了します。

ユーザの応答:    pwxorad.cfg ファイルの TDEWALLETPWD パラメータまたは TDEWALLETPWD パラメータに Oracle TDE ウォレットのパスワードを入力します。

PWX-36193      ORAD 情報: データベースプラットフォーム名 *platform\_name*。データベースのオペレーティングシステムタイプ *operating\_system\_type*。

説明:            このメッセージは、PowerExchange Express CDC for Oracle ソースに対して、Oracle V\$DATABASE ビューの PLATFORM\_NAME カラムに記録されているデータベースプラットフォーム名をレポートします。このメッセージは、PowerExchange Express CDC が指定されたプラットフォーム名に対して検出されるオペレーティングシステムのタイプもレポートします。*operating\_system\_type* は、AIX、SOLARIS、LINUX、WIN、または Unknown のいずれか 1 つを指定できます。

システムのアクション: CDC セッションは処理を継続します。

ユーザの応答:    対応する必要はありません。

PWX-36194      ORAD 情報: *database\_role*。

説明:            このメッセージでは、PowerExchange Express CDC for Oracle が変更データをキャプチャする Oracle Data Guard データベースのロールが示されます。*database\_role* は、V\$DATABASE ビューの DATABASE\_ROLE カラムの値で、LOGICAL STANDBY、PHYSICAL STANDBY、または PRIMARY のいずれかになります。

ユーザの応答:    対応する必要はありません。

PWX-36195      ORAD: スイッチオーバーはこの構成ではサポートされていません。

説明:            Oracle Data Guard 環境で、PowerExchange Express CDC for Oracle がデータベースロールの変更を検出しました。ただし、PowerExchange Express CDC 構成によって、キャプチャプロセスでの新しいアクティブプライマリデータベースへの切り替えが防止されています。この問題は、PowerExchange Express CDC 構成ファイルで STANDBY 文が指定されているか、スタンバイデータベースとプライマリデータベースのスレッド数が異なる場合に発生する可能性があります。

システムのアクション PowerExchange Express CDC セッションは異常終了します。  
ン：

ユーザの応答： PowerExchange Express CDC 構成ファイルで、STANDBY 文が定義されている場合は削除し、RAC MEMBERS 文を現在のスレッド数を反映するように更新します。これらの文の詳細については、『*PowerExchange CDC ガイド (Linux、UNIX、Windows 版)*』を参照してください。その後、CDC セッションを再実行します。

PWX-36196 ORAD: THREAD# *thread\_number* **で利用できる、スタート SCN *SCN*、resetlogs id *resetlogs\_ID* のログはありません。**

説明： リスタートトークンで指定されたスタート SCN と resetlogs ID に一致する Oracle REDO ログはありません。したがって、指定されたスレッドで利用できる REDO はありません。

システムのアクション PowerExchange Express CDC for Oracle 処理は異常終了します。  
ン：

ユーザの応答： リスタート情報を修正するか、不足している REDO ログをリストアップします。

PWX-36197 ORAD: **アクティブスレッド数 *number\_of\_threads* が resetlogs id *resetlogs\_ID* のデータベースインカーネーションの RAC MEMBERS パラメータ値 *number\_of\_threads* を超えています。**

説明： PowerExchange Express CDC for Oracle は、指定された resetlogs ID のデータベースインカーネーションのアクティブスレッド数が PowerExchange Express CDC 構成ファイルの RAC MEMBERS パラメータで指定されたスレッド数を超過していることを検出しました。現在のデータベースインカーネーションの場合、PowerExchange はステータスが処理中または終了のスレッド数からアクティブスレッド数を取得します。すべての処理中のスレッドが SPFILE で Oracle インスタンスに関連付けられ、終了したスレッドが SPFILE で特定されていない場合、PowerExchange は終了したスレッドを無視します。以前のデータベースインカーネーションの場合、PowerExchange はアーカイブ REDO ログの個別の thread#数からアクティブスレッド数を取得します。

システムのアクション PowerExchange Express CDC 処理は異常終了します。  
ン：

ユーザの応答： 示されたアクティブスレッド数に一致するように RAC MEMBERS パラメータの値を増やします。

PWX-36198      ORAD:警告: RAC MEMBERS パラメータ値 *number\_of\_threads* が一意のスレッド ID 数 *number\_of\_log\_threads* を超えています。

説明:            PowerExchange Express CDC for Oracle 処理の実行中、PowerExchange により、PowerExchange Express CDC for Oracle 構成ファイルの RAC 文に含まれる MEMBERS パラメータの値が、Oracle RAC データベースに関連付けられている REDO ログスレッドの一意のスレッド ID の数より大きいことが検出されました。  
*number\_of\_log\_threads* には、ステータスが、処理中、終了、無効、またはスタンバイになっているスレッドが含まれています。この状況は有効ですが、変更キャプチャ処理のオーバーヘッドが増大する可能性があります。

システムのアクション:    PowerExchange Express CDC 処理は継続します。

ユーザの応答:        変更キャプチャで余分なオーバーヘッドが発生しないようにするため、クエリを実行して推奨される最小の MEMBERS 値を判断することができます。詳細については、『*PowerExchange CDC ガイド (Linux、UNIX、Windows 用)*』で RAC MEMBERS パラメータのドキュメントを参照してください。

PWX-36199      ORAD:初期化処理中に不明な THREAD# *thread\_number* が検出されました。

説明:            PowerExchange Express CDC for Oracle の初期化中、PowerExchange が不明なスレッド ID を検出しました。このエラーは、削除または無効化されたスレッドで PowerExchange がアーカイブログを検出したことによって発生している可能性があります。

システムのアクション:    PowerExchange Express CDC 処理は異常終了します。

ユーザの応答:        PowerExchange Express CDC 構成ファイルで、現在のスレッド ID およびリスタートの時点で存在していたスレッドすべての対応するように RAC MEMBERS パラメータの値を増やします。

PWX-36200      ORAD:カラム変換エラー:[*error\_code*] テーブル名=*table\_name* の *error\_text*、カラム [*column\_number*] セグメント [*column\_segment*] *column\_name*。詳細タイプ=*pw\_x\_datatype*、Oracle タイプ=*oracle\_datatype*。

説明:            PowerExchange Express CDC for Oracle で、メッセージに示されたカラムの処理中に内部アセンブラエラーが発生しました。このメッセージには、エラーに関する診断情報が示されます。

システムのアクション:    CDC セッションは異常終了します。

ユーザの応答:        このメッセージに示されている PowerExchange エラーコードを参照します。サポートが必要な場合は、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-36201	<b>OCI データタイプ変換のエラー。</b>
説明：	データタイプ変換のための Oracle Call Interface (OCI) ルーチンへの PowerExchange 呼び出しに失敗しました。このメッセージは通常、OCI エラーメッセージとともに表示されます。
システムのアクション：	CDC セッションは異常終了します。
ユーザの応答：	エラーの原因を特定するには、一緒に表示される OCI メッセージを調べます。
PWX-36202	<b>Null にはできないカラムに Null 値が見つかりました。</b>
説明：	PowerExchange によって、キャプチャ登録では Null にできないと定義されているカラムに Null 値が見つかりました。このカラムは、登録が作成された後で変更された可能性があります。
システムのアクション：	CDC セッションは異常終了します。
ユーザの応答：	キャプチャ登録内のカラム情報が正しいことを確認します。情報がカラムの現在の状態を反映していない場合は、テーブルをもう一度登録します。
PWX-36203	<b>必要なカラムデータが設定されていません。</b>
説明：	データタイプ変換のための Oracle データを取得する際に、PowerExchange はキャプチャ登録に基づいて REDO ログレコードにあると想定されるカラムデータを見つけられませんでした。
システムのアクション：	CDC セッションは異常終了します。
ユーザの応答：	キャプチャ登録でカラムが正しく定義されていることを確認します。
PWX-36204	<b>サポートされていない変換です。</b>
説明：	キャプチャ登録に基づき要求されているデータタイプ変換は、PowerExchange ではサポートされていません。このエラーは、キャプチャ登録の作成以降にテーブルスキーマが変更された場合に発生する可能性があります。
システムのアクション：	CDC セッションは異常終了します。
ユーザの応答：	キャプチャ登録の作成以降にテーブルが変更された場合は、登録をもう一度作成します。
PWX-36205	<b>コードページ変換に失敗しました。</b>
説明：	Oracle サーバーコードページから、PowerExchange CDC が使用する UTF-16LE コードページへのデータ変換に失敗しました。
システムのアクション：	CDC セッションは異常終了します。
ユーザの応答：	エラーの原因を特定するには、関連付けられた Oracle Call Interface (OCI) メッセージを確認します。

PWX-36206	<b>変換用のバッファ割り当てに失敗しました。</b>
説明：	PowerExchange データタイプ変換ルーチンは、結果を保持できるだけの十分なバッファストレージを割り当てることができませんでした。
システムのアクション：	CDC セッションは異常終了します。
ユーザの応答：	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-36207	<b>サポートされていない Oracle タイプです。</b>
説明：	キャプチャ登録に、PowerExchange がサポートしない Oracle データタイプのカラムが含まれています。
システムのアクション：	CDC セッションは異常終了します。
ユーザの応答：	キャプチャ登録とキャプチャコードの製品バージョンが同じであることを確認します。
PWX-36208	<b>サポートされていない、Oracle から PWX への変換です。</b>
説明：	キャプチャ登録に基づき要求されているデータタイプ変換は、PowerExchange ではサポートされていません。
システムのアクション：	CDC セッションは異常終了します。
ユーザの応答：	キャプチャ登録とキャプチャコードの製品バージョンが同じであることを確認します。
PWX-36209	<b>エンコーディングエラー。</b>
説明：	変換でエンコーディングエラーが発生しました。
システムのアクション：	セッションは異常終了します。
ユーザの応答：	詳細については、関連するエラーメッセージを参照してください。その後、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-36219	<b>DATETIME のカラム変換に失敗しました。</b>
説明：	PowerExchange 変換ルーチンは、変更データを読み取るときに DATETIME カラムを変換できませんでした。
システムのアクション：	CDC セッションは異常終了します。
ユーザの応答：	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-36220	<b>ORAD:内部 DML 操作タイプ <i>operation</i> に、必須の <i>before_data_or_after_data</i> カラムデータがありません。</b>
説明：	PowerExchange Express CDC for Oracle で内部エラーが発生しました。SQL DML 操作に、必須のカラムデータの操作前の画像または操作後の画像がありません。

システムのアクション CDC セッションは異常終了します。  
ン：

ユーザの応答： Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-36221 ORAD:**オブジェクト ID = *object\_id* の補足データヘッダが見つかりません。**

説明： PowerExchange Express CDC for Oracle で内部エラーが発生しました。メッセージに示されたオブジェクトの補足データヘッダは PowerExchange で見つかりませんでした。

システムのアクション CDC セッションは異常終了します。  
ン：

ユーザの応答： Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-36222 ORAD:***image\_type* テーブル名の画像 = *table\_name*、カラム [*column\_number*] *column\_name* に必要なカラムデータがありません。**

説明： PowerExchange Express CDC for Oracle で内部エラーが発生しました。メッセージに示されたカラムの操作前の画像または操作後の画像からデータが不足しています。

システムのアクション CDC セッションは異常終了します。  
ン：

ユーザの応答： Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-36223 ORAD:**無効な内部 DML 操作タイプ *operation\_type*。**

説明： PowerExchange Express CDC for Oracle で内部エラーが発生しました。SQL DML の操作タイプが有効ではありません。

システムのアクション CDC セッションは異常終了します。  
ン：

ユーザの応答： Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-36250 **コマンド入力 *line\_number.command\_input***

説明： このメッセージには PowerExchange コマンドの入力が表示されません。

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-36251 **ファイル名がないか、指定されたパラメータが多すぎます。**

説明： コマンド構文が有効ではありません。ファイル名が見つからない、または指定されたパラメータが多すぎます。

ユーザの応答： ファイル名を追加するか、パラメータを修正します。その後、コマンドをもう一度実行します。

PWX-36252 ***command\_syntax***

説明： このメッセージには、PowerExchange Express CDC for Oracle ユーティリティ、PWXUORAD のコマンド構文に関するヘルプ情報が示されます。このメッセージは特定のコマンドの構文を説明するもので、コマンドごとに繰り返されます。

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-36253 **重複したフィルタ:オーナー *owner\_like*、テーブル *table\_name\_like*。**

説明： PowerExchange Express CDC for Oracle ユーティリティ、PWXUORAD の SNAPSHOT コマンドで、メッセージに示されたオーナーフィルタ基準とテーブルフィルタ基準が複数回入力されました。複数の FILTER パラメータを入力できますが、各パラメータには一意のフィルタ基準が必要です。

システムのアクション： コマンドは異常終了します。

ユーザの応答： フィルタ基準を修正し、コマンドをもう一度実行します。

PWX-36254 **最低でも 1 つのフィルタが必要です。**

説明： コマンドにフィルタが指定されていません。キャプチャカタログにフィルタ情報が存在しない場合、コマンド文に最低でも 1 つのフィルタを含める必要があります。

システムのアクション： コマンドは異常終了します。

ユーザの応答： フィルタを定義し、その後でコマンドをもう一度実行します。

PWX-36255 **フィルタ:オーナー *owner\_like*、テーブル *table\_name\_like*。**

説明： このメッセージには、PowerExchange Express CDC for Oracle ユーティリティコマンドで指定されたオーナーおよびテーブルのフィルタ基準が示されます。

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-36256 **スナップショットテーブル:*owner.table\_name*。**

説明： このメッセージには、PowerExchange Express CDC for Oracle ユーティリティ、PWXUORAD の SNAPSHOT コマンドがキャプチャカタログテーブルにその情報を保存した、CDC 対象の Oracle テーブルの名前が示されます。

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-36257 **警告:スナップショットにテーブルがありません。**

説明： PowerExchange Express CDC for Oracle ユーティリティ、PWXUORAD の SNAPSHOT コマンドが、どのテーブルについても情報を返しませんでした。

ユーザの応答： SNAPSHOT コマンドが一部のテーブルの情報を返すことを予期していた場合は、コマンドの FILTER パラメータをチェックし、必要に応じてフィルタ基準を変更します。その後、コマンドをもう一度実行します。



PWX-36258	ORAD CAPI_CONNECTION <b>文がありません。</b>
説明:	PowerExchange Express CDC for Oracle ユーティリティがコンフィギュレーション情報の取得を試みた際に、dbmover.cfg コンフィギュレーションファイル内で ORAD CAPI_CONNECTION 文を見つけられませんでした。
システムのアクション:	処理は終了します。
ユーザの応答:	dbmover.cfg ファイルに 1 つ以上の ORAD CAPI_CONNECTION 文を追加し、その後でユーティリティコマンドをもう一度実行します。
PWX-36259	CAPI_CONNECTION <i>capi_connection name</i> <b>が見つかりません。</b>
説明:	PowerExchange Express CDC for Oracle ユーティリティは、メッセージに示された dbmover.cfg コンフィギュレーションファイル内の CAPI_CONNECTION 文を見つけられませんでした。
システムのアクション:	処理は終了します。
ユーザの応答:	ORAD CAPI_CONNECTION 文を追加するか、別の文を選択し、その後でユーティリティコマンドをもう一度実行します。
PWX-36260	CAPI_CONNECTION <i>capi_connection name</i> <b>が Express CDC に設定されていません。</b>
説明:	メッセージに示された CAPI_CONNECTION 文には、ORAD の TYPE パラメータ値がありません。PowerExchange Express CDC for Oracle の場合、文のタイプは ORAD である必要があります。
システムのアクション:	処理は終了します。
ユーザの応答:	TYPE パラメータ値を ORAD に変更するか、または他の CAPI_CONNECTION 文を使用し、その後でユーティリティコマンドをもう一度実行します。
PWX-36300	ORAD:Oracle <b>データベース <i>database_id</i> OPEN が失敗しました。ユーザー <i>user_id</i>、戻りコード= <i>return_code</i> です。</b>
説明:	PowerExchange Express CDC for Oracle で、メッセージに示されたユーザー ID により、Oracle データベースへの Open 呼び出しが行われました。しかし、Open 呼び出しが失敗し、メッセージに示されている戻りコードが返されました。
システムのアクション:	データベースの Open 呼び出しが失敗したため、PowerExchange は変更データをキャプチャできません。
ユーザの応答:	問題を診断するには、関連するメッセージを調べます。サポートが必要な場合は、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-36301	<b>ORAD 情報:選択されたすべてのリソースに Oracle ALWAYS 補足ログが見つかりました。</b>
説明:	PowerExchange Express CDC for Oracle では、変更キャプチャの対象として選択されるカラムはすべて無条件 (ALWAYS) の補足ロググループでなければなりません。このメッセージは、選択されたカラムがこの要件をみたしていることを示します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-36302	<b>ORAD:テーブル <i>creator.table_name</i> またはテーブルカラム <i>column_name</i> の Oracle ALWAYS 補足ログが見つかりません。</b>
説明:	PowerExchange Express CDC for Oracle には無条件 (ALWAYS) の補足ロググループが必要ですが、メッセージに示されたテーブルまたはカラムにはこのような補足ロググループが関連付けられていません。
システムのアクション:	PowerExchange 呼び出しに失敗します。
ユーザの応答:	補足ログが有効になっていることを確認します。その後、適切な ALTER TABLE 文を発行してテーブルまたはカラムを無条件ロググループに追加します。詳細については、Oracle のマニュアルを参照してください。
PWX-36303	<b>ORAD 情報:CDC 対象として選択されている Oracle テーブルのどれもデータ圧縮を使用しません。</b>
説明:	変更データキャプチャの対象として選択されている Oracle テーブルのどれも Oracle データ圧縮を使用しません。PowerExchange Express CDC for Oracle は、圧縮を使用するテーブルからの変更キャプチャをサポートしていません。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-36304	<b>ORAD:PowerExchange の初期化時にテーブル <i>creator.table_name</i> カラム <i>column_name</i> が存在しません。</b>
説明:	初期化時に、メッセージに示されたテーブルとカラムが存在しないことが PowerExchange によって確認されました。PowerExchange Express CDC の対象として登録された Oracle テーブルおよびカラムはすべて、PowerExchange の初期化が始まる時点で存在していなければなりません。
システムのアクション:	PowerExchange の初期化は異常終了します。
ユーザの応答:	各アクティブキャプチャ登録に定義されているテーブルおよびカラムが存在することを確認します。

PWX-36305	ORAD: <b>メッセージ <i>message_id</i> が、内部リソース ID <i>resource_id</i>、登録タグ <i>tag_name</i>、テーブル <i>creator.table</i> に対して発行されました。</b>
説明:	このメッセージは、先行するエラーまたは警告メッセージが対象とする、内部リソース、キャプチャ登録、および Oracle テーブルを特定します。このメッセージには、先行するメッセージのメッセージ ID が含まれています。
ユーザの応答:	このメッセージと先行するエラーまたは警告メッセージを併用して、エラーを診断したり警告条件に対処したりします。
PWX-36306	ORAD: <b>現行 SCN <i>scn</i> は、RESETLOGS SCN <i>scn</i> より小さい値にすることはできません。</b>
説明:	CDC の Oracle データディクショナリ情報を確認しているときに、PowerExchange は現行 SCN 値と RESETLOGS SCN 値が一致していないことを検出しました。現行 SCN は、RESETLOGS SCN よりも大きくなくてはなりません。
システムのアクション:	PowerExchange 呼び出しに失敗します。
ユーザの応答:	エラーを診断するには、関連するメッセージを調べます。サポートが必要な場合は、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-36307	ORAD: <b>テーブル <i>table_name</i> の DDL:テーブルを追加していますが、ディクショナリ内にオーナー <i>owner_number</i> が見つかりません。</b>
説明:	DDL コマンドがソースデータベース内に Oracle テーブルを作成しました。PowerExchange が、メモリ内の Oracle ディクショナリのコピーにテーブルを追加しようとした際に、エラーが発生しました。PowerExchange では、ディクショナリ内にテーブルオーナーが見つかりませんでした。
システムのアクション:	PowerExchange 呼び出しに失敗します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。DDL トランザクションが含まれる REDO ログを担当者に提供してください。
PWX-36308	ORAD: <b>フィルタリストエントリ <i>schema_filter.table_filter</i> を使用してテーブル <i>schema_name.table_name</i> をチェックしているときに問題が見つかりました。戻りコード=<i>return_code</i>。</b>
説明:	変更データキャプチャのテーブルの選択に使用されるフィルタ基準に照らしてメッセージに示された <i>schema.table</i> 名をチェックしていたときに、PowerExchange でエラーが発生しました。
システムのアクション:	PowerExchange 呼び出しに失敗します。
ユーザの応答:	エラーを診断するには、関連するメッセージを調べます。サポートが必要な場合は、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-36309	<b>ORAD 情報:Oracle テーブル圧縮と補足ログの PowerExchange チェックが有効になっていません。</b>
説明:	このメッセージは、データ圧縮と補足ロググループへの取り込みに使用される Oracle ソーステーブルの PowerExchange チェックが有効ではないことを示します。このチェックは、PowerExchange Express CDC for Oracle コンフィギュレーションファイル内の特定のパラメータによって制御されます。これらのパラメータの一部は Informatica グローバルカスタマサポートが使用するものです。
システムのアクション:	CDC セッションが終了します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。このチェックのタイプを有効にする場合は、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-36310	<b>ORAD:テーブルオブジェクト <i>object_id</i> の TAB\$がありません。</b>
説明:	データディクショナリを確認しているときに、PowerExchange では、メッセージに示されたテーブルオブジェクトの sys.tab\$テーブル内にエントリが見つかりませんでした。
システムのアクション:	PowerExchange 呼び出しに失敗します。
ユーザの応答:	エラーを診断するには、関連するメッセージを調べます。サポートが必要な場合は、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-36311	<b>ORAD 警告:テーブル <i>creator.table_name</i>:カラム名 <i>column_name</i> がディクショナリ内に見つかりません。</b>
説明:	PowerExchange Express CDC for Oracle のカラム情報を確認しているときに、PowerExchange では、Oracle データディクショナリ内のキャプチャ登録に指定されているカラム名が見つかりませんでした。
システムのアクション:	PowerExchange 呼び出しに失敗します。
ユーザの応答:	Oracle テーブル構造が正しいことを確認します。その後、変更キャプチャに使用するカラム名を確認します。
PWX-36312	<b>ORAD:count 回試みた後、一貫性のある連続したカタログコピー情報を取得できませんでした。</b>
説明:	コピーを複数回試した後、PowerExchange は Oracle データディクショナリの一貫性のあるコピーを取得できませんでした。PowerExchange Express CDC for Oracle には一貫性のあるディクショナリコピーが必要です。
システムのアクション:	PowerExchange 呼び出しに失敗します。
ユーザの応答:	CDC セッションをもう一度実行します。

PWX-36313	<b>ORAD 情報:Oracle データベースは <i>database_name</i>、バージョンは <i>version_number</i> です。</b>
説明:	このメッセージには、PowerExchange がデータディクショナリから読み取る Oracle データベースの名前とバージョンが示されます。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-36314	<b>ORAD:最少補足ログが有効になっていません。</b>
説明:	Oracle データベースに対して最少グローバル補足ログが有効になっていません。PowerExchange Express CDC for Oracle では最少補足ログが必要です。
システムのアクション:	PowerExchange 呼び出しに失敗します。
ユーザの応答:	次の SQL 文を発行して、データベースのグローバル最少補足ログを有効にします。  ALTER DATABASE ADD SUPPLEMENTAL LOG DATA;  その後、PowerExchange Express CDC for Oracle をもう一度起動します。
PWX-36315	<b>ORAD:データベースのバージョンはサポートされていません。</b>
説明:	現在使用している Oracle データベースのバージョンは、PowerExchange Express CDC for Oracle ではサポートされていません。
システムのアクション:	PowerExchange 呼び出しに失敗します。
ユーザの応答:	サポートされていないバージョンを確認するには、メッセージ PWX-36313 を参照してください。可能であれば、サポートされている Oracle のバージョンにアップグレードします。
PWX-36316	<b>ORAD 情報:テーブル <i>creator.table_name</i> はディクショナリ内に見つかりません。</b>
説明:	メッセージに示された Oracle テーブルは変更データキャプチャ用に登録されていますが、データディクショナリ内に存在しません。キャプチャ登録とデータディクショナリは整合している必要があります。
システムのアクション:	PowerExchange 呼び出しに失敗します。
ユーザの応答:	キャプチャ登録とデータディクショナリが正しいことを確認します。間違った情報が見つかった場合は、情報を修正し、登録とデータディクショナリを整合させます。

PWX-36317	<b>ORAD エラー: テーブル <i>creator.table</i> は、IOT ベーステーブルで使用するために予約された <i>type</i> テーブルであるため、CDC 処理に適していません。</b>
説明:	PowerExchange Express CDC for Oracle で、索引構成表 (IOT) に関連付けられた MAPPING または OVERVIEW タイプの Oracle システムテーブルの登録が発生しました。Oracle は、IOT ベーステーブルで使用するために、これらのシステムテーブルを予約します。これらのシステムテーブルが誤って変更データキャプチャ対象として登録されると、PowerExchange Express CDC は、これらのシステムテーブルから変更データをキャプチャできません。
システムのアクション:	PowerExchange 呼び出しに失敗します。
ユーザの応答:	変更データキャプチャ対象として、IOT ベーステーブルを登録します。
PWX-36318	<b>ORAD: テーブル <i>creator.table_name</i> はシステムテーブルです。システムテーブルはサポートされていません。</b>
説明:	メッセージに示された Oracle テーブルはシステムカタログテーブルです。PowerExchange Express CDC for Oracle は、システムカタログテーブルからの変更データキャプチャをサポートしていません。
システムのアクション:	PowerExchange 呼び出しに失敗します。
ユーザの応答:	キャプチャ登録と、このテーブルに対して関連付けられた抽出マップを削除します。このタイプのテーブルから変更データのキャプチャは行えません。
PWX-36319	<b>ORAD 警告: テーブル <i>creator.table_name</i>、カラム <i>column_name</i> は変更キャプチャに登録されていません。</b>
説明:	テーブルが登録されたとき、すべてのテーブルカラムを含めるために [すべてのカラムの選択] オプションが選択されました。しかし、メッセージに示されたカラムはキャプチャ登録に存在しません。この状況は、登録後にカラムをテーブルに追加すると発生する可能性があります。
システムのアクション:	PowerExchange 呼び出しに失敗します。
ユーザの応答:	キャプチャ登録にカラムを追加します。
PWX-36320	<b>ORAD 情報: Oracle データベース <i>database_name</i> の互換性のあるバージョンは <i>version</i> です。</b>
説明:	このメッセージには、データディクショナリに記録されている Oracle データベースの互換性のあるバージョンが報告されます。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-36321	<b>ORAD: Oracle データベースの互換性のあるバージョンはサポートされていません。</b>
説明:	PowerExchange Express CDC for Oracle は、Oracle データベースの互換性のあるバージョンをサポートしていません。

システムのアクション PowerExchange 呼び出しに失敗します。  
ン：

ユーザの応答： 互換性のあるバージョンを確認するには、メッセージ PWX-36320 を参照してください。互換性のあるバージョンを、PowerExchange Express CDC for Oracle がサポートしている Oracle バージョンに変更します。

PWX-36322 **ORAD 警告:テーブル *creator.table\_name* は、ソート済みハッシュクラスタを使用します。このタイプのテーブルは CDC でサポートされていません。**

説明： ソート済みハッシュクラスタを使用する Oracle テーブルのキャプチャ登録が PowerExchange で見つかりました。ソート済みハッシュクラスタを使用するテーブルは、PowerExchange Express CDC for Oracle ではサポートされていません。

システムのアクション 変更キャプチャ呼び出しに失敗します。  
ン：

ユーザの応答： キャプチャ登録と、このテーブルに対して関連付けられた抽出マップを削除します。このタイプのテーブルから変更データのキャプチャは行えません。

PWX-36323 **ORAD 警告:テーブル *creator.table\_name* は、ROW MOVEMENT が有効になっています。ROWID は使用できません。**

説明： 登録された Oracle テーブルで行の移動が有効になっています。Oracle 向け PowerExchange Oracle CDC はテーブルの ROWID 値をキャプチャしません。これは、行の移動によって ROWID 値が変更される可能性があるためです。このメッセージは、Express CDC コンフィギュレーションファイルの OPTIONS 文の ROWID パラメータが [Y] に設定されている場合に発行されます。

システムのアクション Express CDC コンフィギュレーションファイルの ROW\_MOVEMENT\_FAIL パラメータが [Y] に設定されている場合は、PowerExchange キャプチャ処理は終了します。ROW\_MOVEMENT\_FAIL パラメータが [N] に設定されている場合は PowerExchange キャプチャ処理は続行されます。PowerExchange キャプチャ処理が続行した場合は、変更レコードの DTL\_\_CAPXROWID フィールドに NULL 値が書き込まれます。

ユーザの応答： ROWID パラメータが [Y] に設定されていても、行移動が有効になっているテーブルを PowerExchange が検出した場合もキャプチャ処理を続行する場合は、ROW\_MOVEMENT\_FAIL パラメータを [N] に設定するか、そのテーブルを CDC セッションから削除します。テーブルの行移動が有効になっているかどうかを PowerExchange に確認せず、ROWID 値のキャプチャが不要な場合は、ROWID パラメータを [N] に設定します。

PWX-36324	ORAD:テーブル <i>creator.table_name</i> の DDL によってパーティション <i>partition_table</i> 、 <i>partition_object</i> が追加されましたが、このパーティションはすでに PowerExchange ディクショナリ内に存在します。
説明:	Oracle テーブルの DDL コマンドによってパーティションが追加されました。PowerExchange が、メモリ内のデータディクショナリのコピーにパーティションを追加しようとした際に、エラーが発生しました。パーティションはディクショナリ内にすでに存在していました。
システムのアクション:	PowerExchange 呼び出しに失敗します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。 DDL トランザクションが含まれる REDO ログを担当者に提供してください。
PWX-36325	ORAD: テーブル <i>creator.table_name</i> の DDL によって、次に対する <i>operation</i> が実行されました: パーティション <i>system_partition_table</i> 、 <i>partition_object_id</i> 。しかし PowerExchange は、ディレクトリ内にパーティションエンティティを見つけることができませんでした。
説明:	Oracle テーブルの DDL コマンドによって、テーブルパーティションが変更または削除されました。PowerExchange が、メモリ内のデータディクショナリのコピーを更新しようとした際に、エラーが発生しました。PowerExchange では、ディクショナリ内にパーティションエンティティが見つかりませんでした。 <i>operation</i> 変数は、DDL 操作のタイプを示します。 <i>system_partition_table</i> 変数は、分割されたテーブルまたはインデックスに関連付けられた、次のいずれかのシステムテーブルの名前です: INDPART、TABPART、TABCOMPART、または TABSUBPART。
システムのアクション:	PowerExchange 呼び出しに失敗します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。 DDL トランザクションが含まれる REDO ログを担当者に提供してください。
PWX-36326	ORAD:テーブル <i>creator.table_name</i> の DDL によってカラム <i>column_name</i> が挿入されましたが、カラムは PowerExchange ディクショナリ内にすでに存在していました。
説明:	Oracle テーブルの DDL コマンドによってカラムが追加されました。PowerExchange が、メモリ内のデータディクショナリのコピーを更新しようとした際に、エラーが発生しました。カラムはディクショナリ内にすでに存在していました。
システムのアクション:	PowerExchange 呼び出しに失敗します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。 DDL トランザクションが含まれる REDO ログを担当者に提供してください。



PWX-36327      ORAD:テーブル *creator.table\_name* の DDL:*operation* **カラム *column\_number* (*column\_name*) :カラムが見つかりませんでした。**

説明：            Oracle テーブルの DDL コマンドによってカラムが変更または削除されました。PowerExchange が、メモリ内のデータディクショナリのコピーを更新しようとした際に、エラーが発生しました。  
PowerExchange では、ディクショナリ内にカラムが見つかりませんでした。*operation* 変数は、DDL 操作のタイプを示します。

システムのアクション：      PowerExchange 呼び出しに失敗します。

ユーザの応答：            Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。  
DDL トランザクションが含まれる REDO ログを担当者に提供してください。

PWX-36328      ORAD:テーブル *creator.table\_name* の DDL:**カラムカウ  
ントの不整合が検出されました。 *column\_count* 個が見つかり  
ましたが、想定された数は *column\_count* 個です。**

説明：            Oracle テーブルの DDL コマンドによってカラムが追加または削除されました。PowerExchange が、メモリ内のデータディクショナリのコピーを更新しようとした際に、エラーが発生しました。  
PowerExchange が DDL 変更に基づいて想定したカラムカウ  
ントは、ディクショナリ内で検出したカラムカウ  
ントと一致していませんでした。

システムのアクション：      PowerExchange 呼び出しに失敗します。

ユーザの応答：            エラーを診断するには、関連するメッセージを調べます。サポート  
が必要な場合は、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-36329      ORAD:テーブル *creator.table\_name* の DDL:**カラムの不整合  
が検出されました。カラム *column\_number* は見つかりませ  
んでした。**

説明：            Oracle テーブルの DDL コマンドによってカラムが影響を受けまし  
た。PowerExchange が、メモリ内のデータディクショナリのコピー  
を更新しようとした際に、エラーが発生しました。PowerExchange  
では、このカラム番号が見つかりませんでした。

システムのアクション：      PowerExchange 呼び出しに失敗します。

ユーザの応答：            Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。  
DDL トランザクションが含まれる REDO ログを担当者に提供してく  
ださい。

PWX-36330	ORAD:テーブル <i>creator.table_name</i> の DDL:サブパーティションカウントの不整合が検出されました。 <i>partiton_count</i> 個が見つかりましたが、想定された数は <i>partiton_count</i> 個です。
説明:	Oracle テーブルの DDL コマンドによってサブパーティションが追加または削除されました。PowerExchange が、メモリ内のデータディクショナリのコピーを更新しようとした際に、エラーが発生しました。PowerExchange が DDL 変更に基づいて想定したサブパーティションカウントは、ディクショナリ内で検出したサブパーティションカウントと一致していませんでした。
システムのアクション:	PowerExchange 呼び出しに失敗します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。DDL トランザクションが含まれる REDO ログを担当者に提供してください。
PWX-36331	ORAD:テーブル <i>creator.table_name</i> の DDL によって、テーブルパーティションが変更されました。PowerExchange によって、テーブルの TABPART\$エントリと TABCOMPART\$エントリの両方が見つかりました。
説明:	Oracle テーブルの DDL コマンドによってテーブルパーティションが変更されました。PowerExchange が、メモリ内のデータディクショナリのコピーを更新しようとした際に、エラーが発生しました。PowerExchange によって、TABPART\$システムテーブルと TABLECOMPART\$システムテーブルの両方でテーブルのエントリが見つかりました。Oracle テーブルでは、これらのシステムテーブルの両方にエントリを入れることはできません。
システムのアクション:	PowerExchange 呼び出しに失敗します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。DDL トランザクションが含まれる REDO ログを担当者に提供してください。
PWX-36332	ORAD:テーブル <i>creator.table_name</i> のログ位置 <i>log_position</i> で DDL の処理中にエラーが発生しました。
説明:	Oracle テーブルの、メッセージに示された REDO ログ位置で DDL 変更を処理しているときに、PowerExchange で内部エラーが発生しました。
システムのアクション:	PowerExchange 呼び出しに失敗します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。DDL トランザクションが含まれる REDO ログを担当者に提供してください。

PWX-36333	<b>ORAD 警告:テーブル <i>creator.table_name</i> には、仮想カラム <i>column_name</i> が含まれます。 仮想カラムはサポートされていません。</b>
説明:	Oracle テーブルは変更データキャプチャ用に登録されていますが、このテーブルには仮想カラムが含まれます。 PowerExchange Express CDC for Oracle は、仮想カラムからは変更データをキャプチャしません。
システムのアクション:	PowerExchange 呼び出しに失敗します。
ユーザの応答:	キャプチャ登録から、メッセージに示された仮想カラムを削除します。
PWX-36334	<b>ORAD エラー:キャプチャカタログのインスタンス化に失敗しました (戻りコード= <i>return_code</i>)。</b>
説明:	PowerExchange Express CDC for Oracle キャプチャカタログのインスタンス化に失敗しました。
システムのアクション:	CDC セッションは異常終了します。
ユーザの応答:	パラメータファイルで、文のキーワードを修正します。 その後、CDC セッションをもう一度実行します。
PWX-36346	<b>ORAD 情報:ディクショナリベース SCN:<i>scn</i>。</b>
説明:	メッセージに示された SCN は、PowerExchange Express CDC for Oracle データディクショナリ内の情報のベースレベルを示します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-36347	<b>ORAD:トランザクションログ位置が上がりません。 現行= <i>log_position</i>、直前= <i>log_position</i>。</b>
説明:	PowerExchange Express CDC for Oracle ストリームマネージャがデータディクショナリに送ったログ位置は、昇順ではありません。 ストリームマネージャは、DML 変更（挿入、更新、および削除）を処理する場合と同じようにログ位置を送ります。
システムのアクション:	CDC の処理は終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。 REDO ログと、関連する出力を担当者に提供してください。
PWX-36348	<b>ORAD:SYS.<i>Oracle_table</i> の予期しない開始スキャン結果。 戻りコード= <i>return_code</i></b>
説明:	PowerExchange Express CDC for Oracle が Oracle データディクショナリテーブルのスキャンに使用するルーチンが、予期しない結果を返しました。 PowerExchange では、データディクショナリのメモリ内コピーを作成するには、有効な結果が必要です。
システムのアクション:	PowerExchange は、データディクショナリのメモリ内コピーを作成できません。 この結果、CDC 処理が終了します。
ユーザの応答:	エラーの詳細については、関連するメッセージを参照します。

PWX-36349	<b>ORAD:SYS.<i>Oracle_table</i>の予期しないプロセススキャン結果。 オブジェクト= <i>object_id</i>、 戻りコード= <i>return_code</i>。</b>
説明：	PowerExchange Express CDC for Oracle が Oracle データディクショナリテーブルのスキャンに使用するルーチンが、予期しない結果を返しました。PowerExchange では、データディクショナリのメモリ内コピーを作成するには、有効な結果が必要です。
システムのアクション：	PowerExchange は、データディクショナリのメモリ内コピーを作成できません。この結果、CDC 処理が終了します。
ユーザの応答：	エラーの詳細については、関連するメッセージを参照します。
PWX-36350	<b>ORAD:SQL パラメータ <i>parameter_number</i>、 <i>parameter_name</i> をバインディングしているときにエラーが発生しました。 戻りコード= <i>return_code</i>。</b>
説明：	Oracle データベースに対して SQL クエリを実行しているときに、PowerExchange で内部エラーが発生しました。メッセージに示された SQL パラメータを PowerExchange はバインドできませんでした。
システムのアクション：	SQL 呼び出しに失敗します。
ユーザの応答：	このエラーを診断するには、Oracle Call Interface (OCI) に関連する PowerExchange メッセージを確認します。
PWX-36351	<b>ORAD:<i>parameter_name</i> という名前の SELECT 項目 <i>select_item</i> をバインディングしているときに問題が発生しました。 戻りコード= <i>return_code</i>。</b>
説明：	Oracle データベースに対して SQL クエリを実行しているときに、PowerExchange で内部エラーが発生しました。メッセージに示された項目の SELECT クエリをバインディングできませんでした。
システムのアクション：	SQL 呼び出しに失敗します。
ユーザの応答：	このエラーを診断するには、Oracle Call Interface (OCI) に関連する PowerExchange メッセージを確認します。
PWX-36352	<b>ORAD:SELECT 項目 <i>column_number</i>にエラー/情報があります。 戻りコード=<i>return_code.rc_description</i>。</b>
説明：	Oracle データベースに対して SQL クエリを実行しているときに、PowerExchange で内部エラーが発生しました。エラーは、メッセージに示されたカラムの SELECT クエリに関連しています。
システムのアクション：	SQL 呼び出しに失敗します。
ユーザの応答：	このエラーを診断するには、Oracle Call Interface (OCI) に関連する PowerExchange メッセージを確認します。
PWX-36353	<b>ORAD:SQL Execute() または NextRow()操作に失敗しました。 戻りコード=<i>return_code</i>、 エラーの説明=<i>description</i>。</b>
説明：	Oracle データベースに対して SQL クエリを実行しているときに、PowerExchange で内部エラーが発生しました。SQLExecute()または NextRow()操作に失敗しました。

システムのアクション SQL 呼び出しに失敗します。  
ン：

ユーザの応答： このエラーを診断するには、Oracle Call Interface (OCI) に関連する PowerExchange メッセージを確認します。

PWX-36354 **ORAD 情報:MODE=STATIC の場合 DDL 操作は許可されませんが、EXCEPTIONS=WARN が指定されると許可されます。**

説明： Oracle Express CDC コンフィギュレーションファイルの DICTIONARY 文で MODE=STATIC の場合、メッセージ PWX-36390 で報告された現行の DDL 操作を PowerExchange は許可しません。しかし、EXCEPTIONS=WARN が指定されているため、Oracle Express CDC はこの操作を処理します。通常、EXCEPTIONS=WARN は Informatica グローバルカスタマサポートの指示がある場合だけ指定します。これはデータ消失が発生する可能性があるためです。

システムのアクション PowerExchange 呼び出しに失敗します。  
ン：

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-36355 **ORAD:MODE=STATIC の場合、DDL 操作は許可されません。**

説明： Oracle Express CDC コンフィギュレーションファイルの DICTIONARY 文で MODE=STATIC の場合、メッセージ PWX-36390 で報告された現行の DDL 操作を PowerExchange は許可しません。EXCEPTIONS=FAIL も指定されているため、CDC 処理は失敗します。

システムのアクション PowerExchange 呼び出しが失敗し、CDC 処理が終了します。  
ン：

ユーザの応答： Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-36359 **ORAD:イベント SCN *scn* は、*relationship* ディクショナリ SCN *scn* です。**

説明： このメッセージには、前のメッセージで報告されたイベントに関する詳細が示されます。このメッセージには、REDO ログ内のイベントの SCN と、この SCN と PowerExchange データディクショナリ内の現行 SCN との関係が示されます。*relationship* 変数は、次の値のいずれかを表します。equal to、less than、または greater than。

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-36360 **ORAD:テーブル *creator.table\_name* ログ内に *entityoperation* が見つかりました。**

説明： PowerExchange によって、Oracle テーブルの追加または削除を行った REDO ログ内、あるいはテーブルパーティションまたはサブパーティションの追加、削除、または変更を行った REDO ログ内に DDL 操作が見つかりました。PowerExchange は、テーブルから変更データをキャプチャします。テーブル構造が変化したため、変更キャプチャの問題が発生する可能性があります。

システムのアクション PowerExchange は、PowerExchange Express CDC for Oracle コンフィギュレーションファイルの DICTIONARY 文内の EXCEPTIONS パラメータ設定に基づいて、メッセージ PWX-36354 を表示して CDC 処理を継続するか、または変更キャプチャ処理を終了します。

ユーザの応答：	関連するメッセージを検索します。サポートが必要な場合は、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。REDO ログに記録されている DDL を担当者に提供してください。
PWX-36361	ORAD:テーブル <i>creator.table_name</i> :PowerExchange が、 <i>new_table_name</i> に変更されたテーブル名をログ内に見つけました。
説明：	PowerExchange が、メッセージに示された Oracle テーブルの名前を新しいテーブル名に変更した DDL 操作を REDO ログ内に見つけました。PowerExchange Express CDC for Oracle は、このテーブルから変更データをキャプチャします。しかし、テーブル名が変化したため、変更キャプチャの問題が発生する可能性があります。
システムのアクション：	PowerExchange は、PowerExchange Express CDC for Oracle コンフィギュレーションファイルの DICTIONARY 文内の EXCEPTIONS パラメータ設定に基づいて、メッセージ PWX-36354 を表示して CDC 処理を継続するか、または変更キャプチャ処理を終了します。
ユーザの応答：	関連するメッセージを検索します。サポートが必要な場合は、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。REDO ログに記録されている DDL を担当者に提供してください。
PWX-36370	ORAD:テーブル <i>creator.table_name</i> :DDL 操作によって、カラム <i>column_name</i> が削除されました。
説明：	PowerExchange が、変更データのキャプチャ元である Oracle テーブルからメッセージに示されているカラムを削除した DDL 操作を REDO ログ内に見つけました。テーブル構造が変化したため、変更キャプチャの問題が発生する可能性があります。
システムのアクション：	PowerExchange は、PowerExchange Express CDC for Oracle コンフィギュレーションファイルの DICTIONARY 文内の EXCEPTIONS パラメータ設定に基づいて、メッセージ PWX-36354 を表示して CDC 処理を継続するか、または変更キャプチャ処理を終了します。
ユーザの応答：	関連するメッセージを検索します。サポートが必要な場合は、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。REDO ログに記録されている DDL を担当者に提供してください。

PWX-36371	ORAD:テーブル <i>creator.table_name</i> :DDL 操作によって、カラム <i>column_name</i> の属性 <i>column_attribute</i> が <i>old_value</i> から <i>new_value</i> に変更されました。
説明：	<p>PowerExchange が、Oracle テーブル内の、メッセージに示されたカラムを変更した DDL 操作を REDO ログ内に見つけました。次に示すカラム属性の 1 つが変更されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• NAME。カラム名。</li> <li>• TYPE。有効な Oracle データタイプ。</li> <li>• SCALE。数値。</li> <li>• PRECISION。数値。</li> <li>• LENGTH。数値。</li> <li>• NULL:NULLABLE または NOT NULL。</li> </ul> <p>PowerExchange は、このテーブルから変更データをキャプチャします。カラムメタデータが変化するため、変更キャプチャの問題が発生する可能性があります。</p>
システムのアクション：	PowerExchange は、PowerExchange Express CDC for Oracle コンフィギュレーションファイルの DICTIONARY 文内の EXCEPTIONS パラメータ設定に基づいて、メッセージ PWX-36354 を表示して CDC 処理を継続するか、または変更キャプチャ処理を終了します。
ユーザの応答：	関連するメッセージを検索します。サポートが必要な場合は、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。REDO ログに記録されている DDL を担当者に提供してください。
PWX-36380	ORAD:SCN <i>scn</i> RBA <i>rba</i> 。
説明：	このメッセージには、前のメッセージで報告されたエラーに関する詳細が示されます。このメッセージは、エラーが発生した REDO ログ位置を特定します。
システムのアクション：	PowerExchange 呼び出しに失敗します。
ユーザの応答：	関連するエラーメッセージを検索します。サポートが必要な場合は、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。このメッセージに示されている REDO ログおよびテキストと、エラーメッセージを担当者に提供してください。
PWX-36381	ORAD:テーブル <i>creator.table_name</i> 、カラム <i>column_name</i> の DDL 処理中にエラーが発生しました。このカラムは Null にできないと定義されていますが、Null 値が含まれます。
説明：	DDL 関連の DML 変更の処理中に、PowerExchange が、NOT NULL と定義されているカラムに Null 値を見つけました。
システムのアクション：	PowerExchange による DDL 関連の DML 変更の処理は失敗します。ただし、CDC 処理は継続します。
ユーザの応答：	エラーが発生した REDO ログ位置を確認するには、メッセージ PWX-36380 を参照してください。CDC 処理は継続するため、対応は不要です。

PWX-36382	ORAD:DDL 処理内部エラー:予期しないテーブル列挙 <i>table_enumerated_type</i> です。
説明:	Oracle システムカタログテーブルの REDO ログにある DDL 関連の DML 変更を処理しているときに、PowerExchange で内部エラーが発生しました。PowerExchange で、予期しない列挙型 (enum) が見つかりました。
システムのアクション:	PowerExchange による DDL 関連の DML 変更の処理は失敗します。ただし、CDC 処理は継続します。
ユーザの応答:	詳細については、関連する PWX-36006 メッセージを参照してください。CDC 処理は継続するため、対応は不要です。
PWX-36383	ORAD:DDL 処理内部エラー:テーブル <i>creator.table_name</i> 、予期しないカラム列挙 <i>column_enumerated_type</i> 。
説明:	メッセージに示された Oracle カタログテーブルの REDO ログにある DDL 関連の DML 変更を処理しているときに、PowerExchange で内部エラーが発生しました。PowerExchange で、メッセージに示されたカラムに予期しない列挙型 (enum) が見つかりました。
システムのアクション:	PowerExchange による DDL 関連の DML 変更の処理は失敗します。ただし、CDC 処理は継続します。
ユーザの応答:	エラーが発生した REDO ログ位置を確認するには、メッセージ PWX-36380 を参照してください。CDC 処理は継続するため、対応は不要です。
PWX-36384	ORAD:テーブル <i>creator.table_name</i> 、カラム名 <i>column_name</i> 、カラムタイプ <i>column_type</i> 、セグメント <i>segment_number</i> の DDL 処理中にエラーが発生しました。ConvertColumnData に失敗しました。戻りコード <i>=return_code</i> 、理由 <i>=reason_code</i> 。
説明:	メッセージに示された Oracle システムカタログテーブルの REDO ログにある DDL 関連の DML 変更を処理しているときに、PowerExchange でエラーが発生しました。ConvertColumnData ルーチンが、メッセージに示されたカラム内のデータを処理できませんでした。このメッセージには、エラーの戻りコードと理由コードが含まれます。
システムのアクション:	PowerExchange による DDL 関連の DML 変更の処理は失敗します。ただし、CDC 処理は継続します。
ユーザの応答:	エラーが発生した REDO ログ位置を確認するには、メッセージ PWX-36380 を参照してください。CDC 処理は継続するため、対応は不要です。



PWX-36385	ORAD:テーブル <i>creator.table_name</i> 、カラム名 <i>column_name</i> 、カラムタイプ <i>column_type</i> 、セグメント番号 <i>segment_number</i> の DDL 処理中にエラーが発生しました。 <b>カラム内に処理するデータがありません。</b>
説明:	メッセージに示された Oracle システムカタログテーブルの REDO ログにある DDL 関連の DML 変更を処理しているときに、PowerExchange でエラーが発生しました。PowerExchange は、メッセージに示されたカラムのデータを見つけることができませんでした。
システムのアクション:	PowerExchange による DDL 関連の DML 変更の処理は失敗します。ただし、CDC 処理は継続します。
ユーザの応答:	エラーが発生した REDO ログ位置については、メッセージ PWX-36380 を参照してください。CDC 処理は継続するため、対応は不要です。
PWX-36386	ORAD:テーブル <i>creator.table_name</i> の DDL 処理中にエラーが発生しました。 <b>必要なカラムの一部が存在しません。</b>
説明:	メッセージに示された Oracle システムカタログテーブルの REDO ログにある DDL 関連の挿入または削除操作を処理していたときに、PowerExchange でエラーが発生しました。変更行内に存在すべきカラムの一部が PowerExchange で見つかりませんでした。
システムのアクション:	PowerExchange による DDL 関連の変更の処理は失敗します。ただし、CDC 処理は継続します。
ユーザの応答:	エラーが発生した REDO ログ位置を確認して、欠如しているカラムを特定するには、関連するメッセージを参照してください。CDC 処理は継続するため、対応は不要です。
PWX-36387	ORAD 情報:SCN <i>scn</i> DDL テーブルの名前が <i>creator.table_name</i> から <i>creator.table_name</i> (ベースオブジェクト <i>object_id</i> ) に変更されます。
説明:	PowerExchange Express CDC for Oracle で、変更のキャプチャ元であるテーブルの変更ストリーム内に ALTER TABLE RENAME 操作が見つかりました。
システムのアクション:	CDC 処理を続行します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-36388	ORAD エラー:SCN <i>scn</i> DDL テーブルの名前を <i>creator.table_name</i> から <i>creator.table_name</i> (ベースオブジェクト <i>object_id</i> ) に変更することはサポートされません。
説明:	PowerExchange Express CDC for Oracle で、変更のキャプチャ元であるテーブルの変更ストリーム内にサポートされない ALTER TABLE RENAME 操作が見つかりました。
システムのアクション:	CDC セッションは異常終了します。
ユーザの応答:	名前変更の後で変更の処理を開始するには、再実体化の手順を実行します。

PWX-36389	ORAD 情報: <b>ユーザー</b> <i>user_number</i> 、 <b>名前</b> <i>user_name</i> の SCN <i>scn</i> DDL 操作: <i>operation</i> 。
説明:	DDL 操作によって、メッセージに示された Oracle データベースユーザーが追加されました。
システムのアクション:	PowerExchange Express CDC for Oracle 処理が続行します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-36390	ORAD 情報: SCN <i>scn</i> の DDL 操作 (対象: キャプチャされたテーブル <i>creator.table_name</i> (ベースオブジェクト <i>object_id</i> )): <i>{ddl_operation}trace_information</i> }。
説明:	<p>PowerExchange Express CDC for Oracle によって、DDL 操作のために変更された、指定されたソーステーブルのオブジェクト識別子が検出されました。Express CDC で DDL 操作がサポートされている場合、このメッセージはサポートされている操作タイプで終了し、Express CDC は処理を継続します。Express CDC で DDL 操作がサポートされていない場合、このメッセージはサポートされていない操作タイプで終了し、別のエラーメッセージが表示されて CDC 処理は終了します。Express CDC で DDL 操作がサポートされているかどうかを判断できない場合、dbmover.cfg ファイルの TRACE 文でトレースが有効化されていればこのメッセージは診断用のトレース情報で終了します。このメッセージには、次のいずれかの DDL 操作のサポート状況が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• table alter</li> <li>• table alter ok</li> <li>• table create</li> <li>• table drop</li> <li>• column add(s)</li> <li>• virtual column add(s)</li> <li>• column drop(s)</li> <li>• virtual column drop(s)</li> <li>• column alter</li> <li>• column alter ok</li> <li>• partition add(s)</li> <li>• partition drop(s)</li> </ul> <p>partition drop(s)で後続のエラーメッセージを表示せずに Express CDC を継続するには、PowerExchange Express CDC 構成ファイルの OPTIONS 文で PARTITION_DROP_FAIL=N を指定する必要があります。</p> <p>また、table drop などの一部の操作タイプのサポートは、DICTIONARY 文の EXCEPTIONS パラメータによって異なります。</p>
システムのアクション:	CDC 処理は継続または終了します。DROP PARTITION 操作では、PARTITION_DROP_FAIL パラメータがデフォルト値の Y に設定されている場合に CDC 処理が終了します。

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-36391      **ORAD 情報:リソースの解決を開始します。**

説明：            PowerExchange Express CDC for Oracle が、そのディクショナリ内の  
                         情報を使用してキャプチャ登録リソースの解決を開始しました。

システムのアクション： CDC 処理を続行します。

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-36392      **ORAD:リソースを解決しているときに、テーブル  
                         schema.table\_name で致命的な問題が発生しました。**

説明：            PowerExchange Express CDC for Oracle がそのディクショナリ内の  
                         情報を使用して登録リソースを解決しているときに、メッセージに示  
                         されたテーブルに関連する 1 つ以上の致命的な問題が発生しました。  
                         ディクショナリ処理モードは STATIC です。

システムのアクション： 処理は終了します。

ユーザの応答： エラーを診断するには、一緒に表示されたメッセージを調べます。  
                         サポートが必要な場合は、Informatica グローバルカスタマサポート  
                         にお問い合わせください。REDO ログと、関連するメッセージ出力を  
                         担当者に提供してください。

PWX-36393      **ORAD 警告:リソースの解決中に問題が発生しました。**

説明：            PowerExchange Express CDC for Oracle がそのディクショナリ内の  
                         情報を使用して登録リソースを解決しているときに、エラーが発生し  
                         ました。ディクショナリ処理モードは DYNAMIC です。

システムのアクション： 処理は継続します。

ユーザの応答： 最初のデータ抽出が開始する前に、DDL を使用してエラーの修正を  
                         試みます。

PWX-36394      **ORAD 情報:すべてのリソースが解決されました。**

説明：            PowerExchange Express CDC for Oracle が、エラーを発生させるこ  
                         となくそのディクショナリ内の全リソースの解決を完了しました。

システムのアクション： 処理は継続します。

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-36395      ORAD:キャプチャされたテーブル *owner.table\_name* が解決されませんでした。

説明：      PowerExchange Express CDC for Oracle は、そのディクショナリ内のテーブル情報を使用してメッセージに示されたテーブルを解決できませんでした。 テーブルを解決するときに、PowerExchange Express CDC for Oracle は次の処理を行います。

- 登録されたテーブルが存在することと、CDC の対象外とみなされるような特性がそのテーブルにないことを確認します。例えば、IOT であってはなりません。
- 選択されたカラムが存在することと、CDC の対象外とみなされるような特性がそのカラムにないことを確認します。例えば、仮想カラムであってはならず、サポートされていないデータタイプを含んではなりません。

システムのアクション：      PowerExchange Express CDC 処理が終了します。  
ン：

ユーザの応答：      テーブル登録またはテーブルプロパティを修正します。

PWX-36396      ORAD:ccatdmp **ファイル行**=*line\_number*、**オフセット**=*line\_offset***からのテキスト**:*text\_fragment*

説明：      このメッセージには、ccatdmp ファイルエラーに関連する ccatdmp ファイルのテキストが示されます。 エラーは他のメッセージで報告されます。 ccatdmp ファイルには、Oracle Express キャプチャカタログテーブルの情報が含まれています。このファイルは、PWXUORAD ユーティリティによって生成されます。

システムのアクション：      PowerExchange による ccatdmp ファイルの処理が失敗します。  
ン：

ユーザの応答：      エラーを修正し、その後で PWXUORAD コマンドをもう一度発行します。

PWX-36397      ORAD:Ccatdmp **ファイルエラー**:*error\_description*.

説明：      ccatdmp ファイルの処理中に、PowerExchange でエラーが発生しました。 このメッセージにはエラーの説明が示されます。 ccatdmp ファイルには、PowerExchange Express CDC for Oracle のキャプチャカタログテーブルのコンテンツが読み取り可能な形式で入っています。 このファイルは、PWXUORAD ユーティリティの CCATDMP コマンドによって生成されます。

システムのアクション：      PowerExchange による ccatdmp ファイルの処理が失敗します。  
ン：

ユーザの応答：      エラーを修正し、その後でユーティリティコマンドをもう一度発行します。

PWX-36398      ORAD:キャプチャカタログファイルエラー:ファイル  
=file\_name、操作=operation、エラー番号=error\_number、エ  
ラー説明=error\_string。

説明：            PowerExchange Express CDC for Oracle のために PowerExchange  
がそのファイルベースキャプチャカタログを処理しているときに、エ  
ラーが発生しました。 このメッセージには、キャプチャカタログフ  
ァイル名、エラーが発生したときに進行していた操作、エラー番号、  
およびテキストが示されます。

システムのアクシ      キャプチャカタログの PowerExchange 処理が失敗します。  
ョン：

ユーザの応答：      Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。  
このメッセージと関連するメッセージ PWX-36399 内の情報を担当者  
に提供してください。

PWX-36399      ORAD:キャプチャカタログエラー:error\_description。

説明：            PowerExchange Express CDC for Oracle のために PowerExchange  
がそのキャプチャカタログを処理しているときに、エラーが発生しま  
した。 このメッセージにはエラーの説明が示されます。

システムのアクシ      キャプチャカタログの PowerExchange 処理が失敗します。  
ョン：

ユーザの応答：      Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。  
このメッセージに示されている情報を担当者に知らせます。

PWX-36400      ORAD:function\_name の呼び出しが失敗しました。

説明：            PowerExchange Express CDC for Oracle の処理中に、メッセージに  
示された PowerExchange 関数の呼び出しが失敗しました。

システムのアクシ      CDC セッションは異常終了します。  
ョン：

ユーザの応答：      関連するメッセージを確認し、エラーの解決を試みます。 サポート  
が必要な場合は、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い  
合わせください。

PWX-36401      ORAD 情報:CDC コンフィギュレーションファイル  
path\_and\_filename にはパラメータが含まれます。

説明：            PowerExchange は、メッセージに示された PowerExchange  
Express CDC for Oracle コンフィギュレーションファイルを処理して  
います。 このメッセージには、このファイルで定義されているパラ  
メータを表示する後続のメッセージが示されます。

ユーザの応答：      対応する必要はありません。

PWX-36402      ORAD:文 statement\_name には、競合するキーワード、  
keyword\_name と keyword\_name が含まれます。

説明：            PowerExchange Express CDC for Oracle コンフィギュレーションフ  
ァイル内の、メッセージに示された文に、競合する複数のキーワード  
が含まれています。 このメッセージには、競合するキーワードが示  
されます。

システムのアクション CDC セッションは異常終了します。  
ン：

ユーザの応答： 文中のキーワードを修正します。その後、CDC セッションをもう一度実行します。

PWX-36403 ORAD:文 *statement\_name* が重複しています。

説明： PowerExchange Express CDC for Oracle コンフィギュレーションファイルに、メッセージに示された文が複数回出現しています。しかし、PowerExchange では 1 回の出現しか認められません。

システムのアクション CDC セッションは異常終了します。  
ン：

ユーザの応答： 文が 1 回だけ出現するようにコンフィギュレーションファイルを編集します。その後、CDC セッションをもう一度実行します。

PWX-36404 ORAD:複数の DIRSUB 文によって、同一の SERVER *file\_name\_prefix* が指定されています。

説明： PowerExchange Express CDC for Oracle コンフィギュレーションファイルで、複数の DIRSUB 文によって同じ SERVER キーワード値が指定されていますが、それらに対応する LOCAL キーワード値が異なっています。PowerExchange は、同一の SERVER 位置を複数の LOCAL ディクショナリ位置で代用することはできません。

システムのアクション CDC セッションは異常終了します。  
ン：

ユーザの応答： コンフィギュレーションファイルで、DIRSUB 文内のキーワード値を修正します。その後、CDC セッションをもう一度実行します。

PWX-36405 ORAD 情報:DBID:*database\_identifier*。

説明： このメッセージでは、リスタートトークン内の Oracle データベース識別子 (DBID) が 10 進数として報告されます。

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-36406 ORAD 情報:リスタート SCN:*decimal\_scn[hexadecimal\_scn]*。

説明： このメッセージでは、リスタートトークン内のリスタート SCN が 10 進および 16 進の値として報告されます。

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-36407 ORAD 情報:シーケンス<Null>。

説明： シーケンストークン内に存在する REDO ログシーケンス番号が Null です。

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-36408 ORAD 情報:変更ベクトル:*change\_vector\_number*。

説明： このメッセージでは、シーケンストークン内の変更ベクトル番号が 10 進数として報告されます。

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-36409	ORAD 情報: <b>コミット</b> SCN: <i>decimal_scn[hexadecimal_scn]/relative_record_number</i> 。
説明:	このメッセージでは、10 進および 16 進の値で示したシーケンストークン内のコミット SCN と、この SCN 内に存在する関連する REDO レコード番号が報告されます。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-36410	ORAD 情報: <b>カウンタ</b> : <i>decimal_number</i> 。
説明:	このメッセージでは、シーケンストークン内のカウンタ番号が 10 進値として報告されます。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-36411	ORAD 情報: <b>メンバ</b> : <i>member_number</i> 。
説明:	このメッセージでは、シーケンストークン内のメンバ番号が 10 進値として報告されます。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-36412	ORAD 情報:Redo SCN : <i>decimal_scn[hexadecimal_scn]/relative_record_value</i> 。
説明:	このメッセージでは、10 進および 16 進の値で示した、シーケンストークン内の REDO レコード SCN と、この SCN 内に存在する関連する REDO レコード番号が報告されます。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-36413	ORAD 情報: <b>リスタート</b> resetlogs ID: <i>resetlogs_ID</i> 。
説明:	このメッセージでは、リスタートトークン内の Oracle resetlogs 識別子が 10 進数として報告されます。リスタートトークンが PowerExchange Express CDC for Oracle の再開に使用されます。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-36414	ORAD 情報: <b>デフォルトをリスタートします</b> 。
説明:	デフォルトのリスタートポイントが有効になっています。 アクティブな Oracle システムでは、通常、アーカイブされた最後の REDO ログの先頭がデフォルトです。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-36415	ORAD 情報: <b>リスタート</b> <Null>。
説明:	リスタートトークンは Null です。 このため、Oracle Express 抽出プロセスでは、デフォルトのリスタートポイントが使用されます。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-36416	ORAD: <b>グローバルスキーマオーバーライド</b> <i>override_name</i> を使用して複数のスキーマ <i>schema_name</i> と <i>schema_name</i> をオーバーライドすることはできません。
説明:	グローバルスキーマオーバーライドが指定されましたが、Oracle キャプチャ登録は複数のスキーマを参照します。

システムのアクション CDC セッションは異常終了します。  
ン：

ユーザの応答： グローバルスキーマオーバーライドを使用するには、単一のスキーマを参照する登録だけを使用します。あるいは、グローバルスキーマオーバーライドを削除します。

PWX-36417 ORAD:*NO\_FILTER\_tag\_name* と他のタグを混在させることはできません。

説明： この特殊な NO FILTER 登録タグ名は、Oracle テーブルの他の登録タグ名と同時に存在することはできません。

システムのアクション CDC セッションは異常終了します。  
ン：

ユーザの応答： Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-36418 ORAD:*NO\_FILTER\_tag\_name* が RequestNoChangeData 拡張属性なしで指定されています。

説明： この特殊な NO FILTER 登録タグ名は、RequestNoChangeData 拡張属性も一緒に指定する必要があります。

システムのアクション CDC セッションは異常終了します。  
ン：

ユーザの応答： Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-36419 ORAD:テーブルの登録 *schema\_name.table\_name* に、カラム名 *column\_name* が複数含まれています。

説明： メッセージに示されたテーブルのキャプチャ登録に、同一のカラムが複数含まれています。PowerExchange では、登録に個々のカラムを一度しか含めることができません。

システムのアクション CDC セッションは異常終了します。  
ン：

ユーザの応答： Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-36420 ORAD:テーブル *schema\_name.table\_name* の登録:カラム *column\_name* および *column\_name* には、同一の出力カラム番号 *column\_number* が指定されています。

説明： メッセージに示されたテーブルのキャプチャ登録に、同一のカラムが複数含まれています。PowerExchange では、登録に各カラムを一度しか含めることができません。

システムのアクション CDC セッションは異常終了します。  
ン：

ユーザの応答： Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。



PWX-36421      ORAD:**登録タグ *registration\_tag\_name* および *registration\_tag\_name* の両方ともテーブル *schema name.table name* を参照しています。**

説明：              メッセージに示された登録タグ名は、同一の Oracle テーブルを参照する複数のキャプチャ登録を示しています。PowerExchange では、各テーブルに対して一度にアクティブにできるのは 1 つの登録のみです。

システムのアクション： CDC セッションは異常終了します。

ユーザの応答：      Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-36422      ORAD:**ノード *node\_name* の PowerExchange 呼び出し *call\_name* が失敗しました。**

説明：              メッセージに示された、ノードの PowerExchange 呼び出しが失敗しました。

システムのアクション： CDC セッションは異常終了します。

ユーザの応答：      Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-36423      ORAD:**リスタートトークン内のデータベース ID *database\_identifier* は、*database\_identifier* でなければなりません。**

説明：              メッセージに示された、リスタートトークンの Oracle データベース ID は、REDO ログファイルに存在するデータベース ID と一致しないため有効ではありません。REDO ログのデータベース ID は、このメッセージ内の 2 つ目のデータベース ID です。このエラーは、CDC コンフィギュレーションエラー、またはリスタートトークン値に対する不正な編集が原因で発生する可能性があります。

システムのアクション： CDC セッションは異常終了します。

ユーザの応答：      リスタートトークンを手動で編集する場合は、トークン値を修正します。さらに、CDC セッションの PowerExchange コンフィギュレーション（参照される PowerExchange インスタンス、CAPI\_CONNECTION 文、Oracle Express READER パラメータなど）が正しいことを確認します。その後、CDC セッションをもう一度実行します。

PWX-36424      ORAD:**リスタートトークン内の SCN *scn* は、現行のログ終端 SCN *scn* 以下でなければなりません。**

説明：              リスタートトークン内の SCN は、現行のログ終端 SCN よりも後のログ位置を示しています。このため、この SCN は有効ではありません。このエラーは、CDC コンフィギュレーションエラー、またはリスタートトークン値に対する不正な編集が原因で発生する可能性があります。

システムのアクション： CDC セッションは異常終了します。

ユーザの応答：      Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

ユーザの応答： リスタートトークンを手動で編集する場合は、トークン値を修正しま

す。さらに、CDC セッションの PowerExchange コンフィギュレーション（参照される PowerExchange インスタンス、CAPI\_CONNECTION 文、Oracle Express READER パラメータなど）が正しいことを確認します。その後、CDC セッションをもう一度実行します。

PWX-36425 **ORAD:リスタートトークンの長さ *length* は *length* でなければなりません。**

説明： PowerExchange Express CDC for Oracle セッションにとって、リスタートトークンの長さが有効ではありません。このメッセージには正しい長さが示されています。このエラーは、CDC コンフィギュレーションエラー、またはリスタートトークン値に対する不正な編集が原因で発生する可能性があります。

システムのアクション： CDC セッションは異常終了します。

ユーザの応答： リスタートトークンを手動で編集する場合は、トークン値を修正しま

す。さらに、CDC セッションの PowerExchange コンフィギュレーション（参照される PowerExchange インスタンス、CAPI\_CONNECTION 文など）が正しいことを確認します。その後、CDC セッションをもう一度実行します。

PWX-36426 **ORAD:変更ベクトル値ゼロを使用するには、シーケンストークン内で REDO SCN と REDO SUBSCN がゼロでなければなりません。**

説明： PowerExchange Express CDC for Oracle にあって、シーケンストークンが有効ではありません。その変更ベクトルであるゼロが、そのゼロ以外の SCN 値および SUBSCN 値と一致していません。このエラーは、CDC コンフィギュレーションエラー、またはシーケンストークン値に対する不正な編集が原因で発生する可能性があります。

システムのアクション： CDC セッションは異常終了します。

ユーザの応答： シーケンストークンを手動で編集する場合は、トークン値を修正しま

す。さらに、CDC セッションの PowerExchange コンフィギュレーション（参照される PowerExchange インスタンス、CAPI\_CONNECTION 文など）が正しいことを確認します。その後、CDC セッションをもう一度実行します。

PWX-36427 **ORAD:変更ベクトル値 0xFFFF を使用するには、REDO SCN と REDO SUBSCN にシーケンストークン内のすべての 0xFF 値が存在しなければなりません。**

説明： PowerExchange Express CDC for Oracle にあって、シーケンストークンが有効ではありません。その変更ベクトルである 0xFFFF が、その SCN 値および SUBSCN 値と一致していません。このエラーは、CDC コンフィギュレーションエラー、またはシーケンストークン値に対する不正な編集が原因で発生する可能性があります。

システムのアクション： CDC セッションは異常終了します。

ユーザの応答： シーケンストークンを手動で編集する場合は、トークン値を修正します。さらに、CDC セッションの PowerExchange コンフィギュレーション（参照される PowerExchange インスタンス、CAPI\_CONNECTION 文など）が正しいことを確認します。その後、CDC セッションをもう一度実行します。

PWX-36428 ORAD:シーケンストークンの長さ *length\_value* は *length\_value* でなければなりません。

説明： PowerExchange Express CDC for Oracle にとって、シーケンストークンの長さが有効ではありません。このメッセージには正しい長さが示されています。このエラーは、CDC コンフィギュレーションエラー、またはシーケンストークン値に対する不正な編集が原因で発生する可能性があります。

システムのアクション： CDC セッションは異常終了します。

ユーザの応答： シーケンストークンを手動で編集する場合は、トークン値を修正します。さらに、CDC セッションの PowerExchange コンフィギュレーション（参照される PowerExchange インスタンス、CAPI\_CONNECTION 文など）が正しいことを確認します。その後、CDC セッションをもう一度実行します。

PWX-36429 ORAD:コミット SCN *scn* は、シーケンストークン内で REDO SCN *scn* よりも大きくなければなりません。

説明： PowerExchange Express CDC for Oracle にとって、シーケンストークンが有効ではありません。このエラーは、CDC コンフィギュレーションエラー、またはシーケンストークン値に対する不正な編集が原因で発生する可能性があります。

システムのアクション： CDC セッションは異常終了します。

ユーザの応答： シーケンストークンを手動で編集する場合は、トークン値を修正します。さらに、CDC セッションの PowerExchange コンフィギュレーション（参照される PowerExchange インスタンス、CAPI\_CONNECTION 文など）が正しいことを確認します。その後、CDC セッションをもう一度実行します。

PWX-36430 ORAD:バージョン *xversion* は、シーケンストークン内で *xversion* でなければなりません。

説明： シーケンストークンに不正なバージョン情報が含まれています。このため、シーケンストークンは PowerExchange Express CDC for Oracle にとって有効ではありません。このメッセージには正しいバージョン値が示されています。このエラーは、CDC コンフィギュレーションエラー、またはシーケンストークン値に対する不正な編集が原因で発生する可能性があります。

システムのアクション： CDC セッションは異常終了します。

ユーザの応答：	シーケンストークンを手動で編集する場合は、トークン値を修正します。さらに、CDC セッションの PowerExchange コンフィギュレーション（参照される PowerExchange インスタンス、CAPI_CONNECTION 文など）が正しいことを確認します。その後、CDC セッションをもう一度実行します。
PWX-36431	ORAD: <b>タグ <i>registration_tag_name</i> データベース <i>collection_id</i> が、設定されている Oracle ID <i>ORACLEID_statement_collection_id</i> と一致しません。</b>
説明：	メッセージに示された登録タグ名は、PowerExchange Express CDC for Oracle セッションが設定されているデータベース以外の Oracle データベース用であるキャプチャ登録を示しています。
システムのアクション：	CDC セッションは異常終了します。
ユーザの応答：	ORAD CAPI_CONNECTION 文に指定された Oracle データベースがキャプチャ登録に指定された Oracle データベースと一致することを確認します。
PWX-36432	ORAD <b>情報:登録タグ名は <i>registration_tag_name</i> です。</b>
説明：	このメッセージでは、他のメッセージで報告されるエラーのキャプチャ登録タグ名が報告されます。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-36433	ORAD: <b>ノード <i>node_name</i> に、登録タグ <i>registration_tag_name</i> のアクティブエントリが見つかりません。</b>
説明：	メッセージに示された登録タグ名に対応するアクティブなキャプチャ登録は、メッセージに示されたノード上の PowerExchange 登録リスト内に見つかりませんでした。
システムのアクション：	CDC セッションは異常終了します。
ユーザの応答：	メッセージに示されたタグ名を持つキャプチャ登録がノード上に存在し、アクティブであることを確認します。登録の追加またはアクティブ化を行う場合は、CDC セッションをもう一度実行します。アクティブなキャプチャ登録がすでに存在する場合は、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-36434	ORAD <b>情報:行 <i>configuration_file_line_number:configuration_file_line_text</i>。</b>
説明：	このメッセージでは、PowerExchange Express CDC for Oracle コンフィギュレーションファイルに定義されている文とパラメータが報告されます。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。

PWX-36435	ORAD 情報:Redo RBA : <i>hexadecimal_rba_value</i> [ <i>decimal_file_sequence_number</i> ]
説明:	このメッセージでは、16 進値で示されたシーケンストークン内の REDO RBA と、ファイルシーケンス番号が報告されます。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-36437	ORAD:コンフィギュレーションファイルの <i>statement_name</i> 文:キーワード <i>keyword_name</i> を指定するには、キーワード <i>keyword_name</i> も指定する必要があります。
説明:	PowerExchange Express CDC for Oracle コンフィギュレーションファイル内の、メッセージに示された文に、他のキーワードの指定が必要なキーワードが含まれています。このメッセージには、欠如しているキーワードが示されます。
システムのアクション:	CDC セッションは異常終了します。
ユーザの応答:	欠如しているキーワードを文に追加するには、コンフィギュレーションファイルを編集します。その後、CDC セッションをもう一度実行します。
PWX-36439	ORAD 情報 <i>rac_member</i> . + リソース使用状況 ( <i>status</i> ) : メモリ <i>number</i> で、スピル <i>number</i> 。スピルファイル <i>number_of_files</i> 。
説明:	このメッセージは、PowerExchange Express CDC for Oracle 処理中のリソース使用状況に関する情報を報告します。この情報には使用メモリ量、スピルファイルに書き込まれたデータ量、生成されたスピルファイル数が含まれますこのメッセージでは、 <i>status</i> 値は完了または進行中です。
システムのアクション:	CDC 処理を続行します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-36440	ORAD 情報:監視メッセージの先頭 ( <i>timestamp</i> )。
説明:	このメッセージは、監視間隔中に発行される最初のメッセージです。このメッセージは、PowerExchange Express CDC for Oracle のトラザクション監視メッセージ式の先頭を示します。Express CDC コンフィギュレーションファイル内の OPTIONS 文の MONITOR_INTERVAL パラメータに監視間隔を設定します。
システムのアクション:	CDC 処理を続行します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。

PWX-36441	ORAD 情報:間隔におけるリターンカウント:データなし <i>number</i> 、コミット <i>number</i> 、挿入 <i>number</i> 、更新 <i>number</i> 、 削除 <i>number</i> 。
説明:	このメッセージでは、PowerExchange Express CDC for Oracle の最後の監視間隔中に PowerExchange ロガー（Linux、UNIX、Windows 用）に対してコンシューマ API（CAPI）が返したデータ結果なし、コミット、挿入、更新、および削除の数が報告されます。
システムのアクション:	CDC 処理を続行します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-36442	ORAD 情報:間隔における TMGR カウント:データなし <i>number</i> 、トランザクション制御 <i>number</i> 、操作 <i>number</i> 、その他 <i>number</i> 。
説明:	このメッセージでは、最後の監視間隔中に PowerExchange Express CDC for Oracle トランザクションマネージャが処理したデータなし操作、トランザクション制御操作、データ操作、およびその他の操作が報告されます。
システムのアクション:	CDC 処理を続行します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-36443	ORAD 情報:間隔におけるリソースの最大:操作 <i>number</i> 、スビ ルファイル <i>number</i> 。
説明:	このメッセージでは、最後の監視間隔における PowerExchange Oracle Express CDC for Oracle によるピーク時のリソース使用量に関する統計情報が報告されます。これらの統計情報には、ステージングされた操作の最大数と、割り当てられたスビルファイルの最大数が含まれます。
システムのアクション:	CDC 処理を続行します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-36444	ORAD 情報:この抽出ではデータが返されませんでした。
説明:	PowerExchange Express CDC for Oracle 抽出の開始以降、コンシューマ API（CAPI）によってデータが返されていません。
システムのアクション:	CDC 処理を続行します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。

PWX-36445      **ORAD 情報:返された最後のデータ:コミット SCN *scn*、タイムスタンプ *timestamp*、シーケンス *hexadecimal\_sequence\_value*。**

説明：            このメッセージでは、現行の PowerExchange Express CDC for Oracle 抽出の実行でコンシューマ API (CAPI) が返した最後のデータのコミット SCN、タイムスタンプ、およびシーケンス値が報告されます。 *timestamp* 値は、YYYY-MM-DD-hh.mm.ss という形式になります。

システムのアクション： CDC 処理を続行します。

ユーザの応答：      対応する必要はありません。

PWX-36446      **ORAD 情報:注意を要するトランザクションはありません。**

説明：            PowerExchange Express CDC for Oracle 監視間隔の最後に、アクティブ状態の長期処理中トランザクションまたは大規模トランザクションはありませんでした。長期処理中トランザクションとは、2 つ以上の監視間隔にわたってアクティブ状態が続くトランザクションのことで、OPTIONS 文の MONITOR\_INTERVAL パラメータで定義されます。大規模トランザクションとは、OPTIONS 文の LARGEOPS パラメータで指定される基準を満たしているトランザクションのことです。

システムのアクション： CDC 処理を続行します。

ユーザの応答：      対応する必要はありません。

PWX-36447      **ORAD 情報 *rac\_member.timestamp* で開始される、*number* 個の操作を持つトランザクション。**

説明：            監視間隔中に、長期処理中トランザクションまたは大規模トランザクションとしての条件を満たしているトランザクションが PowerExchange Express CDC for Oracle によって検出されました。このメッセージでは、このトランザクションについて、操作の数と開始タイムスタンプが報告されます。PowerExchange は、OPTIONS 文の MONITOR\_INTERVAL パラメータに指定されている時間間隔が経過する時点でこのメッセージを発行します。関連するメッセージ PWX-36460 にはトランザクション ID が示されます。Oracle RAC 環境で CDC を実行すると、関連する RAC メンバの名前がこのメッセージに表示されます。

システムのアクション： CDC 処理を続行します。

ユーザの応答：      対応する必要はありません。

PWX-36448      **ORAD 情報 *rac\_member*.+トランザクションは再計算の期間外です。**

説明：            PowerExchange Express CDC for Oracle の処理中、pwxorad.cfg ファイルの OPTIONS 文の AGEOUTPERIOD パラメータの基準に基づき、処理中トランザクションが再計算の期間外になりました。トランザクションの詳細については、メッセージ PWX-36447 を参照してください。

システムのアクション CDC 処理を続行します。

ン：

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-36449 ORAD 情報:監視メッセージの最後 (*timestamp*)。

説明： このメッセージは、監視間隔中に発行される最後のメッセージです。  
このメッセージは、PowerExchange Express CDC for Oracle のトランザクション監視メッセージ式の最後を示します。 Express CDC  
コンフィギュレーションファイル内の OPTIONS 文の  
MONITOR\_INTERVAL パラメータに監視間隔を設定します。

システムのアクション CDC 処理を続行します。

ン：

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-36450 ORAD:ログデータベース ID (*database\_identifier*) がディクショナリデータベース ID (*database\_identifier*) と一致していません。

説明： REDO ログ内の Oracle データベース ID が、PowerExchange データディクショナリ内のデータベース ID と一致していません。

システムのアクション CDC セッションは異常終了します。

ン：

ユーザの応答： PowerExchange Express CDC for Oracle コンフィギュレーションファイル内の READER 文または DICTIONARY 文を編集し、両方の文が同じデータベースを参照するようにします。 その後、CDC セッションをもう一度実行します。

PWX-36451 ORAD 情報:シーケンス SCN:*scn*。

説明： このメッセージでは、PowerExchange Express CDC for Oracle ログリーダーが REDO ログ内の変更データを返す処理を開始する SCN が報告されます。

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-36452 ORAD 情報:リスタート SCN:*scn*。

説明： このメッセージでは、Oracle ソーステーブルに有効なリスタートポイントに基づいて PowerExchange Express CDC for Oracle ログリーダーが REDO ログの処理を開始するリスタート SCN が報告されます。

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-36453 ORAD 情報:ディクショナリ SCN:*scn*。

説明： このメッセージでは、PowerExchange ディクショナリがメッセージ PWX-36452 内のリスタート SCN よりも古い SCN からのリスタートが必要とする場合に PowerExchange Express CDC for Oracle ログリーダーが REDO ログの処理を開始する SCN が報告されます。

ユーザの応答： 対応する必要はありません。



PWX-36454	<b>ORAD 情報:SCN <i>scn</i> で同じトランザクション内の DDL の後に見つかったテーブル <i>schema_name.table_name</i> の DML。</b>
説明:	CDC 対象のテーブルの DML 操作が DDL トランザクションで検出されました。PowerExchange Express CDC for Oracle はこの DML 操作を処理できます。この DML 操作が正しく解釈されていない場合は、診断情報が含まれるこのメッセージを Informatica グローバルカスタマサポートに送信します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-36457	<b>ORAD 情報 <i>rac_member</i>:Oracle キャプチャが大規模トランザクションのコミットを検出しました。</b>
説明:	PowerExchange Express CDC for Oracle キャプチャが、大規模トランザクションがコミットされたことを検出しました。大規模トランザクションとは、OPTIONS 文の LARGEOPS パラメータで指定される基準を満たしているトランザクションのことです。Oracle RAC 環境で CDC を実行すると、関連する RAC メンバの名前がこのメッセージに表示されます。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-36458	<b>ORAD 情報 <i>rac_member</i>:Oracle キャプチャが、大規模トランザクションがロールバックされたことを検出しました。</b>
説明:	PowerExchange Express CDC for Oracle キャプチャが、大規模トランザクションがロールバックされたことを検出しました。Oracle RAC 環境で CDC を実行すると、関連する RAC メンバの名前がこのメッセージに表示されます。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-36459	<b>ORAD 情報 <i>rac_member</i>:+ 最大ステージングリソース: 操作 <i>number_of_operations</i>。</b>
説明:	このメッセージでは、ステージングされたトランザクションに関連付けられた操作のピーク数が報告されます。Oracle RAC 環境で CDC を実行すると、関連する RAC メンバの名前がこのメッセージに表示されます。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-36460	<b>ORAD 情報 <i>rac_member</i>:+ トランザクションは <i>transaction_identifier</i> です。</b>
説明:	この継続メッセージには、前のメッセージで報告されたトランザクションのトランザクション ID が示されます。Oracle RAC 環境で PowerExchange Express CDC for Oracle を実行すると、関連する RAC メンバの名前がこのメッセージに表示されます。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。

PWX-36461	ORAD 情報 <i>rac_member</i> :+最初の SCN は、 <i>hexadecimal_scn16</i> 進、 <i>decimal_scn10</i> 進です。
説明：	この継続メッセージでは、16 進形式と 10 進形式で示した最初の SCN 値が報告されます。この SCN 値は、前のメッセージに関連する、Oracle REDO ログ内の位置を示します。Oracle RAC 環境で PowerExchange Express CDC for Oracle を実行すると、関連する RAC メンバの名前がこのメッセージに表示されます。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-36462	ORAD 情報 <i>rac_member</i> :+最初の RBA は、REDO ログファイル <i>log_file_sequence_number</i> 内の <i>rba</i> です。
説明：	この継続メッセージでは、メッセージに示されたシーケンス番号を持つ Oracle REDO ログファイル内の最初の RBA 値が報告されます。このログ位置は前のメッセージに関連しています。Oracle RAC 環境で PowerExchange Express CDC for Oracle を実行すると、関連する RAC メンバの名前がこのメッセージに表示されます。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-36463	ORAD 情報 <i>rac_member</i> :+最後の SCN は、 <i>hexadecimal_scn16</i> 進、 <i>decimal_scn10</i> 進です。
説明：	この継続メッセージでは、16 進形式と 10 進形式で示した最後の SCN 値が報告されます。この継続メッセージは、別のメッセージに関連付けられています。Oracle RAC 環境で PowerExchange Express CDC for Oracle を実行すると、関連する RAC メンバの名前がこのメッセージに表示されます。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-36464	ORAD 情報 <i>rac_member</i> :+最後の RBA は、REDO ログファイル <i>file_sequence_number</i> 内の <i>rba</i> です。
説明：	このメッセージでは、メッセージに示されたシーケンス番号を持つ REDO ログファイル内の最後の RBA 値が報告されます。このメッセージは、別のメッセージに関連付けられています。Oracle RAC 環境で PowerExchange Express CDC for Oracle を実行すると、関連する RAC メンバの名前がこのメッセージに表示されます。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-36465	ORAD 情報 <i>rac_member</i> :DML シーケンスエラー: <i>description</i> 。
説明：	REDO ログエントリの構築中に、PowerExchange でトランザクションの DML シーケンスエラーが発生しました。Oracle RAC 環境で PowerExchange Express CDC for Oracle を実行すると、関連する RAC メンバの名前がこのメッセージに表示されます。
システムのアクション：	トランザクションがロールバックしたか、CDC リスタートポイントの前にトランザクションがコミットされた場合、PowerExchange はこの DML シーケンスエラーを無視します。CDC リスタートポイントの後でトランザクションがコミットされた場合、エラーが発生し、CDC セッションが終了します。

ユーザの応答： さらにエラーメッセージ PWX-36475 が発行されて CDC セッションが終了する場合には、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。それ以外の場合は、対応する必要はありません。

PWX-36466 ORAD *rac\_member*:**トランザクション *transaction\_identifier* の SCN/SUBSCN/RBA/CV が昇順ではありません。**

説明： REDO ログエントリの記述中に、PowerExchange で致命的なエラーが発生しました。メッセージに示されたトランザクションの SCN 値、SUBSCN 値、RBA 値、および変更ベクトル値が昇順に並んでいません。直前の値と現行の値については、メッセージ PWX-36467 と PWX-36468 を参照してください。Oracle RAC 環境で PowerExchange Express CDC for Oracle を実行すると、関連する RAC メンバの名前がこのメッセージに表示されます。

システムのアクション： CDC セッションは異常終了します。

ユーザの応答： Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-36467 ORAD **情報** *rac\_member*:**直前の値**: SCN *scn*、SUBSCN *subordinate\_scn*、RBA *rba*、**および** CV *change\_vector*。

説明： このメッセージでは、エラーメッセージ PWX-36466 に関連付けられた直前の SCN 値、SUBSCN 値、RBA 値、および変更ベクトル値が報告されます。Oracle RAC 環境で PowerExchange Express CDC for Oracle を実行すると、関連する RAC メンバの名前がこのメッセージに表示されます。

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-36468 ORAD **情報** *rac\_member*:**現行の値**: SCN *scn*、SUBSCN *subordinate\_scn*、RBA *rba*、**および** CV *change\_vector*。

説明： このメッセージでは、エラーメッセージ PWX-36466 に関連付けられた現行の SCN 値、SUBSCN 値、RBA 値、および変更ベクトル値が報告されます。Oracle RAC 環境で PowerExchange Express CDC for Oracle を実行すると、関連する RAC メンバの名前がこのメッセージに表示されます。

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-36469 ORAD **情報** *rac\_member*:**オブジェクト ID *object\_identifier* が、BACKOUT オブジェクト ID *object\_identifier* と一致しません。**

説明： REDO ログエントリの記述中に、メッセージに示された BACKOUT オブジェクト ID と元の DML 操作オブジェクト ID が一致していないことを PowerExchange が検知しました。Oracle RAC 環境で PowerExchange Express CDC for Oracle を実行すると、関連する RAC メンバの名前がこのメッセージに表示されます。

システムのアクション： トランザクションがロールバックしたか、CDC リスタートポイントの前にトランザクションがコミットされた場合、PowerExchange はこのオブジェクト ID 不一致を無視します。CDC リスタートポイントの後でトランザクションがコミットされた場合、エラーが発生し、CDC セッションが終了します。

ユーザの応答：	さらにエラーメッセージ PWX-36475 が発行されて CDC セッションが終了する場合には、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。それ以外の場合は、対応する必要はありません。
PWX-36470	<b>ORAD 情報 <i>rac_member</i>:オブジェクト ID <i>object_identifier</i> が、最初の DML オブジェクト ID <i>object_identifier</i> と一致しません。</b>
説明：	REDO ログエントリの記述中に、メッセージに示されたオブジェクト ID と、シーケンス内の最初の DML オブジェクト ID が一致していないことを PowerExchange が検知しました。Oracle RAC 環境で PowerExchange Express CDC for Oracle を実行すると、関連する RAC メンバの名前がこのメッセージに表示されます。
システムのアクション：	トランザクションがロールバックしたか、CDC リスタートポイントの前にトランザクションがコミットされた場合、PowerExchange はこのオブジェクト ID 不一致を無視します。CDC リスタートポイントの後でトランザクションがコミットされた場合、エラーが発生し、CDC セッションが終了します。
ユーザの応答：	さらにエラーメッセージ PWX-36475 が発行されて CDC セッションが終了する場合には、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。それ以外の場合は、対応する必要はありません。
PWX-36471	<b>ORAD 情報 <i>rac_member</i>:オブジェクト ID <i>object_identifier</i> が、最初の MBU オブジェクト ID <i>object_identifier</i> と一致しません。</b>
説明：	REDO ログエントリの記述中に、メッセージに示されたオブジェクト ID と、複数ブロックシーケンス内の最初の MBU オブジェクト ID が一致していないことを PowerExchange が検知しました。Oracle RAC 環境で PowerExchange Express CDC for Oracle を実行すると、関連する RAC メンバの名前がこのメッセージに表示されます。
システムのアクション：	トランザクションがロールバックしたか、CDC リスタートポイントの前にトランザクションがコミットされた場合、PowerExchange はこのオブジェクト ID 不一致を無視します。CDC リスタートポイントの後でトランザクションがコミットされた場合、エラーが発生し、CDC セッションが終了します。
ユーザの応答：	さらにエラーメッセージ PWX-36475 が発行されて CDC セッションが終了する場合には、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。それ以外の場合は、対応する必要はありません。
PWX-36472	<b>ORAD 情報 <i>rac_member</i>:アクティブな DML シーケンスの数は <i>number_of_sequences</i> です。</b>
説明：	このメッセージでは、アクティブ DML シーケンスの数が報告されます。このメッセージは、別のメッセージに関連付けられています。Oracle RAC 環境で PowerExchange Express CDC for Oracle を実行すると、関連する RAC メンバの名前がこのメッセージに表示されます。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。

PWX-36473	ORAD 情報 <i>rac_member</i> :DML アクティブシーケンス <i>dml_active_sequence_number</i> に、最初の SCN 値である <i>hexadecimal_scn16</i> 進、 <i>decimal_scn10</i> 進が存在します。
説明：	このメッセージでは、アクティブ DML シーケンスに関連付けられた最初の SCN 値が報告されます。このメッセージは、別のメッセージに関連付けられています。Oracle RAC 環境で PowerExchange Express CDC for Oracle を実行すると、関連する RAC メンバの名前がこのメッセージに表示されます。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-36474	ORAD 情報 <i>rac_member</i> :DML アクティブシーケンス <i>dml_active_sequence_number</i> には、REDO ログファイル <i>file_sequence_number</i> 内の最初の RBA <i>rba</i> が存在します。
説明：	このメッセージでは、アクティブ DML シーケンスに関連付けられた、メッセージに示された REDO ログファイル内の最初の RBA 値が報告されます。このメッセージは、別のメッセージに関連付けられています。Oracle RAC 環境で PowerExchange Express CDC for Oracle を実行すると、関連する RAC メンバの名前がこのメッセージに表示されます。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-36475	ORAD <i>rac_member</i> :コミットされたトランザクションで、PowerExchange に REDO ログアセンブリエラーが発生しました。
説明：	REDO ログエントリの記述中に、リスタートポイントの後でコミットされたトランザクションで PowerExchange にエラーが発生しました。PowerExchange は、このメッセージをコンソールとメッセージログに対して発行します。Oracle RAC 環境で PowerExchange Express CDC for Oracle を実行すると、関連する RAC メンバの名前がこのメッセージに表示されます。
システムのアクション：	CDC セッションは異常終了します。このエラーを初めて検出したときに、PowerExchange は PWX-36465、PWX-36469、PWX-36470、PWX-36471 などの関連する情報メッセージを発行しました。
ユーザの応答：	関連する情報メッセージを見つけます。その後、Informatica グローバルカスタマサポートに問い合わせ、関連するメッセージ出力を提供します。
PWX-36476	ORAD 情報 <i>rac_member</i> :リスタートポイントの前に、REDO ログアセンブリエラーがあるトランザクションがコミットされました。トランザクション <i>transaction_id</i> 。
説明：	REDO ログエントリの記述中に、リスタートポイントの前にコミットされたトランザクションのエラーが PowerExchange で発生しました。この結果、PowerExchange はこのエラーを無視しました。
システムのアクション：	CDC セッションは継続されます。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。

PWX-36477	<b>ORAD 情報</b> <i>rac_member</i> :REDO ログアセンブリエラーがあるトランザクションがロールバックされました。トランザクション <i>transaction_id</i> 。
説明:	REDO ログエントリの記述中に、ロールバックされたトランザクションのエラーが PowerExchange で発生しました。この結果、PowerExchange はこのエラーを無視しました。
システムのアクション:	CDC セッションは継続されます。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-36478	<b>ORAD 情報</b> <i>rac_member</i> :複数ブロックシーケンスのリセット、トランザクション <i>transaction_identifier</i> 。
説明:	REDO ログエントリの記述中に、メッセージに示されたトランザクションのログレコードの複数ブロックシーケンスで PowerExchange Express CDC ログリーダーにエラーが発生しました。PowerExchange は、ユーザーの介入なしでこのエラーから回復することができました。Oracle RAC 環境で PowerExchange Express CDC for Oracle を実行すると、関連する RAC メンバの名前がこのメッセージに表示されます。
システムのアクション:	PowerExchange はこのエラーを無視し、続行します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-36479	<b>ORAD 情報</b> <i>rac_member</i> :+ 現行 TMGR SCN <i>scn_decimal_value</i> 。
説明:	このメッセージでは、PowerExchange Express CDC for Oracle トランザクションマネージャの現行 SCN が報告されます。Oracle RAC 環境で CDC を実行すると、関連する RAC メンバの名前がこのメッセージに表示されます。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-36480	<b>ORAD 情報</b> <i>rac_member</i> :スピルファイルが割り当てられました。ファイル番号 <i>spill_file_number</i> 、ファイル名 <i>file_name</i> 。
説明:	PowerExchange Express CDC for Oracle によって、メッセージに示されたスピルファイルが割り当てられました。スピルファイル番号は、抽出処理が開始されて以来スピルファイルがいくつ割り当てられたかを示します。UNIX では、スピルファイルはディレクトリリストには表示されません。Oracle RAC 環境で PowerExchange Express CDC for Oracle を実行すると、関連する RAC メンバの名前がこのメッセージに表示されます。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。

PWX-36481	ORAD <i>rac_member</i> . <b>スピルファイルエラー:操作= <i>operation_type</i>、ファイル= <i>spill_file_number</i>、エラー番号= <i>error_number</i></b>
説明:	PowerExchange Express CDC for Oracle のスピルファイルの処理中に、PowerExchange でエラーが発生しました。このメッセージには、エラーに関する診断情報が表示されます。Oracle RAC 環境で PowerExchange Express CDC for Oracle を実行すると、関連する RAC メンバの名前がこのメッセージに表示されます。
システムのアクション:	クローズ操作の場合を除き、CDC セッションは異常終了します。
ユーザの応答:	この問題はファイルシステムに関連していることがよくあります。このメッセージ内の情報を使用し、エラーの修復を試みます。サポートが必要な場合は、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-36482	ORAD <b>情報</b> <i>rac_member</i> . <b>スピルファイルエラー: <i>error_text</i></b>
説明:	このメッセージには、メッセージ PWX-36481 で報告されるスピルファイルエラーに関する情報が表示されます。Oracle RAC 環境で PowerExchange Express CDC for Oracle を実行すると、関連する RAC メンバの名前がこのメッセージに表示されます。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-36483	ORAD <b>情報</b> <i>rac_member</i> . <b>スピルファイルが解放されました。ファイル番号 <i>spill_file_number</i>、ファイル名 <i>file_name</i></b>
説明:	メッセージに示された、PowerExchange Express CDC for Oracle のスピルファイルが解放されました。Oracle RAC 環境で PowerExchange Express CDC for Oracle を実行すると、関連する RAC メンバの名前がこのメッセージに表示されます。
ユーザの応答:	このファイルが解放されたことを確認するには、このメッセージ内のファイル番号をメッセージ PWX-36480 内のファイル番号と照らし合わせ、ファイル割り当てをチェックします。
PWX-36484	ORAD <b>情報</b> <i>rac_member</i> . <b>SCN <i>scn</i> でメンバが停止していることをトランザクションマネージャが検知しました。</b>
説明:	メッセージに示された SCN で RAC メンバが実行を停止したことを PowerExchange Express CDC for Oracle トランザクションマネージャが検知しました。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-36485	ORAD <b>情報</b> <i>rac_member</i> . <b>トランザクション <i>transaction_id</i> はメンバが起動したときにまだアクティブであったため、このトランザクションは中断されました。</b>
説明:	RAC メンバが再起動した後、メッセージに示されたトランザクションは PowerExchange Express CDC for Oracle トランザクションマネージャによって拒否されました。このトランザクションは、メッセージに示されたメンバが停止したときにその転送先となった別の RAC メンバでアクティブでした。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。

PWX-36486	ORAD 情報 <i>rac_member</i> :SCN <i>scn</i> でメンバが実行中であることをトランザクションマネージャが検知しました。
説明:	メッセージに示された SCN でメッセージに示された RAC メンバが実行を開始したことを PowerExchange Express CDC for Oracle トランザクションマネージャが検知しました。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-36487	ORAD 情報 <i>rac_member</i> : トランザクション <i>transaction_id</i> は、トランザクション <i>transaction_id</i> が開始されたため中止されました。
説明:	指定したトランザクションは、同じ識別子の新しいトランザクションが開始されたため、PowerExchange Express CDC for Oracle トランザクションマネージャで拒否されました。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-36488	ORAD 情報 <i>rac_member</i> : DML シーケンス警告: <i>description</i> 。
説明:	REDO ログエントリの構築中に、PowerExchange でトランザクションの DML シーケンスエラーが発生しました。PowerExchange は多くの場合、問題を修正する方法でエラーを説明します。Oracle RAC 環境で PowerExchange Express CDC for Oracle を実行すると、関連する RAC メンバの名前がこのメッセージに表示されます。
システムのアクション:	PowerExchange は DML シーケンスエラーを補正し、抽出処理を行います。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-36490	ORAD 情報: 抽出の終了時にスレッド <i>thread_name</i> に関連付けられた PWX-36491 メッセージ:
説明:	これは、後続の PWX-36491 メッセージで報告された情報がどのスレッドのものを識別するメッセージです。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-36491	ORAD 情報: <i>message_text</i> 。
説明:	複数のエラーが原因で PowerExchange Express CDC for Oracle セッションが異常終了した場合、それらのいずれかが独立したエラーメッセージで報告され、残りのエラーはすべてこのメッセージ ID のメッセージで報告されます。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-36492	ORAD 情報: シャットダウン要求が検出されました ( <i>thread_name</i> )。
説明:	PowerExchange Express CDC for Oracle で、呼び出し元からシャットダウン要求を受け取ったため、指定されたスレッドのシャットダウン処理を実行しています。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。



PWX-36494	ORAD 警告 <i>rac_member.timestamp</i> に開始したトランザクションは再計算の期間外であり、現在アクティブです。
説明：	PowerExchange Express CDC for Oracle により、再計算の期間外であるアクティブなトランザクションの DML 変更が検出されました。pwxorad.cfg ファイルの OPTIONS 文の AGEOUTPERIOD パラメータで指定された期間が短すぎる可能性があります。トランザクションが完了する前にキャプチャプロセスがシャットダウンされ、その後再開された場合、期間外トランザクションのデータが失われる可能性があります。
システムのアクション：	CDC 処理を続行します。
システムのアクション：	OPTIONS 文の AGEOUTPERIOD 値を大きくするか、長期処理中トランザクションを防ぐポリシーを実装します。
PWX-36497	ORAD 情報: 抽出結果の件数: データなし <i>number</i> 件、コミット <i>number</i> 件、挿入 <i>number</i> 件、更新 <i>number</i> 件、削除 <i>number</i> 件。
説明：	抽出の実行についてコンシューマ API (CAPI) から PowerExchange ロgger (Linux、UNIX、Windows 用) に返されたデータなしの結果、コミット、挿入、更新、および削除の件数を報告するメッセージです。
システムのアクション：	CDC 処理は続行されます。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-36498	ORAD 情報: 抽出の TMGR の件数: データなし <i>number</i> 件、トランザクション制御 <i>number</i> 件、操作 <i>number</i> 件、その他 <i>number</i> 件。
説明：	抽出実行時に PowerExchange Express CDC for Oracle トランザクションマネージャで処理されたデータなしの操作、トランザクション制御操作、データ操作、およびその他の操作の件数を報告するメッセージです。
システムのアクション：	CDC 処理は続行されます。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-36499	ORAD 情報: 抽出のリソースの最大数: 操作 <i>number</i> 件、スピルファイル <i>number</i> 個。
説明：	抽出実行時の PowerExchange Oracle Express CDC for Oracle による最大リソース使用量に関する統計情報を報告するメッセージです。これらの統計情報には、ステージングされる操作の最大数と割り当てられるスピルファイルの最大数が含まれます。
システムのアクション：	CDC 処理は続行されます。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。

PWX-36500	<b>ORAD 情報 <i>rac_member</i>: トランザクションマネージャが SCN <i>SCN</i> resetlogs ID <i>resetlogs_ID</i> で resetlogs イベントを検出しました。</b>
説明:	PowerExchange Express CDC for Oracle の処理中、PowerExchange トランザクション処理コンポーネントが指定された SCN で Oracle RESETLOGS イベントを検出しました。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-36501	<b>ORAD 情報 <i>rac_member</i>: トランザクション <i>transaction_ID</i> は resetlogs イベントが発行されたときにまだアクティブであったため、このトランザクションは中断されました。</b>
説明:	PowerExchange Express CDC for Oracle の処理中、トランザクションがまだアクティブなときに Oracle resetlogs イベントが発生したため、PowerExchange トランザクション処理コンポーネントは指定された Oracle トランザクションを中断しました。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-36502	<b>ORAD: TMGR が最後に処理した SCN <i>SCN</i>が最初の SCN <i>SCN</i> より大きい値です (resetlogs ID <i>db_resetlogs_ID</i>のデータベースインカーネーション)。</b>
説明:	PowerExchange Express CDC for Oracle の処理中、指定した resetlogs ID のデータベースインカーネーションに対する RESETLOGS イベントにより、トランザクションマネージャで変更レコードが最後に処理された SCN よりも小さい SCN が設定されます。そのため、PowerExchange Express CDC によって以前処理された変更データが無効になっています。
システムのアクション:	PowerExchange Express CDC 処理は異常終了します。
ユーザの応答:	無効な変更データが PowerExchange ロgger (Linux、UNIX、および Windows 用) ログファイルに書き込まれている場合、PowerExchange ロgger をコールドスタートまたは特殊スタートする必要があります。ターゲットテーブルの再マテリアライズも必要な可能性があります。
PWX-36503	<b>ORAD 情報: アクティブな REDO ファイル <i>file_name</i> は、アクティブログマスクに一致しないため、処理対象ではありません。</b>
説明:	指定されたアクティブ REDO ログファイルは、そのログファイル名が Oracle 構成ファイルの PowerExchange Express CDC の READER 文にある ACTIVELOGMASK パラメータのマスクに一致しないため、PowerExchange Express CDC の Oracle 処理から除外されます。この情報メッセージは、警告メッセージ PWX-36112 と一緒に発行されます。
システムのアクション:	処理は継続します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。

PWX-36504	<b>ORAD 情報: アクティブ REDO ファイル <i>file_name</i> は、Oracle で <i>file_status</i> とフラグ付けされているため、処理対象ではありません。</b>
説明:	指定されたアクティブ REDO ログは、Oracle 内でのそのファイルステータスにより、PowerExchange Express CDC の Oracle 処理から除外されます。この情報メッセージは、警告メッセージ PWX-36112 と一緒に発行されます。
システムのアクション:	処理は継続します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-36505	<b>ORAD 情報: アクティブ REDO ファイル <i>file_name</i> は、アクセスできないため処理対象ではありません。</b>
説明:	指定されたアクティブ REDO ログにアクセスできないため、そのアクティブ REDO ログは PowerExchange Express CDC の Oracle 処理の対象になりません。この情報メッセージは、警告メッセージ PWX-36112 と一緒に発行されます。
システムのアクション:	処理は継続します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-36506	<b>ORAD 警告: オープンスレッド <i>thread_number</i> にオンライン REDO ファイルがありません。</b>
説明:	PowerExchange Express CDC for Oracle は、Oracle v\$log ビューと v\$logfile ビューのクエリに基づいて、指定されたスレッドのオンライン REDO ログファイルを見つけることができませんでした。
システムのアクション:	処理は、PowerExchange Express CDC ログリーダーがスレッドのオンライン REDO ログへのアクセスを試みるまで継続します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-36550	<b>ORAD 警告 <i>rac_member</i>: ASM ステージングディレクトリ <i>&lt;directory_name&gt;</i> が存在しないか、アクセスできません。アクセスがエラーコード <i>error_number</i>: <i>error_text</i> で失敗しました。</b>
説明:	ASM ステージングディレクトリにアクセスすることはできません。
システムのアクション:	処理は継続します。ただし、ASM ステージングは無効化されます。
ユーザの応答:	ステージングディレクトリが存在し、プロセスを実行するユーザー ID にディレクトリへアクセスする権限があるようにしてください。
PWX-36551	<b>ORAD 警告 <i>rac_member</i>: プロセスに ASM ステージングファイルの書き込み権限がありません。</b>
説明:	プロセスで ASM ステージングファイルを削除することができませんでした。
システムのアクション:	処理は継続します。ただし、ステージングファイルのクリーンアップやサイズ変更はできません。

ユーザの応答：	プロセスを実行するユーザー ID にステージングファイルを削除する権限があるようにしてください。
PWX-36552	<b>ORAD 警告 <i>rac_member</i>: ASM ステージングファイル &lt;file_name&gt; コンテンツが無効です。</b>
説明：	ASM ステージングファイルに、予期されたログ情報が含まれていません。
システムのアクション：	処理は継続します。ただし、ASM ステージングは無効化されます。
ユーザの応答：	ステージングディレクトリが正しく設定されていること、すべての ASM インスタンスが同ディレクトリにアクセスできることを確認します。
PWX-36553	<b>ORAD 警告 <i>rac_member</i>: ASM ステージングが一時的に無効になりました。</b>
説明：	前のエラーにより ASM ステージングが一時的に無効になりました。
システムのアクション：	処理は継続します。ただし、ASM ステージングは次のログ切り替えまで無効です。
ユーザの応答：	ステージングディレクトリが正しく設定されていること、すべての ASM インスタンスが同ディレクトリにアクセスできることを確認します。
PWX-36554	<b>ORAD 警告 <i>rac_member</i>: ASM ステージングが <i>number_of_attempts</i> 回の再試行後に永久に無効になりました。</b>
説明：	以前の ASM ステージングエラーの後、PowerExchange は指定された回数の ASM ステージング再試行を試みました。これらの試みはいずれも失敗しました。その後に PowerExchange が ASM ステージングを永久に無効にしました。
システムのアクション：	処理は継続します。ただし、ASM ステージングは無効です。
ユーザの応答：	ステージングディレクトリが正しく設定されていること、すべての ASM インスタンスが同ディレクトリにアクセスできることを確認します。
PWX-36555	<b>ORAD <i>rac_member</i>: ログファイル <i>file_name</i>、ブロック <i>block_number</i> を処理しています。ブロックヘッダーが無効です。チェックサム検証に失敗しました。</b>
説明：	PowerExchange Express CDC for Oracle ログリーダーで指定の Oracle REDO ログのブロックヘッダーに予期しない値が検出されました。
システムのアクション：	Oracle キャプチャでは代替ログファイルを特定しようとします。ログシーケンスに代替ログが存在しない場合、キャプチャプロセスは終了します。
ユーザの応答：	このエラーは内部処理エラーまたはログファイル破損によって発生する可能性があります。Informatica グローバルカスタマサポートまでお問い合わせください。

PWX-36556 ORAD 情報 *rac\_member*: ASM ステージング: ステージング呼び出し *calls* 回。読み込みエラー *read\_errors* 回。書き込みエラー *write\_errors* 回。ステージング再試行 *staging\_retries* 回。ステータス *status*。

説明: このメッセージは、Oracle 自動ストレージ管理 (ASM) ステージングファイルのステージングデータに関する次の情報を報告します。

- *calls* は、ステージングデータへの呼び出しの数です。
- *read\_errors* は、ステージングファイルの読み取り中に発生したエラーの数です。
- *write\_errors* は、データをステージングファイルにコピーすることを ASM に要求中に発生したエラーの数です。
- *staging\_retries* は、エラーが発生した後に ASM がステージングファイルへのデータコピーを再試行した回数です。複数の再試行が報告された場合、NFS またはネットワークの問題がある可能性があります。
- *status* は、ステージング操作がアクティブな場合は **enabled** になり、発生したエラーが多すぎる場合は **disabled** になります。

ユーザの応答: 読み取りまたは書き込みエラーが報告された場合は、メッセージログで ASM ステージング操作が生成した警告メッセージを調べます。ステージングの再試行が報告された場合は、NFS またはネットワークの問題を確認します。

PWX-36557 ORAD 警告 *rac\_member*: スレッド読み取りの作成が失敗し、エラー *error\_number* [*error\_text*] が表示されます。

説明: PowerExchange Express CDC for Oracle ログリーダーは、非同期データ処理用のスレッド読み取りを作成できませんでした。

システムのアクション: 非同期処理は無効です。

ユーザの応答: このメッセージに含まれるエラーテキストを調べて、エラーの根本原因を判定してください。

PWX-36558 ORAD 警告 *rac\_member*: ASM 読み取りが *timeout\_interval* 秒経過後にタイムアウトしました。

説明: 指定された秒数の経過後に、Oracle ASM への PowerExchange Express CDC for Oracle 読み取りの呼び出しがタイムアウトしました。

システムのアクション: PowerExchange は読み取りの呼び出しを再試行します。

ユーザの応答: 対応する必要はありません。

PWX-36560 ORAD 警告: データベース SCN *scn* が PowerExchange で現在サポートされている最大値に近づいています。

説明: Oracle ソースデータベースの SCN は、現在 PowerExchange CDC がサポートしている最大 SCN 値に近づいています。

ユーザの応答: Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-36561	<b>ORAD: データベース SCN <i>scn</i> が PowerExchange で現在サポートされている最大値を超えました。</b>
説明:	Oracle ソースデータベースの SCN は、現在 PowerExchange CDC がサポートしている最大 SCN 値を超えました。
システムのアクション:	抽出処理が終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-36600	<b>ORAD 情報: パラメータ <i>parameter_name</i> が無視されました。</b>
説明:	CAPI2 モードが有効なので、指定されたパラメーターは無視されました。
システムのアクション:	処理は継続します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-36601	<b>ORAD: メッセージ <i>message_ID</i> が、内部リソース ID <i>resource_ID</i>、テーブル <i>creator.table</i> に対して発行されました。</b>
説明:	このメッセージには、指定されたエラーまたは警告メッセージに関するその他の情報が、エラーまたは警告と結び付いている内部リソース ID およびテーブル名とともに表示されます。
ユーザの応答:	詳細については、指定されたメッセージ ID を含む前のメッセージを参照してください。
PWX-36602	<b>ORAD 情報: ソーステーブルフィルタ。</b>
説明:	このメッセージは、ソーステーブルフィルタのリストに先行するものです。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-36603	<b>ORAD 情報: <i>filter_number</i>. <i>filter_type</i> <i>creator_filter</i>. <i>table_filter</i>。</b>
説明:	このメッセージは、ソーステーブルフィルタについて説明します。 <i>filter_type</i> は次の値のいずれかになります。包含フィルタの場合「+」、除外フィルタの場合「-」、または質問フィルタの場合「?」です。 <i>creator_filter</i> および <i>table_filter</i> の値には、マスク値または明示値が該当します。フィルタが複数定義されている場合に、このメッセージがフィルタごとに優先順に従って発行されます。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-36604	<b>ORAD 情報: 選択済みソーステーブル。</b>
説明:	このメッセージは、選択されたソーステーブルのリストに先行するものです。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。

PWX-36605	ORAD 情報: <i>creator.table</i> 。
説明:	指定された作成者名とテーブル名を持つ Oracle ソーステーブルが、変更キャプチャ処理用に選択されています。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-36606	ORAD: <b>ソーステーブルは選択されていません。</b>
説明:	ソースフィルタに基づいてソーステーブルが選択されませんでした。
システムのアクション:	抽出処理が終了します。
ユーザの応答:	少なくとも 1 つのソーステーブルがフィルタで選択されるように、フィルタを編集してください。そのあと、セッションを再度実行してください。
PWX-36607	ORAD: <b>ソーステーブル <i>creator.table</i> に変更データキャプチャの対象となるカラムがありません。</b>
説明:	指定された Oracle ソーステーブルは変更データキャプチャ用に選択されていますが、変更データキャプチャの対象となるテーブルカラムはありません。
システムのアクション:	このテーブルでは変更データはキャプチャされません。
ユーザの応答:	このメッセージを回避するには、変更キャプチャでのこのテーブル選択を防ぐ除外フィルタを追加します。
PWX-36608	ORAD: <b>内部エラー。内部 CDC コンポーネントのメッセージコンテンツにエラー <i>description</i> が含まれています。</b>
説明:	変更データキャプチャコンポーネントとの通信に内部で使用するメッセージには、指定されたエラーの内容が含まれています。
システムのアクション:	そのエラーを含むメッセージは却下されます。その結果、セッションが異常終了する場合があります。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-36609	ORAD: CSO エラー: <i>description</i> 。
説明:	内部 CSO コンポーネントでエラーが発生しました。このメッセージにはエラーの説明を表示します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-36610	ORAD: Filler 呼び出し <i>method_name</i> が失敗しました。
説明:	内部 Filler コンポーネントで、指定された呼び出しに関連するエラーが発生しました。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。エラーの詳細については、関連するメッセージを検索してください。
PWX-36611	ORAD: <b>要求 '<i>description</i>' が <i>number</i> 間隔にわたり未処理です。</b>
説明:	要求が指定された間隔数にわたり未処理です。
ユーザの応答:	要求の呼び出し側に問題がある可能性があります。

PWX-36612	<b>ORAD: 内部エラー。内部コンポーネントのメッセージの作成中にエラーが発生しました: <i>description</i>。</b>
説明:	変更データキャプチャコンポーネントとの通信に内部で使用するメッセージの内容を作成するとき、内部エラーが発生しました。このメッセージにはエラーの説明を表示します。
システムのアクション:	これにより、セッションが失敗する場合があります。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-36613	<b>ORAD 情報: テーブルでキャプチャ処理が停止しました (テーブル <i>creator.table</i>)。</b>
説明:	指定された Oracle ソーステーブルの変更データキャプチャが停止されました。
システムのアクション:	変更データはテーブルからキャプチャされなくなります。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-36614	<b>ORAD 情報: テーブルのキャプチャクラリフィケーションを送信しています (テーブル <i>creator.table</i>)。</b>
説明:	指定されたテーブルに対応するソーステーブルフィルタのタイプは「ask」です。これにより、クラリフィケーション要求が要求者に送信されます。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-36615	<b>ORAD 情報: <i>total_number_of_tables</i> 個中 <i>number_of_processed_tables</i> 個のテーブルのカatalog情報を取得しました。</b>
説明:	このメッセージは、Oracle Catalogから Oracle ソーステーブル情報を取得するステータスを報告します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-36616	<b>ORAD 情報: マーカー送信。SCN: <i>scn</i>。時間: <i>log_time</i>。注釈: <i>json_annotations</i>。</b>
説明:	Oracle の変更データ処理中に、要求されたマーカーが生成され、変更ストリームに書き込まれました。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-36617	<b>ORAD 情報: 新規候補テーブル <i>creator.table_name</i>。</b>
説明:	キャプチャ処理が開始された後に、PowerExchange Express CDC for Oracle が選択条件に一致する新しい Oracle テーブルが作成されたことを検出しました。
システムのアクション:	PowerExchange はこのテーブルの DML 変更を監視します。DML 変更が検出された場合、PowerExchange は対応するアクションを実行します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。



PWX-36620	ORAD <b>エラー: 構成処理エラー:</b> <i>error_description</i> .
説明:	Oracle CDC 構成の処理中に致命的なエラーが発生しました。このメッセージにはエラーの説明を表示します。
システムのアクション:	抽出処理が終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-36621	ORAD <b>エラー: 設定エラー:</b> <i>description</i> .
説明:	Oracle CDC の設定でエラーが発生しました。このメッセージにはエラーの説明が示されます。
システムのアクション:	抽出処理が終了します。
ユーザの応答:	設定でエラーを修正してください。その後、抽出を再開してください。
PWX-36622	ORAD <b>情報: 設定:</b>
説明:	このメッセージは、設定情報のリストに先行するものです。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-36623	ORAD <b>情報: line_of_configuration_information</b>
説明:	このメッセージには、JSON 設定情報の行が示されます。この情報は、問題の診断を容易にするためのものです。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-36700	CAPI2: JSON <b>メッセージ生成でエラーが発生しました:</b> <i>description</i> .
説明:	JSON メッセージ生成でエラーが発生しました。
システムのアクション:	メッセージが生成されませんでした。これにより、セッションが失敗する場合があります。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-36701	CAPI2: <b>エラーのコレクションエラー:</b> <i>description</i> .
説明:	内部の CAPI2 コンポーネントがエラーコレクションを処理しているときにエラーが発生しました。このメッセージにはエラーの説明を表示します。
システムのアクション:	これにより、セッションが失敗する場合があります。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-36750	GRPCI: <b>エラー:</b> <i>error_description</i> .
説明:	GRPCI インタフェースに致命的なエラーが発生しました。このメッセージにはエラーの説明を表示します。
システムのアクション:	処理は終了します。

ユーザの応答：	エラーについての詳細は、メッセージ PWX-36751 を参照してください。その後、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-36751	GRPCI: <b>情報:</b> <i>description</i> 。
説明：	このメッセージには、GRPCI インタフェースで発生し、付随するメッセージ PWX-37650 で報告された致命的なエラーに関する詳細情報が表示されます。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-36900	<b>インスタンス&lt;instance_name&gt;の 1 回限りの変換が開始されました。</b>
説明：	Linux、UNIX、Windows 向け PowerExchange ロgger の CDCT ファイル形式が PowerExchange 9.5.1 で変更されました。以前のバージョンの PowerExchange のデータベースインスタンス用の CDCT ファイルがある場合、PowerExchange 9.5.1 はファイルを新しい形式に自動変換します。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-36901	<b>ログファイル&lt;&gt;は変換に使用されていません。理由:&lt;reason_text&gt;。</b>
説明：	新しい形式へ変換中の PowerExchange ロgger CDCT ファイルの指定されたログファイルへの参照は次のいずれかの理由で無効です。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• システムエラー</li> <li>• ファイルに削除のマークが付けられている。</li> <li>• ファイルタイプまたはプレフィックスが無効。</li> </ul>
システムのアクション：	処理は継続します。変換された CDCT ファイルからログファイルが削除されています。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-36906	<b>一回限りの CDCT 変換が正常に完了しました。</b>
説明：	Linux、UNIX、Windows CDCT ファイル用の PowerExchange ロgger の以前の PowerExchange バージョンから新しい形式への変換を PowerExchange が開始しました。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-36910	<b>CDCT ファイル&lt;file_name&gt;の処理で変換中に予期せぬ戻りコード&lt;return_code&gt;を受け取りました。</b>
説明：	PowerExchange は CDCT ファイルを新しい形式に変換できませんでした。
システムのアクション：	アプリケーションは終了します。
ユーザの応答：	CDCT ファイルおよびディレクトリが存在し、プログラムに必要なファイル権限があることを確認します。

PWX-36911      **ファイル<file\_name>のステータス情報を取得できませんでした。システムエラー system\_errno (system\_error\_message)。**

説明：            指定されたファイルの統計情報を取得するシステム呼び出し中にエラーが発生しました。

システムのアクション：    処理は終了します。

ユーザの応答：          ファイル情報にアクセスするための適切なレベルの権限がユーザーにあるかを確認します。

PWX-36620      **ORAD エラー: 構成処理エラー: error\_description。**

説明：            Oracle CDC 構成の処理中に致命的なエラーが発生しました。このメッセージにはエラーの説明を表示します。

システムのアクション：    抽出処理が終了します。

ユーザの応答：          Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-36621      **ORAD エラー: 設定エラー: description。**

説明：            Oracle CDC の設定でエラーが発生しました。このメッセージにはエラーの説明が示されます。

システムのアクション：    抽出処理が終了します。

ユーザの応答：          設定でエラーを修正してください。その後、抽出を再開してください。

PWX-36922      **CDCT レコードの固定長<actual\_length>が予期していた長さ<expected\_length>よりも短くなっています。**

説明：            Linux、UNIX、Windows 向け PowerExchange ロggerが CDCT ファイルを読み取り中にエラーが発生しました。CDCT ファイルが破損した可能性があります。

システムのアクション：    処理は終了します。

ユーザの応答：          CDCT ファイルの最新のバックアップからファイルをリストアします。

PWX-36923      **CDCT レコード長<actual\_length>が計算された長さ<calculated\_length>未満です。**

説明：            Linux、UNIX、Windows 向け PowerExchange ロggerが CDCT ファイルを読み取り中にエラーが発生しました。CDCT ファイルが破損した可能性があります。

システムのアクション：    処理は終了します。

ユーザの応答：          CDCT ファイルの最新のバックアップからファイルをリストアします。

PWX-36924	<b>CDCT レコードに無効な画像タイプ&lt;image_type&gt;が検出されました。</b>
説明：	Linux、UNIX、Windows 向け PowerExchange ログガーが CDCT ファイルを読み取り中にエラーが発生しました。CDCT ファイルが破損した可能性があります。
システムのアクション：	処理は終了します。
ユーザの応答：	CDCT ファイルの最新のバックアップからファイルをリストアします。
PWX-36925	<b>CDCT レコードで無効なステータス&lt;status&gt;が検出されました。</b>
説明：	Linux、UNIX、Windows 向け PowerExchange ログガーが CDCT ファイルを読み取り中にエラーが発生しました。CDCT ファイルが破損した可能性があります。
システムのアクション：	処理は終了します。
ユーザの応答：	CDCT ファイルの最新のバックアップからファイルをリストアします。
PWX-36926	<b>バックアップファイルのフィールド&lt;field_number&gt;&lt;field_name&gt;には無効な長さ&lt;field_length&gt;が検出されました。予期していた長さは&lt;expected_length&gt;です。</b>
説明：	Linux、UNIX、Windows 向け PowerExchange ログガーが CDCT ファイルを読み取り中にエラーが発生しました。CDCT ファイルが破損した可能性があります。
システムのアクション：	処理は終了します。
ユーザの応答：	CDCT ファイルの最新のバックアップからファイルをリストアします。
PWX-36927	<b>バックアップファイルのフィールド&lt;field_name&gt;には無効な値&lt;field_value&gt;が検出されました。</b>
説明：	Linux、UNIX、Windows 向け PowerExchange ログガーが CDCT ファイルを読み取り中にエラーが発生しました。CDCT ファイルが破損した可能性があります。
システムのアクション：	処理は終了します。
ユーザの応答：	CDCT ファイルの最新のバックアップからファイルをリストアします。
PWX-36928	<b>バックアップファイル内のフィールド&lt;field_name&gt;には無効な 16 進数値または長さが検出されました。</b>
説明：	Linux、UNIX、Windows 向け PowerExchange ログガーが CDCT ファイルを読み取り中にエラーが発生しました。CDCT ファイルが破損した可能性があります。

システムのアクション: 処理は終了します。

ユーザの応答: CDCT ファイルの最新のバックアップからファイルをリストアします。

PWX-36929 **検出されたフィールドの数<field\_count>とバックアップファイル内の予期された数<expected\_count>が一致しませんでした。**

説明: Linux、UNIX、Windows 向け PowerExchange ロggerが CDCT ファイルを読み取り中にエラーが発生しました。CDCT ファイルが破損した可能性があります。

システムのアクション: 処理は終了します。

ユーザの応答: CDCT ファイルの最新のバックアップからファイルをリストアします。

PWX-36930 **ファイル<file\_name>を検出できませんでした。システムエラー system\_errno (system\_error\_message)。**

説明: 指定されたファイルを削除するシステム呼び出し中にエラーが発生しました。

システムのアクション: 処理は終了します。

ユーザの応答: ファイルを削除するための適切なレベルの権限がユーザーにあるかを確認します。

PWX-36931 **書き込み用のバックアップファイル<file\_name>を開けませんでした。システムエラー system\_errno (system\_error\_message)。**

説明: 情報を書き込むために指定したファイルを開くシステム呼び出し中にエラーが発生しました。

システムのアクション: 処理は終了します。

ユーザの応答: バックアップファイルへ書き込むための適切なレベルの権限がユーザーにあるか、またファイルを含んでいるディレクトリが存在しているかを確認します。

PWX-36932 **バックアップファイル<file\_name>に書き込めませんでした。システムエラー system\_errno (system\_error\_message)。**

説明: 指定されたファイルに情報を書き込むシステム呼び出し中にエラーが発生しました。

システムのアクション: 処理は終了します。

ユーザの応答: デバイスにファイルを収容する十分なスペースがあるかを確認します。

PWX-36933	<b>読み取り用のバックアップファイル&lt;file_name&gt;を開けませんでした。システムエラー <i>system_errno</i> (<i>system_error_message</i>)。</b>
説明:	情報を読み取るために指定されたファイルを開くシステム呼び出し中にエラーが発生しました。
システムのアクション:	処理は終了します。
ユーザの応答:	ファイルを読み込むための適切なレベルの権限があるか、またそのファイルが存在するかを確認します。
PWX-36934	<b>バックアップファイル&lt;file_name&gt;を読み取れませんでした。システムエラー <i>system_errno</i> (<i>system_error_message</i>)。</b>
説明:	指定されたファイルを読み込むシステム呼び出し中にエラーが発生しました。
システムのアクション:	処理は終了します。
ユーザの応答:	可能な場合は、代替バックアップファイルを使用します。
PWX-36935	<b>バックアップファイル&lt;file_name&gt;の読み取りで早期 EOF が発生しました。</b>
説明:	PowerExchange はファイルトレーラレコードを読み込む前に、指定されたバックアップファイルで EOF (ファイルの終わり) レコードを検出しました。
システムのアクション:	処理は終了します。
ユーザの応答:	可能な場合は、代替バックアップファイルを使用します。
PWX-36936	<b>バックアップファイルの形式またはバージョン&lt;version&gt;がサポートされていません。</b>
説明:	PowerExchange は、バックアップファイルのヘッダ形式または指定されているヘッダのバージョンをサポートしていません。
システムのアクション:	処理は終了します。
ユーザの応答:	可能な場合は、代替バックアップファイルを使用します。
PWX-36937	<b>リストアは&lt;backup_timestamp&gt;に作成された CDCT ファイルのバックアップ&lt;file_name&gt;を使用しています。</b>
説明:	指定されたバックアップファイルから、Linux、UNIX、Windows 向け PowerExchange ロガーの CDCT ファイルをリストアしています。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。

PWX-36938      **プレフィックス<file\_prefix>でシーケンス<file\_sequence>のファイルのファイル情報を CDCT から取得できませんでした。**

説明：              予期されたログファイル情報が、Linux、UNIX、Windows 向け PowerExchange ロggerの CDCT ファイルにありませんでした。CDCT ファイルが破損しています。

システムのアクション：      処理は終了します。

ユーザの応答：              CDCT ファイルをバックアップからリストアしてから、PowerExchange ロggerを再起動します。

PWX-36939      **ウォームスタートが要求されましたが、CDCT ファイル<file\_name>が見つかりませんでした。**

説明：              Linux、UNIX、Windows 向け PowerExchange ロggerのウォームスタート中に CDCT ファイルが見つかりませんでした。

システムのアクション：      処理は終了します。

ユーザの応答：              dbmover コンフィギュレーションファイルに CAPT\_PATH 文が定義されている場合、この文で正しいディレクトリが指定されていることを確認します。必要に応じて、バックアップから CDCT ファイルをリストアするか、PowerExchange ロggerをコールドスタートします。

PWX-36940      **ファイル<file\_name>を閉じました。**

説明：              Linux、UNIX、Windows 向け PowerExchange ロggerが指定されたログファイルを閉じました。

システムのアクション：      処理は継続します。

ユーザの応答：              対応する必要はありません。ファイルの詳細については、メッセージ PWX-36941 を参照します。

PWX-36941      **レコード数 *number\_of\_records*。コミット数 *number\_of\_commits*。終了シーケンス *hexadecimal\_sequence\_number*。 [ファイルの中にコミットしていないデータがあります。]**

説明：              このメッセージは、メッセージ PWX-039640 で言及されている、PowerExchange Logger ロgger（Linux、UNIX、Windows 用）の閉じたログファイルに関する統計を示しています。PowerExchange ロggerは、ファイルを閉じる通知を CDCT に送るときに、このメッセージを書き込みます。このメッセージには、レコード総数、コミットされたレコード数、およびログファイルのシーケンス番号（16 進数）から成る統計が表示されます。そのファイルの中にコミットしていないデータがある場合は、メッセージの文面の終わりに「File contains uncommitted data（ファイルにコミットしていないデータあり）」と表記されます。

システムのアクション：      PowerExchange ロggerの処理が続行されます。

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-36942 **キー<cdct\_key>が設定されている CDCT オブジェクトタイプ<object\_type>に対する操作<sql\_operation>が失敗しました。**

説明： Linux、UNIX、Windows 向け PowerExchange ロggerが、失敗した CDCT ファイル内のメタデータを更新しようとしました。

このメッセージでは、

- *sql\_operation* は INSERT、UPDATE、DELETE のいずれかです。
- *object\_type* は INCARNATION、GROUP、REGISTRATION、FILE のいずれかです。

システムのアクション： 処理は終了します。

ユーザの応答： dbmover コンフィギュレーションファイルに CAPT\_PATH 文が定義されている場合、この文で正しいディレクトリが指定されていることを確認します。また、CDCT ファイルに書き込む権限がユーザーにあることを確認します。

PWX-36943 **タイムスタンプが<timestamp>の新しい CDCT インカネーションが作成されました。作成理由<reason>。**

説明： PowerExchange ロggerがコールドスタートされたか、ログリーダーに影響を与えるコンフィギュレーションオプションが変更されたため、PowerExchange ロggerメタデータの新しいインカネーションが CDCT ファイルに作成されました。

システムのアクション： 処理は継続します。

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-36944 **リスタートシーケンス<sequence\_number>が一番最初に利用可能なリスタートシーケンス<sequence\_number>よりも小さくなっています。**

説明： 要求されたリスタートポイントは無効です。

システムのアクション： 処理は終了します。

ユーザの応答： 抽出プロセスのリスタートポイントを修正するか、抽出をコールドスタートします。

PWX-36945 **利用可能な CDCT データがありません。**

説明： Linux、UNIX、Windows 向け PowerExchange ロggerのデータベースインスタンス用 CDCT ファイルが空です。

システムのアクション： 処理は終了します。

ユーザの応答： ログリーダーを起動する前に PowerExchange ロggerを起動します。



PWX-36946	<b>利用可能な CDCT リスタートデータがありません。</b>
説明:	Linux、UNIX、Windows 向け PowerExchange ロgger のデータベースインスタンス用 CDCT ファイルにリスタート情報が含まれていません。
システムのアクション:	処理は終了します。
ユーザの応答:	PowerExchange ロgger を起動してから、ログリーダーを起動する前にデータを処理することを確認します。
PWX-36947	<b>タグ&lt;registration_tag_name&gt;がリスタートポイント&lt;sequence&gt;のロgger インカネーションにありません。</b>
説明:	指定された登録タグ名のテーブルが、PowerExchange ロgger のリスタートポイントに存在した CDC 対象リストにありませんでした。
システムのアクション:	VALIDATEREGS パラメータを CAPX CAPI_CONNECTION 文に設定した方法に応じて、指定の登録の変更データをキャプチャせずに PowerExchange ロgger の処理が続行するか、PowerExchange ロgger の処理が終了します。
ユーザの応答:	PowerExchange Navigator で、登録の【ステータス】が【アクティブ】に設定されていることを確認します。
PWX-36948	<b>ロgger グループ名&lt;group_name&gt;で予想グループで見つかったタグ&lt;registration_tag_name&gt;は&lt;group_name&gt;です。</b>
説明:	指定された登録タグに関連付けられたテーブルは、CDC 対象リストの以前の登録タグと同じグループに記録されていません。
システムのアクション:	処理は終了します。
ユーザの応答:	対象リストのすべてのテーブルが同じ PowerExchange ロgger グループ内にあることを確認します。
PWX-36949	<b>インカネーション&lt;incarnation_record&gt;のレコードが CDCT にありません。</b>
説明:	指定されたインカネーションレコードは、Linux、UNIX、Windows 向け PowerExchange ロgger の CDCT ファイルで見つかりませんでした。PowerExchange ロgger のコールドスタートがインカネーションレコードから削除されている場合があります。
システムのアクション:	処理は終了します。
ユーザの応答:	ロgger リーダーのコールドスタートを試します。
PWX-36950	<b>新しいインカネーションのレコードが CDCT にありません。最後のインカネーションは&lt;incarnation_record_id&gt;でした。</b>
説明:	指定されたインカネーションレコードは、Linux、UNIX、Windows 向け PowerExchange ロgger の CDCT ファイルで見つかりませんでした。このエラーは、PowerExchange ロgger の初期化が失敗したために発生する場合があります。

システムのアクション: 処理は終了します。  
ン:

ユーザの応答: PowerExchange ロggerが実行中であることを確認してから、ロggerを再起動します。

PWX-36951 **リーダーは操作前の画像データを要求しましたが、ロggerが設定したのは操作後の画像のみです。**

説明: CDC セッションの間に、ロggerリーダーが PowerExchange ロgger (Linux、UNIX、Windows) のログファイルに対し、データの操作前の画像を要求しました。しかし、PowerExchange ロggerの CAPT\_IMAGE パラメータが AI (操作後の画像のみ保存する) に設定されているため、ログファイルの中には操作前の画像がありません。このエラーは、リーダーのリスタートポイントで PowerExchange ロggerのイメージタイプとロggerリーダーのタイプが互換性がない場合に発生します。

システムのアクション: CDC セッションを終了します。  
ン:

ユーザの応答: CDC セッションの [Image Type] 接続属性を操作後の画像に対してのみ AI に設定するか、あるいは PowerExchange ロggerの CAPT\_IMAGE パラメータを BA に設定して操作前の画像と操作後の画像の両方をログファイルに保存します。

PWX-36952 **ログファイル<file\_name>がバックアップファイルの作成に使用されていません。理由: reason\_text**

説明: PWXUCDCT ユーティリティから、PowerExchange ロgger (Linux、UNIX、Windows 用) のログファイルに基づいて CDCT バックアップファイルを作成する DERIVE\_CDCT\_BACKUP コマンドが発行されました。しかし、指定されたログファイルが無効か、読み取ることができません。ファイルの権限に問題がある可能性があります。このため、ユーティリティがログファイルを使用してバックアップファイルを作成することができません。

システムのアクション: PWXUCDCT ユーティリティは処理を続行し、CDCT バックアップファイルを作成します。しかし、このバックアップファイルは指定されたログファイルの内容を含みません。

ユーザの応答: このメッセージの reason text にファイルの権限に関するエラーがあると書いてある場合は、エラーを修正してから再度 DERIVE\_CDCT\_BACKUP コマンドを実行してください。

PWX-36959 **タグ「<registration\_name>」がロggerグループ名「<group\_name>」にあります。**

説明: 指定された登録名および関連するソーステーブルが、PowerExchange ロggerのグループ定義ファイルで定義されたとおり、PowerExchange ロgger (Linux、UNIX、Windows 用) の指定されたグループに入っています。PowerExchange ロggerのグループには登録のサブセットが含まれており、これに対して PowerExchange ロggerが、効率を上げるために変更データを別のログファイルセットに書き込みます。

ユーザの応答: 対応する必要はありません。

PWX-36960      **開いたログファイル「<file\_name>」に、削除対象のマークが付きしました。**

説明：                      初期化の間に、開いているログファイルがあることを PowerExchange ロgger（Linux, UNIX, and Windows）が検知しました。これらの開いているログファイルは、PowerExchange Logger の前回失敗したインスタンスがそのまま残った結果である可能性があります。

システムのアクション：      PowerExchange ロggerは、開いたログファイルを削除対象としてマークしてから、新しいログファイルを作成します。処理を続けます。

ユーザの応答：              対応する必要はありません。

PWX-36962      **ログファイル<file\_name>の形式が無効です。reason\_text。**

説明：                      指定した PowerExchange ロgger（Linux、UNIX、Windows 用）のログファイルの形式が無効であるか、破損しています。

システムのアクション：      プロセスタイプに応じて、ログファイルを使用しようとしているプロセスは、終了またはログファイルを無視して続行されます。

ユーザの応答：              *reason text* により権限の問題が示された場合は、権限を修正してからプロセスを再実行してください。

PWX-36965      **ロggerの特殊スタートが発生しました。**

説明：                      次に処理するログファイルの検索中に、PowerExchange で PowerExchange ロgger（Linux、UNIX、Windows 用）の特殊スタートが検出されました。この状況での特殊スタートは、データの損失につながる可能性があります。

システムのアクション：      処理は続きます。

ユーザの応答：              特殊スタートによってデータが損失した場合は、ターゲットテーブルを再度マテリアライズします。

PWX-36966      **暗号化ファイル情報を含む CDCT をリストアするには、暗号化パスワードを指定する必要があります。**

説明：                      PowerExchange ロgger(Linux、UNIX、Windows 用)は、`encryptpwd` パラメータを含む `pwxccl` コマンドを使用してコールドスタートされました。このパラメータには、PowerExchange ロggerログファイルを暗号化するための暗号化パスワードを指定します。パスワードは CDCT ファイルに暗号化形式で格納されます。RESTORE\_CDCT コマンドに暗号化パスワードが指定されなかったため、PWXUCDCT ユーティリティを使用して CDCT ファイルをリストアするその後の試みが失敗しました。CDCT ファイルをリストアするには、暗号化パスワードが必要です。

システムのアクション：      リストア処理は終了します。

ユーザの応答：              RESTORE\_CDCT コマンドに ENCRYPTPWD パラメータを追加して暗号化パスワードを指定してからコマンドを再度実行します。

PWX-36967	<p><b>時間ベースのリスタートのタイムスタンプ</b>  <i>restart_timestamp</i>を開始すると、利用可能な最も早いタイムスタンプ <i>begin_timestamp</i> より前になります。初期の利用可能なデフォルトの値に戻します。</p>
説明:	時間ベースのリスタートに指定されているタイムスタンプが有効ではありません。利用可能な最も早いコミットタイムスタンプより早いからです。抽出処理は利用可能な最も早い日付から再開されます。
システムのアクション:	処理は継続します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-36968	<p><b>時間ベースのリスタートの終了タイムスタンプ</b>  <i>restart_timestamp</i> が、ログ記録されたデータの有効な範囲 <i>begin_timestamp</i> から <i>end_timestamp</i> の範囲外です。</p>
説明:	時間ベースのリスタートのタイムスタンプが有効ではありません。PowerExchange ロガーでキャプチャしてログ記録したデータのコミットタイムスタンプと相互関連していないためです。指定のリスタートタイムスタンプが、ログ記録されたデータの最新のコミットタイムスタンプより後です。変更データの量が小さい場合、範囲の終了タイムスタンプ値に到達する前にリスタートを有効化する必要があります。
システムのアクション:	処理は停止します。
ユーザの応答:	リスタートタイムスタンプを修正します。
PWX-36969	<p><b>CDCT レコードがチェックサムテストに失敗しました。</b></p>
説明:	PowerExchange ロガー CDCT ファイル内のレコードに対する内部 PowerExchange チェックサムテストに失敗しました。CDCT ファイル内のレコードが破損している可能性があります。
システムのアクション:	処理は終了します。
ユーザの応答:	問題が解決しない場合は、CDCT ファイルの一番新しいバックアップを使って CDCT ファイルを復元してください。
PWX-36976	<p><b>複合化キーの生成に失敗しました。</b></p>
説明:	内部エラーにより、ログリーダーは復号化キーを生成できませんでした。暗号化された PowerExchange ロガー(Linux、UNIX、Windows 用)のログファイルを復号化するには、復号化キーが必要です。
システムのアクション:	処理は終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-36977	<b>復号化キーの検証に失敗しました。</b>
説明：	ログリーダーは復号化キーを検証できませんでした。暗号化された PowerExchange ロgger (Linux、UNIX、Windows 用) のログファイルを復号化するには、復号化キーが必要です。PowerExchange ロgger CDCT ファイルが破損しているか、または CDCT リストア操作のための PWXUCDCT ユーティリティの RESTORE_CDCT コマンドに不正な暗号化パスワードが入力された可能性があります。
システムのアクション：	処理は終了します。
ユーザの応答：	PowerExchange ロgger をコールドスタートします。再度問題が発生した場合は、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-36978	<b>キー検証文字列の暗号化に失敗しました。</b>
説明：	暗号化パスワードの確認中に内部エラーが発生しました。ログリーダーはキー検証文字列を暗号化できませんでした。
システムのアクション：	CDC の処理は終了します。
ユーザの応答：	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-36979	<b>このプラットフォームでは、暗号化はサポートされていません。</b>
説明：	PowerExchange ロgger が実行されているオペレーティングシステムで、PowerExchange ロgger (Linux、UNIX、Windows 用) のログファイルの暗号化はサポートされていません。
システムのアクション：	処理は終了します。
ユーザの応答：	PowerExchange ロgger の構成ファイルで暗号化パスワードが指定されている場合は、それを削除して PowerExchange ロgger のログファイルの暗号化を無効にしてください。その後に、encryptpwd パラメータまたは encryptpwd パラメータなしで PowerExchange ロgger をコールドスタートします。
PWX-36980	<b>このプラットフォームでは、複合化はサポートされていません。</b>
説明：	ログファイルが存在するオペレーティングシステムでは、PowerExchange ロgger (Linux、UNIX、Windows 用) のログファイルの複合化はサポートされていません。
システムのアクション：	処理は終了します。
ユーザの応答：	暗号化パスワードを指定しないことによって PowerExchange ロgger のログファイルの暗号化を無効にするか、または復号化をサポートするオペレーティングシステムで抽出処理を実行します。

## 第 6 章

# PWX-37100～PWX-37999

- [PWX-37100～PWX-37999, 526 ページ](#)

## PWX-37100～PWX-37999

PWX-37101	<b>リスナ</b> < <i>listener_name</i> > ASID= <i>address_space_id</i> ( <i>x'hexadecimal_asid</i> ) <b>ユーザー</b> ID= <i>user_id</i>
説明:	この監視メッセージでは、z/OS 上で動作する、指定された PowerExchange リスナのアドレススペースとユーザー ID がレポートされます。このメッセージは、DISPLAYSTATS コマンドまたは DISPLAYSTATS LISTENER コマンドに応じて、または DBMOVER ファイルの STATS 文の MONITOR 間隔に基づいて生成されるリスナレポートの一部です。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-37102	<b>メモリ</b>
説明:	この監視メッセージでは、PowerExchange リスナのメモリ使用量に関する統計情報を示します。このメッセージは、DISPLAYSTATS コマンドまたは DISPLAYSTATS LISTENER コマンドに応じて、または DBMOVER ファイルの STATS 文の MONITOR 間隔に基づいて生成されるリスナレポートの一部です。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-37103	<b>16-MB 行より下の領域: 使用中</b> <i>memory_in_use</i> KB、 <b>制限値</b> <i>memory_limit</i> KB、 <b>空き</b> <i>memory_free</i> KB
説明:	この監視メッセージでは、z/OS 上の PowerExchange リスナのアドレススペースの 16-MB 行より下のメモリ使用量がレポートされます。このメッセージでは、監視統計情報が生成された時点でのメモリの制限および使用中のメモリ量および空き容量がレポートされます。このメッセージは、DISPLAYSTATS コマンドまたは DISPLAYSTATS LISTENER コマンドに応じて、または DBMOVER ファイルの STATS 文の MONITOR 間隔に基づいて生成されるリスナレポートの一部です。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。

PWX-37104	16-MB 行より上の領域: 使用中 <i>memory_in_use</i> KB、制限値 <i>memory_limit</i> KB、空き <i>memory_free</i> KB
説明:	この監視メッセージでは、z/OS 上の PowerExchange リスナのアドレススペースの 16-MB 行より上のメモリ使用量がレポートされます。このメッセージでは、監視統計情報が生成された時点でのメモリの制限および使用中のメモリ量および空き容量がレポートされます。このメッセージは、DISPLAYSTATS コマンドまたは DISPLAYSTATS LISTENER コマンドに応じて、または DBMOVER ファイルの STATS 文の MONITOR 間隔に基づいて生成されるリスナレポートの一部です。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-37105	Memória Total <i>memory_amount</i> KB
説明:	<p>Essa mensagem de monitoramento informa a quantidade total de memória em quilobytes usada por um Ouvinte do PowerExchange ou pelo Agente de Log do PowerExchange para Linux, UNIX e Windows.</p> <p>Se você tiver especificado a instrução STATS (MONITOR) no arquivo de configuração DBMOVER e emitido o comando DISPLAYSTATS ou pwxcmd displaystats do Ouvinte do PowerExchange, essa mensagem será impressa como parte do relatório de estatísticas de resumo do ouvinte. A mensagem indica a quantidade total de memória usada por um Ouvinte do PowerExchange no i5/OS, Linux, zLinux, UNIX, ou Windows e por suas tarefas de cliente.</p> <p>Se você tiver especificado o parâmetro STATS=(MONITOR) (com ou sem o subparâmetro <i>interval</i>) no arquivo de configuração pwxccl.cfg do Agente de Log do PowerExchange para Linux, UNIX e Windows, essa mensagem será emitida quando o Agente de Log do PowerExchange parar em resposta a um comando SHUTDOWN ou SHUTCOND ou no final de uma execução em lote. A mensagem indica a quantidade total de memória usada pelo Agente de Log do PowerExchange.</p> <p><b>注:</b> Se você imprimir estatísticas para um Agente de Log do PowerExchange executado em uma máquina SUSE Linux versão 11, essa mensagem informará incorretamente 0 KB como a quantidade total de memória usada pelo Agente de Log do PowerExchange. Esse problema não ocorrerá se você executar o Agente de Log do PowerExchange em uma versão mais recente do SUSE Linux.</p>
ユーザの応答:	Nenhuma resposta é necessária.
PWX-37106	<b>累積要求</b>
説明:	この監視メッセージでは、PowerExchange リスナで処理されるクライアント要求による累積統計情報を示します。このメッセージは、DISPLAYSTATS コマンドまたは DISPLAYSTATS LISTENER コマンドに応じて、または DBMOVER ファイルの STATS 文の MONITOR 間隔に基づいて生成されるリスナレポートの一部です。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。

PWX-37107	<b>タスクの合計</b> = <i>total_number_tasks</i> <b>アクティブなタスク</b> = <i>active_tasks</i> <b>HWM タスク</b> = <i>high_watermark_tasks</i> <b>最大タスク</b> = <i>maximum_tasks</i>
説明:	<p>この監視メッセージでは、PowerExchange リスナで実行されたか、実行中のクライアントタスクの数がレポートされます。このメッセージの</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>タスクの合計</b>は、PowerExchange リスナの開始後に実行されたクライアントタスクの合計数です。</li> <li>• <b>アクティブなタスク</b>は、現在実行中のタスクの数です。</li> <li>• <b>HWM タスク</b>は、ある時点で PowerExchange リスナで同時に実行されたタスクの最大数です。</li> <li>• <b>最大タスク</b>は、PowerExchange リスナで同時に実行できるタスクの最大数です。この値は、DBMOVER ファイルの MAXTASKS 文で設定されます。</li> </ul> <p><b>ヒント:</b> HWM タスク値が最大タスク値を超えていないことを確認します。HWM タスク値が最大タスクを超えている場合、PowerExchange リスナは追加タスクの処理を受け入れません。</p> <p>このメッセージは、DISPLAYSTATS コマンドまたは DISPLAYSTATS LISTENER コマンドに応じて、または DBMOVER ファイルの STATS 文の MONITOR 間隔に基づいて生成されるリスナレポートの一部です。</p>
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-37108	<b>接続</b> = <i>total_number_of_connections</i> <b>受け入れ済み</b> = <i>number_of_accepted_connections</i> <b>アクティブ</b> = <i>number_of_active_connections</i>
説明:	<p>この監視メッセージでは、クライアント要求の代わりに PowerExchange リスナで処理されたソースまたはターゲットへの接続の合計数がレポートされます。また、これらの統計情報の生成時点で受け入れ済みの接続とアクティブな接続の数もレポートされます。このメッセージは、DISPLAYSTATS コマンドまたは DISPLAYSTATS LISTENER コマンドに応じて、または DBMOVER ファイルの STATS 文の MONITOR 間隔に基づいて生成されるリスナレポートの一部です。</p>
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-37109	<b>送信されたメッセージ</b> = <i>number_of_messages_sent</i> <b>受信されたメッセージ</b> = <i>number_of_messages_received</i>
説明:	<p>この監視メッセージでは、PowerExchange リスナで実行されたクライアントタスクに対して PowerExchange によって送受信されたメッセージの数がレポートされます。このメッセージは、DISPLAYSTATS コマンドまたは DISPLAYSTATS LISTENER コマンドに応じて、または DBMOVER ファイルの STATS 文の MONITOR 間隔に基づいて生成されるリスナレポートの一部です。</p>
ユーザの応答:	対応する必要はありません。



PWX-37110	<b>送信されたデータ=bytes_sent受信されたデータ=bytes_received</b>
説明:	この監視メッセージでは、PowerExchange リスナで実行されたクライアントタスクに対して PowerExchange によって送受信されたデータのバイト数がレポートされます。このメッセージは、DISPLAYSTATS コマンドまたは DISPLAYSTATS LISTENER コマンドに応じて、または DBMOVER ファイルの STATS 文の MONITOR 間隔に基づいて生成されるリスナレポートの一部です。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-37111	<b>Netport ジョブ=number_of_jobs</b>
説明:	この監視メッセージでは、z/OS 上の PowerExchange リスナで処理される Netport ジョブの数がレポートされます。このメッセージは、DISPLAYSTATS コマンドまたは DISPLAYSTATS LISTENER コマンドに応じて、または DBMOVER ファイルの STATS 文の MONITOR 間隔に基づいて生成されるリスナレポートの一部です。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-37112	<b>アクティブなタスク</b>
説明:	この監視メッセージでは、PowerExchange リスナで実行中のアクティブなクライアントタスクの統計情報がレポートされます。このメッセージは、DISPLAYSTATS CLIENTS コマンドに応じて生成されるクライアントレポートの一部です。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-37113	<b>タスク ID=task_identifierステータス= status</b>
説明:	<p>この監視メッセージでは、PowerExchange リスナで実行されるアクティブなクライアントタスクのタスク ID およびステータスがレポートされます。アクティブなタスクの場合、ステータスは以下の値のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• アクティブ</li> <li>• 確認済み STOPTASK</li> <li>• 設定された STOPTASK</li> </ul> <p>このメッセージは、DISPLAYSTATS CLIENTS コマンドに応じて生成されるクライアントレポートの一部です。</p>
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-37114	<b>ポート=port_numberパートナー=ip_address</b>
説明:	<p>この監視メッセージでは、アクティブなタスクを作成する原因となった要求を PowerExchange リスナに送信したクライアントの TCP/IP ポート番号および IP アドレスがレポートされます。[パートナー] フィールドでは、クライアントの IP アドレスがレポートされます。「::ffff」で始まるアドレスは IPv6 アドレスです。このメッセージは、DISPLAYSTATS CLIENTS コマンドに応じて生成されるクライアントレポートの一部です。</p>
ユーザの応答:	対応する必要はありません。

PWX-37115	PowerCenter <b>セッション</b> = <i>session_id</i>
説明:	クライアントタスクが PowerCenter セッションに関連付けられている場合、この監視メッセージでは PowerCenter セッションの ID が形式 <i>integration_service/workflow_name/session_name</i> でレポートされます。それ以外の場合は、このメッセージが「N/A」と表示されます。このメッセージは、DISPLAYSTATS CLIENTS コマンドに応じて生成されるクライアントレポートの一部です。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-37116	<b>アクセス方式</b> = <i>access_method</i> <b>モード</b> = <i>mode</i> <b>プロセス</b> = <i>process_name</i> <b>セッション ID</b> = <i>session_id</i>
説明:	<p>この監視メッセージでは、PowerExchange リスナで実行されるアクティブなクライアントタスクの以下の情報がレポートされます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>アクセス方式</b>。クライアントタスクでクライアント要求の代わりにデータを処理するために使用する、アクセス方式またはソースタイプ。</li> <li>• <b>モード</b>。タスクが使用するデータ要求モードで、以下のいずれかの値になります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>- 読み取り</li> <li>- 書き込み</li> </ul> </li> <li>• <b>プロセス</b>。PowerExchange リスナでクライアント要求への対応を開始するプロセス名（該当する場合）。</li> <li>• <b>セッション ID</b>。クライアント要求に対してオプションで定義されるセッション ID（該当する場合）。この値は主に DB2 へのアクセスに対するクライアント要求に関連しています。PowerCenter を PowerExchange Client for PowerCenter (PWXPC) と一緒に使用する場合、この値は DBMOVER 構成ファイルの SESSID 文、または PWXPC DB2 Batch 接続の<b>相関 ID</b> オーバーライド属性で指定された相関 ID になります。ODBC 接続の場合、DTLSESSID SQL エスケープシーケンスが定義されている場合、その値になる場合があります。</li> </ul> <p>このメッセージは、DISPLAYSTATS CLIENTS コマンドに応じて生成されるクライアントレポートの一部です。</p>
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-37117	<b>CPU 時間</b>
説明:	この監視メッセージでは、PowerExchange リスナの CPU 処理時間に関する統計情報を示します。このメッセージは、DISPLAYSTATS コマンドまたは DISPLAYSTATS LISTENER コマンドに応じて、または DBMOVER ファイルの STATS 文の MONITOR 間隔に基づいて生成されるリスナレポートの一部です。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。

PWX-37118      **TCB 時間= *cpu\_time* SRB 時間= *cpu\_time* zIIP の正規化時間= *zIIP\_normalized\_time***

説明：      このメッセージでは、z/OS 上の PowerExchange リスナのアドレススペース内のタスク制御ブロック（TCB）およびサービス要求ブロック（SRB）で使用される CPU 処理時間がレポートされます。System z Integrated Information Processor（zIIP）を使用していて、DBMOVER 構成ファイル内の USESUP 文を「Y」に設定した場合、このメッセージでは PowerExchange リスナおよびそのクライアントタスクで使用される zIIP の正規化時間もレポートされます。zIIP の正規化時間は、CP と zIIP プロセッサの間の速度の差を調整するための CPU 時間です。このメッセージは、DISPLAYSTATS コマンドまたは DISPLAYSTATS LISTENER コマンドに応じて、または DBMOVER ファイルの STATS 文の MONITOR 間隔に基づいて生成されるリスナレポートの一部です。

ユーザの応答：      対応する必要はありません。

PWX-37119      **リスナ= *cpu\_time***

説明：      この監視メッセージでは、PowerExchange リスナによって使用される CPU 処理時間がレポートされます。時間は、必要に応じて、時間、分、秒、およびマイクロ秒で表現されます。このメッセージは、DISPLAYSTATS コマンドまたは DISPLAYSTATS LISTENER コマンドに応じて、または DBMOVER ファイルの STATS 文の MONITOR 間隔に基づいて生成されるリスナレポートの一部です。

ユーザの応答：      対応する必要はありません。

PWX-37120      **アクティブなタスクがありません**

説明：      この監視メッセージでは、PowerExchange リスナで実行中のアクティブなタスクがないことがレポートされます。その結果、タスクに固有の統計情報はレポートされません。このメッセージは DISPLAYSTATS ACCESSMETHODS コマンドまたは DISPLAYSTATS CLIENTS コマンドに応じて発行されます。

ユーザの応答：      対応する必要はありません。

PWX-37121      **CPU 時間= *hours, minutes, seconds, microseconds***

説明：      この監視メッセージでは、PowerExchange リスナで実行されるアクティブなクライアントタスク、または特定のアクセス方式を使用するアクティブなクライアントタスクの CPU 処理時間がレポートされます。このメッセージは、DISPLAYSTATS ACCESSMETHODS コマンドまたは DISPLAYSTATS CLIENTS コマンドに応じて生成されるレポートの一部です。

ユーザの応答：      対応する必要はありません。

PWX-37122      **開始時間= *start\_date\_time***

説明：      この監視メッセージでは、PowerExchange リスナで実行されるアクティブなクライアントタスクの開始日時がレポートされます。この値は、YYYY-MM-DD HH:MM:SS の形式です。このメッセージは、DISPLAYSTATS CLIENTS コマンドに応じて生成されるクライアントレポートの一部です。

ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-37123	<b>終了時間</b> = <i>end_time</i>
説明：	この監視メッセージでは、終了日時がレポートされます。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-37129	<b>プロセス</b> <i>process_name</i> の MONITOR 統計が無効になりました
説明：	MONITOR パラメータは、PowerExchange リスナの監視統計を生成するために DBMOVER ファイルの STATS 文で指定します。これらの統計は、PowerExchange ユーティリティのプロセス、PowerExchange ロgger (Linux、UNIX、Windows 用) プロセスなどの構成ファイルを使用する他のプロセスに対しては生成されません。このメッセージは、監視統計が生成されない特定のプロセスの名前を識別します。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-37130	PWXCCL pid = <i>process_id</i> Writer <b>ステータス</b> = <i>status</i>
説明：	<p>この監視メッセージでは、PowerExchange ロgger (Linux、UNIX、Windows 用) のプロセス ID (PID) と、PowerExchange ロgger の Writer サブタスクのステータスを報告します。<i>status</i> 変数は、次の値のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ソースデータの読み取りまたは待機</li> <li>• スリープ</li> <li>• ファイルへの書き込み</li> <li>• 未開始</li> <li>• 初期化中</li> <li>• CAPI を初期化中</li> <li>• プロセスの開始</li> <li>• チェックポイントの開始</li> <li>• チェックポイントファイルの書き込み</li> <li>• シャットダウン</li> <li>• 終了済み</li> </ul> <p>このメッセージは、PowerExchange ロgger の DL (または DS) コマンドまたは <code>pwxcmd displaystats -tp logger</code> コマンドによって生成されたレポートに含まれます。また、STATS=(MONITOR)パラメータを PowerExchange ロgger 構成ファイル (<code>pwxccl.cfg</code>) で指定した場合、SHUTCOND または SHUTDOWN コマンドによって PowerExchange ロgger が停止したとき、あるいはバッチ実行の最後に、このメッセージが発行されます。<i>interval</i> サブパラメータは使用してもしなくてもかまいません。</p>
ユーザの応答：	対応する必要はありません。

PWX-37131

### メモリ (現在/合計/最大)

説明:

このメッセージは、PowerExchange ロgger (Linux、UNIX、Windows 用) タスクによって使用されるメモリの監視統計を説明します。以下のカテゴリに費やされるメモリ使用量が報告されます。

- 現在。タスクが現在使用しているメモリの量。
- 合計。タスクおよび関連するヘッダーオーバーヘッドによって使用されているメモリの量。この値は、PowerExchange ロgger 処理中の、メモリの動的な割り当てや解放により変動します。
- 最大。監視統計が生成されるまでに、"合計"カテゴリに記録されたメモリの最大量。

このメッセージは、PowerExchange ロgger の DL (または DS) コマンドまたは `pwxcmd displaystats -tp logger` コマンドによって生成されたレポートに含まれます。また、`STATS=(MONITOR,interval)` パラメータを PowerExchange ロgger 構成ファイル (`pwxccl.cfg`) で指定した場合、指定した間隔が終了すると、このメッセージが発行されます。`STATS=(MONITOR)` パラメータを指定した場合、SHUTDOWN または SHUTCOND コマンドによって PowerExchange ロgger が停止したとき、あるいはバッチ実行の最後に、このメッセージが発行されます。`interval` サブパラメータは使用してもしなくてもかまいません。

**注:** このメッセージは、STATS の間隔に基づいて発行される場合、`detail.log` ファイルにのみ書き込まれ、コンピュータのコンソール画面には出力されません。

ユーザの応答:

対応する必要はありません。

PWX-37132

### コントローラ: (*current/total/maximum*) KB コマンドハンドラ: (*current/total/maximum*) KB Writer: (*current/total/maximum*) KB

説明:

この監視メッセージは、PowerExchange ロgger のコントローラタスク、コマンドハンドラタスク、および Writer タスクによって使用されるメモリを報告します。次のカテゴリで、各タスクのメモリ使用量が報告されます。

- 現在タスクが現在使用しているメモリの量。
- 合計タスクおよび関連するヘッダーオーバーヘッドによって使用されているメモリの量。この値は、PowerExchange ロgger 処理中の、メモリの動的な割り当てや解放により変動します。
- 最大。監視統計が生成されるまでに、"合計"カテゴリに記録されたメモリの最大量。

このメッセージは、PowerExchange ロgger の DL (または DS) コマンドまたは `pwxcmd displaystats -tp logger` コマンドによって生成されたレポートに含まれます。また、`STATS=(MONITOR,interval)` パラメータを PowerExchange ロgger 構成ファイル (`pwxccl.cfg`) で指定した場合、指定した間隔が終了すると、このメッセージが発行されます。`STATS=(MONITOR)` パラメータを指定した場合、SHUTDOWN または SHUTCOND コマンドによって PowerExchange ロgger が停止したとき、あるいはバッチ実行の最後に、このメッセージが発行されます。`interval` サブパラメータは使用してもしなくてもかまいません。

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-37134 CPU 時間= *logger\_cpu\_time*

説明： この監視メッセージは、PowerExchange ロgger（Linux、UNIX、Windows 用）が使用した CPU 時間を報告します。CPU 時間は、hh:mm:ss:nnnnnnnn（nnnnnnnn はミリ秒）の形式です。このメッセージは、DL（または DS）コマンドまたは *pwxcmd displaystats -tp logger* コマンドによって生成されたレポートに含まれます。STATS=(MONITOR)パラメータを PowerExchange ロgger構成ファイル（*pwxccl.cfg*）で指定した場合、SHUTDOWN または SHUTCOND コマンドによって PowerExchange ロggerが停止したとき、あるいはバッチ実行の最後にも、このメッセージが発行されます。オプションの *interval* サブパラメータは使用してもしなくてもかまいません。

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-37135 **ステータス** *logger\_process\_id* 合計 *I=inserts U=updates D=deletes C=commits* 合計=*total\_operations*

説明： この監視メッセージは、指定された PowerExchange ロgger（Linux、UNIX、Windows 用）プロセスの Writer サブタスクが、開始以降処理した、挿入、更新、削除、およびコミットの数と、これらの操作すべての合計数を報告します。このメッセージは、PowerExchange ロggerの DL（または DS）コマンドあるいは *pwxcmd displaystats -tp logger* コマンドによって生成されたレポートに含まれます。また、STATS=(MONITOR,*interval*)パラメータを PowerExchange ロgger構成ファイル（*pwxccl.cfg*）で指定した場合、指定した間隔が終了すると、このメッセージが発行されます。STATS=(MONITOR)パラメータを指定した場合、SHUTDOWN または SHUTCOND コマンドによって PowerExchange ロggerが停止したとき、あるいはバッチ実行の最後に、このメッセージが発行されます。*interval* サブパラメータは使用してもしなくてもかまいません。

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-37136 CurrFileOpened: *open\_time* *I=inserts U=updates D=deletes C=commits* 合計=*total\_operations*

説明： この監視メッセージは、PowerExchange ロgger（Linux、UNIX、Windows 用）の Writer サブタスクが、現在開いているロggerログファイルに書き込んだ挿入、更新、削除、およびコミットの数と、これらの操作すべての合計数を報告します。このメッセージには、ロggerログファイルが開いた時間を示すタイムスタンプも含まれます。このメッセージは、PowerExchange ロggerの DL（または DS）コマンドあるいは *pwxcmd displaystats -tp logger* コマンドによって生成されたレポートに含まれます。また、STATS=(MONITOR,*interval*)パラメータを PowerExchange ロgger構成ファイル（*pwxccl.cfg*）で指定した場合、指定した間隔が終了すると、このメッセージが発行されます。STATS=(MONITOR)パラメータを指定した場合、SHUTDOWN または SHUTCOND コマンドによって PowerExchange ロggerが停止したとき、あるいはバッチ実行の最後に、このメッセージが発行されます。*interval* サブパラメータは使用してもしなくてもかまいません。

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-37137      **アクティブサイクル:** *cycle\_time* *I=inserts* *U=updates*  
*D=deletes* *C=commits* **合計**=*total\_operations*

説明：      この監視メッセージは、PowerExchange ロgger（Linux、UNIX、Windows 用）の Writer サブタスクが現在アクティブなロギングサイクル中に処理した挿入、更新、削除、およびコミットの数と、これらの操作すべての合計数を報告します。このメッセージには、アクティブなロギングサイクルが開始した時間を示すタイムスタンプも含まれます。このメッセージは、PowerExchange ロggerの DL（または DS）コマンドあるいは `pwxcmd displaystats -tp logger` コマンドによって生成されたレポートに含まれます。また、`STATS=(MONITOR,interval)` パラメータを PowerExchange ロgger 構成ファイル（`pwxccl.cfg`）で指定した場合、指定した間隔が終了すると、このメッセージが発行されます。`STATS=(MONITOR)` パラメータを指定した場合、SHUTDOWN または SHUTCOND コマンドによって PowerExchange ロggerが停止したとき、あるいはバッチ実行の最後に、このメッセージが発行されます。*interval* サブパラメータは使用してもしなくてもかまいません。

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-37138      **グループ:** *group\_name* **登録**=*number\_of\_registrations*  
*IUD=total\_dml\_changes* *C=commits* **未フラッシュ**  
*=unflushed\_change\_records*

説明：      この監視メッセージは、PowerExchange ロggerグループ定義に対する PowerExchange ロgger（Linux、UNIX、Windows 用）の処理の統計を報告します。グループ定義では、登録されているソーステーブルのグループに対して、PowerExchange ロggerログファイルの個別のセットを定義します。このメッセージでは、グループに関する次の統計を報告します。

- グループ名およびグループ内のキャプチャ登録数
- グループに対して PowerExchange ロggerが処理した挿入、更新、および削除レコードの合計数
- グループに対して PowerExchange ロggerが処理したコミットの数
- メモリからディスク上のログファイルに PowerExchange ロggerがまだフラッシュしていない変更レコードの数

定義されているグループ定義がない場合、すべての登録を 1 つのグループとして扱った統計がこのメッセージで報告されます。

このメッセージは、PowerExchange ロggerの DG コマンドまたは `pwxcmd displaystats -tp groups` コマンドによって生成されたレポートに含まれます。

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-37139	<code>FirstRec=record_timestamp</code> <b>ファイルオープン</b> <code>=log_file_name</code>
説明:	このメッセージは、指定された開いている PowerExchange ロgger ログファイルの最初のレコードのタイムスタンプを報告します。このメッセージは、PowerExchange ロgger の DG コマンドまたは <code>pwxcmd displaystats -tp groups</code> コマンドによって生成されたレポートに含まれます。PowerExchange ロgger グループ定義が定義されている場合、各登録グループのこの情報がこのメッセージで報告されます。定義されている PowerExchange ロgger グループ定義がない場合、すべての登録を 1 つのグループとして扱ったこの情報がこのメッセージで報告されます。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-37140	<code>BeginSeq=begin_record_sequence_token</code> <code>BeginRstr</code> <code>=begin_record_restart_token</code>
説明:	このメッセージは、開かれている PowerExchange ロgger ログファイル内の最も古いレコードのシーケンストークンおよびリスタートトークンを報告します。このメッセージは、PowerExchange ロgger の DG コマンドまたは <code>pwxcmd displaystats -tp groups</code> コマンドによって生成されたレポートに含まれます。PowerExchange ロgger グループ定義が定義されている場合、各登録グループのこの情報がこのメッセージで報告されます。定義されている PowerExchange ロgger グループ定義がない場合、すべての登録を 1 つのグループとして扱ったこの情報がこのメッセージで報告されます。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-37141	<code>LastSeq=last_record_sequence_token</code>
説明:	このメッセージは、開かれている PowerExchange ロgger ログファイル内の、後にコミットレコードが続かない最終変更レコードのシーケンストークンを報告します。ログファイルにコミットされていないデータが含まれる場合に、この値が報告されます。このメッセージは、PowerExchange ロgger の DG コマンドまたは <code>pwxcmd displaystats -tp groups</code> コマンドによって生成されたレポートに含まれます。PowerExchange ロgger グループ定義が定義されている場合、各登録グループのこの情報がこのメッセージで報告されます。定義されている PowerExchange ロgger グループ定義がない場合、すべての登録を 1 つのグループとして扱ったこの情報がこのメッセージで報告されます。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。



PWX-37142	<code>CommitSeq=last_commit_sequence_token</code> <code>CommitRstr=last_commit_restart_token</code>
説明:	このメッセージは、開かれている PowerExchange ロgger ログファイル内の最終コミットレコードのシーケンストークンおよびリスタートトークンを報告します。このメッセージは、PowerExchange ロgger の DG コマンドまたは <code>pwxcmd displaystats -tp groups</code> コマンドによって生成されたレポートに含まれます。PowerExchange ロgger グループ定義が定義されている場合、各登録グループのこの情報がこのメッセージで報告されます。定義されている PowerExchange ロgger グループ定義がない場合、すべての登録を 1 つのグループとして扱ったこの情報がこのメッセージで報告されます。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-37200	<b>監視間隔スレッドが開始されています。間隔は <code>number_of_minutes</code> 分です</b>
説明:	DBMOVER 構成ファイルの STATS 文で指定されている MONITOR 間隔に基づいて、PowerExchange リスナの監視スレッドが開始されています。PowerExchange リスナのメモリ使用量、CPU 処理時間、およびクライアント要求に関するサマリ統計が含まれる監視メッセージがレポートされます。このメッセージ出力は、DISPLAYSTATS LISTENER コマンドによる出力と同じです。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-37201	<b>アクティブなアクセス方式</b>
説明:	この監視メッセージでは、アクセス方式ごとのアクティブなクライアントタスクの統計情報がレポートされます。このメッセージは、DISPLAYSTATS ACCESSMETHODS コマンドによって生成されるアクセス方式レポートの一部です。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-37202	<b>タスク ID=<code>task_id</code>、アクセス方式=<code>access_method</code>、タスクスロット=<code>task_slot_number</code>、[Metadata Request] [*Persistent Task*]</b>
説明:	この監視メッセージは、クライアント要求およびタスクが使用するアクセス方式とタスクスロット番号に対して PowerExchange リスナが作成するアクティブなクライアントタスクを識別します。クライアントタスクでは複数のアクセス方式を使用できます。例えば、ソースデータの読み取りと、非リレーショナルソースデータのリレーショナル形式へのマッピングに、異なるアクセス方式を使用できます。このメッセージには、タスクがメタデータの要求を処理する場合は "Metadata Request" というテキストが含まれ、タスクが Adabas、Datacom、または IDMS の永続タスクの場合は "*Persistent Task*" というテキストが含まれます。このメッセージは、一意のタスク ID とアクセス方式の組み合わせごとにレポートされます。このメッセージは、DISPLAYSTATS ACCESSMETHODS コマンドによって生成されるアクセス方式レポートの一部です。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。

PWX-37203	<b>読み取られた行数= <i>rows_read</i>書き込まれた行数= <i>rows_written</i></b>
説明:	この監視メッセージでは、アクティブなクライアントタスクで特定のアクセス方法を使用することによって読み取りおよび書き込みを行う行数がレポートされます。タスク ID およびアクセス方式は、前述の PWX- 37202 メッセージで指定されます。このメッセージは、DISPLAYSTATS ACCESSMETHODS コマンドによって生成されるアクセス方式レポートの一部です。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-37204	<b>読み取られたバイト数= <i>bytes_read</i>書き込まれたバイト数= <i>bytes_written</i></b>
説明:	この監視メッセージでは、アクティブなクライアントタスクで特定のアクセス方法を使用することによって読み取りおよび書き込みを行うデータのバイト数がレポートされます。タスク ID およびアクセス方式は、前述の PWX- 37202 メッセージで指定されます。このメッセージは、DISPLAYSTATS ACCESSMETHODS コマンドによって生成されるアクセス方式レポートの一部です。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-37205	<b>ファイル= <i>file_name</i></b>
説明:	この監視メッセージでは、アクセス方式に応じて、ソースまたはターゲットのファイルの名前、またはデータマップファイルの名前がレポートされます。たとえば、クライアントタスクで NRDB アクセス方式を使用して非リレーショナルソースをリレーショナル形式にマッピングできます。この場合、ファイル値がデータマップ名です。同じクライアントタスクで SEQ アクセス方式を使用して、ソースシーケンシャルデータセットを読み取ることができます。この場合、ファイル値がシーケンシャルデータセット名です。タスク ID およびアクセス方式は、前述の PWX- 37202 メッセージで識別されます。このメッセージは、DISPLAYSTATS ACCESSMETHODS コマンドによって生成されるアクセス方式レポートの一部です。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-37206	<b>テーブル= <i>table_name</i></b>
説明:	この監視メッセージでは、クライアントタスクが特定のアクセス方式を使用してアクセスするソースまたはターゲットのテーブルの名前がレポートされます。タスク ID およびアクセス方式は、前述の PWX- 37202 メッセージで識別されます。このメッセージは、DISPLAYSTATS ACCESSMETHODS コマンドによって生成されるアクセス方式レポートの一部です。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。

PWX-37207	<b>アプリケーション</b> = <i>application_name</i>
説明:	クライアントタスクが、ODBC 接続を使用する PowerCenter CDC セッションに関連付けられている場合、この監視メッセージではセッションのアプリケーション名がレポートされます。それ以外の場合は、このメッセージが「N/A」と表示されます。このメッセージは、DISPLAYSTATS CLIENTS コマンドに応じて生成されるクライアントレポートの一部です。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-37208	<b>挿入数</b> = <i>number_of_inserts</i> <b>更新数</b> = <i>number_of_updates</i> <b>削除数</b> = <i>number_of_deletes</i>
説明:	この監視メッセージでは、クライアントタスクで CDC セッションに対して処理される SQL 挿入、SQL 更新、および SQL 削除の数がレポートされます。このメッセージは、CAPX アクセス方式または CAPXRT アクセス方式を使用する CDC タスクに対してレポートされます。このメッセージは、DISPLAYSTATS ACCESSMETHODS レポート内に表示されます。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-37305	<b>LDAP API からエラーが返されました: 戻りコード</b> = <i>ldap_return_code</i> , <i>ldap_error</i> .
説明:	LDAP API は、表示の戻りコードとエラーメッセージを返しました。
システムのアクション:	LDAP サインオンに失敗します。
ユーザの応答:	PowerExchange 設定、LDAP 設定、およびユーザー資格情報を確認します。
PWX-37306	<b>LDAP_BIND_EPWD の復号化に失敗しました。</b>
説明:	LDAP サーバーは、LDAP 検索ユーザーの暗号化されたパスワードの復号化に失敗しました。
システムのアクション:	起動時のエラーで処理が停止します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。エラー時に実行されていた関数を示します。
PWX-37307	<b>LDAP サーバーは追加のエラー情報を送信しました:</b> <i>error_message</i> .
説明:	LDAP サインオン中に、LDAP サーバーは記載されているエラーメッセージを返しました。
システムのアクション:	LDAP サインオンは失敗します。
ユーザの応答:	エラーメッセージを確認し、PowerExchange と LDAP の構成およびユーザーの資格情報をチェックしてください。

PWX-37308	<b>LDAP 部分一致: 既存のエントリ <i>matched_msg</i> と一致する DN 部分。</b>
説明:	DBMOVER 構成ファイルの LDAP_BIND_DN 文で指定される識別名 (DN) は、LDAP のエントリの一部に一致しました。
システムのアクション:	LDAP サインオンは失敗します。
ユーザの応答:	エラーメッセージに指定されている既存のエントリを確認し、PowerExchange と LDAP の構成およびユーザーの資格情報をチェックしてください。
PWX-37309	<b>LDAP_TLS EPASS の復号化に失敗しました。</b>
説明:	DBMOVER 構成ファイルの LDAP_TLS 文の EPASS パラメータで指定されたパスフレーズを復号化する際に PowerExchange でエラーが発生しました。
システムのアクション:	PowerExchange リスナが起動時に DBMOVER 構成ファイルを読み込んでエラーメッセージを発行した後に処理が終了します。
ユーザの応答:	LDAP_TLS 文の EPASS パラメータが暗号化されたパスフレーズに対して有効な値に設定されていることを確認します。
PWX-37310	<b>PASS および EPASS がいずれも LDAP_TLS に指定されていません。指定できるのは 1 つだけです。</b>
説明:	PASS パラメータと EPASS パラメータは、ともに DBMOVER 構成ファイルの LDAP_TLS 文で指定されます。これらのパラメータは、いずれか一方しか指定できません。
システムのアクション:	PowerExchange リスナが起動時に DBMOVER 構成ファイルを読み込んでエラーメッセージを発行した後に処理が終了します。
ユーザの応答:	PASS パラメータと EPASS パラメータの両方ではなく一方を指定するように DBMOVER 構成ファイルの LDAP_TLS 文を編集します。
PWX-37311	<b>LDAP_BIND_PWD および LDAP_BIND_EPWD がいずれも指定されています。指定できるのは 1 つだけです。</b>
説明:	LDAP_BIND_PWD 文と LDAP_BIND_EPWD 文は、ともに DBMOVER 構成ファイルで指定されます。
システムのアクション:	処理は、PowerExchange が起動時にエラーメッセージを発行した後に終了します。
ユーザの応答:	DBMOVER 構成ファイルを編集して、LDAP_BIND_PWD または LDAP_BIND_EPWD の両方ではなく一方を指定します。
PWX-37313	<b>LDAP クライアントライブラリをロードまたは初期化できませんでした。</b>
説明:	LDAP クライアント実装をロードできませんでした。
システムのアクション:	処理はスタートアップ中に終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにエラーを報告してください。エラー時に実行されている関数を示します。

PWX-37315	<b>CAPATH オプションと CAFILE オプションの両方が指定されています。指定できるのは 1 つだけです。</b>
説明:	CAPATH=オプションと CAFILE=オプションの両方が DBMOVER 構成ファイルの LDAP_OPENSSL 文で指定されています。
システムのアクション:	処理はスタートアップ中に終了します。
ユーザの応答:	DBMOVER 構成ファイルの LDAP_OPENSSL 文を編集し、CAPATH=か CAFILE=のいずれか一方のみを指定します。
PWX-37316	<b>CERTFILE オプションと KEYFILE オプションの両方を指定する必要があります。</b>
説明:	LDAP クライアントを認証する LDAP サーバーの場合、CERTFILE=オプションと KEYFILE=オプションの両方を DBMOVER 構成ファイルの LDAP_OPENSSL 文で指定する必要があります。
システムのアクション:	処理はスタートアップ中に終了します。
ユーザの応答:	DBMOVER 構成ファイルの LDAP_OPENSSL 文を編集し、CERTFILE=パラメータと KEYFILE=パラメータの両方を指定します。
PWX-37317	<b>CAPATH オプションか CAFILE オプションのいずれかを指定する必要があります。</b>
説明:	LDAP サーバーを認証する LDAP クライアントの場合、CAPATH=オプションか CAFILE=オプションのいずれかを DBMOVER 構成ファイルの LDAP_OPENSSL 文で指定する必要があります。
システムのアクション:	処理はスタートアップ中に終了します。
ユーザの応答:	CA の場所を指定するため、DBMOVER 構成ファイルで LDAP_OPENSSL 文を編集し、CAPATH=パラメータか CAFILE=パラメータのいずれかを指定します。
PWX-37318	<b>プライベートキーファイル <i>key_file</i> の読み取りまたは解読に失敗しました。SSL 戻りコード=<i>return_code</i></b>
説明:	OpenSSL がキーファイルの読み取りまたは（パスフレーズが指定されている場合は）解読に失敗しました。
システムのアクション:	LDAP サインオンに失敗します。
ユーザの応答:	DBMOVER 構成ファイルの LDAP_OPENSSL 文で指定されている LDAP キーファイルとパスフレーズを確認します。
PWX-37319	<b>証明書ファイル <i>file_name</i> の読み取りに失敗しました。SSL 戻りコード=<i>ssl_return_code</i></b>
説明:	OpenSSL がクライアント証明書ファイルの読み取りに失敗しました。
システムのアクション:	LDAP サインオンに失敗します。
ユーザの応答:	DBMOVER 構成ファイルの LDAP_OPENSSL 文の CERTFILE パラメータで指定されている LDAP 証明書ファイル名を確認します。

PWX-37400	<i>message_information</i>
説明:	この汎用メッセージは情報テキストや前のメッセージの詳細を記載しています。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。前のメッセージに関連する場合は、そのメッセージを参照してください。
PWX-37401	<b>内部エラー: <i>number_of_bytes</i> バイトのストレージ (<i>buffer_tag</i>) を取得できません。</b>
説明:	PowerExchange は MySQL 変更データキャプチャに十分なストレージを割り当てることができませんでした。
システムのアクション:	キャプチャプロセスが終了します。
ユーザの応答:	リソースの制約を確認します。
PWX-37402	<b>MySQL サーバ <i>server_name</i> への ODBC 接続に失敗しました。ユーザー <i>user_name</i> とパスワード <i>password</i> で接続を試みました。</b>
説明:	MySQL サーバへの ODBC 接続は、指定したユーザー名およびパスワードの下で確立できませんでした。エラーの詳細については、前の ODBC メッセージを参照してください。
システムのアクション:	キャプチャプロセスが終了します。
ユーザの応答:	正しい MySQL サーバが指定されていること、サーバがオンラインであり接続を受け付けていることを確認します。指定したユーザー資格情報にサーバへ接続する権限があることを確認します。
PWX-37403	<b>CAPI 接続パラメータ <i>parameter_name</i> に誤った値 <i>parameter_value</i> があります。</b>
説明:	DBMOVER 構成ファイルにある MYSQL CAPI_CONNECTION 文に、有効でないパラメータ値が含まれています。このメッセージでは、無効なパラメータ値を特定しています。
システムのアクション:	キャプチャプロセスが終了します。
ユーザの応答:	パラメータ値を修正します。詳細については、『 <i>PowerExchange Reference Manual</i> 』の MYSQL CAPI_CONNECTION の説明を参照してください。
PWX-37404	<b>登録タグ <i>tag_name</i> には、複数のアクティブなキャプチャ登録が存在します。</b>
説明:	PowerExchange CDC で、同じ登録タグ名のアクティブなキャプチャ登録を複数検出しました。各登録のタグ名は一意である必要があります。問題は登録リポジトリに存在する可能性があります。
システムのアクション:	キャプチャプロセスが終了します。

ユーザの応答：	PowerExchange Navigator で、異常な登録を非アクティブ化します。それから Informatica グローバルカスタマサポートに問題を報告します。
PWX-37405	<b>ノード <i>node_name</i> の作業セッションのロードに失敗しました。</b>
説明：	MySQL CDC の処理中、指定のノードから作業セッションをロードしようとしたが失敗しました。
システムのアクション：	キャプチャプロセスが終了します。
ユーザの応答：	ノード名が正しいこと、PowerExchange リスナがそのノードで動作していることを確認します。
PWX-37406	<b>ノード <i>node_name</i> からのキャプチャ登録のロードに失敗しました。</b>
説明：	指定のノードから MySQL キャプチャ登録をロードしようとしたが失敗しました。
システムのアクション：	キャプチャプロセスが終了します。
ユーザの応答：	エラーの原因を特定するには、ロードタスクのログファイルとノードで動作する PowerExchange リスナのログファイルを確認します。問題が解決しない場合は、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-37407	<b>ノード <i>node_name</i> には、MySQL のキャプチャ登録が含まれていません。</b>
説明：	指定のノードに MySQL ソースのキャプチャ登録が含まれていないか、ノードへの接続が確立できません。
システムのアクション：	キャプチャプロセスが終了します。
ユーザの応答：	正しいノードが使用されていること、MySQL キャプチャ登録が含まれていることを確認します。
PWX-37408	<b>内部エラー: 予期しないデータタイプ <i>datatype</i> (カラム <i>column_name</i>、テーブル <i>owner.table_name</i>) です。</b>
説明：	指定の MySQL テーブルのキャプチャ登録に、PowerExchange CDC が処理できないカラムデータ型が含まれています。
システムのアクション：	キャプチャプロセスが終了します。
ユーザの応答：	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-37409	<b>BinLogRdr エラー: <i>error_message_text</i></b>
説明：	PowerExchange BinLogRdr ライブラリ（バイナリログを読み取る <code>mysqlbinlog</code> ユーティリティを呼び出す）で、この形のエラーが発生しました。

システムのアクション キャプチャプロセスが終了します。  
ン：

ユーザの応答： Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-37410 **内部エラー: 行イメージストレージの *required\_byte\_count* バイトを取得できません。現在構成されている最大値は *maximum\_byte\_count* バイトです。**

説明： PowerExchange CDC で、MySQL ソースの変更を含む行イメージを処理するための十分なストレージを割り当てることができませんでした。

システムのアクション キャプチャプロセスが終了します。  
ン：

ユーザの応答： DBMOVER 構成ファイルにある MYSQL CAPI\_CONNECTION 文で、ROWMEMMAX パラメータの値を大きくするか、無制限のメモリ使用量のパラメータ値を 0 に設定します。

PWX-37411 **設定エラー: MySQL binlog パラメータ *startup\_parameter\_name* が "*parameter\_value*" に設定されています。必要な値 = "*required\_parameter\_value*"。**

説明： MySQL サーバーで現在、バイナリロギングに使用される開始パラメータが無効な値に設定されています。このメッセージでは、現在の無効なパラメータ値および要求されるパラメータ値がレポートされます。

システムのアクション キャプチャプロセスが終了します。  
ン：

ユーザの応答： MySQL サーバーの開始パラメータに、要求される値を入力します。それから MySQL サーバードキュメントを再起動します。

PWX-37412 **エラー: MySQL サーバードキュメント *version* はサポートされていません。**

説明： PowerExchange CDC では MySQL サーバーの指定のバージョンをサポートしていません。

システムのアクション キャプチャプロセスが終了します。  
ン：

ユーザの応答： MySQL サーバーのインストールを、PowerExchange でサポートする MySQL バージョンにアップグレードします。

PWX-37413 **座標 *binlog\_coordinate* でバイナリログ DML イベントの行変更 *change\_ordinal* の処理中にエラーが発生しました。**

説明： PowerExchange CDC で、MySQL バイナリログでレポートされている座標位置に指定されている DML イベントを処理中に問題が発生しました。DML イベントは、ソーステーブル内の指定された順序位置での行変更に関連付けられています。

システムのアクション キャプチャプロセスが終了します。  
ン：



ユーザの応答： 詳細については、このメッセージに続くエラーメッセージを参照してください。その後、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-37414 **エラー: 登録されたカラム *column\_ordinal* (*table\_name.column\_name*) を MySQL バイナリログから読み取れませんでした。**

説明： PowerExchange CDC で、MySQL バイナリログイベントのテーブル登録に定義されているカラムが見つかりませんでした。

システムのアクション： キャプチャプロセスが終了します。

ユーザの応答： テーブル登録が正しいことを確認します。また、フルバイナリロギングが有効になっていることを確認します。

PWX-37415 **内部エラー: binlog 型 *binlog\_type* から internal 型 *pw\_x\_type* に変換することはできません。**

説明： PowerExchange CDC で、指定の型の MySQL バイナリログデータから PowerExchange の指定の internal データ型に変換できませんでした。

システムのアクション： キャプチャプロセスが終了します。

ユーザの応答： Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-37416 **内部エラー: *binlog\_type* 型のバイナリログカラムが予期された形式で返されませんでした。値: "*column\_data*".**

説明： MySQL binlog リーダーでカラムデータが予期しない形式で返されました。このメッセージでは、バイナリログのカラムタイプおよび返されたカラムデータがレポートされます。

システムのアクション： キャプチャプロセスが終了します。

ユーザの応答： Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-37417 **エラー: *DDL\_statement* DDL のため、テーブル *table\_name* が変更されました。**

説明： MySQL バイナリログに、指定のソーステーブルに変更を加える DDL 文が含まれています。この変更により CDC エラーが発生します。メッセージでは、エラーの原因となった DDL 文がレポートされます。

システムのアクション： キャプチャプロセスが終了します。

ユーザの応答： Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-37418 **エラー: データは *column* で *data\_length* バイトにトランケートされます。 *maximum\_data\_length* バイトに制限されません。**

説明： 指定の MySQL カラムのデータの長さが最大データ長を超えています。データはトランケートされます。

システムのアクション: キャプチャプロセスが終了します。  
ン:

ユーザの応答: Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-37419 **警告: 非 NULL カラム *table\_name column\_name* に NULL 値があります。**

説明: NULL 値は非 NULL 制約が定義されている MySQL カラムの MySQL バイナリログから読み取られました。

システムのアクション: キャプチャ処理は続行されます。  
ン:

ユーザの応答: 対応する必要はありません。

PWX-37420 **再起動情報が無効です。再起動トークンの長さ *length* は、必要な長さ *required\_length* と一致しません。**

説明: 再起動トークンが無効です。このインタフェースのリスタートトークンは、このインタフェースによって作成され、正しい MySQL サーバーおよび binlog basename 識別子を含んでいる必要があります。

システムのアクション: キャプチャプロセスが終了します。  
ン:

ユーザの応答: 正しい再起動情報が判断できない場合は、ターゲットを再マテリアライズする必要があります。

PWX-37421 **再起動情報が無効です。シーケンスの長さ *length* は、必要な長さ *required\_length* と一致しません。**

説明: インタフェースに提供されたリスタートトークンが無効です。このインタフェースのリスタートトークンは、このインタフェースによって作成され、正しい MySQL サーバーおよび binlog basename 識別子を含んでいる必要があります。

システムのアクション: キャプチャプロセスが終了します。  
ン:

ユーザの応答: 正しい再起動情報が判断できない場合は、ターゲットを再マテリアライズする必要があります。

PWX-37422 **再起動情報が無効です。サーバー UUID *uuid* は、必要なサーバー UUID *required\_uuid* と一致しません。**

説明: インタフェースに提供されたリスタートトークンが無効です。このインタフェースのリスタートトークンは、このインタフェースによって作成され、正しい MySQL サーバーおよび binlog basename 識別子を含んでいる必要があります。

システムのアクション: キャプチャプロセスが終了します。  
ン:

ユーザの応答: 正しい再起動情報が判断できない場合は、ターゲットを再マテリアライズする必要があります。

PWX-37423	<b>再起動情報が無効です。サーバーログベース'<i>basename</i>'は、必要なサーバーログベース'<i>required_basename</i>'と一致しません。</b>
説明:	インタフェースに提供されたリスタートトークンが無効です。このインタフェースのリスタートトークンは、このインタフェースによって作成され、正しい MySQL サーバーおよび binlog basename 識別子を含んでいる必要があります。
システムのアクション:	キャプチャプロセスが終了します。
ユーザの応答:	正しい再起動情報が判断できない場合は、ターゲットを再マテリアライズする必要があります。
PWX-37424	<b>警告: DDL のため、テーブル <i>table_name</i> がトランケートされました。</b>
説明:	MySQL バイナリログに、指定のソーステーブルをトランケートした DDL 文が含まれています。
システムのアクション:	キャプチャ処理は続行されます。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-37425	<b>警告: DDL_statement のため、テーブル <i>table_name</i> が変更されました。</b>
説明:	MySQL バイナリログに、指定のソーステーブルに変更を加えた DDL 文が含まれています。
システムのアクション:	キャプチャ処理は続行されます。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-37426	<b>MySQL サーバへの再接続: <i>maximum_attempts</i> 回目の <i>attempt_number</i> を試みます。 <i>number_of_seconds</i> 秒間一時停止しています。</b>
説明:	MySQL データベースサーバーへ再接続しようとしたが失敗した後、MySQL サーバーへの再接続を試行する前に、PowerExchange が指定の秒数の間一時停止しています。メッセージでは、再接続が試行された回数と許容される最大試行回数がレポートされます。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-37427	<b>MySQL サーバーが使用不可になりました。キャプチャ処理を終了しています。</b>
説明:	MySQL サーバーが停止したか使用不可になりました。
システムのアクション:	キャプチャ処理が異常終了します。
ユーザの応答:	MySQL サーバーを再起動します。その後、PowerExchange がサーバーに接続できることを確認します。

PWX-37428	<b>MySQL サーバー <i>serverName_or_IPaddress</i> に正常に再接続しました。</b>
説明：	PowerExchange が指定の MySQL サーバーに正常に接続しました。このメッセージは、MYSQL CAPI_CONNECTION 文で RECONNTRIES パラメータが設定され、PowerExchange が MySQL ソースサーバーに再接続しようとしたときに表示されます。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-37429	<b>エラー: テーブル <i>table_name</i> が存在しないか、タグ <i>registration_tag_name</i> の登録定義と一致しません。</b>
説明：	指定の MySQL ソーステーブルが削除されたか変更されて既存のキャプチャ登録定義と一致なくなっています。既存の登録を特定できるよう、メッセージには登録タグ名を記載しています。
システムのアクション：	MySQL キャプチャ処理は終了します。
ユーザの応答：	テーブルを変更した場合は、ソーステーブルを再作成して既存の登録定義と一致するようにするか、登録を削除して新しい登録を作成します。テーブルを削除した場合は、登録を削除します。
PWX-37430	<b>エラー: サーバーの再接続中に binlog のベース名または場所の設定への変更が検出されました。</b>
説明：	Linux、UNIX、および Windows の PowerExchange ロガーが MySQL サーバーへの再接続中に MySQL バイナリログの場所またはベース名の変更を検出しました。
システムのアクション：	MySQL キャプチャ処理は終了します。
ユーザの応答：	バイナリログの場所のみが変更されて既存の binlog ファイルが新しい場所にコピーされた場合、PowerExchange ロガーをウォームスタートして、変更データを消失することなしにキャプチャ処理を再開することができます。バイナリログのベース名が変更された場合、PowerExchange ロガーをコールドスタートする必要があります。この場合、変更データの一部が失われることがあります。
PWX-37431	<b>エラー: DBMOVER ファイルの MYSQL CAPI_CONNECTION 文にある <i>parameter_name</i> パラメータに、カタログスキーマが指定されていません。</b>
説明：	PowerExchange が保持するカタログ DDL 変更のスキーマが、DBMOVER 構成ファイル内の MYSQL CAPI_CONNECTION 文の CATSCHEMA パラメータに指定されていないため、MySQL 変更キャプチャ処理を開始できません。
システムのアクション：	MySQL キャプチャ処理の開始に失敗します。
ユーザの応答：	DBMOVER 構成ファイルで、MYSQL CAPI_CONNECTION 文の CATSCHEMA パラメータでカタログスキーマ名を指定します。

PWX-37432	<b>エラー: MySQL サーバー <i>server_name</i> 上のスキーマ <i>schema_name</i> 内の DDL カタログテーブルに接続できませんでした。接続には、ユーザー名 <i>user_name</i> とパスワード <i>password</i> が使用されました。</b>
説明:	PowerExchange は、指定の MySQL サーバー名、カタログスキーマ名、ユーザー名、パスワードを使って、登録済みの MySQL ソーステーブルに対する DDL 変更を格納するカタログテーブルに接続できませんでした。
システムのアクション:	MySQL 変更キャプチャ処理の開始に失敗します。
ユーザの応答:	MYSQL CAPI_CONNECTION 文で使用されている CATSCHEMA、CATSERVER、CATUSERNAME、CATPASSWORD の各パラメータ値が正しいことを確認します。オプションの CATSERVER、CATUSERNAME、CATPASSWORD の各パラメータを指定しない場合、PowerExchange はソースデータベースのサーバー名、ユーザー名、およびパスワードを使用します。また、カタログテーブルが指定のスキーマで作成され、指定のユーザー資格情報に、そのサーバーとカタログテーブルにアクセスできる権限があることを確認します。詳細については、このエラーに関連する直前の ODBC メッセージを参照してください。
PWX-37433	<b>MySQL ソーステーブル <i>table_name</i> の情報を PowerExchange DDL カタログから読み取れません。</b>
説明:	指定の MySQL ソーステーブルの情報が DDL 変更用 PowerExchange カタログにない、または、PowerExchange がカタログからテーブル情報を読み込む際にエラーが発生しています。
システムのアクション:	MySQL 変更キャプチャ処理の開始に失敗します。
ユーザの応答:	PWXCATMY ユーティリティを使用して、すべての MySQL ソーステーブルが現在のカタログに登録されていることを確認します。
PWX-37434	<b>エラー: <i>table_name</i> のテーブル定義が、座標[<i>coordinate</i>]のカタログから読み取れませんでした。</b>
説明:	指定の binlog 座標に関連付けられた MySQL ソーステーブルのテーブル定義を、DDL の変更を格納する現在の PowerExchange カタログから検出できません。
システムのアクション:	MySQL 変更キャプチャ処理の開始に失敗します。
ユーザの応答:	PWXCATMY ユーティリティを使用して、すべての MySQL ソーステーブルが現在のカタログに登録されていることを確認します。
PWX-37435	<b>暗号化されたカタログパスワードの復号化に失敗しました: CAPI 接続パラメータ <i>parameter_name</i></b>
説明:	DBMOVER 構成ファイル内の CATEPASSWORD 文に指定された暗号化パスワードが破損しています。結果、MySQL ソース用の DDL 変更イベントカタログにアクセスするために、このパスワードを複合化できません。

システムのアクション MySQL 変更キャプチャ処理は終了します。  
ン：

ユーザの応答： 暗号化されたパスワードが CATEPASSWORD 文に正しく指定されていることを確認してください。

PWX-37436 **暗号化済みと未暗号化の、両方のカタログパスワードが指定されています。**

説明： DBMOVER 構成ファイルで、CATPASSWORD 文と CATEPASSWORD 文の両方が指定されています。MySQL ソーステーブルに対する DDL 変更イベントを記録するカタログにアクセスするには、これらの文のうち 1 つだけを使用して、クリアテキストパスワードか暗号化パスワードを指定します。

システムのアクション MySQL キャプチャ処理は終了します。  
ン：

ユーザの応答： DBMOVER.CFG 構成ファイルから、CATPASSWORD 文か CATEPASSWORD 文のいずれかを削除します。

PWX-37437 **エラー: 要求された読み取り座標[*read\_coordinate*]は、座標[*log\_start\_coordinate*]で利用可能なログ開始より前です。**

説明： MySQL CDC 処理中に、PowerExchange は、指定された読み取り座標から binlog ファイルの読み取りを開始する要求を発行しました。しかし、この読み取り座標を含む利用可能な binlog ファイルがありません。要求された読み取り座標は、現在利用可能なバイナリログファイルの中で最も早い座標よりも前です。

システムのアクション PowerExchange のキャプチャ処理が終了します。  
ン：

ユーザの応答： 見当たらない binlog ファイルを確認し、見つかった場合はそれらを復元するか、または CDC セッションをコールドスタートしてください。

PWX-37438 **エラー: 要求された読み取り座標[*read\_coordinate*]は、座標[*log\_end\_coordinate*]で利用可能な最後のログよりも後です。**

説明： MySQL CDC 処理中に、PowerExchange は、指定された読み取り座標から binlog ファイルの読み取りを開始する要求を発行しました。しかし、この読み取り座標を含む利用可能な binlog ファイルがありません。要求された読み取り座標は、現在利用可能なバイナリログファイルの中で最も後の座標よりも後です。

システムのアクション PowerExchange のキャプチャ処理が終了します。  
ン：

ユーザの応答： 見当たらない binlog ファイルを確認し、見つかった場合はそれらを復元するか、または CDC セッションをコールドスタートしてください。

PWX-37439	<b>エラー: カタログ読み取り継続座標</b> <b>[<i>catalog_read_coordinate</i>]は、座標[<i>log_start_coordinate</i>]で利用可能なログ開始より前です。</b>
説明:	MySQL CDC 処理中に、PowerExchange は、MySQL DDL カタログで最後に記録した座標から binlog ファイルの読み取りを開始する要求を発行しました。しかし、この読み取り座標を含む利用可能な binlog ファイルがありません。要求された読み取り座標は、現在利用可能なバイナリログファイルの中で最も早い座標よりも前です。
システムのアクション:	PowerExchange のキャプチャ処理が終了します。
ユーザの応答:	見当たらない binlog ファイルを確認し、見つかった場合は復元してください。または、PWXCATMY ユーティリティを使用してソーステーブルを登録解除および再登録し、CDC セッションをコールドスタートして、バイナリログの最も早い位置から変更の読み取りを開始してください。
PWX-37440	<b>エラー: リモート mysqlbinlog ストリームがサーバーにより停止されたか、接続エラーにより停止されました。</b>
説明:	MySQL CDC 処理中に、リモートバイナリログへの mysqlbinlog ユーティリティ接続が終了しました。このエラーは、次のいずれかの理由で発生する可能性があります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 複数の CDC セッションが同時にアクティブになる。</li> <li>• ネットワーク接続でエラーが発生した。</li> <li>• サーバーが停止した。</li> </ul>
システムのアクション:	PowerExchange のキャプチャ処理が終了します。
ユーザの応答:	1 つの CDC セッションのみがアクティブであることを確認してください。また、サーバーから返されたエラーについて PowerExchange トレースログを確認し、他の関連するエラーメッセージについて MySQL サーバーログを確認してください。
PWX-37441	<b>警告: テーブル <i>table_name</i> の座標[<i>binlog_coordinate</i>]から始まる不完全なトランザクション情報を破棄します。</b>
説明:	MySQL CDC 処理中に、PowerExchange で後続のコミットまたはロールバックがないソーステーブルの DML イベントが発生しました。このメッセージには、そのイベントの binlog 位置とソーステーブルの名前が含まれます。
システムのアクション:	PowerExchange キャプチャ処理は継続します。
ユーザの応答:	データ損失を確認してください。詳細については、PowerExchange トレースログも確認してください。その後、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-37700	<b>コマンドの使用:</b> PWXCATMY <i>command_parameters</i> OPERATION= <i>operation_type</i>
説明:	このメッセージは、特定操作タイプの PWXCATMY ユーティリティコマンドの構文を示します。これは、PWXCATMY HELP コマンドへの応答として表示されます。このメッセージには、その操作タイプに対して使用可能なパラメータが含まれます。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-37701	<b>カタログテーブル作成用の DDL 文を表示します。</b>
説明:	このメッセージは、操作タイプが SHOWDDL の PWXCATMY コマンドの目的を示しています。カタログテーブルには、登録済み MySQL ソーステーブルに対する DDL 変更が記録されます。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-37702	<b>カタログテーブルが存在し、形式が正しいことを確認します。</b>
説明:	このメッセージは、操作タイプが VERIFY の PWXCATMY コマンドの目的を示しています。このコマンドは、そのカタログテーブルが存在し、要求されている構造になっていることを確認します。カタログテーブルには、登録済み MySQL ソーステーブルに対する DDL 変更が格納されます。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-37703	<b>指定されたカタログ接続パラメータを持つ既存のカタログのテーブルを削除します。</b>
説明:	このメッセージは、操作タイプが DROP の PWXCATMY コマンドの目的を示しています。このコマンドは、含まれるカタログ接続パラメータを使用する既存のカタログテーブルを削除します。カタログテーブルには、登録済み MySQL ソーステーブルに対する DDL 変更が格納されます。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-37704	<b>指定されたカタログ接続パラメータを持つ空のカタログを新規作成します。</b>
説明:	このメッセージは、操作タイプが CREATE の PWXCATMY コマンドの目的を示しています。このコマンドは、含まれるカタログ接続情報を使用する新しいカタログテーブルを作成します。このカタログテーブルに、登録済み MySQL ソーステーブルに対する DDL 変更が記録されるようになります。
システムのアクション:	カタログテーブルが既に存在している場合、コマンドが失敗します。それ以外の場合は、新しいカタログテーブルが作成され、処理は続行されます。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。



PWX-37705	<b>すべてのサーバーまたは指定されたソース接続パラメータを使用してアクセスするサーバーの、登録済み MySQL ソーステーブルを一覧表示します。</b>
説明：	このメッセージは、操作タイプが LIST の PWXCATMY コマンドの目的を示しています。このコマンドは、登録済み MySQL ソーステーブルに対するテーブル名とログ座標情報を指定します。この情報は、すべての MySQL データベースサーバーか、特定サーバーのいずれかに対して表示されます。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-37706	<b>示されたカタログ内の MySQL テーブル定義をダンプします。</b>
説明：	このメッセージは、操作タイプが DUMP の PWXCATMY コマンドの目的を示しています。このコマンドは、MySQL ソーステーブルの DDL 更新カタログ内のテーブル定義を一覧表示します。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-37707	<b>MySQL ソーステーブルを登録して、示されたカタログ内にテーブルのスナップショットを作成します。</b>
説明：	このメッセージは、操作タイプが REGISTER の PWXCATMY コマンドの目的を示しています。このコマンドは、登録済みの MySQL ソーステーブルのスナップショットを作成し、そのテーブルの DDL 変更を記録するカタログにテーブル定義を追加します。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-37708	<b>MySQL ソーステーブルのテーブル定義を、示されたカタログから削除します。</b>
説明：	このメッセージは、操作タイプが UNREGISTER の PWXCATMY コマンドの目的を示しています。このコマンドで、カタログからテーブル定義が削除されます。binlog の最後から処理を再開し、それより前の処理に戻る必要がない場合、または削除した登録用にカタログをクリーンアップする必要がある場合に、この操作を実行する可能性があります。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-37709	<b>MySQL ソーステーブルは、名前で指定し、パターンでクエリを実行し、登録インスタンスを使用して含めることができます。</b>
説明：	このメッセージは、操作タイプが DUMP または REGISTER の PWXCATMY コマンドで MySQL ソーステーブルを指定する際に使用できる基準を説明しています。ソーステーブルを名前で指定する場合は、TABLE パラメータを使用します。MySQL ワイルドカードを含むテーブル名パターンと一致するテーブルを指定する場合は、MATCH パラメータを使用します。MySQL ソース用の PowerExchange 登録グループインスタンス内のすべてのソーステーブルを指定する場合は、INSTANCE パラメータを使用します。このメッセージは、PWXCATMY HELP コマンドへの応答として表示されます。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。

PWX-37710	<b>binlog 座標が指定されている場合は、座標の前の最新の定義のみが表示されます。</b>
説明:	このメッセージは、DUMP 操作用に COORD パラメータで PWXCATMY コマンドを使用した結果を説明しています。このコマンドでは、COORD パラメータで指定されている binlog 座標の直前のテーブル定義のみが表示されます。このメッセージは、PWXCATMY HELP コマンドへの応答として表示されます。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-37711	<b>操作パラメータは、PWXCATMY コマンドでは指定しません。操作タイプの指定が必要です。</b>
説明:	PWXCATMY コマンドに、必要な OPERATION パラメータが含まれていません。
システムのアクション:	処理は終了します。
ユーザの応答:	OPERATION パラメータを指定して、もう一度 PWXCATMY コマンドを実行します。このパラメータに、CREATE、DROP、DUMP、LIST、REGISTER、SHOWDDL、または VERIFY の有効な操作タイプを指定します。
PWX-37712	<b>エラー: カタログスキーマパラメータが指定されていません。カタログスキーマを指定する必要があります。</b>
説明:	カタログスキーマ名が必要な操作タイプを指定する PWXCATMY コマンドで、カタログテーブルの有効なスキーマ名による SCHEMA パラメータが指定されていません。
システムのアクション:	処理は終了します。
ユーザの応答:	SCHEMA パラメータを指定して、もう一度 PWXCATMY コマンドを実行します。
PWX-37713	<b>MySQL 対応のノード <i>node_name</i> 上のインスタンス <i>instance_name</i> と一致するアクティブな登録を検出できませんでした。</b>
説明:	PWXCATMY コマンドに指定されている MySQL インスタンスに対するアクティブな登録が見つかりませんでした。
システムのアクション:	処理は終了します。
ユーザの応答:	インスタンス名が正しいことを確認してください。
PWX-37714	<b>エラー: カタログユーザー名パラメータが指定されていません。カタログ接続の確立には、ユーザー名が必要です。</b>
説明:	指定の操作タイプに必要な CATUSERNAME パラメータが PWXCATMY コマンドに含まれていません。CATUSERNAME パラメータが、登録済み MySQL ソースに対する DDL 変更を記録するカタログに接続するのに必要な有効なユーザー名を指定します。
システムのアクション:	処理は終了します。

ユーザの応答： CATUSERNAME パラメータを指定して、もう一度 PWXCATMY コマンドを実行します。

PWX-37716 **エラー: ソースユーザー名パラメータが指定されていません。ソース接続の確立には、MySQL ユーザー名が必要です。**

説明： 指定の操作タイプに必要な USERNAME パラメータが PWXCATMY コマンドに含まれていません。USERNAME パラメータが MySQL ソースデータベースに接続するのに必要な有効なユーザー名を指定します。

システムのアクション： 処理は終了します。

ユーザの応答： USERNAME パラメータを指定して、もう一度 PWXCATMY コマンドを実行します。

PWX-37717 **エラー: PWXCATMY コマンドが、ホスト名 *host\_name* とユーザー名 *user\_name* を使用して MySQL ホストに接続できませんでした。**

説明： PWXCATMY コマンドが、指定の HOSTNAME パラメータ値と USERNAME パラメータ値で MySQL ソースデータベースに接続できませんでした。

システムのアクション： 処理は終了します。

ユーザの応答： PWXCATMY コマンドが、MySQL ソースデータベースに対して有効なホスト名、ユーザー名、およびパスワードを指定していることを確認します。データベースサーバーが使用できるかどうかも確認してください。

PWX-37718 **MySQL DDL の変更を記録するカタログテーブルは、スキーマ *schema\_name* に既に存在します。**

説明： 操作タイプが CREATE の PWXCATMY コマンドが、指定のスキーマ名を使ってカタログテーブルを作成しようとしたが、そのスキーマ名のカタログテーブルは既に存在しています。

システムのアクション： 処理は終了します。

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-37719 **MySQL DDL の変更を記録する 1 つ以上のカタログテーブルが、スキーマ *schema\_name* に存在しません。**

説明： PWXCATMY コマンドで、指定スキーマ名のカタログテーブルを検出できませんでした。カタログテーブルには、MySQL ソーステーブルに対する DDL 変更イベントが記録されます。

システムのアクション： 処理は終了します。

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-37720	<b>MySQL DDL の変更を記録するカタログが、スキーマ <i>schema_name</i> に正常に作成されました。</b>
説明：	PWXCATMY コマンドで、指定スキーマ名を使用するカタログテーブルが作成されました。このカタログテーブルに、登録済み MySQL ソーステーブルに対する DDL 変更が記録されるようになります。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-37721	<b>エラー: カatalogテーブルをスキーマ <i>schema_name</i> に作成できませんでした。</b>
説明：	作成操作の PWXCATMY コマンドで、指定スキーマ名のカタログテーブルを作成できませんでした。
システムのアクション：	処理は終了します。
ユーザの応答：	エラーを診断するには、追跡メッセージを確認します（追跡メッセージがある場合）。
PWX-37722	<b>カタログテーブルは、スキーマ <i>schema_name</i> から削除されました。</b>
説明：	削除操作の PWXCATMY コマンドで、指定スキーマ名のカタログテーブルが削除されました。このテーブルは、登録済み MySQL ソーステーブルに対する DDL 変更の記録に使用されなくなります。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-37723	<b>エラー: カatalogテーブルをスキーマ <i>schema_name</i> から削除できませんでした。</b>
説明：	削除操作の PWXCATMY コマンドで、指定スキーマ名のカタログテーブルを削除できませんでした。
システムのアクション：	処理は終了します。
ユーザの応答：	エラーを診断するには、追跡メッセージを確認します（追跡メッセージがある場合）。
PWX-37724	<b>スキーマ <i>schema_name</i> のカタログテーブルは、正常に検証されました。</b>
説明：	操作タイプが VERIFY の PWXCATMY コマンドにより、指定のスキーマ名のカタログテーブルが存在し、その構造が有効であることが確認されました。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWX-37725	<b>エラー: スキーマ <i>schema_name</i> のカタログテーブルの検証は失敗しました。テーブルが見つからないか破損しています。</b>
説明：	検証操作の PWXCATMY コマンドが失敗して、指定のスキーマのカタログテーブルを検証できませんでした。カタログテーブルが存在していないか、破損しています。

システムのアクション: カタログ検証に失敗します。  
ン:

ユーザの応答: エラーを診断するには、追跡メッセージを確認します (追跡メッセージがある場合)。

PWX-37728 **警告: テーブル *table\_name* は、スキーマを使用して定義されていなかったため、処理リストから削除されました。**

説明: TABLE パラメータが必要なスキーマ名を含んでいなかったため、指定のテーブルが PWXCATMY 処理リストから削除されました。

システムのアクション: 処理は継続します。  
ン:

ユーザの応答: デフォルトのスキーマを指定するか、PWXCATMY コマンドで TABLE パラメータを更新して、スキーマ名を指定します。

PWX-37729 **警告: テーブル *table\_name* がリストから削除されました。テーブル名が無効です。**

説明: TABLE パラメータが有効でないテーブル名を指定したため、カタログテーブルが PWXCATMY 処理リストから削除されました。

システムのアクション: 処理は継続します。  
ン:

ユーザの応答: TABLE パラメータが有効なカタログテーブル名を指定していることを確認します。

PWX-37730 **エラー: スキーマ *schema\_name* のカタログテーブルを開こうとしましたが、失敗しました。**

説明: 指定のスキーマ名のカタログテーブルを開こうとしましたが失敗しました。カタログテーブルに、登録済み MySQL ソーステーブルに対する DDL 変更を記録できません。

システムのアクション: 処理は終了します。  
ン:

ユーザの応答: カatalogテーブルが指定のスキーマに存在しており、有効な構造になっていることを確認します。追跡メッセージがあれば、これも確認してください。

PWX-37731 **テーブル *table\_name* が登録されました。**

説明: PWXCATMY コマンドにより、指定の MySQL ソーステーブルがカタログに登録されました。登録された MySQL ソーステーブルに対する DDL の変更がカタログに記録されます。

ユーザの応答: 対応する必要はありません。

PWX-37732 **MySQL ソーステーブル *table\_name* のカタログへの登録が失敗しました。**

説明: PWXCATMY コマンドが、指定の MySQL ソーステーブルをカタログに登録しようとしたが、失敗しました。カタログには、登録済み MySQL ソースに対する DDL 変更が記録されます。

システムのアクション: 処理は継続します。  
ン:

ユーザの応答: エラーを診断するには、追跡メッセージを確認します（追跡メッセージがある場合）。

PWX-37733      **テーブル *table\_name* の登録が解除されました。**

説明: PWXCATMY コマンドにより、指定の MySQL ソーステーブルが登録解除されました。そのテーブル定義は、DDL の変更を記録するカタログから削除されます。

ユーザの応答: 対応する必要はありません。

PWX-37734      **テーブルが今後、DDL の変更追跡用にカタログ内に登録されることはありません。**

説明: 操作タイプが UNREGISTER の PWXCATMY コマンドで、MySQL ソーステーブルがカタログから削除されました。以降、そのテーブルに対する DDL の変更は追跡されなくなります。

システムのアクション: 処理は継続します。  
ン:

ユーザの応答: 対応する必要はありません。

## 第 7 章

# PWX-38500～PWX-38999

- [PWX-38500～PWX-38750, 559](#) ページ

## PWX-38500～PWX-38750

PWX-38500      JNI インタフェースはタスクタイプ *task\_type* をサポートしていません。

説明：              タスクタイプがサポートされないので、PowerExchange タスクの開始要求は却下されました。

システムのアクション：      タスクの初期化はエラーで終了します。

ユーザの応答：      Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-38501      セッション ID *session\_ID* は、予期されるセッション ID *expected\_session\_ID* と一致しません。

説明：              JNI インタフェースは、予期されるセッション ID を含まない要求を受け取りました。

システムのアクション：      インタフェースはエラーを返します。

ユーザの応答：      Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-38503      トレースエントリ *trace\_ID* は、トレースエントリが最大数を超えたため無視されます。

説明：              指定されたトレースエントリを追加しようとしたことで、トレースエントリの最大数を超えました。

システムのアクション：      指定されたトレースエントリは無視されます。

ユーザの応答：      対応する必要はありません。

PWX-38504      JNI インタフェースは呼び出しクラスのオブジェクト *field\_name* のフィールド ID を特定できませんでした。

説明：              JNI インタフェースは呼び出しクラスのフィールドの要求されたフィールド識別子を特定できませんでした。

システムのアクション インタフェースはエラーを返します。

ン:

ユーザの応答: Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-38600 CSO: **内部エラー。不明なエラー:** *default\_message\_text*。

説明: メッセージを生成しようとしたときに、モジュール PWXCSO で内部エラーが検出されました。

システムのアクション セッションは異常終了する場合があります。

ン:

ユーザの応答: Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-38601 CSO: **内部エラー。ロジック:** *description*。

説明: モジュール PWXCSO で内部エラーが検出されました。

システムのアクション セッションは異常終了する場合があります。

ン:

ユーザの応答: Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-38602 CSO: **内部エラー。構築中: 終了トークンタイプ *token\_type* タグ *expected\_tag* が *encountered\_tag* と一致しません。**

説明: モジュール PWXCSO で内部エラーが検出されました。

システムのアクション セッションは異常終了する場合があります。

ン:

ユーザの応答: Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-38603 CSO: **内部エラー。構築中: 実装制限 *description* が発生しました。**

説明: モジュール PWXCSO で内部エラーが検出されました。

システムのアクション セッションは異常終了する場合があります。

ン:

ユーザの応答: Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-38604 CSO: **内部エラー。構築中: トークン *tag\_name* に無効な数値 *value* が含まれています。**

説明: モジュール PWXCSO で内部エラーが検出されました。

システムのアクション セッションは異常終了する場合があります。

ン:

ユーザの応答: Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-38605 CSO: **内部エラー。構築中: タグ *tag\_name* がオブジェクト *object\_tag\_name* に見つかりません。**

説明: モジュール PWXCSO で内部エラーが検出されました。

システムのアクション セッションは異常終了する場合があります。

ン:

ユーザの応答: Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。



PWX-38606 CSO: **内部エラー。構築中: メタデータを使用しないトークン *tag\_name* にメタデータがあります。**

説明: モジュール PWXCSO で内部エラーが検出されました。

システムのアクション: セッションは異常終了する場合があります。

ン:

ユーザの応答: Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-38607 CSO: **内部エラー。構築中: メタデータを使用するトークン *tag\_name* にメタデータがありません。**

説明: モジュール PWXCSO で内部エラーが検出されました。

システムのアクション: セッションは異常終了する場合があります。

ン:

ユーザの応答: Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-38608 CSO: **内部エラー。構築中: 想定されるトークンタイプは *expected\_token\_type* ですが、トークンタイプ *encountered\_token\_type* が追加されました。**

説明: モジュール PWXCSO で内部エラーが検出されました。

システムのアクション: セッションは異常終了する場合があります。

ン:

ユーザの応答: Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-38609 CSO: **内部エラー。構築中: 書き込み呼び出し *call\_name* が失敗し、*return\_code* が返されました。**

説明: モジュール PWXCSO で内部エラーが検出されました。

システムのアクション: セッションは異常終了する場合があります。

ン:

ユーザの応答: Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-38610 CSO: **内部エラー: 配列 *qualified\_array\_name* エントリ *array\_index* はタイプ *expected\_type* が想定されますが、タイプ *actual\_type* です。**

説明: モジュール PWXCSO で内部エラーが検出されました。

システムのアクション: セッションは異常終了する場合があります。

ン:

ユーザの応答: Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-38611 CSO: **内部エラー: 配列 *qualified\_array\_name* の必須のエントリ *array\_index* が null です。**

説明: モジュール PWXCSO で内部エラーが検出されました。

システムのアクション: セッションは異常終了する場合があります。

ン:

ユーザの応答: Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-38612	CSO: <b>内部エラー: キー <i>qualified_key_name</i> はタイプ <i>expected_type</i> が想定されますが、タイプ <i>actual_type</i> です。</b>
説明:	モジュール PWXCSO で内部エラーが検出されました。
システムのアクション:	セッションは異常終了する場合があります。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-38613	CSO: <b>内部エラー: 必要なキー <i>key_name</i> がオブジェクト <i>object_name</i> がありません。</b>
説明:	モジュール PWXCSO で内部エラーが検出されました。
システムのアクション:	セッションは異常終了する場合があります。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-38614	CSO: <b>内部エラー: オブジェクト <i>object_name</i> で必要なキー <i>key_name</i> が null です。</b>
説明:	モジュール PWXCSO で内部エラーが検出されました。
システムのアクション:	セッションは異常終了する場合があります。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-38615	CSO: <b>内部エラー。メタデータ: オフセット <i>offset</i> でタグ <i>tag_name</i> が無効です。</b>
説明:	モジュール PWXCSO で内部エラーが検出されました。
システムのアクション:	セッションは異常終了する場合があります。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-38616	CSO: <b>内部エラー。メタデータ: コレクション内にタグ <i>tag_name</i> が複数回出現します。</b>
説明:	モジュール PWXCSO で内部エラーが検出されました。
システムのアクション:	セッションは異常終了する場合があります。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-38617	CSO: <b>内部エラー。メタデータ: コレクション内にタグ ID <i>tag_ID</i> が複数回出現します。</b>
説明:	モジュール PWXCSO で内部エラーが検出されました。
システムのアクション:	セッションは異常終了する場合があります。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-38618	<b>CSO: 内部エラー。メタデータコンテキスト: コレクションタグが <i>tag_name</i> です。</b>
説明:	モジュール PWXCSO で内部エラーが検出されました。
システムのアクション:	セッションは異常終了する場合があります。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-38619	<b>CSO: 内部エラー。バイナリの解析: <i>token_name</i> トークンのエラー。</b>
説明:	モジュール PWXCSO で内部エラーが検出されました。
システムのアクション:	セッションは異常終了する場合があります。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-38620	<b>CSO: 内部エラー。JSON 解析中: バイナリ文字列に非 16 進数文字が含まれています。</b>
説明:	モジュール PWXCSO で内部エラーが検出されました。
システムのアクション:	セッションは異常終了する場合があります。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-38621	<b>CSO: 内部エラー。JSON 解析中: バイナリ文字列に奇数個の文字が含まれています。</b>
説明:	モジュール PWXCSO で内部エラーが検出されました。
システムのアクション:	セッションは異常終了する場合があります。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-38622	<b>CSO: 内部エラー。JSON 解析中: タグ名が無効です (<i>tag_name</i>)。</b>
説明:	モジュール PWXCSO で内部エラーが検出されました。
システムのアクション:	セッションは異常終了する場合があります。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-38623	<b>CSO: 内部エラー。JSON 解析中: トークンタイプ <i>type</i> の値が無効です (<i>value</i>)。</b>
説明:	モジュール PWXCSO で内部エラーが検出されました。
システムのアクション:	セッションは異常終了する場合があります。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-38624	<b>CSO: 内部エラー。解析中: タグ <i>tag_name</i> がオブジェクト <i>object_name</i> に見つかりません。</b>
説明:	モジュール PWXCSO で内部エラーが検出されました。
システムのアクション:	セッションは異常終了する場合があります。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-38625	<b>CSO: 内部エラー。解析中: 入力完了前に終了しました。</b>
説明:	モジュール PWXCSO で内部エラーが検出されました。
システムのアクション:	セッションは異常終了する場合があります。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-38626	<b>CSO: 内部エラー。解析中: 読み取り側呼び出し <i>call_name</i> が失敗し、<i>return_code</i> が返されました。</b>
説明:	モジュール PWXCSO で内部エラーが検出されました。
システムのアクション:	セッションは異常終了する場合があります。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-38627	<b>CSO: 内部エラー。解析中: 予期しないバイトで <i>printable_character</i> (16 進数の <i>hexadecimal_digits</i>) が発生しました。</b>
説明:	モジュール PWXCSO で内部エラーが検出されました。
システムのアクション:	セッションは異常終了する場合があります。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-38628	<b>CSO: 内部エラー。解析中: トークンタイプ <i>expected_token_type</i> が想定されるところ、トークンタイプ <i>encountered_token_type</i> が見つかりました。</b>
説明:	モジュール PWXCSO で内部エラーが検出されました。
システムのアクション:	セッションは異常終了する場合があります。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-38629	<b>CSO: 内部エラー。解析中: 不明なペイロードタイプ <i>type</i>。</b>
説明:	モジュール PWXCSO で内部エラーが検出されました。
システムのアクション:	セッションは異常終了する場合があります。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-38699	<b>CSO: 内部エラー。パラメータエラー: <i>default_message_text</i>。</b>
説明:	モジュール PWXCSO で内部エラーが検出されました。

システムのアクション セッションは異常終了する場合があります。  
ン：

ユーザの応答： Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-38700 **設定エラー: PostgreSQL 設定パラメータ *parameter\_name* が "*value*" に設定されています。必要な値="*required\_value*"。**

説明： 現在 PostgreSQL は、論理レプリケーションには無効なサーバー起動パラメータ値で設定されています。このメッセージでは、無効なパラメータ値および要求されるパラメータ値がレポートされます。

システムのアクション PostgreSQL のキャプチャ処理が終了します。  
ン：

ユーザの応答： PostgreSQL パラメータを postgresql.conf 構成ファイルで編集し、必要なパラメータ値を指定してください。その後で、PostgreSQL サーバプロセスを再起動してください。

PWX-38701 **エラー: PostgreSQL サーババージョン *version* は PowerExchange ではサポートされていません。**

説明： PostgreSQL サーバのバージョンは、PowerExchange がサポートする最も古いバージョン以前のバージョンです。

システムのアクション PostgreSQL のキャプチャ処理が終了します。  
ン：

ユーザの応答： サーバのインストール環境を、PowerExchange でサポートする PostgreSQL バージョンにアップグレードしてください。

PWX-38702 **再起動情報が無効です。リスタートトークンデータベース '*restart\_database*' がソースデータベース '*source\_database*' と一致しません。**

説明： PowerExchange Consumer API (CAPI) は、PostgreSQL ソースには無効なリスタートトークンを受け取りました。リスタートトークンは CAPI によって作成され、正しいデータベース識別子を含んでいる必要があります。

システムのアクション PostgreSQL のキャプチャ処理が終了します。  
ン：

ユーザの応答： 正しいリスタート情報を取得できない場合は、ターゲットを再度実体化する必要があります。

PWX-38703 **再起動情報が無効です。リスタートトークンバイトの長さ *actual\_length* が必要な長さ *required\_length* と一致しません。**

説明： PowerExchange Consumer API (CAPI) は、PostgreSQL ソースには無効なリスタートトークンを受け取りました。リスタートトークンは CAPI によって作成され、正しいデータベース識別子を含んでいる必要があります。

システムのアクション PostgreSQL のキャプチャ処理が終了します。  
ン：

ユーザの応答： 正しいリスタート情報を取得できない場合は、ターゲットを再度実体化する必要があります。

PWX-38704	<b>再起動情報が無効です。シーケンストークンバイトの長さ <i>actual_length</i> が必要な長さ <i>required_length</i> と一致しません。</b>
説明:	PowerExchange Consumer API (CAPI) は、PostgreSQL ソースには無効なシーケンストークンを受け取りました。シーケンストークンは CAPI によって作成され、正しい LSN およびトランザクション識別子を含んでいる必要があります。
システムのアクション:	PostgreSQL のキャプチャ処理が終了します。
ユーザの応答:	正しいリスタート情報を取得できない場合は、ターゲットを再度実体化する必要があります。
PWX-38705	<b>LSN <i>lsn</i> でレプリケーションスロットからの行変更の処理中にエラーが発生しました。</b>
説明:	PostgreSQL CDC 中に、PowerExchange で、指定された LSN でのレプリケーションスロットからのデータに問題が発生しました。
システムのアクション:	PostgreSQL のキャプチャ処理が終了します。
ユーザの応答:	詳細については、このメッセージに続くエラーメッセージを参照してください。その後、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-38706	<b>エラー: 登録されたカラム <i>column_ordinal</i> (<i>table_name.column_name</i>) のデータをレプリケーションストアテーブルから読み取れませんでした。</b>
説明:	指定されたカラムが、PostgreSQL ソーステーブルのキャプチャ登録に含まれます。しかし、レプリケーションストアテーブルからのデータの読み取りで、PowerExchange はカラムの変更データを検出しませんでした。
システムのアクション:	PostgreSQL のキャプチャ処理が終了します。
ユーザの応答:	キャプチャ登録定義が正しいことを確認してください。また、PostgreSQL のフルバイナリロギングが有効になっていることを確認してください。
PWX-38707	<b>PG CAPI_CONNECTION 文のパラメータ <i>parameter_name</i> に無効な値 <i>parameter_value</i> があります。</b>
説明:	DBMOVER 構成ファイルの PG CAPI_CONNECTION 文で、指定されたパラメータに無効な値があります。
システムのアクション:	PostgreSQL のキャプチャ処理が終了します。
ユーザの応答:	PG CAPI_CONNECTION 文のパラメータ値を修正してください。この文の詳細については、『 <i>PowerExchange</i> リファレンスマニュアル』を参照してください。

PWX-38708	<b>内部エラー: ネイティブデータ型 <i>native_datatype</i> から内部データ型 <i>pwX_datatype</i> への変換は利用できません。</b>
説明:	PostgreSQL CDC 中、PowerExchange では、レプリケーションスロットから読み取られたソースデータを、指定されたネイティブデータ型から PowerExchange の内部データ型に変換できませんでした。
システムのアクション:	PostgreSQL のキャプチャ処理が終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-38709	<b>内部エラー: レプリケーションスロットがデータ型 <i>native_datatype</i> のカラムのデータを予期しない形式で返しました。値: "<i>column_data</i>".</b>
説明:	PostgreSQL CDC 処理中に、レプリケーションスロットプラグインがカラムデータを予期しない形式で返しました。
システムのアクション:	PostgreSQL のキャプチャ処理が終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-38710	<b>警告: NOT NULL カラム <i>table_name.column_name</i> に null 値があります。</b>
説明:	PostgreSQL CDC 処理中に、NOT NULL として定義されているカラムのレプリケーションスロットから null 値が取得されました。
システムのアクション:	PostgreSQL のキャプチャ処理は継続します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWX-38711	<b>複数のアクティブなキャプチャ登録に登録タグ <i>tag_name</i> があります。</b>
説明:	PostgreSQL CDC ソースについて、PowerExchange は同じ登録タグ名を持つ複数のアクティブなキャプチャ登録を検出しました。この状態は登録リポジトリの問題を示しています。
システムのアクション:	PostgreSQL のキャプチャ処理が終了します。
ユーザの応答:	PowerExchange Navigator または DTLUCBRG ユーティリティを使用して、登録を削除するかまたは登録ステータスを [履歴] に設定してください。その後で登録を再作成してください。
PWX-38712	<b>ノード <i>node_name</i> の作業セッションのロードに失敗しました。</b>
説明:	内部エラーが発生しました。指定のノードから作業セッションをロードしようとしたが失敗しました。
システムのアクション:	PostgreSQL のキャプチャ処理が終了します。
ユーザの応答:	指定のノードに PowerExchange リスナが存在し、CAPI_CONNECTION 文の REPNODE 値 (指定されている場合) が正しいことを確認してください。

PWX-38713	<b>ノード <i>node_name</i> からのキャプチャ登録のロードに失敗しました。</b>
説明:	内部エラーが発生しました。指定のノードからキャプチャ登録をロードしようとしたが失敗しました。
システムのアクション:	PostgreSQL のキャプチャ処理が終了します。
ユーザの応答:	エラーを診断するには、指定ノードの PowerExchange リスナおよびタスクのログファイルを確認してください。サポートが必要な場合は、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-38714	<b>ノード <i>node_name</i> に、PostgreSQL のキャプチャ登録が含まれていません。</b>
説明:	PowerExchange は、指定のノードに接続して PostgreSQL ソースのキャプチャ登録にアクセスできなかったか、または PostgreSQL キャプチャ登録がそのノードに存在しませんでした。
システムのアクション:	PostgreSQL のキャプチャ処理が終了します。
ユーザの応答:	キャプチャノードが使用中か確認してください。
PWX-38715	<b>エラー: カラム <i>table_name column_name</i> で長さ <i>length</i> バイトのデータが切り捨てられます。長さ制限は <i>maximum_length</i> バイトです。</b>
説明:	データ長が最大長の 98,304 バイトを超えているため、PowerExchange は指定の PostgreSQL ソースカラムの変更データを切り捨てます。このメッセージは、PG CAPI_CONNECTION 文の ONDATATRUNC パラメータが FAIL に設定されている場合に発行されます。
システムのアクション:	PostgreSQL のキャプチャ処理が終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWX-38716	<i>message_text</i>
説明:	このメッセージには PostgreSQL CDC に関連する情報が表示され、以前のメッセージを補足する場合があります。
ユーザの応答:	詳細については、このメッセージの前の関連メッセージを検索してください。
PWX-38717	<b>PostgreSQL サーバー <i>server_name</i> およびデータベース <i>database_name</i> への ODBC 接続に失敗しました。接続資格情報: ユーザー <i>user_name</i>、パスワード <i>password</i>。</b>
説明:	指定された PostgreSQL サーバーへの ODBC 接続を確立できませんでした。エラーの詳細については、関連する ODBC メッセージを参照してください。
システムのアクション:	PostgreSQL のキャプチャ処理が終了します。



ユーザの応答： PostgreSQL サーバー名が正しく、サーバーがオンラインで接続を受け付けることを確認してください。また、指定したユーザー資格情報にサーバーへ接続する権限があることを確認してください。

PWX-38718 **エラー: テーブル *table\_name* が存在しないか、タグ *tag\_name* の登録定義と一致しません。**

説明： 指定の PostgreSQL ソーステーブルが削除されたか、または指定のタグ名を持つキャプチャ登録と一致しないようにソーステーブルが変更されています。

システムのアクション： PostgreSQL のキャプチャ処理が終了します。

ユーザの応答： キャプチャ登録定義と一致するようにソーステーブルを再度作成するか、キャプチャ登録を削除してください。

PWX-38719 **内部エラー: 予期しないデータ型 *pw\_x\_datatype* (カラム *column\_name*、テーブル *schema.table\_name*)。**

説明： PostgreSQL ソーステーブルのキャプチャ登録に、指定の PowerExchange 内部データ型を持つカラムが含まれますが、これは PostgreSQL CDC では想定されていません。

システムのアクション： PostgreSQL のキャプチャ処理が終了します。

ユーザの応答： Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWX-38720 PostgreSQL **サーバーへの再接続: *number* 回目 (上限 *maximum\_attempts* 回) の接続を試みます。  
*number\_of\_seconds* 秒間一時停止しています。**

説明： PowerExchange は PostgreSQL サーバーに再接続しようとします。PowerExchange は、次の接続試行の前に、指定された秒数の期間、一時停止します。メッセージでは、試行した接続回数と接続試行の最大回数がレポートされます。

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-38721 PostgreSQL **サーバー *server\_name* に正常に再接続しました。**

説明： PowerExchange から指定の PostgreSQL サーバーへの再接続に成功しました。

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-38722 **警告: テーブル *table\_name* が切り捨てられました。**

説明： PostgreSQL は、指定のソーステーブルを切り捨て、TRUNCATE TABLE レコードを PowerExchange が使用するレプリケーションストロットに送信しました。PowerExchange はこのレコードを検出したときこの警告メッセージを発行しました。その理由は、PG CAPI\_CONNECTION 文の ONTABLETRUNC パラメータが WARN に設定されているためです。

システムのアクション： PostgreSQL のキャプチャ処理は継続します。

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

PWX-38723 **エラー: テーブル *table\_name* が切り捨てられました。**

説明： 変更キャプチャの処理中に、PowerExchange は指定の PostgreSQL ソーステーブルの TRUNCATE TABLE イベントを返しました。PowerExchange は TRUNCATE TABLE イベントをプロパゲートしません。PG CAPI\_CONNECTION 文で ONTABLETRUNC パラメータが FAIL に設定されているため、変更キャプチャ処理はこのエラーメッセージを表示して終了します。

システムのアクション： 変更キャプチャ処理は終了します。

ユーザの応答： Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。PowerExchange ロgger（Linux、UNIX、Windows 用）を使用する場合は、PowerExchange ロggerをウォームスタートできます。PowerExchange でキャプチャ処理を続行し、この状態で警告メッセージが表示されるようにするには、ONTABLETRUNC を WARN に設定してください。

## 第 8 章

# DTL\_BMG003～DTL\_RPS105I

この章では、以下の項目について説明します。

- [DTL\\_BMG003E～DTL\\_BMG101E：データコム低レベルメタデータ取得, 571 ページ](#)
- [DTL\\_DPL002I～DTL\\_DPL300I:Datacom MUF リアルタイムログプロセッサ, 573 ページ](#)
- [DTL\\_DPP001E～DTL\\_DPP993E: IDMS CDC EDP Log Feeder, 576 ページ](#)
- [DTL\\_DPS900I～DTL\\_DPS907I: IDMS インターセプトスタブ, 585 ページ](#)
- [DTL\\_DPW002I～DTL\\_DPW532I:Datacom MUF リアルタイムダイレクトログプロセッサ, 587 ページ](#)
- [DTL\\_DPX000E～DTL\\_DPX999E:IDMS CV 終了およびリアルタイムジャーナルプロセッサ, 592 ページ](#)
- [DTL\\_DPZ500I～DTL\\_DPZ514I:IDMS CDC EDP Log Feeder FAKEIT \(EDM インタフェース\) , 595 ページ](#)
- [DTL\\_PRP001E～DTL\\_PRP302E:Datacom CDC EDP Log Feeder, 597 ページ](#)
- [DTL\\_RPC001E～DTL\\_RPC999E:Datacom および IDMS CDC データスペースコントローラ, 603 ページ](#)
- [DTL\\_RPS001E～DTL\\_RPS105I:Datacom MUF アドレススペースサブタスク終了, 614 ページ](#)

## DTL\_BMG003E～DTL\_BMG101E：データコム低レベルメタデータ取得

DTL\_BMG003E      SYNTAX ERROR AT OPERAND: **オペランド**

説明：              オペランドに構文エラーが含まれています。

システムのアクション： 処理は終了します。

ユーザの応答：      エラーのある SYSIN 文を修正してジョブを再実行します。

DTL\_BMG011E      TABLE STATEMENT MISSING (TABLE **文がありません**)

説明：              必要なテーブル文がパラメータにありません。

システムのアクション： 処理は終了します。

ユーザの応答：      エラーのある SYSIN 文を修正してジョブを再実行します。

DTL\_BMG012E      ERRORS DETECTED IN SYSIN, PROGRAM TERMINATED

説明：              SYSIN DD ストリームに 1 つまたは複数の重大なエラーが発見されたため、処理を継続できません。

システムのアクション 処理は終了します。

ン：

ユーザの応答： エラーのある SYSIN 文を修正してジョブを再実行します。

DTL\_BMG013E DATABASE STATEMENT MISSING (DATABASE **文がありません**)

説明： 必要なデータベース文がパラメータにありません。

システムのアクション 処理は終了します。

ン：

ユーザの応答： エラーのある SYSIN 文を修正してジョブを再実行します。

DTL\_BMG025E LIST STATEMENT MISSING

説明： 必要なリスト文がパラメータに存在しません。

システムのアクション 処理は終了します。

ン：

ユーザの応答： エラーのある SYSIN 文を修正してジョブを再実行します。

DTL\_BMG026E VERSION AND STATUS INCONSISTANT

説明： 次のいずれかが提供されました

- PROD 付きのバージョン
- HIST なしのバージョン 000

システムのアクション 処理は終了します。

ン：

ユーザの応答： エラーのある SYSIN 文を修正してジョブを再実行します。

DTL\_BMG027W NO DATA MATCHES CRITERIA

説明： 選択基準からマッチングするデータが生じませんでした。

システムのアクション 処理は継続します。警告が発行されます。

ン：

ユーザの応答： これは予期される場合もされない場合もあります。それぞれの場合に応じて対応します。

DTL\_BMG101E DSF ERROR *code*

説明： DSF でエラーが発生しました。

システムのアクション 処理は終了します。

ン：

ユーザの応答： 調査してエラーを修正し、再実行します。

# DTL\_DPL002I~DTL\_DPL300I:Datacom MUF リアルタイムログプロセッサ

DTL\_DPL002I INPUT STATEMENT:*input\_line*

説明: 処理中の入力文を表示します。

システムのアクション: 処理は継続します。  
ン:

ユーザの応答: このメッセージは、監査証拠を提供します。

DTL\_DPL005E ERROR READING OR FINDING DTLINPUT DD (DTLINPUT DD の読み取りまたは検索中にエラーが発生しました)

説明: DTLINPUT 入力 DD に問題があります。処理は継続します。

システムのアクション: 処理は継続します。  
ン:

ユーザの応答: 調査して関連するエラーを修正し、必要であればリスタートします。

DTL\_DPL012E ERRORS DETECTED IN DTLINPUT, INPUT IGNORED

説明: 入力にエラーが見つかりました。処理は継続します。

システムのアクション: 処理は継続します。  
ン:

ユーザの応答: 調査して関連するエラーを修正し、必要であればリスタートします。

DTL\_DPL066E NOT RUNNING AUTHORIZED, PROPAGATION TERMINATED

説明: これを実行するには別の権限が必要です。マニュアルを参照してください。

システムのアクション: 処理は終了します。  
ン:

ユーザの応答: 調査してエラーを修正し、再実行します。

DTL\_DPL161E TOKEN SERVICES FAILURE *code*

説明: トークンを通じた、またはトークンに対するデータのアクセスに失敗しました。

システムのアクション: 処理は終了します。  
ン:

ユーザの応答: 調査してエラーを修正し、再実行します。

DTL\_DPL162E UNABLE TO LOCATE MUF

説明: 提供されたパラメータを使ってマルチユーザー機能 (Multi User facility:MUF) を発見できません。

システムのアクション: 処理は終了します。  
ン:

ユーザの応答: 調査してエラーを修正し、再実行します。

DTL\_DPL164E      *TOKEN = token*

説明：              関連するエラーに関与するトークン。

システムのアクション：      処理は終了します。

ユーザの応答：      調査して関連するエラーを修正し、再実行します。

  

DTL\_DPL231I      *dbms\_name* PROPAGATION ENABLED

説明：              データベースに対してプロパゲーションが有効になっていることを示す情報。

システムのアクション：      処理は継続します。

ユーザの応答：      このメッセージは、監査証跡を提供します。

  

DTL\_DPL232I      *dbms\_name* PROPAGATION DISABLED

説明：              データベースに対してプロパゲーションが無効になっていることを示す情報。

システムのアクション：      処理は継続します。

ユーザの応答：      このメッセージは、監査証跡を提供します。

  

DTL\_DPL277I      *MOVER TRANSACTIONS IGNORED = count*

説明：              無視およびフィルタリングされた MOVER トランザクション数の印刷。

システムのアクション：      処理は継続します。

ユーザの応答：      このメッセージは、監査証跡を提供します。

  

DTL\_DPL278I      *OPEN TRANSACTIONS IGNORED = count*

説明：              無視およびフィルタリングされた OPEN トランザクションの印刷。

システムのアクション：      処理は継続します。

ユーザの応答：      このメッセージは、監査証跡を提供します。

  

DTL\_DPL279I      *TOTAL INVOCATIONS = count*

説明：              出口呼び出しの出力。

システムのアクション：      処理は継続します。

ユーザの応答：      このメッセージは、監査証跡を提供します。

  

DTL\_DPL280I      *TOTAL TRANSACTIONS READ = count*

説明：              トランザクション数の印刷。

システムのアクション：      処理は継続します。

ユーザの応答：      このメッセージは、監査証跡を提供します。

ユーザの応答：       このメッセージは、監査証跡を提供します。

DTL\_DPL281I       TOTAL TRANSACTIONS SKIPPED = *count*

説明：               トランザクション数の印刷。

システムのアクション：   処理は継続します。

ユーザの応答：       このメッセージは、監査証跡を提供します。

DTL\_DPL282I       ADD TRANSACTIONS PROCESSED = *count*

説明：               トランザクション数の印刷。

システムのアクション：   処理は継続します。

ユーザの応答：       このメッセージは、監査証跡を提供します。

DTL\_DPL283I       UPDATE TRANSACTIONS PROCESSED = *count*

説明：               トランザクション数の印刷。

システムのアクション：   処理は継続します。

ユーザの応答：       このメッセージは、監査証跡を提供します。

DTL\_DPL284I       DELETE TRANSACTIONS PROCESSED = *count*

説明：               トランザクション数の印刷。

システムのアクション：   処理は継続します。

ユーザの応答：       このメッセージは、監査証跡を提供します。

DTL\_DPL285I       CLOSE TRANSACTIONS PROCESSED = *count*

説明：               トランザクション数の印刷。

システムのアクション：   処理は継続します。

ユーザの応答：       このメッセージは、監査証跡を提供します。

DTL\_DPL286I       LOGCX TRANSACTIONS PROCESSED = *count*

説明：               トランザクション数の印刷。

システムのアクション：   処理は継続します。

ユーザの応答：       このメッセージは、監査証跡を提供します。

DTL\_DPL287I       COMIT TRANSACTIONS PROCESSED = *count*

説明：               トランザクション数の印刷。

システムのアクション：   処理は継続します。

ユーザの応答：       このメッセージは、監査証跡を提供します。

DTL\_DPL288I LOGIT TRANSACTIONS IGNORED = *count*  
 説明： 無視およびフィルタリングされた LOGIT トランザクション数の印刷。  
 システムのアクション： 処理は継続します。  
 ユーザの応答： このメッセージは、監査証跡を提供します。

DTL\_DPL289I LOGTB TRANSACTIONS PROCESSED = *count*  
 説明： トランザクション数の印刷。  
 システムのアクション： 処理は継続します。  
 ユーザの応答： このメッセージは、監査証跡を提供します。

DTL\_DPL290I ROLBK TRANSACTIONS PROCESSED = *count*  
 説明： トランザクション数の印刷。  
 システムのアクション： 処理は継続します。  
 ユーザの応答： このメッセージは、監査証跡を提供します。

DTL\_DPL299E UNKNOWN TRANSACTIONS FOUND = *count*  
 説明： 不明なトランザクションのトランザクション数の印刷。  
 システムのアクション： 処理は終了します。  
 ユーザの応答： Informatica グローバルカスタマサポートにこのエラーを報告します。

DTL\_DPL300I POWEREXCHANGE COLLECTOR INITIALIZED  
 説明： コレクタが初期化され、データを取得する準備ができました。  
 システムのアクション： 処理は継続します。  
 ユーザの応答： このメッセージは、監査証跡を提供します。

## DTL\_DPP001E～DTL\_DPP993E: IDMS CDC EDP Log Feeder

DTL\_DPP001E SYSPRINT DD MISSING (SYSPRINT DD **がありません**)  
 説明： sysprint が使用できませんでした。最も可能性が高い原因は sysprint が存在しないことです。  
 システムのアクション： 処理は終了します。  
 ユーザの応答：



ユーザの応答： 調査して関連するエラーを修正し、再実行します。

DTL\_DPP002I INPUT STATEMENT:*input\_line*

説明： パラメータの完全なリストを作成します。

システムのアクション： 処理は継続します。

ユーザの応答： このメッセージは、監査証跡を提供します。

DTL\_DPP005E ERROR READING OR FINDING SYSIN DD

説明： 入力 SYSIN DD に問題があります。

システムのアクション： 処理は終了します。

ユーザの応答： 調査して関連するエラーを修正し、再実行します。

DTL\_DPP009I CONSOLE STATEMENT:*console\_line*

説明： コンソール出力のコピー。

システムのアクション： 処理は継続します。

ユーザの応答： このメッセージは、監査証跡を提供します。

DTL\_DPP012E ERRORS DETECTED IN SYSIN, PROGRAM TERMINATED

説明： 入力にエラーが見つかったので、処理を終了します。

システムのアクション： 処理は終了します。

ユーザの応答： 調査して関連するエラーを修正し、再実行します。

DTL\_DPP014E CONSOLE INPUT COMMAND IGNORED ON ERROR

説明： 関連するエラーのあるコンソール文を参照してください。

システムのアクション： 処理は終了します。

ユーザの応答： 調査して関連するエラーを修正し、再実行します。

DTL\_DPP106E POWEREXCHANGE REPLICATION ENVIRONMENT NOT FOUND  
(POWEREXCHANGE **レプリケーション環境が見つかりません**)

説明： Change Controller が正しく実行されませんでした。

システムのアクション： 処理は終了します。

ユーザの応答： Change Controller を有効な情報を使って実行します。

DTL\_DPP119E CV ALREADY SPECIFIED

説明： CV パラメータはすでに指定されています。

システムのアクション 処理は終了します。

ン：

ユーザの応答： 調査して関連するエラーを修正し、再実行します。

DTL\_DPP120E NO CV SPECIFIED

説明： 必要な CV パラメータが存在しません。

システムのアクション 処理は終了します。

ン：

ユーザの応答： 調査して関連するエラーを修正し、再実行します。

DTL\_DPP121E UNABLE TO LOCATE CV CV

説明： 指定された CV が見つかりませんでした。SYSIN ストリームのエラーか、CV が Change Controller に定義されていないことが原因です。

システムのアクション 処理は終了します。

ン：

ユーザの応答： コマンドストリームを修正してジョブを再実行するか、Change Controller を使用して CV を定義します。

DTL\_DPP122E **データスペースを確立できませんでした: CV**

説明： 指定された CV には、接続に使用できるデータスペースがありません。原因として可能性が高いのは、Change Controller が終了したことです。

システムのアクション 処理は終了します。

ン：

ユーザの応答： jcl と Change Controller への入力を調べて、Change Controller が現在アクティブであることを確認します。

DTL\_DPP123E TOKEN CREATE ERROR 4

説明： システムトークンの作成が重複により失敗しました。

システムのアクション 処理は終了します。

ン：

ユーザの応答： SYSIN ストリームに記載された CV に対して変更プロパゲータの別のコピーがすでに動作していないことを確認します。

DTL\_DPP124E TOKEN CREATE ERROR 8

説明： トークンの作成で内部エラーが発生しました。

システムのアクション 処理は終了します。

ン：

ユーザの応答： Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

DTL\_DPP161E TOKEN SERVICES FAILURE, RC=*return\_code*

説明： rc が 4 の場合、この CV に対する Change Controller が開始されませんでした。rc が上記以外の場合、トークンサービスで内部エラーが発生しました。

システムのアクション: 処理は終了します。  
ン:

ユーザの応答: rc が 4 の場合は、Change Controller をチェックします。それ以外の場合は、Informatica グローバルカスタマサポートに連絡します。

DTL\_DPP164E トークン= rc

説明: このメッセージは、他のトークンエラーメッセージと組み合わせて生成されます。

システムのアクション: 処理は終了します。  
ン:

ユーザの応答: 他のトークンエラーメッセージの出力を調べます。

DTL\_DPP231I Jobname PROPAGATION COLLECTOR ENABLED FOR  
dbms\_name

説明: データベースでコレクションは有効でした。

システムのアクション: 処理は継続します。  
ン:

ユーザの応答: このメッセージは、監査証跡を提供します。

DTL\_DPP232E PROPAGATION COLLECTOR ALREADY ENABLED FOR  
dbms\_name

説明: キュー追加が失敗しました。これは、プロパゲーションがすでに有効になっていることを表します。

システムのアクション: 処理は終了します。  
ン:

ユーザの応答: 状況からこれが妥当でない場合は、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

DTL\_DPP240E UNABLE TO INITIALIZE CONSOLE RC= rc

説明: コンソールサポート用の共通コンポーネントの初期化中に、戻りコード rc が発生しました。

システムのアクション: 処理は終了します。  
ン:

ユーザの応答: Informatica グローバルカスタマサポートに戻りコードを報告します。

DTL\_DPP243E DTLXISTL が初期化できませんでした rc

説明: タイマ管理用の共通コンポーネントを初期化する際に、エラーが発生しました。

システムのアクション: 処理は終了します。  
ン:

ユーザの応答: Informatica グローバルカスタマサポートに連絡し、サポートを受けてください。

DTL\_DPP244E DTLXIPII が初期化できませんでした *rc*

説明： IDMS インタフェースを初期化する際に、エラーが発生しました。

システムのアクション： 処理は終了します。

ユーザの応答： JCL でプロパゲータのエラーをチェックするか、または Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

  

DTL\_DPP254I FUNCTION BYPASS FOR RUNUNIT *run\_unit*,  
REASON=*feedback*

説明： 理由のフィードバックをともなって発生した BYPASS のレコード

システムのアクション： 処理は継続します。

ユーザの応答： このメッセージは、監査証跡を提供します。

  

DTL\_DPP257E EXISTING TXN FOUND FOR RUNUNIT *run\_unit*

説明： 内部エラーが発生したため、同じトランザクションがシステムに 2 回存在します。

システムのアクション： 処理は終了します。

ユーザの応答： Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

  

DTL\_DPP258E SEQUENCE ERROR ON *rectype*

説明： 対応する BEGN がない *rectype* がトランザクションに見つかるという内部エラーが発生しました。

システムのアクション： 処理は終了します。

ユーザの応答： Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

  

DTL\_DPP259I **トランザクションが *Rectype* として見つかりました。**  
RUNUNIT *Unit\_of\_recovery*, SEQ=*seq1rst2*

説明： トレース出力です。

システムのアクション： 処理は継続します。

ユーザの応答： これは、トレースエントリです。

  

DTL\_DPP260E BEGN UNABLE TO CREATE *TXN/TASK*

説明： 内部エラーです。

システムのアクション： 処理は終了します。

ユーザの応答： Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

  

DTL\_DPP270E LINKAGE FAILURE *rc*

説明： 内部エラーです。

システムのアクション 処理は終了します。

ン：

ユーザの応答： Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

DTL\_DPP271E CDMSLIB ERROR *return\_code*

説明： 変更プロパゲータが CDMSLIB DD 文を見つけられなかったか、データセットを開けませんでした。

システムのアクション 処理は終了します。

ン：

ユーザの応答： 変更プロパゲータの JCL に有効な CDMSLIB DD 文があるかどうかを調べます。

DTL\_DPP282I INSERT TRANSACTIONS PROCESSED = *feedback*

説明： これは PowerExchange ロgger に渡された INSERT トランザクションの数です。

システムのアクション 処理は継続します。

ン：

ユーザの応答： このメッセージは、監査証跡を提供します。

DTL\_DPP283I UPDATE TRANSACTIONS PROCESSED = *feedback*

説明： これは PowerExchange ロgger に渡された UPDATE トランザクションの数です。

システムのアクション 処理は継続します。

ン：

ユーザの応答： このメッセージは、監査証跡を提供します。

DTL\_DPP284I **処理された DELETE トランザクション数**=*feedback*

説明： これは PowerExchange ロgger に渡された DELETE トランザクションの数です。

システムのアクション 処理は継続します。

ン：

ユーザの応答： このメッセージは、監査証跡を提供します。

DTL\_DPP285I **処理された COMMIT トランザクション数=ENDJ による**  
*feedback*

説明： これは、ENDJ のために PowerExchange ロgger に渡された COMMIT トランザクションの数です。

システムのアクション 処理は継続します。

ン：

ユーザの応答： このメッセージは、監査証跡を提供します。

DTL\_DPP286I BUOW TRANSACTIONS PROCESSED = *feedback*

説明： これは PowerExchange ロgger に渡された BUOW トランザクションの数です。

システムのアクション: 処理は継続します。  
ン:

ユーザの応答: このメッセージは、監査証跡を提供します。

DTL\_DPP287I COMMIT TRANSACTIONS PROCESSED = *feedback* BY COMT

説明: これは、COMT のために PowerExchange ロgger に渡された COMMIT トランザクションの数です。

システムのアクション: 処理は継続します。  
ン:

ユーザの応答: このメッセージは、監査証跡を提供します。

DTL\_DPP288I ABORT TRANSACTIONS PROCESSED = *feedback*

説明: これは PowerExchange ロgger に渡された ABORT トランザクションの数です。

システムのアクション: 処理は継続します。  
ン:

ユーザの応答: このメッセージは、監査証跡を提供します。

DTL\_DPP301E EDP CMD *command* ERROR  
RC=*return\_code1**return\_code2*, status JOB=*jobname*  
UOW=*tkn1**tkn2*

説明: 示されたジョブ名の tkn1 tkn2 作業単位でコマンドが失敗しました。

システムのアクション: 処理は終了します。  
ン:

ユーザの応答: 調査して、可能なら関連するエラーを修正し、再実行します。関連するメッセージにこれに対応する理由がない場合、または不明な場合は、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

DTL\_DPP302E DPII ABENDED

説明: 変更プロパゲータからの IDMS インタフェースが異常終了しました。

システムのアクション: 処理は終了します。  
ン:

ユーザの応答: Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

DTL\_DPP980I USER HAS REQUESTED FILTERING OF SR4 RECORDS (**ユーザーが SR4 レコードのフィルタ処理を要求しました**)

説明: ユーザーが DTLXIPIP 入力ストリームに "IGNORE\_SR4" を指定しました。変更ストリームで見つかった SR4 レコードはすべて無視されます。この機能を使用するときは、必ず Informatica グローバルカスタマサポートの指示に従ってください。

システムのアクション: 処理は継続します。  
ン:

ユーザの応答: このメッセージは、監査証跡を提供します。

DTL\_DPP981I      USER HAS REQUESTED USE OF SR3 HASH TABLE (**ユーザーが SR3 ハッシュテーブルの使用を要求しました**)

説明：              ユーザーが DTLXIPIP 入力ストリームで "SR3\_HASH" を指定しました。変更ストリームで見つかった SR3 レコードはすべて、SR3 ジャーナルレコードを再確認するためのユーティリティに対して SR3 ハッシュテーブルを使用します。これは、DTLUCSR2 によって生成された入力を使って生成されたものです。

システムのアクション：      処理は継続します。

ユーザの応答：        このメッセージは、監査証跡を提供します。

DTL\_DPP982I      USER HAS DISABLED USE OF SR3 HASH TABLE

説明：              ユーザーが DTLXIPIP 入力ストリームで "SR3\_HASH OFF" を指定しました。変更ストリームで見つかった SR3 レコードは、SR3 ハッシュテーブルを使用しません。これは DTLUCSR2 によって SR3 ジャーナルレコードを再確認するために生成された入力を使って作成されたものです。

システムのアクション：      処理は継続します。

ユーザの応答：        このメッセージは、監査証跡を提供します。

DTL\_DPP983E      UNABLE TO ESTABLISH SR3 HASH TABLE

説明：              SR3 ハッシュテーブルの確立でエラーが発生しました。いっしょに表示されるメッセージにエラーの理由が示されます。

システムのアクション：      処理は継続します。

ユーザの応答：        問題が解決しない場合は、Informatica グローバルカスタマサポートに連絡します。

DTL\_DPP984I      SR3 HASH TABLE SUCCESSFULLY BUILT

説明：              SR3 ハッシュテーブルの確立が正常に実行されました。

システムのアクション：      処理は継続します。

ユーザの応答：        このメッセージは、監査証跡を提供します。

DTL\_DPP985E      **ハッシュインタフェース呼び出しエラー=rc**

説明：              SR3 ハッシュテーブルインタフェースの使用中にエラーが発生しました。いっしょに表示されるメッセージにエラーの理由が示される場合があります。

システムのアクション：      処理は継続します。

ユーザの応答：        問題が解決しない場合は、Informatica グローバルカスタマサポートに連絡します。

DTL_DPP986E	<b>ハッシュインタフェース作成エラー=rc</b>
説明:	SR3 ハッシュテーブルの作成中にエラーが発生しました。 いっしょに表示されるメッセージにエラーの理由が示されます。
システムのアクション:	処理は継続します。
ユーザの応答:	問題が解決しない場合は、Informatica グローバルカスタマサポートに連絡します。
DTL_DPP987E	<b>HASH INTERFACE DESTROY ERROR = rc</b>
説明:	SR3 ハッシュテーブルの削除中にエラーが発生しました。 いっしょに表示されるメッセージにエラーの理由が示されます。
システムのアクション:	処理は継続します。
ユーザの応答:	問題が解決しない場合は、Informatica グローバルカスタマサポートに連絡します。
DTL_DPP988E	<b>ハッシュインタフェース検索エラー=rc</b>
説明:	SR3 ハッシュテーブルの使用中にエラーが発生しました。 いっしょに表示されるメッセージにエラーの理由が示されます。
システムのアクション:	処理は継続します。
ユーザの応答:	問題が解決しない場合は、Informatica グローバルカスタマサポートに連絡します。
DTL_DPP989E	<b>メッセージRETURNED HASH INTERFACE ERROR MSG</b>
説明:	SR3 ハッシュテーブルインタフェースの使用中にエラーが発生しました。 このメッセージには、インタフェースから返された追加のエラー情報が含まれます。
システムのアクション:	処理は継続します。
ユーザの応答:	問題が解決しない場合は、Informatica グローバルカスタマサポートに連絡します。
DTL_DPP990I	<b>USER HAS DISABLED FILTERING OF SR4 RECORDS</b>
説明:	ユーザーが DTLXIPIP 入力ストリームに "IGNORE_SR4 OFF" を指定しました。 変更ストリームで見つかった SR4 レコードはすべて処理されます。 この機能を使用するときは、必ず Informatica グローバルカスタマサポートの指示に従ってください。
システムのアクション:	処理は継続します。
ユーザの応答:	このメッセージは、監査証跡を提供します。



DTL_DPP991E	LOAD OF HASH ROUTINE DTLIAHTB, FAILED
説明:	ハッシュインタフェースルーチン DTLIAHTB モジュールをロードできませんでした。DTLIAHTB モジュールが steplib ライブラリに存在することを確認します。
システムのアクション:	処理は継続します。
ユーザの応答:	問題が解決しない場合は、Informatica グローバルカスタマサポートに連絡します。
DTL_DPP992E	UNABLE TO RESOLVE BEFORE IMAGE SR3 DB-KEY <i>db-key</i> FROM HASH TABLE
説明:	SR3 ハッシュテーブルを使って指定された操作前の画像を見つける際にエラーが発生しました。いっしょに表示されるメッセージにエラーの理由が示されます。
システムのアクション:	処理は継続します。
ユーザの応答:	問題が解決しない場合は、Informatica グローバルカスタマサポートに連絡します。
DTL_DPP993E	<b>ハッシュテーブルから操作後の画像 SR3 DB キー <i>db-key</i> を解決できませんでした</b>
説明:	SR3 ハッシュテーブルを使って指定された操作後の画像を見つける際にエラーが発生しました。いっしょに表示されるメッセージにエラーの理由が示されます。
システムのアクション:	処理は継続します。
ユーザの応答:	問題が解決しない場合は、Informatica グローバルカスタマサポートに連絡します。

## DTL\_DPS900I~DTL\_DPS907I: IDMS インターセプトスタブ

DTL_DPS900I	DETAIL-IDMS INITIALIZATION
説明:	これは、IDMS 終了のロードが開始されたことを示す情報メッセージです。
システムのアクション:	処理は継続します。
ユーザの応答:	このメッセージは、監査証跡を提供します。
DTL_DPS901E	LOAD ERROR OF DTLXIPIX
説明:	DTLXIPIX はロードできませんでした。

システムのアクション: 処理は終了します。  
ン:

ユーザの応答: IDMS CV JCL を調べて、IDMS ライブラリに対する PowerExchange 変更キャプチャが STEPLIB に存在するかどうかを確認します。JCL を修正して IDMS をリスタートします。

DTL\_DPS902E NO STORAGE FOR DETAIL-IDMS EXIT

説明: これは内部エラーです。

システムのアクション: 処理は終了します。  
ン:

ユーザの応答: Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

DTL\_DPS903E DETAIL-IDMS INITIALIZATION FAILURE

説明: その他のエラーが発生したので、IDMS は続行できません。

システムのアクション: 処理は継続します。  
ン:

ユーザの応答: 他のエラーメッセージを探し、問題に対処します。

DTL\_DPS904E RESTART WILL BE ATEMPTED

説明: 現在のタスクで異常が発生したので、リスタートを試みます。

システムのアクション: 処理は継続します。  
ン:

ユーザの応答: このメッセージは、監査証跡を提供します。

DTL\_DPS905E RESTART NOT POSSIBLE

説明: 現在のタスクで異常が発生し、リスタートは不可能です。

システムのアクション: 処理は終了します。  
ン:

ユーザの応答: 他のエラーメッセージを探し、問題に対処します。

DTL\_DPS906I DETAIL-IDMS INITIALIZATION COMPLETE (DETAIL-IDMS の初期化が完了しました)

説明: これは、インターセプトスタブが正常にリンクされ、IDMS 終了として起動されたことを示す情報メッセージです。

システムのアクション: 処理は継続します。  
ン:

ユーザの応答: このメッセージは、監査証跡を提供します。

DTL\_DPS907I ALL FACILITIES NOT CURRENTLY ACTIVE

説明: 戻りコードが 4 なので、初期化は正常に完了していません。これは必ずしも問題とは限りません。

システムのアクション: 処理は継続します。  
ン:

ユーザの応答: これが問題である場合は、関連するメッセージを調べます。

# DTL\_DPW002I~DTL\_DPW532I:Datacom MUF リアルタイムダイレクトログプロセッサ

DTL\_DPW002I INPUT STATEMENT:*Input\_line*

説明: 処理中の入力文を表示します。

システムのアクション: 処理は継続します。  
ン:

ユーザの応答: このメッセージは、監査証拠を提供します。

DTL\_DPW005E ERROR READING OR FINDING DTLINPUT DD (DTLINPUT DD の読み取りまたは検索中にエラーが発生しました)

説明: DTLINPUT 入力 DD に問題があります。処理は継続します。

システムのアクション: 処理は継続します。  
ン:

ユーザの応答: 調査して関連するエラーを修正し、必要であればリスタートします。

DTL\_DPW012E ERRORS DETECTED IN DTLINPUT, INPUT IGNORED

説明: 入力にエラーが見つかりました。処理は継続します。

システムのアクション: 処理は継続します。  
ン:

ユーザの応答: 調査して関連するエラーを修正し、必要であればリスタートします。

DTL\_DPW066E NOT RUNNING AUTHORIZED, PROPAGATION TERMINATED

説明: これを実行するには別の権限が必要です。マニュアルを参照してください。

システムのアクション: 処理は終了します。  
ン:

ユーザの応答: 調査してエラーを修正し、再実行します。

DTL\_DPW106E DETAIL PROPAGATION ENVIRONMENT NOT FOUND

説明: Change Controller が正しく実行されませんでした。

システムのアクション: 処理は終了します。  
ン:

ユーザの応答: Change Controller を有効な情報を使って実行します。

DTL\_DPW119E MUF ALREADY SPECIFIED (MUF はすでに指定されています)

説明: MUF パラメータはすでに提供されています。

システムのアクション: 処理は終了します。  
ン:

ユーザの応答: 調査して関連するエラーを修正し、再実行します。

DTL_DPW120E	NO MUF SPECIFIED (MUF が指定されていません)
説明:	必要な MUF パラメータが存在しません。
システムのアクション:	処理は終了します。
ユーザの応答:	調査して関連するエラーを修正し、再実行します。
DTL_DPW160I	UNABLE TO LOAD MODULE <i>name</i>
説明:	示されたモジュールをロードできませんでした。
システムのアクション:	処理は終了します。
ユーザの応答:	調査しても解決策が見つからない場合は、Informatica グローバルカスタマサポートに連絡します。
DTL_DPW161E	TOKEN SERVICES FAILURE <i>code</i>
説明:	トークンを通じた、またはトークンに対するデータのアクセスに失敗しました。
システムのアクション:	処理は終了します。
ユーザの応答:	調査してエラーを修正し、再実行します。
DTL_DPW162E	UNABLE TO LOCATE MUF
説明:	提供されたパラメータを使ってマルチユーザー機能 (Multi User facility:MUF) を発見できません。
システムのアクション:	処理は終了します。
ユーザの応答:	調査してエラーを修正し、再実行します。
DTL_DPW164E	TOKEN = <i>token</i>
説明:	関連するエラーに関与するトークン
システムのアクション:	処理は終了します。
ユーザの応答:	調査して関連するエラーを修正し、再実行します。
DTL_DPW233I	Jobname PROPAGATION COLLECTOR ENABLED FOR <i>dbms_name</i>
説明:	データベースでコレクションは有効でした。
システムのアクション:	処理は継続します。
ユーザの応答:	このメッセージは、監査証跡を提供します。
DTL_DPW234E	PROPAGATION COLLECTOR ALREADY ENABLED FOR <i>dbms_name</i>
説明:	キュー追加が失敗しました。これは、プロパゲーションがすでに有効になっていることを表します。

システムのアクション 処理は終了します。

ン:

ユーザの応答: 状況からこれが妥当でない場合は、Informatica グローバルカスタマ  
サポートにお問い合わせください。

DTL\_DPW260I CYCLE START FOUND FOR SEQUENCE NUMBER = *seq\_start*

説明: サイクル開始シーケンス番号の出力。

システムのアクション 処理は継続します。

ン:

ユーザの応答: このメッセージは、監査証跡を提供します。

DTL\_DPW261I CYCLE END FOUND FOR SEQUENCE NUMBER = *seq\_end*

説明: サイクル終了シーケンス番号の印刷。

システムのアクション 処理は継続します。

ン:

ユーザの応答: このメッセージは、監査証跡を提供します。

DTL\_DPW277I MOVER TRANSACTIONS IGNORED = *count*

説明: 無視およびフィルタリングされた MOVER トランザクション数の印刷。

システムのアクション 処理は継続します。

ン:

ユーザの応答: このメッセージは、監査証跡を提供します。

DTL\_DPW278I OPEN TRANSACTIONS IGNORED = *count*

説明: 無視およびフィルタリングされた OPEN トランザクションの印刷。

システムのアクション 処理は継続します。

ン:

ユーザの応答: このメッセージは、監査証跡を提供します。

DTL\_DPW279I TOTAL INVOCATIONS = *count*

説明: 出口呼び出しの出力。

システムのアクション 処理は継続します。

ン:

ユーザの応答: このメッセージは、監査証跡を提供します。

DTL\_DPW280I TOTAL TRANSACTIONS READ = *count*

説明: トランザクション数の印刷。

システムのアクション 処理は継続します。

ン:

ユーザの応答: このメッセージは、監査証跡を提供します。

DTL\_DPW281I      TOTAL TRANSACTIONS SKIPPED = *count*

説明：              トランザクション数の印刷。

システムのアクション：      処理は継続します。

ユーザの応答：      このメッセージは、監査証跡を提供します。

DTL\_DPW282I      ADD TRANSACTIONS PROCESSED = *count*

説明：              トランザクション数の印刷。

システムのアクション：      処理は継続します。

ユーザの応答：      このメッセージは、監査証跡を提供します。

DTL\_DPW283I      UPDATE TRANSACTIONS PROCESSED = *count*

説明：              トランザクション数の印刷。

システムのアクション：      処理は継続します。

ユーザの応答：      このメッセージは、監査証跡を提供します。

DTL\_DPW284I      DELETE TRANSACTIONS PROCESSED = *count*

説明：              トランザクション数の印刷。

システムのアクション：      処理は継続します。

ユーザの応答：      このメッセージは、監査証跡を提供します。

DTL\_DPW285I      CLOSE TRANSACTIONS PROCESSED = *count*

説明：              トランザクション数の印刷。

システムのアクション：      処理は継続します。

ユーザの応答：      このメッセージは、監査証跡を提供します。

DTL\_DPW286I      LOGCX TRANSACTIONS PROCESSED = *count*

説明：              トランザクション数の印刷。

システムのアクション：      処理は継続します。

ユーザの応答：      このメッセージは、監査証跡を提供します。

DTL\_DPW287I      COMMIT TRANSACTIONS PROCESSED = *count*

説明：              トランザクション数の印刷。

システムのアクション：      処理は継続します。

ユーザの応答：      このメッセージは、監査証跡を提供します。

DTL\_DPW288I LOGIT TRANSACTIONS IGNORED = *count*  
 説明： 無視およびフィルタリングされた LOGIT トランザクション数の印刷。  
 システムのアクション： 処理は継続します。  
 ユーザの応答： このメッセージは、監査証跡を提供します。

DTL\_DPW289I LOGTB TRANSACTIONS PROCESSED = *count*  
 説明： トランザクション数の印刷。  
 システムのアクション： 処理は継続します。  
 ユーザの応答： このメッセージは、監査証跡を提供します。

DTL\_DPW290I ROLBK TRANSACTIONS PROCESSED = *count*  
 説明： トランザクション数の印刷。  
 システムのアクション： 処理は継続します。  
 ユーザの応答： このメッセージは、監査証跡を提供します。

DTL\_DPW299E UNKNOWN TRANSACTIONS FOUND = *count*  
 説明： 不明なトランザクションのトランザクション数の印刷。  
 システムのアクション： 処理は終了します。  
 ユーザの応答： Informatica グローバルカスタマサポートにこのエラーを報告します。

DTL\_DPW301E EDP コマンド *command*、エラー戻り値 *return\_code1*、  
*status*、ジョブ=*jobname*、UOW=*tkn1tkn2*  
 説明： 示されたジョブ名の tkn1 tkn2 作業単位でコマンドが失敗しました。  
 システムのアクション： 処理は終了します。  
 ユーザの応答： 調査して、可能なら関連するエラーを修正し、再実行します。関連するメッセージにこれに対応する理由がない場合、または不明な場合は、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

DTL\_DPW302E UNREGISTERED ELEMENT *element*、IN MODULE DBID=*dbid*、  
 TBL=*table*、SOURCE=*source*  
 説明： キャプチャ対象として登録されたテーブルに、未登録のエレメントが含まれています。これは、テーブルが再登録されずにデータベースが変更されたことを示し、他のタスクがこの収集のターゲットに対して動作した可能性があります。  
 システムのアクション： 処理は終了します。  
 ユーザの応答：

ユーザの応答：       メッセージを使って原因を判定し、範囲を確定し、解決法を見つけます。このテーブルと他の影響されるテーブルを作成し直してからキャプチャをリスタートする必要がある可能性があります。Informatica グローバルカスタマサポートに連絡し、サポートを受けてください。

DTL\_DPW303E       CHECKPOINT FOR NON ACTIVE TASK

説明：               "LOGC"または"COMIT"チェックポイントがアクティブでないタスクに見つかりました。

システムのアクション：   処理は終了します。

ユーザの応答：       調査して、可能なら関連するエラーを修正し、再実行します。関連するメッセージにこれに対応する理由がない場合、または不明な場合は、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

DTL\_DPW531I       dbms\_name PROPAGATION ENABLED

説明：               データベースに対してプロパゲーションが有効になっていることを示す情報。

システムのアクション：   処理は継続します。

ユーザの応答：       このメッセージは、監査証跡を提供します。

DTL\_DPW532I       dbms\_name PROPAGATION DISABLED

説明：               データベースに対してプロパゲーションが無効になっていることを示す情報。

システムのアクション：   処理は継続します。

ユーザの応答：       このメッセージは、監査証跡を提供します。

## DTL\_DPX000E～DTL\_DPX999E:IDMS CV 終了およびリアルタイムジャーナルプロセッサ

DTL\_DPX000E       UNABLE TO ESTABLISH ENVIRONMENT

説明：               IDMS 環境が正常に確立されませんでした。

システムのアクション：   処理は終了します。

ユーザの応答：       調査して、可能なら関連するエラーを修正し、再実行します。関連するメッセージにこれに対応する理由がない場合、または不明な場合は、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。



DTL\_DPX002I      INPUT STATEMENT:*Input\_line*  
 説明：            処理中の入力文を表示します。  
 システムのアクション：      処理は継続します。  
 ユーザの応答：      このメッセージは、監査証跡を提供します。

DTL\_DPX005E      ERROR READING OR FINDING DTLINPUT DD (DTLINPUT DD の  
**読み取りまたは検索中にエラーが発生しました**)  
 説明：            DTLINPUT 入力 DD に問題があります。処理は継続します。  
 システムのアクション：      処理は継続します。  
 ユーザの応答：      調査して関連するエラーを修正し、必要であればリスタートします。

DTL\_DPX012E      ERRORS DETECTED IN DTLINPUT, INPUT IGNORED  
 説明：            入力にエラーが見つかりました。処理は継続します。  
 システムのアクション：      処理は継続します。  
 ユーザの応答：      調査して関連するエラーを修正し、必要であればリスタートします。

DTL\_DPX101I      dbms PROPAGATION INITIALIZATION'  
 説明：            プロパゲーションが指定されたデータベースに対して無効になりました。  
 システムのアクション：      処理は継続します。  
 ユーザの応答：      このメッセージは、監査証跡を提供します。

DTL\_DPX121I      CV **プロパティパゲーションは有効です**  
 説明：            プロパゲーションが指定されたデータベースに対して有効になりました。  
 システムのアクション：      処理は継続します。  
 ユーザの応答：      このメッセージは、監査証跡を提供します。

DTL\_DPX122I      CV **プロパゲーション環境が見つかりません**  
 説明：            示された名前に対して Change Controller で定義されたものの中に  
                     CVが見つかりませんでした。  
 システムのアクション：      処理は終了します。  
 ユーザの応答：      ジョブ名または Change Controller のコマンドストリームを修正し  
                     て、ジョブを再実行します。

DTL\_DPX123I      CV **プロパゲーションは無効です**  
 説明：            プロパゲーションが指定されたデータベースに対して無効になりました。

システムのアクション: 処理は継続します。

ユーザの応答: このメッセージは、監査証跡を提供します。

DTL\_DPX161E TOKEN SERVICES FAILURE *return\_code*

説明: 戻りコードが4の場合、このCVに対するChange Controllerが開始されませんでした。4より大きい戻りコードは、内部トークンサービスエラーを示します。

システムのアクション: 処理は終了します。

ユーザの応答: 戻りコード4については、Change Controllerをチェックします。それ以外の場合は、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

DTL\_DPX164E トークン=*token\_value*

説明: このメッセージは診断情報を提供します。

システムのアクション: 処理は継続します。他のメッセージ用

ユーザの応答: 他のメッセージの出力を調べます。

DTL\_DPX798E SUBSYSTEM ERROR, RC=*return\_code*, WHILE RUNNING IDMS IN 非標準 STORAGE PROTECT KEY

説明: サブシステムでエラーが発生しました。

システムのアクション: 処理は終了します。

ユーザの応答: 調査して、可能なら関連するエラーを修正し、再実行します。関連するメッセージにこれに対応する理由がない場合、または不明な場合は、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

DTL\_DPX799I NON STANDARD STORAGE PROTECT KEY:*key*

説明: 表示されたキーは標準ではありません。

システムのアクション: 処理は継続します。

ユーザの応答: 関連するメッセージを調べます。

DTL\_DPX999E DATASPACE IN UNKNOWN STATE

説明: データタイプが不明（またはTIME、AREA）です。

システムのアクション: 処理は終了します。そのとき、型を含めてデータをダンプします。

ユーザの応答: 調査して、可能なら関連するエラーを修正し、再実行します。このポイントから後をリスタートする必要がある場合があります。関連するメッセージにこれに対応する理由がない場合、または不明な場合は、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

# DTL\_DPZ500I~DTL\_DPZ514I:IDMS CDC EDP Log Feeder FAKEIT (EDM インタフェース)

DTL\_DPZ500I      **必要な POWEREXCHANGE スタブパラメータカウン트는 *Number* です**

説明：              パラメータ数のレコード。

システムのアクション：      処理は継続します。  
ン：

ユーザの応答：      監査証跡

DTL\_DPZ501I      POWEREXCHANGE STUB FUNCTION IS *function*

説明：              機能のレコードは PowerExchange ロggerに渡されます。

システムのアクション：      処理は継続します。  
ン：

ユーザの応答：      このメッセージは、監査証跡を提供します。

DTL\_DPZ502E      POWEREXCHANGE STUB UNKNOWN FUNCTION *function*

説明：              内部エラー。

システムのアクション：      処理は終了します。  
ン：

ユーザの応答：      Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

DTL\_DPZ503E      POWEREXCHANGE STUB PARM COUNT NEEDED IS *Number*

説明：              内部エラー。

システムのアクション：      処理は終了します。  
ン：

ユーザの応答：      Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

DTL\_DPZ504I      POWEREXCHANGE **スタブパラメータ** UOW JOBNAME は *jobname* です

説明：              作業単位のジョブ名が出力されます。

システムのアクション：      処理は継続します。  
ン：

ユーザの応答：      このメッセージは、監査証跡を提供します。

DTL\_DPZ505I      POWEREXCHANGE **スタブパラメータ** UID は *user\_ID* です

説明：              渡されたユーザー ID が出力されます。

システムのアクション：      処理は継続します。  
ン：

ユーザの応答：      このメッセージは、監査証跡を提供します。

DTL\_DPZ506I POWEREXCHANGE **スタブパラメータ** SOURCE は *source\_name* です

説明： PowerExchange ロggerに渡されたソース名が出力されます。

システムのアクション： 処理は継続します。

ユーザの応答： このメッセージは、監査証跡を提供します。

DTL\_DPZ507I POWEREXCHANGE **スタブパラメータ** DATA1 (80 バイト用) は data です

説明： 出力されるデータは、更新の挿入、削除、または操作前の画像の最初の 80 バイトです。

システムのアクション： 処理は継続します。

ユーザの応答： このメッセージは、監査証跡を提供します。

DTL\_DPZ508I POWEREXCHANGE STUB PARM DATA2 FOR 80 BYTES IS **データ**

説明： 出力されるデータは、更新の操作後の画像の最初の 80 バイトです。

システムのアクション： 処理は継続します。

ユーザの応答： このメッセージは、監査証跡を提供します。

DTL\_DPZ509I POWEREXCHANGE **スタブパラメータ** OPTS は *user\_ID* です

説明： PowerExchange ロggerに渡されたオプションが出力されます。

システムのアクション： 処理は継続します。

ユーザの応答： このメッセージは、監査証跡を提供します。

DTL\_DPZ510I POWEREXCHANGE STUB PARM OPTS LEN IS *user\_ID*

説明： この後のデータの実際の長さが出力されます。

システムのアクション： 処理は継続します。

ユーザの応答： このメッセージは、監査証跡を提供します。

DTL\_DPZ511I POWEREXCHANGE **スタブパラメータ** DATA1 LEN は length です

説明： この後のデータの実際の長さが出力されます。

システムのアクション： 処理は継続します。

ユーザの応答： このメッセージは、監査証跡を提供します。

DTL\_DPZ512I POWEREXCHANGE STUB PARM DATA2 LEN IS **長さ**

説明： この後のデータの実際の長さが出力されます。

システムのアクション: 処理は継続します。  
ン:

ユーザの応答: このメッセージは、監査証跡を提供します。

DTL\_DPZ513I POWEREXCHANGE STUB PARM UOW RUID IS *run\_unit\_id*

説明: 実行単位 ID が出力されます。これは IDMS 実行単位 ID に一致します。

システムのアクション: 処理は継続します。  
ン:

ユーザの応答: このメッセージは、監査証跡を提供します。

DTL\_DPZ514I POWEREXCHANGE **スタブパラメータ** UOW TSN IS *transaction\_seq\_no* **です**

説明: トランザクションシーケンス番号が出力されます。これは実行単位 ID 内のシーケンス番号です。

システムのアクション: 処理は継続します。  
ン:

ユーザの応答: このメッセージは、監査証跡を提供します。

## DTL\_PRP001E~DTL\_PRP302E:Datacom CDC EDP Log Feeder

DTL\_PRP001E SYSPRINT DD MISSING (SYSPRINT DD **がありません**)

説明: sysprint が使用できませんでした。最も可能性が高い原因は sysprint が存在しないことです。

システムのアクション: 処理は終了します。  
ン:

ユーザの応答: 調査して関連するエラーを修正し、再実行します。

DTL\_PRP002I **入力文** *Input\_line*

説明: パラメータの完全なリストを作成します。

システムのアクション: 処理は継続します。  
ン:

ユーザの応答: このメッセージは、監査証跡を提供します。

DTL\_PRP005E ERROR READING OR FINDING SYSIN DD

説明: 入力 SYSIN DD に問題があります。

システムのアクション: 処理は終了します。  
ン:

ユーザの応答: 調査して関連するエラーを修正し、再実行します。

DTL\_PRP009I      CONSOLE STATEMENT:data  
 説明：              処理中のコンソール入力の出力。  
 システムのアクション：      処理は継続します。  
 ユーザの応答：      監査証跡

DTL\_PRP012E      ERRORS DETECTED IN SYSIN, PROGRAM TERMINATED  
 説明：              入力にエラーが見つかったので、処理を終了します。  
 システムのアクション：      処理は終了します。  
 ユーザの応答：      調査して関連するエラーを修正し、再実行します。

DTL\_PRP014E      CONSOLE INPUT COMMAND IGNORED ON ERROR  
 説明：              コンソール入力にエラーが見つかったので、処理を終了します。  
 システムのアクション：      処理は終了します。  
 ユーザの応答：      調査して関連するエラーを修正し、再実行します。

DTL\_PRP060E      DATA = *data*  
 説明：              トレースからのデータまたは診断用のデータの出力。  
 システムのアクション：      処理は継続します。  
 ユーザの応答：      監査証跡または他のメッセージのサポート。

DTL\_PRP061E      UPPER = *data*  
 説明：              トレースからのデータまたは診断用のデータ（16 進ペアの 1 文字目）の出力。  
 システムのアクション：      処理は継続します。  
 ユーザの応答：      監査証跡または他のメッセージのサポート。

DTL\_PRP062E      LOWER = *data*  
 説明：              トレースからの日付または診断の日付（16 進数ペアの 2 番目の文字）の印刷。  
 システムのアクション：      処理は継続します。  
 ユーザの応答：      監査証跡または他のメッセージのサポート。

DTL\_PRP070E      HEADER DATA DUMP  
 説明：              トレースからのデータまたは診断、ヘッダ用のデータの出力。  
 システムのアクション：      処理は継続します。  
 ユーザの応答：      監査証跡または他のメッセージのサポート。

DTL\_PRP119E MUF ALREADY SPECIFIED (MUF **はすでに指定されています**)

説明: MUF パラメータはすでに提供されています。

システムのアクション: 処理は終了します。  
ン:

ユーザの応答: 調査して関連するエラーを修正し、再実行します。

DTL\_PRP120E NO MUF SPECIFIED (MUF **が指定されていません**)

説明: 必要な MUF パラメータが存在しません。

システムのアクション: 処理は終了します。  
ン:

ユーザの応答: 調査して関連するエラーを修正し、再実行します。

DTL\_PRP121E MUF *MUF* **が見つかりませんでした**

説明: 示された MUF が見つかりませんでした。

システムのアクション: 処理は終了します。  
ン:

ユーザの応答: 調査して関連するエラーを修正し、再実行します。

DTL\_PRP122E UNABLE TO ESTABLISH DATASPACE FOR *MUF*

説明: 指定された MUF のデータスペースを発見または作成できませんでした。

システムのアクション: 処理は終了します。  
ン:

ユーザの応答: Change Controller をチェックして、指定された MUF が作成モードで指定されていることを確認します。

DTL\_PRP165I *MUF* **のトークンが作成されました**

説明: 指定された MUF のトークンが作成されました。

システムのアクション: 処理は継続します。  
ン:

ユーザの応答: このメッセージは、監査証跡を提供します。

DTL\_PRP221I DATASPACE IS NOT-ACTIVE FOR *dbms\_name* NON CREATE MODE

説明: Change Controller が作成モードで動作していないため、データスペースを作成できませんでした。

システムのアクション: 処理は終了します。  
ン:

ユーザの応答: Change Controller を作成モードで実行します。

DTL\_PRP226E TOKEN RETRIEVAL ERROR, RC=*return\_code*

説明: プロセスがトークンの取得中にエラーを受け取りました。

システムのアクション: 処理は終了します。

ン:

ユーザの応答: Informatica グローバルカスタマサポートに連絡し、サポートを受けてください。

DTL\_PRP227E TOKEN CREATION ERROR *return\_code*

説明: プロセスがトークンの作成中にエラーを受け取りました。

システムのアクション: 処理は終了します。

ン:

ユーザの応答: Informatica グローバルカスタマサポートに連絡し、サポートを受けてください。

DTL\_PRP231I Jobname PROPAGATION COLLECTOR ENABLED FOR  
*dbms\_name*

説明: データベースでコレクションは有効でした。

システムのアクション: 処理は継続します。

ン:

ユーザの応答: このメッセージは、監査証拠を提供します。

DTL\_PRP232E PROPAGATION COLLECTOR ALREADY ENABLED FOR  
*dbms\_name*

説明: キュー追加が失敗しました。これは、プロパゲーションがすでに有効になっていることを表します。

システムのアクション: 処理は終了します。

ン:

ユーザの応答: 状況からこれが妥当でない場合は、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

DTL\_PRP240E UNABLE TO INITIALIZE CONSOLE RC= *return\_code*

説明: コンソールサポートコンポーネントの初期化が失敗し、戻りコードが返されました。

システムのアクション: 処理は終了します。

ン:

ユーザの応答: Informatica グローバルカスタマサポートに戻りコードを報告します。

DTL\_PRP243E UNABLE TO INITIALIZE DTLXISTL

説明: タイマ管理コンポーネントの初期化中にエラーが発生しました。

システムのアクション: 処理は終了します。

ン:

ユーザの応答: Informatica グローバルカスタマサポートに連絡し、サポートを受けてください。



DTL\_PRP259I      TRANSACTION FOUND AS **トランザクション**。 RUNUNIT  
*Run\_unit*, UOW=*UOW*

説明：              トランザクション実行単位および作業単位/リカバリ単位の出力。

システムのアクション：      処理は継続します。

ユーザの応答：      このメッセージは、監査証跡を提供します。

  

DTL\_PRP260I      CYCLE START FOUND FOR SEQUENCE NUMBER = *seq\_start*

説明：              サイクル開始シーケンス番号の出力。

システムのアクション：      処理は継続します。

ユーザの応答：      このメッセージは、監査証跡を提供します。

  

DTL\_PRP261I      CYCLE END FOUND FOR SEQUENCE NUMBER = *seq\_end*

説明：              サイクル終了シーケンス番号の印刷。

システムのアクション：      処理は継続します。

ユーザの応答：      このメッセージは、監査証跡を提供します。

  

DTL\_PRP280I      TOTAL TRANSACTIONS READ = *count*

説明：              トランザクション数の印刷。

システムのアクション：      処理は継続します。

ユーザの応答：      このメッセージは、監査証跡を提供します。

  

DTL\_PRP281I      TOTAL TRANSACTIONS SKIPPED = *count*

説明：              トランザクション数の印刷。

システムのアクション：      処理は継続します。

ユーザの応答：      このメッセージは、監査証跡を提供します。

  

DTL\_PRP282I      ADD TRANSACTIONS PROCESSED = *count*

説明：              トランザクション数の印刷。

システムのアクション：      処理は継続します。

ユーザの応答：      このメッセージは、監査証跡を提供します。

  

DTL\_PRP283I      UPDATE TRANSACTIONS PROCESSED = *count*

説明：              トランザクション数の印刷。

システムのアクション：      処理は継続します。

ユーザの応答：      このメッセージは、監査証跡を提供します。

DTL\_PRP284I      DELETE TRANSACTIONS PROCESSED = *count*

説明：              トランザクション数の印刷。

システムのアクション：      処理は継続します。

ユーザの応答：      このメッセージは、監査証跡を提供します。

DTL\_PRP285I      CLOSE TRANSACTIONS PROCESSED = *count*

説明：              トランザクション数の印刷。

システムのアクション：      処理は継続します。

ユーザの応答：      このメッセージは、監査証跡を提供します。

DTL\_PRP286I      LOGCX TRANSACTIONS PROCESSED = *count*

説明：              トランザクション数の印刷。

システムのアクション：      処理は継続します。

ユーザの応答：      このメッセージは、監査証跡を提供します。

DTL\_PRP287I      COMMIT TRANSACTIONS PROCESSED = *count*

説明：              トランザクション数の印刷。

システムのアクション：      処理は継続します。

ユーザの応答：      このメッセージは、監査証跡を提供します。

DTL\_PRP288I      **処理された LOGIT トランザクション数**=*count*

説明：              トランザクション数の印刷。

システムのアクション：      処理は継続します。

ユーザの応答：      このメッセージは、監査証跡を提供します。

DTL\_PRP289I      LOGTB TRANSACTIONS PROCESSED = *count*

説明：              トランザクション数の印刷。

システムのアクション：      処理は継続します。

ユーザの応答：      このメッセージは、監査証跡を提供します。

DTL\_PRP290I      ROLBK TRANSACTIONS PROCESSED = *count*

説明：              トランザクション数の印刷。

システムのアクション：      処理は継続します。

ユーザの応答：      このメッセージは、監査証跡を提供します。

DTL_PRP300E	UNKNOWN TRANSACTIONS FOUND = <i>count</i>
説明:	不明なトランザクションのトランザクション数の印刷。
システムのアクション:	処理は終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにこのエラーを報告します。
DTL_PRP301E	EDP CMD <i>command</i> ERROR RC= <i>return_code1</i> <i>return_code2</i> , status JOB= <i>jobname</i> UOW= <i>tkn1</i> <i>tkn2</i>
説明:	示されたジョブ名の <i>tkn1</i> <i>tkn2</i> 作業単位でコマンドが失敗しました。
システムのアクション:	処理は終了します。
ユーザの応答:	調査して、可能なら関連するエラーを修正し、再実行します。関連するメッセージにこれに対応する理由がない場合、または不明な場合は、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
DTL_PRP302E	UNREGISTERED ELEMENT, <i>element</i> , IN MODULE <i>module</i> DBID= <i>dbid</i> , TBL= <i>table</i> , SOURCE= <i>source</i>
説明:	キャプチャ対象として登録されたテーブルに、未登録のエレメントが含まれています。これは、テーブルが再登録されずにデータベースが変更されたことを示し、他のタスクがこの収集のターゲットに対して動作した可能性があります。
システムのアクション:	処理は終了します。
ユーザの応答:	メッセージを使って原因を判定し、範囲を確定し、解決法を見つけます。このテーブルと他の影響されるテーブルを作成し直してからキャプチャをリスタートする必要がある可能性があります。Informatica グローバルカスタマサポートに連絡し、サポートを受けてください。

## DTL\_RPC001E~DTL\_RPC999E:Datacom および IDMS CDC データスペースコントローラ

DTL_RPC001E	SYSPRINT DD MISSING (SYSPRINT DD <b>がありません</b> )
説明:	<i>sysprint</i> が使用できませんでした。最も可能性が高い原因は <i>sysprint</i> が存在しないことです。
システムのアクション:	処理は終了します。
ユーザの応答:	調査して関連するエラーを修正し、再実行します。

DTL_RPC002I	INPUT STATEMENT: <i>Input_line</i>
説明:	パラメータの完全なリストを作成します。
システムのアクション:	処理は継続します。
ユーザの応答:	このメッセージは、監査証跡を提供します。
DTL_RPC005E	ERROR READING OR FINDING SYSIN DD
説明:	入力 SYSIN DD に問題があります。
システムのアクション:	処理は終了します。
ユーザの応答:	調査して関連するエラーを修正し、再実行します。
DTL_RPC008I	PARM STATEMENT: <i>Parameter_line</i>
説明:	パラメータ入力のコピー。
システムのアクション:	処理は継続します。
ユーザの応答:	このメッセージは、監査証跡を提供します。
DTL_RPC009I	CONSOLE STATEMENT: <i>console_line</i>
説明:	コンソール出力のコピー。
システムのアクション:	処理は継続します。
ユーザの応答:	このメッセージは、監査証跡を提供します。
DTL_RPC012E	PROGRAM TERMINATED. INPUT ERROR FROM PARM/SYSIN ( <b>PARM/SYSIN からの入力エラー</b> )
説明:	SYSIN DD ストリームに 1 つまたは複数の重大なエラーが発見されたため、処理を継続できません。
システムのアクション:	処理は終了します。
ユーザの応答:	エラーのある SYSIN 文を修正してジョブを再実行します。
DTL_RPC014E	CONSOLE INPUT COMMAND IGNORED ON ERROR
説明:	関連するエラーのあるコンソール文を参照してください。
システムのアクション:	処理は終了します。
ユーザの応答:	調査して関連するエラーを修正し、再実行します。
DTL_RPC019I	DUPLICATE SOURCE STATEMENT IGNORED
説明:	重複パラメータが無視されました。
システムのアクション:	処理は継続します。
ユーザの応答:	以後の警告をなくすには、調査して問題を修正します。

DTL\_RPC105E      INVALID RCM MODULE

説明：              RCM モジュールが正しくありません。

システムのアクション：      処理は終了します。

ユーザの応答：      調査しても解決策が見つからない場合は、Informatica グローバルカスタマサポートに連絡します。

  

DTL\_RPC119E      EXPECTED CV OR MUF KEYWORD NOT FOUND

説明：              見つかったキーワードは、MUF または CV を識別しませんでした。

システムのアクション：      処理は終了します。

ユーザの応答：      調査して関連するエラーを修正し、再実行します。

  

DTL\_RPC120E      NO DBMS (CV/MUF) REGION SPECIFIED

説明：              必要な CV または MUF の ID が存在しません。

システムのアクション：      処理は終了します。

ユーザの応答：      調査して関連するエラーを修正し、再実行します。

  

DTL\_RPC160I      UNABLE TO LOAD MODULE *name*

説明：              示されたモジュールをロードできませんでした。

システムのアクション：      処理は終了します。

ユーザの応答：      調査しても解決策が見つからない場合は、Informatica グローバルカスタマサポートに連絡します。

  

DTL\_RPC165I      TOKEN CREATED FOR *resource*

説明：              この特定のリソースに対してトークンが作成されました。

システムのアクション：      処理は継続します。

ユーザの応答：      このメッセージは、監査証跡を提供します。

  

DTL\_RPC166I      UNABLE TO LOAD TO CSA *resource*

説明：              示されたモジュールを CSA にロードできませんでした。

システムのアクション：      処理は終了します。

ユーザの応答：      調査しても解決策が見つからない場合は、Informatica グローバルカスタマサポートに連絡します。

  

DTL\_RPC167I      CSA LOAD ERROR R15=*return\_code*

説明：              失敗した CSA へのモジュールロードの戻りコード。

システムのアクション：      処理は終了します。

ユーザの応答： 調査しても解決策が見つからない場合は、Informatica グローバルカスタマサポートに連絡します。

DTL\_RPC168I CSA **ロードエラー** R1=*reg1*

説明： 登録 1 診断またはエラーが発生した CSA へのモジュールロード。

システムのアクション： 処理は終了します。

ユーザの応答： 調査しても解決策が見つからない場合は、Informatica グローバルカスタマサポートに連絡します。

DTL\_RPC170I GET CAPTURED REGISTRATIONS FROM LOCATION *place*

説明： 情報: 場所"PSEUDO/LOCAL"または登録が実際に取得された場所。

システムのアクション： 処理は継続します。

ユーザの応答： このメッセージは、監査証跡を提供します。

DTL\_RPC201E MODULE UNABLE TO BE LOADED *resource*

説明： 指定された RCM モジュールをロードできませんでした。

システムのアクション： 処理は終了します。

ユーザの応答： 調査しても解決策が見つからない場合は、Informatica グローバルカスタマサポートに連絡します。

DTL\_RPC202W **モジュールが見つかりません** *resource*

説明： 指定された RCM モジュールが見つかりませんでした。

システムのアクション： 処理は終了します。

ユーザの応答： 調査しても解決策が見つからない場合は、Informatica グローバルカスタマサポートに連絡します。

DTL\_RPC203W MODULE ALREADY ACTIVE *resource*

**警告: この指定されたリソースが以前にアクティブになっていました。**

システムのアクション： 処理は継続します。

ユーザの応答： 以後の警告をなくすには、調査して問題を修正します。

DTL\_RPC204E **モジュールはすでに非アクティブ化されています** *resource*

説明： 示されたリソースがアクティブではありません。

システムのアクション： 処理は終了します。

ユーザの応答： 調査して関連するエラーを修正し、再サブミットを準備します。

DTL\_RPC205I DBID IS *dbname*  
 説明： データベース名の出力。  
 システムのアクション： 処理は継続します。  
 ユーザの応答： このメッセージは、監査証跡を提供します。

DTL\_RPC206I TABLE NAME IS *table*  
 説明： テーブル名コードの出力。  
 システムのアクション： 処理は継続します。  
 ユーザの応答： このメッセージは、監査証跡を提供します。

DTL\_RPC208I SETNAME = *setname*  
 説明： セット名の出力。  
 システムのアクション： 処理は継続します。  
 ユーザの応答： このメッセージは、監査証跡を提供します。

DTL\_RPC209I PATH SOURCE NAME IS *path\_source\_name*  
 説明： パスソース名の出力。  
 システムのアクション： 処理は継続します。  
 ユーザの応答： このメッセージは、監査証跡を提供します。

DTL\_RPC210I STATUS FOR MODULE *resource*  
 説明： モジュール名の出力。  
 システムのアクション： 処理は継続します。  
 ユーザの応答： このメッセージは、監査証跡を提供します。

DTL\_RPC211I MODULE IS ACTIVE  
 説明： リソース状態の出力。  
 システムのアクション： 処理は継続します。  
 ユーザの応答： このメッセージは、監査証跡を提供します。

DTL\_RPC212I MODULE IS INACTIVE  
 説明： リソース状態の出力。  
 システムのアクション： 処理は継続します。  
 ユーザの応答： このメッセージは、監査証跡を提供します。

DTL\_RPC213I DBNAME IS *dbname*

説明： これは、示された DBID に対する登録のステータスコマンドの結果です。

システムのアクション： 処理は継続します。

ユーザの応答： このメッセージは、監査証跡を提供します。

DTL\_RPC214I RECORD NAME IS *record*

説明： これは、示されたレコードに対する登録のステータスコマンドの結果です。

システムのアクション： 処理は継続します。

ユーザの応答： このメッセージは、監査証跡を提供します。

DTL\_RPC215I BASE SOURCE NAME IS *source*

説明： これは登録のステータスコマンドの結果です。登録は示されたプロパゲーションソースに対するものです。

システムのアクション： 処理は継続します。

ユーザの応答： このメッセージは、監査証跡を提供します。

DTL\_RPC216I NO BASE SOURCE NAME SPECIFIED

説明： これは登録のステータスコマンドの結果です。登録は指定したプロパゲーションソースに対するものではありません。

システムのアクション： 処理は継続します。

ユーザの応答： このメッセージは、監査証跡を提供します。

DTL\_RPC217I RECORD ID = *recid*

説明： これは登録のステータスコマンドの結果です。登録は示されたレコード ID に対するものです。

システムのアクション： 処理は継続します。

ユーザの応答： このメッセージは、監査証跡を提供します。

DTL\_RPC218I PATH COUNT = *count*

説明： これは登録のステータスコマンドの結果です。登録には表示されたパス数があります。

システムのアクション： 処理は継続します。

ユーザの応答： このメッセージは、監査証跡を提供します。

DTL\_RPC219I NO RCM MODULES FOUND

説明： RCM モジュールが見つかりません。



システムのアクション 処理は継続します。

ン：

ユーザの応答： 必要に応じて、選択の変更の要求を再実行します。

DTL\_RPC220I DATASPACE IS ACTIVE FOR *MUF*

説明： このメッセージは、指定された MUF に対して Change Controller がアクティブであり、データスペースを作成したことを示します。

システムのアクション 処理は継続します。

ン：

ユーザの応答： このメッセージは、監査証跡を提供します。

DTL\_RPC221I DATASPACE IS NOT-ACTIVE FOR *MUF*

説明： 指定された MUF に対して現在データスペースが存在せず、この Change Controller の実行は CREATE モードでないためデータスペースを作成できません。

システムのアクション 処理は終了します。

ン：

ユーザの応答： 必要な場合、CREATE 文を指定してジョブを再実行し、MUF に対するデータスペースを作成します。

DTL\_RPC222I **名前 *MUF*を持つデータスペースが作成されました**

説明： これは、作成モードの Change Controller が指定された MUF に対するデータスペースを作成したことを示す情報メッセージです。

システムのアクション 処理は継続します。

ン：

ユーザの応答： このメッセージは、監査証跡を提供します。

DTL\_RPC223I ***number*ブロックを含むデータスペースが作成されました**

説明： この情報メッセージはデータスペースサイズを表示します。このメッセージに表示される数値が通常値である 524289 または 524288 と大幅に異なる場合は、システムプログラマに問い合わせて、環境においてデータスペースサイズが制限されているかどうかを確認します。

システムのアクション 処理は継続します。

ン：

ユーザの応答： このメッセージは、監査証跡を提供します。

DTL\_RPC224I DATASPACE CREATED WITH *origin* ORIGIN

説明： これはデータスペースの起源であり、デバッグ専用の情報です。

システムのアクション 処理は継続します。

ン：

ユーザの応答： このメッセージは、監査証跡を提供します。

DTL\_RPC226E TOKEN RETRIEVAL ERROR

説明： プログラムがトークンの取得中にエラーを受け取りました。

システムのアクション: 処理は終了します。

ン:

ユーザの応答: Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

DTL\_RPC227E TOKEN CREATION ERROR *code*

説明: トークンの作成中に、プログラムが出力されたエラーを受け取りました。

システムのアクション: 処理は終了します。

ン:

ユーザの応答: Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

DTL\_RPC228E DATASPACE ALLOCATION ERROR *code*

説明: データスペース割り当て中に、出力された内部エラーが発生しました。

システムのアクション: 処理は終了します。

ン:

ユーザの応答: Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

DTL\_RPC229E DATASPACE CREATION ERROR *code*

説明: データスペース作成中に、出力された内部エラーが発生しました。

システムのアクション: 処理は終了します。

ン:

ユーザの応答: Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

DTL\_RPC231I *dbms* ENABLED FOR PROPAGATION

説明: 示された *dbms* がプロパゲーションに対して有効にされました。

システムのアクション: 処理は継続します。

ン:

ユーザの応答: このメッセージは、監査証跡を提供します。

DTL\_RPC232I *dbms* プロパティパゲーションは無効です

説明: 示された *dbms* がプロパティパゲーションに対して無効になりました。

システムのアクション: 処理は継続します。

ン:

ユーザの応答: このメッセージは、監査証跡を提供します。

DTL\_RPC233I *dbms* PROPAGATION DISABLE PENDING

説明: 示された *dbms* がプロパゲーションに対して無効にされようとしています。

システムのアクション: 処理は継続します。

ン:

ユーザの応答: このメッセージは、監査証跡を提供します。

DTL\_RPC234I      *dbms* PROPAGATION ENABLE PENDING

説明：            指定された *dbms* がプロパゲーションに対して有効にされようとしています。

システムのアクション：      処理は継続します。

ユーザの応答：      このメッセージは、監査証跡を提供します。

  

DTL\_RPC237E      RCM *registration* HAS INVALID VERSION

説明：            登録バージョンが一致しません。

システムのアクション：      処理は終了します。

ユーザの応答：      調査しても解決策が見つからない場合は、Informatica グローバルカスタマサポートに連絡します。

  

DTL\_RPC238E      UNABLE TO LOAD SCHEMA **スキーマ**

説明：            指定されたスキーマをロードできませんでした。

システムのアクション：      処理は終了します。

ユーザの応答：      調査しても解決策が見つからない場合は、Informatica グローバルカスタマサポートに連絡します。

  

DTL\_RPC240E      UNABLE TO INITIALIZE CONSOLE RC= *rc*

説明：            コンソールサポート用の共通コンポーネントの初期化中に、戻りコード *rc* が発生しました。

システムのアクション：      処理は終了します。

ユーザの応答：      調査しても解決策が見つからない場合は、Informatica グローバルカスタマサポートに連絡します。

  

DTL\_RPC243E      UNABLE TO INITIALIZE DTLXISTL

説明：            タイマ管理用の共通コンポーネントを初期化する際に、エラーが発生しました

システムのアクション：      処理は終了します。

ユーザの応答：      調査しても解決策が見つからない場合は、Informatica グローバルカスタマサポートに連絡します。

  

DTL\_RPC244E      UNEXPECTED GET CONSOLE STATUS RC= *rc*

説明：            コンソールの取得中にコンソールステータス *rc* が返されました。

システムのアクション：      処理は終了します。

ユーザの応答：      調査しても解決策が見つからない場合は、Informatica グローバルカスタマサポートに連絡します。

DTL_RPC245I	PROPAGATION ENVIRONMENT ESTABLISHED
説明:	環境はプロパゲーションの準備ができました。
システムのアクション:	処理は継続します。
ユーザの応答:	このメッセージは、監査証跡を提供します。
DTL_RPC250E	INVALID SUBSCHEMA MODULE TYPE 1
説明:	サブスキーマモジュール名が IB50 でないためにエラーが発生しました。
システムのアクション:	処理は終了します。
ユーザの応答:	調査しても解決策が見つからない場合は、Informatica グローバルカスタマサポートに連絡します。
DTL_RPC251E	INVALID SUBSCHEMA MODULE TYPE 2
説明:	サブスキーマモジュール名が SR51 でないためにエラーが発生しました。
システムのアクション:	処理は終了します。
ユーザの応答:	調査しても解決策が見つからない場合は、Informatica グローバルカスタマサポートに連絡します。
DTL_RPC600E	REGISTRATION CAPTURE INVOKATION ERROR <i>return_code</i>
説明:	キャプチャ登録へのアクセスでエラーが発生しました。
システムのアクション:	処理は終了します。
ユーザの応答:	調査しても解決策が見つからない場合は、Informatica グローバルカスタマサポートに連絡します。
DTL_RPC601E	REGISTRATION CAPTURE OPEN ERROR <i>return_code</i>
説明:	キャプチャ登録へのアクセスでエラーが発生しました。
システムのアクション:	処理は終了します。
ユーザの応答:	調査しても解決策が見つからない場合は、Informatica グローバルカスタマサポートに連絡します。
DTL_RPC602E	REGISTRATION CAPTURE CLOSE ERROR <i>return_code</i>
説明:	キャプチャ登録へのアクセスでエラーが発生しました。
システムのアクション:	処理は終了します。
ユーザの応答:	調査しても解決策が見つからない場合は、Informatica グローバルカスタマサポートに連絡します。

DTL_RPC603E	REGISTRATION CAPTURE READ ERROR <i>return_code</i>
説明:	キャプチャ登録へのアクセスでエラーが発生しました。
システムのアクション:	処理は終了します。
ユーザの応答:	調査しても解決策が見つからない場合は、Informatica グローバルカスタマサポートに連絡します。
DTL_RPC604E	REGISTRATION CAPTURE RETURNED EMPTY DATAMAP
説明:	キャプチャ登録にアクセスしたときに何も返されませんでした。
システムのアクション:	処理は終了します。
ユーザの応答:	調査しても解決策が見つからない場合は、Informatica グローバルカスタマサポートに連絡します。
DTL_RPC611I	<b>モジュール <i>name</i> はアクティブです</b>
説明:	指定された登録モジュールは現在アクティブです。
システムのアクション:	処理は終了します。
ユーザの応答:	調査しても解決策が見つからない場合は、Informatica グローバルカスタマサポートに連絡します。
DTL_RPC612I	<b>モジュール <i>name</i> は非アクティブです。</b>
説明:	指定された登録モジュールは現在アクティブではありません。
システムのアクション:	処理は終了します。
ユーザの応答:	調査しても解決策が見つからない場合は、Informatica グローバルカスタマサポートに連絡します。
DTL_RPC990I	<i>dbms</i> DATASPACE EMPTY/INUSE
説明:	データスペースの状態。
システムのアクション:	処理は継続します。
ユーザの応答:	このメッセージは、監査証跡を提供します。
DTL_RPC991E	<i>dbms</i> IS ALREADY UP、PROPAGATION INACTIVE UNTIL JOB IS RECYCLED
説明:	示されたリソースはすでに動作しています。プロパゲーションはアクティブではありません。ジョブをリサイクルすることで通常は解決できます。
システムのアクション:	処理は終了します。
ユーザの応答:	調査しても解決策が見つからない場合は、Informatica グローバルカスタマサポートに連絡します。

DTL\_RPC998I      SHUTDOWN REQUEST IGNORED; PROPAGATION ACTIVE FOR  
*dbms*

説明：              指定されたデータベースに対してプロパゲーションがアクティブのまま  
                         であるため、シャットダウン要求が無視されました。

システムのアクション： 処理は続きます。

ユーザの応答：      この原因を調べます。

DTL\_RPC999E      **メッセージ**

説明：              メッセージと関連するメッセージを参照してください。

システムのアクション： 処理は終了します。

ユーザの応答：      調査しても解決策が見つからない場合は、Informatica グローバルカ  
                         スタマサポートに連絡します。

## DTL\_RPS001E～DTL\_RPS105I:Datacom MUF アドレス スペースサブタスク終了

DTL\_RPS001E      SYSPRINT DD MISSING (SYSPRINT DD **がありません**)

説明：              sysprint が使用できませんでした。最も可能性が高い原因は sysprint  
                         が存在しないことです。

システムのアクション： 処理は終了します。

ユーザの応答：      調査して関連するエラーを修正し、再実行します。

DTL\_RPS101I      *dbms* PROPAGATION INITIALIZATION

説明：              プロパゲーションが指定されたデータベースに対して無効になりました。

システムのアクション： 処理は続きます。

ユーザの応答：      このメッセージは、監査証跡を提供します。

DTL\_RPS102I      *MUF* PROPAGATION INITIALIZATION COMPLETE

説明：              示されたデータベースに対してプロパゲーション初期化が完了しまし  
                         ました。

システムのアクション： 処理は完了するまで続行します。

ユーザの応答：      このメッセージは、監査証跡を提供します。

DTL\_RPS103I      MUFPROPAGATION TERMINATED

説明：              プロパゲーションが指定されたデータベースに対して終了しました。

システムのアクション：      処理は完了するまで続行します。

ユーザの応答：      このメッセージは、監査証跡を提供します。

DTL\_RPS105I      PROPAGATION TERMINATED - INVALID MASTERLIST

説明：              プロパゲーションは、指定されたデータベースに対して、無効な"MASTER LIST"形式により終了しました。

システムのアクション：      処理は完了するまで続行します。

ユーザの応答：      調査して関連するエラーを修正し、再実行します。

## 第 9 章

# Mensagens de Erro de infacmd pwx

この章では、以下の項目について説明します。

- [Visão Geral das Mensagens de Erro de infacmd pwx, 616](#) ページ
- [MDAdapter のメッセージ, 616](#) ページ
- [MDO のメッセージ, 617](#) ページ
- [パーサーのメッセージ, 620](#) ページ
- [PWXCMD メッセージ, 621](#) ページ
- [PWXLog のメッセージ, 624](#) ページ
- [PWXNative のメッセージ, 624](#) ページ

## Visão Geral das Mensagens de Erro de infacmd pwx

Comandos infacmd pwx emitem mensagens quando erros são detectados. Algumas dessas mensagens também são emitidas quando você gerencia um Serviço do Ouvinte do PowerExchange ou um Serviço do Agente de Log do PowerExchange por meio da ferramenta Administrator. É possível exibir essas mensagens no visualizador de log da ferramenta Administrator.

## MDAdapter のメッセージ

MDAdapter\_34102 **ファイルが見つかりません:** *file\_name*

説明： 指定された場所にファイルが見つかりませんでした。例えば、制御ファイルに指定されたコピーブックファイルが見つかりませんでした。

システムのアクション： 処理を終了します。  
ン：

ユーザの応答： 制御ファイルを修正して、コマンドを再実行します。



MDAdapter\_34103 ***file\_name* のパースに失敗しました。このメタデータは読み取れません。**

説明： createdatamaps ユーティリティが、指示されたファイルを読み取れませんでした。ファイルに構文エラーがあります。

システムのアクション： 処理を終了します。

ユーザの応答： ファイルのエラーを修正して、コマンドを再実行します。

MDAdapter\_34105 **ファイルのパース中にエラーが発生したため、*file\_name* からメタデータを作成できません。**

説明： createdatamaps ユーティリティが、指示されたファイルをパースできませんでした。ファイルに構文エラーがあります。

システムのアクション： 処理を終了します。

ユーザの応答： ファイルのエラーを修正して、コマンドを再実行します。

## MDO のメッセージ

MDO\_34601 **プログラム論理エラー: *error***

説明： 内部エラーが発生しました。

システムのアクション： 処理を終了します。

ユーザの応答： Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

MDO\_34602 **制御ファイル '*control\_file*' のパース中に、エラーが発生しました。**

説明： createdatamaps ユーティリティが、XML 制御ファイルの中から構文エラーまたは他のエラーを検出しました。

システムのアクション： 処理を終了します。

ユーザの応答： 制御ファイル内のエラーを修正してから、コマンドをもう一度実行してください。

MDO\_34603 **制御ファイル '*control\_file*': *error\_message* の解析でエラーが発生しました。**

説明： XML 制御ファイルに構文またはその他のエラーが見つかりました。

ユーザの応答： XML 制御ファイルのエラーを修正してください。

MDO\_34605 **接続 (*connection*) の定義中にエラーが発生しました。**

説明： 接続の定義中にエラーが発生しました。

システムのアクション: 処理を終了します。  
ン:

ユーザの応答: ノード名、ユーザ ID、パスワード、および他の接続設定値が正しく設定されているか確かめてください。

MDO\_34607 **レコード '*metadata\_object: message*' に関するメタデータを取得するマップ *data\_map* の作成中に、エラーが発生しました。**

説明: 指定されたレコードのメタデータの取得時にエラーが発生しました。例えば、コピーブックのファイル名またはパスが正しくない可能性があります。

システムのアクション: 処理を終了します。  
ン:

ユーザの応答: エラーが起きていないか、XML 制御ファイルを調べてください。

MDO-34608 **環境変数 *variable=value* が無効または見つかりません。**

説明: 環境変数が見つからないか、その値が無効です。

システムのアクション: 処理を終了します。  
ン:

ユーザの応答: 環境変数を定義するか修正してください。

MDO\_34609 **制御ファイル '*file\_name*': ファイルが見つかりません。**

説明: createdatamaps ユーティリティが制御ファイルを見つけることができませんでした。

システムのアクション: 処理を終了します。  
ン:

ユーザの応答: 制御ファイルのファイル名とパスを正確に使用して、コマンドを再実行してください。

MDO\_34610 **接続 (*connection*) の作成中にエラーが発生しました。**

説明: 接続の定義中にエラーが発生しました。

システムのアクション: 処理を終了します。  
ン:

ユーザの応答: ノード名、ユーザ ID、パスワード、および他の接続設定値が正しく設定されているか確かめてください。

MDO\_34615 **'*data\_map\_file*' への書き込み中に、I/O エラーが発生しました (メッセージ: *error\_message*)**

説明: データマップファイルへの書き込み中に、I/O エラーが発生しました。例えば、データマップの出力ディレクトリが無効である可能性があります。

システムのアクション: 処理を終了します。  
ン:

ユーザの応答: データマップファイルのパスと名前が正しく指定されているか確かめてください。

MDO_34617	<b>データマップ'<i>data_map</i>'の生成中にエラーが発生しました。 メッセージ: <i>error_message</i></b>
説明:	データマップの生成中にエラーが発生しました。
システムのアクション:	処理を終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
MDO_34618	<b>データマップ <i>data_map_name</i> の制御ファイルに、コピーブック定義が指定されていません。</b>
説明:	制御ファイルにコピーブックが指定されていません。
ユーザの応答:	処理を終了します。
ユーザの応答:	制御ファイルを調べて、コピーブックが正しく指定されているか確認してください。
MDO_34620	<b>コードページ'<i>code_page</i>'は無効です。 <i>data_map_name</i> をマップしてください。 <i>pmlocale.ini</i> には数値の ID が必要です。</b>
説明:	制御ファイルに無効なコードページ ID が指定されています。
システムのアクション:	処理を終了します。
ユーザの応答:	制御ファイル内のコードページを修正してください。
MDO_34623	<b>マップ <i>data_map</i> の作成中にエラーが発生しました。</b>
説明:	createdatamaps ユーティリティが指定されたデータマップを作成しているときにエラーが発生しました。
ユーザの応答:	表示されたエラーメッセージを確認して、報告された問題を修正します。
MDO_34645	<b>フィールド <i>field_name</i> から整数値を読み取れません。</b>
説明:	createdatamaps ユーティリティは、データレコードの指定されたフィールドの整数値を読み取れませんでした。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
MDO_34647	<b>データファイル名がデータマップ <i>data_map</i> の制御ファイルに指定されていません。</b>
説明:	指定されたデータマップの制御ファイルにデータファイル名が指定されていませんでした。制御ファイルには、レコード ID フィールドを識別するための有効なデータファイル名を指定する必要があります。
ユーザの応答:	制御ファイルに有効なデータファイル名を指定します。
MDO_34648	<b>キャッシュディレクトリ'<i>cache_directory</i>'を作成できません</b>
説明:	指定されたキャッシュパスが無効です。
ユーザの応答:	制御ファイルを編集して有効なキャッシュパスを指定し、createdatamaps ユーティリティを再度実行します。

MDO_34649	<b>キャッシュサービスを開始できません。例外エラー: <i>exception_error</i>。</b>
説明:	createdatamaps ユーティリティは JCS ライブラリをロードできませんでした。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
MDO_34650	<b>キャッシュをクリアできません。例外エラー: <i>exception_error</i>。</b>
説明:	createdatamaps ユーティリティがディスクキャッシュをクリアしようとして障害が発生しました。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
MDO_34651	<b>ファイルプロパティのオブジェクトをキャッシュできません。例外エラー: <i>exception_error</i>。</b>
説明:	createdatamaps ユーティリティがファイルプロパティのオブジェクトをキャッシュに書き込もうとしたときに障害が発生しました。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
MDO_34652	<b>レコード <i>record</i> をキャッシュに追加できません。例外エラー: <i>exception_error</i>。</b>
説明:	createdatamaps ユーティリティがレコードをキャッシュに追加しようとしたときに障害が発生しました。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

## パーサーのメッセージ

Parser_34300	<b><i>file_name</i> のパースに失敗しました。このメタデータは読み取れません。</b>
説明:	メタデータファイルに構文エラーがあり、読み取ることができません。
システムのアクション:	処理を終了します。
ユーザの応答:	ファイルのエラーを修正して、コマンドを再実行します。
Parser_34301	<b>パーサーから返されたエラーメッセージ</b>
説明:	コピーブックのパース中にエラーが発生しました。
システムのアクション:	処理を終了します。
ユーザの応答:	エラーを修正して、コマンドを再実行します。

# PWXCMD メッセージ

PWXCMD_20000	<b>エラー: "error_message"</b>
説明:	指定されたエラーが発生しました。
ユーザの応答:	指定されたエラーのドキュメントを参照してください。
PWXCMD_20001	<b>このコマンドには、DomainName オプションまたは Gateway オプションが必要です。</b>
説明:	コマンドには、-DomainName オプションまたは-Gateway オプションが含まれていません。これらのオプションのうち、少なくとも1つが必須です。
ユーザの応答:	コマンドラインで、-DomainName オプションまたは-Gateway オプションを含めます。
PWXCMD_20002	<b>ノード ["node_name"] はドメインに存在していません</b>
説明:	コマンドラインで-NodeName オプションに対して入力したノード名がドメインに存在しません。
ユーザの応答:	有効なノード名を入力してください。
PWXCMD_20003	<b>サービス ["service_name"] はリスナサービスではありません</b>
説明:	コマンドラインで-ServiceName オプションに入力した値は、PowerExchange リスナサービスの名前ではありません。
ユーザの応答:	-ServiceName オプションには、リスナサービスの名前を指定します。
PWXCMD_20004	<b>サービス ["service_name"] はロガーサービスではありません</b>
説明:	コマンドラインで-ServiceName オプションに入力した値は、PowerExchange ロガーサービスの名前ではありません。
ユーザの応答:	-ServiceName オプションには、ロガーサービスの名前を指定します。
PWXCMD_20005	<b>サービス ["service_name"] との通信でエラーが発生しました。詳細については、ログを参照してください</b>
説明:	infacmd pwx コマンドは、指定されたサービスとの通信中にエラーが発生しました。
ユーザの応答:	詳細については、PowerExchange ログファイルを参照してください。
PWXCMD_20006	<b>サービス ["service_name"] にコマンドを適用できません。</b>
説明:	入力した infacmd pwx コマンドは、入力したサービス名には適用されません。
ユーザの応答:	コマンドに適切なサービス名を入力します。

PWXCMD_30084	<b>アドレス形式が無効です。予期した形式は[ホスト:ポート]です。</b>
説明:	infacmd pwx コマンドで指定されているノードアドレスの形式が無効です。
ユーザの応答:	ノードアドレスを次の形式で入力します。 <i>host_name:port_number</i>
PWXCMD_30089	<b>無効なポート番号 [<i>port_number</i>]</b>
説明:	infacmd pwx コマンドで指定されたポート番号が無効です。
ユーザの応答:	infacmd pwx コマンドで有効なポート番号を入力します。
PWXCMD_30357	<b>[<i>service_connection_error</i>] によりピアに接続できませんでした。</b>
説明:	指定されたパラメータを使用してサービスを接続できませんでした。
ユーザの応答:	ドメインパラメータが有効であることを確認します。
PWXCMD_30358	<b>ドメイン [<i>domain_name</i>] に対するゲートウェイ接続が見つかりません。</b>
説明:	プログラムがドメインへの接続を確立できませんでした。
ユーザの応答:	ドメインゲートウェイ設定が正しいことを確認します。
PWXCMD_30359	<b>[<i>connection_name</i>] に対する接続定義が見つかりません。</b>
説明:	プログラムが接続定義を見つけることができませんでした。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWXCMD_30360	<b>操作 [<i>operation_name</i>] の定義が見つかりません。</b>
説明:	この操作のテーブルが PowerExchange データマップに含まれていません。
システムのアクション:	操作は、データオブジェクトから削除されます。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWXCMD_30361	<b>フィールド [<i>field_name</i>] (操作 [<i>operation_name</i>]) の定義が見つかりません。</b>
説明:	PowerExchange データマップには、この操作によって参照されるフィールドが含まれていません。
システムのアクション:	フィールドは操作から削除されます。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWXCMD_30362	<b>フィールド [<i>field_name</i>] の定義が操作 [<i>operation_name</i>] に含まれていますが、[<i>details</i>] に一致しません</b>
説明:	PowerExchange データマップには、このフィールドの種類、精度、またはスケールの異なる定義が含まれています。

システムのアクション： 操作のフィールドがデータマップ定義に一致するように更新されます。

ユーザの応答： 対応する必要はありません。

**PWXCMD\_30363 全般的なロジックエラー: [error\_message]**

説明： 指定したプログラムのロジックエラーが発生しました。

ユーザの応答： Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

**PWXCMD\_30364 接続名の引数が無効です**

説明： 接続名の引数は、二重引用符で囲まれた文字列である必要があります。文字列には、必要に応じて 1 つのワイルドカード文字を含めることができます。例: \"conn\*\")

ユーザの応答： 正しい形式で接続名の引数を入力します。

**PWXCMD\_30365 データオブジェクト名の引数が無効です**

説明： データオブジェクト名の引数は、二重引用符で囲まれた文字列である必要があります。文字列には、必要に応じて 1 つのワイルドカード文字を含めることができます。例: \"\*\")

ユーザの応答： データオブジェクト名の引数を正しい形式で入力します。

**PWXCMD\_30366 スキーマ名の引数が無効です**

説明： スキーマ名の引数は、二重引用符で囲まれた文字列である必要があります。文字列には、必要に応じて 1 つのワイルドカード文字を含めることができます。例: \"\*\")

ユーザの応答： 正しい形式でスキーマ名の引数を入力します。

**PWXCMD\_30367 モデル [data\_model] - インポート警告: [validation\_warning]**

説明： PowerExchange データマップのインポートによって、警告メッセージが生成されます。

ユーザの応答： 必要に応じてデータマップを修正し、データオブジェクトを同期します。

**PWXCMD\_30368 PowerExchange をロードできません。PWX\_HOME 環境変数を確認してください。**

説明： コマンドラインプログラムが PowerExchange を読み込めませんでした。プログラムは PowerExchange をインストールし、PWX\_HOME 環境変数を設定する必要があります。

ユーザの応答： PWX\_HOME 環境変数がローカルシステム上の PowerExchange のインストールディレクトリを示していることを確認してください。

**PWXCMD\_34024 置換値 'replace\_value' は無効です。**

説明： createdatamaps コマンドの -replace パラメータに無効な値が指定されました。

ユーザの応答： -replace パラメータには、Y または N を大文字または小文字で指定します。

## PWXLog のメッセージ

PWXLog_009	<b>PowerExchange をロードできません。PWX_HOME 環境変数が設定されていることを確認してください。</b>
説明：	このコマンドでは、PowerExchange がインストールされていて、PWX_HOME 環境変数が設定されている必要があります。
ユーザの応答：	PWX_HOME 環境変数がローカルシステム上の PowerExchange のインストールディレクトリを示していることを確認してください。
PWXLog_34780	<b>無効なロガーレベル「logger_level」</b>
説明：	createdatamaps コマンドにより、冗長性に無効な値が指定されます。有効な値は DEBUG、INFO、ERROR、および FATAL です。デフォルトは INFO です。
システムのアクション：	処理を終了します。
ユーザの応答：	冗長性に有効な値を指定して、コマンドを再実行します。

## PWXNative のメッセージ

PWXNative_001	<b>リソース"resource_name"にアクセスできません。エラー: error。</b>
説明：	内部エラーが発生しました。
システムのアクション：	処理を終了します。
ユーザの応答：	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWXNative_002	<b>API の関数"api_function"でリソース"resource_name"の呼び出し中に、エラーが発生しました。エラー:"error_message"。</b>
説明：	内部エラーが発生しました。
システムのアクション：	処理を終了します。
ユーザの応答：	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWXNative_003	<b>無効な環境ハンドルです。</b>
説明：	内部エラーが発生しました。
システムのアクション：	処理を終了します。
ユーザの応答：	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWXNative_004	<b>無効な接続ハンドルです。</b>
説明：	内部エラーが発生しました。



システムのアクション 処理を終了します。

ン：

ユーザの応答： Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWXNative\_005 **無効なステートメントハンドルです。**

説明： 内部エラーが発生しました。

システムのアクション 処理を終了します。

ン：

ユーザの応答： Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWXNative\_006 *error\_message*

説明： 内部エラーが発生しました。

システムのアクション 処理を終了します。

ン：

ユーザの応答： Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWXNative\_007 **このパスワード内に、PowerExchange でサポートされていない文字が 1 つまたは複数あります。**

説明： 指定した PowerExchange のパスワードに、サポートされていない文字が含まれています。

システムのアクション 処理を終了します。

ン：

ユーザの応答： コマンドを再入力して有効なパスワードを指定してください。

## 第 10 章

# PWXPC エラーメッセージ

この章では、以下の項目について説明します。

- [PWXPC エラーメッセージの概要, 626 ページ](#)
- [PWXPC\\_10000～PWXPC\\_10099, 626 ページ](#)
- [PWXPC\\_11000～PWXPC\\_11099, 637 ページ](#)
- [PWXPC\\_12000～PWXPC\\_12099, 638 ページ](#)
- [PWXPC\\_12100～PWXPC\\_12199, 648 ページ](#)

## PWXPC エラーメッセージの概要

PowerExchange Client for PowerCenter は、セットアップと操作に関する情報メッセージと、エラーが検出された場合のメッセージを発行します。PWXPC メッセージは、5 桁のメッセージ番号の前に PWXPC\_が付きます。

PowerExchange と PowerCenter のメッセージも、これらのメッセージとともに表示されます。

## PWXPC\_10000～PWXPC\_10099

PWXPC\_10001     ***reader*は、マッピングからのソース修飾子インスタンスを取得できません。**

説明：             内部エラー。

ユーザの応答：     Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWXPC\_10002     ***reader*は、ソース修飾子インスタンス *qualifier\_name* の接続参照を取得できません。**

説明：             内部エラー。

ユーザの応答：     Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWXPC\_10003     ***reader*は、ソース修飾子インスタンス *qualifier\_name* のソースの初期化に失敗しました。**

説明：             Integration Service はセッションを初期化できませんでした。

ユーザの応答：	詳細については追加のエラーメッセージを参照してください。
PWXPC_10004	<b>接続プロパティ&lt;属性名&gt;を取得できません。</b>
説明：	内部エラー。
ユーザの応答：	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWXPC_10005	PowerExchange AllocEnv <b>が失敗しました</b>
説明：	内部エラー。
ユーザの応答：	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWXPC_10006	PowerExchange AllocConnect <b>が失敗しました。戻りコード：&lt;戻りコード&gt;</b>
説明：	内部エラー。
ユーザの応答：	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWXPC_10007	PowerExchange AllocConnect <b>が失敗しました。エラー・メッセージ：&lt;追加メッセージ&gt;</b>
説明：	内部エラー。
ユーザの応答：	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWXPC_10008	PowerExchange Listener <b>に接続できません。戻りコード：return_code。</b>
説明：	Integration Service は、PowerExchange Listener に接続できませんでした。
ユーザの応答：	詳細については追加のエラーメッセージを参照してください。
PWXPC_10010	<b>メタデータ拡張&lt;拡張名&gt;を取得できません。</b>
説明：	内部エラー。
ユーザの応答：	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWXPC_10011	PowerExchange AllocStmt <b>が失敗しました。戻りコード：return_code。</b>
説明：	PowerExchange Listener エラー。
ユーザの応答：	詳細については、追加エラーメッセージをチェックします。
PWXPC_10012	PowerExchange Prepare <b>が失敗しました。戻りコード：return_code。</b>
説明：	PowerExchange Listener エラー。
ユーザの応答：	詳細については、追加エラーメッセージをチェックします。
PWXPC_10013	PowerExchange Execute <b>が失敗しました。戻りコード：return_code。</b>
説明：	PowerExchange Listener エラー。
ユーザの応答：	詳細については、追加エラーメッセージをチェックします。

PWXPC_10014	PowerExchange SetRow <b>カウントが失敗しました。戻りコード： <i>return_code</i>。</b>
説明：	PowerExchange Listener エラー。
ユーザの応答：	詳細については、追加エラーメッセージをチェックします。
PWXPC_10015	PowerExchange Bind Col <b>が失敗しました。戻りコード： <i>return_code</i>。</b>
説明：	PowerExchange Listener エラー。
ユーザの応答：	詳細については、追加エラーメッセージをチェックします。
PWXPC_10016	PowerExchange Group Fetch <b>が失敗しました。戻りコード： <i>return_code</i>。</b>
説明：	PowerExchange Listener エラー。
ユーザの応答：	詳細については、追加エラーメッセージをチェックします。
PWXPC_10017	PowerExchange Fetch <b>が失敗しました。戻りコード： <i>return_code</i>。</b>
説明：	PowerExchange Listener エラー。
ユーザの応答：	詳細については、追加エラーメッセージをチェックします。
PWXPC_10018	Reader <b>がバッファのフラッシュ中にエラーを検出しました。</b>
説明：	内部エラー。
ユーザの応答：	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWXPC_10019	<b>接続パラメータ &lt;接続属性&gt;がありません。</b>
説明：	指定した接続属性に値が含まれていません。
ユーザの応答：	接続属性の値を指定します。
PWXPC_10021	<b>[&lt;スキーマ&gt;] にスキーマが上書きされました (ソース修飾子 [&lt;修飾子名&gt;] のセッションプロパティ)。</b>
説明：	ソース定義メタデータ拡張中のソーススキーマは、セッションプロパティで表示された値にオーバーライドされました。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWXPC_10022	<b>[<i>map_name</i>] にデータマップが上書きされました (ソース修飾子 [&lt;修飾子名&gt;] のセッションプロパティ)。</b>
説明：	ソース定義メタデータ拡張中のデータマップ名は、セッションプロパティで表示された値にオーバーライドされました。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWXPC_10023	<b><i>reader</i> は、パーティション <i>partition_number</i> のソース修飾子 [<i>qualifier_name</i>] のグループ [<i>group</i>] に対して、SQL 文 [<i>SQL_statement</i>] を準備しました。</b>
説明：	ソース修飾子に対して準備された SQL 文が示されています。

ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWXPC_10024	<b>パーティション [＜パーティション番号＞] が正常に初期化されました。</b>
説明：	パーティションが正常に初期化されました。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWXPC_10025	<b>ソース＜ソース名＞のフィールド投影情報を取得できません。</b>
説明：	内部エラー。
ユーザの応答：	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWXPC_10026	<b>reader は、ソース修飾子 <i>qualifier_name</i> のソースリストを取得できません。</b>
説明：	内部エラー。
ユーザの応答：	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWXPC_10027	<b>ソース修飾子 [＜修飾子名＞] には複数のソースインスタンスが関連付けられています。</b>
説明：	複数のソース定義が同じソース修飾子に接続されています。
ユーザの応答：	ソース修飾子には 1 つのソース定義だけを関連付けてください。
PWXPC_10028	<b>reader は、ソース修飾子 <i>qualifier_name</i> の属性 <i>attribute_name</i> の値を取得できません。</b>
説明：	内部エラー。
ユーザの応答：	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWXPC_10029	<b>reader は、ソース <i>source_name</i> のフィールドを取得できません。</b>
説明：	内部エラー。
ユーザの応答：	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWXPC_10030	<b>reader は、ソース修飾子 [<i>qualifier_name</i>] の抽出マップ [<i>map_name</i>] を使用します</b>
説明：	PowerExchange CDC Reader は抽出マップ <i>map_name</i> を使用します。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWXPC_10031	<b>reader が、リレーショナルソース修飾子 [<i>qualifier_name</i>] の変更されたデータを抽出するため、SQL 文 [<i>sql_stmt</i>] を準備しました</b>
説明：	ソース修飾子用に準備された SQL 文が表示されます。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。

PWXPC_10032	<b>ソース修飾子 <i>qualifier_name</i> のソース <i>source_name</i> に無効な抽出マップ名が指定されました。</b>
説明：	以下のいずれかのエラーが発生しました： <ul style="list-style-type: none"> <li>指定したソースのセッションプロパティに抽出マップがありません。</li> <li>抽出マップ名が有効な抽出マップ名でないか、ソースに対して正しい名前ではありません。</li> </ul>
ユーザの応答：	以下のいずれかのアクションを実行します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>セッションプロパティに抽出マップを指定します。</li> <li>有効な抽出マップ名を指定します。</li> </ul>
PWXPC_10033	<b>無効なフィルタ文字列 [<i>filter</i>] がソース修飾子 [<i>qualifier_name</i>] に指定されました</b>
説明：	無効なフィルタ文字列がソース修飾子に対して指定されています。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWXPC_10034	<b><i>dispatcher</i> は、PowerExchange Listener から変更データをフェッチできません。エラーコード: <i>return_code</i>。</b>
説明：	Integration Service は、PowerExchange Listener からデータを抽出できませんでした。
ユーザの応答：	エラーの原因の詳細については、セッションログの PWXPC_10035 メッセージを参照してください。
PWXPC_10035	<b>エラーメッセージ: [<i>error_msg</i>]</b>
説明：	PowerExchange から返されたエラーメッセージは、 <i>error_msg</i> に含まれます。PowerExchange から返されたメッセージごとに PWXPC_10035 が発行されます。PowerExchange メッセージ番号は、 <i>error_msg</i> に含まれます。
ユーザの応答：	必要に応じて、PowerExchange メッセージに関するマニュアルを参照し、エラーの原因を特定します。
PWXPC_10036	<b><i>dispatcher</i> は PowerExchange Listener に接続できません。エラーコード: <i>return_code</i>。</b>
説明：	Integration Service は、PowerExchange Listener に接続できませんでした。
ユーザの応答：	エラーの原因の詳細については、セッションログの PWXPC_10035 メッセージを参照してください。
PWXPC_10037	<b><i>dispatcher</i> はトランザクション文を作成できません。エラーコード: <i>return_code</i>。</b>
説明：	内部エラー。
ユーザの応答：	エラーの原因の詳細については、セッションログの PWXPC_10035 メッセージを参照してください。Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWXPC_10038	<b><i>dispatcher</i>がトランザクション文の実行中にエラーを検出しました。エラーコード [<i>return_code</i>]</b>
説明:	内部エラー。
ユーザの応答:	エラーの原因の詳細については、セッションログの PWXPC_10035 メッセージを参照してください。Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWXPC_10039	<b><i>dispatcher</i>はトランザクション文の列をバインドできません。エラー・コード&lt;戻りコード&gt;。</b>
説明:	内部エラー。
ユーザの応答:	エラーの原因の詳細については、セッションログの PWXPC_10035 メッセージを参照してください。Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWXPC_10040	<b>メタデータエクステンション属性値 [<i>attribute</i>] は文字で始まる必要があります</b>
説明:	属性名はアルファベット文字で始まる必要があります。
ユーザの応答:	属性名を修正します。
PWXPC_10041	<b>メタデータエクステンション属性値 [<i>attribute</i>] には数字と文字だけを指定できます</b>
説明:	属性名に英数字文字以外の文字が含まれます。
ユーザの応答:	属性名を修正します。
PWXPC_10042	<b>メタデータエクステンション属性'<i>AccessMethod</i>' [<i>access_method_value</i>] が、ソース <i>source_name</i> に対して有効ではありません。</b>
説明:	メタデータエクステンション属性' <i>AccessMethod</i> ' <i>access_method_value</i> の値は XML ファイルでは無効です。XML ファイルが変更されている可能性があります。
ユーザの応答:	新しい XML ファイルからリポジトリオブジェクトをインポートします。インポート前に XML ファイルを編集しないでください。
PWXPC_10043	<b>抽出マップ名属性のグループ名 [<i>group_name</i>] (ソース修飾子 [<i>qualifier_name</i>]) が無効であるか重複しています</b>
説明:	抽出マップに対して指定されたグループ名が無効です。
ユーザの応答:	セッションを修正します。
PWXPC_10044	<b>グループ [<i>group_name</i>] (ソース修飾子 [<i>qualifier_name</i>]) の抽出マップ名属性が指定されていません</b>
説明:	表示されたグループに対して抽出マップが指定されていません。
ユーザの応答:	セッションを更新し、抽出マップ名を追加します。

PWXPC_10045	<b>抽出マップ名&lt;マップ名&gt;がソース&lt;ソース名&gt;に対して有効ではありません。</b>
説明:	指定した抽出マップは、マッピングのソースに対する抽出マップではありません。
ユーザの応答:	マッピングのソースに対する抽出マップを指定します。
PWXPC_10046	<b>圧縮方式&lt;方式名 1&gt;が圧縮方式&lt;方式名 2&gt;と一致していません。</b>
説明:	マッピングに複数のソースがありますが、それらのキャプチャ登録がすべて同じ圧縮方式を指定していません。
ユーザの応答:	PowerExchange Navigator で、指定された各抽出マップに対する各登録が同じ要約方式を使用するようにします。
PWXPC_10047	<b>圧縮方法 [cond_meth] は無効です。Condense Method は 'Part' または 'Full' である必要があります</b>
説明:	内部エラー。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWXPC_10048	<b>異なるソースの接続パラメータが一致していません。</b>
説明:	セッションプロパティの各ソースに指定した接続の接続属性値が、同じではありません。各ソースに対して接続を指定する場合、変更またはリアルタイムモードでセッションを実行するには、これらの属性の接続属性値が同じでなければなりません。
ユーザの応答:	最初のソースに対して接続を指定し、残りのソースに対しては None を指定します。変更またはリアルタイムモードで実行する場合、複数の接続は不要です。
PWXPC_10049	<b>PowerExchange CDC reader の接続が見つかりません</b>
説明:	内部エラー。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWXPC_10051	<b>上書き [override] のグループ名が、ソースのどの射影グループとも一致しません</b>
説明:	指定されたグループ名がソースに存在しません。
ユーザの応答:	無効なグループ名の指定を修正します。
PWXPC_10052	<b>グループ名 [group_name] (上書き [override]) が重複しています</b>
説明:	グループ名が複数回指定されています。
ユーザの応答:	重複グループ名の指定を修正します。
PWXPC_10053	<b>フィルタ&lt;フィルタ&gt;のグループ名&lt;グループ名&gt;が無効です。</b>
説明:	グループが、ソースのどのグループ名とも一致しません。
ユーザの応答:	ソースのグループ名と一致するグループ名を指定します。



PWXPC_10054	<b><i>dispatcher</i>が、リスタートトークンファイル <i>file_name</i> からリスタートトークンを読み込みません。</b>
説明：	Integration Service は、指定されたリスタートトークンファイルからリスタートトークンを読み込めなかったため、ソースから変更データを抽出できませんでした。
ユーザの応答：	詳細については追加のエラーメッセージを参照してください。
PWXPC_10055	<b><i>dispatcher</i>は、リスタートトークンファイル <i>file_name</i> にリスタートトークンを書き込みません。</b>
説明：	Integration Service は、指定されたリスタートトークンファイルからリスタートトークンを読み込めなかったため、ソースから変更データを抽出できませんでした。
ユーザの応答：	詳細については追加のエラーメッセージを参照してください。
PWXPC_10056	<b><i>dispatcher</i>が、リスタートトークンファイル <i>file_name</i> を開くことができません。</b>
説明：	Integration Service がリスタートトークンファイルを開けませんでした。
ユーザの応答：	詳細については追加のエラーメッセージを参照してください。
PWXPC_10057	<b><i>dispatcher</i>は、トランザクション文のリスタートトークン制御列をバインドできません。エラーコード&lt;エラーコード&gt;。</b>
説明：	内部エラー。
ユーザの応答：	エラーの原因の詳細については、セッションログの PWXPC_10035 メッセージを参照してください。Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWXPC_10059	<b>接続に指定されているリカバリキャッシュフォルダ&lt;キャッシュフォルダ名&gt;が無効です。</b>
説明：	内部エラー。
ユーザの応答：	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWXPC_10060	<b>CDC Reader [<i>reader</i>] がリカバリの登録に失敗しました</b>
説明：	内部エラー。
ユーザの応答：	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWXPC_10063	<b>[<i>process_id</i>] Reader がリカバリキャッシュへのフラッシュに失敗しました: [<i>error_message</i>]</b>
説明：	リスタートトークン情報を GMD にフラッシュしているときにエラーが発生しました。エラーメッセージ <i>error_message</i> は、GMD キャッシュコーディネータからの最後のメッセージです。
ユーザの応答：	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWXPC_10064	<b>【<i>process_id</i>】 Reader が GMD へのリスタートトークンのキャッシュに失敗しました: 【<i>error_message</i>】</b>
説明:	リスタートトークンを GMD にキャッシュしているときにエラーが発生しました。エラーメッセージ <i>error_message</i> は、GMD キャッシュコーディネータからの最後のメッセージです。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWXPC_10065	<b>【<i>process_id</i>】 Reader が GMD チェックポイントのクローズに失敗しました: 【<i>error_message</i>】</b>
説明:	GMD チェックポイントのクローズ中にエラーが発生しました。エラーメッセージ <i>error_message</i> は、GMD キャッシュコーディネータからの最後のメッセージです。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWXPC_10066	<b>【<i>process_id</i>】 reader がソース修飾子 【<i>qualifier_name</i>】 のリカバリの有効化に失敗しました</b>
説明:	内部エラー。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWXPC_10071	<b>【<i>dispatcher</i>】 セッションは 【<i>rdr_time</i>】 秒間実行された後に終了しました。Reader 時間制限に達しました</b>
説明:	Integration Service は、接続で指定された Reader 時間制限値 <i>rdr_time</i> に達した時点でセッションを停止しました。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWXPC_10072	<b>【<i>dispatcher</i>】 セッションが終了しました (【<i>idle_time</i>】 秒間待機した後)。Idle 時間制限に達しました</b>
説明:	接続に指定されたアイドルタイム値 <i>idle_time</i> に達したため、PWXPC は、Integration Service に対してセッションを終了するように指示しました。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWXPC_10073	<b>【<i>dispatcher</i>】 がリスタートトークンをバインドできません。エラーコード 【<i>error_code</i>】</b>
説明:	内部エラー。
ユーザの応答:	エラーの原因の詳細については、セッションログの PWXPC_10035 メッセージを参照してください。Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWXPC_10078	<b>【<i>dispatcher</i>】 はリスタートトークンを正常にバインドしました</b>
説明:	PWXPC は正常にリスタートトークンをバインドしました。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。

PWXPC_10079	<b>【dispatcher】 がリスタートトークンファイル [token_file] を作成できませんでした</b>
説明:	リスタートトークンファイルを作成できませんでした。
ユーザの応答:	Integration Service にファイルを作成するための権限があること、および十分なスペースがあることを確認します。
PWXPC_10080	<b>すべての Reader は 1 つのデータベースタイプ専用である必要があります。</b>
説明:	セッションに複数のソースデータベースタイプが含まれるため、複数のデータベース Reader が存在します。すべてのソース Reader が同一のデータベースタイプ専用である必要があります。
ユーザの応答:	マッピングを修正します。
PWXPC_10081	<b>【dispatcher】 がリスタートトークン [restart1]、[restart2] でリアルタイムフラッシュを実行しています (UOW Count [uow_count] に達したため)</b>
説明:	CDC 接続に指定された UOW Count (uow_count) に達したため、PWXPC が CDC ソースの変更データをターゲットにフラッシュしました。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWXPC_10082	<b>【dispatcher】 がリスタートトークン [restart1]、[restart2] でリアルタイムフラッシュを実行しています (リアルタイムフラッシュ待ち時間 [rtf_latency] が発生したため)</b>
説明:	CDC 接続に指定されたリアルタイムフラッシュ待ち時間 (rtf_latency) に達したため、PWXPC が CDC ソースの変更データをターゲットにフラッシュしました。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWXPC_10083	<b>【dispatcher】 が、リスタートトークン [restart1]、[restart2] をリスタートトークンファイル [token_filename] に書き込んでいます</b>
説明:	PWXPC がリスタートトークンをリスタートトークンファイル token_filename に書き込みました。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWXPC_10084	<b>致命的なエラー: 【dispatcher】 がヒープからメモリを割り当てることができませんでした</b>
説明:	内部エラー。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWXPC_10085	<b>dispatcher が、PowerExchange Listener への接続に必要な環境オブジェクトを作成中にエラーを検出しました</b>
説明:	内部エラー。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWXPC_10087	<b>接続に指定した RestartToken ファイルフォルダ <i>token_folder_name</i> が無効です。</b>
説明:	接続に指定されたリスタートトークンファイルフォルダが、Integration Service マシン上のリスタートトークンファイルフォルダ名と一致しません。
ユーザの応答:	接続プロパティで指定するリスタートトークンファイルフォルダが、Integration Service マシン上のリスタートトークンファイルフォルダと一致していることを確認します。
PWXPC_10091	<b>[<i>PWX_msg</i>]</b>
説明:	接続で Retrieve PWX ログエントリ属性が指定されると、PWXPC はこのメッセージ (PowerExchange から返されたメッセージを含む) を発行します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWXPC_10092	<b>リレーショナルソース [<i>スキーマ.tablename</i>] は無効です。リレーショナルソースに複数のグループを指定することはできません</b>
説明:	リレーショナルソースに複数のグループが含まれます。ソースが無効です。
ユーザの応答:	リレーショナルソースのマッピングを更新し、余分なグループをすべて削除します。
PWXPC_10093	<b>ソース [<i>tablename</i>]、DB タイプ [<i>db_type</i>] は有効な PWX ソースではありません</b>
説明:	PWXPC が、有効な PowerExchange ソースとして認識できないテーブルを検出しました。これは内部エラーです。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWXPC_10094	<b>[RunTime リミット [<i>run_limit</i>] に達したため、<i>dispatcher</i>] がリスタートトークン [<i>restart1</i>]、[<i>restart2</i>] でリアルタイムフラッシュを実行しています</b>
説明:	CDC 接続に指定されたランタイム制限 <i>run_limit</i> に達したため、PWXPC が CDC ソースの変更データをターゲットにフラッシュしました。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWXPC_10095	<b>クエリオーバーライド内の [<i>source</i>] (抽出マップ [<i>map_name</i>]) に 1 つのグループ名を使用します</b>
説明:	複数レコードのソースに指定された SQL クエリオーバーライドに重複グループ名が含まれます。
ユーザの応答:	クエリオーバーライドを修正します。
PWXPC_10096	<b>クエリオーバーライド内のグループ名 [<i>group</i>] (抽出マップ [<i>map_name</i>]) が無効です</b>
説明:	複数レコードのソースに指定された SQL クエリオーバーライドに不明なグループ名が含まれます。

ユーザの応答：	クエリオーバーライドを修正します。
PWXPC_10097	<b>無効なクエリオーバーライド文字列 [<i>override</i>] がソース修飾子 [<i>source_qualifier</i>] に指定されました</b>
説明：	指定された SQL クエリオーバーライドが無効です。
ユーザの応答：	クエリオーバーライドを修正します。
PWXPC_10098	<b>オーバーライド SQL 内のフィールドカウント [<i>SQL_count</i>] が、投影されたフィールドカウント [<i>source_count</i>] (ソース [<i>source</i>]) と一致しません</b>
説明：	SQL クエリオーバーライドが無効です。含まれるフィールドの数が多すぎるか、または少なすぎます。
ユーザの応答：	クエリオーバーライドを修正します。

## PWXPC\_11000～PWXPC\_11099

PWXPC_11001	<b>セッション属性 <i>session_attribute</i> を取得できません。</b>
説明：	必須セッション属性<セッション属性>が省略されています。
ユーザの応答：	必須セッション属性は指定する必要があります。
PWXPC_11004	<b>セッションオーバーライドの IMS アンロードファイル名 [&lt;アンロードファイル&gt;] は使用中です。</b>
説明：	IMS Unload File Name セッションプロパティはファイル名<アンロードファイル>を指定しています。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWXPC_11005	<b><i>dispatcher</i> がリスタートトークンファイル [<i>file_name</i>] を開けませんでした。システムエラーメッセージ [&lt;メッセージ&gt;] コード [&lt;エラー番号&gt;]</b>
説明：	PWXPC がリスタートトークンファイル<ファイル名>を開こうとしたときにエラーが発生しました。システムエラーメッセージ<メッセージ>およびシステムエラー番号<エラー番号>が失敗の理由を示します。
ユーザの応答：	システムエラーメッセージおよびエラーコードが示すエラーを修正し、タスクをリスタートします。
PWXPC_11006	<b><i>dispatcher</i> が、リスタートトークンファイル [<i>file_name</i>] への書き込みに失敗しました。システムエラーメッセージ [&lt;メッセージ&gt;] コード [&lt;エラー番号&gt;]</b>
説明：	PWXPC がリスタートトークンファイル<ファイル名>に書き込もうとしたときにエラーが発生しました。システムエラーメッセージ<メッセージ>およびシステムエラー番号<エラー番号>が失敗の理由を示します。

ユーザの応答：	システムエラーメッセージおよびエラーコードが示すエラーを修正し、タスクをリスタートします。
PWXPC_11007	<b><i>dispatcher</i>が、リスタートトークンファイル [<i>file_name</i>] からの読み込みに失敗しました。システムエラーメッセージ [<i>&lt;メッセージ&gt;</i>] コード [<i>&lt;エラー番号&gt;</i>]</b>
説明：	PWXPC がリスタートトークンファイル<ファイル名>を読み取ろうとしたときにエラーが発生しました。システムエラーメッセージ<メッセージ>およびシステムエラー番号<エラー番号>が失敗の理由を示します。
ユーザの応答：	システムエラーメッセージおよびエラーコードが示すエラーを修正し、タスクをリスタートします。
PWXPC_11008	<b><i>dispatcher</i>が、リスタートトークンファイル [<i>file_name</i>] の削除に失敗しました。システムエラーメッセージ [<i>&lt;メッセージ&gt;</i>] コード [<i>&lt;エラー番号&gt;</i>]</b>
説明：	PWXPC がリスタートトークンファイル<ファイル名>を削除しようとしたときにエラーが発生しました。システムエラーメッセージ<メッセージ>およびシステムエラー番号<エラー番号>が失敗の理由を示します。
ユーザの応答：	システムエラーメッセージおよびエラーコードが示すエラーを修正し、タスクをリスタートします。

## PWXPC\_12000～PWXPC\_12099

PWXPC_12001	<b>セッション検証に失敗しました。原因については前のメッセージを確認してください</b>
説明：	セッションが検証に失敗しました。
ユーザの応答：	エラーの原因については前のメッセージを確認してください。
PWXPC_12002	<b>ターゲット [<i>&lt;ターゲット&gt;</i>] 用に要求されたドライバが見つかりません</b>
説明：	無効なターゲットドライバが要求されました。
ユーザの応答：	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWXPC_12003	<b>グループ [<i>&lt;グループ&gt;</i>] 用に要求されたドライバが見つかりません</b>
説明：	無効なグループドライバが要求されました。
ユーザの応答：	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWXPC_12004	<b>ターゲットインスタンスオブジェクトへのアクセス中にエラーが発生しました</b>
説明:	ターゲットインスタンスオブジェクトへのアクセス中にエラーが発生しました。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWXPC_12005	<b>ユーザー指定の SQL 文 [&lt;SQL 文&gt;] の解析中にエラーが発生しました</b>
説明:	ユーザー指定の SQL 文の解析中にエラーが発生しました。
ユーザの応答:	SQL 文を修正します。
PWXPC_12006	<b>不明または無効な値の句が挿入ステートメント用に検出されました</b>
説明:	不明または無効な値の句が挿入ステートメント用に検出されました。
ユーザの応答:	SQL 文を修正します。
PWXPC_12008	<b>無効なカラム名 [&lt;カラム名&gt;] がユーザー SQL 内の現在のテーブルに検出されました</b>
説明:	無効なカラム名がユーザー SQL 内のテーブルに検出されました。
ユーザの応答:	SQL 文を修正します。
PWXPC_12010	<b>ユーザー SQL パラメータマーカカウント [<i>parm_cnt</i>] が、接続されたカラムカウント [<i>col_cnt</i>] と一致しません。</b>
説明:	ユーザー SQL パラメータマーカカウント <i>parm_cnt</i> が、接続されたカラムカウント <i>col_cnt</i> と一致しません。
ユーザの応答:	SQL 文を修正します。
PWXPC_12011	<b>更新用ユーザー SQL の Set 句が無効です。</b>
説明:	更新用ユーザー SQL の Set 句が無効です。
ユーザの応答:	SQL 文を修正します。
PWXPC_12012	<b>ユーザー更新 SQL で必要な句がありません (WHERE または SET)。</b>
説明:	更新用ユーザー SQL で必要な句がありません (WHERE または SET)。
ユーザの応答:	SQL 文を修正します。
PWXPC_12013	<b>セッション属性 [<i>attribute</i>] (属性 ID [<i>attr_id</i>]、セッション [<i>session</i>]) の取得に失敗しました</b>
説明:	報告されたセッション属性 <i>attribute</i> の取得に失敗しました。プラグイン XML が破損している可能性があります。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWXPC_12014	<b>カラムの数が挿入ステートメントに指定された値の数と一致しません</b>
説明:	カラムの数が挿入ステートメントに指定された値の数と一致しません。
ユーザの応答:	SQL 文を修正します。
PWXPC_12015	<b>エラーメッセージ: [pwx_msg]</b>
説明:	PowerExchange からエラーメッセージ <i>pwx_msg</i> が返されました。
ユーザの応答:	詳細については、『PowerExchange メッセージリファレンス』を参照してください。
PWXPC_12016	<b>ステートメントオブジェクトの作成に失敗しました。説明は、次の PWX メッセージを参照してください</b>
説明:	PowerExchange が、ステートメントオブジェクトの作成中にエラーを検出しました。
ユーザの応答:	問題の原因の詳細については、PWXPC_12015 で表示される PowerExchange メッセージを参照してください。
PWXPC_12017	<b>SQL 文 [sql_stmt] に対して準備が失敗しました。説明は、次の PWX メッセージを参照してください</b>
説明:	PowerExchange が、SQL 文の準備中にエラーを検出しました。
ユーザの応答:	問題の原因の詳細については、PWXPC_12015 で表示される PowerExchange メッセージを参照してください。
PWXPC_12018	<b>PowerExchange Listener への接続に必要な環境オブジェクトを作成中にエラーを検出しました</b>
説明:	PWXPC が、PowerExchange への接続に必要な環境オブジェクトの作成中にエラーを検出しました。
ユーザの応答:	PWXPC_12019 を参照してください。Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWXPC_12019	<i>error_msg</i>
説明:	PWXPC は、環境オブジェクトの割り当て中にエラーが発生すると、メッセージ <i>error_msg</i> を表示します。
ユーザの応答:	PowerExchange が正しくインストールされ、使用できる状態にあるか確認します。
PWXPC_12020	<b>PowerExchange に接続できません。エラーコード: [err_code]。説明は、次の PWX メッセージを参照してください</b>
説明:	PWXPC が、PowerExchange に接続中にエラーを検出しました。
ユーザの応答:	問題の原因の詳細については、PWXPC_12015 で表示される PowerExchange メッセージを参照してください。



PWXPC_12021	<b>内部 powercenter データタイプ [<i>pc_type</i>] の PWX データタイプ [<i>pw_x_type</i>] への変換で列 [<i>column</i>] について適切でない変換が見つかりませんでした</b>
説明:	PWXPC が、PowerCenter データタイプ <i>pc_type</i> を、列 <i>column</i> の PowerExchange データタイプ <i>pw_x_type</i> に変換できませんでした。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWXPC_12022	<b>bind に失敗しました。パラメータ [<i>parm_num</i>]、SQL 文 [<i>sql_stmt</i>]。説明は、次の PWX メッセージを参照してください</b>
説明:	パラメータ番号 <i>parm_num</i> について、バインドに失敗しました。
ユーザの応答:	問題の原因の詳細については、PWXPC_12015 で表示される PowerExchange メッセージを参照してください。
PWXPC_12023	<b>変換エラーが発生しました。エラー [<i>rc=rc</i>]、データのフェッチ (フィールド [<i>field_num</i>]、行 [<i>row_num</i>]、テーブル [<i>tablename</i>])。</b>
説明:	PWXPC が、フィールドデータのフェッチ中に変換エラーを検出しました。フィールドの指定が正しくない可能性があります。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWXPC_12025	<b>SQL 文 [<i>sql_stmt</i>] でパラメータオプションのコールの設定が失敗しました。説明は、次の PWX メッセージを参照してください</b>
説明:	SQL 文 <i>sql_stmt</i> でパラメータオプションのコールの設定が失敗しました。
ユーザの応答:	問題の原因の詳細については、PWXPC_12015 で表示される PowerExchange メッセージを参照してください。
PWXPC_12026	<b>セッション前 SQL [<i>sql_stmt</i>] の実行が失敗しました。</b>
説明:	セッション前 SQL 文 <i>sql_stmt</i> の実行が失敗しました。
ユーザの応答:	SQL 文を修正します。
PWXPC_12027	<b>セッション後 SQL [<i>sql_stmt</i>] の実行が失敗しました。</b>
説明:	セッション後 SQL 文 <i>sql_stmt</i> の実行が失敗しました。
ユーザの応答:	SQL 文を修正します。
PWXPC_12028	<b>テーブル切り詰め SQL [<i>sql_stmt</i>] の実行が失敗しました。</b>
説明:	テーブル切り詰め SQL 文 <i>sql_stmt</i> の実行が失敗しました。
ユーザの応答:	SQL 文を修正します。
PWXPC_12030	<b>現在の接続へのコミット要求が失敗しました。説明は、次の PWX メッセージを参照してください</b>
説明:	PowerExchange によるコミットが失敗しました。

ユーザの応答：	問題の原因の詳細については、PWXPC_12015 で表示される PowerExchange メッセージを参照してください。
PWXPC_12031	<b>現在の接続へのロールバック要求が失敗しました。説明は、次の PWX メッセージを参照してください</b>
説明：	PowerExchange によるロールバックが失敗しました。
ユーザの応答：	問題の原因の詳細については、PWXPC_12015 で表示される PowerExchange メッセージを参照してください。
PWXPC_12032	<b>describe に失敗しました。パラメータ [<i>parm_num</i>]、SQL 文 [<i>sql_stmt</i>]。説明は、次の PWX メッセージを参照してください</b>
説明：	PowerExchange による describe が失敗しました。
ユーザの応答：	問題の原因の詳細については、PWXPC_12015 で表示される PowerExchange メッセージを参照してください。
PWXPC_12033	<b>テーブル [<i>tablename</i>] のキー指定がありません。更新または削除が必要な場合は、キーを指定する必要があります。</b>
説明：	テーブル <i>tablename</i> にキーが指定されていません。キーを指定するか、または挿入専用のセッションオプションを選択します。
ユーザの応答：	セッションの指定を修正します。
PWXPC_12034	<b>挿入操作に失敗しました。</b>
説明：	挿入操作に失敗しました。
ユーザの応答：	問題の原因の詳細については、PWXPC_12015 で表示される PowerExchange メッセージを参照してください。
PWXPC_12035	<b>更新操作に失敗しました。</b>
説明：	更新操作に失敗しました。
ユーザの応答：	問題の原因の詳細については、PWXPC_12015 で表示される PowerExchange メッセージを参照してください。
PWXPC_12036	<b>削除操作に失敗しました。</b>
説明：	削除操作に失敗しました。
ユーザの応答：	問題の原因の詳細については、PWXPC_12015 で表示される PowerExchange メッセージを参照してください。
PWXPC_12037	<b>更新/挿入操作に失敗しました。</b>
説明：	更新/挿入操作に失敗しました。
ユーザの応答：	問題の原因の詳細については、PWXPC_12015 で表示される PowerExchange メッセージを参照してください。
PWXPC_12038	<b>更新/挿入セッション属性値 [TRUE] に確認書き込み接続属性値 [FALSE] との一貫性がありません。</b>
説明：	セッション接続で書き込み確認が無効になっています。

ユーザの応答：	更新/挿入属性を使用するには、書き込みモード接続属性で"書き込み確認オン"または"フォールトトレランスと非同期"を指定する必要があります。
PWXPC_12051	<b>セッションオーバーライド <code>[ovr_name]</code> と <code>[ovr_value]</code> が使用されています</b>
説明：	PWXPC は、セッションオーバーライド <code>ovr_name</code> と値 <code>ovr_value</code> を使用します。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWXPC_12052	<b>セッションプロパティ <code>[prop_name]</code> と <code>[prop_value]</code> が使用されています</b>
説明：	PWXPC は、セッションプロパティ <code>prop_name</code> と値 <code>prop_value</code> を使用します。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWXPC_12053	<b>SQL 文 <code>[sql_stmt]</code> が <code>sql_action</code> に対して正常に準備されました。</b>
説明：	PWXPC は、SQL 文 <code>sql_stmt</code> を準備しました。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWXPC_12054	<b>Pre-SQL 文 <code>[sql_stmt]</code> の処理</b>
説明：	PWXPC は、SQL 文 <code>sql_stmt</code> を処理しています。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWXPC_12055	<b>Post-SQL 文 <code>[sql_stmt]</code> の処理</b>
説明：	PWXPC は、SQL 文 <code>sql_stmt</code> を処理しています。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWXPC_12056	<b>Truncate SQL <code>[sql_stmt]</code> の処理</b>
説明：	PWXPC は、SQL 文 <code>sql_stmt</code> を処理しています。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWXPC_12057	<b>次のパラメータで PowerExchange に接続しています： <code>[conn_parms]</code></b>
説明：	PWXPC は、接続パラメータ <code>conn_parms</code> を使用して PowerExchange に接続しました。
ユーザの応答：	処理は継続します。
PWXPC_12058	<b><code>[process_id]</code> キャッシュからリスタート情報を読みこむときに予期しないデータが検出されました。</b>
説明：	リスタート情報の読み込み中に予期しないデータが検出されました。キャッシュが破損することがあります。
ユーザの応答：	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWXPC_12060	<i>session_restart_info</i>
説明:	PWXPC は、セッション内のソースごとに抽出マップ名、restart1 トークン、restart2 トークン、およびトークンのソースを表示します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWXPC_12062	<b>[<i>process_id</i>] GMD 状態テーブルから読み込み中にエラーが発生しました: [<i>error_message</i>]</b>
説明:	GMD 状態テーブルから読み込み中にエラーが発生しました。PWXPC は、GMD キャッシュコーディネータから受け取った最後のエラーメッセージを <i>error_message</i> に表示します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWXPC_12063	<b>[<i>process_id</i>] GMD 状態テーブルのデータの解析中にエラーが発生しました</b>
説明:	GMD 状態テーブルのデータの解析中にエラーが発生しました。状態テーブルのデータが破損している可能性があります。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWXPC_12064	<b>[<i>process_id</i>] GMD 状態テーブルをリセット中にエラーが発生しました: [<i>error_message</i>]</b>
説明:	GMD 状態テーブルをリセット中にエラーが発生しました。PWXPC は、GMD キャッシュコーディネータから受け取った最後のエラーメッセージを <i>error_message</i> に表示します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWXPC_12065	<b>[<i>process_id</i>] リスタートトークンの 16 進表現 (抽出マップ [<i>ext_map</i>] 用、ソース [<i>token_src</i>] : [<i>restart1</i>] [<i>restart2</i>]) が無効です</b>
説明:	リスタートトークン ( <i>restart1</i> および <i>restart2</i> ) の 16 進表現が無効です。 <i>ext_map</i> 変数には、特定の抽出マップ名、またはすべてのソースが影響を受けている場合は ALL (デフォルトの開始 UOW) が入ります。
ユーザの応答:	<i>token_src</i> がリスタートファイルの場合は、リスタートトークンファイルで指定されたリスタートトークンを修正し、セッションをリスタートします。 <i>token_src</i> に他の値が含まれている場合は、Informatica グローバルカスタマサポートに連絡します。
PWXPC_12066	<b>[<i>process_id</i>] リスタートトークン長 [<i>tok_len1</i>] : [<i>tok_len2</i>] (マップ [<i>ext_map</i>] 用、ソース [<i>token_src</i>]) が以前に読み込まれたトークン長 [<i>len1</i>] : [<i>len2</i>] と一貫性がありません</b>
説明:	渡されたリスタートトークンの 16 進長に一貫性がありません。PWXPC は、16 進長が <i>tok_len1</i> (restart1 トークン) および <i>tok_len2</i> (restart2 トークン) のリスタートトークンを検出しました。PWXPC で必要な長さは、 <i>len1</i> (restart1 トークン) および <i>len2</i> (restart2 トークン) です。 <i>ext_map</i> 変数には、特定の抽出マップ名、またはすべてのソースが影響を受けている場合は ALL (デフォルトの開始 UOW) が入ります。

ユーザの応答：	<i>token_src</i> がリスタートファイルの場合は、リスタートトークンファイルで指定されたリスタートトークンを修正し、セッションをリスタートします。 <i>token_src</i> に他の値が含まれている場合は、Informatica グローバルカスタマサポートに連絡します。
PWXPC_12067	<b>[<i>process_id</i>] PWX [<i>pxw_len1</i>] : [<i>pxw_len2</i>] から受信したリスタートトークンの長さがリスタート時に読み込まれるトークンの長さ [<i>len1</i>] : [<i>len2</i>] と一貫性がありません</b>
説明：	PowerExchange から受信したリスタートトークンの長さがリスタート時に読み込まれるトークンの長さで一貫性がありません。 PowerExchange から渡されたリスタートトークンの 16 進長は、 <i>pxw_len1</i> (restart1 トークン) および <i>pxw_len2</i> (restart2 トークン) です。PWXPC で必要な長さは、 <i>len1</i> (restart1 トークン) および <i>len2</i> (restart2 トークン) です。
ユーザの応答：	リスタートトークンファイルの内容を修正します。
PWXPC_12068	<b>[<i>process_id</i>] reader の終了条件で読み込まれた最終リスタートトークン: Restart 1 [<i>restart1</i>] : Restart 2 [<i>restart2</i>]</b>
説明：	reader の終了時に、PWXPC は最後に読み込まれたリスタートトークン値を表示します。reader の終了理由によっては、これらのリスタートトークンで表される変更データがターゲットにコミットされないことがあります。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWXPC_12069	<b>[<i>process_id</i>] リカバリモードでの実行。reader が最も古いコミット未完了の UOW を再同期ターゲットに再送信します: 開始:Restart 1 [<i>beg_restart1</i>] :Restart 2 [<i>beg_restart2</i>] 終了:Restart 1 [<i>end_restart1</i>] :Restart 2 [<i>end_restart2</i>]</b>
説明：	PWXPC はリカバリモードで実行しており、最も古いコミット未完了の作業単位にターゲットを再同期する必要があります。PWXPC は、PowerExchange に対して、トークン <i>beg_restart1: beg_restart2</i> および <i>end_restart1: end_restart2</i> 間のすべてのデータを送信するように要求します。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWXPC_12070	<b>[<i>process_id</i>] リカバリが完了しました。次のセッションがリスタートします: Restart 1 [<i>restart1</i>] : Restart 2 [<i>restart2</i>]</b>
説明：	PWXPC は、リカバリを完了し、状態テーブルまたは状態ファイルを終了リスタートトークン ( <i>restart1</i> および <i>restart2</i> ) で更新しました。リカバリセッションが終了します。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWXPC_12071	<b>[<i>process_id</i>] GMD 状態テーブルに書き込み中にエラーが発生しました: [<i>error_message</i>]</b>
説明：	GMD 状態テーブルに書き込み中にエラーが発生しました。PWXPC は、GMD キャッシュコーディネータから受け取った最後のエラーメッセージを <i>error_message</i> に表示します。
ユーザの応答：	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWXPC_12072	<b>[<i>process_id</i>] リカバリがセッション用に有効化されていません。 リスタートは保証されません。</b>
説明:	CDC セッションに対してリカバリ戦略を有効にすることができませんでした。
システムのアクション:	処理は続行されますが、PWXPC は、リカバリが要求されていないため、以後のリスタート処理が正確であることを保証しません。
ユーザの応答:	CDC セッションを変更して、[セッションプロパティ] タブのリカバリ戦略属性で <b>最後のチェックポイントから再開する</b> を選択します。
PWXPC_12075	<b>[<i>process_id</i>] セッションが完了しました。 次のセッションが リスタートします: Restart 1 [<i>restart1</i>] : Restart 2 [<i>restart2</i>]</b>
説明:	PWXPC reader が完了し、次のウォームスタートで使用される最終リスタートトークンが表示されます。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWXPC_12080	<b>セッション属性 <i>attr_name</i> を展開できません</b>
説明:	PWXPC がセッション属性の展開に失敗しました。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWXPC_12081	<b>セッション属性 [<i>attr_name</i>] (属性 ID [<i>attr_id</i>]、セッション [<i>session</i>]) を展開できません</b>
説明:	PWXPC がセッション属性 <i>attr_name</i> の展開に失敗しました。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWXPC_12082	<b>グループが投影されたかどうかを検出する試みが失敗しました。 ソース [<i>source</i>] ;グループ [<i>group</i>]</b>
説明:	PWXPC が投影されたグループを検出できませんでした。これは内部エラーです。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWXPC_12083	<b>複数の DSQ には投影されたグループが含まれ、MergeCDCReaders がアクティブです</b>
説明:	これは内部エラーです。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWXPC_12084	<b>マージされた DSQ が見つかりません。 MergeCDCReaders がアクティブです。</b>
説明:	これは内部エラーです。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWXPC_12085	<b>マージされた DSQ の元のソースが見つかりません</b>
説明:	これは内部エラーです。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWXPC_12086	<b>マージされた DSQ の元のソースを取得できませんでした [dsq_name]</b>
説明:	これは内部エラーです。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWXPC_12087	<b>マージされた DSQ の派生ソースのフィールドリストを取得 できませんでした [dsq_name]</b>
説明:	これは内部エラーです。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWXPC_12088	<b>サーバーフラグ MergeCDCReaders が設定されています。す べての CDC ソースが 1 つのパーティション内で読み込まれ ます</b>
説明:	カスタムプロパティ MergeCDCReaders=Yes が指定されています。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWXPC_12089	<b>サーバーフラグ SingleThreadExecutionModel が設定されて います。CDC ソースのデータは、セッション内で再度パーテ ィション化されません</b>
説明:	カスタムプロパティ SingleThreadExecutionModel=Yes が指定され ています。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWXPC_12091	<b>[process_id] コールドスタートが要求されました</b>
説明:	コールドスタートが要求されました。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWXPC_12092	<b>[process_id] ウォームスタートが要求されました。必要な場 合は、ターゲットが自動で再度同期化されます。</b>
説明:	ウォームスタートが要求されました。PWXPC は、必要に応じてリカ バリを実行し、セッションを続行します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWXPC_12093	<b>[process_id] リカバリ実行が要求されました。必要な場合 は、ターゲットが再度同期化され、処理が終了します</b>
説明:	リカバリが要求されました。PWXPC は、必要に応じてリカバリを実 行し、セッションを終了します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWXPC_12094	<b>[process_id] 拡張 GMD リカバリが有効です。リカバリは自 動です。</b>
説明:	PWXPC は高度な GMD リカバリを使用し、セッションを自動でリカ バリします。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。

PWXPC_12096	<b>【<i>process_id</i>】 ターゲットが一貫性のない状態です。リカバリは必要ありません。</b>
説明：	リスタートの初期化処理中、PWXPC はリカバリが不要であると判別しました。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWXPC_12097	<b>【<i>process_id</i>】 GMD アプリケーション ID の設定時にエラーが発生しました: 【<i>error_msg</i>】</b>
説明：	GMD アプリケーション ID の設定時にエラーが発生しました。
ユーザの応答：	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWXPC_12098	<b>【<i>process_id</i>】 リカバリのリスタートポイントを確立できません。</b>
説明：	セッション状態データが破損しているため、PWXPC はリカバリのリスタートポイントを確立できません。
ユーザの応答：	リスタートトークンファイルを、最後に成功したセッションからの終了リスタートトークンファイルのリスタートトークンで更新し、セッションのコールドスタートを実行します。
PWXPC_12099	<b>【<i>process_id</i>】 読み込み状態の長さが返されました: ステータス= 【<i>status_code</i>】: キャッシュステータス= 【<i>cache_code</i>】: 長さ= 【<i>len</i>】</b>
説明：	PWXPC は、状態テーブルから状態データを読み込むときに返された情報を表示します。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。

## PWXPC\_12100～PWXPC\_12199

PWXPC_12100	<b>【<i>process_id</i>】 読み込み状態情報が返されました: ステータス= 【<i>status_code</i>】: キャッシュステータス= 【<i>cache_code</i>】: 長さ= 【<i>len</i>】</b>
説明：	PWXPC は、状態ファイルから状態データを読み込むときに返された情報を表示します。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWXPC_12101	<b>【<i>process_id</i>】 リアルタイム停止が要求されました。エンドオブファイルの処理を開始しています</b>
説明：	Integration Service から PWXPC を適切に停止するように要求されました。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。



PWXPC_12102	<b>CDC ストリームの最後に、<code>[process_id]</code> がリスタートトークン <code>[restart1]</code>、<code>[restart2]</code> でリアルタイムフラッシュを実行しています</b>
説明：	PowerExchange が、変更ストリームの最後に到達したことを示しています。PWX CDC 変更接続で、Idle Time に達するか、または最後の圧縮ファイルの終わりに達すると、変更ストリームが終了します。PWXPC は、リスタートトークンを状態テーブルまたは状態ファイルにフラッシュします。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWXPC_12103	<b>リカバリの最後に、<code>[process_id]</code> がリスタートトークン <code>[restart1]</code>、<code>[restart2]</code> でリアルタイムフラッシュを実行しています</b>
説明：	リカバリ中、PWXPC はコミット未完了の最後の作業単位を読み込み、変更データをターゲットにフラッシュします。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWXPC_12104	<b><code>[process_id]</code> が最初のリスタートトークンをターゲットにフラッシュするためにリアルタイムフラッシュを実行しています</b>
説明：	初期化中、PWXPC は、すべてのソースに対して調整されたリスタートトークンが、状態テーブルまたは状態ファイルに現在記録されているリスタートトークンと異なることを特定しました。この場合、PWXPC は調整されたリスタートトークンを状態テーブルまたは状態ファイルにコミットします。
PWXPC_12105	<b><code>[process_id]</code> リスタートファイルから読み込んだトークンが最大許容長 <code>[max_len]</code> を超えています。</b>
説明：	リスタートトークンファイルから読み込まれたリスタートトークンが最大許容長を超えています。
ユーザの応答：	リスタートトークンファイル内のデータを修正し、セッションをリスタートします。
PWXPC_12106	<b><code>[process_id]</code> 予測されるリスタートトークン割り当てがテーブル <code>[tablename]</code> で見つかりません。</b>
説明：	PWXPC は、テーブル <code>tablename</code> について、予測されるリスタートトークン割り当てを検出できませんでした。
ユーザの応答：	リスタートトークンファイル内のデータを修正し、セッションをリスタートします。
PWXPC_12107	<b><code>[process_id]</code> リスタートトークン <code>[restart_token]</code> の指定が最大許容長 <code>[max_len]</code> を超えています。</b>
説明：	リスタートトークンの長さが最大許容長を超えています。
ユーザの応答：	リスタートトークンファイル内のデータを修正し、セッションをリスタートします。

PWXPC_12108	<b>[<i>process_id</i>] 不正な形式の上書きが、リスタートファイルからの読み込みを検出しました。</b>
説明:	リスタートトークンファイル内の特別なオーバーライド文の形式が正しくありません。RESTART1 および RESTART2 の両方を指定する必要があります。
ユーザの応答:	リスタートトークンファイル内のデータを修正し、セッションをリスタートします。
PWXPC_12109	<b>[<i>process_id</i>] リスタートファイルからの読み込み中に、テーブル [<i>tablename</i>] でペアになっていないリスタート指定が検出されました。</b>
説明:	リスタートトークンファイル内の明示的なオーバーライド文の形式が正しくありません。テーブルには、 <i>restart1</i> トークン値および <i>restart2</i> トークン値の両方を指定する必要があります。
ユーザの応答:	リスタートトークンファイル内のデータを修正し、セッションをリスタートします。
PWXPC_12110	<b>[<i>process_id</i>] リスタートファイルで指定されているテーブル [<i>tablename</i>] はこのセッションのソースではありません。</b>
説明:	リスタートトークンファイルで指定されているテーブルはこのセッションのソースではありません。
ユーザの応答:	リスタートトークンファイル内のデータを修正し、セッションをリスタートします。
PWXPC_12111	<b>[<i>process_id</i>] アプリケーション名 [<i>app_name</i>] の長さ [<i>app_length</i>] が、最大許容値 <i>max_len</i> バイトを超えています。</b>
説明:	接続に指定されたアプリケーション名 <i>app_name</i> の長さが最大許容長を超えています。
ユーザの応答:	アプリケーション名を修正し、セッションをリスタートします。
PWXPC_12112	<b>アプリケーション名 [<i>app_name</i>] に無効な文字が含まれています。使用できる文字は、英数字および_#\$%です</b>
説明:	接続に指定されたアプリケーション名 <i>app_name</i> に無効な文字が含まれます。
ユーザの応答:	アプリケーション名を修正し、セッションをリスタートします。
PWXPC_12113	<b>[<i>process_id</i>] 即時停止が検出されました。</b>
説明:	Integration Service から PWXPC を停止するように要求されました。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWXPC_12114	<b>[<i>process_id</i>] GMD チェックポイントに対する待機に失敗しました: [<i>error_message</i>]</b>
説明:	GMD チェックポイントに対する待機中にエラーが発生しました。ターゲットリソースがロックされているか、または利用できない可能性があります。

ユーザの応答：	問題が解決しない場合は、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWXPC_12115	<b>入力カラム [<i>column_name</i>] を更新パラメータにマップできません。カラムは更新にバインドされていません。</b>
説明：	PWXPC は、報告された入力カラムを更新パラメータにマップできません。カラムが更新 SQL 文に含まれていないためです。更新/挿入オプションは無視され、処理が続行されます。
ユーザの応答：	更新 SQL 文を修正します。
PWXPC_12116	<b>入力カラム [<i>column_name</i>] を更新パラメータにマップできません。カラムは更新に複数回バインドされています。</b>
説明：	PWXPC は、報告された入力カラムを更新パラメータにマップできません。カラムが更新 SQL 文に複数回含まれているためです。更新/挿入オプションは無視され、処理が続行されます。
ユーザの応答：	更新 SQL 文を修正します。
PWXPC_12117	<b>更新カラム [<i>column_name</i>] を挿入パラメータにマップできません。カラムは挿入にバインドされていません。</b>
説明：	PWXPC は、報告された更新カラムを挿入パラメータにマップできません。カラムが挿入 SQL 文に含まれていないためです。更新/挿入オプションは無視され、処理が続行されます。
ユーザの応答：	挿入 SQL 文を修正します。
PWXPC_12118	<b>更新カラム [<i>column_name</i>] を挿入パラメータにマップできません。カラムは挿入に複数回バインドされています。</b>
説明：	PWXPC は、報告された更新カラムを挿入パラメータにマップできません。カラムが挿入 SQL 文に複数回含まれているためです。更新/挿入オプションは無視され、処理が続行されます。
ユーザの応答：	挿入 SQL 文を修正します。
PWXPC_12119	<b>挿入カラム [<i>column_name</i>] は更新パラメータ [<i>upd_position</i>] にマップされ、Upsert（更新挿入）処理が実行されます。</b>
説明：	挿入カラム <i>column_name</i> は、更新 SQL 文の位置 <i>upd_position</i> のカラムにマップされています。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWXPC_12120	<b>更新カラム [<i>column_name</i>] は挿入パラメータ [<i>ins_position</i>] にマップされ、Upsert（更新挿入）処理が実行されます。</b>
説明：	更新カラム <i>column_name</i> は、挿入 SQL 文の位置 <i>ins_position</i> のカラムにマップされています。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。

PWXPC_12121	<b>以前のエラーで Upsert（更新挿入）処理が無効になっています。</b>
説明：	更新/挿入オプションが無効になっています。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWXPC_12122	<b>リスタートを確実に行うには、セッションの EOF 属性へのコミットを無効にする必要があります。</b>
説明：	正常なリスタートの実行を保証するには、PWXPC CDC リーダーはターゲットへのコミットを制御する必要があります。ただし、 <b>【ファイルの終端でコミット】</b> オプションは有効になっています。このオプションが有効になっていて CDC セッションが終了すると、PowerCenter は、PWXPC CDC リーダーの終了後に最終コミットを実行します。この最終コミットは、リスタートトークンがターゲットの状態と一致しないため、CDC セッションのリスタート時に失敗またはデータが重複する可能性があります。
システムのアクション：	処理は継続します。
ユーザの応答：	CDC セッションの <b>【プロパティ】</b> タブで <b>【ファイルの終端でコミット】</b> 属性を無効にします。
PWXPC_12123	<b>現在のリスタート情報のフェッチ中に、ステートメントオブジェクトの作成に失敗しました。説明は、次の PWX メッセージを参照してください</b>
説明：	PowerExchange がステートメントオブジェクトの作成に失敗しました。
システムのアクション：	処理は終了します。
ユーザの応答：	セッションログで PowerExchange メッセージを確認し、エラーの原因を特定します。サポートが必要な場合は、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWXPC_12124	<b>現在のリスタート情報のフェッチ中に、ステートメントオブジェクトの実行に失敗しました。説明は、次の PWX メッセージを参照してください</b>
説明：	PowerExchange が、ステートメントオブジェクトの実行に失敗しました。
システムのアクション：	処理は終了します。
ユーザの応答：	セッションログで PowerExchange メッセージを確認し、エラーの原因を特定します。サポートが必要な場合は、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWXPC_12125	<b>現在のリスタート情報のフェッチに失敗しました。</b>
説明：	PowerExchange が現在のリスタート情報のフェッチに失敗しました。
システムのアクション：	処理は終了します。

ユーザの応答：	データソースの位置の PowerExchange ログを調べて原因を特定します。サポートが必要な場合は、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWXPC_12126	<b>現在のリスタート情報のフェッチ中に、接続オブジェクトの作成に失敗しました。説明は、次の PWX メッセージを参照してください</b>
説明：	PowerExchange が接続オブジェクトの作成に失敗しました。処理は終了します。
ユーザの応答：	セッションログで PowerExchange メッセージを確認し、エラーの原因を特定します。サポートが必要な場合は、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWXPC_12127	<b>現在のリスタート情報のフェッチ中に、PWX 接続のオープンに失敗しました。説明は、次の PWX メッセージを参照してください</b>
説明：	PowerExchange がリモート PowerExchange への接続のオープンに失敗しました。
システムのアクション：	処理は終了します。
ユーザの応答：	セッションログで PowerExchange メッセージを確認し、エラーの原因を特定します。サポートが必要な場合は、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWXPC_12128	<b>【コミットあたりの最大行数 <code>[commit_count]</code> に達したため、<code>dispatcher</code> がリスタートトークン <code>[restart1]</code>、<code>[restart2]</code> でリアルタイムフラッシュを実行しています</b>
説明：	CDC 接続に指定されたコミットあたりの最大行数 <code>commit_count</code> に達したため、PWXPC が CDC ソースの変更データをターゲットにフラッシュしました。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWXPC_12129	<b>【<code>process_id</code>】 GMD リスタート情報の <code>[table_name]</code> のリスタートエントリが、このセッションのソースに一致しません。ソースを追加または削除するときは、リカバリを実行して既存のリスタート情報を取得してから、コールドスタートを実行します。</b>
説明：	テーブル <code>table_name</code> が、このセッションの GMD 状態リスタート情報に記録されています。ただし、このテーブルはこのセッションのソースに一致しません。
システムのアクション：	処理は終了します。

ユーザの応答：	<p>CDC セッションでソースを追加または削除するときは、以下の手順を実行する必要があります。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 元のセッションでリカバリを実行して、リスタートトークンファイルを入力します。</li> <li>2. セッションを変更して、ソーステーブルまたはターゲットテーブルを追加または削除します。</li> <li>3. ソーステーブルを追加する場合は、リスタートトークンファイルを更新して、新しいソースにリスタートトークンを提供します。</li> <li>4. セッションをコールドスタートします。</li> </ol>
PWXPC_12130	<p><b>【<i>process_id</i>】 ソーステーブル <i>[table_name]</i> には、GMD リスタート情報に一致するリスタート情報がありません。ソースを追加または削除するときは、リカバリを実行して既存のリスタート情報を取得してから、コールドスタートを実行します。</b></p>
説明：	<p>テーブル <i>table_name</i> に、GMD 状態またはリスタートファイルに一致するリスタート情報がありません。</p>
システムのアクション：	<p>処理は終了します。</p>
ユーザの応答：	<p>CDC セッションでソースを追加または削除するときは、以下の手順を実行する必要があります。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 元のセッションでリカバリを実行して、リスタートトークンファイルを入力します。</li> <li>2. セッションを変更して、ソーステーブルまたはターゲットテーブルを追加または削除します。</li> <li>3. ソーステーブルを追加する場合は、リスタートトークンファイルを更新して、新しいソースにリスタートトークンを提供します。</li> <li>4. セッションをコールドスタートします。</li> </ol>
PWXPC_12131	<p><b>【<i>process_id</i>】 ウォームスタートが要求されたものの、GMD でリスタート情報が見つかりませんでした。GMD リスタート情報を初期化するには、コールドスタートを実行する必要があります。</b></p>
説明：	<p>CDC セッションのウォームスタートを要求しました。PWXPC は、CDC 接続に指定されたタスクインスタンス ID およびアプリケーション名に一致するエントリを GMD 状態で検出できませんでした。</p>
システムのアクション：	<p>処理は終了します。</p>

ユーザの応答：	<p>今まで実行されていない新しい CDC セッションの場合は、コールドスタートを使用する必要があります。セッションを変更し、CDC 接続で不適切なアプリケーション名を指定した場合は、その名前を修正し、セッションをリスタートします。セッションを変更してソースを追加または削除した場合は、以下の操作を行う必要があります。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 元のセッションでリカバリを実行して、リスタートトークンファイルを入力します。</li> <li>2. セッションを変更して、ソーステーブルまたはターゲットテーブルを追加または削除します。</li> <li>3. ソーステーブルを追加する場合は、リスタートトークンファイルを更新して、新しいソースにリスタートトークンを提供します。</li> <li>4. セッションをコールドスタートします。</li> </ol>
PWXPC_12132	<b>[<i>rtf_latency</i>] ミリ秒のリアルタイムフラッシュ待ち時間の使用。</b>
説明：	PWXPC は、CDC セッションの PWX リアルタイム CDC アプリケーション接続で指定された <i>rtf_latency</i> 値を使用します。
ユーザの応答：	処理は継続します。
PWXPC_12133	<b>2000 ミリ秒のリアルタイムフラッシュ待ち時間の使用。</b>
説明：	CDC セッションのリアルタイムフラッシュ待ち時間では、PWXPC はデフォルト値 2000 ミリ秒を使用します。
ユーザの応答：	処理は継続します。
PWXPC_12134	<b>リアルタイムフラッシュ待ち時間は無効です。</b>
説明：	CDC セッションの PWX リアルタイム CDC アプリケーション接続でリアルタイムフラッシュ待ち時間の値に-1 が指定されました。この値はこのオプションを無効にします。そのため、PWXPC は、ターゲットへの変更データのフラッシュに待ち時間を使用しません。
システムのアクション：	処理は継続します。
ユーザの応答：	待ち時間を使用して変更データをターゲットにフラッシュする場合は、リアルタイムフラッシュ待ち時間属性に負以外の値を指定します。それ以外の場合は、PWXPC は、ターゲットへの変更データのフラッシュの制御に他のコミットメント制御属性を使用します。
PWXPC_12135	<b>Teradata PT リスタート動作が必要です。コミットが初めての場合、リアルタイムフラッシュ待ち時間は無視されます。</b>
説明：	CDC セッションで TPTRecoveryModel カスタムプロパティが [はい] に設定されました。そのため、Teradata PT リスタート処理が要求されます。

システムのアクション:	<p>リスタート処理が指定されると、PWXPC は以下を実行します:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 接続で <b>UOW カウント</b> または <b>コミットあたりの最大行数</b> 属性のいずれかが指定されたことを確認する。</li> <li>• ウォームスタートでは、UOW カウントまたは最大行数しきい値に達するまでリアルタイムフラッシュ待ち時間を無効にする。</li> <li>• ウォームスタートでは、UOW カウントまたは最大行数しきい値に達するまで PowerExchange リスタートアドバンスで生成される空の UOW を無視する。</li> </ul>
ユーザの応答:	<p>CDC セッションが Teradata をターゲットにする場合は Teradata PT リスタート処理を使用します。それ以外の場合は、TPTRecoveryModel=Yes カスタムプロパティを使用しません。</p>
PWXPC_12136	<p><b>Teradata PT リスタート動作では、UOW カウントまたはコミットあたりの最大行数が 0 より大きい値である必要があります。</b></p>
説明:	<p>CDC セッションで TPTRecoveryModel カスタムプロパティが [はい] に設定されました。そのため、Teradata PT リスタート処理が要求されます。Teradata PT リスタート処理を使用するには、PWX リアルタイム CDC 接続で <b>UOW カウント</b> または <b>コミットあたりの最大行数</b> 属性のいずれかに 0 より大きい値を指定する必要があります。</p>
システムのアクション:	<p>処理は終了します。</p>
ユーザの応答:	<p>Teradata PT リスタート処理を無効にするか、または CDC セッションの接続を修正します。</p>
PWXPC_12137	<p><b>リアルタイムフラッシュのしきい値が指定されていません。UOW カウント、コミットあたりの最大行数、またはリアルタイムフラッシュ待ち時間は 0 より大きい値である必要があります。</b></p>
説明:	<p>CDC セッションの接続は、PWX CDC リアルタイムアプリケーション接続でコミットメント制御属性のすべてを無効にしました。PWXPC は、CDC セッションのターゲットへのコミット処理を制御できません。</p>
システムのアクション:	<p>処理は終了します。</p>
ユーザの応答:	<p><b>UOW カウント、コミットあたりの最大行数、またはリアルタイムフラッシュ待ち時間</b> 属性の少なくとも 1 つに負以外の値を指定する必要があります。</p>
PWXPC_12170	<p><b>データベースコードページ [codepage_name] [codepage_id] の使用。</b></p>
説明:	<p>PWXPC は、データベースコードページ <i>codepage_name</i> を使用してデータを処理します。</p>
ユーザの応答:	<p>処理は続きます。</p>



PWXPC_12171	<b>オフロード処理では、アイドル時間 [<i>idle_time</i>] は 0 (ログの終わりで停止) にリセットされます。</b>
説明:	セッションの CDC アプリケーション接続で <b>【オフロード処理】</b> を選択しました。また、 <b>アイドル時間</b> 属性で 0 より大きい値を指定しました。
システムのアクション:	PWXPC は、アイドル時間値を 0 にリセットします。これは、PowerExchange が変更ストリームの終わりに達した後に CDC セッションが停止することを意味します。
ユーザの応答:	CDC オフロード処理を使用するとき、 <b>アイドル時間</b> 属性の値は-1 または 0 のいずれかでなければなりません。-1 を選択した場合、CDC セッションは、停止するまで引き続き実行されます。それ以外の場合は、セッションの開始時に変更ストリームの終わりを表したポイントに PowerExchange が達すると CDC セッションは終了します。
PWXPC_12172	<b>トランスフォーメーション <i>transformation_instance_name</i>. [<i>partition_override_name</i>] に異なるパーティションオーバーライド値が指定されました。各パーティションは、独立した PWX 要求として処理されます。</b>
説明:	指定されたソース修飾子トランスフォーメーションで、指定のパーティションオーバーライドに異なる値が入力されました。パーティション別に異なるオーバーライド値が入力されると、PowerExchange は各パーティション要求を個別に管理し、データソースへの接続を各パーティション別に開きます。
システムのアクション:	PWXPC は、各パーティションを独立した PowerExchange 要求として処理します。
ユーザの応答:	データソースでパーティション化された読み込み操作がサポートされている場合は、各パーティションに同じオーバーライドを指定するか、またはオーバーライドを指定しないことで処理効率を高めることができます。それ以外の場合は、操作は必要ありません。
PWXPC_12173	<b>PowerExchange は、 [<i>connection_type_name</i>] 接続タイプについて、異なるパーティションオーバーライドをサポートしません。</b>
説明:	指定された接続タイプに、異なるパーティションオーバーライド値が入力されました。PowerExchange は、その接続タイプについて、異なるパーティションオーバーライドをサポートしません。
システムのアクション:	セッション処理は停止します。
ユーザの応答:	各パーティションに同じオーバーライドを指定するか、またはオーバーライドを指定しないでください。
PWXPC_12174	<b>トランスフォーメーション <i>SQ_instance_name</i> でパーティション化はサポートされていません。パーティション <i>partition_number</i> でデータは読み込まれません。</b>
説明:	指定されたソース修飾子トランスフォーメーションで使用するデータソースにはパーティション化はサポートされていません。
システムのアクション:	処理は続きます。PowerExchange は、すべてのソースデータを最初のパーティションに読み込みます。

ユーザの応答：	この種類のパーティションから効果を得るには、ソース付近の再パーティションポイントで、ラウンドロビンなどの別のパーティションタイプを指定することができます。または、ソースデータの同時読み込みを行うには、各パーティションごとに、互いに素である SQL オーバーライドを指定することができます。
PWXPC_12175	<b>トランスフォーメーション <i>transformation</i> のソースは、複数のパーティションで読み込んでいます。ワーカースレッド オプション <i>option</i> は無視されます。</b>
説明：	セッションで複数のパーティションが使用されるとき、複数のワーカースレッドも使用できません。
システムのアクション：	PWXPC はワーカースレッド設定を無視し、処理は続行されます。
ユーザの応答：	対応する必要はありません。
PWXPC_12176	<b>パーティション化は、現在のバージョンの PowerExchange を使用したトランスフォーメーション <i>transformation</i> ではサポートされていません。アップグレードが必要です。インフォマティカ社のサポートまでお問い合わせください。</b>
説明：	PowerExchange リリースは、指定されたソース修飾子トランスフォーメーションに関連付けられたデータソースでのパーティション化をサポートしません。
システムのアクション：	セッション処理は停止します。
ユーザの応答：	セッションを編集し、最初のパーティションを除くすべてのパーティションを削除します。最新の PowerExchange リリースへのアップグレードの詳細については、Informatica グローバルカスタマサポートに連絡します。
PWXPC_12177	<b>トランスフォーメーション <i>transformation_instance_name</i>.PowerExchange は、選択した PWX パーティション化戦略 <i>strategy</i> を使用した最初のパーティションオーバーライド以外のパーティションオーバーライドはサポートしません。</b>
説明：	指定されたソース修飾子トランスフォーメーションでは、 <b>Single Connection</b> がこのセッションの <b>Partition Strategy</b> 接続属性として指定され、一部のパーティションに対して最初のパーティションのオーバーライドと異なるパーティションオーバーライドが指定されました。 <b>Single Connection</b> パーティション戦略では、すべてのパーティションに同じオーバーライドを使用するか、どのパーティションにもオーバーライドを使用しない必要があります。
システムのアクション：	セッション処理は停止します。
ユーザの応答：	パーティション戦略として Overrides Driven を選択するか、すべてのパーティションに同じオーバーライド（またはすべてなし）を指定します。

PWXPC_12178	<b>トランスフォーメーション <i>transformation_instance_name</i>. セッションオーバーライド <i>session_override_name</i> (値 <i>session_override_value</i>) は、パーティション <i>partition_number</i> で使用されています。</b>
説明:	このメッセージは、指定されたソース修飾子トランスフォーメーションを含んだセッションの指定されたパーティションに、指定された PWXPC が使用するオーバーライド名および値を示します。
システムのアクション:	PWXPC はこのメッセージを PWXPC_17177 とともにログファイルで発行します。
ユーザの応答:	このエラーへの推奨の応答については、ログでメッセージ PWXPC_12177 を参照します。
PWXPC_12179	<b>トランスフォーメーション <i>transformation_instance_name</i>. セッションオーバーライド <i>session_override_name</i> (値 <i>session_override_value</i>) が使用されています。</b>
説明:	このメッセージは、指定されたソース修飾子トランスフォーメーションを含んだセッションで、PWXPC を使用するオーバーライド名および値を示します。
システムのアクション:	PWXPC はこのメッセージを PWXPC_17177 とともにログファイルで発行します。
ユーザの応答:	このエラーへの推奨の応答については、ログでメッセージ PWXPC_12177 を参照します。
PWXPC_12180	<b><i>transformation_instance_name</i>:接続に失敗しました。指定された接続再試行期間 <i>connection_retry_period</i> 内に再接続を試みています。</b>
説明:	指定されたソース修飾子トランスフォーメーションで接続に失敗しました。
システムのアクション:	PWXPC は、接続再試行期間接続属性で指定された秒数の間、再接続を試みます。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWXPC_12181	<b>トランスフォーメーション [<i>transformation_instance_name</i>] : [error message] の初期化中にエラーが発生しました</b>
説明:	PowerExchange バルクデータ移動セッションのマッピングでトランスフォーメーションインスタンスを初期化しているときに、エラーが発生しました。
システムのアクション:	セッションが終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWXPC_12182	<b>オフロード処理が有効になっていないか、ターゲット [target_instance_name] でサポートされていません。パーティション化をサポートできません。</b>
説明:	バルクデータ移動セッションのパーティション化は、オフロード処理が有効になっていないか、必要な処理でサポートされていないために失敗しました。
システムのアクション:	セッションが終了します。
ユーザの応答:	ターゲットの種類と、データ処理をオフロードできるかどうかに基づいて、オフロード処理を有効にするか、使用しません。
PWXPC_12183	<b>PowerExchange ライタパーティション化は挿入操作のみサポートします。更新または削除では、パーティションなしにセッションを再度実行します。</b>
説明:	ライタパーティション化を使用する PowerExchange バルクデータ移動セッションで、ライタパーティションが、SQL 更新および削除操作を含んだデータを受信しました。ライタパーティションは挿入のみ処理できます。
システムのアクション:	バルクデータ移動セッションは失敗します。
ユーザの応答:	バルクデータ移動セッションに対してライタパーティション化を無効にしてから、セッションを再度実行します。
PWXPC_12184	<b>PowerExchange WRT_ERROR_HANDLING オプションがオンになっています。完全なエラーメッセージについては、PowerExchange メッセージログを参照します。</b>
説明:	PowerCenter Integration Service マシン上の PowerExchange dbmover.cfg ファイルで、WRT_ERROR_HANDLING 文が Y に設定されています。この設定が原因で、 <b>Write Mode</b> 接続属性が <b>Confirm Write On</b> に設定されているときに、より効率的に処理されるようにライタパーティションを使用しているバルクデータ移動セッションに対して、PowerExchange Listener からエラーが返されました。この設定は、通常、ライタパーティションの入力データに多くのエラーが含まれるときに指定されます。
システムのアクション:	バルクデータ移動セッションは継続します。エラーが発生した場合、PWXPC は、詳細情報を伴った完全なエラーメッセージを、PowerCenter Integration Service マシン上のセッションログおよび PowerExchange メッセージログファイルに書き込みます。
ユーザの応答:	エラーを診断するには、完全なエラーメッセージを確認します。問題の修正後、セッションを再度実行します。バルクデータ移動セッションに WRT_ERROR_HANDLING=Y 設定を使用しない場合は、PWX NRDB バッチアプリケーション接続の <b>PWX Override</b> 属性でこの設定を上書きできます。

PWXPC_12185	<b>トランスフォーメーション <i>transformation_instance_name</i> グループ <i>group_name</i>PowerExchange オプション <i>option_name</i> が <i>value</i> に設定されます (戻りコード <i>PowerExchange_return_code</i> を使用)。</b>
説明:	指定したトランスフォーメーションを含み、複数のグループのソースまたはターゲットを含むセッションで、指定オプションが指定グループの指定値に設定されます。
システムのアクション:	処理は継続します。
ユーザの応答:	対応する必要はありません。
PWXPC_12186	<b>トランスフォーメーション <i>transformation_instance_name</i>. 複数のグループは <i>session_override_name</i> に指定したオーバーライド値によってのみサポートされています</b>
説明:	指定したトランスフォーメーションを含み、複数のグループのソースまたはターゲットを含むセッションで、指定されたセッションプロパティの値が提供されていません。例えば、セッションで IMS アンロードファイルへの複数レコードの書き込みを実行する場合、 <b>[IMS アンロードファイル名]</b> セッションプロパティのアンロードファイル名を指定する必要があります。
システムのアクション:	処理は終了します。
ユーザの応答:	指定したセッションプロパティの値を入力します。
PWXPC_12187	<b>トランスフォーメーション <i>transformation_instance_name</i>. オプション <i>option_name</i> を <i>option_value</i> に設定している場合、パーティションはサポートされません</b>
説明:	指定したトランスフォーメーションを含むセッションでは、指定したオプションに指定値が設定されている場合、パーティションは定義されますがサポートされません。  例えば、複数レコードの読み取りまたは書き込みを実行する PowerCenter セッションでは、パーティションは使用できません。ソース定義とターゲット定義のインポート時に、 <b>[PowerExchange からインポート]</b> ダイアログボックスで <b>[シーケンスフィールドを使用]</b> および <b>[マルチレコードのデータマップ]</b> を選択すると、セッションで複数レコードの書き込みを有効にすることができます。
システムのアクション:	処理は継続します。
ユーザの応答:	セッションの分割を無効にします。
PWXPC_12188	<b>トランスフォーメーション <i>transformation_instance_name</i>: 非同期 PowerExchange ライタが、キャッシュからのデータをまだ処理中です。</b>
説明:	このメッセージは、複数レコードの書き込み操作中に、指定したターゲットを含むセッションで、PowerExchange がまだキャッシュからのデータを処理しており、ターゲットデータに書き込んでいることを示します。

システムのアクション: 処理は継続します。  
システム:

ユーザの応答: 対応する必要はありません。

PWXPC\_12189 **すべてのグループにおけるトランスフォーメーションの累積統計** *transformation\_instance\_name*: 要求された行 *rows\_requested*、適用された行 *rows\_applied*、拒否された行 *rows\_rejected*

説明: 複数レコードの書き込みを実行するセッションで、PWXPC はこのメッセージと PWXPC\_12189 を定期的に発行して、キャッシュからの行の取得およびターゲットへの書き込みの進捗状況をレポートします。メッセージには、次の統計が表示されます。

- *rows\_requested*: PWXPC が順序付けおよびキュー追加のキャッシュに渡した行の数。
- *rows\_applied*: 順序付けおよびキュー追加のキャッシュから正常に読み込まれた行の数。
- *rows\_rejected*: 孤立として拒否された行の数。孤立行とは、孤立行の外部キーと一致するプライマリキーを持つキャッシュにレコードが存在しないレコードです。

複数レコードの書き込みはターゲット接続設定の【書き込み確認】がオフに設定されていることが条件となるため、これらの書き込みは PowerCenter に対して非同期となります。Writer への入力データによっては、セッションログに報告される行統計と Workflow Monitor が必ずしもいつも、実際にターゲットに書き込まれた行の番号を反映しているとは限りません。

システムのアクション: 処理は継続します。  
システム:

ユーザの応答: 対応する必要はありません。

PWXPC\_12190 **トランスフォーメーション** *transformation\_instance\_name*: PowerExchange で**永続エラー**が検出されました: *PowerExchange\_error\_message*

説明: 指定されたトランスフォーメーションを含むセッションで、特定の永続エラーが発生しました。

システムのアクション: 処理は終了します。  
システム:

ユーザの応答: 指定したエラーメッセージの説明を参照してください。詳細については、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

PWXPC\_12191 **セッションを PowerExchange バージョン** *version\_number* **で実行しています。**

説明: PowerCenter セッションが、指定された PowerExchange バージョンで実行されています。

ユーザの応答: 対応する必要はありません。

PWXPC_12192	PowerExchange <b>機能のリスト</b> <i>name/value_pairs</i>
説明:	リストされた各 PowerExchange 機能には、次のいずれかの値が指定されています。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• オン。機能が使用可能です。</li> <li>• オフ。機能が使用不可です。</li> <li>• 非サポート。この組み合わせの PowerExchange と PWXPC に対して、機能はサポートされません。</li> </ul>
ユーザの応答:	対応する必要はありません。PWX オーバーライド接続属性を使用して、サポートされる機能を使用可能または使用不可にできます。詳細については、『 <i>PowerExchange 用の PowerExchange インタフェース</i> 』を参照してください。
PWCPC_12193	<b>指定したオーバーライド値 <i>value</i> は機能 <i>option</i> に適用できません。</b>
説明:	指定されたオーバーライド値は、指定された機能に対してサポートされません。
システムのアクション:	処理は継続します。オーバーライド値は適用されません。
ユーザの応答:	接続用の PWX オーバーライド属性で、使用中の PWXPC および PowerExchange のバージョンに対して機能オプションがサポートされており、有効な値が設定されていることを確認します。詳細については、『 <i>PowerExchange 用の PowerExchange インタフェース</i> 』を参照してください。
PWXPC_12194	<b>ドメインおよびノードアドレス情報が PowerExchange で設定できませんでした。</b>
説明:	内部エラーが発生しました。
システムのアクション:	処理は終了します。
ユーザの応答:	Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
PWXPC_12195	<b>パスワードに含まれている 1 つ以上の文字が PowerExchange でサポートされていません。</b>
説明:	z/OS RACF パスワード句（パスフレーズ）が PowerExchange インタフェースのパスワードとして入力されました。パスフレーズに無効な文字が含まれています。PowerExchange では、パスフレーズで次の文字のみがサポートされます: 大文字 A-Z、小文字 a-z、数値 0 から 9、特殊文字 ` - ; # \ , . / ! % & * ( ) _ + { } : @   < > ?
ユーザの応答:	不適切なパスフレーズを入力した場合は、有効なパスフレーズ文字のみが含まれるようにパスワードを修正してください。

## 第 11 章

# PowerExchange Messages の異常終了コード、戻りコード、理由コード

この章では、以下の項目について説明します。

- [異常終了コード、戻りコード、理由コードの概要, 664 ページ](#)
- [IBM 製品の戻りコードと理由コード, 664 ページ](#)
- [PowerExchange 異常終了コード, 665 ページ](#)
- [PowerExchange 戻りコード, 667 ページ](#)
- [PowerExchange 理由コード, 669 ページ](#)

## 異常終了コード、戻りコード、理由コードの概要

一部の PowerExchange メッセージには、追加情報を示すコードが含まれています。例えば、コンポーネントまたはユーティリティが正常に実行されたかどうかを示す戻りコードがメッセージに含まれている場合があります。次の例で、戻りコード 0 は、該当するコンポーネントの実行が正常に完了したことを示します。

```
PWXEDM172302I Subtask terminating for program=EDMMLRP1,  
Return code=X'00000000' (0) Reason=X'00000000' (0).
```

PowerExchange メッセージで次の種類のコードを受信することができます。

- 異常終了コード
- 戻りコード
- 理由コード

この付録ではコードの種類ごとに、コードを生成する PowerExchange コンポーネントに基づいて、コードをグループ別に一覧表示します。

## IBM 製品の戻りコードと理由コード

PowerExchange で返される、一部の戻りコードと理由コードは、z/OS オペレーティングシステムまたは別の IBM 製品によって作成されます。これらのコードの詳細については、該当する IBM z/OS、IMS、VSAM、また



は DB2 のマニュアルを参照してください。戻りコードの説明が含まれている IBM ドキュメントは、次のとおりです。

- *DFSMS:DFSMSdfp 診断*
- *z/OS プログラミング:『アセンブラー・サービス解説書』*
- *z/OS プログラミング:Authorized Assembler Services Reference*
- *IMS のメッセージとコード*
- *DB2 for z/OS メッセージ*
- *DB2 for z/OS コード*

## PowerExchange 異常終了コード

異常終了コードは、システムが異常終了したことを通知します。一部の PowerExchange コンポーネントは、すべての異常終了に対して 1 つの異常終了コードを発行します。その他のコンポーネントは複数の種類の異常終了コードを発行し、各異常終了メッセージは異常終了を説明する理由コードも提供します。PowerExchange は、z/OS オペレーティングシステムまたは別の IBM 製品によって作成された異常終了コードも発行します。これらの異常終了コードの詳細については、該当する IBM z/OS、IMS、VSAM、または DB2 のマニュアルを参照してください。

### 異常終了コード U0001 - PowerExchange エージェント

PowerExchange エージェントは U0001 のユーザー異常終了コードを発行して、PowerExchange エージェントが回復不能なエラーを検出したことを示します。

PowerExchange エージェントは、異常終了コードの発行時に、関連する理由コードも発行します。また、PowerExchange エージェントは常に、メッセージ PWXEDM172012E を発行してから、異常終了コードとそれに関連する理由コードを含むメッセージを発行します。

次の表は、異常終了コード U0001 に関連する理由コードについての説明です。

理由コード	説明
00000001	PowerExchange エージェントが無効な初期化作業領域 (EDMSIWRK) またはポインタを検出しました。
00000002	PowerExchange エージェントが無効なエージェントグローバル制御領域 (EDMSCTRL) またはポインタを検出しました。
00000003	PowerExchange エージェントが無効な ACB またはポインタを検出しました。
00000004	PowerExchange エージェントが無効な RPL またはポインタを検出しました。
00000005	PowerExchange エージェントが無効な SUBSYS I/O 作業領域 (EDMSSIOW) またはポインタを検出しました。
00000006	PowerExchange エージェントが無効なサブタスク作業領域 (EDMSSTSK) またはポインタを検出しました。
00000007	PowerExchange エージェントが、破損した格納領域チェーンを検出しました。

理由コード	説明
00000101	PowerExchange エージェントが、長さがゼロの SUBSYS I/O PUT 要求を検出しました。
00000102	PowerExchange エージェントが SUBSYS I/O バッファを見つけられませんでした。
00000103	PowerExchange エージェントが、ロケートモードの SUBSYS I/O PUT 要求を検出しました。
00000201	PowerExchange エージェントが、ロックマネージャにパラメータを渡しませんでした。
00000202	PowerExchange エージェントが、不正な関数コードまたはオペランドをロックマネージャに渡しました。
00000203	ロックマネージャがストレージを取得できませんでした。
00000204	PowerExchange エージェントが、無効な ASCB および/または TCB アドレスをロックマネージャに渡しました。
00000205	PowerExchange エージェントが、すでに保持されているロックよりも低い階層にあるロックの要求を行いました。
00000301	バッチ VSAM ECCR がジョブの終了を要求しました。

PowerExchange ロggerが、異常終了コードの発行時に、関連する理由コードも発行した可能性があります。PowerExchange ロggerは、異常終了を発行するモジュールの番号または名前、および異常終了を詳細に説明するメッセージのメッセージ番号に基づいて、このコードを生成します。

## 異常終了コード U0356 - バッチ VSAM ECCR

バッチ VSAM 環境変更キャプチャルーチン（environmental change capture routine : ECCR）は U356 異常終了コードを発行して、バッチ VSAM ECCR が異常終了したことを示します。

## 異常終了コード U3035 - PowerExchange ロgger

PowerExchange ロgger（z/OS 用）は U3035 ユーザー異常終了コードを発行して、PowerExchange ロggerが異常終了したことを示します。

## 異常終了コード U3680 - DB2 ECCR

DB2 環境変更キャプチャルーチン（environmental change capture routine : ECCR）は U3680 ユーザー異常終了コードを発行して、DB2 ECCR が異常終了したことを示します。

DB2 ECCR は通常、関連する理由コードを発行します。DB2 ECCR は、異常終了を発行するモジュールの番号または名前、および異常終了を詳細に説明するメッセージのメッセージ番号に基づいて、この理由コードを生成します。システムが異常終了した場合には、この異常終了に関連する理由コードを記録します。

# PowerExchange 戻りコード

戻りコードを返す PowerExchange ジョブの実行後、システムはその戻りコードを出力ファイルにロギングしたり、デバイスに出力します。標準戻りコード、共通戻りコード、またはコンポーネント固有の戻りコードを受信できます。

PowerExchange で返される、一部の戻りコードは、z/OS オペレーティングシステムまたは別の IBM 製品によって作成されます。これらの戻りコードの詳細については、該当する IBM z/OS、IMS、VSAM、または DB2 のマニュアルを参照してください。

## 戻りコード 0～12 - 標準

標準戻りコードの値を一覧表示します。戻りコード値は、重要度が増すごとに大きくなります。

次の表は、0 から 12 までの戻りコードについての説明です。

戻りコード	説明
0	プログラム、コンポーネント、またはモジュールの実行が成功し、警告またはエラーが発生しなかったことを示します。
4	以下のいずれかを示します。 <ul style="list-style-type: none"><li>- プログラム、コンポーネント、またはモジュールが正常に完了したが、処理に警告が含まれていました。</li><li>- プログラムの実行は不完全である可能性があります。</li></ul> どちらの状況でも、プログラムは警告を出力に書き込むか、ファイルを出力するので、これらを使用して問題を特定できます。通常、このファイルを調べずにプログラムの実行が成功したかどうかを決定することはできません。
8	プログラム、コンポーネント、またはモジュールの実行中にエラーが発生したことを示します。プログラムはエラーメッセージを出力に書き込むか、ファイルを出力するので、それらを調べて問題を判定することができます。
12	重大なエラーのために、プログラム、コンポーネント、またはモジュールが処理中に終了したことを示します。通常、エラーには、オペレーティングシステム環境または認証の問題が含まれます。

## 戻りコード 1～412 - 共通

PowerExchange の一部の内部コンポーネントは、共通の戻りコードのセットを使用します。これらのコードの一部は標準コードと同じですが、説明が拡張されたり、異なっていたりします。

次の表に、共通戻りコードを一覧表示し、それぞれのコードについて説明します。

10 進戻りコード	説明
1	要求された項目または関数が見つかりませんでした。
2	システムは、要求された関数または項目の重複を見つけました。

10 進戻りコード	説明
4	<p>これは、警告の標準戻りコードです。PowerExchange コンポーネントが発行した場合、以下の具体的な警告のいずれかが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- システムはファイルの終わり（EOF）通知をサブタスクに送信しています。</li> <li>- 変換バッファが小さすぎます。これは警告です。</li> <li>- ECCR は正しくないファイルからのレコードを渡しました。</li> <li>- レコードは、データがキャプチャされておらず、プロパゲートされていないファイルから得られたものです。</li> <li>- システムは、キャプチャされた変更を受信する予定のないファイルに、キャプチャされた変更を送信しようとしていました。</li> </ul>
12	システムは、PowerExchange を再び呼び出すことはありません。
16	重大なエラーが発生しました。
17	セキュリティエラーが発生しました。
411	タスクが異常終了しました。
412	シャットダウンタイムが終了しました。

## 戻りコード 0～12 - PowerExchange エージェント

PowerExchange エージェントは、0 から 12 の戻りコードを発行します。

以下の表に、PowerExchange エージェントが発行する戻りコードを一覧表示します。

10 進戻りコード	説明
0	<a href="#">「戻りコード 0～12 - 標準」 (ページ 667)</a> を参照します。
4	<a href="#">「戻りコード 0～12 - 標準」 (ページ 667)</a> を参照します。
8	PowerExchange エージェントが一般エラーを検出しました。PowerExchange エージェントは、戻りコードを返し、この戻りコードと一緒にメッセージ内の理由コードを表示しました。これらの理由コードについては、 <a href="#">「理由コード 001～255 - PowerExchange エージェント」 (ページ 670)</a> を参照します。
12	PowerExchange エージェントが重大な一般エラーを検出しました。エラーの重大度によって、PowerExchange エージェントは理由コードを返せませんでした。

## 戻りコード 221: PowerExchange ロgger

次の表に、PowerExchange ロggerが発行する戻りコードを一覧表示します。

16 進戻りコード	説明
00DD 221	一般エラーが発生しました。

以下の表に、バッチ VSAM 環境変更キャプチャルーチン（environmental change capture routine：ECCR）が発行する戻りコードを一覧表示します。

10 進戻りコード	説明
0	バッチ VSAM ECCR 変更キャプチャモジュールがアクティブです。
4	指定されたモジュールは初期化されていますが、アクティブではありません。
8	指定されたモジュールが初期化されていません。

## 戻りコード 0～8 - バッチ VSAM ECCR

バッチ VSAM 環境変更キャプチャルーチン（environmental change capture routine：ECCR）は、0 から 8 の戻りコードを発行します。

以下の表に、バッチ VSAM 環境変更キャプチャルーチン（environmental change capture routine：ECCR）が発行する戻りコードを一覧表示します。

10 進戻りコード	説明
0	バッチ VSAM ECCR 変更キャプチャモジュールがアクティブです。
4	指定されたモジュールは初期化されていますが、アクティブではありません。
8	指定されたモジュールが初期化されていません。

## PowerExchange 理由コード

理由コードは、システム動作や問題の原因に関する情報を提供します。ここでは、ユーザーやベンダーの製品サポート担当者が故障中のコンポーネントの問題を解決するのに役立つ理由コードのリストと説明を示します。PowerExchange の理由コードは、PowerExchange コンポーネント別に表示されています。PowerExchange で返される、一部の理由コードは、z/OS オペレーティングシステムまたは別の IBM 製品によって作成されません。

これらの理由コードの詳細については、該当する IBM z/OS、IMS、VSAM、または DB2 のマニュアルを参照してください。一部のコンポーネントは理由コードを作成せず、別のコンポーネントやオペレーティングシステムによって作成された理由コードを表示します。

例えば、コピーブックコンパイラは理由コードを作成しません。表示される各理由コードはシステムルーチンによって作成され、理由コードを返すメッセージに示された IBM z/OS マニュアルにその説明があります。

理由コードは、該当するメッセージログに書き込まれるか、16 進値または 10 進値として表示されます。16 進形式は X'xxxxxxxx'、10 進形式は (nnnnnnnn) です。理由コードの長さは 4 バイトです。最初の 2 バイト（4 つの 16 進文字）は内部モジュールを識別し、最後の 2 バイト（4 つの 16 進文字）は理由を識別します。

## 理由コード xxxx0800～xxxx081F - 共通

PowerExchange の一部の内部コンポーネントは、共通の理由コードのセットを使用します。

次の表に、これらの理由コードと、それぞれのコードの説明を一覧表示します。

理由コード	説明
xxxx0800	一般プログラムエラーが発生しました。
xxxx0801	無効な関数コードが見つかりました。
xxxx0802	無効なトークンが見つかりました。
xxxx0803	共通トークンが見つかりませんでした。
xxxx0804	GETMAIN エラーが発生しました。
xxxx0805	DD 名が見つかりませんでした。
xxxx0806	プログラム LOAD エラーが発生しました。
xxxx0807	循環キューで問題が発生しました。
xxxx0808	この関数に対する権限を持っていません。
xxxx0809	OPEN が失敗しました。
xxxx080A	コンポーネントがスーパーバイザ状態を取得できませんでした。
xxxx080B	REEMAIN 関数の処理中にエラーが発生しました。
xxxx080C	プログラム DELETE エラーが発生しました。

**注:** すべてのモジュールがこれらのコードを発行できるので、変数 *xxxx* は、理由コードの最初の 2 バイト（4 つの 16 進文字）を表します。

## 理由コード 001～255 - PowerExchange エージェント

PowerExchange エージェントは次のタイプの理由コードを発行します。

- 異常終了コード U0001 を表示するメッセージは、異常終了の原因を特定するのに役立つ、関連する理由コードも表示します。
- その他のメッセージは、そのメッセージに関するエラーの原因を特定するのに役立つ、2 番目の種類の理由コードを表示します。

次の表は、このタイプの理由コードについての説明です。

10 進数の理由コード	16 進数の理由コード	説明
001	001	プライベート STORAGE OBTAIN が失敗しました。
002	002	16 MB 未満に対するプライベート STORAGE OBTAIN が失敗しました。
003	003	共通 STORAGE OBTAIN が失敗しました。
004	004	16 MB 未満に対する共通 STORAGE OBTAIN が失敗しました。
005	005	MVS が必要な SP レベルではありません。
006	006	RACROUTE AUTH 呼び出しが失敗しました。
007	007	RACROUTE AUTH 呼び出しではない AUTH 呼び出しが失敗しました。
008	008	PowerExchange エージェントを呼び出しているモジュールで内部論理エラーが発生しました。正しいパスワードキーを送信しませんでした。
009	009	必要な PowerExchange サブシステムデータスペースがありません。
010	00A	PowerExchange サブシステムが見つかりませんでした。
011	00B	サブシステムは見つかりましたが、PowerExchange サブシステムではありません。
012	00C	EDMSDIR モジュールのロードに失敗しました。
013	00D	EDMXCIRQ 循環キューがエラーを返しました。
014	00E	グローバルキューが存在しません。
015	00F	呼び出し側のモジュールが PowerExchange キューハンドルを渡しませんでした。
016	010	呼び出し側のモジュールはキューハンドルを渡しましたが、ハンドルのバージョン番号またはフォーマットが正しくありません。
017	011	呼び出し側のモジュールが PowerExchange ハンドルを渡しませんでした。
018	012	呼び出し側のモジュールは PowerExchange ハンドルを渡しましたが、PowerExchange ハンドルのバージョン番号またはフォーマットが正しくありません。
019	013	PowerExchange サブシステム初期化 (EDMSINIT) が実行されていません。
020	014	PowerExchange サブシステム初期化 (EDMSINIT) を試みましたが、すでに初期化されています。
021	015	EDMSCTRL ポインタがありません。または無効です。
022	016	アドレス空間作成マクロ (ASCRE) が失敗しました。

10 進数の理由コード	16 進数の理由コード	説明
023	017	別のコンポーネントが PowerExchange エージェントに無効なアドレス空間名を送信したので、アドレス空間作成マクロ (ASCRES) が失敗しました。
024	018	要求されたリソースが使用できないので、アドレス空間作成マクロ (ASCRES) が失敗しました。要求する側のコンポーネントは、後でリソースを要求する必要があります。リソースが使用可能になる前に要求する側のコンポーネントがタイムアウトした場合は、ジョブを再び実行する必要があります。
025	019	PowerExchange エージェントはグローバルキューを作成しようとしたが、すでに存在しています。
026	01A	PowerExchange エージェントが DRAIN コマンドを処理しています。
027	01B	PowerExchange エージェントは DRAIN コマンドの処理を完了しました。
028	01C	EDMSASIN モジュールがアドレス空間作成マクロ (ASCRES) を終了しました。
029	01D	PowerExchange エージェントは SHUTDOWN COMPLETELY コマンドを受信し、完全にシャットダウンされました。
030	01E	サブシステム DD の動的割り当て (DYNALLOC) が失敗しました。
031	01F	グローバルキューは、不正な ASID を持つプログラムから要求を受信しました。
032	020	グローバルキューシーケンス番号に不一致があります。
035	023	PowerExchange エージェントは PowerExchange リポジトリにアクセスしようとしたが、PowerExchange リポジトリが開いていないか、PowerExchange リポジトリコマンドが無効でした。
036	024	PowerExchange エージェントは無効なリポジトリコマンドを受信しました。
037	025	RIOM 呼び出しでエラーが発生しました。
040	028	PowerExchange エージェントは、データが切り捨てられていることを検出しました。
045	02D	モジュールは現在ロックを保持しているか、ロックを取得済みです。
046	02E	モジュールは現在ロックを保持していません。
047	02F	要求されたロックは使用できませんでした。
048	030	ロックは保持されておらず、階層ルールのために取得できません。
060	03C	SLOW 領域はストレージを取得できませんでした。
061	03D	リソースマネージャがストレージを取得できませんでした。
062	03E	タスク作業領域がストレージを取得できませんでした。
063	03F	グローバルキューハンドラがストレージを取得できませんでした。



10 進数の理由コード	16 進数の理由コード	説明
070	046	EDMSRMGR 呼び出し中に不正な STOKEN が発生しました。
071	047	EDMSRMGR 呼び出し中に不正な TCB が発生しました。
072	048	EDMSRMGR TCB がホーム ASID にありません。
230	0E6	PowerExchange エージェントは SRB モードの呼び出し元を許可しません。
239	0EF	要求がタイムアウトになりました。
240	0F0	論理的に正しくない関数要求が発生しました。
241	0F1	必要なサブシステムまたはサブタスクがアクティブではありません。
242	0F2	OPEN コマンドに失敗しました。
243	0F3	CLOSE コマンドに失敗しました
244	0F4	PowerExchange エージェントが無効なデータセット名を検出しました。
245	0F5	モジュール LOAD が失敗しました。
246	0F6	IBM タイミングマクロ (STIMERM) が失敗しました。
247	0F7	PowerExchange エージェントは、オペランドの数が正しくないコマンドを検出しました。
248	0F8	別のコンポーネントが、使用できない関数を要求しました。
249	0F9	バッファまたはファイルがいっぱいなので、PowerExchange エージェントはデータをバッファまたはファイルに追加できませんでした。
250	0FA	別のコンポーネントは、何か検索するよう PowerExchange エージェントに要求を送信しましたが、PowerExchange エージェントは見つけれませんでした。
251	0FB	PowerExchange エージェントが、重複する要求またはレコードを検出しました。
252	0FC	あるモジュールが、別のモジュールに不正なオペランドを渡しました。
253	0FD	無効な関数が要求されたか、関数要求に不正なエラー数が含まれていました。
254	0FE	予期しないエラーが発生しました。
255	0FF	異常終了が発生しました。

## 理由コード 00000601～00004499 - コマンド

PowerExchange は、プログラムモジュール間で渡す符号化コマンドから理由コードを発行します。これらの理由コードの一部は、エラー発生時に表示されるメッセージ内に表示されます。

次の表は、これらの理由コードについての説明です。

理由コード	説明
00000601	不明なエラーが発生しました。
00000602	スキーマ登録がありません。
00000603	リレーショナルスキーマ登録がありません。
00000604	指定された EDMNAME と一致するオブジェクトまたはスキーマがありません。
00000605	要求された時間、オブジェクトまたはスキーマがアクティブではありません。
00000702	メッセージ PWXEDM172702I が発行された場合、他のアクティブログが使用できないので使用していたアクティブログを、PowerExchange ロggerに奪われたために、ログ読み取りタスク (EDMLCQ00) は終了しました。それ以外の場合は、PowerExchange ロggerのログ読み取りタスク (EDMLCQ00) は異常終了しました。
00000703	処理終了で、ログオン済みのリーダー制御ブロックが見つかりませんでした。
00000704	プロセス終了要求が失敗しました。
00000805	Client Control Block が見つかりません (クライアントはまだロggerにサインオンしていないか、もうサインオンしていません)
00000813	無効な XCF メッセージ (認識されない符号化コマンド) です。
00001506	使用可能なデータがありません (RBA 範囲が見つかりません)。
00001507	データはインベントリにありません (要求されたタイムスタンプがまだ存在しません)。
00001508	エラーのためにデータにアクセスできません (例えば、サブタスクの接続に失敗しました)。
0000150A	初期化前にロggerから切断されたログリーダーが完了しました。
00001510	トランザクション ID ロgger名がこのロggerではありません。
00001511	データ転送要求で、ログオン済みのリーダー制御ブロックが見つかりませんでした。
00001514	停止位置は開始位置よりも前です。
00001515	指定した開始位置は見つかりません。
00001601	データ転送停止で、ログオン済みのリーダー制御ブロックが見つかりませんでした。
00001701	不明な理由のために登録要求が失敗しました。
00001702	データベース、データセット、サブシステム登録のいずれもありません。
00001703	指定された種類の登録がありません。

理由コード	説明
00001704	指定された EDMNAME と一致するオブジェクトまたはスキーマがありません。
00001705	要求された時間、オブジェクトまたはスキーマがアクティブではありません。
00001706	モジュールが、オブジェクトのプライマリオブジェクトプロファイルを見つけることができません。オブジェクトが PowerExchange に対して定義されていないことが原因として考えられます。VSAM および IMS では、VSAM データセットまたは IMS セグメントに対して再定義したレコードを作成して、プライマリレコード定義を削除した場合、この理由コードが生成されることがあります。
00001708	無効なオブジェクトタイプに対する登録要求。
00001901	PowerExchange ロggerがシャットダウンしています。
00001902	PowerExchange ロggerでは追加のシステムリソースが必要です。
00001903	キューを開くことができませんでした。
00001904	無効なサインオン要求（読み取りモードも書き込みモードも要求していません）。
00001905	すでにサインオンしています（ジョブ名が重複）。
00001906	XCF 接続に失敗しました。
00001907	PowerExchange ロggerの準備ができていません。
00001908	別の CPU 上のロgger（ログリーダーが、別のオペレーティングシステムインスタンスで実行しているロggerに接続しようとしてしました）。
00001909	ログリーダー制御ブロック（OUQQ）の追加に失敗しました。
0000190A	ログリーダーサブタスクを開始できません。
0000190B	ECCR サインオンレコードをログに記録できませんでした。
0000190C	ECCR 制御ブロック（INQQ）の追加に失敗しました。
0000190D	再開操作に失敗しました。
00002104	無効な Resource Interest List コマンド
00002105	IntLst コマンドの処理中にチェインエラーが発生しました
00002111	マッチングするサインオンリーダーがありません
00002501	不明なエラーが発生しました。
00002502	対応していないデータ型が見つかりました。
00002503	モジュールが、対応していないデータ定義言語（DDL）コードを検出しました。
00002504	オブジェクト登録が見つかりませんでした。
00002505	スキーマ登録が見つかりませんでした。

理由コード	説明
00002506	指定された時間にスキーマがありません。
00002507	変更要求が失敗しました。
00002601	ユーザーデータレコードをログに記録できませんでした。
00002806	長すぎるカラム名が見つかりました。
00004701	メンバロッガーはすでに静止状態でした。
00004702	メンバロッガーはすでに停止状態でした。
00004801	メンバロッガーが静止状態にありませんでした。
00004802	メンバロッガーはすでに停止状態でした。

## 理由コード 00000813～00001515 - 符号化コマンド

符号化コマンドは、0000813 から 00001515 の理由コードを発行します。

以下の表に、符号化コマンド理由コードを一覧表示します。

理由コード	説明
00000813	無効な XCF メッセージ（認識されない符号化コマンド）。
00000805	クライアント制御ブロックが見つかりません（クライアントがまだ、またはもうロッガーにサインオンしていません）。
00001506	DATA IS NO LONGER AVAILABLE（使用可能なデータがありません）（RBA 範囲が見つかりません）。
00001507	データはインベントリにありません（要求された RBA がまだ存在しません）。
00001508	DATA NOT ACCESSED DUE TO ERROR（エラーのためにデータにアクセスできません）（例えば、必要なデータセットを割り当てることができません）。
00001510	TRAN ID LOGGER NAME NOT THIS LOGGER（トランザクション ID ロgger名がこのロッガーではありません）。
00001514	停止位置が開始位置の前にあります。
00001515	そのような開始位置が見つかりません。

## 理由コード 00000C00～00000C0E - 共通サービス

PowerExchange 共通サービスは、多くの PowerExchange コンポーネントに関数を提供します。

次の表は、共通サービス処理中に発生するエラーの理由コードについての説明です。

理由コード	説明
00000C00	モジュールがストレージを取得できませんでした。
00000C01	ロックマネージャがアンカーを作成できませんでした。
00000C02	使用可能なロックマネージャエントリがありません。
00000C03	ロックマネージャが無効なエントリを受信しました。
00000C0A	モジュールが無効なトレース ID を受信しました。
00000C0B	MVS ATTACH 関数が失敗しました。
00000C0C	MVS サービスパラメータリスト番号が無効でした。
00000C0D	MVS STIMER SET 関数が失敗しました。
00000C0E	MVS STIMER CANCEL 関数が失敗しました。

## PowerExchange ロggerの理由コード

### 理由コード 0033FF01～00FFFFFF - PowerExchange ロgger

PowerExchange ロggerは、0033FF01 から 00FFFFFF の理由コードを発行します。

次の表に、PowerExchange ロggerの理由コードを一覧表示します。

理由コード	説明
0033FF01	チェーナーモジュールが作業領域を取得できませんでした。
0033FF02	初期化エラーが発生しました。無効な関数コードがありました。
0033FF03	レコード移動の試行中に不明な戻りコードが見つかりました。
0033FF04	リーダプロセッサ (EDMLLRD0) がバッファを取得できませんでした。
0033FF05	リーダプロセッサ (EDMLLRD0) が無効なレコードプレフィクスを検出しました。
0033FF06	リフレッシュされたバッファはリーダプロセッサ (EDMLLRD0) には使用できませんでした。
0033FF07	リーダプロセッサ (EDMLLRD0) が、リフレッシュされたバッファの取得に失敗しました。
0033FF08	リーダプロセッサ (EDMLLRD0) が無効なレコードプレフィクスを検出しました。
0033FF09	リーダプロセッサ (EDMLLRD0) が空のキューを待機しているときに、読み取りキューにエントリが入っていました。

理由コード	説明
0033FF0A	使用可能なキューでエントリが見つかりませんでした。
0033FF0B	リーダプロセッサ (EDMLLRD0) が、PowerExchange 共通サービスからの切断に失敗しました。
0033FF0C	リーダプロセッサ (EDMLLRD0) が、PowerExchange 共通サービスとの接続に失敗しました。
0033FF0D	使用可能なバッファが必要なときに、使用可能なキューが空でした。
0033FF20	物理的なリーダー初期化が失敗しました。
0033FF21	GETBUFF にエラーがあります。
0033FF22	物理読み取りで I/O エラーが発生しました。
0033FF23	物理再読み取りで I/O エラーが発生しました。
0033FF24	物理的なリーダー終了に失敗しました。
0033FF25	割り当て解除呼び出し中に、物理的なリーダー終了に失敗しました。
00D5FF01	ロッガーは非 APF 許可状態で呼び出されました。
00D5FF02	無効な関数コードが EDMLPRD0 に提供されました。
00D5FF03	EDMLPRD0 でアーカイブログデータセットに対する動的割り当てエラーが発生しました。
00D5FF04	EDMLPRD0 でアーカイブログデータセットを開くのに失敗しました。
00D5FF05	RBA 値が EDMLPRD0 で最大許容値 ('X'FFFFFFFFF') に達しました。
00D5FF06	EDMLPRD0 のアーカイブログで予期しない RBA が見つかりました (ブロックが見つからないか、重複されている)。
00D5FF07	EDMLPRD0 でアーカイブログデータセットを閉じるのに失敗しました。
00D5FF08	無効な LOGQ パラメータが初期化時に EDMLPRD0 に提供されました。
00D5FF09	EDMLPRD0 がセカンダリアーカイブログデータセットを見つけることができませんでした。
00D5FF0A	EDMLPRD0 で初期化時に使用できるバッファがありません。
00D5FF0B	EDMLPRD0 で読み取り開始時に使用できるバッファがありません。
00D5FF0C	EDMLPRD0 でアーカイブログデータセットに対する動的非割り当てエラーが発生しました。
00D5FF0D	読み取り開始時に、無効な LOGQ パラメータが EDMLPRD0 に提供されました
00D5FF0E	EDMLPRD0 で、予期しない RBA がアーカイブログセットの EOF で検出されました (ブロックがありません)。
00D6FF01	チェーナーモジュールが作業領域を取得できませんでした。
00D6FF02	無効な関数コードが EDMLPRD1 に提供されました

理由コード	説明
00D6FF03	EDMLPRD1 でアクティブログデータセットに対する動的割り当てエラーが発生しました。
00D6FF04	EDMLPRD1 でアクティブログデータセットを開くのに失敗しました。
00D6FF07	EDMLPRD1 でアクティブログデータセットを閉じるのに失敗しました。
00D6FF08	無効な LOGQ パラメータが初期化時に EDMLPRD0 に提供されました。
00D6FF09	EDMLPRD1 がセカンダリアクティブログデータセットを見つけることができませんでした。
00D6FF0A	EDMLPRD0 で初期化時に使用できるバッファがありません。
00D6FF0B	EDMLPRD0 で読み取り開始時に使用できるバッファがありません。
00D6FF0C	チェーナーモジュールが GBLBLKQ11 キューでエントリを見つけられませんでした。
00D6FF0D	チェーナーモジュールが GBLBLKQ12 キューでエントリを見つけられませんでした。
00D6FF0E	チェーナーモジュールが GBLBLKQ21 キューでエントリを見つけられませんでした。
00D6FF0F	チェーナーモジュールが GBLBLKQ22 キューでエントリを見つけられませんでした。
00D6FF10	読み取り開始時に、無効な LOGQ パラメータが EDMLPRD1 に提供されました
00D6FF11	読み取り開始時に、無効な LOGQ パラメータが EDMLPRD1 に提供されました。
00D6FF12	EDMLPRD1 の GBLPH1QCB キューへのエントリの追加中にエラーが発生しました。
00D6FF13	プライマリアクティブログが停止され、デュアルアクティブログが利用できません。
00D6FF14	EDMLPRD1 でアクティブログデータセットからブロックを再読み取りできる最大再試行回数 (100) を超えました。
00D7FF01	チェーナーモジュールが作業領域を取得できませんでした。
00D7FF02	チェーナーモジュールが作業領域を解放できませんでした。
00D7FF03	MODCB マクロが RPL 制御ブロックを変更できませんでした。
00D7FF04	印刷 ERDS コマンドプロセッサ (EDMLPR50) が、マスタログ制御レコードの GET に失敗しました。
00D7FF05	印刷 ERDS コマンドプロセッサ (EDMLPR50) が、プライマリアクティブログ制御レコードの GET に失敗しました。
00D7FF06	印刷 ERDS コマンドプロセッサ (EDMLPR50) が、セカンダリアクティブログ制御レコードの GET に失敗しました。
00D7FF07	印刷 ERDS コマンドプロセッサ (EDMLPR50) が、プライマリアーカイブログ制御レコードの GET に失敗しました。
00D7FF08	印刷 ERDS コマンドプロセッサ (EDMLPR50) が、セカンダリアーカイブログ制御レコードの GET に失敗しました。

理由コード	説明
00D7FF09	印刷 ERDS コマンドプロセッサ (EDMLPR50) が、チェックポイント制御レコードの GET に失敗しました。
00D7FF0A	印刷 ERDS コマンドプロセッサ (EDMLPR50) が ESTAE ルーチンを入力しました。
00D8FF01	チェーナーモジュールが作業領域を取得できませんでした。
00D8FF02	チェーナーモジュールが作業領域を解放できませんでした。
00D9FF01	チェーナーモジュールが作業領域を取得できませんでした。
00D9FF02	チェーナーモジュールが作業領域を解放できませんでした。
00DAFF01	チェーナーモジュールが作業領域を取得できませんでした。
00DAFF02	チェーナーモジュールが作業領域を解放できませんでした。
00DAFF04	SYNAD が、EDMLPR20 でスプール済みの sysout ファイルを入力しました。
00DBFF01	チェーナーモジュールが作業領域を取得できませんでした。
00DBFF02	チェーナーモジュールが作業領域を解放できませんでした。
00DBFF03	共通サービスへの接続中にエラーが発生しました。
00DCFF01	チェーナーモジュールが作業領域を取得できませんでした。
00DCFF02	チェーナーモジュールが作業領域を解放できませんでした。
00DDFF01	チェーナーモジュールが作業領域を取得できませんでした。
00DDFF02	チェーナーモジュールが作業領域を解放できませんでした。
00DDFF03	どの ECB がポストされたかを判定できませんでした。
00DDFF04	チェーナーモジュールがキュー制御ブロック (QCB) をロックできませんでした。
00DDFF05	チェーナーモジュールがキュー制御ブロック (QCB) をロック解除できませんでした。
00DDFF06	初期化前にロッガーから切断されたログリーダーが完了しました。
00DDFF07	PowerExchange ロッガーが無効なログ RBA を検出しました。
00DDFF08	ログリーダーの初期化に失敗しました。
00DDFF09	循環キューを開くのに失敗しました。
00DDFF0A	ログリーダー READ コマンドが失敗しました。
00DDFF0B	循環キューへの PUT に失敗しました。
00DDFF0C	循環キューのファイル末尾エラーが発生しました。
00DDFF0D	循環キューを閉じるのに失敗しました。



理由コード	説明
00DDFF0E	ログリーダーの終了に失敗しました。
00DDFF0F	ロッガーによる共通サービスへの接続が失敗しました。
00DDFF10	SENDPIPE コマンドをログ読み取りプロセッサ (LRP) に送信するのに失敗しました。
00DDFF11	データ転送要求の応答に対して、循環キューの PUT エラーが発生しました。
00DDFF12	XCF 循環キューに対するトークンが見つかりません。
00DDFF13	XCF 循環キューを開くことに失敗しました。
00DEFF01	チェーナーモジュールが作業領域を取得できませんでした。
00DEFF02	チェーナーモジュールが作業領域を解放できませんでした。
00DEFF03	論理ログリーダーの初期化に失敗しました。
00DEFF04	論理ログリーダーによる READ の実行に失敗しました。
00DEFF05	PowerExchange ロッガーが、作業単位 (UOW) エントリを内部 UOW キューに追加できませんでした。
00DEFF06	論理ログリーダーの終了に失敗しました。
00DEFF07	PowerExchange ロッガーが、選択したログ内で logrba を見つけることができませんでした。
00DEFF08	PowerExchange ロッガーが、begin_PHASE1 に対する UOW を見つけることができませんでした。
00DEFF09	PowerExchange ロッガーが、begin_PHASE2 に対する UOW を見つけることができませんでした。
00DEFF0A	PowerExchange ロッガーが、end_PHASE1 に対する UOW を見つけることができませんでした。
00DEFF0B	PowerExchange ロッガーが、end_PHASE2 に対する UOW を見つけることができませんでした。
00DEFF13	リスタート時にログ内で再配置中にレコードプレフィクスが見つかりません (EDMLPLG1)。
00DFFF01	チェーナーモジュールが、WTOR (write to operator with reply) パラメータリストに対する作業領域を取得できませんでした。
00DFFF02	チェーナーモジュールが、WTOR (write to operator with reply) パラメータリストに対する作業領域を解放できませんでした。
00DFFF03	チェーナーモジュールが、WTOR (write to operator with reply) メッセージテキストに対する作業領域を解放できませんでした。
00DFFF04	チェーナーモジュールが、WTOR (write to operator with reply) 出力データ領域に対する作業領域を解放できませんでした。
00DFFF05	チェーナーモジュールが OPQ 制御ブロックを解放できませんでした。

理由コード	説明
00E0FF01	チェーナーモジュールが作業領域を取得できませんでした。
00E0FF02	チェーナーモジュールが作業領域を解放できませんでした。
00E1FF01	チェーナーモジュールが作業領域を解放できませんでした。
00E2FF01	受信側モジュールによって無効なポストコードが検出されました。
00E2FF02	エレメントアドレスの検索に失敗しました。
00E2FF03	PowerExchange ロggerは、保持されていないラッチを解放できません。
00E2FF04	モジュールはラッチを使用中で、それを再び使用する要求を発行しました。モジュールは、現在使用しているラッチを取得できません。
00E2FF05	PowerExchange ロggerラッチプロセッサはラッチキュー制御ブロック (QCB) エントリを見つけることができませんでした。
00E3FF01	通常のダンプが要求されました。
00E4FF01	チェーナーモジュールが作業領域を取得できませんでした。
00E4FF02	チェーナーモジュールが作業領域を解放できませんでした。
00E5FF01	チェーナーモジュールが作業領域を取得できませんでした。
00E5FF02	バッファ Force_write 処理の実行中にエラーが発生しました。
00E5FF03	Trunc_Log 処理の実行中にエラーが発生しました。
00E5FF04	チェーナーモジュールが作業領域を解放できませんでした。
00E5FF05	アーカイブログ操作はすでに実行中です。
00E5FF06	Trunc_Buff 処理の実行中にエラーが発生しました。
00E5FF07	共通サービスへの接続中にエラーが発生しました。
00E6FF01	チェーナーモジュールによるキューへのレコードの追加に失敗しました。
00E6FF02	チェーナーモジュールは DATA COPY 用の領域を取得できません。
00E7FF01	チェーナーモジュールが作業領域を取得できませんでした。
00E7FF02	チェーナーモジュールが作業領域を解放できませんでした。
00E7FF03	古いロgger EDMUPARM モジュールの削除に失敗しました。
00E7FF04	EDMPARMS データセットを開くのに失敗しました。
00E8FF03	パターンマッチプロセッサが、長さがゼロ (0) 未満の引数を見つけました。
00E8FF04	パターンマッチプロセッサが、長さが 256 バイトを超えるパターンを見つけました。

理由コード	説明
00E9FF01	EDMLOF20 でラッチ取得エラーが発生しました。
00E9FF02	アクティブログアーカイブプロセッサが、LOGQ ログキューでアクティブログを見つけることができませんでした。
00E9FF03	アーカイブ COPY1 データセットに対する動的割り当てが失敗しました。
00E9FF04	アーカイブ COPY1 データセットに対する OPEN の実行に失敗しました。
00E9FF05	アーカイブ COPY2 データセットに対する動的割り当てが失敗しました。
00E9FF06	アーカイブ COPY2 データセットに対する OPEN の実行に失敗しました。
00E9FF07	PowerExchange ロッガーラッチプロセッサが LOGQ COPY1 ログキューを取得できませんでした。
00E9FF08	PowerExchange ロッガーラッチプロセッサが LOGQ COPY2 ログキューを取得できませんでした。
00E9FF09	EDMLOF20 が COMMSRV 接続トークンを見つけられませんでした。
00E9FF0A	DIV ACCESS マクロがアクティブログにアクセスできませんでした。
00E9FF0B	プライマリ（および該当する場合はセカンダリ）アクティブログデータセットが停止しました
00E9FF0C	DIV UNIDENTIFY マクロがアクティブログを識別不能にすることができませんでした。
00E9FF0D	アーカイブ COPY1 データセットに対する CLOSE コマンドが失敗しました。
00E9FF0E	アーカイブ COPY1 データセットに対する RDJFCB マクロが失敗しました。
00E9FF0F	アーカイブ COPY2 データセットに対する CLOSE コマンドが失敗しました。
00E9FF10	EDMLOF20 が、LOGQ 内でセカンダリアクティブログを見つけられませんでした。
00E9FF11	アーカイブ COPY1 データセットに対する UNALLOCATE コマンドが失敗しました。
00E9FF12	アーカイブ COPY2 データセットに対する UNALLOCATE コマンドが失敗しました。
00E9FF13	アクティブログに対する UNALLOCATE コマンドが失敗しました。
00E9FF14	内部 DEFINE_LOG COPY1 コマンドが失敗しました。
00E9FF15	内部 DEFINE_LOG COPY2 コマンドが失敗しました。
00E9FF16	チェーナーモジュールが作業領域を解放できませんでした。
00E9FF17	チェーナーモジュールがローカル領域を追加できませんでした。
00E9FF18	チェーナーモジュールが OPQ 制御ブロックを初期化できませんでした。
00E9FF19	チェーナーモジュールが GBLBLKQ11 キューでエントリを見つけられませんでした。

理由コード	説明
00E9FF20	チェーナーモジュールが GBLBLKQ12 キューでエントリを見つけられませんでした。
00E9FF21	チェーナーモジュールが GBLBLKQ21 キューでエントリを見つけられませんでした。
00E9FF22	チェーナーモジュールが GBLBLKQ22 キューでエントリを見つけられませんでした。
00E9FF23	チェーナーモジュールが LOGQ キュー内で LOG2 のエントリを見つけられませんでした。
00E9FF24	アクティブログアーカイブプロセッサが最後のアクティブログを使用しています。
00E9FF25	ログアーカイブプロセッサが LOG2 データセット名を見つけられませんでした。
00E9FF26	アーカイブログ 1 に対して SYNAD が入力されました。
00E9FF27	アーカイブログ 2 に対して SYNAD が入力されました。
00E9FF30	EDMLOF20 でラッチ解放エラーが発生しました。
00E9FF34	ERDS プロセスの更新が失敗しました。
00EAFF01	チェーナーモジュールが作業領域を取得できませんでした。
00EAFF02	チェーナーモジュールが作業領域を解放できませんでした。
00EBFF01	チェーナーモジュールが作業領域を取得できませんでした。
00EBFF02	チェーナーモジュールが作業領域を解放できませんでした。
00EC0040	モジュールが、DBCTL サブシステムインタフェースから予期しない戻りコードを受け取りました。サポートについては、Informatica テクニカルサポートアナリストにお問い合わせください。
00ECFF01	チェーナーモジュールが作業領域を取得できませんでした。
00ECFF02	GETMAIN マクロが失敗しました。
00ECFF03	FREEMAIN マクロが失敗しました。
00EDFF01	チェーナーモジュールが作業領域を取得できませんでした。
00EDFF02	チェーナーモジュールが作業領域を解放できませんでした。
00EEFF01	チェーナーモジュールが作業領域を取得できませんでした。
00EEFF02	チェーナーモジュールが作業領域を解放できませんでした。
00EFFF01	チェーナーモジュールが作業領域を取得できませんでした。
00EFFF02	チェーナーモジュールが作業領域を解放できませんでした。

## 理由コード 00F0FF01～00F6FFFF - PowerExchange ロgger

PowerExchange ロggerは、00F0FF01 から 00F6FFFF の理由コードを発行します。

次の表に、PowerExchange ロggerの理由コードを一覧表示します。

理由コード	説明
00F0FF01	チェーナーモジュールが作業領域を取得できませんでした。
00F0FF02	チェーナーモジュールが作業領域を解放できませんでした。
00F1FF01	チェーナーモジュールが作業領域を取得できませんでした。
00F1FF02	チェーナーモジュールが作業領域を解放できませんでした。
00F1FF03	チェーナーモジュールが GCO 制御ブロックを初期化できませんでした。
00F1FF04	チェーナーモジュールが GCO キューにエントリを追加できませんでした。
00F1FF05	チェーナーモジュールが GCO キューでエントリを追加または置き換えることができませんでした。
00F1FF06	チェーナーモジュールが IMO キューを初期化できませんでした。
00F1FF07	チェーナーモジュールが IMO キューにエントリを追加できませんでした。
00F1FF08	チェーナーモジュールが IMO キューでエントリを追加または置き換えることができませんでした。
00F1FF09	チェーナーモジュールが GCO キューを削除できませんでした。
00F1FF0A	チェーナーモジュールが IMO キューを削除できませんでした。
00F1FF0B	チェーナーモジュールが GCO キューを見つけられませんでした。
00F1FF0C	EDMUPARM プロセッサ (EDMLDF20) が、変更したオプションデータセットをロードできませんでした。
00F1FF0D	チェーナーモジュールが ICO キューを終了できませんでした。
00F1FF0E	チェーナーモジュールが GCO キューを終了できませんでした。
00F1FF0F	EDMUPARM プロセッサ (EDMLDF20) が、1 つ以上のオプションを削除しようとしてエラーを検出しました。
00F1FF10	EDMUPARM プロセス (EDMLDF20) が DEFAULT SERVER OPTIONS モジュールを見つけられませんでした。
00F1FF11	EDMUPARM プロセッサ (EDMLDF20) がオプションデータセットを開くことができませんでした。
00F2FF01	チェーナーモジュールが作業領域を取得できませんでした。
00F2FF04	チェーナーモジュールが作業領域を返すことができませんでした。
00F2FF05	ロgger定義プロセッサ (EDMLDF10) がオプションデータセットを見つけられませんでした。

理由コード	説明
00F3FF01	PowerExchange ロggerが正しくないバージョンの EDMLC020 制御モジュールを検出しました。
00F3FF02	PowerExchange ロggerが正しくないバージョンの EDMLC030 制御モジュールを検出しました。
00F3FF03	チェーナーモジュールが CSA 追跡キューを初期化できませんでした。
00F3FF04	チェーナーモジュールが GLOBAL 制御ブロックの領域を初期化できませんでした。
00F3FF05	チェーナーモジュールが GLOBAL 制御ブロックの領域を作成できませんでした。
00F3FF06	チェーナーモジュールがタスク制御 (TC) キューを初期化できませんでした。
00F3FF07	チェーナーモジュールが LOC=31 ストレージユニットを初期化できませんでした。
00F3FF08	チェーナーモジュールが LOC=24 ストレージユニットを初期化できませんでした。
00F3FF09	チェーナーモジュールが入力キューを初期化できませんでした。
00F3FF0A	初期化プロセッサが、WTOR (write to operator with reply) コマンドの作成中にチェーナーモジュールのアドレスを見つけられませんでした。
00F3FF0B	チェーナーモジュールが WTOR (write to operator with reply) コマンドのローカル制御ブロックを追加できませんでした。
00F3FF0C	初期化プロセッサが、PowerExchange 物理ロggerのビルド中にチェーナーモジュールのアドレスを見つけられませんでした。
00F3FF0D	チェーナーモジュールが PowerExchange 物理ロggerのローカル制御ブロックを追加できませんでした。
00F3FF0E	BLDL FIND マクロが EDMLC030 モジュールを見つけられませんでした。
00F3FF0F	STEPLIB に対する OPEN コマンドが失敗しました。
00F3FF10	サブシステムの初期化に失敗しました。
00F3FF11	オプションモジュール EDMUPARM の LOAD に失敗しました。
00F3FF12	メッセージ表示ルーチン FREEMAIN コマンドが失敗しました。
00F3FF13	EDMPARMS DD 文がありません。
00F3FF14	EDMZPARM モジュールが見つかりませんでした。
00F3FF15	オプションモジュール DD 連結でエラーが発生しました。
00F3FF16	オプションモジュール EDMUPARM の LOAD に失敗しました。
00F3FF17	241 XCA GETMAINS のキューの初期化中にエラーが発生しました。
00F3FF18	拡張 CSA (ECSA) 内に EDMLC030 モジュールが多すぎます。

理由コード	説明
00F3FF19	チェーナーモジュールによるラッチキュー制御ブロック（QCB）の作成に失敗しました。
00F3FF1A	チェーナーモジュールがラッチ領域を作成できませんでした。
00F3FF1B	LOGQ COPY1 ブロックキューの作成中にチェーナーモジュールでエラーが発生しました。
00F3FF1C	BLKQ COPY1 ブロックキューの作成中にチェーナーモジュールでエラーが発生しました。
00F3FF1D	LOGQ COPY2 ブロックキューの作成中にチェーナーモジュールでエラーが発生しました。
00F3FF1E	BLKQ COPY2 ブロックキューの作成中にチェーナーモジュールでエラーが発生しました。
00F3FF1F	LOGQ COPY1 ブロックキューの作成中にチェーナーモジュールでエラーが発生しました。
00F3FF20	BLKQ COPY1 ブロックキューの作成中にチェーナーモジュールでエラーが発生しました。
00F3FF21	LOGQ COPY2 の作成中にチェーナーモジュールでエラーが発生しました。
00F3FF22	BLKQ COPY2 の作成中にチェーナーモジュールでエラーが発生しました。
00F3FF23	LOGF エントリを LATCH キューに追加中にチェーナーモジュールでエラーが発生しました。
00F3FF24	CHKP エントリを LATCH キューに追加中にチェーナーモジュールでエラーが発生しました。
00F3FF25	作業単位（UOW）QCB キュー制御ブロックの初期化中にチェーナーモジュールでエラーが発生しました。
00F3FF26	チェーナーモジュールが CHK チェックポイントキュー制御ブロック（QCB）を初期化できませんでした。
00F3FF27	チェーナーモジュールが ECCR INQ 入力キュー制御ブロック（QCB）を初期化できませんでした。
00F3FF28	チェーナーモジュールが LRP OUQ 出力キュー制御ブロック（QCB）を初期化できませんでした。
00F3FF29	PowerExchange ロgger初期化プロセッサ（EDMLC015）がラッチ循環キューを作成できませんでした。
00F3FF2A	PowerExchange ロgger初期化プロセッサ（EDMLC015）がフェーズ 1 キュー制御ブロック（QCB）を初期化できませんでした。
00F3FF2B	PowerExchange ロgger初期化プロセッサ（EDMLC015）がフェーズ 2 キュー制御ブロック（QCB）を初期化できませんでした。
00F3FF2C	PowerExchange ロgger初期化プロセッサ（EDMLC015）が終了キュー制御ブロック（QCB）を初期化できませんでした。
00F3FF2D	PowerExchange ロgger初期化プロセッサ（EDMLC015）がパケットキュー制御ブロック（QCB）を初期化できませんでした。
00F3FF2E	PowerExchange ロgger初期化プロセッサ（EDMLC015）がグローバルキュー制御ブロック（QCB）を初期化できませんでした。

理由コード	説明
00F3FF2F	PowerExchange ロgger初期化プロセッサ (EDMLC015) がコマンドキュー制御ブロック (QCB) を初期化できませんでした。
00F3FF30	PowerExchange ロgger初期化プロセッサ (EDMLC015) がXCF キュー制御ブロック (QCB) を初期化できませんでした。
00F3FF31	PowerExchange ロgger初期化プロセッサ (EDMLC015) がトレースキュー制御ブロック (QCB) を初期化できませんでした。
00F3FF32	PowerExchange ロgger初期化プロセッサ (EDMLC015) が、互換性のない EDMUPARM レベルを検出しました。
00F4FF01	初期化プロセッサのロードに失敗しました。
00F4FF02	チェーナーモジュールが TC タスク制御モジュールを作成できませんでした。
00F4FF03	ATTACH コマンドがゼロ以外の戻りコードを渡しました。
00F4FF04	チェーナーモジュールが LOC=31 ストレージユニットを削除できませんでした。
00F4FF05	チェーナーモジュールが ECB リストの作業領域を取得できませんでした。
00F4FF06	チェーナーモジュールがタスク制御を削除できませんでした。
00F4FF07	PowerExchange ロgger初期チェックポイントに失敗しました。
00F4FF08	PowerExchange ロgger最終チェックポイントに失敗しました。
00F4FF09	共通サービス環境の初期化に失敗しました。
00F4FF0A	共通サービスへの接続に失敗しました。
00F4FF0B	メインサブタスクプロセッサ (EDMLC010) が循環キューを作成できませんでした。POST エラーが発生しました。
00F4FF0C	メインサブタスクプロセッサ (EDMLC010) が PowerExchange サブシステムに接続できませんでした。
00F4FF0C	メインサブタスクプロセッサ (EDMLC010) が書き込みパケットトレーラを送信できませんでした。
00F5FF01	チェーナーモジュールが作業領域を取得できませんでした。
00F5FF02	EDMLPAR0 理由コードが長すぎます。
00F5FF03	前のチェーナーエラーが発生しました。必要な作業領域が存在しません。
00F5FF05	チェーナーモジュールがコマンドキューを終了できませんでした。
00F5FF06	PARSER Error プロセッサが、PARSER アナライザから無効な戻りコードを受け取りました。
00F6FF01	チェーナーモジュールが作業領域を取得できませんでした。
00F6FF02	チェーナーモジュールが作業領域を解放できませんでした。



理由コード	説明
00F6FF03	チェーナーモジュールが VSAM DELETE 文の作業領域を取得できませんでした。
00F6FF04	チェーナーモジュールが VSAM DEFINE 文の作業領域を取得できませんでした。
00F6FF05	チェーナーモジュールが VSAM JOURNAL HEADER 文の作業領域を取得できませんでした。
00F6FF08	文領域の削除に失敗しました。
00F6FF09	データセット名が入力パラメータにありません。
00F6FF0D	R0 に無効なエントリコードが含まれています。DELETE、DEFINE、JOURNAL HEADER 以外のエントリが含まれています。
00F6FF0E	ALCACB.または ALCRPL.領域が破損しています。
00F6FF0F	ALCALCAD 領域が破損しています。

## 理由コード 00F7FF01～00F9FFFF - PowerExchange ロgger

PowerExchange ロggerは、00F7FF01 から 00F9FFFF の理由コードを発行します。

次の表に、PowerExchange ロggerの理由コードを一覧表示します。

理由コード	説明
00F7FF01	チェーナーモジュールが作業領域を取得できませんでした。
00F7FF02	共通サービス環境の初期化に失敗しました。
00F7FF03	共通サービスへの接続に失敗しました。
00F7FF04	XCF インタフェースの初期化に失敗しました。
00F7FF05	XCF インタフェースを開くのに失敗しました。
00F7FF06	XCF インタフェースの作成に失敗しました。
00F7FF07	メッセージに対する\$XCF GET が失敗しました。
00F7FF08	グループイベント（ロggerグループ）に対する\$XCF GET が失敗しました。
00F7FF09	グループイベント（ポストログ統合グループ）に対する\$XCF GET が失敗しました。
00F7FF17	ログリーダー制御ブロック（OUQQ）の追加に失敗しました。
00F7FF18	ログリーダーサブタスクを開始できません。
00F7FF19	ECCR はすでにロggerに接続されています。
00F7FF1A	PKT キューエントリを追加できません。
00F7FF1B	ECCR 制御ブロック（INQQ）の追加に失敗しました。

理由コード	説明
00F7FF1C	(読み取り、書き込みともに) 無効なサインオンタイプです。
00F7FF1D	再開操作の実行に失敗しました。
00F7FF1E	ログリーダー (OUQQ) 制御ブロックの発見に失敗しました。
00F7FF1F	グローバル循環キューに書き込めませんでした。
00F7FF20	リスタート要求のロッガー名がロッガー ID と一致しません。
00F7FF21	転送要求の終了位置が開始位置よりも前にあります。
00F7FF22	終了要求が正常に終了しませんでした。
00F7FF23	ログリーダー (OUQQ) 制御ブロックの削除に失敗しました。
00F8FF01	チェーナーモジュールが作業領域を取得できませんでした。
00F8FF02	チェーナーモジュールが古い ECB リストを削除できません。
00F8FF03	チェーナーモジュールが新しい ECB リストを取得できません。
00F8FF04	チェックポイントプロセッサが QSAM I/O サブタスクの予期しない終了を受け取りました。
00F8FF05	チェックポイントプロセッサが TIMER サブタスクの予期しない終了を受け取りました。
00F8FF06	チェックポイントプロセッサが JOURNAL サブタスクの予期しない終了を受け取りました。
00F8FF07	チェックポイントプロセッサが PROCESS サブタスクの予期しない終了を受け取りました。
00F8FF08	チェックポイントプロセッサが RESTART サブタスクの予期しない終了を受け取りました。
00F8FF09	チェックポイントプロセッサが LOGICAL サブタスクの予期しない終了を受け取りました。
00F8FF0A	チェックポイントプロセッサが PHYSICAL サブタスクの予期しない終了を受け取りました。
00F8FF0B	チェックポイントプロセッサが Checkpoint サブタスクの予期しない終了を受け取りました。
00F8FF0C	チェックポイントプロセッサが XCF サブタスクの予期しない終了を受け取りました。
00F8FF0D	チェックポイントプロセッサが VTAM I/O サブタスクの予期しない終了を受け取りました。
00F8FF0E	チェックポイントプロセッサが、チェックポイントに対する予期しない要求を受け取りました。
00F8FF0F	チェックポイントプロセッサが、シャットダウンに対する予期しない要求を受け取りました。
00F8FF10	チェックポイントプロセッサが、予期しないオペレータ応答を受け取りました。
00F8FF11	チェックポイントプロセッサが、EDMZPARM の予期しない再ロードを受け取りました。
00F8FF12	チェックポイントプロセッサが、MVS コマンドの予期しない終了を受け取りました。
00F8FF13	チェーナーモジュールが作業領域を削除できませんでした。

理由コード	説明
00F8FF14	PowerExchange ロggerが無効なコードを見つけました。再起動データセット (ERDS) への WRITE に失敗しました。
00F9F701	アクティブな LOG2 で使用可能なブロック数を決定するルーチンが、LOGQ ラッチを取得できませんでした。
00F9F702	アクティブな LOG2 で使用可能なブロック数を決定するルーチンが、LOGQ ラッチを解放できませんでした。
00F9F801	アクティブな LOG2 で使用可能なブロック数を決定するルーチンが、LOGQ ラッチを取得できませんでした。
00F9F802	アクティブな LOG2 で使用可能なブロック数を決定するルーチンが、LOGQ ラッチを解放できませんでした。
00F9F803	チェーナーモジュールが読み取りバッファを取得できませんでした。
00F9F804	チェーナーモジュールがエントリを BLKQ COPY1 キューに追加できませんでした。
00F9F805	チェーナーモジュールがエントリをアクティブ LOGQ COPY1 キューに追加できませんでした。
00F9F806	チェーナーモジュールがエントリをアーカイブ BLKQ COPY1 キューに追加できませんでした。
00F9F807	チェーナーモジュールがエントリをアーカイブ LOGQ COPY1 キューに追加できませんでした。
00F9F808	チェーナーモジュールが GBLBLKQ11 キューでエントリを見つけられませんでした。
00F9F809	チェーナーモジュールが GBLBLKQ12 キューでエントリを見つけられませんでした。
00F9F80A	チェーナーモジュールが GBLBLKQ21 キューでエントリを見つけられませんでした。
00F9F80B	チェーナーモジュールが GBLBLKQ22 キューでエントリを見つけられませんでした。
00F9F901	アクティブな LOG1 で使用可能なブロック数を決定するルーチンが、LOGQ ラッチを取得できませんでした。
00F9F902	アクティブな LOG1 で使用可能なブロック数を決定するルーチンが、LOGQ ラッチを解放できませんでした。
00F9F903	チェーナーモジュールが読み取りバッファを取得できませんでした。
00F9F904	チェーナーモジュールがエントリを BLKQ COPY1 キューに追加できませんでした。
00F9F905	チェーナーモジュールがエントリをアクティブ LOGQ COPY1 キューに追加できませんでした。
00F9F906	チェーナーモジュールがエントリをアーカイブ BLKQ COPY1 キューに追加できませんでした。
00F9F907	チェーナーモジュールがエントリをアーカイブ LOGQ COPY1 キューに追加できませんでした。
00F9F908	チェーナーモジュールが GBLBLKQ11 キューでエントリを見つけられませんでした。

理由コード	説明
00F9F909	チェーナーモジュールが GBLBLKQ12 キューでエントリを見つけられませんでした。
00F9F90A	チェーナーモジュールが GBLBLKQ21 キューでエントリを見つけられませんでした。
00F9F90B	チェーナーモジュールが GBLBLKQ22 キューでエントリを見つけられませんでした。
00F9FA01	チェーナーモジュールが GBLBLKQ11 キューでエントリを見つけられませんでした。
00F9FA02	チェーナーモジュールが GBLBLKQ12 キューでエントリを見つけられませんでした。
00F9FA03	チェーナーモジュールが GBLBLKQ21 キューでエントリを見つけられませんでした。
00F9FA04	チェーナーモジュールが GBLBLKQ22 キューでエントリを見つけられませんでした。
00F9FA05	物理ロッガープロセッサ (EDMLPLG0) で保存エラーが発生しました。他のログはすでに停止されました。
00F9FA06	物理ロッガープロセッサ (EDMLPLG0) で保存エラーが発生しました。セカンダリログがありません。
00F9FA07	セカンダリアクティブログサブタスク (EDMLPLG2) が異常終了しました。
00F9FB01	アクティブログの処理を終了するルーチンが LOGQ ラッチを取得できませんでした。
00F9FB02	アクティブログの処理を終了するルーチンが LOGQ ラッチを解放できませんでした。
00F9FB03	DIV UNACCESS マクロが LOG1 データセットへのアクセスを停止できませんでした。
00F9FB04	DIV UNIDENTIFY マクロが LOG1 データセットを識別不能にすることができませんでした。
00F9FB05	ALESERV DELETE マクロが LOG1 データセットを削除できませんでした。
00F9FB06	DSPSERV DELETE マクロが LOG1 データセットを削除できませんでした。
00F9FB07	DIV SAVE マクロが LOG2 データセットを保存できませんでした。
00F9FB08	DIV UNMAP マクロが LOG2 データセットのマップを解除できませんでした。
00F9FB09	DIV UNACCESS マクロが LOG2 データセットへのアクセスを停止できませんでした。
00F9FB0A	DIV UNIDENTIFY マクロが LOG2 データセットを識別不能にすることができませんでした。
00F9FB0B	ALESERV DELETE マクロが LOG2 データセットを削除できませんでした。
00F9FB0C	DSPSERV DELETE マクロが LOG2 データセットを削除できませんでした。
00F9FB0D	チェーナーモジュールが GBLBLKQ11 キューでエントリを見つけられませんでした。
00F9FB0E	チェーナーモジュールが GBLBLKQ12 キューでエントリを見つけられませんでした。
00F9FB0F	チェーナーモジュールが GBLBLKQ21 キューでエントリを見つけられませんでした。
00F9FB10	チェーナーモジュールが GBLBLKQ22 キューでエントリを見つけられませんでした。

理由コード	説明
00F9FC01	アクティブログの処理を初期化するルーチンが、LOGQ ラッチを取得できませんでした。
00F9FC02	アクティブログの処理を初期化するルーチンが、LOGQ ラッチを解放できませんでした。
00F9FC03	アクティブ LOG1 データセットに対する動的割り当てが失敗しました。
00F9FC04	アクティブログの処理を初期化するルーチンが、LOGQ ラッチを解放できませんでした。
00F9FC05	アクティブ LOG2 データセットに対する動的割り当てが失敗しました。
00F9FC06	アクティブログの処理を初期化するルーチンが、LOGQ ラッチを解放できませんでした。
00F9FC07	DSPSERV CREATE マクロが、HSP LOG1 データセットのハイパースペースを作成できませんでした。
00F9FC08	ALESERV OBTAIN マクロが、アクセスリストエントリトークン (ALET) LOG1 データセットを取得できませんでした。
00F9FC09	DSPSERV CREATE マクロが、HSP LOG2 データセットのハイパースペースを作成できませんでした。
00F9FC0A	ALESERV OBTAIN マクロが、アクセスリストエントリトークン (ALET) LOG2 データセットを取得できませんでした。
00F9FC0B	DIV IDENTIFY マクロが LOG1 データセットを識別できませんでした。
00F9FC0C	DIV ACCESS マクロが LOG1 データセットにアクセスできませんでした。
00F9FC0D	DIV MAP マクロが LOG1 データセットをマップできませんでした。
00F9FC0E	DIV IDENTIFY マクロが LOG2 データセットを識別できませんでした。
00F9FC0F	DIV ACCESS マクロが LOG2 データセットにアクセスできませんでした。
00F9FC10	DIV MAP マクロが LOG1 データセットをマップできませんでした。
00F9FC11	チェーナーモジュールが GBLBLKQ11 キューでエントリを見つけられませんでした。
00F9FC12	チェーナーモジュールが GBLBLKQ12 キューでエントリを見つけられませんでした。
00F9FC13	チェーナーモジュールが GBLBLKQ21 キューでエントリを見つけられませんでした。
00F9FC14	チェーナーモジュールが GBLBLKQ22 キューでエントリを見つけられませんでした。
00F9FC15	プライマリとセカンダリの両方のアクティブログが停止状態にあることを物理ロッガーが発見しました。
00F9FD01	新しいアクティブログを取得するルーチンが、LOGQ ラッチを取得できませんでした。
00F9FD02	新しいアクティブログを取得するルーチンが、LOGQ ラッチを解放できませんでした。
00F9FE01	チェーナーモジュールがコマンドバッファを取得できませんでした。
00F9FF01	チェーナーモジュールが作業領域を取得できませんでした。

理由コード	説明
00F9FF02	GETSTOC ルーチンが、LOG1 データセットへのロギングに使用可能なブロック数を決定できませんでした。
00F9FF03	GETSTOC ルーチンが、LOG2 データセットへのロギングに使用可能なブロック数を決定できませんでした。
00F9FF04	初期化中に新しいログを取得しようとして、GETNEWL エラーが発生しました。
00F9FF05	PowerExchange 物理ロッガーが、新しいアクティブ LOG2 が存在するかどうかを判定できませんでした。
00F9FF06	PowerExchange 物理ロッガーが、新しいアクティブ LOG1 が存在するかどうかを判定できませんでした。
00F9FF07	INIACCTL ルーチンが新しいログを初期化できませんでした。
00F9FF08	チェーナーモジュールが GBLBLKQ11 キューでエントリを見つけられませんでした。
00F9FF09	チェーナーモジュールが GBLBLKQ12 キューでエントリを見つけられませんでした。
00F9FF0A	チェーナーモジュールが GBLBLKQ21 キューでエントリを見つけられませんでした。
00F9FF0B	チェーナーモジュールが GBLBLKQ22 キューでエントリを見つけられませんでした。
00F9FF0C	チェーナーモジュールが LOCAL 制御ブロックを追加できませんでした。
00F9FF0D	チェーナーモジュールが OPQ キューを初期化できませんでした。
00F9FF0E	LOGQ ラッチの取得に失敗しました。
00F9FF0F	LOGQ ラッチの解放に失敗しました。
00F9FF10	アクティブログに使用可能なスペースがありません。
00F9FF11	物理ロッガープロセッサ (EDMLPLG0) が UOW キューを作成できませんでした。
00F9FF12	物理ロッガープロセッサ (EDMLPLG0) が LOGS ログキューを取得できませんでした。
00F9FF13	物理ロッガープロセッサ (EDMLPLG0) が ESTAE ルーチンを入力しました。
00F9FF14	物理ロッガープロセッサ (EDMLPLG0) が無効なログ RBA を検出しました。
00F9FF15	物理ロッガープロセッサ (EDMLPLG0) がログキューラッチを取得できませんでした。
00F9FF16	物理ロッガープロセッサ (EDMLPLG0) がログキューラッチを解放できませんでした。
00F9FF17	物理ロッガープロセッサ (EDMLPLG0) が PowerExchange 共通サービスに接続できませんでした。
00F9FF18	書き込みエラーが発生しました。セカンダリログがありません。
00F9FF19	書き込みエラーが発生しました。他のログはすでに停止されました。
00F9FF1A	アクティブログ 2 サブタスク (EDMLPLG2) の接続中に障害が発生しました。

理由コード	説明
00F9FF1B	使用可能なアクティブログデータセットがありません。
00F9FF1C	セカンダリアクティブログデータセットの数がプライマリアクティブログデータセットの数と一致しません。
00F9FF1D	アーカイブログ処理が初期化時に失敗しました。
00F9FF1E	ロッガーが停止しているときにデータをログに記録しようとしました。

## 理由コード 00FAFF01～00FFFFFF - PowerExchange ロッガー

PowerExchange ロッガーは、00FAFF01 から 00FFFFFF の理由コードを発行します。

次の表に、PowerExchange ロッガーの理由コードを一覧表示します。

理由コード	説明
00FAFF01	チェーナーモジュールが作業領域を取得できませんでした。
00FAFF02	チェーナーモジュールがバッファプレフィクスを取得できませんでした。
00FAFF03	チェーナーモジュールがバッファを取得できませんでした。
00FAFF04	GETBUFF マクロエラーが発生しました。バッファを取得できませんでした。
00FAFF05	MOVEREC マクロエラーが発生し、不明な戻りコードが返されました。
00FAFF06	チェーナーモジュールが作業単位（UOW）を追加できませんでした。
00FAFF07	チェーナーモジュールが作業単位（UOW）を削除できませんでした。
00FAFF08	再起動データセット（ERDS）への WRITE に失敗しました。
00FAFF09	MOVEREC マクロがログ begin_checkpoint レコードに書き込みできませんでした。
00FAFF0A	MOVEREC マクロがログ UOW_summary レコードに書き込みできませんでした。
00FAFF0B	MOVEREC マクロがログ end_checkpoint レコードに書き込みできませんでした。
00FAFF0C	チェーナーモジュールがエントリを CHK キューに追加できませんでした。
00FAFF0D	論理ロッガープロセッサが LOGQ ラッチを取得できませんでした。
00FAFF0E	共通サービスへの接続に失敗しました。
00FAFF0F	チェーナーモジュールが CHK キューからエントリを削除できませんでした。
00FAFF10	\$DLICQPL マクロが循環キューを開くことができませんでした。
00FAFF11	PowerExchange 論理ロッガープロセッサ（EDMLLLG0）が LOGS ラッチを取得できませんでした。

理由コード	説明
00FAFF12	PowerExchange 論理ロッガープロセッサ (EDMLLLG0) がグローバルキューを読み取ることができませんでした。
00FAFF13	PowerExchange 論理ロッガープロセッサ (EDMLLLG0) が STIMERM SET エラーを受信しました。
00FAFF14	MOVEREC マクロが、PowerExchange 論理ロッガープロセッサ (EDMLLLG0) モジュールでパケットトレーラエラーを受信しました。
00FAFF15	PowerExchange 論理ロッガープロセッサ (EDMLLLG0) モジュールが ESTAE ルーチンを入力しました。
00FAFF16	チェックポイント (CHKPT) の試行中に、PowerExchange 論理ロッガープロセッサ (EDMLLLG0) が物理ロッガーエラーを受信しました。
00FAFF17	チェックポイント (CHKPT) の試行中に、PowerExchange 論理ロッガープロセッサ (EDMLLLG0) が物理ロッガーエラーを受信しました。
00FAFF18	HARDN コマンドの試行中に、PowerExchange 論理ロッガープロセッサ (EDMLLLG0) が物理ロッガーエラーを受信しました。
00FAFF19	HARDN コマンドの試行中に、PowerExchange 論理ロッガープロセッサ (EDMLLLG0) が物理ロッガーエラーを受信しました。
00FAFF1A	PowerExchange 論理ロッガープロセッサ (EDMLLLG0) が最大 LOGRBA を超えました。
00FAFF1B	PowerExchange 論理ロッガープロセッサ (EDMLLLG0) が LOGQ ラッチを取得できませんでした。
00FAFF1C	PowerExchange 論理ロッガープロセッサ (EDMLLLG0) が STIMERM CANCEL エラーを受信しました。
00FAFF1D	PowerExchange 論理ロッガープロセッサ (EDMLLLG0) が XCF メッセージキューを開くことができませんでした。
00FAFF1E	PowerExchange 論理ロッガープロセッサ (EDMLLLG0) が COMMUOW でエラーを検出し、XCF メッセージキューに対する PUT コマンドを完了できませんでした。
00FBFF01	チェーナーモジュールが作業領域を取得できませんでした。
00FBFF02	チェーナーモジュールが TC タスク制御キューを初期化できませんでした。
00FBFF03	チェーナーモジュールが TCQ キューにエントリを追加できませんでした。
00FBFF04	チェーナーモジュールが CMD キューを終了できませんでした。
00FBFF05	ディクショナリのロード中にエラーが発生しました。
00FBFF06	チェーナーモジュールが ECBLIST 領域を削除できませんでした。
00FBFF07	チェーナーモジュールが ECBLIST 領域を取得できませんでした。
00FBFF08	チェーナーモジュールが TCQ キューを終了できませんでした。
00FBFF0A	チェーナーモジュールが STR キューを終了できませんでした。



理由コード	説明
00FBFF0B	チェーナーモジュールが作業領域を削除できませんでした。
00FBFF0C	チェーナーモジュールが GBLLIFPQ キューを終了できませんでした。
00FBFF0D	チェーナーモジュールが、外部化 CMD (EDMD) 領域を解放できませんでした。
00FBFF0E	チェーナーモジュールが IPQ キューを削除できませんでした。
00FBFF0F	チェーナーモジュールが LIFCMSQ キューからエントリを削除できませんでした。
00FBFF10	チェーナーモジュールが TCQ キューにエントリを追加できませんでした。
00FBFF11	ATTACH コマンドがゼロ以外の戻りコードを返しました。
00FBFF13	チェーナーモジュールが入力 CMD キューからエントリをフラッシュできませんでした。
00FBFF14	チェーナーモジュールが TCQ キューからエントリを削除できませんでした。
00FCFF01	チェーナーモジュールが作業領域を取得できませんでした。
00FCFF02	チェーナーモジュールが作業領域を削除できませんでした。
00FCFF03	チェーナーモジュールが JNL キューを削除できませんでした。
00FCFF04	チェーナーモジュールがデータを削除できませんでした。
00FCFF05	チェーナーモジュールが JNL レコード領域を取得できませんでした。
00FCFF06	チェーナーモジュールが JNL レコード領域を解放できませんでした。
00FCFF07	JOURNAL データセットの CLOSE または UNALLOCATE に失敗しました。
00FCFF09	PUT 関数後に、ジャーナルプロセッサ (EDMLJNL0) が SHOWCB エラーを検出しました。
00FCFF0A	PUT 関数後に、ジャーナルプロセッサ (EDMLJNL0) が SHOWCB エラーを検出しました。
00FCFF0B	PUT 関数後に、ジャーナルプロセッサ (EDMLJNL0) が SHOWCB エラーを検出しました。
00FCFF0C	JOURNAL HEADER 文を作成するための領域の取得に失敗しました。
00FDFF01	非アクティブ LOCAL 制御ブロックのフラッシュに失敗しました。
00FDFF02	チェーナーモジュールによるローカル領域の削除に失敗しました。
00FDFF03	チェーナーモジュールによる作業領域の取得に失敗しました。
00FDFF04	チェーナーモジュールによる作業領域の解放に失敗しました。
00FDFF05	チェーナーモジュールが GBLP24Q キューから未使用領域を解放できませんでした。
00FDFF06	チェーナーモジュールが GBLP31Q キューから未使用領域を解放できませんでした。
00FDFF07	チェーナーモジュールが GBLGBLQ キューから未使用領域を解放できませんでした。

理由コード	説明
00FDFF08	どの ECB がポストされたかを判定できませんでした。
00FDFF09	グローバル循環キューへの送信でエラーが発生しました。
00FEFF01	チェーナーモジュールが作業領域を取得できませんでした。
00FEFF02	PowerExchange ロggerが SYSIN を開くことができませんでした。
00FEFF03	チェーナーモジュールがローカル領域制御ブロックを追加できませんでした。
00FEFF04	PowerExchange ロggerが SYSPRINT を開くことができませんでした。
00FEFF05	チェーナーモジュールが入力レコードを作成するための領域を取得できませんでした。
00FEFF07	チェーナーモジュールが出力データ領域を削除できませんでした。
00FEFF08	チェーナーモジュールが I/O キューを削除できませんでした。
00FEFF09	チェーナーモジュールがローカル領域を削除できませんでした。
00FEFF0A	チェーナーモジュールが作業領域を削除できませんでした。
00FEFF0B	チェーナーモジュールが出力キューを初期化できませんでした。
00FEFF0C	印刷ページ上の行数を表示する 3 番目のパラメータが無効です。
00FFCF01	チェーナーモジュールが作業領域を取得できませんでした。
00FFCF02	チェーナーモジュールがバッファ領域を取得できませんでした。
00FFCF03	MODCB マクロが RPL 制御ブロックを変更できませんでした。
00FFCF04	このモジュールによるマスタログ制御レコードの GET に失敗しました。
00FFCF05	チェーナーモジュールによるマスタログ制御レコードの FIND に失敗しました。
00FFCF06	このモジュールによるプライマリアクティブログ制御レコードの GET に失敗しました。
00FFCF07	チェーナーモジュールによるプライマリアクティブログ制御レコードの FIND に失敗しました。
00FFCF08	このモジュールによるセカンダリアクティブログ制御レコードの GET に失敗しました。
00FFCF09	チェーナーモジュールによるプライマリアーカイブログ制御レコードの FIND に失敗しました。
00FFCF0A	このモジュールによる次のアーカイブログの GET に失敗しました。
00FFCF0B	チェーナーモジュールによるセカンダリアーカイブログ制御レコードの FIND に失敗しました。
00FFCF0C	MODCB マクロが RPL 制御ブロックを変更できませんでした。
00FFCF0D	このモジュールによるチェックポイント制御レコードの GET に失敗しました。

理由コード	説明
00FFCF0E	このモジュールによるチェックポイント制御レコードの PUT に失敗しました。
00FFDF01	チェーナーモジュールが作業領域を取得できませんでした。
00FFDF02	チェーナーモジュールがバッファ領域を取得できませんでした。
00FFDF03	MODCB マクロが RPL 制御ブロックを変更できませんでした。
00FFDF04	このモジュールによるマスタログ制御レコードの GET に失敗しました。
00FFDF05	チェーナーモジュールによるマスタログ制御レコードの FIND に失敗しました。
00FFDF06	このモジュールによるプライマリアクティブログ制御レコードの GET に失敗しました。
00FFDF07	チェーナーモジュールによるプライマリアクティブログ制御レコードの FIND に失敗しました。
00FFDF08	このモジュールによるセカンダリアクティブログ制御レコードの GET に失敗しました。
00FFDF09	チェーナーモジュールによるプライマリアーカイブログ制御レコードの FIND に失敗しました。
00FFDF0A	このモジュールによる次のアーカイブログの GET に失敗しました。
00FFDF0B	チェーナーモジュールによるセカンダリアーカイブログ制御レコードの FIND に失敗しました。
00FFDF0C	MODCB マクロが RPL 制御ブロックを変更できませんでした。
00FFDF0D	このモジュールによるチェックポイント制御レコードの GET に失敗しました。
00FFDF0E	このモジュールによるチェックポイント制御レコードの PUT に失敗しました。
00FFE001	マスタログのバッファの取得に失敗しました。
00FFE002	ERDS01 再起動データセットの OPEN の実行に失敗しました。
00FFE003	ERDS02 再起動データセットの OPEN の実行に失敗しました。
00FFF001	読み取りバッファの取得に失敗しました。
00FFF002	内部チェックポイントキューへのチェックポイントの追加に失敗しました。
00FFF101	チェーナーモジュールが LOGQ COPY1 キューを初期化できませんでした。
00FFF102	チェーナーモジュールが BLKQ COPY1 キューを初期化できませんでした。
00FFF103	チェーナーモジュールが読み取りバッファを取得できませんでした。
00FFF104	チェーナーモジュールがエントリを BLKQ COPY2 キューに追加できませんでした。
00FFF105	チェーナーモジュールがエントリをアクティブ LOGQ COPY2 キューに追加できませんでした。

理由コード	説明
00FFF106	チェーナーモジュールがエントリをアーカイブ BLKQ COPY2 キューに追加できませんでした。
00FFF107	チェーナーモジュールがエントリをアーカイブ LOGQ COPY2 キューに追加できませんでした。
00FFF201	チェーナーモジュールが LOGQ COPY1 キューを初期化できませんでした。
00FFF202	チェーナーモジュールが BLKQ COPY1 キューを初期化できませんでした。
00FFF203	チェーナーモジュールが読み取りバッファを取得できませんでした。
00FFF204	チェーナーモジュールがエントリを BLKQ COPY1 キューに追加できませんでした。
00FFF205	チェーナーモジュールがエントリをアクティブ LOGQ COPY1 キューに追加できませんでした。
00FFF206	チェーナーモジュールが、エントリをアーカイブ BLKQ COPY1 キューに追加できませんでした。
00FFF207	チェーナーモジュールがエントリをアーカイブ LOGQ COPY1 キューに追加できませんでした。
00FFF301	チェーナーモジュールが LOGQ COPY1 キューを初期化できませんでした。
00FFF302	チェーナーモジュールが BLKQ COPY1 キューを初期化できませんでした。
00FFF303	チェーナーモジュールが読み取りバッファを取得できませんでした。
00FFF304	チェーナーモジュールがエントリを BLKQ COPY2 キューに追加できませんでした。
00FFF305	チェーナーモジュールがエントリをアクティブ LOGQ COPY2 キューに追加できませんでした。
00FFF306	チェーナーモジュールがエントリをアーカイブ BLKQ COPY2 キューに追加できませんでした。
00FFF307	チェーナーモジュールがエントリをアーカイブ LOGQ COPY2 キューに追加できませんでした。
00FFF401	チェーナーモジュールが LOGQ COPY1 キューを初期化できませんでした。
00FFF402	チェーナーモジュールが BLKQ COPY1 キューを初期化できませんでした。
00FFF403	チェーナーモジュールが読み取りバッファを取得できませんでした。
00FFF404	チェーナーモジュールがエントリを BLKQ COPY1 キューに追加できませんでした。
00FFF405	チェーナーモジュールがエントリをアクティブ LOGQ COPY1 キューに追加できませんでした。
00FFF406	チェーナーモジュールがエントリをアーカイブ BLKQ COPY1 キューに追加できませんでした。
00FFF407	チェーナーモジュールがエントリをアーカイブ LOGQ COPY1 キューに追加できませんでした。

理由コード	説明
00FFF501	ロッガーは、アクティブログを ERDS01 再起動データセットに追加しようとして、アクティブログがすでに存在することを発見しました。
00FFF502	チェーナーが、ログを内部ログキュー LOGQ2 に追加できませんでした。
00FFF601	ロッガーは、アクティブログを ERDS01 再起動データセットに追加しようとして、アクティブログがすでに存在することを発見しました。
00FFF602	チェーナーが、ログを内部ログキュー LOGQ1 に追加できませんでした。
00FFF701	ロッガーは、アクティブログを ERDS01 再起動データセットに追加しようとして、アクティブログがすでに存在することを発見しました。
00FFF702	チェーナーが、ログを内部ログキュー LOGQ2 に追加できませんでした。
00FFF801	ロッガーは、アクティブログを ERDS01 再起動データセットに追加しようとして、アクティブログがすでに存在することを発見しました。
00FFF802	チェーナーが、ログを内部ログキュー LOGQ1 に追加できませんでした。
00FFFB01	チェーナーモジュールが削除するアーカイブログを見つけられませんでした。
00FFFB02	チェーナーモジュールがアーカイブログキュー LOGQ2 に対して DELETE を実行できませんでした。
00FFFC01	チェーナーモジュールが削除するアーカイブログを見つけられませんでした。
00FFFC02	チェーナーモジュールがアーカイブログキュー LOGQ1 に対して DELETE を実行できませんでした。
00FFFD01	チェーナーモジュールが削除するアクティブログを見つけられませんでした。
00FFFE01	チェーナーモジュールが削除するアクティブログを見つけられませんでした。
00FFFF01	チェーナーモジュールが作業領域を取得できませんでした。
00FFFF02	チェーナーモジュールが ERDS01 再起動データセットバッファを取得できませんでした。
00FFFF03	チェーナーモジュールが ERDS02 再起動データセットバッファを取得できませんでした。
00FFFF04	PowerExchange ロッガーが LOGQ11 ログキューを作成できません。
00FFFF05	PowerExchange ロッガーが LOGQ12 ログキューを作成できません。
00FFFF06	PowerExchange ロッガーが LOGQ21 ログキューを作成できません。
00FFFF07	PowerExchange ロッガーが LOGQ22 ログキューを作成できません。
00FFFF08	PowerExchange ロッガーは、どれが現在のアクティブログか判定できません。
00FFFF09	ERDS01 再起動データセットの DD 文がありません。
00FFFF0A	PowerExchange ロッガーが無効な再起動データセット (ERDS) を検出しました。

理由コード	説明
00FFFF0B	GENCB モジュールによる ERDS01 再起動データセットの ACB の取得に失敗しました。
00FFFF0C	ERDS01 再起動データセットの OPEN に失敗しました。
00FFFF0D	GENCB モジュールによる ERDS02 再起動データセットの ACB の取得に失敗しました。
00FFFF0E	ERDS02 再起動データセットの OPEN に失敗しました。
00FFFF0F	オンラインおよび ERDS01 再起動データセットが空です。
00FFFF10	GENCB マクロによる ERDS01 再起動データセットの RPL 制御ブロックの生成に失敗しました。
00FFFF11	GENCB マクロによる ERDS02 再起動データセットの RPL 制御ブロックの生成に失敗しました。
00FFFF12	ERDS01 再起動データセットのフォーマットに失敗しました。
00FFFF13	ERDS02 再起動データセットのフォーマットに失敗しました。
00FFFF14	ERDS01 再起動データセットのマスタログレコードの読み取りに失敗しました。
00FFFF15	ERDS02 再起動データセットのマスタログレコードの読み取りに失敗しました。
00FFFF16	MODCB マクロによる ERDS01 再起動データセットの RPL 制御ブロックの変更に失敗しました。
00FFFF17	MODCB マクロによる ERDS02 再起動データセットの RPL 制御ブロックの変更に失敗しました。
00FFFF18	ロッガーが LOGQ ラッチを取得できませんでした。
00FFFF19	ロッガーがチェックポイントキュー CHKPT を作成できませんでした。

## 理由コード 01440600～060906FF - PowerExchange ユーティリティ

PowerExchange ユーティリティは、01440600 から 060906FF の理由コードを発行します。

次の表に、PowerExchange ユーティリティが発行する理由コードを一覧表示します。

理由コード	説明
01440600	DCB を適切に開けませんでした。
01440601	PowerExchange ロggerインタフェースユーティリティ (EDMXLUTL) が必要な DCB を生成できませんでした。
01440602	PowerExchange ロggerインタフェースユーティリティ (EDMXLUTL) がデータセットを開くことができませんでした。

理由コード	説明
01440603	PowerExchange ロgger インタフェースユーティリティ (EDMXLUTL) がデータセットを閉じることができませんでした。
01440604	PowerExchange ロgger インタフェースユーティリティ (EDMXLUTL) がデータセットを解放できませんでした。
01440609	制御カードエラーが検出されました。
01450605	イベントコマンドプロセッサ (EDMXLEVT) が作業ストレージを取得できませんでした。
01450606	イベントコマンドプロセッサ (EDMXLEVT) がログユーティリティ処理モジュールをロードできませんでした。
01450607	不正な PowerExchange 標準レコードが検出されました。
01450608	不正な PowerExchange 正規レコードが検出されました。
01450618	出力キューに対する PUT 関数が失敗しました。
0145061B	変換バッファが小さすぎます。
01450624	イベントコマンドプロセッサ (EDMXLEVT) に対する LOAD 関数が失敗しました。
01450625	ビルドコマンドサービスが PowerExchange レコードを返しませんでした。
01450626	イベントコマンドプロセッサ (EDMXLEVT) が、データキャプチャ用のアクティブな EDMNAME を見つけられませんでした。
01450627	EDMXLEVT からイベントマーカーに追加する説明の数が多すぎます (6 以上)
0145062E	その前にエラーが発生したため、イベントコマンドプロセッサ (EDMXLEVT) がログユーティリティを初期化できませんでした。
01450651	RETURN EDMNAME 呼び出しが失敗しました。
01450652	テーブル名のリストに対する DB2 要求が失敗しました。
01460605	ビルドコマンドユーティリティ (EDMXIBCM) が作業ストレージを取得できませんでした。
01460619	不正な符号化コマンドがビルドコマンドユーティリティ (EDMXIBCM) に渡されました。
0146061A	変換バッファがビルドコマンドユーティリティ (EDMXIBCM) に渡されませんでした。
0146061B	変換バッファが小さすぎます。
0146061C	変換バッファの長さがゼロです。
0146061D	変換バッファに不正なヘッダレコードが含まれています。
0146061E	ワークリストバッファがビルドコマンドユーティリティ (EDMXIBCM) に渡されませんでした。
0146061F	ワークリストバッファが小さすぎます。

理由コード	説明
01460620	ワークリストバッファの長さがゼロです。
01460621	ワークリストバッファに不正なヘッダレコードが含まれています。
01460622	パイプクリーナに対する BUILD 関数が失敗しました。
01460623	処理終了に対する BUILD 関数が失敗しました。
01460625	ビルドコマンドユーティリティ（EDMXIBCM）が PowerExchange レコードを返しませんでした。
01460626	登録リストに対する BUILD 関数が失敗しました。
01460627	登録リスト要求に対するデータセット名がありません。
01460629	ビルドコマンドユーティリティがデータベース記述子を見つけられませんでした。
0146062C	登録リスト要求から不正な戻りコードを受信しました。
0146062D	入力した要求の種類は、コマンドモジュールでサポートされていません。
0146062F	要求されたオブジェクトカテゴリは無効です。
06030646	ACB に対する TESTCB 関数が失敗しました。

## 理由コード 01800101～01FFFFFF - 変更インタフェースコンポーネント

変更インタフェースコンポーネント（CIC）は、01800101 から 01FFFFFF の理由コードを発行します。

次の表に、変更インタフェースコンポーネント（CIC）が発行する理由コードを一覧表示します。

理由コード	説明
01800101	OPEN 呼び出し中に無効なデータ型が見つかりました。
01800102	GET 関数および PUT 関数では開いているトークンが必要です。
01800103	無効な IPC ヘッダが見つかりました。
01800104	以前に発生したエラーのために CIC を停止する必要があります。詳細については、前のエラーを確認します。
01800105	作成トークンが提供されていません。
01800106	グローバルキューエラーが発生しました。
01800107	PowerExchange エージェントがアクティブではありません。
01800108	Mailman タスクが完了前に終了しました。
01800109	Mailman でエラーが発生しました。



理由コード	説明
0180010A	「mailman ended」フラグがオンになっています。
0180010C	BUILD CDE 関数が失敗しました。
0180010D	DELETE CDE 関数が失敗しました。
01810101	CIC を強制終了中です。
01810102	グローバルキューエラーが発生しました。
01810103	再同期処理中にエラーが発生しました。
01810104	メモリ間送信が失敗しました。
01810105	PowerExchange ロgger が終了処理中に終了しました。
01810106	PowerExchange ロgger が非アクティブで、グローバルディレクトリ (EDMSDIR) が異常終了を要求しました。このコードは、オフライン環境での初期化中に返されます。
01810107	呼び出し元は、CIC がすべての作業単位を送信するよう要求しました。
01810108	PowerExchange ロgger が終了しました。
01810109	PowerExchange ロgger が非アクティブで、グローバルディレクトリ (EDMSDIR) が異常終了を要求しました。このコードは、オンライン IMS 環境および CICS 環境での同期ポイント処理中に返されます。
0181010A	ECCR がロgger に接続する前に PowerExchange ロgger が終了しました。
0181010B	XCF JOIN 関数が失敗しました。
0181010C	XCF LEAVE 関数が失敗しました。
0181010D	XCF PUT 関数が失敗しました。
0181010E	XCF GET 関数が失敗しました。
0181010F	XCF FREE BUFFER 関数が失敗しました。
01810110	CIC がロgger キューを開こうとして、エラーが発生しました。
01810111	ロgger が CIC の初期化中に終了しました。
01820101	モジュールがスーパーバイザ状態になることができませんでした。
01820102	名前/トークン CREATE が失敗しました。
01820103	名前/トークン RETRIEVE が失敗しました。
01820104	名前/トークン DELETE が失敗しました。
01820105	BUILD CDE 関数が失敗しました。
01820106	DELETE CDE 関数が失敗しました。

理由コード	説明
01820107	共通サービスへの接続中にエラーが発生しました。
01820108	共通サービスからの切断エラーが発生しました。
01820109	CIC が CSA にプログラムをロードしています。
0182010A	モジュール EDMCICLG の初期化が失敗しました。
0182010B	モジュール EDMCICLG の PUT 関数が失敗しました。
0182010C	モジュール EDMCICLG の終了が失敗しました。
0182010D	メモリ間送信が失敗しました。
01830101	Mailman からエラーが返されました。
01830102	名前/トークン RETRIEVE が失敗しました。
01830103	無効な長さが渡されました。
01830104	オブジェクトのプロファイルが見つかりませんでした。
01830105	Mailman が終了しました。
01830106	PowerExchange エージェントが初期化中に使用できませんでした。
01830107	PowerExchange エージェントが登録呼び出し中に使用できませんでした。
01840101	共通サービスへの接続中にエラーが発生しました。
01840102	SET STIMERM 関数が失敗しました。
01840103	STIMERM CANCEL 関数が失敗しました。
01840104	Mailman のキューを開くときにエラーが発生しました。
01840105	Mailman のキューを閉じるときにエラーが発生しました。
01850101	Mailman からエラーが返されました。
01850102	Mailman からエラーが返されました。
01850103	Mailman が異常終了しました。
01850104	Mailman が異常終了しました。
01850105	モニタサブタスクが失敗しました。
01850106	PowerExchange エージェントがアクティブではありません。
01850107	名前/トークン RETRIEVE 中にエラーが発生しました。
01850108	PowerExchange 共通サービスの初期化が失敗しました。

理由コード	説明
01900101	モジュール EDMCICIN の初期化が失敗しました。
01900102	モジュール EDMCICIN の終了が失敗しました。
01900103	Mailman がエラーを返しました。
01900104	前のエラーが発生しました。詳細については、前のエラーを確認します。
01900105	同期ポイント「begin phase 1」関数が失敗しました。
01900106	同期ポイント「end phase 2」関数が失敗しました。
01900107	異常終了コード U4094 でロッガーが終了しました。グローバルディレクトリ (EDMSDIR) が異常終了を要求しました。
01900108	PowerExchange エージェントが初期化中にアクティブではありませんでした。
01900109	PowerExchange エージェントが OPEN 呼び出し中にアクティブではありませんでした。
01910101	無効な関数を DB2 ECCR から受け取りました。
01910102	テーブル名の登録リストが見つかりませんでした。
01910103	登録ルーチンがエラーを返しました。
01910104	モジュールが UOW エントリ FREEUOW を見つけられませんでした。
01910105	モジュールが UOW エントリ RECORD を見つけられませんでした。
01910106	同期ポイントフェーズ 1 が失敗しました。
01910107	同期ポイントフェーズ 2 が失敗しました。
01910108	モジュール EDMCICIN の初期化が失敗しました。
01910109	モジュール EDMCICIN の終了が失敗しました。
0191010A	PowerExchange エージェントがアクティブではありません。
0191010B	PowerExchange ロggerが使用できません。
0191010C	再同期処理（ロッガーから未処理の UOW を受信）中にエラーが発生しました
0191010D	ロッガーから受信した未処理の UOW のカウントにエラーがあります
01920101	前のエラーが発生しました。詳細については、前のエラーを確認します。
01920102	無効な関数コードが見つかりました。
01920103	INIT 関数が 2 回呼び出されました。
01920104	CIC が初期化のために呼び出されませんでした。
01920105	モジュールが、UOW テーブルで自分のエントリを見つけられませんでした。

理由コード	説明
01920106	モジュールが、指定したファイルをキャプチャしていません。
01920107	無効な同期パラメータが見つかりました。
01920109	モジュール EDMCICIN の初期化が失敗しました。
0192010A	モジュール EDMCICIN の終了が失敗しました。
0192010B	登録ルーチンがエラーを返しました。
0192010C	Mailman がエラーを返しました。
0192010D	PowerExchange エージェントがアクティブではありません。
01930101	モジュール EDMCICIN の初期化が失敗しました。
01930102	モジュール EDMCICIN の終了が失敗しました。
01930103	IMODULE GETMAIN 関数が失敗しました。
01930104	IMODULE LOAD 関数が失敗しました。
01930105	モジュールがスーパーバイザ状態になることができませんでした。
01930106	モジュールが PowerExchange エージェント SSCT を見つけられませんでした。
01930107	モジュールが無効なエージェント制御ブロックを見つけました。
01930108	モジュールが IMS SSCT を見つけられませんでした。
01930109	キャプチャする DBD がありません。
0193010A	モジュール \$MSGX の初期化が失敗しました。
0193010B	モジュール \$MSGX の終了が失敗しました。
0193010C	PowerExchange エージェントがアクティブではありません。
01940101	呼び出し側のプログラムの入力ベクトルが高すぎます。
01940102	モジュールが無効な UOW アドレスを見つけました。
01940103	PowerExchange ロggerが停止し、グローバルオプションモジュール (EDMSDIR) が ECCR の異常終了を要求しました。
01960101	IMS ESS 定義が必要です。
01970101	キャプチャするデータベースが登録されていません。
01970102	モジュールに作業ストレージアドレスが渡されませんでした。
01970103	名前/トークン RETRIEVE が失敗しました。
01970104	オンライン領域ではありません。

理由コード	説明
01990101	キャプチャするデータベースがありません。
01990102	モジュールが、TIOT で DBD の DD 名を見つけられませんでした。
01990103	JFCB の検索中にエラーが発生しました。
01990104	登録ルーチンの初期化中にエラーが発生しました。
01990105	登録ルーチンからの GET 関数中にエラーが発生しました。
019B0101	呼び出し側のプログラムの入力ベクトルが高すぎます。
019B0102	モジュールが無効な UOW アドレスを見つけました。
019B0103	PowerExchange ロggerが停止し、グローバルオプションモジュール (EDMSDIR) が ECCR の異常終了を要求しました。
019D0101	IMS ESS 定義が必要です。
01A00101	サブシステムが必要です。
01A00102	グローバルキューエラーが発生しました。
01A00103	\$GENDCB モジュールが失敗しました。
01A00104	\$GENDCB モジュールからの OPEN 関数が失敗しました。
01A00105	\$GENDCB モジュールからの CLOSE 関数が失敗しました。
01A00106	\$GENDCB モジュールからの FREE 関数が失敗しました。
01A00107	DD 文 PWXEDMCC がありません。
01A00108	OPEN 関数が失敗しました。
01A00109	SET STIMERM が失敗しました。
01A0010A	STIMERM の CANCEL に失敗しました。
01A0010B	モジュールが PowerExchange 共通サービスに接続中にエラーが発生しました。
01A0010C	XCF JOIN 関数が失敗しました。
01A0010D	XCF LEAVE 関数が失敗しました。
01A0010E	XCF DESTDEL 関数が失敗しました。
01A0010F	XCF GET 関数が失敗しました。
01A00110	XCF PUT 関数が失敗しました。
01A00111	XCF FREEBUFF 関数が失敗しました。
01A20102	グローバルキューエラーが発生しました。

理由コード	説明
01A30101	CIC 初期化エラーが発生しました。
01A30102	CIC 終了エラーが発生しました。
01B70101	SSM メンバのエージェントがアクティブではありません。
01B70102	EDMSCTRL 制御ブロックが無効です。
01B70103	プログラムは IMS 制御領域で実行する必要があります。
01B70104	「ESAF add」ルーチンにループがあります。
01A30103	無効な IPC ヘッダがレコードで見つかりました。
01C40101	呼び出し側のプログラムの入力ベクトルが高すぎます。
01C40102	モジュールが無効な UOW アドレスを見つけました。
01C40103	PowerExchange ロggerが停止し、グローバルオプションモジュール (EDMSDIR) が ECCR の異常終了を要求しました。
01C70101	IMS ESS 定義が必要です。

## 関数コード 0～0A - 循環キュー

循環キューはいくつかの部分に分かれた理由コードを発行します。

循環キューの理由コードは、次の部分を含み、*xyyzzzz*形式で表示されます。

- *xx* は 16 進数の戻りコードです。
- *yy* は関数コードです。
- *zzzz* は理由コードです。

[「理由コード 04050000～0812000C0 - 循環キュー」 \(ページ 711\)](#)に循環キュー理由コードを一覧表示します。

次の表は、循環キュー関数コードについての説明です。

関数コード	説明
01	循環キューの初期化 (INIT)
02	循環キューの終了 (TERM)
03	循環キューを開く (OPEN)
04	循環キューを閉じる (CLOSE)
05	循環キューの取得 (GET)
06	循環キューへの入力 (PUT)
08	循環キューの削除 (DELETE)

関数コード	説明
0A	循環キューの作成 (CREATE)
11	循環キューのファイル末尾の設定 (SETEOF)
12	循環キューの検索トークン (FNDDTKN)

## 理由コード 04050000～0812000C0 - 循環キュー

循環キューは、04050000 から 0812000C0 の理由コードを発行します。

次の表は、循環キュー理由コードについての説明です。

理由コード	説明
04050000	循環キューモジュール (EDMXCIRQ) の GET 関数が、使用可能なレコードを見つけられず、ファイルの終わりを検出しました。
04050004	循環キューモジュール (EDMXCIRQ) の GET 関数が、条件付き GET 関数から使用可能なレコードを見つけられませんでした。
04120004	循環キューモジュール (EDMXCIRQ) の FNDDTKN 関数が、\$DLICQTS opened-input 制御ブロックを見つけられませんでした。
08010004	循環キューモジュール (EDMXCIRQ) の INIT 関数が、\$DLIGPPL パラメータリストのアドレスを見つけられませんでした。
08010040	循環キューモジュール (EDMXCIRQ) の INIT 関数の、循環キュー初期化トークン領域に対する仮想ストレージ要求が失敗しました。
08020004	循環キューモジュール (EDMXCIRQ) の TERM 関数が、\$DLIGPPL パラメータリストのアドレスを見つけられませんでした。
08020044	循環キューモジュール (EDMXCIRQ) の TERM 関数が、循環キュー初期化制御ブロックのトークン値を見つけられませんでした。
08020048	循環キューモジュール (EDMXCIRQ) の TERM 関数が、無効な循環キュー初期化制御ブロック識別子を検出しました。
08030004	循環キューモジュール (EDMXCIRQ) の OPEN 関数が、\$DLIGPPL パラメータリストのアドレスを見つけられませんでした。
08030008	循環キューモジュール (EDMXCIRQ) の OPEN 関数が、\$DLICQMN 制御ブロックを見つけられませんでした。
08030010	循環キューモジュール (EDMXCIRQ) の OPEN 関数が無効なオープン要求型を検出しました。
08030020	循環キューモジュール (EDMXCIRQ) の OPEN 関数が、入力用の開いている要求が多すぎるために GET TASK ブロックが使用できないことを検出しました。
08030024	循環キューモジュール (EDMXCIRQ) の OPEN 関数が、仮想ストレージ要求が失敗したために動的 PUT TASK ブロックが使用できないことを検出しました。

理由コード	説明
08030028	循環キューモジュール (EDMXCIRQ) の OPEN 関数が、出力用の開いている要求が多すぎるために静的 PUT TASK ブロックが使用できないことを検出しました。
08030030	循環キューモジュール (EDMXCIRQ) の OPEN 関数が、8 バイト未満の固定長論理レコード長 (LRECL) を検出しました。
08030034	循環キューモジュール (EDMXCIRQ) の OPEN 関数が、キューで許可されている最大値より大きな固定長 LRECL を検出しました。
08030036	循環キューモジュール (EDMXCIRQ) の OPEN 関数は、LOCATE モードで GET も使用していない場合、WAIT=NO 設定の使用を許可しません。
08030038	循環キューモジュール (EDMXCIRQ) の OPEN 関数は、グローバルキューとの WAIT=NO 設定の使用を許可しません。
08040004	循環キューモジュール (EDMXCIRQ) の CLOSE 関数が、\$DLIGPPL パラメータリストのアドレスを見つけられませんでした。
08040008	循環キューモジュール (EDMXCIRQ) の CLOSE 関数が、\$DLICQTS 制御ブロックを見つけられませんでした。
08040010	循環キューモジュール (EDMXCIRQ) の CLOSE 関数が、開いていない \$DLICQTS 制御ブロックを検出しました。
08040014	循環キューモジュール (EDMXCIRQ) の CLOSE 関数は、別のタスクが \$DLICQTS 制御ブロックを開いていることを検出しました。
08040018	循環キューモジュール (EDMXCIRQ) の CLOSE 関数が、不明な \$DLICQTS 制御ブロックタスク型を検出しました。
08050004	循環キューモジュール (EDMXCIRQ) の GET 関数が、\$DLIGPPL パラメータリストのアドレスを見つけられませんでした。
08050008	循環キューモジュール (EDMXCIRQ) の GET 関数が、\$DLICQTS 制御ブロックのトークン値を見つけられませんでした。
08050010	循環キューモジュール (EDMXCIRQ) の GET 関数は、現在のタスク制御ブロック (TCB) が \$DLICQTS 制御ブロックを持っていないことを検出しました。
08050014	循環キューモジュール (EDMXCIRQ) の GET 関数は、\$DLICQTS 制御ブロックが入力用に開いていないことを検出しました。
08050018	循環キューモジュール (EDMXCIRQ) の GET 関数が、ファイルの終わりで \$DLICQTS 制御ブロックを検出しました。
08050020	循環キューモジュール (EDMXCIRQ) の GET 関数が、無効な \$DLICQEB 制御ブロックを検出しました。
08060004	循環キューモジュール (EDMXCIRQ) の PUT 関数が、\$DLIGPPL パラメータリストのアドレスを見つけられませんでした。
08060008	循環キューモジュール (EDMXCIRQ) の PUT 関数が、\$DLICQTS 制御ブロックのトークン値を見つけられませんでした。



理由コード	説明
08060010	循環キューモジュール (EDMXCIRQ) の PUT 関数は、現在のタスク制御ブロック (TCB) が \$DLICQTS 制御ブロックを持っていないことを検出しました。
08060014	循環キューモジュール (EDMXCIRQ) の PUT 関数は、\$DLICQTS 制御ブロックが出力用に開いていないことを検出しました。
08060018	循環キューモジュール (EDMXCIRQ) の PUT 関数が、無効なレコードサイズを検出しました。
08060020	循環キューモジュール (EDMXCIRQ) の PUT 機能が、次の呼び出しからゼロ以外の戻りコードを受け取りました。 STATUS SET、MC、PROCESS マクロ呼び出し
08060024	循環キューモジュール (EDMXCIRQ) の PUT 機能が、次の呼び出しからゼロ以外の戻りコードを受け取りました。 STATUS RESET、MC、PROCESS マクロ呼び出し
08080004	循環キューモジュール (EDMXCIRQ) の DELETE 関数が、\$DLICQPL パラメータリストのアドレスを見つけられませんでした。
08080008	循環キューモジュール (EDMXCIRQ) の DELETE 関数が、\$DLICQMN 制御ブロックのアドレスを見つけられませんでした。
08110004	循環キューモジュール (EDMXCIRQ) の SETEOF 関数が、\$DLICQPL マクロのアドレスを見つけられませんでした。
08110010	循環キューモジュール (EDMXCIRQ) の SETEOF 関数が、\$DLICQMN 制御ブロックに対する無効な制御ブロック識別子を検出しました。
08110014	循環キューモジュール (EDMXCIRQ) の SETEOF 関数が、閉じていない PUT タスクを検出しました。
08110018	循環キューモジュール (EDMXCIRQ) の SETEOF 関数が、ファイルの終わりの表示に使用できるバッファスペースがないことを検出しました。
08120004	循環キューモジュール (EDMXCIRQ) の FNDTKN 関数が、\$DLIGPPL パラメータリストのアドレスを見つけられませんでした。
08120008	循環キューモジュール (EDMXCIRQ) の FNDTKN 関数が、\$DLICQMN 制御ブロックのトークン値を見つけられませんでした。
08120010	循環キューモジュール (EDMXCIRQ) の FNDTKN 関数が、欠けている TCB オーナー値を検出しました。
08120014	循環キューモジュール (EDMXCIRQ) の FNDTKN 関数は、現在のアドレス空間がこのキューを作成しなかったことを検出しました。
08120018	循環キューモジュール (EDMXCIRQ) の FNDTKN 関数が、このキューの入力 \$DLICQTS 制御ブロックを見つけられませんでした。
0803000C	循環キューモジュール (EDMXCIRQ) の OPEN 関数が、\$DLICQMN 制御ブロックに対する無効な制御ブロック識別子を検出しました。
0803003C	循環キューモジュール (EDMXCIRQ) の OPEN 関数は、グローバルキューとの find-token (FNDTKN=Y) パラメータの使用を許可しません。

理由コード	説明
0804000C	循環キューモジュール (EDMXCIRQ) の CLOSE 関数が、\$DLICQTS 制御ブロックに対する無効な制御ブロック識別子を検出しました。
0804001C	循環キューモジュール (EDMXCIRQ) の CLOSE 関数は、不正なタスクが \$DLICQTS 制御ブロックを閉じようとしたこと (FNDRKN 処理) を検出しました。
0805000C	循環キューモジュール (EDMXCIRQ) の GET 関数が、\$DLICQTS 制御ブロックに対する無効な制御ブロック識別子を検出しました。
0805001C	循環キューモジュール (EDMXCIRQ) の GET 関数が、COND=YES 設定とそれと互換性のない WAIT=NO 設定を検出しました。
080500FF	循環キューモジュール (EDMXCIRQ) の GET 関数が、CQTECB ポストコードからの終了要求を検出しました。
0806000C	循環キューモジュール (EDMXCIRQ) の PUT 関数が、\$DLICQTS 制御ブロックに対する無効な制御ブロック識別子を検出しました。
0806001C	循環キューモジュール (EDMXCIRQ) の PUT 関数が、無効な \$DLICQEB 制御ブロックを検出しました。
080600FF	循環キューモジュール (EDMXCIRQ) の PUT 関数が、CQTECB ポストコードからの終了要求を検出しました。
0808000C	循環キューモジュール (EDMXCIRQ) の DELETE 関数が、\$DLICQMN 制御ブロックに対する無効な識別子を検出しました。
080A0004	循環キューモジュール (EDMXCIRQ) の CREATE 関数が、\$DLIGPPL パラメータリストのアドレスを見つけれませんでした。
080A0010	循環キューモジュール (EDMXCIRQ) の CREATE 関数が、0～255 の範囲外のサブプール値を検出しました。
080A0014	循環キューモジュール (EDMXCIRQ) の CREATE 関数が、1～15 の範囲外の GET タスクカウント値を検出しました。
080A0018	循環キューモジュール (EDMXCIRQ) の CREATE 関数が、0～255 の範囲外の PUT タスクカウント値を検出しました。
080A001C	循環キューモジュール (EDMXCIRQ) の CREATE 関数が、1～255 の範囲外のバッファカウント値を検出しました。
080A0020	循環キューモジュール (EDMXCIRQ) の CREATE 関数が、4096～32760 の範囲外のバッファサイズ値を検出しました。
080A0030	循環キューモジュール (EDMXCIRQ) の CREATE 関数の、\$DLICQMN 制御ブロックに対する仮想ストレージ要求が失敗しました。
080A0034	循環キューモジュール (EDMXCIRQ) の CREATE 関数の、\$DLICQTS 制御ブロックに対する仮想ストレージ要求が失敗しました (GET TASK 関数)。
080A0038	循環キューモジュール (EDMXCIRQ) の CREATE 関数の、\$DLICQTS 制御ブロックに対する仮想ストレージ要求が失敗しました (PUT TASK 関数)。

理由コード	説明
080A003C	循環キューモジュール (EDMXCIRQ) の CREATE 関数の、循環キューバッファに対する仮想ストレージ要求が失敗しました。
0811000C	循環キューモジュール (EDMXCIRQ) の SETEOF 関数が、\$DLICQMN 制御ブロックのトークン値を見つけられませんでした。
0812000C	循環キューモジュール (EDMXCIRQ) の FNDTKN 関数が、\$DLICQMN 制御ブロックに対する無効な制御ブロック識別子を検出しました。

## 理由コード 0A0A000E～0A0B00D8 - ログ書き込み API

ログ書き込み API は、0A0A000E から 0A0B00D8 の関数理由コードを発行します。

以下の表に、ログ書き込み API 関数理由コードを一覧表示します。

理由コード	説明
0A0A000E	FirstThreeParmsIncomplete
0A0A0010	EdmcstubGetmainFailed
0A0A0011	LoadForEdmciapiFailed
0A0A0012	TokenFunctionMismatch
0A0A0013	InvalidToken
0A0B0001	TooManyParms
0A0B0002	RegTypeConflictWithAgent
0A0B0003	FunctionUnknownOrInvalidPerInitParms
0A0B0004	NotEnoughParmsForFunction
0A0B0005	FunctionProhibitedType0
0A0B0006	FunctionProhibitedMultiTasked
0A0B0007	UOWNamelsNotLoggerConnectName
0A0B0008	DataParmInvalid
0A0B0009	2ndDataParmInvalid
0A0B000A	FunctionInvalidPerInitOptions
0A0B000B	InvalidInitParm
0A0B000C	InternalErrorHandlingRegistrations
0A0B000D	InvalidAPIInitToken

理由コード	説明
0A0B000F	NullParameterPassed
0A0B0014	NoAPIInitToken
0A0B0015	APIInitTokenFunctionMismatch
0A0B0016	TokenGetmainFailed
0A0B0017	LoggerDisconnectFailed
0A0B0018	TERM_indoubt_UOW
0A0B0019	RegistrationCheckFailed
0A0B001A	LoggerConnectionFailed
0A0B001B	LoggerQueueOpenFailed
0A0B001C	LoggerInterfaceWriteFailed
0A0B001D	UOWAlreadyExists
0A0B001F	SendingChangeAfterCHK1
0A0B0020	InternalErrorProcessingUOWs
0A0B0021	CommonSvcsInitFailed
0A0B0022	CommonSvcsConnectFailed
0A0B0023	ErrorObtainingLoggerResyncInfo
0A0B0024	ErrorTerminatingCommonSvcs
0A0B0025	HighSeqNotAscending
0A0B0026	LowSeqNotAscendingOrZero
0A0B0027	NameTokenFunctionFailed
0A0B0028	MissingAPIInitToken
0A0B0029	InconsistentMultiTaskInits
0A0B002A	UOWNotFound
0A0B002B	MustIssueCHK1First
0A0B002C	TooMuchExtendedInfoInPkt
0A0B002D	TooMuchExtendedInfoInChng
0A0B002E	InvalidLCIReturnArea

理由コード	説明
0A0B002F	MissingMSGDescTag
0A0B0030	InvalidDescTag
0A0B0031	EventMarkBuildFailed
0A0B0032	EvntMaxEdmnamesExceeded
0A0B0033	EvntMaxDescExceeded
0A0B0034	RegistrationInitializationFailed (これは新規)
0A0B0035	AgentServicesUnavailable (これは新規)
0A0B0036	RegistrationConnectionFailed
0A0B0037	RegistrationDisconnectionFailed
0A0B0038	InitType1MultiTaskedProhibited
0A0B0039	ConnTokenLogicErrorOnInit
0A0B003A	APIConnTokenNotFoundInChain
0A0B003B	APIConnTokenLogicErrorAtTerm
0A0B003C	FunctionProhibitedSingleTaskTerm
0A0B003D	LoggerMultitaskDisconnectFailed
0A0B003E	RegistrationMultitaskDisconnectionFailed
0A0B0080	RegistrationNameTooLong
0A0B0081	EccrNameTooLong
0A0B0082	Wrapper_InternalError
0A0B0083	Wrapper_TokenFunctionMismatch
0A0B0084	Wrapper_MemoryAllocationFailed
0A0B0085	Wrapper_InvalidToken
0A0B0086	Wrapper_UserIdTooLong
0A0B0087	Wrapper_MessageTooLong
0A0B00C0	XData_GNRS_Error
0A0B00C1	XData_RSTR_Error
0A0B00C2	XData_GHSQ_Error

理由コード	説明
0A0B00C3	XData_GLCI_Error
0A0B00D0	XData_LR_INIT_Error
0A0B00D1	XData_LR_CONN_Error
0A0B00D2	XData_LR_OPEN_Error
0A0B00D3	XData_LR_GETL_Error
0A0B00D4	XData_LR_BUOW_Missing
0A0B00D5	XData_LR_NoRecords
0A0B00D6	XData_LR_BUOWsNotFound
0A0B00D7	XData_LR_PrematureEOF
0A0B00D8	XData_LR_SIGNON_Missing

## 理由コード 0A0D0300～0A0E0320 - ログ読み取り API

ログ読み取り API は、0A0D0300 から 0A0E0320 の関数理由コードを発行します。

以下の表に、ログ読み取り API 関数理由コードを一覧表示します。

理由コード	説明
0A0D0300	EdmlrstbGetmainFailed
0A0D0301	LoadForEdmlrapiFailed
0A0D0302	TokenFunctionMismatch
0A0D0303	InvalidToken
0A0D02FE	FirstThreeParmsIncomplete
0A0E0001	GETL_PROGRESS
0A0E0002	GETL_TIMEOUT
0A0E0003	GETL_EOF
0A0E0050	TooManyConnects
0A0E0051	InvalidSTDChgRec
0A0E0052	InvalidChgRecPFormat
0A0E0053	InvalidCRFChgRec

理由コード	説明
0A0E0054	InvalidSBCChgRec
0A0E0055	ConnectionIsOpen
0A0E0056	ConnectionNotOpen
0A0E0057	InvalidCONNParam
0A0E0058	LoggerConnectionFailed
0A0E0059	IncorrectHeaderVersion
0A0E005A	ESTAEFailedInHelper
0A0E005B	HelperAttachFailed
0A0E005C	MissingOrDupSegs
0A0E005D	SegBufferSizeError
0A0E005E	InvalidOpenRBASeg
0A0E005F	ErrorManagingSegments
0A0E0060	ConnectionAlreadyOpen
0A0E0061	HelperTaskFailed
0A0E0062	LoggerDidNotRespondToCommand
0A0E0063	LoggerTerminatedConnection
0A0E0064	InvalidEventRec
0A0E0065	StorageObtainFailedInHelper
0A0E0066	OPENEndSEQItBeginSEQ
0A0E0067	InternalPlistError
0A0E0070	TimerSvcsActiveTimerInTransition
0A0E0071	TimerSvcsNoCONNToken
0A0E0072	TimerSvcsSTIMERError
0A0E0073	TimerSvcsTimerAlreadyExists
0A0E0074	TimerSvcsTimerIDMismatch
0A0E0075	TimerSvcsNoActiveTimerInToken
0A0E0076	TimerSvcsTooManyTimers

理由コード	説明
0A0E0100	InvalidTokenType
0A0E0101	InvalidINITToken
0A0E0102	InvalidCONNToken
0A0E0103	ErrorCreatingLRAPILocalQueue
0A0E0104	ErrorOpeningLRAPILocalQueue
0A0E0105	ErrorLRAPILocalQueueNotOpen
0A0E0106	ErrorReadingLRAPILocalQueue
0A0E0107	ErrorLRAPILocalQueueEOF
0A0E0108	MoreThanOneAPIPerTCB
0A0E0109	ModuleLoadFailed
0A0E010A	ErrorWritingLRAPILocalQueue
0A0E010B	ErrorCreatingINTLSTCommand
0A0E010C	InterestListFailed
0A0E0110	ErrorDuringXCFJoin
0A0E0111	ErrorCreatingLoggerGlobalQueue
0A0E0112	ErrorOpeningLoggerGlobalQueue
0A0E0113	ErrorClosingLoggerGlobalQueue
0A0E0114	ErrorSendingCmdToLogger
0A0E0115	ErrorReadingLoggerGlobalQueue
0A0E0116	ErrorTerminatingCommonSvcs
0A0E0117	ErrorInXCFGetMsg
0A0E0118	ErrorInXCFGetGroup
0A0E0119	ErrorInXCFFreeBuff
0A0E011A	RequestDataXferFailed
0A0E011B	InvalidRecordFromLogger
0A0E011C	StopDataXferFailed
0A0E011D	InvalidLCIReturnArea



理由コード	説明
0A0E011E	InvalidOpenParm
0A0E011F	BeginSeqRequired
0A0E0120	SEDMInitError
0A0E0121	SEDMAAddError
0A0E0122	SEDMAAddDuplicateEdmname
0A0E0123	SEDMTermError
0A0E0124	SEDMInternalError
0A0E02F5	TooManyParms
0A0E02F6	FunctionUnknownOrInvalidPerInitParms
0A0E02F7	NotEnoughParmsForFunction
0A0E02FF	NullParameterPassed
0A0E0304	TokenGetmainFailed
0A0E0317	CommonSvcsInitFailed
0A0E0318	CommonSvcsConnectFailed
0A0E0319	AgentServicesUnavailable
0A0E0320	ErrorProcessingExternalParameters

## 理由コード 10000001～1007FFFF - DB2 ECCR

DB2 ECCR は、10000001 から 1007FFFF の理由コードを発行します。

次の表に、DB2 ECCR 理由コードを一覧表示します。

理由コード	説明
10000001	PowerExchange 初期化モジュール (CCDINI0) が、PowerExchange 共通サービスを初期化しようとしてエラーを検出しました。
10000002	PowerExchange 初期化モジュール (CCDINI0) が、PowerExchange 共通サービスに接続しようとしてエラーを検出しました。
10000003	PowerExchange 初期化モジュール (CCDINI0) が、スキーマチェッカ (CCDSCHC) を初期化しようとしてエラーを検出しました。
10030001	EDMNAME の取得に失敗しました。
10030002	スキーマの取得に失敗しました。

理由コード	説明
10030003	スキーマの変更に失敗しました。
10030004	PDX インタフェース (CCDRIOM) がコマンドバッファを取得しようとして、エラーが発生しました。
10030005	PDX インタフェース (CCDRIOM) が応答バッファを取得しようとして、エラーが発生しました。
10030006	PDX インタフェース (CCDRIOM) が \$RIOM マクロからの呼び出しを受信したときに、エラーが発生しました。
10030007	PDX インタフェース (CCDRIOM) が、登録リストで EDMNAME を見つけられませんでした。
10040001	DB2 スキーマが PowerExchange リポジトリの登録と一致しません。
10040002	RCD レコードのビルドに失敗しました。
10040003	PDX インタフェース (CCDRIOM) への GETSCHEM 呼び出しが失敗しました。
10040005	初期化中、DB2 ECCR スキーマチェッカ (CCDSCHC) が、メッセージで指定されたスキーマと一致するスキーマを見つけられませんでした。
10060001	スキーマの検証に失敗しました。
10070001	DB2 ECCR が無効なログレコード型を検出しました。
10070002	DB2 ECCR が、変更レコードの CREATE TIME フィールドを見つけられませんでした。
10070003	DB2 ECCR が、変更レコードの ALTER TIME フィールドを見つけられませんでした。
10070004	DB2 ECCR (X029261) が DB2 バージョンを特定できませんでした。
10070005	DB2 ECCR がデータ定義言語 (DDL) レコードの最後を見つけられませんでした。
10070006	DB2 ECCR がカラムのデータ型を特定できませんでした。
10070007	DB2 ECCR が、SYSCOLUMNS 行でソース型 ID (SOURCETYPEID) を見つけられませんでした。

## 理由コード 00000004～00000054 - チェーナーモジュール (EDMQMGR0)

チェーナーモジュールは、00000004 から 00000054 の理由コードを発行します。

以下の表に、チェインモジュール理由コードを一覧表示します。

理由コード	説明
00000004	レコードが見つかりません
00000008	ストレージが不足しています

理由コード	説明
0000000C	無効なレコードプレフィックス（不正なアドレス）
00000010	無効なフラグまたはキーアドレス
00000014	関数の引数が不正です
00000018	無効な Blksize/datal/lrecl
0000001C	TOQ が無効です
00000020	無効なフリースペース ID
00000024	類義語チェーンが壊れています
00000028	KEYL がゼロです
0000002C	バージョンでエラーが発生しました - BLKSIZE
00000030	バージョンでエラーが発生しました - レコードプレフィックス
00000034	バージョンでエラーが発生しました - Ff000000 は最後ではありません
00000038	終了がゼロ以外を返しました
0000003C	チェーンが使用されています
00000040	チェーンはすでにロックされています。ロックできません
00000040	チェーンはロックされていません。アンロックできません
00000048	ロックされたチェーンの無効な所有者
0000004C	シリアルオプションで、ロック/ロック解除が必要です
00000050	無効な登録形式パラメータ
00000054	Pagefix の不明な戻りコード